昭和三年度直轄工事年報

内務省土木局

誤　　正

頁	行	誤	正
目次一	三	六	五
〃八	一〇	震炎	震災
口絵七	(12)	築堤天端ヲ	ヲヲ削ル
〃一三	(26)	船尾二米三	船尾深二米三
二一	一	一、九七〇、六八二 六一六、六七六 二、五八七、三五八	一、九七〇、六八二 ▲二〇一、〇七六 六一六、六七六 ▲八六、二三三 二、五八七、三五八 ▲二八七、三〇九
四五	表　九	ドラプライン	ドラグライン
四七	〃　四	特殊工事	特種工事
四八	〃（下流）　四	特殊工事	特種工事
五六	〃　一〇	竣功　一 未竣功　｜	竣功　｜ 未竣功　一
一二九	〃　一 〃　三	岩木成子間 成子添島間	岩木・成子間 成子・添島間
一三二	〃　五	費用	費目
一八〇	九	帯工事トシテ 百八十附四	附帯工事トシテ 附ヲ削ル
四〇八	六	沈床四百五十平方粁	沈床四百五十平方米

昭和三年度直轄工事年報目次

總論

第一　治水事業……一頁
第二　港灣改良事業……六
第三　復舊及補修事業……七
第四　本年度施行工事……八
第五　竣功工事……一三

第一章　河川改修工事

第一　利根川改修工事……一五
第二　荒川改修工事……三七
第三　北上川改修工事……五一
第四　阿賀野川改修工事……五九

第五　最上川改修工事……六五頁
第六　江合、鳴瀬兩川改修工事……七三
第七　雄物川改修工事……七九
第八　淀川改修增補工事……八五
第九　多摩川改修工事……九七
第一〇　千曲川改修工事……一〇三
第一一　加古川改修工事……一〇九
第一二　神通川改修工事……一一七
第一三　岩木川改修工事……一二七
第一四　太田川改修工事……一三三
第一五　阿賀川及阿武隈川改修工事……一三九
第一六　圓山川改修工事……一四七
第一七　富士川改修工事……一五五

第一八　木曾川上流改修工事……一六三
第一九　斐伊川改修工事……一七一
第二〇　信濃川上流改修工事……一七七
第二一　天龍川改修工事……一八三
第二二　千代川改修工事……一八七
第二三　蘆田川改修工事……一九三
第二四　紀ノ川改修工事……一九七
第二五　筑後川改修工事……二〇三
第二六　綠川改修工事……二〇九
第二七　北川改修工事……二一三
第二八　旭川改修工事……二一九
第二九　鬼怒川改修工事……二二三
第三〇　大淀川改修工事……二三一

第三一　狩野川改修工事……二三五頁
第二章　河川附屬物及水路維持工事
第一　木曾川附屬物及水路維持工事……二三九
第二　淀川附屬物及水路維持工事……二四三
第三　利根、渡良瀨兩川維持工事……二四七
第四　信濃川維持工事……二五五
第三章　砂防工事
第一　淀川流域砂防工事……二五九
第二　富士川流域砂防工事……二六三
第三　桂川流域砂防工事……二六七
第四　千曲川流域砂防工事……二六九
第五　鬼怒川流域砂防工事……二七一
第六　神通川流域砂防工事……二七五

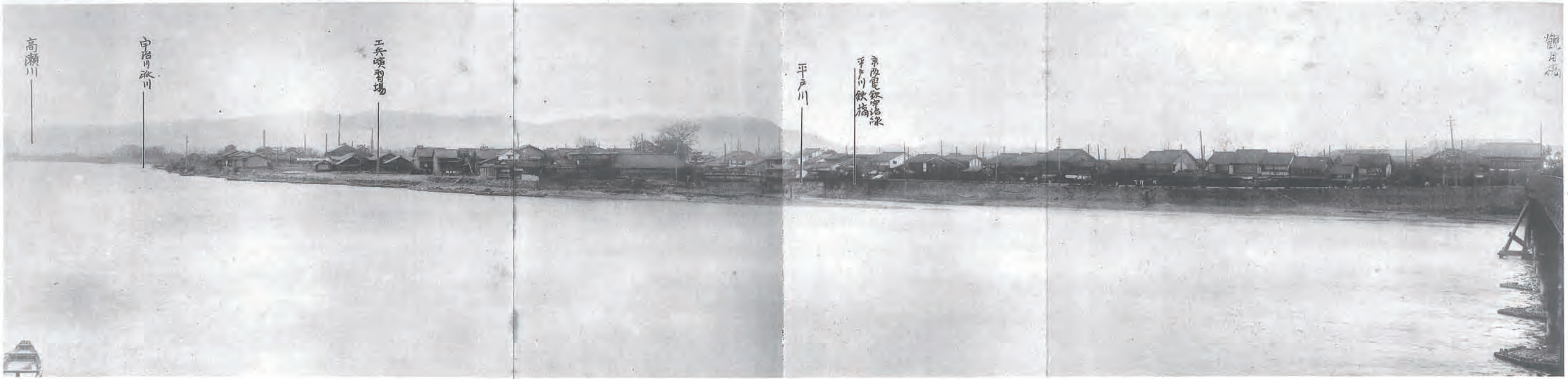
第七　常願寺川流域砂防工事……二七七
第八　手取川流域砂防工事……二八一
第九　揖斐川流域砂防工事……二八五
第一〇　木津川流域砂防工事……二八九
第四章　港灣改良工事
第一　關門海峽改良工事……二九一
第二　釜山港修築工事……二九七
第三　神戸港修築工事……三〇三
第四　門司港修築工事……三一五
第五　横濱港修築工事……三二一
第六　清水港修築工事……三三一
第七　下關港修築工事……三三七
第八　高松港修築工事……三四三

第九　敦賀港修築工事……三四九頁
第一〇　境港修築工事……三五五
第一一　小松島港修築工事……三六一
第一二　今治港修築工事……三六七
第一三　鹿兒島港修築工事……三七五
第一四　伏木港修築工事……三七九
第五章　復舊工事及補修工事
第一　相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事……三八五
第二　信濃川補修工事……三九七
第三　利根渡良瀬兩川維持工水害復舊工事……四〇七
口繪、寫眞（三十二面）
(1)　淀川改修增補工事伏見締切着手前全景
(2)　淀川改修增補工事伏見締切堤防竣功全景

(3) 荒川下流改修工事船堀閘門全景
(4) 荒川下流改修工事船堀閘門橋梁鐵筋組立
(5) 荒川下流改修工事船堀閘門新中川側假締切除却
(6) 荒川下流改修工事小松川閘門鐵矢板アンカーロッド取付
(7) 荒川下流改修工事小松川閘門前扉室塔混凝土作業
(8) 最上川改修工事河口突堤用方塊工場
(9) 最上川改修工事河口突堤
(10) 最上川改修工事石材積出場
(11) 最上川改修工事支川赤川新川開鑿部法留工事
(12) 多摩川改修工事胸壁式築堤
(13) 神通川改修工事鵜坂築堤
(14) 神通川改修工事鵜島護岸木工沈床沈設
(15) 神通川改修工事東岩瀬港混凝土塊製作場
(16) 神通川改修工事東岩瀬港東突堤方塊据付
(17) 神通川改修工事舊井田川樋門
(18) 常願寺川流域砂防工事材料運搬軌道
(19) 常願寺川流域砂防工事白岩堰堤築設箇所附近路線測量
(20) 常願寺川流域砂防工事水谷隧道開鑿

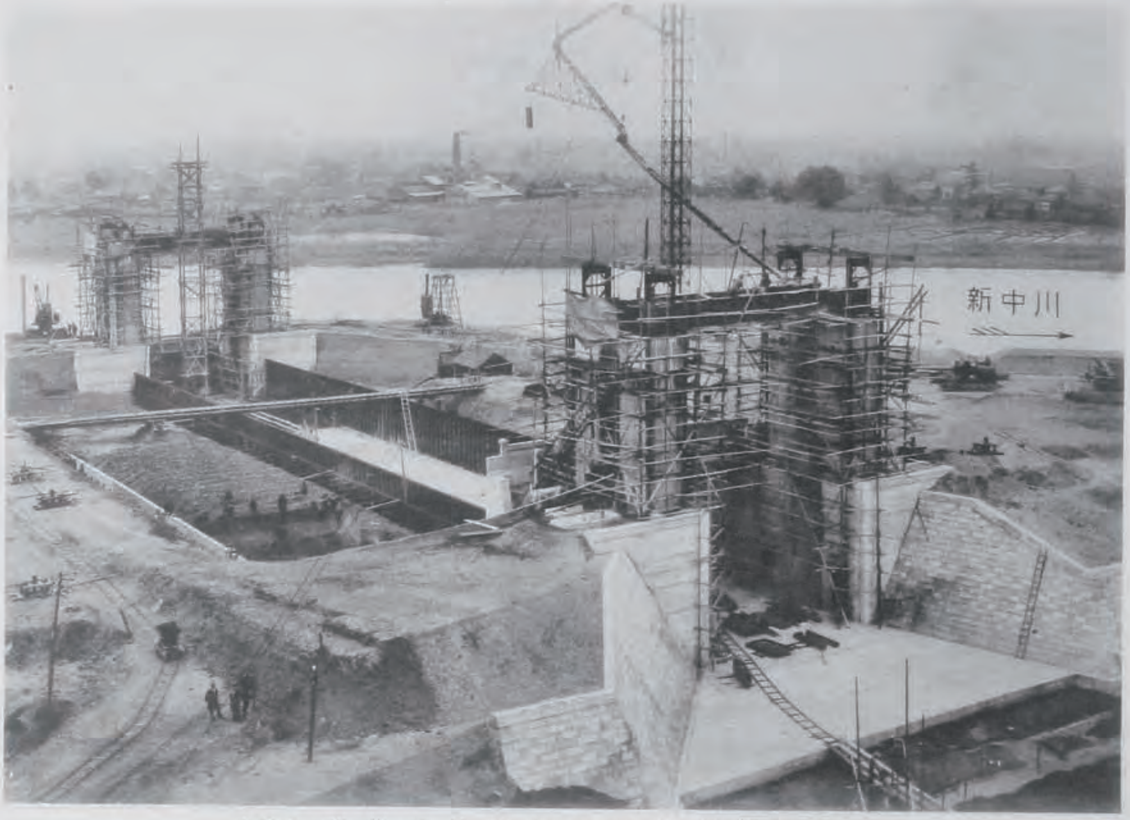
(21) 常願寺川流域砂防工事水谷隧道開鑿
(22) 横濱港修築工事瑞穂橋
(23) 横濱港修築工事表高島町地先棧橋築設
(24) 横濱港修築工事造函船渠內圓筒構
(25) 清水港修築工事七米三岸壁
(26) 鹿兒島港修築工事辨天臺場渡道掘鑿作業
(27) 鹿兒島港修築工事北防波堤築造
(28) 鹿兒島港修築工事北防波堤ケーソン混凝土塡充作業
(29) 酒匂川流域震災復舊砂防工事湯船澤堰堤
(30) 花水川流域震炎復舊砂防工事八段堰堤
(31) 信濃川補修工事可動堰基礎鐵矢板打込作業
(32) 信濃川補修工事舊信濃川筋浚渫作業

附圖（別冊七十一葉）

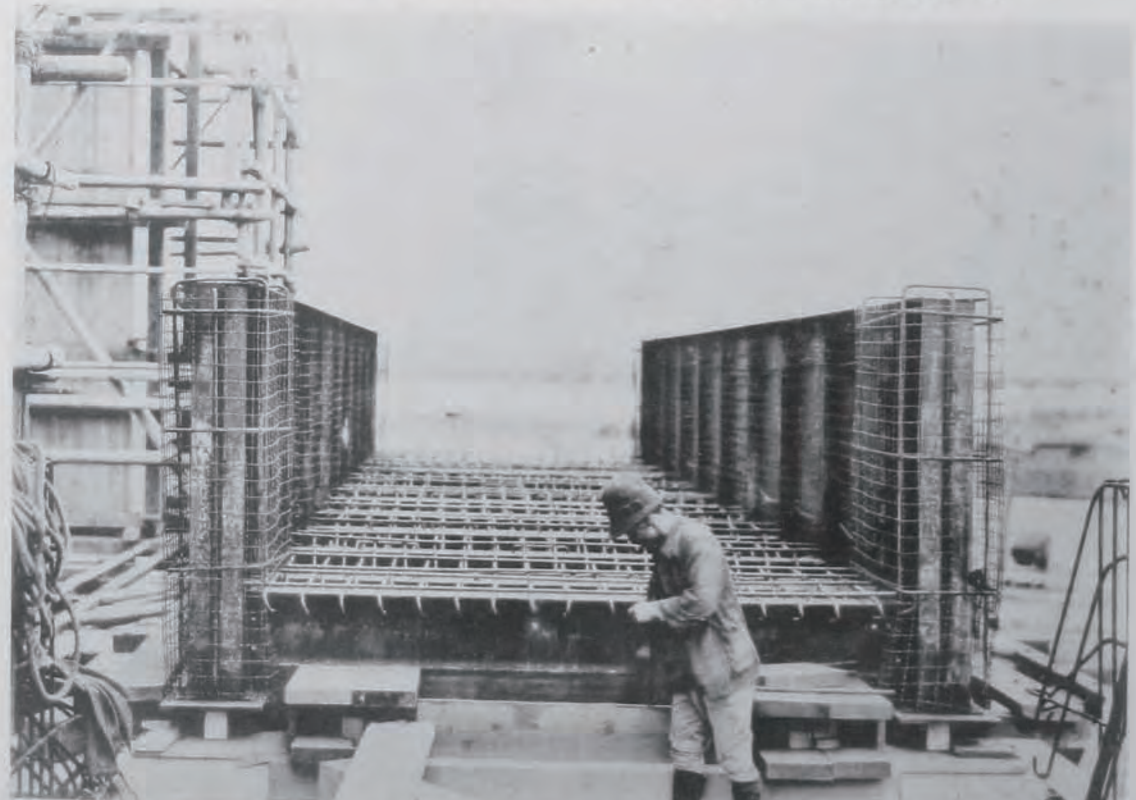


(1) 淀川改修増補工事伏見締切著手前全景
(京都府紀伊郡伏見市地先)

(2) 淀川改修増補工事伏見締切堤防竣功全景
締切堤防天端幅四米五、兩法二割、小段以下二割五分、延長一千三百米、
土量十二萬立方米ナリ。平戸川締切箇所ニ平戸樋門ヲ又高瀬川締切箇
所ニ三栖洗堰及閘門ヲ設置シ尚宇治川派川ヲ締切ル

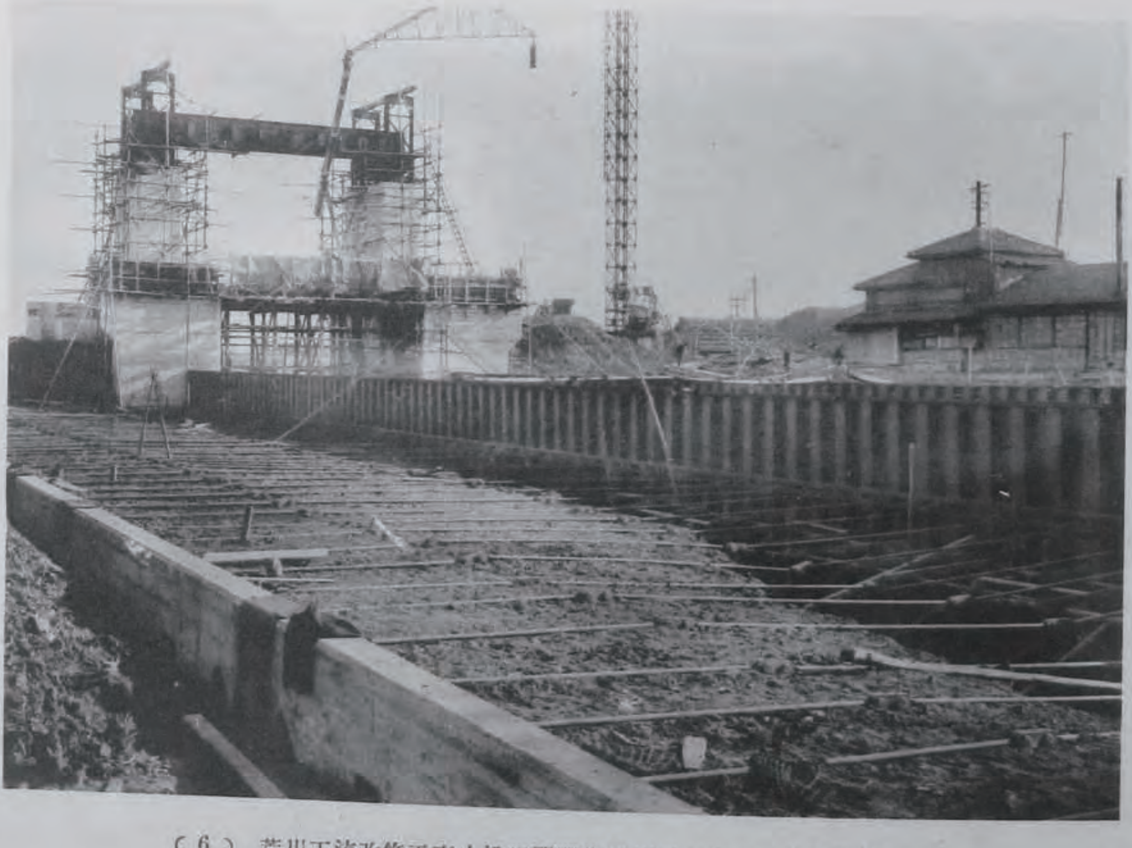


（3）荒川下流改修工事船堀閘門全景
（東京府南葛飾郡松江町地先）
新荒川ト江戸川、利根川及中川方面トノ連絡ノ爲メ新荒川左岸既設新川水門ノ下流ニ増設セラル。扉室幅十一米、閘室幅十四米四、閘室有効長九十一米

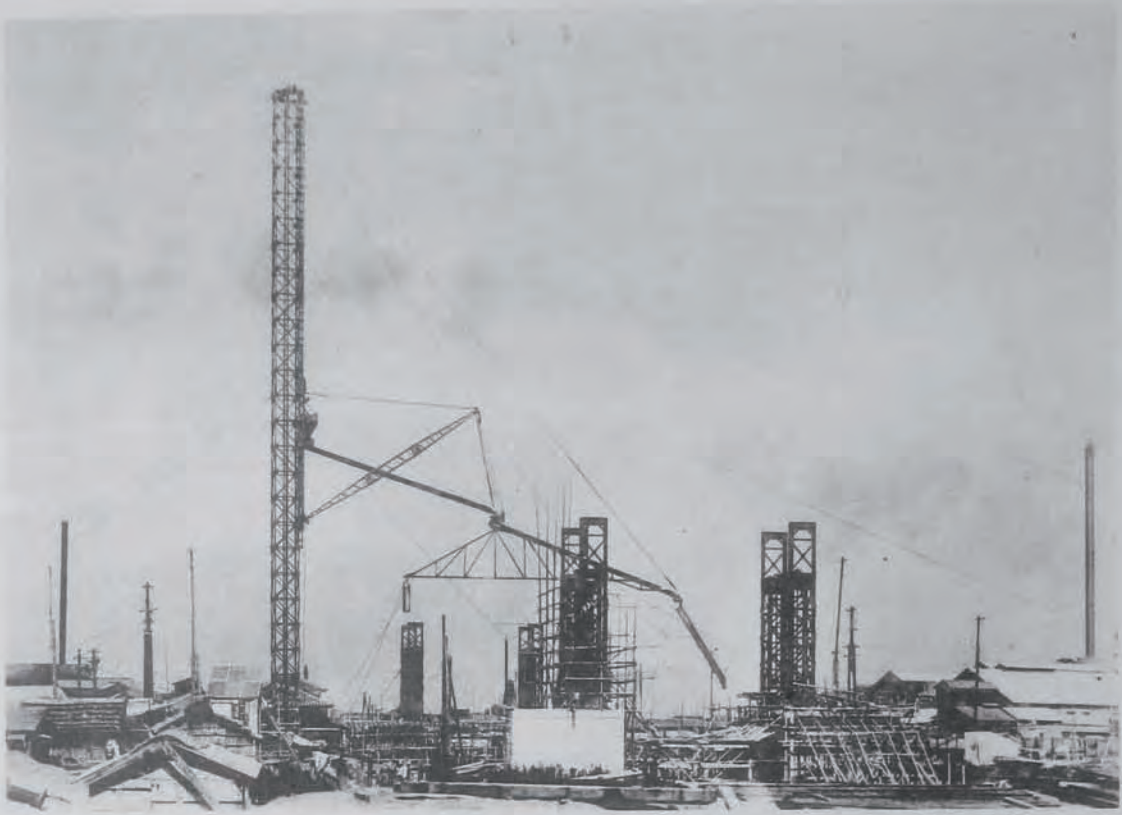


（4）荒川下流改修工事船堀閘門橋梁鐵筋組立
前扉室ニ架設ス、有効幅員三米六、桁下端A.P.上六米三

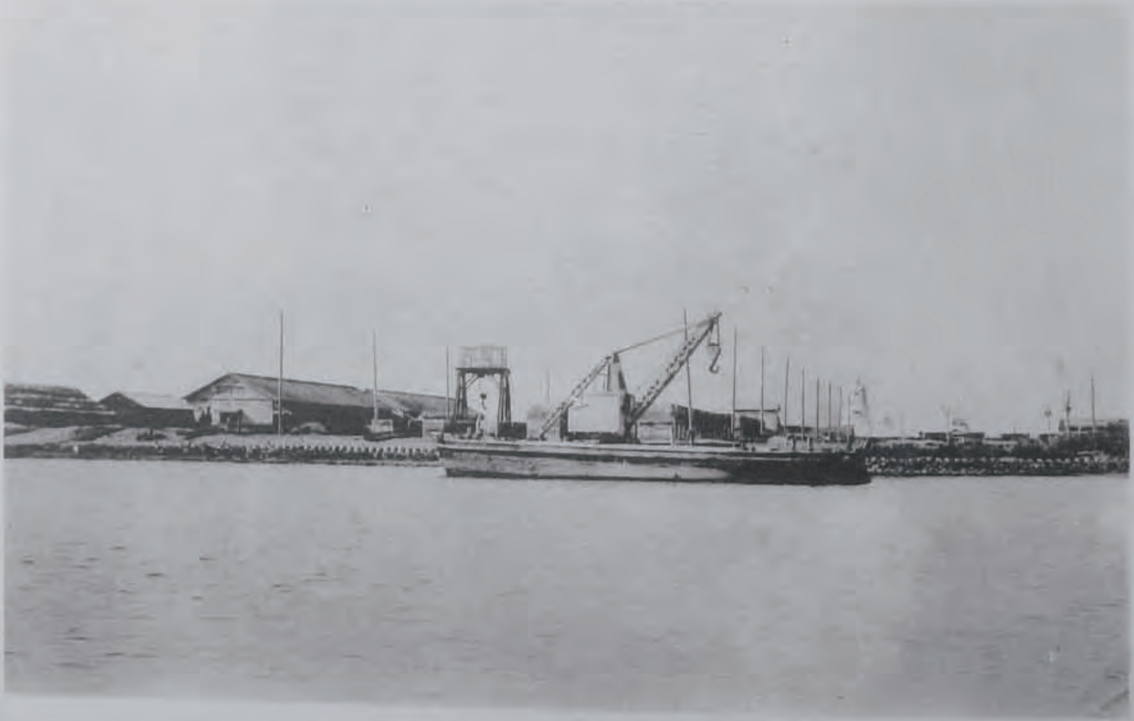
（5）
荒川下流改修工事船堀閘門新中川側假締切除却
デマーグユニオン杭拔機使用



（6） 荒川下流改修工事小松川閘門鐵矢板アンカーロッド取付
（東京府南葛飾郡小松川町地先）
新荒川及小名木川連絡ノ爲メ新荒川右岸旣設小名木川閘門ノ上流ニ設ケラル。閘門寸法船堀閘門ト同一ナリ、ラルセン鐵矢板二號型長十米



（7） 荒川下流改修工事小松川閘門前扉室塔混凝土作業
配給塔高四十米、シユート長四十三米、バケツト
容量三百立、昇降速度毎分三十六米



（8） 最上川改修工事河口突堤用方塊工場
揚量二十五瓲ノゴライアス起重機及デリツク起重機
ニテ重量十二瓲乃至二十五瓲ノ方塊ヲ積出ス

(9)最上川改修工事河口突堤

捨石ノ上ニ方塊ヲ据付ケ場所詰混凝土ニテ天端高ヲ
基面上二米七、幅員五米四乃至八米四ニ仕上グ

(10)最上川改修工事石材積出場

(山形縣飽海郡吹浦村字女鹿地先)

本採石工場ハ河口ヲ距ル北方十二浬ノ海岸ニ在リ河口
突堤捨石用(重量一噸内外)及護岸用石材ヲ斫出ス

（11） 最上川改修工事支川赤川新川開鑿部法留工事
（山形縣西田川郡袖浦村地先）
新川開鑿法面ヲ二割勾配トシ計畫高水位上一米五
以上ノ法面ニ雜草ノ連束ヲ一米網形ニ敷設ス

（13） 神通川改修工事鵜坂築堤
（富山縣婦負郡鵜坂村地先）
天端幅九米、兩法二割、表法玉石護岸

(12) 多摩川改修工事胸壁式築堤

(東京府荏原郡羽田町地先)

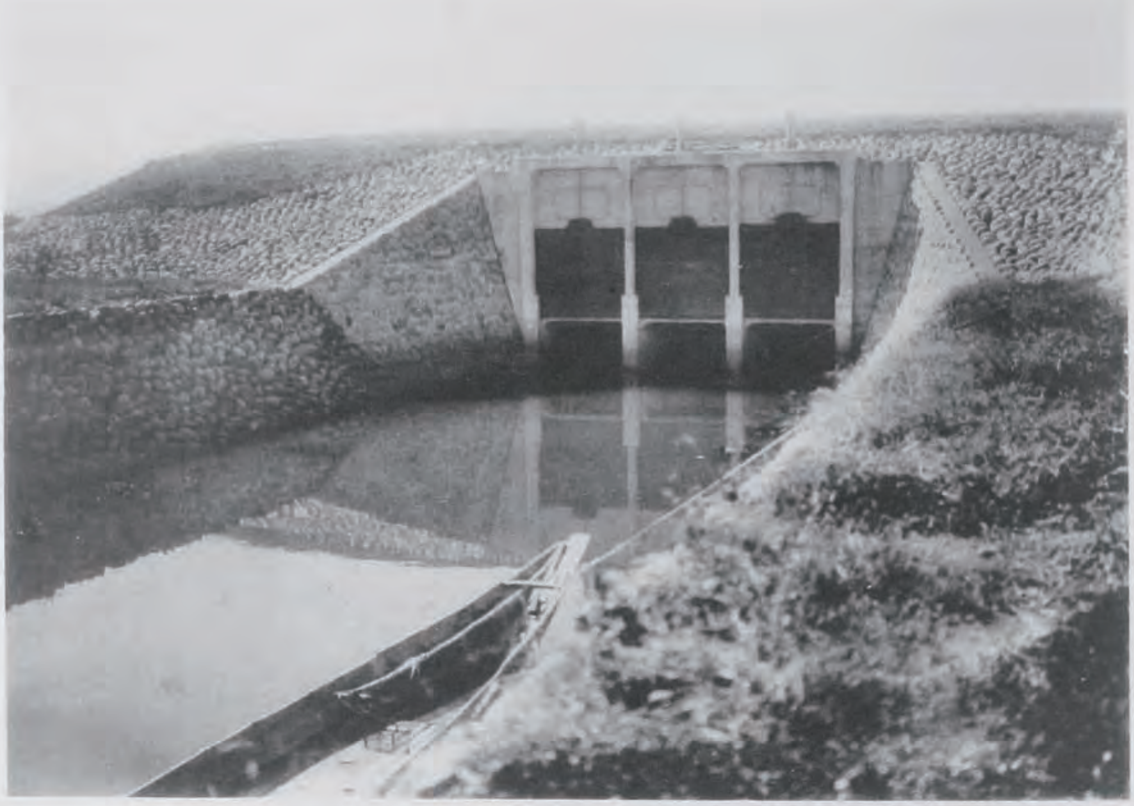
築堤天端ヲ計畫高水位上三十糎、胸壁天端上一米

(14) 神通川改修工事鵯島護岸木工沈床沈設

(富山縣富山市鵯島地先)

（15） 神通川改修工事東岩瀬港混凝土塊製作場
港内中央ニ見ユルハ浚渫船神通丸ナリ

（16） 神通川改修工事東岩瀬港東突堤方塊据付
方塊重量八噸及十二噸



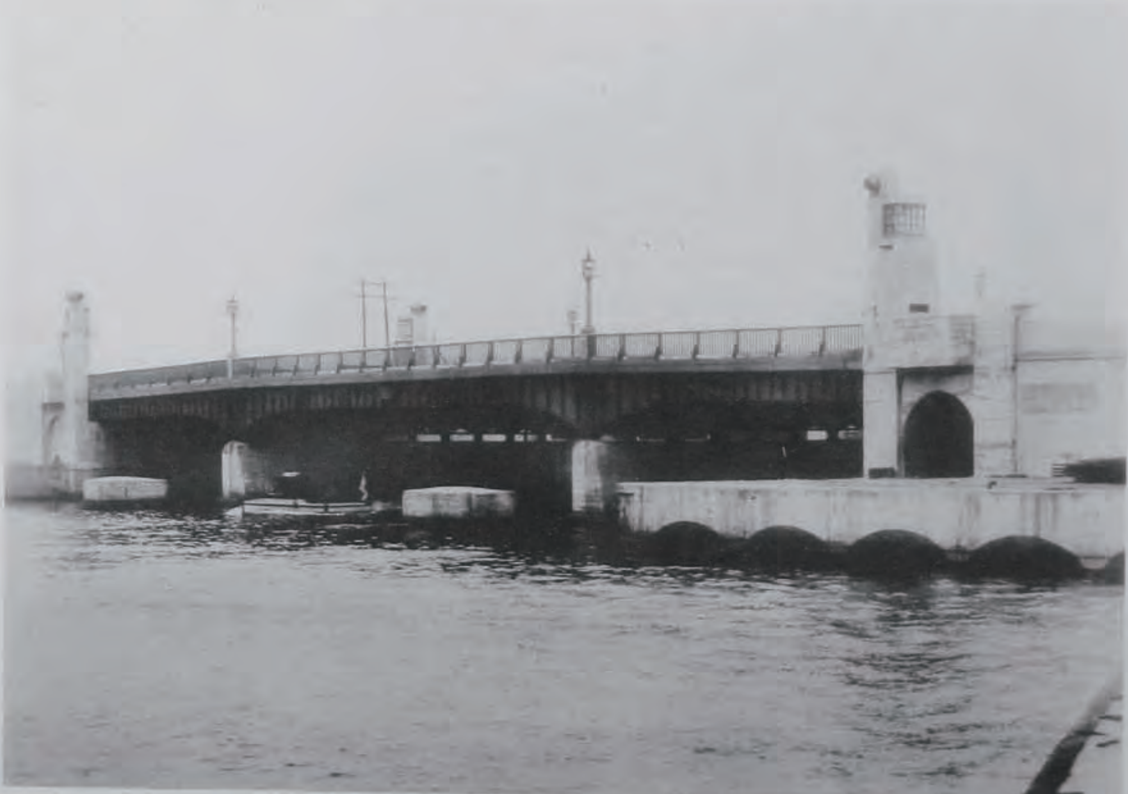
(17) 神通川改修工事舊井田川樋門
(富山縣富山市鵜島地先)
幅二米、高一米八、長十六米五、三連、鐵筋混凝土造

(18) 常願寺川流域砂防工事材料運搬軌道
(富山縣中新川郡立山村地先)
延長十二粁、十數箇所ニスキッチバックチ設ク

（19） 常願寺川流域砂防工事白岩堰堤築設箇所附近路線測量
（富山縣中新川郡立山村地先）

（20） 常願寺川流域砂防工事水谷隧道開鑿
（富山縣中新川郡立山村地先）

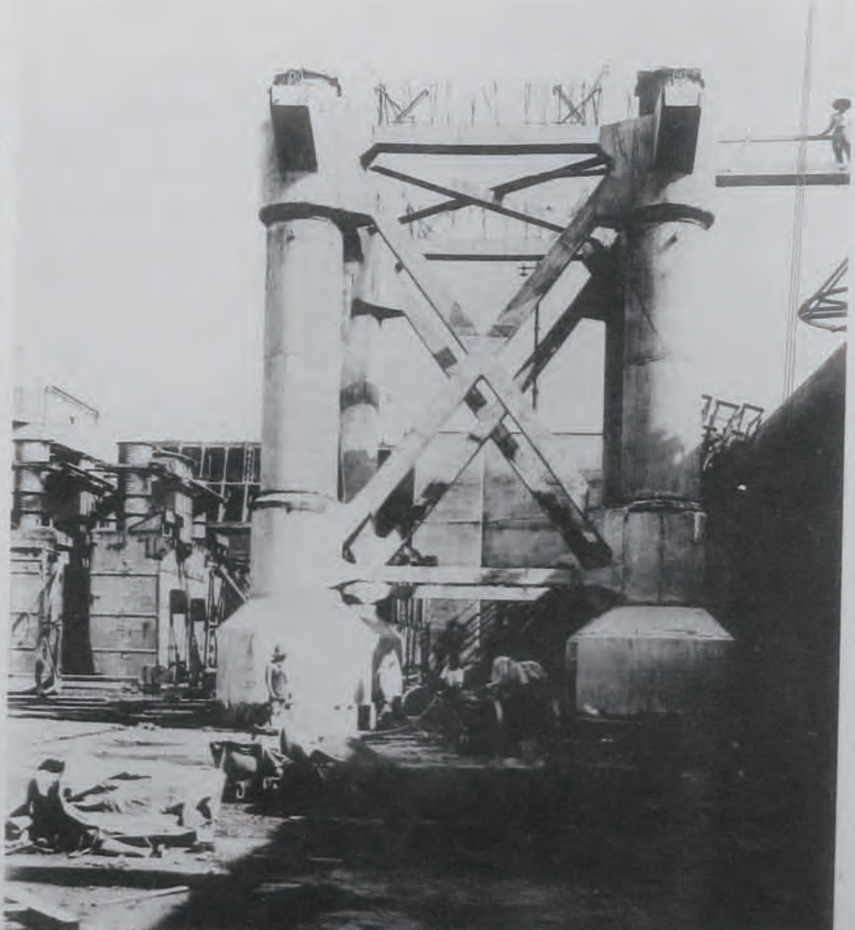
(21) 常願寺川流域砂防工事水谷隧道開鑿
(富山縣中新川郡立山村地先)
隧道高二米四、上幅一米八、下幅二米四



(22) 横濱港修築工事 瑞穂橋

外國貿易設備埋立地ト千若町トノ間ニ架ス。徑間三十六米一連、二十米一連、幅員人道橋二十四米、鐵道橋八米、桁下端高朔望平均滿潮位上五米

（23）横濱港修築工事表高島町地先棧橋築設
第一號棧橋長百三十五米、幅二十五米、水深七米三



（24）
横濱港修築工事造函船渠內圓筒構
高島棧橋及山內横棧橋ノ脚柱トシテ使用セラルルモノニシテ
圓筒構ハ徑一米五ノ四本ノ圓筒柱ヲ縱横七米間隔ニ水平桁及
筋違材ヲ以テ連結セラレ其高十一米、重量百八十瓲

（25）清水港修築工事七米三岸壁

（26）鹿兒島港修築工事辨天臺場渡道掘鑿作業
デイッパー浚渫船能力一時間百立方米、長三十米、
幅十一米、船首深二米六、船尾二米三

（27） 鹿兒島港修築工事北防波堤築造
延長二百六十米、捨石上ニケーソン据付

（28） 鹿兒島港修築工事北防波堤ケーソン混凝土塡充作業
ケーソン長十一米、高六米五、上幅五米、下幅六米

（29） 酒匂川流域震災復舊砂防工事湯船澤堰堤

（靜岡縣駿東郡小山町地先）

酒匂川支川鮎澤川ノ支流野澤川ニ設ク。堰堤高八米、長四十三米、天端幅二米、上下流共三分法、水通高海拔四百二十四米

（30） 花水川流域震災復舊砂防工事八段堰堤

（神奈川縣中郡大山町地先）

花水川支川鈴川ニ設ク。高十米八、長三十七米、天端幅二米三、上流法五分、下流法二分、水通上長十八米、下長十四米、深二米

(31) 信濃川補修工事可動堰基礎鐵矢板打込作業
(新潟縣三島郡大河津村地先)
上流矢板長十二米、下流矢板長十一米

(32) 信濃川補修工事舊信濃川筋浚渫作業
電動喞筒船浦濱號使用、浚渫能力一日一千八百立方米

昭和三年度直轄工事年報

總論

第一　治水事業

我國ハ古來水害多ク其損失價額モ年々數千萬圓ノ多キニ達スルヲ以テ政府ハ夙ニ治水ノ必要ヲ認メ河川ノ修築改良ニ努力セルコト久シ而シテ政府ガ始テ直轄工事ヲ施行シタル河川ハ淀川ニシテ其起工ハ實ニ明治七年五月ニ在リ次デ同八年六月利根川ノ工事ニ著手シ翌九年十一月ニハ信濃川ノ工事ヲ起シ同十一年三月ニハ木曾川、同十五年六月ニハ北上川、同年七月ニハ阿賀野川、同十六年八月ニハ富士川、同年十一月ニハ庄川、同十七年四月ニハ阿武隈川、同年七月ニハ最上川及筑後川、同年八月ニハ吉野川、同十八年三月ニハ大井川、同年六月ニハ天龍川ノ工事ヲ實施スルニ至リシガ是等十四河川ノ工事ハ專ラ低水工事及砂防工事ヲ施行シタリシモノニシテ明治十九年ニ至リ始テ淀川以外ノ河川ニ高水工事ヲモ併セ行フコトトシ夫々工事ヲ進行セシメタリ其後同二十九年四月ニ至リ法律第七十一號ヲ以テ河川法ヲ公布セラレタル結果、同法ニ依リ淀、筑後ノ兩川ニハ同年六月ヨリ高水防禦工事ヲ實施スル事トナリ續テ同三十三年四月ニハ庄川、九頭龍川、同年九月ニハ利根川第一期工事、同三十九年四月ニハ遠賀川、同四十年四月ニハ淀川下流、吉野川、高梁川、信濃川分水工事、同四十一年一月ニハ利根川第二期工事、同四十二年四月ニハ同川第三期工事、同四十三年四月ニハ利根川支川渡良瀨川ノ改修工事ヲ施行スルニ至レリ然ルニ明治四十

三年ニ於テ全國各地方大水害ノ爲メ未曾有ノ悲慘事ヲ現出セルニ依リ政府ハ臨時治水調査會ヲ設ケ根本的治水ノ計畫ヲ樹立スル事トナリ同會ニ於テ決議シタル計畫豫算ヲ第三十七回帝國議會ニ提出シテ協贊ヲ得同四十四年度ヨリ該計畫通リ事業ヲ遂行スルニ至レリ右計畫ハ河川改修ト砂防トノ二工事トシ河川ノ改修ハ河川法ニ依リ國ノ直轄事業トシテ改修ヲ爲スベキ河川ヲ六十五河川ト定メ之ガ施行時期ヲ二期ニ區別シ改修ノ利益ヲ可成的全國各地ニ均霑セシメントスルモノナリ其河川名即チ左ノ如シ

第一期河川

利根川	信濃川	木曾川	淀川	九頭龍川
吉野川	庄川	高梁川	遠賀川	北上川
雄物川	荒川	阿賀野川	富士川	最上川
神通川	岩木川	加古川	綠川	斐伊川

（以上二十河川）

第二期河川

天龍川	阿武隈川	筑後川	那珂川	庄内川
中川	手取川	矢作川	大和川	吉井川
馬淵川	紀ノ川	大淀川	由良川	多摩川
關川	米代川	鳴瀬川	久慈川	菊池川
鄉川	旭川	渡川	蘆田川	川內川
相坂川	千代川	鶴見川	大野川	球磨川
相模川	肱川	矢部川	狩野川	圓山川
肝屬川	太田川（靜岡）	豐川	白川	大分川

酒匂川	鈴鹿川	太田川(廣島)	名取川	仁淀川

(以上四十五河川)

右ノ内第一期河川ハ大正十七年度迄ニ全部ヲ竣功セシメ第二期河川ハ第一期河川ノ工事期間内ニ調査ヲ行ヒ第一期河川改修工事ノ竣功ヲ俟チ改修ニ著手シ得ベキ準備ヲ爲スコトトシ又砂防工事ハ河川改修ノ計畫ニ伴ヒ直轄河川ノ流域ニ對シテハ國自ラ之ヲ施行スルヲ原則トシ地方行政廳ニ於テ施行スルモノニ對シテハ國庫ヨリ相當ノ補助ヲ與フルコトトセリ

以上ノ計畫ニ依リ明治四十四年度以降著々事業ノ進捗ニ努メタルモ大正二年度ニ至リ財政上ノ都合ニ依リ一部繰延ベノ不得止ニ至リタル爲メ第一期事業全體ノ完成年限ヲ一箇年度延長シ同十八年度迄ニ全部完成ノ事ニ變更シタルモ大正十年度ニ至リ第一期河川中既ニ竣功セルモノ三河川ト竣功ニ近ヅケルモノ數河川ニシテ未著手ノモノハ斐伊、綠ノ二河川ニ過ギザリシ(後兩川トモ著工)ト一面ニハ河狀ノ變態、産業ノ推移等治水計畫上更ニ調査ヲ必要トシタルヲ以テ第二臨時治水調査會ニ於テ愼重審議ノ結果既ニ國ニ於テ施行中ノ河川竝ニ砂防工事ノ外ニ前記第二期河川其他ヨリ改修河川ヲ選定シ大正十一年度以降二十箇年度内ニ施工スルヲ適當ナリト認メ之レガ決定ヲ見タルモノ即チ左記河川是ナリ

鬼怒川(利根川支川)	小貝川(利根川支川)	信濃川上流(新潟縣下)	犀川(信濃川支川)
野洲川(淀川支川)	木津川(淀川支川)	北上川上流	雄物川上流
最上川上流	天龍川	阿武隈川	筑後川
那珂川	庄内川	手取川	矢作川
大和川	吉井川	馬淵川	紀ノ川

大淀川	由良川	關川	米代川
久慈川	旭川	渡川	蘆田川
川內川	千代川	鶴見川	大野川
相模川	肱川	狩野川	肝屬川
豐川	白川	大分川	酒匂川
鈴鹿川	太田川(廣島)	名取川	仁淀川
新宮川	安倍川	菊川	大井川
北川	常願寺川	小矢部川	黑部川
天神川	日野川	佐波川	那賀川
土器川	(以上五十七河川)		

右ノ內帝國議會ニ於テ改修スベキ繼續事業トシテ協贊ヲ經タルモノハ信濃上流、天龍、千代、蘆田、紀ノ、筑後、北、旭、鬼怒、狩野、大淀ノ十一河川ナリトス

斯ノ如ク政府ハ鋭意河川改修工事ニ努力セリト雖モ其改修區域ハ利害ノ關係極メテ重大ナル部分ノミナルヲ以テ其上流又ハ支派川改修ノ如キハ自然之ヲ關係地方ノ經營ニ委ネザルベカラズ又第二期河川ノ改修ハ第一期河川工事ノ竣功後ニ非ザレバ著手スル能ハザルノ狀況ナルモ比年洪水頻リニ臻リ損害甚大ナルヲ以テ政府ハ益河川改修速成ノ緊要ナルヲ認メ關係府縣ニ於テ根本的改修計畫ノ調査ヲ了シ工事ニ著手スルニ於テハ國庫財政ノ都合ニ依リ相當補助ヲ與ヘ且場合ニ依リ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルノ方針ヲ決定シ河川改良費トシテ大正六年度ヨリ江合、鳴

瀬兩川改修費中ヘ國庫ヨリ二分ノ一ヲ補助シ大正七年度ヨリ多摩川、千曲川(信濃川上流)ノ改修工事ニモ亦工費ノ半額ヲ補助シ且其事業ヲ直接施行スルコトトナリ尙翌八年度ヨリハ太田川、阿賀、阿武隈兩川ノ改修工事、同九年度ヨリハ圓山川ノ改修工事ニ對シ孰レモ半額ノ補助ヲ與ヘ且其工事ヲ全部直接施行スル事トナリシガ以上七河川トモ大正十二年度ヨリ他ノ河川ト共ニ直轄施行ノコトトナレリ又淀川改修工事ハ大正六年九月三十日及同年十月一日ノ大洪水ニ鑑ミ更ニ增補工事ヲ施行スルノ必要ヲ認メ大正七年度以降河川法第八條ニ依リ該工事ヲ直轄施行スルニ至レリ

第一期河川中旣ニ完成ヲ告ゲタルモノハ利根川第一期、淀川及同川下流、木曾川下流、九頭龍川ノ幹川及同支川日野川及足羽川、庄川、渡良瀬川(利根川支川)信濃川、吉野川、高梁川、遠賀川ノ九河川ニシテ工事中ノモノハ淀川改修增補、利根川第二期及第三期(江戸川、中川ヲ含ム)信濃川上流(新潟縣下)千曲川(信濃川上流)木曾川上流、北上川、阿賀野川、富士川、最上川、筑後川、荒川上下流、雄物川、加古川、江合、鳴瀬兩川、岩木川、神通川、多摩川、阿賀、阿武隈兩川、太田川(靜岡)圓山川、斐伊川、紀ノ川、千代川、蘆田川、綠川、鬼怒川(利根川支川)天龍川、北川、旭川ト新ニ狩野川、大淀川ヲ加ヘタル三十一河川ナリ而シテ右ノ內附屬物及水路維持工事トシテ實施中ノモノハ木曾川、淀川、利根、渡良瀬兩川ト新ニ信濃川ヲ加ヘタル五河川ナリ又各河川ノ水源保全タル砂防工事ノ竣成シタルハ吉野川及野洲川(淀川支川)ニシテ實施中ノモノハ淀川上流、桂川(同支川)及木津川(同)鬼怒川(利根川支川)千曲川、富士川、神通川、常願寺川ト新ニ揖斐川(舊木曾川支川)手取川ヲ加ヘタル十河川ナリトス

第二　港灣改良事業

港灣改良工事ニ關シテハ明治初年以來或ハ直轄工事ヲ起シ或ハ國庫補助ヲ與ヘ之ガ助成ニ努力シタリシガ時運ノ急進ト共ニ港灣問題ハ益々重要ヲ加ヘタレバ明治三十三年六月勅令第二百六十二號ヲ以テ港灣調査會ヲ設ケ港灣ニ關スル重要事項ヲ審議セシメタリシモ同會ハ同三十六年ニ至リ各種ノ調査會廢止ト共ニ一時廢絶シ其後同三十九年六月ニ至リ再ビ內務省ニ港灣調査會ヲ設置シ更ニ同四十年六月勅令第二百四十三號ヲ以テ港灣調査會官制ヲ定メラレ同會ニ於テ本邦ノ港灣ヲ三種ニ分チ第一ハ國ニ於テ修築スルモノ、第二ハ地方起工ノモノニ對シ國庫ヨリ相當補助ヲ與フルモノ、第三ハ地方ノ獨力經營ニ委ヌベキモノトニ區別シ即チ明治四十年十月同調査會ニ於テ第一種港灣トシテハ横濱、神戸、敦賀、關門海峽（下關、門司）ノ五港ヲ選定シ第二種港灣トシテハ東京、伊勢灣內ノ一港、大阪、鹿兒島、長崎、境、新潟、船川（土崎ヲ含ム）青森、仙臺灣內ノ一港（其後伊勢灣內ノ一港トシテハ四日市港、仙臺灣內ノ一港トシテハ鹽釜港ヲ選定ス）ノ十港ト定メ又大正八年七月名古屋港ヲ同九年十月清水、那覇ノ兩港ヲ同十年六月若松、高松、今治、小松島、伏木、伊萬里ノ六港ヲ加ヘ更ニ昭和二年十月小名濱、細島、大分、浦戸、宮古、七尾、尾道、博多ノ八港ヲ選定シ同三年八月舞鶴港ヲ追加シ二十八港トナレリ而シテ右ノ諸港灣中敦賀港ハ明治四十二年七月起工シ大正三年三月竣功セシモ其後第二期修築工事ヲ行フノ必要ヲ認メ更ニ同十一年度ヨリ起工ス又關門海峽改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ起工シ又横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事、同港修築工事、門司港修築工事ハ大正八年度ヨリ起工シ下關港ハ同十年度ヨリ起工セシガ、其內横濱港維持工事、神戸港防波堤築造工事ハ同十年度ヨリ各修築工事ニ包括セラレ何レモ目下工事實施中ナリ又鹽釜港修築工事ハ工費ノ二分ノ一ヲ補助セラレ同三年度ヨリ起工シ又新潟港修築工事ハ同三分ノ一ヲ補助セラレ同六年度ヨリ起工同十四年度ニ於テ竣功シ長崎港修築工事ハ工費二分ノ一ヲ補助セラレ同九年度ヨリ起工昭和二

年度ニ於テ竣功シ清水港修築工事モ同率ノ補助ニ依リ同十年度ヨリ起工シ高松港修築工事、境港修築工事亦工費二分ノ一ヲ補助セラレ同十一年度ヨリ起工シ今治港ハ今治市施工ノ後ヲ承ケ同十二年度ヨリ工費二分ノ一ヲ補助セラレテ續工シ鹿兒島及小松島ノ兩港モ同年度ヨリ起工シ、伏木港ハ同十三年度ヨリ同一ノ補助率ニ依リ起工シ夫々工事實施中ナリ而シテ右補助港灣ノ工事ハ何レモ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行セルモノナリ其外四日市港ハ明治四十三年度ヨリ、船川港ハ同四十四年度ヨリ、青森港ハ大正三年度ヨリ、名古屋港ハ同九年度ヨリ、那覇港ハ同十年度ヨリ、大阪港ハ同十一年度ヨリ何レモ大體二分ノ一ノ補助ヲ受ケ縣又ハ市ニ於テ工事ヲ施行シタルガ内青森港ノミ同十二年度ニ於テ竣功ヲ告ゲタリ

以上ノ港灣中既ニ完成ヲ告ゲタルモノハ新潟港、長崎港ニシテ高松港モ本年度ニ於テ竣功シ工事中ノモノハ關門海峽、釜山港、神戸港、門司港、横濱港、清水港、下關港、敦賀港、境港、小松島港、今治港、鹿兒島港、伏木港ノ十三港ナリトス

第三　復舊及補修事業

大正十二年九月一日關東地方ニ於ケル稀有ノ大震災ノ爲メ直轄事業其他ノ被リタル損害ハ多大ナルモノニシテ之レガ焦眉ノ急ト爲シ河川復舊工事トシテハ利根川及渡良瀨川、荒川、多摩川、富士川ノ五河川流域ニ對シ大正十二年及同十三年度ノ兩年度ニ於テ應急施行シ又砂防復舊工事トシテハ相模川及酒匂川、早川、花水川、多摩川ノ五河川流域ニ對シ同十三年度以降十箇年度ノ繼續工事トシテ施行スルモノニシテ既ニ河川工事ハ豫定ノ如ク之ヲ完了シタリ尙横濱港ニ對シテハ同十二年度以降三箇年度施行ニ係リ其

費額ハ從來ノ横濱港修築費ノ第三期工事ト共ニ横濱港復舊及修築費トシテ施行スルモノニシテ其復舊工事ハ同十四年度ヲ以テ完了シタルガ故ニ震災復舊事業トシテハ砂防工事ヲ剩スノミトナレリ又大正十四年八月中旬ニ於ケル近來稀有ノ大出水ニ因リ利根川本流筋及派川江戸川、支川渡良瀨川ノ被害ニ對シ大正十四、十五ノ兩年度ニ於テ之レガ復舊工事ヲ施行シタリ尙昭和三年八月初旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因リ利根、渡良瀨兩川維持工ニ與ヘタル被害ニ對シテモ昭和三、四ノ兩年度ニ之レガ復舊工事ヲ要スルコトトナリタリ又信濃川大河津自在堰ハ昭和二年六月下旬竝ニ同年七月上旬ニ於テ突如「ビーヤ」陷沒ノ爲メ水量調節ノ機能ヲ失ヒタル影響トシテ大河津下流ノ本流及派川中ノ口川沿岸ノ灌漑ト航通トニ支障ヲ及ボシ之ガ應急工事ヲ施行セルト共ニ其復舊及附隨ノ諸工事ヲ施行スルコトトナリ其應急工事ハ同年度內ニ之レガ完成ヲ見タリ故ニ本事業トシテハ利根、渡良瀨兩川維持工水害復舊工事及相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事ト信濃川補修工事ノミナリトス

第四　本年度施行工事

本年度ニ於テ直轄工事ヲ施行シタルハ河川改良三十一、河川附屬物及水路維持四、砂防十、港灣改良十四、復舊及補修三、合計六十二工事ニシテ何レモ本省直轄ノ下ニ東京、横濱、仙臺、新潟、名古屋、大阪、神戶、下關ノ八土木出張所ニ於テ工事施行ノ任ニ當レリ而シテ是等ノ總工費豫算ハ河川改修工事費三億九千百四十三萬四千二百二十九圓、河川附屬物及水路維持工事費九百七十三萬七千三百圓、砂防工事費一千二十四萬三百三十八圓、港灣改良工事費一億八百九十一萬八千四十八圓、復舊及補修工事費九百三十一萬五百圓、合計五

億二千九百六十四萬四百十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功額ヲ累算スレバ三億一千五百九萬七十圓ニ達シ其内本年度ノ竣功ニ屬スルモノ二千八百三萬三千二百五十四圓ナリトス而シテ本年度末竣功步合ハ河川改良工事費ハ其總工費ノ五割九分ニ當リ河川附屬物及水路維持工事費ハ同四割六分、砂防工事費ハ同四割一分、港灣改良工事費ハ同六割七分、復舊及補修工事費ハ同四割一分ニシテ各工事ヲ通ジタル竣功步合ハ同六割ニ當レリ

今以上ノ工事費ヲ各工事ニ區別シ更ニ其工事ノ著手順ニ依リ列記スレバ左表ノ如シ但シ前年報ニ比シ差違アルハ工事費豫算ヲ改訂セルモノアルト、竣功セルモノヲ除キ新規著手ノ分ヲ加ヘタルト誤レルヲ正シタルモノ等アルニ因ル又表中「□」ハ管理者負擔額「◎」ハ縣負擔額「▲」ハ提供材料及勞力費「■」ハ寄附物品評價額「◉」ハ千住機械工場委託製作品價額「●」ハ鐵道省依託工事費ヲ示ス

工事	工事名	擔當出張所	工費豫算	竣功高 前年度迄竣功高	竣功高 本年度竣功高	竣功高 合計	殘高	竣功步合
			円	円	円	円	円	割分
河川改修工事	利根川改修工事	東京	六三、四〇三、一一八	六一、五八九、三二七 □一、四八一、七三六 ▲一五九、三六〇	七七二、五五三 □一六四、三三六 ▲四一、七一四	六二、三六一、八八〇 □一、六四六、〇七二 ▲二〇一、〇七四	一、〇四一、二三八	〇・九八
	荒川改修工事	東京	五五、三四四、〇〇〇	四一、三七七、四〇二 □一九二、三四九 ▲二、三一二、七九六	三、〇七八、五七〇 □一、九九四 ▲二六九、八一二	四四、四五五、九七二 □一九四、三四三 ▲二、五八二、六〇八	一〇、八八八、〇二八	〇・八〇
	北上川改修工事	仙臺	一四、三二二、〇〇〇	一一、八二二、三八一	五四三、七九九	一二、三六六、一八〇	一、九五五、八二〇	〇・八六
	阿賀野川改修工事	新潟	一二、〇〇〇、〇〇〇	九、九五八、六三七 □四八七、九〇七	五五一、六四三 □二七、三三九	一〇、五一〇、二八〇 □五一五、二四六	一、四八九、七二〇	〇・八八
	最上川改修工事	新潟	一五、〇〇〇、〇〇〇	七、五七九、三五四 ▲五九、三五九 □三九、六〇六	七二六、七五五 ▲一、四六五 □	八、三〇六、一〇九 ▲六〇、八二四 □三九、六〇六	六、六九三、八九一	〇・五五
	江合、鳴瀨兩川改修工事	仙臺	一〇、二〇四、〇〇〇	二、七七二、三六三	七〇〇、五九七	三、四七二、九六〇	六、七三一、〇四〇	〇・三四
	雄物川改修工事	仙臺	一一、七〇〇、〇〇〇	五、八五九、六六一	三九四、七四八	六、二五四、四〇九	五、四四五、五九一	〇・五三

工事名	擔當出張所	工費豫算（円）	竣功高 前年度迄竣功高（円）	竣功高 本年度竣功高（円）	竣功高 合計（円）	殘高（円）	竣功歩合（割分）
河川改修							
淀川改修增補工事	大阪	一四、五七〇、〇五一	◉□▲ 一一、六二三、一〇四 / 一四三、〇三五 / 二七八、一五七 / 一九、二二四	◉□▲ 一、三七〇、四九七 / 二三、四四五 / 一一〇、一七六 / —	◉□▲ 一二、九九三、六〇一 / 一六五、四八〇 / 三八八、三三三 / 一九、二二四	一、五七六、四五〇	〇・八九
多摩川改修工事	東京	七、七六二、〇〇〇	▲□ 五、八八五、四五二 / 一五、七〇〇 / 二、五八二、三七三	▲□ 四八〇、五〇一 / 一〇、九六二 / 二九二、九三三	▲□ 六、三六五、九五三 / 二六、六六二 / 二、八七五、三〇六	一、三九六、〇四七	〇・八二
千曲川改修工事	新潟	一二、一〇四、〇〇〇	■□ 六、八二八、七七〇 / 六九、一〇〇 / —	■□ 四三八、二四九 / 一〇、六八四 / 四〇六	■□ 七、二六七、〇一九 / 七九、七八四 / 四〇六	四、八三六、九八一	〇・六〇
加古川改修工事	大阪	七、八五〇、〇〇〇	□▲◎ 四、六七五、二六二 / 三、〇〇〇 / 五七、三二〇 / 三四、〇三二	□▲◎ 三二五、九二九 / 四、〇〇〇 / — / —	□▲◎ 五、〇〇一、一九一 / 七、〇〇〇 / 五七、三二〇 / 三四、〇三二	二、八四八、八〇九	〇・六四
神通川改修工事	新潟	九、二一二、五〇〇	□▲ 四、九六六、四四〇 / 一九〇、二二七 / 四〇、二九七	□▲ 五四五、四七二 / 三、六五六 / 二、五八八	□▲ 五、五一一、九一二 / 一九三、八八三 / 四二、八八五	三、七〇〇、五八八	〇・六〇
岩木川改修工事	仙臺	一〇、四〇〇、〇〇〇	□ 五、一五三、九〇〇 / 三、二七七	□ 四八五、九八六 / 一四、九二九	□ 五、六三九、八八六 / 一八、二〇六	四、七六〇、一一四	〇・五四
太田川改修工事	名古屋	四、八四三、〇〇〇	三、一五一、五一六	三六〇、七一二	三、五一二、二二八	一、三三〇、七七二	〇・七二
阿賀川及阿武隈川改修工事	仙臺	一三、九二八、一一〇	六、三五七、一一八	四九五、七一二	六、八五二、八三〇	七、〇七五、二八〇	〇・四九
圓山川改修工事	大阪	五、九一一、〇〇〇	▲□※ 二、九八三、四六五 / 七四二 / 二〇、二二八 / 五七、五四八	▲□※ 四三六、六七九 / 一五 / 七、九八六 / 一、五一一	▲□※ 三、四二〇、一四四 / 七五七 / 二八、二一四 / 五九、〇五九	二、四九〇、八五六	〇・五八
富士川改修工事	東京	一二、〇〇〇、〇〇〇	□ 四、七二〇、三二一 / 二〇、三四九	□ 七七五、二三八 / 一七、二四二	□ 五、四九五、五五九 / 三七、五九一	六、五〇四、四四一	〇・四六
木曾川上流改修工事	名古屋	二二、四一〇、四五〇	▲ 五、六九九、〇三三 / 二四、九七三	▲ 九六五、四九四 / 一一、〇九〇	▲ 六、六六四、五二七 / 三六、〇六三	一五、七四五、九二三	〇・三〇
斐伊川改修工事	大阪	六、二〇〇、〇〇〇	▲ 九一八、六七九 / 一八、八二三	▲ 三一五、八一二 / 五〇、〇九七	▲ 一、二三四、四九一 / 六八、九二〇	四、九六五、五〇九	〇・二〇
信濃川上流改修工事	新潟	六、六〇〇、〇〇〇	◎ 一、一一一、二八一 / 七〇三、三四七	◎ 四五〇、〇三三 / 一九七、九九五	◎ 一、五六一、三一四 / 九〇一、三四二	五、〇三八、六八六	〇・二四
天龍川改修工事	名古屋	六、六〇〇、〇〇〇	八一六、五一九	四八一、二六八	一、二九七、七八七	五、三〇二、二一三	〇・二〇
千代川改修工事	大阪	五、六六〇、〇〇〇	▲ 一、二四四、三〇〇 / 七六	▲ 三六七、九九九 / —	▲ 一、六一二、二九九 / 七六	四、〇四七、七〇一	〇・二九
蘆田川改修工事	大阪	五、六六〇、〇〇〇	▲ 一、〇四九、一五九 / 五、八七七	▲ 二四七、〇七六 / 一、六七七	▲ 一、二九六、二七一 / 七、五五四	四、三六三、七二九	〇・二三
紀ノ川改修工事	大阪	四、七二〇、〇〇〇	□▲ 八六五、九〇八 / 五、九八九 / —	□▲ 三三二、六七三 / 七八、五一五 / 一八、六六九	□▲ 一、一九八、五八一 / 八四、五〇四 / 一八、六六九	三、五二一、四一九	〇・二五

工事	筑後川改修工事	下關	一一、三二〇、〇〇〇	一、九七〇、六八二	六一六、六七六	二、五八七、三五八	八、七三二、六四二	〇・二三
	緑川改修工事	下關	四、〇〇〇、〇〇〇	▲三九九、九七六	▲二〇八、八一一 九七〇	▲六〇八、七八七 九七〇	三、三九一、二一三	〇・一五
	北川改修工事	名古屋	二、三六〇、〇〇〇	一三二、五四五	八九、九四〇	二二二、四八五	二、一三七、五一五	〇・〇九
	旭川改修工事	大阪	八、〇〇〇、〇〇〇	三一、一七一	七三、九一五	一〇五、〇八六	七、八九四、九一四	〇・〇一
	鬼怒川改修工事	東京	一四、五〇〇、〇〇〇	五〇七、三五八	二八一、八五一	七八九、二〇九	一三、七一〇、七九一	〇・〇五
	大淀川改修工事	下關	六、五〇〇、〇〇〇	一三、六四〇	二四二、二二一	二五五、八六一	六、二四四、一三九	〇・〇四
	狩野川改修工事	橫濱	六、三五〇、〇〇〇	一三、六二〇	六〇、八一一	七四、四三一	六、二七五、五六九	〇・〇一
	小計（三二）		三九一、四三四、二二九	二一二、〇七八、三八〇	一七、二一八、二二〇	二二九、二九六、六〇〇	一六二、一三七、六二九	〇・五九
河水川路附維屬持物工及事	木曾川附屬物及水路維持工事	名古屋	一、六九八、〇〇〇	一、〇〇五、二八三	七七、七六一	一、〇八三、〇四四	六一四、九五六	〇・六四
	淀川附屬物及水路維持工事	大阪	一、二八八、一〇〇	六二〇、七三一	八〇、九五九	七〇一、六九〇	五八六、四一〇	〇・五四
	利根、渡良瀨兩川維持工事	東京	五、八七四、八〇〇	▲一、七六六、四二二 二五、四二一	▲四六六、六九九 一四、三六四	▲二、二三三、一二一 三九、七八五	三、六四一、六七九	〇・三八
	信濃川維持工事	新潟	八七六、四〇〇	二四五、五〇八	一七〇、三九七	四一五、九〇五	四六〇、四九五	〇・四七
	小計（四）		九、七三七、三〇〇	三、六三七、九四四	七九五、八一六	四、四三三、七六〇	五、三〇三、五四〇	〇・四六
砂防工事	淀川流域砂防工事	大阪	六九〇、〇〇〇	■六三六、八一六 一四六	■三〇、一六六	■六六六、九八二 一四六	二三、〇一八	〇・九七
	富士川流域砂防工事	東京	一、四〇一、〇〇〇	一、一六一、六六三	五二、四三三	一、二一四、〇九六	一八六、九〇四	〇・八七
	桂川流域砂防工事（淀川支川）	大阪	九六、〇〇〇	七一、五二八	五、二七三	七六、八〇一	一九、一九九	〇・八〇
	千曲川流域砂防工事（信濃川上流）	新潟	七五六、六〇〇	■五七九、二一六	■三三、九〇七 二、二四三	■六一三、一二三 二、二四三	一四三、四七七	〇・八一
	鬼怒川流域砂防工事（利根川支川）	東京	六六四、五〇〇	四七四、七八一	四六、〇二〇	五二〇、八〇一	一四三、六九九	〇・七八
	神通川流域砂防工事	新潟	二八七、九三八	二一六、七六四	一九、二九三	二三六、〇五七	五一、八八一	〇・八二
	常願寺川流域砂防工事	新潟	二、七三六、〇〇〇	三二七、一〇四	一六八、五七二	四九五、六七六	二、二四〇、三二四	〇・一八
	手取川流域砂防工事	新潟	一、九一一、〇〇〇	三五、四五六	一〇四、〇〇六	一三九、四六二	一、七七一、五三八	〇・〇七

工事	工事名	擔當出張所	工費豫算	竣功高 前年度迄竣功高	竣功高 本年度竣功高	竣功高 合計	殘高	竣功歩合
			円	円	円	円	円	割分
砂防工事	揖斐川流域砂防工事	名古屋	一、二五〇、〇〇〇	六二、二九六	七六、五九七	一三八、八九三	一、一一一、一〇七	〇・一一
砂防工事	木津川流域砂防工事（淀川支川）	大阪	四四七、三〇〇	二六、九四二	二七、八八六	五四、八二八	三九二、四七二	〇・一二
砂防工事	小計（一〇）		一〇、二四〇、三三八	三、五九二、五六六	五六四、一五三	四、一五六、七一九	六、〇八三、六一九	〇・四一
港灣改良工事	關門海峽改良工事	下關	一三、三八八、〇一一	一二、五七〇、六〇八	五五二、一六六	一三、一二二、七七四	二六五、二三七	〇・九八
港灣改良工事	鹽釜港修築工事	仙臺	五、一五二、八一四	三、九一六、一三三	三一八、一五三	四、二三四、二八六	九一八、五二八	〇、八二
港灣改良工事	神戸港修築工事	神戸	三五、一六八、六〇一	二三、七一八、七五五	一、八五三、四七二	二四、五七二、二二七	一〇、五九六、三七四	〇・七〇
港灣改良工事	門司港修築工事	下關	五、二八〇、一四七	四、一〇四、一〇九	三六二、三九八	四、四六六、五〇七	八一三、六四〇	〇・八五
港灣改良工事	横濱港修築工事	横濱	二〇、四七五、〇〇〇	六、六二〇、六三四	一、四三二、七四〇	八、〇五三、三七四	一二、四二一、六二六	〇・三九
港灣改良工事	清水港修築工事	横濱	五、七〇二、一〇〇	● 五、〇九九、一八〇 三八一、二〇三	● 四四四、九〇八 一〇〇、九一七	● 五、五四四、〇八八 四八二、一二〇	一五八、〇一二	● 〇・九七 一・〇〇
港灣改良工事	下關港修築工事	下關	三、二六六、一〇〇	二、二二九、〇二三	三一四、〇二〇	二、五四三、〇四三	七二三、〇五七	〇・七八
港灣改良工事	高松港修築工事	神戸	二、〇六七、五七五	■ 二、〇〇七、〇二五 一三、八八四	■ 六〇、〇三三 一、〇八五	■ 二、〇六七、〇五八 一四、九六九	五一七	一・〇〇
港灣改良工事	敦賀港修築工事	名古屋	三、一九〇、〇〇〇	● 一、五二七、五一三 二四五、二六四	● 四九九、九七二 一一五、一五七	● 二、〇二七、四八四 三六〇、四二一	一、一六二、五一六	● 〇・六四 〇・九〇
港灣改良工事	境港修築工事	大阪	一、六九〇、一〇〇	一、一八五、六二八	二六七、〇四三	一、四五二、六七一	二三七、四二九	〇・八六
港灣改良工事	小松島港修築工事	神戸	三、二四六、〇〇〇	六三一、九〇五	二九四、一四九	九二六、〇五四	二、三一九、九四六	〇・二九
港灣改良工事	今治港修築工事	神戸	二、八一七、〇〇〇	一、四四二、八四四	三八一、六一二	一、八二四、四五六	九九二、五四四	〇・六五
港灣改良工事	鹿兒島港修築工事	下關	二、八〇五、六〇〇	六九七、八三三	三一六、四三四	一、〇一四、二六七	一、七九一、三三三	〇・三六
港灣改良工事	伏木港修築工事	新潟	四、六六九、〇〇〇	一、〇二二、〇五八	四九八、三七八	一、五二〇、四三六	三、一四八、五六四	〇・三三
港灣改良工事	小計（一四）		一〇八、九一八、〇四八	六五、七七二、二四七	七、五九五、四七八	七三、三六八、七二五	三五、五四九、三二三	〇・六七

復舊及補修工事						
相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事	東京	四、五五〇、〇〇〇	一、五七八、一一一	四五一、六一六	二、〇二九、七二七	二、五二〇、二七三	〇・四五
信濃川補修工事	新潟	四、四六〇、〇〇〇	◎ 三九六、五六八 一五、九四一	◎ 一、二四六、一一五 一六六、四八五	◎ 一、六四二、六八三 一八二、四二六	二、八一七、三一七	〇・三七
利根、渡良瀬兩川維持工水害復舊工事	東京	三〇〇、五〇〇	—	一六一、八五六	一六一、八五六	一三八、六四四	〇・五四
小計（三）		九、三一〇、五〇〇	一、九七四、六七九	一、八五九、五八七	三、八三四、二六六	五、四七六、二三四	〇・四一
總計（六二）		五二九、六四〇、四一五	二八七、〇五六、八一六	二八、〇三三、二五四	三一五、〇九〇、〇七〇	二一四、五五〇、三四五	〇・六〇

第五 竣功工事

直轄施行ニ係ル治水工事及港灣改良工事ニシテ昭和二年度迄ニ竣功シタル主要ナルモノヲ一括シ其竣功順ニ列記スレバ左表ノ如シ

工事名	府縣名	著手年度	竣功年度	豫算高	竣功高
河川改修工事					
筑後川改修工事	福岡、佐賀	明治二十九年度	明治三十六年度	円 一、四八四、〇〇〇	円 一、四六八、〇三四
淀川改修工事	大阪、滋賀、京都	同 二十九年度	同 四十三年度	一〇、〇九四、〇〇〇	一〇、〇六二、二一三
木曾川下流改修工事	岐阜、愛知、三重	同 二十年度	大正元年度	九、四六四、二三八	九、四五九、三七三
庄川改修工事	富山	同 三十三年度	同 元年度	二、九九二、四三二	二、九七二、三三九
遠賀川改修工事	福岡	同 三十九年度	同 七年度	四、八三一、〇〇〇	四、八一五、四五五
淀川下流改修工事	大阪	同 四十年度	同 十一年度	三、七五五、〇〇〇	三、七三九、五八六
九頭龍川改修工事	福井	同 三十三年度	同 十三年度	五、五五〇、四〇二	五、五四五、一五一
渡良瀬川改修工事	茨城、群馬、栃木	同 四十三年度	昭和元年度	一一、四〇〇、〇〇〇	一一、三七〇、三三三

工事名	府縣名	著手年度	竣功年度	豫算高	竣功高
河川改修工事					
信濃川改修工事	新潟	明治四十年度	昭和二年度	二三、五四一、九五〇円	二三、五三八、二一六円
吉野川改修工事	德島	同四十年度	同二年度	一二、〇一六、二八五	一一、七九一、三八五
高梁川改修工事	岡山	同四十年度	同二年度	七、九二六、〇八七	七、八二六、二〇六
小	計（一一）	—	—	九三、〇五五、三九四	九二、五八八、二九一
砂防工事					
吉野川流域砂防工事	德島	大正四年度	大正九年度	一五〇、〇〇〇	一四一、二五八
野洲川流域砂防工事	滋賀	同四年度	同十三年度	六〇、〇〇〇	五九、八三三
小	計（二）	—	—	二一〇、〇〇〇	二〇一、〇九一
港灣改良工事					
敦賀港修築工事	福井	明治四十二年度	大正二年度	八〇〇、〇〇〇	七三三、二一〇
新潟港修築工事	新潟	大正六年度	同十四年度	二、三四二、一〇七	二、三二六、九〇一
長崎港修築工事	長崎	同九年度	昭和二年度	二、四九〇、〇〇〇	二、四六三、七六八
小	計（三）	—	—	五、六三二、一〇七	五、五二三、八七九
總	計（一六）	—	—	九八、八九七、五〇一	九八、三一三、二六一

第一章　河川改良工事

第一　利根川改修工事

緒　言

本工事ハ明治三十三年度ヨリ昭和四年度ニ至ル三十箇年度繼續事業トシテ總工費六千三百四十萬三千百十七圓ヲ以テ群馬縣佐波郡芝根村以下千葉縣海上郡銚子町地先海ニ至ル幹川二百粁及派川江戶川五十九粁竝ニ中川二十五粁、計二百八十四粁ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

本工事ハ當初工費五百八十一萬四千百二十六圓ヲ以テ第一期工事トシテ下流部タル千葉縣佐原町以下海ニ至ル間及五十一萬六千圓ヲ以テ埼玉縣妻沼町以下海ニ至ル間ト江戶川流頭附近ノ低水工事ヲ明治三十三年度ニ著手シ同四十二年度ニ於テ第一期工事ハ一旦竣功（低水工事ハ大正十一年度竣功）シタリシガ之レヨリ先八百二十一萬四千七百七十五圓ヲ以テ第二期工事トシテ茨城縣取手町以下佐原町間ヲ同四十年度ニ著手シ續テ七百八十一萬一千九百十六圓ヲ以テ第三期工事トシテ其上流芝根村以下取手町間ヲ同四十二年度ヨリ著手シタリ然ルニ偶々同四十三年ノ夏季ニ至リ稀有ノ出水ニ遭遇セシヲ以テ第一期、第二期及第三期ノ既定計畫ニ擴張ヲ加ヘ增工事ヲ施スノ必要起レルト派川江戶川ヲ改修スルノ得策ナルヲ認メタルニ依リ工費一千三百二十萬圓ヲ追加（工費合計三千五百五十五萬六千八百十七圓）シ大正八年度ヲ以テ竣功期限トシ工事實施中ノ處其後精確ナル調査ノ結果再ビ既定工費增額ノ必要ヲ生ジタルト江戶川改修工事ノ爲同支川庄內古川ノ流路ヲ遮斷シテ之ヲ中川ニ注流セシメ（庄內古川ハ中川ノ

附帶工事トシテ管理者ニ代リ國ニ於テ施行ス)且中川ノ改修工事ヲ施行セシガ爲メ同五年度以降工費七百三十八萬五千三百十五圓ヲ追加(工費合計四千二百九十四萬二千百三十二圓)シ施行年限ヲ四箇年度延長シ同十二年度迄ニ竣功セシムルコトトナリ引續キ施行中ナリシガ同三年度以來歐洲戰亂ノ餘波ヲ受ケ諸物價及勞銀ノ昂騰著シク爲メニ工費ニ不足ヲ生ジタルト第三期、中川及低水工事ニ於ケル一部追加改修ノ必要ニ因ル工費トヲ合シ二千七十六萬八千二百圓ノ增額ヲ要セシガ同十二年度以降ノ低水工事ハ利根、渡良瀨兩川維持工事ニ包括セラルルコトトナリタルヲ以テ右低水工費ヲ控除シタル二千四十六萬九百八十五圓ヲ增額シ前記ノ如ク總工費ヲ六千三百四十萬三千百十七圓トシ竣功期限ヲ昭和二年度トセシモ其後更ニ同四年度迄之ヲ延長セリ

河狀竝計畫大要

利根川ハ流域面積一萬五千七百六十二平方粁ニシテ一府六縣ニ亙リ流路總延長四千四百二粁(內幹川三百二十二粁)航路延長八百五十二粁(內幹川二百七十五粁)ニ及ビ特ニ派川タル江戶川ヲ經テ沿川各地ト帝都トノ聯絡ヲ有ス灌漑區域十一萬七千六百七十七ヘクタール(內幹川三萬三百十六ヘクタール)水害區域十三萬七千七十五ヘクタール(內幹川十二萬一千九十四ヘクタール)ニ上レリ

從來本川ノ最大洪水ハ約十年ニ一回ト稱セラレシガ近時著シク其度數ヲ增加シ明治二十三年、同二十九年、同三十一年、同三十五年、同三十九年、同四十年、同四十三年、大正三年等大水害頻ニ臻リ以上八箇年ヲ平均スルモ實ニ一千四百七十八萬四千二百九十五圓ノ損害ヲ被レルノ狀況ニシテ最近非常ニ水害ヲ輕減セリト雖モ尙大正五年、同八年、同九年、同十一年、同十四年以上五箇年ノ水害損失平均額ハ實ニ五百十三萬四

千五百三十四圓ノ多キニ達ス而シテ是等ハ農作物及堤防等ノ損害ノミヲ算出シタルモノニシテ其間接ノ被害タル交通、商業、衛生等數字ニ計上シ得ザルモノニ至リテハ殆ンド測知スベカラザルモノアリ若シ夫レ權現堂ヨリ上流右岸堤ノ破壞ヲ見ンカ洪水帝都ヲ襲フニ至ルヲ以テ本川ノ水災關係ハ古來最モ重大視セラレタルモノナリ蓋シ洪水ノ原因種々アルベシト雖モ河狀不良ニシテ堤塘薄弱流積不足加フルニ漸次河床ノ埋沒ヲ來シタルニ起因スルナラン因テ本計畫ニ於テ本川ノ流量ヲ左ノ如ク定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ保タシメ以テ洪水ヲ防禦セントスルニアリ

芝根村以下江戸川分流點ニ至ル	五、五七〇 每秒立方米	（支川渡良瀬川ノ流量ハ利根川最高水位ニ影響ナキモノトス）
江戸川ヘ分流	二、二三〇	
江戸川ヘ分流點以下鬼怒川合流點ニ至ル	三、三四〇	
鬼怒川合流點以下海ニ至ル	四、三一〇	（鬼怒川洪水量ノ內利根川最大高水流量ニ影響スルモノナ毎秒九百七十立方米トス）

本川ノ堤防ハ右ノ流量ヲ標準トセル水位以上一米五乃至一米八ノ高サヲ保タシムルモノナリ元來毎秒五千五百七十立方米ノ水量ハ本川ニ於テ五年乃至十年毎ニ襲來スル最大高水ヲ標準トセルモノナレドモ明治四十三年ノ洪水ノ如キハ毎秒六千九百六十立方米ニ及ベルガ故ニ如斯場合ニ處スルガ爲メ前記ノ流量ヲ標準トセル水位以上尚九十糎ノ增水ヲ見ルモノトシテ築堤ハ六十糎乃至九十糎ノ餘裕ヲ存セシムルコトトセリ

今各區域ニ就キ改修計畫ヲ述ブレバ第三期改修區域ニ屬セル上流芝根村字沼ノ上以下妻沼町間ハ急流部ニシテ高水勾配五百分ノ一乃至一千五百分ノ一、妻沼町以下境町間ハ緩流部ニシテ二千二百分ノ一乃至三千三百分ノ一、境町以下取手町間ハ鈍流部ニシテ五千五百分ノ一乃至一萬分ノ一ヲ有セシムルコト

トセリ而シテ幅員ニ於テハ前記沼ノ上以下永樂村字赤岩ニ至ル間ハ利根川高原部ヨリ初メテ平地ニ出デタル部分ニシテ所謂汎濫部ニ屬シ其河幅ハ廣大ニシテ砂礫ノ沈澱多ク洪水毎ニ流路ヲ變ジ舊堤ハ斷續不同且河狀最モ險惡ノ部分タリ故ニ本改修計畫ニ於テハ大略現川ヲ中心トシテ五百四十五米ノ河道ヲ設ケ法線内ハ掘鑿ヲ施シ所要ノ斷面ヲ與ヘ尙兩岸ニ三百六十四米ノ堤外地ヲ存セシメ游水區域トシ以テ危險性ノ河川ニ備ヘタリ然レドモ島村附近竝ニ尾島町字前小屋附近ハ屈曲甚シク流路モ數派ニ岐レ所謂亂流區域ナルヲ以テ在來ノ河身ニ關セズ計畫法線ヲ定メ不規則ヲ匡正シ禍根ヲ斷ツコトトセリ又中瀬村及明戸村大字石塚竝ニ秦村附近ハ所謂論所堤ヲ控ヘ數百年來水論絕ユルコトナキ箇所ナルヲ以テ何レモ新堤ヲ築造シテ水害ノ根源ヲ絕ツコトトシ其結果福川吐口ニハ逆水樋門ヲ設置スルコトトセリ

支川烏川ハ殆ンド幹川ニ直角ヲ爲シ合流スルガ爲メ幹川ノ水流ハ八丁河原ニ衝突シ次デ八斗島ヲ襲フノミナラズ烏川ハ幹川ノ爲メ流路ヲ支ヘラルルヲ以テ幹川ノ流身ヲ左方ニ轉ズル樣法線ヲ選定シ赤岩以下福田村字三ツ堀間ハ五百四十五米ノ河幅ヲ標準トシ法線ヲ規定セルモ此區間ハ河狀比較的良好ナルヲ以テ大體現川ニ依リ幅員ノ足ラザル部分ハ之ヲ擴張シ河積ノ足ラザル部分ハ掘鑿ヲ行ヒ河幅ニ餘地アル部分ハ舊態ニ委ネ可及的河積ニ餘裕ヲ與フル計畫ヲ採レリ其結果左岸富永村、梅島村、千江田村、新郷村字中田、靜村字塚崎、長須村、中川村字莚打、右岸井泉村、村君村、大越村、關宿町、川間村等各地先ハ何レモ引堤ヲ爲スコトトセリ又派川權現堂川ハ分派點ニ於テ締切リ專ラ赤堀川ヲ擴張シテ本川ト爲シタリ

福田村字木ノ崎地先ハ中利根川中著名ナル狹窄部ニシテ河幅僅ニ百二十三米、河狀大屈曲ヲ成セルヲ以テ直路ヲ開鑿スルコトトセリ

前記三ツ堀以下取手町間ハ宛然游水地ノ如ク兩岸遠ク一千六百三十米乃至三千二百七十米ヲ隔テテ丘陵ニ依リ圍繞セラレ勾配極メテ緩ナルヲ以テ高水法線ヲ八百十八米ト定メ新堤ハ可成舊堤ヲ擴築シ游水地ノ働キヲ減殺セザル方針ヲ採レリ又鬼怒川ハ幹川ニ直角ヲ爲シテ合流シ幹川ノ洪水ヲ支ヘ其排除ヲ阻ムコト大ナルヲ以テ吐口ヲ引下ゲ逆水ノ影響ヲ減少セシムルコトトセリ而シテ堤塘高ハ計畫高水位上川俣鐵橋上流ハ一米八、其下流ハ一米五ト爲シ馬踏七米三、表裏二割法トシ川裏ニハ馬踏ヨリ一米八ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ其レ以下三割法ト爲シ川裏ハ馬踏ヨリ四米五下リテ相當前小段ヲ設クルコトトセリ

第二期改修區域ニ屬スル取手町以下佐原町ニ至ル間ハ河幅五百四十五米ヲ標準トシテ河道ヲ規定セルモ布佐、布川兩町間狹窄部ノ如キハ河幅ノ擴張ヲ許サザルニ依リ此部分ハ土砂ヲ浚渫シテ河積ヲ補フコトトシ取手町字片町、井野村字小堀間、生板村大字藤藏川岸ヨリ長戶川合流點ニ至ル間及滑河町地先竝金江津村、十余島村間、東大戶村川尻ヨリ同村飯島ニ至ル各箇所ハ孰レモ新川ヲ開鑿シテ河道ヲ改メ流心ヲ匡正シ派川將監川ハ締切リテ廢川ト爲シ長戶川ト幹川トノ合流點ニハ水門ヲ設ケ印旛沼ヘノ逆流ヲ遮斷シ霞ケ浦沿岸ノ汎濫ヲ防止スル爲メ横利根川合流口ニ閘門ヲ設置スル等ノ計畫ナリシガ明治四十三年八月ノ洪水ハ遙ニ同二十九年(第一期、第二期共同年ノ出水ニ基キ流量毎秒三千七百五十立方米トシテ計畫シタルモノ)ノ水位ヲ超ヘタルヲ以テ既定計畫ヲ變更シ且追加スルノ必要ヲ生ジ洪水流量ハ之ヲ每秒四千三百十立方米ト爲スノ可ナルヲ確メタリ然レドモ既ニ施工中ノ築堤ハ動カシ難キモノアリ高水波ノ推移上既定河幅ハ之ヲ變更スルノ不得策ナルヲ認メ上流ヨリ豐住村迄ハ計畫高水位ヲ更ニ九十糎ヲ高メ其レヨリ漸次低下セシメ下流佐原町附近ニ至リ從來ノ計畫高水位ニ合セシメ築堤ハ之ヲ擴大シ

下流第一期改修部内ハ約三十糎ノ嵩置ヲ施行スルコトトセリ又當初計畫ニ於テハ在來ノ堤塘ニシテ二十九年程度ノ出水ニ耐ユベキモノト認メタル所ハ其加工ヲ除キタレドモ追加計畫ニ於テハ之ヲ編入セリ即チ左岸取手町ヨリ金江津村ニ至ル間右岸我孫子町ヨリ木下町ニ至ル間及佐原町ヨリ津宮村ニ至ル間是ナリ要スルニ取手町以下小文間村ノ一部ヲ除キ總テ堤塘ヲ擴築又ハ新築連續セシメ遺ス所無カラシム又橋村、椎柴村間ハ第一期改修區域ノ下流ニ位スレドモ改良河川ニ伴フ河潮兩水ノ關係及大出水等ノ影響ニ依リ水路ニ淺所ヲ生ジタルヲ以テ此部分ヲ浚渫シ佐原町地先小野川口ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スルコトトセリ

支川小貝川ハ當初其合流點ニ逆水門ヲ築設スルノ計畫ナリシガ其後調査ノ結果之ヲ廢止シ上流相馬町常磐線鐵道橋以下約七粁八ヲ改修スルコトトシ内上流半部ハ縣ノ施行ニ委ネ下流半部ハ國ニ於テ施行スルコトトナレリ然シテ幹川堤塘ハ其高ヲ計畫高水位以上一米五、ト爲シ馬踏五米五、表裏共二割法ニシテ川表ハ馬踏ヨリ二米、川裏ハ一米八ヲ下リテ各三米六ノ小段ヲ設ク但シ川裏小段以下ハ三割法ト爲シ尙法先ハ約三米六ノ餘地ヲ存セシメタリ小貝川堤塘ハ表小段及川裏ノ餘地ヲ廢シタル外幹川堤塘ト同形トス

江戸川ハ茨城縣猿島郡五霞村山王地先ヨリ開鑿シテ新川ヲ通ジ利根幹川ヨリ分流セシメ其流頭ニハ床固工ヲ施シ洪水ノ注入積ヲ規定シ尙低水路ニ開閉自在ノ洗堰ヲ設ケ其低水量ヲ調節スルト同時ニ高水量ノ一部ヲモ調節スルノ具タラシム蓋シ江戸川ノ最大高水量ハ毎秒二千二百三十立方米ナルヲ以テ其大部分ヲ高水敷ヨリ放流セシメ殘餘ヲ低水路ニ據ラシムルコトトシ高水敷ニ於ケル流量ノ如何ニ依リ低水路ヨリスルモノヲ加減シ得ベカラシム低水時ニ於テ調節スルノ要ハ幹流利根川ト江戸川トノ間ニ

存セル既往水位ノ關係ヲ改修後ニ於テモ尙保有セントスルニ外ナラズ又低水路ニハ閘門ヲ設ケ水運ノ便ニ資スルモノトス

江戸川河道ノ現狀ハ甚シキ迂曲無ク大體良好ナルヲ以テ流末ヲ除ク他ノ部分ハ全ク現川ニ沿ヒ或ハ左岸ニ或ハ右岸ニ河幅ヲ擴張スルコトトシ堤防ハ多ク舊堤ヲ利用シテ之ヲ增築シ又川床ヲ掘鑿シテ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ本川ノ低水路ハ利根沿岸ヨリ帝都ニ通ズル航路トシテ船舶ノ往來頗ル頻繁ナルヲ以テ可成從來ノ低水路ニ觸ルルヲ避ケ堤外地高水敷ノ掘鑿モ亦低水位以上九十糎ニ止ムルモノトシ以テ所要ノ河幅ヲ定メタリ如斯ニシテ流頭ヨリ下流行德迄ハ全然現川ニ沿ヒ改修ヲ加フルモ行德以下ハ流路迂回スルヲ以テ稍直線ニ新川ヲ開鑿シテ高水ノミヲ海ニ注ガシメ現行ニハ航行灌漑ニ必要ナル水量ヲ通ズルモノトス河幅ハ流頭以下川間村字金野井迄ハ二百五十五米、同所以下野田町迄ハ二百三十六米、以下海ニ至ル迄ハ四百米トス又堤高ハ計畫高水位以上一米五ト爲シ馬踏ハ五米五、表法ハ右岸二割五分、左岸二割ニシテ川裏ハ馬踏ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ設ケ小段迄ヲ二割其レ以下ヲ三割法トス

中川改修區域ハ埼玉縣松伏領村下赤岩以下東京府奥戸村上平井迄延長約二十五粁、地勢平坦ナルヲ以テ利根幹川其他ノ洪水ノ餘波ヲ被ラザル限リ本川自身ニ水害ヲ起スコトナシト雖モ庄内古川外三惡水路ノ併合ニ依リ改修ノ必要ヲ生ジタルモノニシテ是等ノ流量ヲ新ニ增加スルモ現在ノ高水位ヲ昂メズ且沿岸ノ排水ニ惡影響ヲ與ヘザルコトヲ目的トス因テ現河底ヲ浚渫スルコト流心ニ於テ九十糎乃至一米五トシテ河積ヲ補充スルコトトシ只吉川町竝潮止村地先ハ甚シク屈曲セルヲ以テ直通ニ開鑿シテ新ニ河道ヲ設クルコトトス河幅ハ元荒川合流點迄ヲ百二米トシ其下流ヲ百四十五米トセリ而シテ築堤ハ前

記吉川町及潮止村新水路ノ兩岸ニ新設スル外ハ二、三箇所ノ移築又ハ増築ニ止メ其他ハ大體舊堤ヲ其儘利用スルコトトセリ

庄內古川ハ江戸川右岸地方ノ諸惡水ヲ集メタル河川ナルガ江戸川改修ニ伴ヒ之ニ遮斷セラルル十粁餘ノ附替ヲ要スルニ至レルモノナレドモ同川ニ竝行施設スルヨリハ寧ロ近距離ノ中川ニ合流セシムル方水利上竝ニ工費節約上得策ナルヲ認メ且其上流權現堂川ニ注グ羽生領(島川)及島中領、五霞村ノ三惡水路ノ改修ヲ要スルモノアルヲ以テ中川改修ノ附帶工事ト爲シ管理者ニ代リ國ニ於テ之ヲ施行スルコトトセリ

施工狀況

第一期工事ハ既ニ竣功セルヲ以テ茲ニハ目下施工中ノ第二期、第三期、江戸川及中川ニ於ケル工事ノ概要ヲ記述スベシ

第二期改修工事ニ於テハ第一期工事ニ使用シタル諸機械器具ヲ其儘充用シ得ルノ便宜ヲ有セシヲ以テ幸ニ施工準備ニ多クノ日子ヲ要セザリシガ土地買收ニ在リテハ明治四十年七月以降佐原、滑河、安食、木下取手、河原代等各町村ニ收用事務所ヲ設ケ大正三年度迄前後九箇年度ヲ費シ殆ンド全部ノ買收ヲ了シタルヲ以テ收用事務所ヲ廢止セリ而シテ其後ニ於ケル僅少ノ追加買收ヲ合スルトキハ其總段別一千四百八十四町九畝歩餘トナリ用地費二百九萬七千九百四十五圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ明治四十二年一月佐原町及安食町ニ各工營所ヲ設置シ滑河町ノ上流ハ安食、同下流ハ佐原ニテ分擔セシガ大正二年四月兩所ヲ合併シ安食町ニ改修事務所ヲ置キ全區域ヲ統轄セリ其後年

ト共ニ功程益々進捗セシガ同六年度以降漸次戰時ノ好景況ニ伴ヒ物價ノ昂騰ト勞力不足トニ依リ大ニ其功程ヲ妨ゲラレ又同十二年度ニ於テハ九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害アリ更ニ同十四年八月中旬及昭和三年八月初旬ニ於ケル兩度ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ豫定ノ功程ヲ擧ゲ得ルニ至リ本年度迄ニ築堤土運搬一千八百八十八萬百四十七立方米、浚渫土量三千百二十三萬四千九百七立方米、護岸及水制延長三萬二千七百八十八米、特種工事三箇所、附帶工事ノ直轄施行六十一箇所ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ零立方米四積土運車六百臺、五立方米積工業船六十隻、人力杭打機五臺、手働捲上機六臺等ヲ使用シ取手町以下若松村ニ至ル約七十九粁ノ間ニ亙リ築堤六箇所土運搬八萬七千百二十八立方米、浚渫五箇所土量十六萬三千百二十一立方米、護岸及水制十二箇所延長二千七百八十五米ヲ施工セリ今各方面ニ於ケル施工ノ概要ヲ述ベン

取手新低水路附近ニ於テハ左岸布川村押付新田地先延長一千四百十三米ニ亙リ築堤嵩置工事ヲ施行シ其九割ヲ竣成セシメ前年度起工セル右岸湖北村中峠、本年度起工セル左岸小文間村ノ兩地先人力掘鑿工ハ共ニ完成ヲ告ゲ水制工事ハ湖北村竝ニ小文間村中坪ノ兩地先ヲ竣功セシメタル外小文間村中谷津地先、湖北村新木地先ノ二箇所ヲ起工シ前者ハ全部、後者ハ約三割ヲ竣功セシメタリ斯テ永年亂流セシ河道モ逐年改善セラレ流水ノ疏通頗ル良好トナレリ

木下附近ニ於テハ布川町新宿地先延長一千四百三十米ノ築堤嵩置工事ヲ起工シ之ヲ竣功セシメ水制工事ハ前年度起工セル布川町中宿地先一箇所ト新ニ其下流新宿地先ニ起工セル一箇所トヲ施行シ前者ハ全部、後者ハ約三割ヲ竣成セリ

安食町附近ニ於テハ前年度起工ノ左岸生板村地先築堤嵩置工事及同地先人力掘鑿工事ヲ續工シ何レモ九割ノ功程ヲ擧ゲ護岸工事ハ前年度起工ノ右岸長竿村本年度起工ノ須賀上及左岸金江津村田川地先ノ三箇所ニシテ前二者ハ何レモ九割ヲ竣成シ田川ハ約五割ヲ竣功セリ水制工事ハ前年度ヨリ續工セル長竿村十里地先一箇所ニシテ年度內竣功セシメタリ

神崎新水路附近ニ於テハ左岸十余島村流作地先人力掘鑿ヲ前年度ヨリ續工竣功セシメタルヲ以テ各種工事ハ玆ニ全ク終了セリ

佐原町附近ニ於テハ右岸同町地先ニ陸閘門工事一箇所竝ニ低水路機械浚渫工ヲ起工シ前者ハ九割、後者ハ五割ノ功程ヲ擧ゲ護岸工ハ前年度未竣功ノ左岸砂場地先ヲ續工セシ外新ニ右岸向洲地先一箇所ヲ起工シ何レモ年度內竣功セシメタリ

小見川町附近ハ既ニ第一期工事ニ於テ竣功セル堤塘ニ嵩置ヲ施行スル追加工事ニシテ年度內右岸小見川町地先下小堀及左岸輕野村高濱地先ノ二箇所延長四千二百七十二米ヲ施工シ前者ハ全部、後者ハ四割ヲ竣功セリ

第三期改修ハ明治四十二年度ニ施行準備ヲ爲シ同四十三年度ニ田中村ニ、同四十四年度ニ稻戶井村ニ各工營所ヲ設置シ土地買收ニ關係ナキ箇所ヨリ先ヅ浚渫工ヲ開始セリ而シテ所要土地買收ハ同年一月以降取手、木間ヶ瀨、栗橋、赤岩及境ニ各收用事務所ヲ置キ大正五年度迄約六箇年度ヲ費シ大部分ノ買收ヲ了リタルヲ以テ玆ニ收用事務所ヲ廢止セリ而シテ其後ニ於ケル追加買收ヲ合スルトキハ總段別三千五百二十三町七段四畝步トナリ用地費五百九萬三千八百五十一圓ヲ支出セリ

本區域ハ計畫掘鑿土量四千五百七十六萬立方米、築堤土量二千七百五十一萬立方米ノ大土工ナルヲ以テ

鋭意機械ノ整備ヲ圖リ掘鑿機十六臺、機關車十七臺、浚渫船大小七隻、木造工業船二百十四隻、三十瓩軌條約十五粁、十五瓩軌條五十三粁、六瓩軌條八十五粁、三立方米積土運車七百六十六臺、零立方米六積トロ二千三百三十八臺、其他附屬諸機械ヲ備ヘ大正元年度ヨリ全工區ヲ三分シ尾島、栗橋、田中ニ各工區事務所ヲ設置シ專心功ヲ進メタル結果同六年度末ニ至リ略成功ニ近ヅキタルヲ以テ翌七年五月此三區ヲ合併シ栗橋町ニ第三期改修事務所ヲ置キ殘工事全部ヲ統轄スルコトトセリ而シテ同十年度迄ニ於テ其主要工事ハ殆ンド竣成シ其後ハ護岸水制ヲ主トシ整理掘鑿及堤防補修等ヲ施行セリ然ルニ偶々同十二年九月一日ニ於ケル大震災ニ因ル被害アリ更ニ同十四年八月中旬及昭和三年八月初旬ニ於ケル兩度ノ出水ニ因ル被害等相踵ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠ナカラザリシガ只管豫定ノ進捗ニ努メ本年度迄ニ築堤土運搬二千八百十一萬七千六百四十一立方米、浚渫土量四千六百十萬四百六十六立方米、護岸水制延長十萬九千四百六十四米、特種工事四箇所、附帶工事ノ直轄施行六十八箇所ヲ竣成セリ

是等ノ施工ニ依リ利根川第三期ノ大工事モ近ク完成ヲ告グルニ至リ現ニ施行ノ維持工事ト相俟テ往年ノ慘害ヲ見ルコトナカルベシ、今本年度各方面ニ於ケル施工ノ概要ヲ左ニ述ベン

沼ノ上、赤岩間ハ掘鑿、築堤及附帶工事等凡テ竣功シ護岸水制ハ水衝リ強キ箇所及常水路ノ新堤ニ接近セル所ハ悉ク防禦セラルルニ至リ其延長舊護岸ヲ合スレバ正ニ全河岸ノ七割九分ニ達セリト雖モ利根川ノ急流部ナルヲ以テ左岸沼ノ上、八斗島、前河原、新地、長沼、大館、小島、古海、赤岩、右岸山王堂、仁手、中瀬間々田、出來島等ノ各地先ハ流水常ニ護岸ニ激衝シ脚部危險ナルヲ以テ更ニ根固及ビ床固ヲ增補スルノ必要アルベシ

赤岩、境間ニ於テハ栗橋町及境町地先ニ各船著ヲ兼用セル石張護岸工ヲ施行シ前者ハ年度內竣功シ後者ハ根固ニ鐵矢板ヲ使用シ八割餘ノ功程ヲ擧ゲ五霞村大字川妻地先及兩新田地先ノ掘鑿跡ニ床固トシテ三箇所ノ鐵筋材杭打上置ヲ完成シタリ而シテ其他ノ諸工事ハ凡テ竣成シ水流激衝スル箇所ハ新舊護岸ニ依リ悉ク防禦セラレ左岸富永、梅島、千江田ノ各村及右岸村君村等ノ引堤箇所ハ床固水制ノ施行ニ依リ深掘ノ跡ヲ絕チ其下流大箇野及對岸大越兩村地先ノ亂流箇所ハ大ニ改善セラルルニ至レリ

境、取手間ニアリテハ掘鑿築堤及附帶工事等全部完成シ僅ニ護岸水制ノ小部分ヲ剩セリト雖モ前年度迄ノ施工ニ依リ兩岸水流激衝ノ箇所ハ護岸ニ依リテ防禦セラレ又右岸關宿町以下川間、旭、福田ノ各村及左岸猿島村等引堤箇所及鬼怒川合流口ハ床固水制ヲ施工シ深掘ニ備フルト共ニ水路ノ矯正ニ努メタリ

派川江戸川改修ハ大正二年度創業直ニ野田町及松戸町ニ各土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調査ヲ行ヒ良好ノ成績ヲ以テ同四年三月迄ニ殆ンド全部ノ買收ヲ終リ同月限リ兩事務所ヲ閉鎖セリ其後少許ノ買收ヲ行ヒ本年度ニ於テモ七段九畝十歩ヲ買收シ其總段別一千七十八町四段四畝十三歩餘トナリ用地費三百三十四萬三百六十九圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ同三年十二月野田町ニ改修事務所ヲ設置シ直ニ築堤及掘鑿工事ニ著手セシモ同年度ハ日淺ク僅ニ其一部ヲ施工シタルニ過ギザリシガ同四年度以降漸次功程進捗セリ然ルニ同六年度以降ニ於ケル戰時ノ影況等ニ妨ゲラレ其後同十二年九月一日ノ大震災ニ因ル被害アリ更ニ同十四年八月中旬及昭和三年八月初旬ニ於ケル兩度ノ大出水ニ因ル被害等相次ギ是等復舊工事ノ爲メ改修工事ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠ナカラザリシガ不斷ノ努力ニ依リ幸ニ豫定ノ進捗ヲ見ルニ至リ本年度迄ニ築堤土運搬一千六百二十二萬四千百一立方米、浚渫土量一千六百四十六萬百四十三立方米、護岸水制延長四

萬六千三百八十一米、特種工事三箇所、附帶工事ノ直轄施行三十七箇所ヲ施工セリ今本年度施工ノ概況ヲ述ベン

築堤工事ハ前年度ヨリ繰越ニ係ル關宿町、五霞村、豐岡村、新川村、流山町、松戸町、市川町各地先ニ於ケル八箇所及新ニ起工セル五霞村、關宿町、三輪野江村各地先ニ於ケル四箇所、計十二箇所ヲ施行シ土量十八萬六千六百九十九立方米ヲ築立テ五霞村、關宿町、新川村、三輪野江村及松戸町各地先ニ於ケル六箇所ヲ竣功セシメタリ

浚渫工事ハ關宿町、小岩町、行德町各地先ニ於ケル機械掘鑿工事四箇所、機械浚渫一箇所、竝ニ關宿町、金町、小岩町、行德町各地先人力掘鑿工事五箇所ヲ前年度ニ續工セル外本年度新ニ五霞村字山王關宿町兩地先ニ人力掘鑿工ヲ起工シ機械掘鑿及機械浚渫土量二十二萬八千四百五十四立方米、人力掘鑿土量十五萬八千百五十二立方米ヲ擧ゲ關宿町地先機械掘鑿一箇所、同浚渫一箇所及關宿町、金町ノ各人力掘鑿二箇所ヲ竣功セシメタリ

護岸水制工事ハ前年度未竣功ノ五霞村、關宿町、松戸町各地先三箇所ヲ續工セル外新タニ金町、行德町各地先二箇所ヲ起工シ內行德町ハ未竣功ナルモ其他ハ全部竣功セリ

特種工事タル關宿閘門及關宿洗堰ノ二工事ハ昭和二年度ニ於テ竣功シ之ニ關聯セル工事ノ內中島築立ハ休工シ中島護岸及高水路床固ノ二工事ハ鋭意進捗ニ努メタル結果前者ハ竣功シ後者モ殆ンド完成セリ

附帶工事ハ前年度ヨリ繰越セル豐岡村地先木津內樋管改築及松戸町矢切地先ニ於ケル排水機鐵管繼足ノ二工事ヲ續工シ尙新タニ流山町地先ニ今上落樋門工事ヲ起工シ內木津內樋管改築ハ未竣功ナルモ其

他ノ二工事ハ全部竣功セリ

中川改修ハ大正五年度創業直ニ測量調査等ノ施工準備ニ著手シ翌六年度ヨリ土地買收ニ關係ナキ部分ヨリ工事ヲ開始セリ而シテ土地買收ハ同八年九月新宿町ニ收用事務所ヲ設置シ買收調査ヲ爲シ同九年度迄ニ其大部分ヲ買收シ同十一年度ニ至リテ完了セリ其總段別百三町一段歩餘ニシテ用地費六十一萬八千四百三十五圓ヲ支出セリ

本工事ハ當初江戸川改修事務所ニ於テ施行セシガ同八年十一月東京府南葛飾郡龜靑村大字龜有ニ中川改修事務所ヲ設ケ同所ニ於テ施行スルコトニ改メ其下ニ工場及派出所等ヲ置キ鋭意施工ニ努メ起工以來築堤土運搬三十萬二千百四十六立方米、浚渫土量四百三十九萬七千八百二立方米ヲ竣成セリ

附帶工事ハ庄内古川外三惡水路附替工事ヲ除キタル他ノ五箇所ハ全部竣成シ管理者施行ニ對シ國庫補助ヲ爲シタルモノ一萬一千三百七十三圓トナレリ

本年度ニ於テハ吉川町地先ノ浚渫土陸上運搬及跡片付ト同町地先新水路人力掘鑿、同所ノ護岸工、中川高水敷床均掘鑿及堤防手入等ヲ施行シ内床均掘鑿ハ六十一萬五千四百八十二平方米、堤防手入ハ五萬七千七百九十平方米ヲ施行セシモ何レモ完成ニ至ラズ其他ハ全部竣成セリ

庄内古川外三惡水路附替工事ハ中川改修附帶工事ノ一ナレドモ其實中川改修促進ノ因ヲ爲シ且工事ノ規模大ナルヲ以テ其施行ニ相當準備ヲ要シ大正六年度ニ於テ幸松村ニ土地收用事務所ヲ設ケ所要土地ノ買收（管理者負擔）ヲ爲シ翌七年度ヨリ工事ニ著手シ本年度迄ニ浚渫及掘鑿土二百六十萬七千二十二立方米、築堤土運搬百九萬五千三百四立方米、橋梁架設二十一箇所、樋管新設六箇所、水路附替四箇所、堰一箇所及雜工事三箇所ヲ施行セリ

本年度ニ於テハ吉田村大字上宇和田地先權現堂堤防以下庄內古川筋ニ於テ本流ヲ全部締切リ廻掘水替ノ方法ニ依リ人力ヲ以テ土砂二萬二千立方米ヲ掘鑿シ築堤ハ吉田村舊水路在來堤ノ手入竝ニ同村及松伏領村ノ各新水路兩岸ニ施行シ內堤防手入ハ未竣功ナルモ其他ハ竣功セリ又雜工事トシテ前年度起工セシ橋梁二箇所、樋管一箇所ハ年度內竣功シ新ニ床固堰一箇所ヲ起工セシモ未竣功ナリ

權現堂堤防ヨリ上流ノ權現堂川及島川筋ニ於テハ前年度ニ引續キ掘鑿ヲ施工シ前者ハ六萬三千立方米、後者ハ六萬二千立方米ヲ竣成シ尙雜工事トシテ前年度ヨリ繰越セル堰一箇所、縣道橋、村道橋各一箇所、水路附替一箇所ヲ竣功セシメ新ニ國道橋及村道橋各一箇所ヲ施工セシモ未竣功ニ終レリ

本改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ當初佐原、次デ明戶、栗橋、取手、野田、松戶、及龜有等ノ獨立工場ヲ置キ之ニ當ラシメシガ事業ノ進捗ニ伴ヒ漸次閉鎖シ現在ニテハ僅ニ野田ノ一工場トナリ他ニ規模ヲ縮小シ改修事務所々管ノ下ニ事業ヲ續行セルモノ一、二アルノミトナレリ

本年度利根川改修工事總竣功高ハ七十七萬二千五百五十三圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六千二百三十六萬一千八百八十圓トナリ之ヲ總工費豫算六千三百四十萬三千百十七圓ニ比較スルトキハ九割八分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「×」ハ材料採集費支辨石材及砂利價額「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ提供材料及勞力費「○」ハ評價品價額ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	築堤	立方米 二四、八六五、四三六 ※四二、二九一、九〇六	円 六、九三五、三一八 ×一一、〇二〇 △八九五 ▲四二五	立方米 二一九、三四二 ※五四、四八五	円 一三二、五四六 ×二六〇 △— ▲七〇〇	立方米 二五、〇八四、七七八 ※四二、三四六、三八九	円 七、〇六七、八六四 ×一一、二八〇 △八九五 ▲一、一二五	割分 〇・九七

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	浚渫	※ 一〇七、六八四、九〇八 一一、四二六、六〇七 立方米	▲△ 一二、三四八、七二七円 三四五 一三二、一三五	※ 五四六、五一六 二〇、〇〇二 立方米	▲△ 一四三、一六八円 三四、七五一	※ 一〇八、二三一、四二四 一一、四四六、六〇九 立方米	▲△ 一二、四九一、八九五円 三四五 一六六、八八六	〇・九八 割分
	護岸水制	一八三、六一四 米	▲△× 四、三八二、八〇九 一、〇六六、七六六 六三五 五七	五、四九九 米	▲△× 一七四、五四〇 四七、六四二 六、二六三	一八九、一一三 米	▲△× 四、五五七、三四九 一、一一四、四〇八 六三五 六、三二〇	〇・九三
	特種工事	竣功 一四箇所 未竣功 一箇所	△× 二、四〇一、五三〇 二六一、一四九 五三五、一九六	竣功 — 未竣功 一箇所	△× 四八、〇九六 一九、九六三 —	竣功 一四箇所 未竣功 一箇所	△× 二、四四九、六二六 二八一、一一二 五三五、一九六	〇・九四
	障害物除却	五三、一〇七 立方米	八、六九九	—	—	五三、一〇七 立方米	八、六九九	一・〇〇
材料採集費		—	一、〇七八、九〇八	—	—	—	一、〇七八、九〇八	—
用地費		六六、三四七 段	一一、七七四、七五八	八 段	一一、三六六	六六、三五五 段	一一、七八六、一二四	—
附帯工事費	直轄施行	竣功 一七八箇所 未竣功 三箇所	○▲□△× 二、一六九、一七六 九、四二五 二四、三四四 一、四八一、七三六 二五、〇六二 一〇八、一七四	竣功 二箇所 未竣功 二箇所	○▲□△× 二三、七八一 一、三八八 三、三九一 一六四、三三六 一六〇	竣功 一八〇箇所 未竣功 二箇所	○▲□△× 二、一九二、九五七 一〇、八一三 二七、七三六 一、六四六、〇七二 二五、〇六二 一〇八、三三四	〇・九五
	管理者施行	竣功 四九	八六〇、五五三	—	—	竣功 四九	八六〇、五五三	
船舶及機械費		—	△ 一三、〇一六、八六八 九八五、四四二	—	△ 七〇、四九三 一三、八六二	—	△ 一三、〇八七、三六一 九九九、三〇四	—
測量費		—	△× 二〇二、一九六 七二 八〇	—	△× 五、二四五 三二	—	△× 二〇七、四四一 一〇四 八〇	—
營繕費		—	△ 七〇〇、四五五 六五	—	△ 六、二六八	—	△ 七〇六、七二三 六五	—
雜費		—	▲× 四、九五二、三三二 一五七 一、六八一	—	▲× 一五〇、八二四	—	▲× 五、一〇三、一五六 一五七 一、六八一	—
亡失毀損		—	五五八	—	—	—	五五八	—
共濟組合給與金		—	六七、六五五	—	六、二二六	—	七三、八八一	—
低水費(諸費共)		—	六八八、七八五	—	—	—	六八八、七八五	一・〇〇
總計		—	▲□ 六一、五八九、三二七 一、四八一、七三六 一五九、三六〇	—	▲□ 七七二、五五三 一六四、三三六 四一、七一四	—	▲□ 六二、三六一、八八〇 一、六四六、〇七二 二〇一、〇七四	〇・九八

本表ノ竣功額(低水工費ヲ除ク)ヲ更ニ各改修別ニスレバ左ノ如シ

第一期改修

費目		數量	金額	竣功歩合
本工事費	築堤	※三、二一四、七〇六（六九二、四二二）立方米	五一六、一二六円	一・〇〇割分
本工事費	浚渫	二一、四八四、七一五	一、三〇二、〇三〇	一・〇〇
本工事費	特種工事	竣功 五箇所	△二〇、四四六（一九一）	一・〇〇
本工事費	障害物除却	一〇、一六四立方米	二、二五〇	一・〇〇
用地費		四、四六一段	六三五、五二四	—
附帯工事費	直轄施行	竣功 一〇箇所	□四八、七一四（一、九六九）	一・〇〇（直轄施行・管理者施行）
附帯工事費	管理者施行	竣功 五	四二、六四八	
船舶及機械費		—	二、八七一、七二二円	—割分
測量費		—	三〇、〇九二	—
營繕費		—	一〇六、二六八	—
雜費		—	二五四、五四六	—
總計		—	□五、八三〇、三六六（一、九六九）	一・〇〇

第二期改修

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	築堤	※一四、八三七、五三二（三、九五五、四八七）立方米	二、九八〇、三二八円	※八七、一二八立方米	四七、九〇〇円	※一四、九二四、六六〇（三、九五五、四八七）立方米	三、〇二八、二二八円	〇・九九割分
本工事費	浚渫	※一九、九二七、六〇九（一一、一四四、一七七）	二、三二一、六八〇	※一四三、一一九（二〇、〇〇二）	四二、五四六	※二〇、〇七〇、七二八（一一、一六四、一七九）	二、三六四、二二六	〇・九九
本工事費	護岸水制	三〇、〇〇三米	×一、〇五四、八二五（五一、六四〇）	二、七八五米	×一二一、九四八（—）	三二、七八八米	×一、一七六、七七三（五一、六四〇）	〇・九六
本工事費	特種工事	竣功 三箇所	△八二六、七〇二（三一九、二六〇）	竣功 —	△—（—）	竣功 三箇所	△八二六、七〇二（三一九、二六〇）	一・〇〇
本工事費	障害物除却	一七、二一四立方米	三、六五五	—	—	一七、二一四立方米	三、六五五	一・〇〇
材料採集費		—	五四、三九三	—	—	—	五四、三九三	—
用地費		一四、八四一段	二、〇九七、九四五	—	—	一四、八四一段	二、〇九七、九四五	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
附帶工事費 直轄施行	竣功 六一箇所	四三四、〇六五円 ×二、七五三 □三五一、二五二	竣功 —	—円	竣功 六一箇所	四三四、〇六五円 ×二、七五三 □三五一、二五二	一・〇〇割分
附帶工事費 管理者施行	竣功 一二	九三、七六〇	竣功 —	—	竣功 一二	九三、七六〇	
船舶及機械費	—	二、四五〇、一〇二 △三五八、六〇四	—	二七、〇九七 △二、一七七	—	二、四七七、一九九 △三六〇、七八一	—
測量費	—	六四、七〇一	—	一、七二九	—	六六、四三〇	—
營繕費	—	八八、一二五	—	二、一五三	—	九〇、二七八	—
雜費	—	一、三一五、六七七	—	四三、八九三	—	一、三五九、五七〇	—
亡失毀損	—	九	—	—	—	九	—
共濟組合給與金	—	八、三七〇	—	一、七五七	—	一〇、一二七	—
總計	—	一三、七九四、三三七 □三五一、二五二	—	二八九、〇二三 □—	—	一四、〇八三、三六〇 □三五一、二五二	〇・九八

第三期改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	※ 三、〇六六、八一七立方米 二五、〇五〇、八二四	一、三九一、〇六四円 ×二、七〇三 △四〇一	※ —立方米 —	—円 ×— △—	※ 三、〇六六、八一七立方米 二五、〇五〇、八二四	一、三九一、〇六四円 ×二、七〇三 △四〇一	一・〇〇割分
本工事費 浚渫	※ 四五、八一八、〇三六 二八二、四三〇	四、一五九、二四九	※ —	—	※ 四五、八一八、〇三六 二八二、四三〇	四、一五九、二四九	一・〇〇
本工事費 護岸水制	一〇九、一三一米	二、二七〇、五〇二 ×五四八、七五九 △六〇一 ▲五七	三三三米	一〇、二一五 ×一、八一二 △— ▲六、二六三	一〇九、四六四米	二、二八〇、七一七 ×五五〇、五七一 △六〇一 ▲六、三二〇	〇・九九
本工事費 特種工事	竣功 四箇所	二二四、二三二 ×四二一 △一二、七三六	竣功 —	— ×— △—	竣功 四箇所	二二四、二三二 ×四二一 △一二、七三六	一・〇〇
本工事費 障害物除却	二五、七二九立方米	二、七九四	—	—	二五、七二九立方米	二、七九四	一・〇〇

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	築堤	※ 三、七三〇、一〇五 一二、三〇七、二九七 立方米	▲△× 二、〇一九、四八二 八、三一七 四九四 四二五 円	※ 一三二、二一四 五四、四八五 立方米	▲△× 八三、五九二 二六〇 — 七〇〇 円	※ 三、八六二、三一九 一二、三六一、七八二 立方米	▲△× 二、一〇三、〇七四 八、五七七 四九四 一、一二五 円	〇・九〇 割分
	浚渫	一六、〇七三、五三七	▲△ 三、三二五、〇五三 二一、〇八一	三八六、六〇六	▲△ 八七、三七七 — 三四、四四四	一六、四六〇、一四三	▲△ 三、四一二、四三〇 五五、五二五	〇・九〇
	護岸水制	四四、二二〇 米	△× 一、〇五二、六五四 四六六、三六七 三四	二、一六一 米	△× 三八、六一三 四五、八三〇 —	四六、三八一 米	△× 一、〇九一、二六七 五一二、一九七 三四	〇・八〇
	特種工事	竣功 未竣功 一二 箇所	△× 一、三三〇、一五〇 二六〇、七二八 二〇三、〇〇九	竣功 未竣功 一 — 箇所	△× 四八、〇九六 一九、九六三 —	竣功 未竣功 一二 箇所	△× 一、三七八、二四六 二八〇、六九一 二〇三、〇〇九	〇・九〇

江戸川改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
材料採集費	—	五五六、二〇一	—	—	—	五五六、二〇一	—
用地費	三五、二三七 段	五、〇九三、八五一	—	—	三五、二三七 段	五、〇九三、八五一	—
附帯工事費 直轄施行	竣功 六八 箇所	○□△× 二二六、八六一 一、五八一 八、一五〇 二一九、九三一 七六	竣功 —	— — — — —	竣功 六八 箇所	○□△× 二二六、八六一 一、五八一 八、一五〇 二一九、九三一 七六	一・〇〇
附帯工事費 管理者施行	竣功 五	七二、一六〇	竣功 —	—	竣功 五	七二、一六〇	
船舶及機械費	—	△ 三、五九八、四四六 九八、四四七	—	△ 三九一	—	△ 三、五九八、八三七 九八、四四七	—
測量費	—	五八、二二七	—	二、一〇三	—	六〇、三三〇	—
營繕費	—	△ 一九三、六七三 六二	—	△ 二七五	—	△ 一九三、九四八 六二	—
雜費	—	× 一、四二一、〇六二 一五七	—	× 八、五〇四	—	× 一、四二九、五六六 一五七	—
亡失毀損	—	四六七	—	—	—	四六七	—
共濟組合給與金	—	三、六八二	—	二九四	—	三、九七六	—
總計	—	▲□ 一九、二七二、四七一 二一九、九三一 五七	—	二一、七八二 六、二六三	—	▲□ 一九、二九四、二五三 二一九、九三一 六、三二〇	〇・九九

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
		円		円		円	割分
材料採集費	—	四六八、三一四	—	—	—	四六八、三一四	—
用地費	一〇、七七六段	三、三二九、〇〇三	八段	一一、三六六	一〇、七八四段	三、三四〇、三六九	—
附帯工事費 直轄施行	竣功 三四 未竣功 二	三〇二、五〇六 ×五、〇九一 △三、二六八 □一二〇、八三〇 ○一九五	竣功 二 未竣功 一	二〇、七五七 ×一、三八八 △三、三九二 □三五、五四五 ○一六〇	竣功 三六 未竣功 一	三二三、二六三 ×六、四七九 △六、六六〇 □一五六、三七五 ○三五五	〇・九〇
附帯工事費 管理者施行	竣功 二五	六四〇、六一二	竣功 —	—	竣功 二五	六四〇、六一二	
船舶及機械費	—	三、〇五二、四三六 △四四七、三六七	—	四一、七〇九 △一一、一七九	—	三、〇九四、一四五 △四五八、五四六	—
測量費	—	四一、九一七 ×七二 △一	—	一、一九〇 ×三二	—	四三、一〇七 ×一〇四 △一	—
營繕費	—	二六〇、三七〇 △三	—	三、四一七 △	—	二六三、七八七 △三	—
雜費	—	一、五五九、二三二 ▲一、六八一	—	八一、八五七 ▲	—	一、六四一、〇八九 ▲一、六八一	—
亡失毀損	—	八二	—	—	—	八二	—
共濟組合給與金	—	四〇、四五八	—	三、二八七	—	四三、七四五	—
總計	—	一七、四二二、二六九 □一二〇、八三〇 ▲二三、一八七	—	四二一、二六一 □三五、五四五 ▲三五、一四四	—	一七、八四三、五三〇 □一五六、三七五 ▲五八、三三一	〇・九六

中川改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本工事費 築堤	一六、二七六 ※二八五、八七〇	二八、三一八	— ※—	一、〇五四	一六、二七六 ※二八五、八七〇	二九、三七二	一・〇〇
本工事費 浚渫	四、三八一、〇一一	一、二四〇、七一五 ▲一一、〇五四	一六、七九一	一三、二四五 ▲三〇七	四、三九七、八〇二	一、二五三、九六〇 ▲一一、三六一	〇・九八
本工事費 護岸水制	二六〇米	四、八二八	二二〇米	三、七六四	四八〇米	八、五九二	一・〇〇

用地費	一、〇三一段	六一八、四三五	—	—	一、〇三一段	六一八、四三五	—
附帶工事費（直轄施行）	竣功 未竣功 一五所	一、一五七、〇三〇 △二、九二六 □七八七、七五四 ▲二五、〇六二 ○一〇七、九〇三	竣功 未竣功 一箇所	三、〇二四 △— □一二八、七九一 ▲— ○—	竣功 未竣功 一五箇所	一、一六〇、〇五四 △二、九二六 □九一六、五四五 ▲二五、〇六二 ○一〇七、九〇三	〇・九九
附帶工事費（管理者施行）	竣功 二	一一、三七三	竣功 —	—	竣功 二	一一、三七三	
船舶及機械費	—	一、〇四四、一六二 △八一、〇二四	—	一、二九六 △五〇六	—	一、〇四五、四五八 △八一、五三〇	—
測量費	—	七、二五九 △七九	—	二二三 △—	—	七、四八二 △七九	—
營繕費	—	五二、〇一九	—	四二三	—	五二、四四二	—
雜費	—	四〇一、八一五	—	一六、五七〇	—	四一八、三八五	—
共濟組合給與金	—	一五、一四五	—	八八八	—	一六、〇三三	—
總計	—	四、五八一、〇九九 □七八七、七五四 ▲一三六、一一六	—	四〇、四八七 □一二八、七九一 ▲三〇七	—	四、六二一、五八六 □九一六、五四五 ▲一三六、四二三	〇・九九

第一 荒川改修工事

緒言

本工事ハ分チテ上、下流ノ二工事トス即チ下流工事ハ當初明治四十四年度ヨリ大正九年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費一千二百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ同五年度ニ於テ施行年限ヲ三箇年度延長スルト共ニ總工費ヲ一千五百十萬圓ニ増額シ施行中ナリシヲ同七年度以降時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ同八年度ニ於テ七十四萬四千圓、同九年度以降ニ於テ時局ニ因ルモノノ外一部追加設計ノ必要ニ依ル工費トヲ合シ五百八十八萬五千圓、同十年度以降二回ニ亙リ七百四十一萬五千圓ヲ増額シテ總工費ヲ二千九百十四萬四千圓トシ施行年限ヲ昭和二年度迄延長セシガ新荒川下流部小名木川新交叉點ニ於ケル航通上ノ變遷ニ伴ヒ新タニ施設ノ要ヲ認メ同二年度ニ於テ工費二百二十萬圓ヲ増額シ總工費ヲ三千百三十四萬四千圓ニ改メ施行年限ヲ同三年度迄トセシガ更ニ一箇年度ヲ延長シ結局十九箇年度繼續事業トシ同四年度ヲ以テ竣功期限トセリ其施行區域ハ左岸埼玉縣川口町、右岸東京府下岩淵町以下東京府下砂町地先海ニ至ル延長二十二粁四ナリトス

上流工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費一千四百萬圓ヲ以テ施行中ナリシガ是亦時局ノ影響ニ因リ當初ノ豫算ニテハ到底遂行シ能ハザルガ故ニ大正十二年度以降ニ於テ工費一千萬圓ヲ増額シ施行年限ヲ五箇年度延長シ昭和七年度迄十五箇年度繼續事業トシ總工費二千四百萬圓ヲ以テ施行スルコトトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度ニ於テ施行年限ヲ更ニ五箇年度延長シ昭和十二年度迄ニ竣功セシムルコトトセリ

其施行區域ハ幹川埼玉縣大里郡武川村以下同縣北足立郡川口町ニ至ル延長六十二粁三及支川入間川筋左岸同縣比企郡伊草村、右岸同縣入間郡山田村落合橋以下荒川合流點ニ至ル五粁九、支川新河岸川筋同縣北足立郡新倉村地内ノ現在荒川合流點以下東京府下岩淵町地先岩淵水門下ニ至ル新水路十一粁一ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ其流域埼玉及東京ノ兩府縣ニ跨リ面積凡三千百平方粁（内支川入間川七百八十平方粁、新河岸川三百四十平方粁）流路延長百八十粁（外ニ入間川九十八粁、新河岸川二十八粁）ヲ有シ關東平野ノ中央ニ當レルヲ以テ其概半一千六百平方粁ハ平坦ナル沃野ニシテ本川ニ依リ灌漑スル水田約一萬二千ヘクタールニ達ス而シテ本川ノ出水ハ主トシテ夏季豪雨ニ起因シ其流量頗ル大ニシテ出水急ニ減水緩ナルヲ以テ沿川地方ノ被害ハ年々巨額ニ上リ其上流改修區域ノミヲ擧グルモ水害區域實ニ五萬七千ヘクタールニ達シ無堤地ノ冠水ハ勿論或ハ堤防ヲ破壞シ冠水十數日ニ亙ルノミナラズ決水ハ滔々武藏野ノ平野ニ漲リ東京市本所、深川ト中川トノ中間ニ流下シ來リ時ニ利根川ノ汎濫ト合シ遂ニ帝都ヲ襲フコトアリ其水災關係ノ重大ナルハ推シテ知ルベキナリ

本川ハ源ヲ甲武信嶽ノ東坂ニ發シ諸所盆地ノ水ヲ集メ東流スルコト約六十粁埼玉縣秩父郡樋口村ニ至リ盆地東嶂ノ斷層谷ニ隨テ漸ク武藏野平野ノ西北隅ニ出ヅ是ヨリ東流約三十粁ニシテ上流改修端武川村ニ至リ茲ニ兩岸漸ク平夷トナリ廣濶ナル川敷ヲ占有シテ亂流トナリ初メテ兩岸ニ堤塘ヲ見ル、下リテ久下村附近ニ至レバ堤内ノ耕地却テ河床ヨリ低キ處アリ一朝破堤センカ洪水ハ元荒川筋ノ低地ニ奔流

シ埼玉縣過半ノ平野ヲ浸シ餘勢遠ク東京附近ニ達ス吹上村ヲ過グルニ及ビ水流ハ漸ク其勢ヲ失ヒ低水路ハ玆ニ一定シ幅員六、七十米ヲ保ツモ高水敷ハ益々其幅員ヲ擴大シ平方町ニ至ル間廣キハ二千七百米狹キモ尚一千米ヲ下ラズ而シテ低水路ニ沿ヒ別ニ畑園ノ小堤ヲ設ケ小洪水ノ汎濫ヲ防ゲリ、田間宮村以下左岸一帶ハ丘陵起伏シ浸水深ク內ニ及バズト雖モ右岸ハ比企郡一帶ノ低地ヲ控ヘ破堤ノ災ヲ被ルコト頻繁ナリ其レヨリ平方町ニ入リ入間川ヲ合シテ後ハ緩流トナリ迂曲益々甚シク低水路ノ幅員ハ九十米ナリト雖モ高水敷ハ愈濶ク一千百米乃至三千三百米ニ達ス是ヨリ以下兩岸共ニ堤防アレドモ右岸新河岸川合流點以下ハ武藏野ノ高臺近ク迫リ府下岩淵町ニ至ル間ハ概ネ無堤ナリ而シテ前記久下村以下本川ノ堤外地ハ頗ル廣漠トシテ田園開ケ村落散在シ樹林畑園等ヲ繞ラシ僅ニ一條ノ低水路ヲ通ジ恰モ原始的河川ノ狀態ニ在ルヲ以テ游水地トシテハ其效果頗ル大ナリト雖モ高水ノ疏通ニ關シテハ支障尠カラザルナリ

河狀如斯ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ上流部ハ現在堤外游水地ノ大勢ヲ保有セシメ其間深十分ナル水路ヲ開鑿シテ流水ノ疏通ヲ計ルト共ニ大ニ低水路ノ屈曲ヲ矯正シ下流々量ノ調節ニ努メ下流部亦高水防禦ヲ目的トシ傍ラ水利ノ改善ヲ計ラントス依テ第一期計畫ニ於テハ利害關係ノ最モ重大ナル川口町鐵道橋以下砂町地先海ニ至ル二十二粁四ニ亙リ現川外ニ一大放水路ヲ開鑿シ高水ヲ流下セシメントスルニ在リ蓋シ本計畫ニ依ルトキハ帝都ヲシテ洪水ノ範圍外ニ立タシメ又現川(川口町以下)竝ニ其河口ニ於ケル土砂ノ沈澱ヲ輕減シ航路ノ改良ヲ企圖シ得ルト共ニ沿川人家櫛比ノ現川ニ改修ヲ加フルノ不利ヲ避クルコトヲ得

下流改修ノ計畫流量ハ毎秒四千百七十立方米ニシテ尚非常出水ノ場合ハ毎秒五千五百七十立方米ヲ流

下シ得ルモノトシ該流量ノ内八百四十立方米ヲ岩淵町以下ノ現川ニ流下セシメ殘餘ハ新タニ開鑿スル新川ニ放流セシム蓋シ現川ニ於ケル上記流量ハ新タニ築堤ヲ行ハズシテ汎濫ヲ見ルコトナク流下シ得ベキ適量タレバナリ

放水路トシテ開鑿スル新川ハ新荒川ト假稱シ川口町鐵道橋以下現川ノ左側ニ沿ヒ千住町ノ北端ヲ過ギ國有鐵道常磐線及私設鐵道東武線京成電車線ヲ横斷シ奥戸村ノ南端ニ至リ更ニ總武線ヲ横斷シ之ヨリ一大彎曲ヲ爲シテ中川ニ併行シ砂町地先ニ於テ海ニ注ガシム其河幅ハ起點ヲ四百五十四米トシ河口ヲ五百八十二米トス

新荒川ニ依テ横斷セラルル綾瀬川ハ新荒川ノ左側ニ沿ヒ中川ニ落シ中川ハ又新荒川ノ左側ニ沿ヒテ海ニ注ガシム而シテ綾瀬川ヨリ隅田川ニ通ズル航路ト平井ニ於ケル舊中川ノ新荒川兩岸堤ニ依リ横斷セラルル箇所及小名木川ヨリ、江戸川ヲ經テ利根運河ニ通ズル航路ナル新川（船堀川）ノ新荒川兩岸堤ニ依リ遮斷セラルル處ニハ水門又ハ閘門ヲ設置ス又右岸岩淵町現川分派口ニハ水門ヲ設置シ平時ニハ平水量ヲ通ジ高水時ニハ規定ノ流量以内ヲ通ゼシム又必要ノ場合ハ同所ニ閘門ヲ設ケ如何ナル出水時ニ於テモ既往航行ノ便ヲ保タシメントス分派口以下ノ現川ハ一部附替ヲ要スル所アルモ大體舊態ニ依リ幅員ヲ上流部百九米、下流部百四十五米ト規定シ流路ニ修整ヲ加フルノ外上述ノ如ク築堤ヲ行ハズ新荒川ノ堤防ハ掘鑿土ノ處分上其體積ヲ大ニシ右岸堤ハ帝都ヲ防護スル關係上特ニ堅牢ヲ期シ馬踏十四米五、外法三割内法二割ト爲シ馬踏ヲ下ルコト一米八ノ處ニ三米六ノ裏小段ヲ附ス堤高ハ計畫高水位以上約二米ヲ保タシメ非常出水時ノ場合ニモ尚一米内外ノ餘裕ヲ存セシム左岸堤ハ馬踏十米九ニシテ法及小段堤高等凡テ右岸堤ニ同ジ

綾瀬川堤防ハ馬踏五米五、馬踏ヨリ一米八下リニ一米八ノ裏小段ヲ附シ中川堤防ハ馬踏七米三ニシテ小段ヲ附セズ兩川トモ内外法何レモ二割トス上流改修ノ計畫流量ハ毎秒五千五百七十立方米ト定メ廣濶ナル游水地ヲ有スル河狀ニ鑑ミ下流ニ至ルニ從ヒ游水地面積ニ約比例シテ漸次遞減シ赤羽鐵橋下ニ至リ毎秒四千百七十立方米トセリ其高水位ハ既往ノ最大洪水タル明治四十三年及大正三年ノ水位ヲ標準トシテ新河道ニ要スル河積ヲ算定セリ

低水路ハ大體其現狀ヲ存置シ屈曲甚シクシテ水流ヲ阻碍シ河岸ノ維持困難ナル所若クハ新高水敷ヲ別ニ選定シタル所ハ新タニ之ヲ開鑿ス其幅員ハ大體現狀ニ法リ入間川合流點ノ上流部ハ五十五米同下流部ハ七十米乃至九十米ト定メタリ

高水敷ハ大里郡久下村(右岸同郡市田村)以下田間宮村ニ至ル間ハ現低水路ヲ挾デ幅員三百米乃至四百五十米、田間宮村以下平方村ニ至ル間ハ低水路著シク曲折シ其兩岸高キヲ以テ新河道ハ之ヲ左岸高臺沿ヒノ低地ニ移シ四百五十米ト爲シ東吉見村地先ニ於テ新堤ヲ築設スル部分ハ特ニ之ヲ五百五十米ニ擴大セリ入間川合流點(平方町)以下ハ新川敷ノ幅員ヲ五百五十米ト定メ土合村(右岸宗岡村)ニ至ル間ハ大體現低水路ニ隨フト雖モ其間馬宮村附近ニ於テハ屈曲急ニシテ且河岸地高キヲ以テ左岸ノ低地ニ川敷ヲ選定シ土合村以下ニ於テハ低水路ノ屈曲愈々甚シク之ニ沿フテ適當ナル川敷ヲ索ムルコト難キヲ以テ堤外地ノ地形ニ從ヒ新タニ川敷ヲ選定シ笹目村以下ハ上流游水地ノ調節ニ依リ流量著シク緩和サレ更ニ游水地ノ必要ナキヲ以テ掘鑿ニ依リ十分ナル河積ヲ與ヘ且河幅ヲ一定シテ五百五十米ト爲シ新堤ヲ築キテ川口町(右岸岩淵町)ニ至リ下流改修堤塘ニ接續セシム堤外ノ田圃及濕地ハ新高水敷ノ開鑿ニ依リ排水ヲ良好ニシ浸水ノ機會ト期間トヲ著シク減少セシムベシト雖モ猶溢水ノ流勢ヲ殺ギテ耕宅地ヲ保護

シ流水ヲ河心ニ集注セシメンガ爲メ流勢ノ强弱堤外地ノ廣狹等ヲ參酌シテ横堤ヲ適當ノ間隔ニ築設シ改修ノ效果ヲ全フセントス

支川入間川ニ在リテハ植木村地先ハ新タニ堤塘ニ依リテ圍繞セラレ河積ヲ縮少スルヲ以テ芳野村以下平方町ニ至ル間ハ低水路ヲ挾ンデ幅員百八十米ノ高水敷ヲ低水位上一米八ニ掘下ゲ疏通力ヲ増大セシム

支川新河岸川ハ現在ノ合流口ヲ遮斷シ荒川ノ新堤ニ沿ヒ新タニ河道ヲ開鑿シテ之ヲ導キ下流岩淵町地先岩淵水門下ニ於テ隅田川(舊川)ニ合流セシメ荒川ノ高水ト全ク絶縁シ逆流ノ患ヲ除キ同沿岸惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ併セテ水運ノ便ヲ増進セシム

堤防ハ大部分舊堤ノ擴築ニシテ在來無堤ノ部分及新タニ高水敷ヲ選定セル一部ニハ新堤ヲ築造ス堤形ハ兩者共馬踏七米五(入間川筋ハ六米五)兩法二割五分ニシテ堤頂ハ計畫高水位上美谷本村附近ヨリ上流ハ一米八、同下流ハ二米一タラシメ堤頂ヨリ一米八下リテ川裏ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ小段上法ヲ二割トス横堤ハ馬踏六米乃至七米五兩法二割ニシテ頂ハ高水位上約一米ト爲シ突端ハ三十分ノ一勾配ヲ以テ高水敷ニ傾斜セシムルモノトス

施工狀況

本工事ヲ先ヅ下流ヨリ述ベンニ明治四十四年度ニ於テ創業直ニ所要土地ノ買收ヲ開始シ大正二年度ニ至リ一部買收濟ノ箇所ヨリ工事ニ著手シ爾來孜々トシテ其進捗ヲ圖リシモ用地買收未濟箇所ノ各所ニ點在セシト改修區域内ニハ常磐、東武、總武ノ三鐵道及京成電氣軌道ノ横斷セルアリ且帝都連亙ノ樞要道

路無數ナルガ爲メ施工區域ヲ極限セラレ隨所ニ著手シ得ザリシガ其後用地買收ノ進ムニ隨ヒ漸次工事ノ進捗ヲ見ルニ至レリ然レドモ尙一部買收不承諾者アリシ爲メ是等ハ同五年十一月土地收用審査會ノ裁決ヲ求メ同六年五月其決定ヲ受ケ爾來鋭意進工中同年十月一日竝ニ翌七年九月二十四日暴風竝海嘯襲來シ船舶及機械ノ毀損又ハ流失ヲ見更ニ同十二年九月一日ノ大震災ニ因ル被害等アリ之レガ爲メ事業ノ進捗ヲ阻碍セラレシコト尠カラザリシガ努メテ豫定ノ進工ヲ圖リ本年度迄ニ築堤土運搬一千百五十四萬三千八百四十五立方米、浚渫土量二千二百十六萬五千五百五十三立方米、護岸及水制二十五箇所、特種工事七箇所、附帶工事十三箇所ヲ竣成セリ

高水調節ニ關シテハ大正十三年九月ノ出水ニ際シ初メテ岩淵水門ノ調節ニ依リ洪水ヲ新荒川放水路ニ流通セシメ同水門下流舊川ハ勿論上流部ノ水害ヲモ併セ輕減シ得タリ爾後數次ノ出水中昭和三年八月一日ノ如キハ明治四十三年以來ノ大出水ナリシモ同水門及芝川、綾瀬、隅田、中川、木下川等ノ各水門ノ開閉ト相俟テ其都度之ヲ調節シ本改修工事ノ偉大ナル效果ヲ實現セリ目下放水路ノ浚渫及護岸工事ヲ進メ益々高水ノ疎通ニ努メツツアルヲ以テ完成ノ曉ニ於テハ其效果愈々大ナルモノアルヲ信ズ

本改修事務所ハ創業當時東京府下千住町ニ設置シ其下ニ多數ノ工場及派出所ヲ置キ各工事ヲ施工セシガ其後工事ノ進捗ニ伴ヒ漸次減少シ現在ニ於テハ岩淵、小名木川、砂町ノ三工場及五派出所トナリ改修工事用諸機械器具ノ製作及修理ハ改修事務所隣地ニ千住機械工場ヲ置キ之ニ當ラシム

今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ浚渫工事ハ岩淵町ヨリ王子町ニ至ル間ト尾久町以下三河島町ニ至ル間(以上舊川)及吾嬬町地先ト中川右岸舊堤砂町地先二箇所(以上新荒川)竝ニ上平井ヨリ松江ニ至ル間(以上新中川)ノ九箇所ニ於テ鋤簾式及ビ喞筒式浚渫船ニテ作業シ外ニ人力ニ依リ新荒川兩岸高水敷整理地均ヲ

施行シ內舊川筋ニ於テハ尾久町地先ヲ除ク其他ハ竣功シ新荒川筋ニ於テハ砂町地先一箇所ヲ除キ其他ハ殆ンド竣功ヲ告ゲ新中川筋ハ何レモ九步通リ竣功セリ而シテ總土量八十二萬三千二十二立方米ヲ擧ゲ其大部分ハ之ヲ廢川敷ニ搬入シ其餘ハ民有地ニ棄捨セリ

築堤工事ハ岩淵町地先第一、同第二、小名木川、船堀、砂村、本砂町ノ各堤防及本宿、柳原町地先第一、同第二、各堤防補修等九箇所ヲ施工シ內岩淵第一、小名木川及本宿、柳原第一ノ四箇所ハ全部竣功シ船堀、砂村ノ二箇所ハ何レモ九步通リノ竣功ヲ見ルニ至リ其延長一千三百七十八米ヲ完成セリ

護岸水制工事ハ宮城（舊川）、本宿、川口、江北、堀ノ內、野新田、南平柳、砂町、新荒川兩岸堤端及岩淵護岸補修（以上新荒川）新中川左岸堤端等ニ於テ十七箇所ヲ施行シ內宮城、南平柳、新荒川左岸堤端、新中川左岸堤端等ニ於テ七箇所ヲ竣功セシメ本宿、川口、砂町各地先ハ七步乃至九步通リ竣功セシモ其他ハ三、四步ノ竣成ニ過ギズ

特種工事タル小松川、船堀ノ二閘門ハ一般航通上ノ關係スル處大ナルヲ以テ前年度ニ引續キ極力工ヲ勵ミ前者ハ八步通リ後者ハ七步通リヲ竣成セシメ岩淵水門補修ハ約九步通リヲ竣功セリ

附帶工事ハ直轄施行ノ善光寺圦一箇所ヲ前年度ヨリ續工全部竣功セシメ又管理者施行ノモノニ對シテハ十一萬二千六百三十四圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

上流改修工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ先ヅ埼玉縣浦和町ニ土地收用事務所ヲ置キ所要土地ノ買收調查ニ著手シ同九年十月事務所ヲ鴻巢町ニ移シ同十三年度迄ニ一千五百四十九町步ヲ買收セリ其後事業縮少ノ爲メ一時事務所ヲ閉鎖セシガ下流改修工事ノ進捗ニ伴ヒ前年度ニ於テ再ビ鴻巢町ニ土地收用事務所ヲ設ケ本年度末迄ニ前後通計一千七百六十五町九畝步ヲ買收シ用地費四百七十五萬八千五十八圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ大正九年一月荒川上流改修事務所ヲ古谷村ニ設ケ次デ其下ニ數箇所ノ工場及派出所ヲ置キ先ヅ低水路ノ屈曲甚シク川敷ノ附替トナルベキ箇所若クハ掘鑿土量比較的多ク竣功ニ長年月ヲ要スル下流部ヨリ順次上流ニ及ブ方針ヲ以テ同九年度末ヨリ工事ニ著手シ本年度迄ニ築堤土運搬一千百九萬三百十二立方米、浚渫土量一千六百九十八萬七千九百五十立方米(内機械掘鑿一千二百六十五萬二千二十二立方米、人力掘鑿四百二十一萬七千九百立方米、機械浚渫十一萬八千二十八立方米)護岸水制三箇所延長一千三百米ヲ竣成セリ之ヲ計畫高ニ對比スレバ築堤約三割五分、浚渫五割八分、護岸約四分ノ功程ニ當レリ

本年度ハ前年度同樣人力ニ依ル掘鑿工事ハ急施ヲ要スル箇所ノ外之ヲ避ケ主トシテ機械ニ依リ掘鑿ヲ續工シ短梯掘鑿機十臺、蒸汽「ショベル」型掘鑿機二臺、ドラブライン型掘鑿機一臺等ヲ使用シ土量百四十四萬九千三百四十立方米ヲ掘鑿シ又築堤用土トシテ百九十二萬七十一立方米ヲ堤敷ニ搬入セリ而シテ是等工事用器具機械ノ製作及修理ハ古谷村ニ機械工場ヲ、戸田村ニ同分工場ヲ置キ各之ニ當ラシメタリ今本年度施工ノ概況ヲ述ベン

田間宮村以下石戸村地先ニ至ル延長六千六百三十米ノ低水路附替工事ハ内馬室及石戸地先延長三千百五十八米ヲ前年度ヨリ其下流右岸小見野村地先高水敷ハ本年度ヨリ何レモ機械掘鑿ヲ施工シ各其三割ヲ竣功セリ

川田谷村以下大石村間ハ左岸ハ丘陵相連リ其間ニ所謂山附堤防六箇所アリ内川田谷及大石兩村地先ニ於ケル五箇所延長一千五百米ノ擴築ハ大正十二年度ニ著手セシモ用惡水路ノ關係ニ依リ前年度迄ニ約四割ヲ竣功セルニ過ギズ其對岸舊堤ハ廣大ナル游水地ヲ抱ケルヲ以テ之ヲ擴築スルコトトシ前年度ニ

於テ八ツ保村地先ヲ本年度ハ出丸地先ヲ施工シ何レモ三割餘ヲ竣功セリ本區間ハ低水路ノ屈曲甚シキヲ以テ左岸丘麓ニ近ク新低水路延長三千五百七十米ヲ選定シ大正十一年度以降掘鑿ヲ續工シ低水路ハ機械ニ據リ高水敷ハ人力ヲ以テ前者ハ九割五分、後者ハ八割ヲ竣功セリ

馬宮村以下大久保村間ノ堤塘ハ右岸馬宮村地先及左岸大久保村ノ一部ニ新堤ヲ築設シ其他ハ全部舊堤ヲ擴築セントスルモノニシテ同十三年度以降續工シ左岸馬宮村地先ノ一部及其下流新設部ヲ除ク外概ネ竣功シ右岸新堤ハ約八割五分ノ功程ニ達シ南畑及宗岡兩村地先舊堤擴築ハ約九割ノ盛土ヲ了ヘ本年度末ヨリ築立及芝付ヲ施工セリ護岸工ハ古谷本郷地先新水路流頭以下延長三百八米ヲ施工シ約四割ヲ竣功セリ

土合村以下美谷本村間ニ於ケル高水敷掘鑿ハ左岸土合村右岸宗岡村及内間木村各地先ハ未着手ナルモ左岸松本新田及美女木、右岸上内間木ノ各地先ヲ施工シ何レモ年度内竣功セシメタリ

右岸新倉村附近ハ在來無堤地ニシテ且新河岸川ノ合流スルアリ一帶洪水ノ汎濫區域ナルヲ以テ新堤ヲ築造スルコトトシ内間木、白子兩村地先ハ既ニ著手セルモ未ダ完成ニ至ラズ左岸舊堤ハ總テ擴築シ笹目村地先ニ於テ新堤ニ接續セシム其盛土ハ約八割ニ達セルヲ以テ年度末築立ニ著手セリ

笹目村以下川口町間ハ本川上流改修區域ノ最下流ニ屬シ彎曲殊ニ甚シキヲ以テ笹目村以下川口鐵橋附近ニ至ル水路延長三千二百八十餘米ノ附替工事ヲ起シ大正十三年度ニ於テ竣成セシ結果各地先流路ハ八分ノ五乃至二分ノ一ニ短縮シ高水敷及低水路ノ掘鑿ハ前記地先ニ亙リ八割乃至其全部ノ竣成ヲ見流水ノ疏通著シク佳良トナレリ

築堤ハ前年度迄ニ左岸笹目、戸田、横曾根（舊堤擴築）右岸赤塚、浮間ノ五箇所ヲ施工シ内浮間一箇所竣功シ本

年度ハ戸田村地先(新川右岸)廢川間ニ延長六百米ニ亙ル新堤ヲ起工シ内笹目、赤塚ノ二箇所竣功シ戸田及横曾根ハ其大半ヲ、右岸戸田ハ約四割ヲ竣功セリ

支川新河岸川ハ現在合流地點ナル埼玉縣北足立郡新倉村地先以下東京府下岩淵町地先岩淵水門下ニ至ル延長一萬一千百米ノ内舊荒川利用部分ヲ除キタル八千八百米ノ新水路開鑿工事ニシテ其幅員川敷六十三米六、低水路九米六乃至三十米九ニシテ水深一米七乃至二米八トシ「ドラグライン」掘鑿機ヲ使用シ大正十二年度以降續工シ本年度迄ニ合流點以下志村地先舊荒川利用部ニ至ル延長四千八百六十餘米ヲ開鑿セリ

本年度竣功高ハ上、下流ヲ通ジテ三百七萬八千五百七十圓ニシテ創業以來ノ累計ハ四千四百四十五萬五千九百七十二圓トナリ之ヲ總工費豫算五千五百三十四萬四千圓ニ比較スルトキハ約八割ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量、「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ捨土出願者提供材料及勞力ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
本工事費	築堤	一、六三二、九〇五 *一九、〇一三、八六九 立方米	一、二〇四、四二七 ▲七八、五七七 円	三、〇六六 *一、九八四、三一七 立方米	一一一、二五〇 ▲六、二四二 円	一、六三五、九七一 *二〇、九九八、一八六 立方米	一、三一五、六七七 ▲八四、八一九 円	〇・五二 割分
	浚渫	三六、五六七、〇三〇	八、〇一七、一三五 ▲一、六六六、八二四	二、五八六、四七三	六三三、六七六 ▲九二、三一二	三九、一五三、五〇三	八、六五〇、八一一 ▲一、七五九、一三六	〇・七六
	護岸水制	九、八〇八 米	六四七、〇〇一 △一八〇 ▲九六、五七五	一、九〇〇 米	二〇四、三一二 ▲二八、一九五	一一、七〇八 米	八五一、三一三 △一八〇 ▲一二四、七七〇	〇・三八
	特殊工事（竣功／未竣功）	二七 箇所	三、二八二、一八六 △四四一、八九七 ▲七七、一九五	二 箇所	六三三、六二七 △三〇、四六三 ▲八一、四六八	二七 箇所	三、九一五、八一三 △四七二、三六〇 ▲一五八、六六三	〇・八〇
用地費		二七、三二九 段	一〇、二一九、五七七	一、二三三 段	四三七、〇四一	二八、五六二 段	一〇、六五六、六一八	・

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
附帯工事費	直轄施行	竣功 一三箇所 未竣功 一	▲△□ 一五〇四、三四三円 一九二、三四九 二〇、一八八 五、三八九	竣功 一箇所 未竣功 ―	▲△□ 一二、九八九円 一、九九四 七七九 ―	竣功 一四箇所 未竣功 ―	▲△□ 五一七、三三二円 一九四、三四三 二〇、九六七 五、三八九	〇・四八割分
	管理者施行	竣功 四八 未竣功 一	四、四三三、三三三	竣功 一 未竣功 ―	一一二、六三四	竣功 四九 未竣功 ―	四、五四五、九六七	〇・八九
船舶及機械費		―	▲△ 九、五五七、八二七 一、二四四、一六七 二五三、三五九	―	▲△ 五一三、〇一四 四三、〇六九 二一、三六〇	―	▲△ 一〇、〇七〇、八四一 一、二八六、二三六 二七四、七一九	―
測量費		―	▲△ 一一六、一〇四 一六〇 五四、二六六	―	▲△ 二〇、四四八 ― 四、五二一	―	▲△ 一三六、五五二 一六〇 五八、七八七	―
營繕費		―	▲△ 四七一、九八一 二、二四五 七、七六七	―	▲△ 一四、七六一 ― 四五三	―	▲△ 四八六、七四二 二、二四五 八、二二〇	―
雜費		―	▲ 二、八一四、一三五 七二、八四四	―	▲ 三六〇、六六六 三五、二六一	―	▲ 三、一七四、八〇一 一〇八、一〇五	―
共濟組合給與金		―	一〇六、七〇八	―	二四、一五二	―	一三〇、八六〇	―
亡失毀損		―	二、六四五	―	―	―	二、六四五	―
總計		―	▲□ 四一、三七七、四〇二 一九二、三四九 二、三一二、七九六	―	▲□ 三、〇七八、五七〇 一、九九四 二六九、八一二	―	▲□ 四四、四五五、九七二 一九四、三四三 二、五八二、六〇八	〇・八〇

本表竣功額ヲ更ニ下流ト上流トニ區別スレバ左ノ如シ

下流改修

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	築堤	＊ 一、六三三、九〇五立方米 九、八四三、六二八	▲ 九九八、一四一円 七八、五七七	＊ 三、〇六六立方米 六四、二四六	▲ 三八、六〇三円 六、二四二	＊ 一、六三五、九七一立方米 九、九〇七、八七四	▲ 一、〇三六、七四四円 八四、八一九	〇・九九割分
	浚渫	二一、三四二、五三一	▲ 三、九九三、三一三 一、五八三、七四八	八二三、〇二二	▲ 一五八、二八六 九二、三一二	二二、一六五、五五三	▲ 四、一五一、五九九 一、六七六、〇六〇	〇・九八
	護岸水制	八、五〇八米	▲△ 六〇五、八〇五 一八〇 九六、五七五	一、九〇〇米	▲△ 一九九、八一〇 ― 二八、一九五	一〇、四〇八米	▲△ 八〇五、六一五 一八〇 一二四、七七〇	〇・六四
	特殊工事	竣功 七箇所 未竣功 二	▲△ 三、二八二、一八六 四四一、八九七 七七、一九五	竣功 ―箇所 未竣功 二	▲△ 六三三、六二七 三〇、四六三 八一、四六八	竣功 七箇所 未竣功 二	▲△ 三、九一五、八一三 四七二、三六〇 一五八、六六三	〇・八〇

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
用地費	一〇、九一一段	五、八六二、四〇四	—	三六、一五六	一〇、九一一段	五、八九八、五六〇	—
附帶工事費 直轄施行	竣功 一二箇所 未竣功 一	四九八、二六三 □一八九、二八九 △二〇、一八八 ▲五、三八九	竣功 一箇所 未竣功 —	一二、九八九 □一、九九四 △七七九 ▲—	竣功 一三箇所 未竣功 —	五一一、二五二 □一九一、二八三 △二〇、九六七 ▲五、三八九	一・〇〇
附帶工事費 管理者施行	竣功 四六 未竣功 一	四、四二七、六七〇	竣功 一 未竣功 —	一一二、六三四	竣功 四七 未竣功 —	四、五四〇、三〇四	一・〇〇
舶船及機械費	—	六、四一二、四四九 △八八二、〇五二 ▲二五三、三五九	—	三〇一、九二〇 △二三、一一八 ▲二一、三六〇	—	六、七一四、三六九 △九〇五、一七〇 ▲二七四、七一九	—
測量費	—	七二、三四八 △一六〇 ▲五四、二六六	—	一七、〇九一 △— ▲四、五二一	—	八九、四三九 △一六〇 ▲五八、七八七	—
營繕費	—	三二五、〇三二 △二、一五八 ▲七、七六七	—	五、七四六 △— ▲四五三	—	三三〇、七七八 △二、一五八 ▲八、二二〇	—
雜費	—	一、八〇六、〇二三 ▲七二、八四四	—	二三三、二五一 ▲三五、二六一	—	二、〇三九、二七四 ▲一〇八、一〇五	—
共濟組合給與金	—	六四、〇八〇	—	一四、七〇五	—	七八、七八五	—
亡失毀損	—	二、六四五	—	—	—	二、六四五	—
總計	—	二八、三五〇、三五九 □一八九、二八九 ▲二、二二九、七二〇	—	一、七六四、八一八 □一、九九四 ▲二六九、八一二	—	三〇、一一五、一七七 □一九一、二八三 ▲一、四九九、五三二	〇・九六

上流改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	※九、一七〇、二四一立方米	二〇六、二八六円	※一、九二〇、〇七一立方米	七二、六四七円	※一一、〇九〇、三一二立方米	二七八、九三三円	〇・三五割分
本工事費 浚渫	一五、二二四、四九九	四、〇二三、八二二 ▲八三、〇七六	一、七六三、四五一	四七五、三九〇 ▲—	一六、九八七、九五〇	四、四九九、二一二 ▲八三、〇七六	〇・五八
本工事費 護岸水制	一、三〇〇米	四一、一九六	—	四、五〇二	一、三〇〇米	四五、六九八	〇・〇四
用地費	一六、四一八	四、三五七、一七三	一、二三三段	四〇〇、八八五	一七、六五一段	四、七五八、〇五八	—
附帶工事費 直轄施行	竣功 一箇所	六、〇八〇 □三、〇六〇	竣功 —箇所	— □—	竣功 一箇所	六、〇八〇 □三、〇六〇	〇・〇一
附帶工事費 管理者施行	竣功 二	五、六六三	竣功 —	—	竣功 二	五、六六三	〇・〇一

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	割分
船舶及機械費	―	三、一四五、三七八円 △三六二、一一五	―	二一一、〇九四円 △一八、九五一	―	三、三五六、四七二円 △三八一、〇六六	―
測量費	―	四三、七五六	―	三、三五七	―	四七、一一三	―
營繕費	―	一四六、九四九 △八七	―	九、〇一五 △―	―	一五五、九六四 △八七	―
雜費	―	一、〇〇八、一一二	―	一二七、四一五	―	一、一三五、五二七	―
共濟組合給與金	―	四二、六二八	―	九、四四七	―	五二、〇七五	―
總計	―	一三、〇二七、〇四三 □三三、〇六〇 ▲八三、〇七六	―	一、三一三、七五二 □― ▲―	―	一四、三四〇、七九五 □三三、〇六〇 ▲八三、〇七六	〇・五九

第三　北上川改修工事

緒言

本川筋ニ於テ曩ニ航路改良ノ目的ノ下ニ岩手縣盛岡市ヨリ宮城縣牡鹿郡石卷港ニ至ル百九十六粁間ヲ工費百二十三萬五千六百五十六圓ヲ以テ明治十三年度ヨリ同三十五年度ニ至ル二十三箇年度間ニ亙リテ低水工事ヲ施行シ一旦結了ヲ告ゲタリ而シテ洪水防禦工事トシテ同四十四年度ヨリ大正十一年度ニ至ル十二箇年度繼續工費八百萬圓ヲ以テ左岸宮城縣登米郡錦織村、右岸同縣同郡上沼村以下海ニ至ル五十九粁間ヲ更ニ改修スルコトトシ施行中偶々歐洲大戰亂以後物價騰貴ニ因リ工費二百六十二萬二千圓ヲ增シ合計一千六十二萬二千圓ト爲シ竣功年度ヲ二箇年度繰延ベ大正十三年度竣功ノ筈ナリシモ大正八年度末期ヨリ更ニ急激ニ勞銀物價ノ昇騰ヲ來シ大戰亂ノ終熄後モ著シキ下落ヲ呈セザルニ一方大正九年度ニハ北上川筋二回ノ大洪水アリ其後全川結氷莫大ナル氷雪ノ流下、稀有ノ大雪、霖雨等年每ニ特異ノ天禍ニ襲ハレシ爲メ春秋兩季農繁期以外ノ期間ニ連月工事休止ノ厄ニ會シ工程ハ豫想ノ半バニモ過ギサルノ悲境ニ陷レリ大正十二年度ノミハ上半期稀有ノ霖雨、帝都震災ノ一時的工事材料ノ缺乏ニ惱ミタル外ハ下半期ニ於テ天候順調ニ經過シタリシモ過去四箇年度間ノ連續的工事ノ澁滯ハ到底大正十三年度即チ最終年度ノ一箇年度ヲ以テ挽回スベクモアラザレバ工費ヲ更ニ二百七十萬圓增額シテ合計一千三百三十二萬二千圓トシ其竣功年度ヲ六箇年度延長シテ昭和五年度トセリ然ルニ昭和三年度末ニ至リ新川筋ニ設置スベキ可動堰ノ設計變更ノ必要ヲ生ジ更ニ工費百萬圓ヲ增額シテ總工費豫算額ヲ一千四百三十二萬二千圓トシ竣功年度ヲ一箇年度延長シテ昭和六年度トスルコトニ詮議中ナリ

河狀竝計畫大要

本川ノ流域ハ宮城、岩手ノ兩縣ニ跨リ其面積一萬七百十九平方粁ヲ有スル大河川ニシテ流路延長三千七百七十八粁(內幹川二百四十四粁)灌漑面積五萬六千四百ヘクタール、水害區域五萬二千五百ヘクタール(內幹川二萬一千九百ヘクタール)航路延長六百五粁(內幹川二百三十二粁)ナリトス而シテ本川ノ航路ハ北上運河、東名運河、貞山運河等ニ依リ阿武隈川ニ連絡ヲ有スルヲ以テ航行ノ便古來ヨリ盛ニシテ東北地方ノ一大運輸機關タリ現今鐵道ノ便開ケ稍々不況ヲ呈セシガ如キモ水運ヲ利トスル貨物モ亦少ナカラズ河道ハ幹川狐禪寺、米谷、和淵等ノ如キ狹隘部アリ狐禪寺ノ狹隘部ハ山間部ニ屬スルヲ以テ破堤無シト雖モ上流部ニ一大湖水ヲ現出シテ沿岸ノ水災ヲ釀シ米谷及和淵ノ狹隘部ハ上流ノ水位ヲ高メ破堤ノ因ヲ爲ス而シテ米谷右岸ニシテ破堤センカ南方廣大ナル平野ニ瀰漫シ直チニ支川迫川ノ堤防ヲ突キ沿岸ニ浸水スルノミナラズ逆流シテ其慘害ヲ逞フス又和淵右岸堤ノ破堤ヲ見ンカ是亦遠ク南方ニ波及シ且石卷町ヲ襲フニ至ル明治八年以降被害數萬ヘクタール以上ニ達シタルコト數フルニ遑アラズ尙本川沿岸ハ高水直接ノ結果タル惡水ノ災害モ亦甚ダ多ク其區域登米、本吉、桃生、牡鹿、遠田、栗原ノ六郡ニ達シ就中迫川及江合川沿岸ヲ主ナル被害トス明治四十三年乃至大正八年十箇年間ノ水害高ヲ見ルニ一箇年平均二百二十九萬六千百七圓ノ多額ニ上リ就中大正二年ノ如キハ損害額八百八十一萬一千三百四十九圓ニ達セリ

本川改修ノ目的ハ高水防禦ヲ主トシ傍ラ航路ヲ矯正シ併セテ惡水排除ノ便ヲ圖ラントスルニ在リ而シテ改修計畫ニ採用シタル最大流量ハ北上川本流毎秒五千五百七十立方米、迫川一千二百八十立方米ナリ

トス

計畫ノ主眼トスル所ハ本吉郡柳津町ニ於テ本川ヲ締切リ同所以下之ヲ合戰ケ谷ニ附替ヘ飯野川町地先ニ於テ追波川ニ合セシメ以下追波川ニ改修ヲ加ヘ以テ之ヲ本流タラシメントスルニアリ斯クスルトキハ柳津町以下舊川沿岸ニ於ケル廣大ナル平野ノ浸水ヲ根絶シ又舊川ニ合流スル迫川ノ高水流下ヲ急速ナラシメ同川沿岸ノ水災ヲ輕減スルト同時ニ惡水排除ヲ良好ナラシムルノミナラズ航路ノ改良ヲ見ル等各種ノ利益アリ

柳津町以下新川ニハ最大流量毎秒五千五百七十立方米ノ内四千七百三十立方米ヲ通ズルノ河積ヲ保タシムルモノトシ新川河幅ハ柳津町ニ於テ四百四十五米トシ合戰ケ谷ニ於テ二百九十米乃至四百四十五米トス合戰ケ谷新川部ノ兩岸山麓ニ接スル所ハ築堤ヲ要セザレドモ平地部ニハ築堤ヲ爲シ中央二百十米乃至百四十五米ノ開鑿ヲ施シテ所要ノ流積ヲ與フ飯野川町地先ニ於テハ新川殆ンド直角ニ方向ヲ轉ジ追波川ヲ利用シテ東方ニ向フ同所以下ノ河幅ハ四百五十五米乃至七百三十米ニシテ築堤ヲ施シ浚渫ヲ行ヒ所要ノ河積ヲ與フルモノトス而シテ追波川右岸二俣村地先ニハ延長五千四百五十米ノ運河ヲ設ケ其下流端ニ舊川ト航路ノ連絡ヲ保ツ爲メ閘門ヲ設ク

柳津町舊川分派口ニハ閘門ヲ設ケテ既往航行ノ便ヲ失ハザラシメ又洗堰ヲ設ケテ平水量(百三十立方米)ヲ流入セシメテ航路ノ便ヲ計リ且高水時ニハ本川最大流量五千五百七十立方米ノ内八百四十立方米ヲ分疏ス

柳津町以下石卷町ニ至ル舊川筋ハ航路ヲ維持スル爲メ浚渫又ハ低水工事ヲ行ヒ流末石卷ニハ突堤ヲ築キ浚渫ヲ施シテ澪筋ヲ設ケ航行ノ便ニ供セントス

柳津町ヨリ上流國境改修起點ハ日根牛ノ如キ狹隘部ニ限リ引堤ヲ爲シ河幅ノ擴張ヲ爲ス外河狀ヲ現狀ニ委ネ舊堤ヲ増築スルニ止ム

築堤ハ馬踏七米三乃至十四米六ニシテ表裏共二割法トシ堤高ハ高水位以上一米二乃至一米五ノ高サヲ有セシム尙水勢ノ衝突スル箇所ノ一部ハ三割法ト爲シ且石張護岸ヲ施工ス

施工狀況

本改修工事ハ明治四十四年度ノ創業ニ係リ年ヲ閱スルコト既ニ久シク竣功期限ハ向フ三箇年度トナリ漸ク完成ノ曙光ヲ見ルニ至レリ土工ハ全部ニ亙リ殆ンド完成ニ近ヅキ工事施行ノ都合上止ムヲ得ザル小部分ヲ剩スニ止リ專ラ施行中ニ屬スルモノハ分水工事ニ關スル洗堰、閘門及可動堰ノ築設ヲ主ナルモノトシ其他排水路、護岸、床固、附帶工事等ナリトス

本川改修區域ノ上流部登米郡錦織村ヨリ本吉郡柳津町ニ至ル間ノ舊堤嵩置工事ハ大正十四年度中竣功シ宮城縣ニ引繼ギ準備中ノ處愈々昭和三年八月之レガ引繼ヲ終ヘタリ

本年度中施行シタル浚渫工事ハ前年度ヨリ引續キ施行中ノ追波川筋中流部左右岸舊堤取除ヲ終リ掘鑿工事トシテハ柳津地先分水箇所ニ設置ノ洗堰及閘門ニ通ズル水路ノ開鑿ヲ爲セリ

排水路工事ハ柳津町地內新小川開鑿及ビ追波川右岸沿ヒノ二俣及大川兩村ニ亙ル二俣水路ノ掘鑿、築堤及護岸工事ヲ引續キ施行セシモ本年度中未ダ竣功スルニ至ラズ又橋浦村地內既成セル皿貝川築堤一部ノ補修ヲ爲セリ

築堤工事ハ前年度中ヨリ施行中ノ追波川右岸大川村字福地々內築堤ハ竣功シ新川筋右岸飯野川町成田

小舟越地内築堤ハ一部古川排水路敷ヲ殘スノミトナレリ又附帶工事及ビ他工事ノ材料運搬ノ都合上一時中止セル追波川左岸飯野川町字相野谷中島地内築堤ハ本年度中再ビ著手スルニ至レリ尙構造物築設ノ爲メ築堤ノ未竣功トナリ居リシ追波川右岸福地間門附近及ビ新川筋右岸柳津町字石生地内排水樋管設置箇所ハ各々構造物竣功セルヲ以テ築堤ヲ了セリ

洗堰及閘門工事ハ引續キ施行中ノ鴇波洗堰ノ溢流部及下流部水叩ノ石張ヲ終リ本年度中竣功シ脇谷閘門及洗堰ハ本體殆ンド竣功セルヲ以テ扉取付ケニ掛リタリ又追波川右岸大川村福地々内二俣水路ニ設置ノ福地閘門ハ本體工殘部ノ施行ヲ終ヘ扉及扉開閉機取付ノ大部分ヲ了シタリ

新川筋飯野川町地内ノ可動堰築設工事ハ引續キ混凝土水叩、橋臺及下流部水叩石張工ヲ施行シ本體ハ設計變更調査ヲ了シ基礎工事ニ著手セリ又本年度中新ニ新川筋飯野川町字成田地内山間部ノ床固工事ニ著手セリ

護岸工事ハ飯野川町字成田地内ニテ石材ヲ採取シ追波川右岸二俣村字三輪田地先ノ河身屈曲セル部分延長一千五十六米ニ亙ル石張護岸ニ著手シ追波川中流部右岸大川村字針岡地先ニハ堤脚保護ノ爲メ假水制ヲ設ケタリ

附帶工事ハ前年度來施行中ノ新川筋右岸桃生北方普通水利組合管理ニ係ル古川悪水路改築工事ヲ竣功セリ

其他追波川下流部ニ設置セル釜谷、月濱第一及第二水門ノ扉手入及石卷町河口突堤一部ノ補修ヲ爲セリ」

本年度ノ竣功額ハ五十四萬三千七百九十九圓ニシテ創業以來ノ累計一千二百三十六萬六千百八十圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千三百三十二萬二千圓ニ比スレバ九割三分ノ竣功トナルモ目下豫算增額詮議中

ノ工費百萬圓ヲ合算シタル一千四百三十二萬二千圓ニ比スレバ八割六分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	掘鑿	立方米 四、〇一六、四九〇	円 九一八、八九一	立方米 二五、八二六	円 六、九八七	立方米 四、〇四二、三一六	円 九二五、八七八	割分 〇・七四
	浚渫	八、〇五六、九六七	一、七八四、六一二	三三、一五一	一二、三〇四	八、〇九〇、一一八	一、七九六、九一六	〇・九九
	築堤	五、九六一、九〇七	五四七、六二四	六七、六八二	二八、六四六	六、〇二九、五八九	五七六、二七〇	〇・九八
	堤防蒿置	九九二、〇五三	三〇五、九四六	｜	｜	九九二、〇五三	三〇五、九四六	一・〇〇
	排水路	一、四〇九、〇三六	七三〇、九九九	五五、七三九	四二、八四一	一、四六四、七七五	七七三、八四〇	｜
	洗堰閘門	竣功・未竣功 三箇所	五七八、二九四	竣功・未竣功 二、一箇所	九九、三八〇	竣功・未竣功 二、一箇所	六七七、六七四	｜
	床固	未竣功 一	三一二、八一八	未竣功 二	一六五、四五九	未竣功 二	四七八、二七七	｜
	水門	竣功 二	一三二、八九七	竣功 ｜	六一〇	竣功 二	一三三、五〇七	｜
	護岸	一、〇五五米	五三、〇一九	一〇七米	四一、八八三	一、一六二米	九四、九〇二	｜
	突堤	竣功・未竣功 一箇所	三一三、三九三	竣功・未竣功 一箇所	一、三三五	竣功・未竣功 一箇所	三一四、七二八	｜
用地費		七、五六八段	一、一一七、五九三	一段	一、九三三	七、五六九段	一、一一九、五二六	｜
附帯工事費	直轄施行	竣功・未竣功 二、一〇箇所	九七、二一三	竣功・未竣功 一箇所	一六、四九二	竣功・未竣功 二、一箇所	一一三、七〇五	｜
	管理者施行	竣功 三二		竣功 ｜		竣功 三二		｜
船舶及機械費		｜	三、三五三、八五〇	｜	三八、一五九	｜	三、三九二、〇〇九	｜
測量費		｜	二一、九八七	｜	六二九	｜	二二、六一六	｜
營繕費		｜	一六九、三四一	｜	三、一九五	｜	一七二、五三六	｜
雜費		｜	一、三五三、四八〇	｜	七八、八三三	｜	一、四三二、三一三	｜
亡失高		｜	一、四四六	｜	｜	｜	一、四四六	｜

共済組合給與金	—	二八、九七八	—	五、一一三	—	三四、〇九一	—
總計	—	一一、八三三、三八一	—	五四三、七九九	—	一二、三六六、一八〇	〇・八六

第四　阿賀野川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ航路改良ノ目的ヲ以テ新潟縣東蒲原郡津川町以下海ニ至ル約六十五粁ノ間ヲ工費四萬圓ヲ以テ明治十七年七月ヨリ起工シ同十九年度ニ至リ一時工事ヲ中止セシガ其後水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ大正四年度ヨリ大正十二年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ工費八百萬圓(内新潟縣負擔額二百二十九萬二千圓)ヲ以テ本改修工事ヲ施行スルコトトナリシガ時局ノ影響ニ因リ諸物價及勞銀昂騰セシヲ以テ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年四月四百萬圓(内新潟縣負擔額百萬圓)ヲ增額シ總工費ヲ一千二百萬圓トシ施工年限ヲ五箇年度延長シタリシガ更ニ財政上ノ都合ニ依リ年度割額ヲ變更シ且二箇年度ヲ延長シ十六箇年度繼續事業トシテ昭和五年度迄ニ施行スルコトトナレリ其工事施行區域ハ左岸新潟縣中蒲原郡川東村、右岸東蒲原郡下條村以下海ニ至ル約三十五粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ福島、新潟ノ兩縣ニ亙リ流域面積八千三百四十平方粁ヲ有シ流路延長二千八百粁(内幹川百六十九粁)、航路延長五百八十五粁(内幹川百四十九粁)、灌漑區域四萬ヘクタール(内幹川四千四百四十六ヘクタール)水害區域二萬三千二百五十ヘクタール(内幹川七千百五十六ヘクタール)ナリ而シテ本川ノ洪水ハ春季ノ融雪ト夏秋ノ低氣壓ニ伴フ暴風雨トニ起因シ水源地方ニ於テ一日ノ雨量百粍以上ニ達スレバ警戒ヲ要スベキ洪水ヲ來スコト多シ其水害ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出デタル中蒲原郡川東村馬下ヨリ海ニ

至ル延長約三十五粁ノ間ニシテ地勢平坦田園開ケ西ハ遠ク信濃川沿岸ノ平野ニ連リ我國有數ノ米産地タリ兩岸概ネ堤塘ノ設ケアリト雖モ斷續不同屈曲迂回構造亦薄弱ナルヲ以テ洪水ノ際ハ沿川ノ各地ニ浸水セザルコトナク又派川小阿賀野川ハ本川ノ洪水ヲ呑ミテ滿水シ啻ニ其兩岸ノ破堤汎濫ヲ惹起スルニ止ラズ信濃川ノ洪水ヲ增大シ不盡ノ流砂ハ新潟港埋塞ノ一因ヲ爲セリ水害損失額ハ大正元年ヨリ大正十年ニ至ル十箇年平均額百二十八萬圓ニシテ就中大正二年最モ甚シク浸水約二萬ヘクタール、損失額五百三十七萬圓ニ達セリ

本改修計畫ハ最大洪水流量毎秒六千九百五十立方米ノ疏通ヲ期シ以テ馬下以下海ニ至ル區間ノ水害ヲ除カントスルモノニシテ河幅ハ起點附近ヲ四百三十米トシ約四粁ノ下流論瀬附近ニ至リテ之ヲ九百米ニ擴張シ以下河口迄同樣ノ幅員トス而シテ改修法線ハ大體現川ニ沿ヒテ之ヲ定メ中流澤海附近ノ如キ屈曲甚シキ部分ハ之レヲ矯正シ堤防ハ成ルベク舊堤ヲ利用シテ之レヲ擴築シ其他ハ新堤ヲ築ク又低水敷及高水敷ニ掘鑿ヲ行ヒテ河積ノ不足ヲ補ヒ尙下流部ニ對シ相當ノ浚渫ヲ施シ以テ流積ヲ充分ナラシム小阿賀野川ハ滿願寺ニ於テ之レヲ締切リテ一水門ヲ築設シ一定量ノ水ヲ放流スルノ外本川ノ洪水ト絶縁セシメ其下流沿岸ノ水害ヲ絶ツト共ニ同川ニ合流スル能代川及其他惡水ノ疏通ヲ便ナラシメ又洪水毎ニ新潟港ニ流送スル土砂ヲ止メ信濃川改修ト相俟ツテ同港埋塞ノ主因ヲ除カントス而シテ信、阿兩川舟運ノ連絡ニ對シテハ滿願寺地内ニ一閘門ヲ設置ス

河口ニ近ク幹川ニ合流シタル加治川及新井郷川ニ對シテハ當初合流點ニ水門ヲ設置シテ逆水ノ浸入ヲ防止スルノ計畫ナリシガ其後新井郷川水害豫防組合ノ出願ニ依リ前記水門ニ代フルニ新水路ヲ開鑿シ直接海ニ放流スルコトニ變更シ而シテ合流點ヲ新堤ニテ横斷スル箇所ニハ別ニ幅七米二ノ水門ヲ設置

シ舟運ニ支障ナカラシム堤防ハ早出川落口ヨリ下流ハ凡テ天端幅ヲ九米トシ夫ヨリ上流ハ七米二トシ何レモ表裏二割ノ法ヲ附シ計畫高水位上一米五ノ高ヲ保タシメ水勢衝突ノ箇所ニハ適當ノ護岸ヲ施工スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正四年度創業後直ニ施行準備ニ著手シ翌五年度土地買收ヲ開始シ大正六年度ヨリ起工シ本年度迄掘鑿、浚渫、築堤、護岸水制、閘門、水門等ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續施行ノ三十三箇所（外三箇所休工）新ニ起工ノ十三箇所、計四十六箇所ヲ實施シ內十八箇所ヲ竣功セシメタル外附帶工事トシテ新井郷川改修、龜田郷用水路ノ二工事ヲ繼續施行中ナリシガ龜田郷用水路ノ給水ニ對シテハ取入口ヨリノ自然流水ノミナラズ更ニ澤海地內ニ揚水機ヲ設置シ小阿賀野川ヨリノ揚水ヲ追加工事トシテ工費十四萬二千五百圓ヲ增加シ工事ニ著手シタルガ本工事ハ次期挿苗時迄ニ給水ヲ支障ナカラシムル必要上極力作業ニ勉メ本年度末迄ニ所期ノ功程ヲ擧グルヲ得タリ今本年度內施工狀況ヲ述ブレバ左ノ如シ

掘鑿工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ機械掘二箇所（外二箇所休工）手掘五箇所、計七箇所ニシテ機械掘ハ短梯掘鑿機三臺ヲ用ヒ掘鑿土砂運搬ニ二十噸機關車三臺ヲ使用シ又手掘ノ土砂運搬ニハ軌條ヲ配置シ輕土運車ニテ人力及牛馬力ニ依レリ機械掘土量二十五萬三千百九十二立方米、手掘土量十一萬七千九十九立方米、合計土量三十七萬二百九十一立方米ヲ掘鑿シ機械掘一箇所、手掘四箇所ヲ竣功セリ

浚渫工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ニ係ル低水路ノ浚渫一箇所及新ニ著手セル小阿賀野川筋既定計畫浚

渫箇所ノ一部即チ滿日閘門放水路以下能代川合流點ニ至ル延長三千六百五十米ノ浚渫一箇所、計二箇所ヲ施行ス而シテ浚渫ハ人力及浚渫船（毎時三十立方米掘）ニ依リ土砂運搬ニハ長船又ハ小舟ヲ使用シ浚渫土量人力一萬三千七百四立方米、機械五萬七千二百二十八立方米、計七萬九百三十二立方米ヲ運搬捨土シ二箇所ヲ竣功セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續セル十三箇所ト新ニ二箇所、計十五箇所ヲ實施セリ而シテ利用土十九萬九千三百三十八立方米、採土二十一萬一千九百四十六立方米、計土量四十一萬一千二百八十四立方米ヲ築立テ五箇所ヲ竣功セリ

護岸水制工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ護岸工事八箇所（外一箇所休工）、假護岸工事一箇所、水制工事一箇所ノ外新ニ護岸工事七箇所、水制工事一箇所、假水制工事一箇所、床固工事一箇所、計二十箇所ヲ實施ス工法ハ石張、蛇籠、柴工沈床、石詰柳枝工、枠出、杭出、杭柵、筬杭、萓粘土張、混凝土單床等ニシテ新設床固工事ハ滿願寺、澤海間ノ新低水路ニ施設スルモノニシテ出水毎ニ同所ニ於ケル河床及左右兩岸ヲ侵蝕セラレ計畫低水位ノ低下ヲ來セルヲ以テ低水路全幅ニ亙リ沈床及石詰柵工ヲ施シ以テ川床ノ洗掘セラルルヲ防止セントスルモノナリ而シテ本年度ニ於テ護岸工事四箇所、假護岸工事一箇所、水制工事一箇所ヲ竣功セリ

水門工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ小阿賀、新井郷川水門工事ノ二箇所ノ内小阿賀水門ハ前年度迄ニ殆ント完成シ本年度ニ於テハ單ニ川表ニ柴工沈床四百五平方米、捨石百十四立方米、堤内水路肩ニ鐵條網延長百二十米ヲ施行セルノミ又新井郷川水門ハ前年度ニ於テ假締切床掘及一部ノ基礎杭打ヲ行ヒタルヲ以テ本年度ニ於テハ引續キ人力ニ依リ基礎杭二百四十九本ヲ打込ミ基礎混凝土百十三立方米、本體混凝土二百五十六立方米ヲ了シ翌年度ヘ繰越シタリ

土地買收ハ前年度迄ニ大略幹川ニ係ルモノヲ了シ本年度ニ於テハ未濟ノ一部中蒲原郡巣本村、新關村大江山村、大形村、北蒲原郡安田村、分田村、京ヶ瀬村、岡方村、濁川村、松ヶ崎濱村地内ノ土地買收及地上物件移轉料、借地料、河川敷地補償料等二萬四百九十圓竝ニ附帶工事用トシテ龜田郷用水路工事ニ於テ中蒲原郡大形村、横越村地内ノ土地買收及地上物件移轉料五十五圓餘ヲ支拂ヒタリ

附帶工事中龜田郷用水路工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノモノニシテ本年度中ニ全ク竣功セシムル豫定ノ下ニ昭和三年四月初旬通水ヲ行ヒタリシガ融雪出水後取入口附近ノ水位低下シ又初夏ノ候ヨリ打續キタル旱魃ノ爲メ阿賀野川全川ニ亘リ稀有ノ大渇水ヲ來シタル爲メ取入口ヨリノ自然流水ノミニテハ充分給水シ能ハザルノ狀況ニ鑑ミ追加工事トシテ澤海地內ニ「揚水機ヲ設置シ小阿賀野川ヨリ揚水スル事ニ決定シ昭和四年一月二十四日其工事ニ著手セルガ右ハ次期給」水時迄ニ完成セシムル必要上殘工事ノ施行ヲ一時休止シ揚水機工事ニ全力ヲ注ギ折柄ノ嚴冬ト闘ヒ晝夜兼行作業ニ努力シ本年度末迄ニ大體ノ完成ヲ見タリ尚本水路殘工事ノ施行ニ對シテハ人力又ハ「小舟剣付等」ニ依リ土量七千三百十四立方米ヲ掘鑿運搬シ五百立方米ノ築堤ヲ築立テタル外護岸延長二千二百二十二米道路延長八千九百二十米、橋梁二箇所、樋管十五箇所、暗渠洗堰二箇所、惡水吐四箇所ヲ竣功セリ

同新井郷川改修工事ハ前年度ヨリ引續キ施行ノ工事ニシテ昭和四年一月風波ノ爲メ閉鎖セラレタル本川吐口水路ノ掘鑿及護岸工事ヲ繼續實施セリ掘鑿ハ人力ニ依リ小舟ヲ使用シ土量三萬八千七立方米ヲ運搬捨土シ護岸工事ハ杭柵工延長七百十五米、杭工延長二百十六米及柴工沈床三千五百三十一平方米ヲ完成シテ次年度ヘ繰越セリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十五萬一千六百四十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計一千五十一萬二百

八十圓ナリ之ヲ總工費一千二百萬圓ニ比スレバ八割八分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功額 數量	前年度迄竣功額 金額	本年度竣功額 數量	本年度竣功額 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費							
掘鑿	立方米 四、四二七、八五九	円 一、二八〇、六八九	立方米 三七〇、二九一	円 八四、九一七	立方米 四、七九八、一五〇	円 一、三六五、六〇六	割 〇・九四
浚渫	三九五、〇六七	七〇、一八六	七〇、九三二	二四、三八三	四六五、九九九	九四、五六九	〇・九〇
築堤	三、九九九、九六一	六〇五、一六七	四一一、二八四	七四、一五〇	四、四一一、二四五	六七九、三一七	〇・七九
護岸水制	米 九、六〇六	五七一、三六五	米 二、八八四	一五七、九八一	米 一二、四九〇	七二九、三四六	—
閘門	箇所 一	三二八、〇三〇	箇所 —	—	箇所 一	三二八、〇三〇	—
水門	竣功 一 未竣功 —	一三六、七三九	竣功 — 未竣功 二	二五、三三三	竣功 一 未竣功 二	一六二、〇七二	—
材料運搬	—	一六、四二四	—	—	—	一六、四二四	—
用地費	段 一二、七二九	二、三六七、五九四	段 二二	二〇、四九一	段 一二、七五一	二、三八八、〇八五	〇・九八
附帯工事費	竣功 二三箇所 未竣功 —	七七八、二四六 □四八七、九〇七	竣功 — 未竣功 三箇所	四六、九五七 □二七、三三九	竣功 二三箇所 未竣功 三	八二五、二〇三 □五一五、二四六	—
船舶及機械費	—	二、七八五、四一三	—	三六、九八八	—	二、八二二、四〇一	—
測量費	—	一七、二八七	—	二、一八七	—	一九、四七四	—
營繕費	—	一〇三、四九七	—	五、三五七	—	一〇八、八五四	—
雜費	—	八七七、三三五	—	六八、九六六	—	九四六、三〇一	—
共濟組合給與金	—	二〇、六六五	—	三、九三三	—	二四、五九八	—
總計	—	九、九五八、六三七 □四八七、九〇七	—	五五一、六四三 □二七、三三九	—	一〇、五一〇、二八〇 □五一五、二四六	〇・八八

第五　最上川改修工事

緒　言

本工事ハ曩ニ政府ニ於テ專ラ航路ノ改良ヲ目的トシ工費七十六萬四千九百八十四圓ヲ以テ明治十七年度其工ヲ起シ同三十六年度ニ至リ之ガ竣功ヲ告ゲタリシガ其後年々水害損失ノ甚大ナルニ鑑ミ更ニ洪水防禦ヲ目的トシテ大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシ工費八百二十萬圓(内山形縣負擔額二百十九萬九千圓)ヲ以テ改修工事ヲ施行スルニ至レリ其區域ハ幹川左岸山形縣東田川郡淸川村、右岸同縣飽海郡上鄕村以下海ニ至ル約三十二粁間、支川赤川ハ左岸同縣東田川郡齋村、右岸同縣同郡廣瀨村以下幹川合流點ニ至ル約二十三粁六ノ間ナリシガ大正十年三月支川赤川改修工事ノ計畫ヲ變更シ大山川合流點附近ヨリ西田川郡袖浦村地內西山砂丘ヲ開鑿シ直チニ日本海ニ放流セシムルコトトナシタリ尙同年五月最上川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ山形縣知事稟申ニ係ル酒田港修築工事ヲ百五十萬圓(全部山形縣負擔)ノ追加工費ヲ以テ併セ行フ事トシ繼續事業年度ヲ大正十七年度迄延長スル事トナレリ更ニ物價騰貴ニ依リ總工費ヲ一千五百萬圓ニ增額シ昭和七年度迄工期ヲ延長セルモ偶々關東大震災ノ影響ヲ蒙リ更ニ昭和十一年度迄繰延ベシ爲メ二十箇年度ノ繼續事業トナレリ

河狀竝計畫大要

本川ハ奧羽河川中北上川ニ亞グノ大河ニシテ水源ヲ山形縣南置賜郡吾妻山ニ發シ殆ド山形縣一圓ヲ環流シ飽海郡酒田港ニ至リ海ニ注グ其流域面積七千四百三平方粁、流路延長二千三百六十八粁(内幹川二百

十六粁)、航路延長四百五十九粁(内幹川百九十六粁)、水害區域三萬七千二百九十七ヘクタール(内幹川一萬四千四百ヘクタール)、灌漑面積五萬七千三百十六ヘクタール(内幹川一千九百五十ヘクタール)ナリトス

庄内平野ハ山形縣下第一ノ米産地ナルニ本流域内ノ降水量ハ一箇年二千粍以上ヲ示シ本邦ニ於テモ有數ノ降雨地ニシテ洪水汎濫ノ害亦甚シク其損害高ハ大正元年ヨリ同十年ニ至ル十箇年ノ損失平均年額百四十三萬一千六百圓ニ上リ就中大正二年ニ於ケル五百十五萬四千五百十八圓、同九年二百四十四萬六十七圓、同十年ハ八百三十五萬三千七百七十圓ニ達スル大損害ヲ見タリ

本川改良計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ工事ヲ水害ノ最モ大ナル範圍ニ局限シ幹川ハ東田川郡清川村以下海ニ至ル間約三十二粁、支川赤川ハ西田川郡鶴岡市附近以下海ニ至ル約二十粁ノ間ニ施工スルモノニシテ其計畫最大流量ハ幹川毎秒六千九百五十立方米、赤川一千六百七十立方米ト定メ之ヲ快通セシムル爲メ掘鑿或ハ浚渫ヲ施スモノトス

改修區域内ノ幹川最上川ハ急流ニシテ河狀極メテ不規律又支川赤川ハ緩流ニシテ兩岸相當ノ堤防アルモ廣狹不同ナルヲ以テ本計畫ニ於テ標準河幅ヲ次ノ如ク一定セリ

幹川	清川附近	二五五米
	狩川、臼ヶ澤間	三六四
	臼ヶ澤、中牧田間	四五五
幹川	中牧田、落野目間	六三六米
	落野目以下京田川合流點間	七二七
	京田川合流點以下	八一八
支川赤川	菅原橋、横山間	二七三米
	横山以下大山川合流點迄	三六四
	大山川合流點ヨリ河口(西山開鑿水路)迄兩岸二割法底幅百米	一〇〇

新堤ハ天端幅六米三、表裏兩法二割トシ其天端ハ計畫高水位以上一米五タラシメ在來ノ堤防ハ相當擴築シ水勢ノ激突著シキ箇所ハ總テ石張ヲ以テ護岸ヲ施スモノトス而シテ三米以上ノ直高ヲ有スル築堤ニハ天端ヨリ三米下リテ裏法ニ幅一米八以上ノ小段ヲ設ケ其以下ヲ二割五分法トシ更ニ直高五米五以上

ノ場合ニハ天端ヨリ五米五下リテ兩法ニ幅二米七以上ノ小段ヲ設ケ其以下ヲ三割法トス

支川赤川ハ流末ナル西田川郡袖浦村大字黒森地内大屈曲箇所ニ於テ西山砂丘ヲ貫キ長サ二千八百米ノ新水路ヲ開鑿シ全川ヲ日本海ニ放流セシメントス其掘鑿土量八百五萬立方米、底幅百米、切割高四十五米ナリ之レガ爲メニ上流洪水ノ期間ヲ短縮スル效果著シキモノアルベシ

京田川ハ從來最上川、赤川兩川出水ノ都度其逆流ト自己ノ出水トノ爲メ沿岸ノ沃野ニ浸水シ汎濫ノ害ヲ免レザリシガ赤川分流ノ結果最上川左岸堤防ヲ延長シテ其合流點ヲ下流ニ移スコトヲ得自然該川ノ排水良好トナリ併セテ逆流ノ被害モ輕減スルコトヲ得ベシ

最上川河口ハ酒田港ト全然分離シテ左岸ニ偏移シ右岸堤防ハ飽海郡酒田町對岸中洲上ニ築キ閘門ヲ設ケ本川ト酒田港トノ連絡ニ備ヘ倘其先端ニ接續シ長サ六百四十四米、水深九米ノ海中ニ達スル突堤(中央)ヲ設ケ又左岸堤防ノ先端ニハ長サ二百二十七米ノ防砂堤(南)ヲ築造ス又酒田港ハ其港口ニ最上川右岸堤(前記中央突堤)ト相對シテ同ジク水深九米ノ海中ニ達スル北突堤ヲ築キ港内ハ低水面以下一米八乃至七米六ニ浚渫シテ沿岸ヲ埋立テ且適當ノ護岸工事ヲ施スモノトス

附帶工事トシテハ橋梁ノ増設、架換、水門、樋門ノ新設、用排水路ノ改築等ヲ施行シテ從來ノ水害ヲ除去シ又交通ノ利便ヲ増進スルモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌七年度幹川右岸全部ノ土地買收ヲ了シ本年度迄十數次ニ亙リ幹川左岸ノ大部分、支川赤川新放水路用地、鶴岡市附近、下流部左岸東郷村地内新堤敷ノ一部ノ買收ヲ爲シ

其進捗ニ伴ヒ大正八年度ヨリ工事ニ著手シ同九年度ニ機械工場ヲ設置シ諸機械、船舶ノ修理製作ヲ經營セリ

本年度ニ於ケル本工事施行箇所ハ前年度ヨリ繼續ノ二十四箇所（内三箇所ハ休工中ノモノ）ト新ニ著手ノ十八箇所トノ四十二箇所及附帶工事繼續一箇所（休工中ノモノ）ト新ニ著手ノ一箇所トヲ施工セリ今本年度ニ於ケル施工ノ概況ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ幹川ニ於ケル大宮、丸沼、山寺、宮野浦、支川赤川ニテ第四西山ノ各人力掘鑿及宮野浦機械掘鑿ノ六箇所及本年度著手セル幹川筋ノ狩川、第一大河渡、小出川原ノ各人力及第二宮野浦機械掘鑿ノ四箇所、計十箇所ニシテ人力掘鑿工事ニ於テハ人力、馬匹ノ外土運搬用トシテ二十噸機關車一臺、四噸ガソリン機關車一臺、三噸ガソリン機關車二臺ヲ使用シ機械掘鑿ニ於テハ掘鑿機二臺、二十噸機關車二臺ヲ運轉シ土量八十四萬四千八百六十五立方米ヲ掘鑿運搬シ年度内ニ大宮、宮野浦ノ二人力掘鑿ヲ竣功セリ

浚渫工事ハ前年度ヨリ繼續セル宮野浦浚渫一箇所ニシテ本年度ハ工事ノ都合上浚渫船ノ休轉日數多ク浚渫僅カニ一萬二千四百三十二立方米ニ過ギズ

築堤工事ハ幹川ニ於テ小牧、新掘、山寺、荒鍋、支川赤川上流ニ於ケル地藏俣、鶴岡ノ六箇所ヲ前年度ヨリ繼續施工シ又休工中ナリシ幹川ノ飛鳥、相澤、竹田ノ三箇所及赤川ニ於テ成田、桝ノ内ノ二箇所ヲ起工シ全川ヲ通ジテ十一箇所ヲ施工シ年度内ニ土量三十五萬一千八百立方米（内掘鑿土利用ノモノ二十萬九千九百三十四立方米）ヲ築立テ飛鳥、丸沼、小牧、荒鍋ノ四箇所ヲ竣功セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ幹川上流ノ荒鍋、山寺、中流部ニ於ケル小牧、下流部ノ九木原及支川赤川

ニ於ケル第一西山ノ五箇所ヲ續工シ新ニ幹川亂流部ニ屬スル臼ヶ澤、小出上川原ノ二箇所及第二西山新川ノ三工事ヲ起シ年度內ニ荒鍋、山寺、小牧、臼ヶ澤ノ四箇所ヲ竣工セリ

假床固工事ハ支川赤川西山新水路一箇所ニシテ通水後流勢ノ爲メ河底ノ洗掘セラルルヲ防止スルト共ニ後日施工スベキ床止工ノ水叩トナルベキ位置ニ施行シ其構造ハ柴工沈床トシ年度內ニ大部分ヲ施行セリ法留工事ハ赤川新水路掘鑿砂丘法面ノ一部ニ施行スルモノニシテ本年度ニ於テハ左岸上段法面ノ一部ニ海濱附近ニ繁殖スル雑草ノ連束網工竝ニ胡頽子ノ挿木ヲ爲シ法面三千七百三十一平方米ヲ施行セリ

突堤工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノ中央突堤一箇所ニシテ本年度夏季ハ海上靜穩ニシテ作業日數例年ニ比シ多カリシ爲メ工事ノ進捗著シク基礎施工延長百十三米ニ及ビ年度內ニ据付ケタル方塊甲號二百三十四個、乙號百九十六個ニシテ上部場所詰混凝土百二十立方米、捨石一萬六千八百六十三立方米ヲ施行セリ

閘門工事ハ下瀬閘門一箇所ニシテ酒田港ガ最上川右岸背割堤ニ依リ本川ト遮斷セラルルガ故ニ該川ヲ唯一ノ航路トシテ酒田町ニ往復セル諸船ノ水路連絡ノ目的ヲ以テ酒田町下瀬地內ニ施設スルモノニシテ昭和三年八月二十一日工ヲ起シ年度內ニ床掘土量一萬二千三百四十八立方米、鐵矢板延幅百米、木矢板延幅三十三米、地杭打六百四十一本及混凝土四百五十一立方米ヲ施行シ基礎工ノ大部ヲ竣功セリ

石材採取工事ハ本年度ニ於テ著手ノ三崎、立谷澤、黒川ノ三箇所ニシテ突堤用竝ニ幹川下流部ノ護岸工事ニ使用スル割石ハ三崎地先ニ於テ採取シ曳船ニ依リ海上運搬ヲ爲シ又立谷澤及赤川上流黒川地先ヨリ採取セル玉石ハ幹川上中流部及赤川ノ護岸水制工事用トシテ共ニ船積運搬ニ依リ所要現場ニ配給シタ

ルモノニシテ年度內ニ採取量割石二萬二千立方米、間知石八千個、玉石一千八百八十六立方米トス

砂利採取工事ハ前年度ヨリ繼續ノ第三回及本年度著手ノ第四、第五回ノ三工事ニシテ共ニ突堤用方塊製造材料ニ使用シ年度內ニ數量三千七百五十立方米ヲ採取セリ

方塊製造工事ハ前年度ヨリ繼續ノ第三回及新ニ着手ノ第五回ノ二工事ニシテ年度內ニ甲號方塊二百三十八個、乙號方塊二百個ヲ製造セリ

附帶工事ハ堤防未竣功ノ爲メ一時休工中ナリシ遊摺部水門新設ヲ竣功シ新ニ支川赤川筋東田川郡廣瀨村地內ニ於テ古川樋門新設工事ヲ起工シ年度內基礎ノ一部ヲ施工セリ

工事用船舶及諸機械ノ修理製作ハ當所附屬ノ機械工場ニ於テ專ラ施行セシメ年度內ニ製作シタル主ナルモノハ鐵管、ターンテーブル等、又修理ノ主ナルモノハ浚渫船、曳船、機關車、掘鑿機、土工用諸機械ニシテ工費五萬九千百七十圓ヲ支出セリ

土地收用ハ工事施行ニ必要ナル範圍ニ止メ年度內買收ヲ終リタルモノ十町六段五畝十二歩ナリ

以上本年度ニ於ケル竣功額ハ七十二萬六千七百六十七圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ八百三十萬六千百二十一圓ナリ之ヲ總工費豫算額一千五百萬圓ニ比スレバ約五割五分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ「○」ハ赤川普通水利組合ヨリ提供「×」ハ土取出願者ヨリ提供「◎」ハ吉田堰普通水利組合ヨリ提供「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功額 數量	前年度迄竣功額 金額	本年度竣功額 數量	本年度竣功額 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
一 掘鑿	立方米 一〇、四六八、六六六	円 一、七五七、六七六 ○ 三二、九三五	立方米 八四四、八六六	円 ○ 一六四、二七二	立方米 一一、三一三、五三二	円 一、九二一、九四八 ○ 三二、九三五	割分 〇・六七

本工事費　浚渫	六二八、二一八	一五八、九七〇	一二、四三三	八、八六一	六四〇、六五一	一六七、八三一	〇・二四
本工事費　築堤	三、三四四、四三二	四三六、七一一 × 三、八六八	三五一、八〇〇	七四、五九七 × —	三、六九六、二三二	五一一、三〇八 × 三、八六八	〇・五六
本工事費　護岸水制	六、一三九米	一三三、六八六 ◎ 九、〇一七 ○ 三三七	一、九六九米	六一、一五一 ◎ 一、〇二五 ○ 四三九	八、一〇八米	一九四、八三七 ◎ 一〇、〇四二 ○ 七七六	—
本工事費　突堤	一箇所 未竣功	二〇五、〇九七	一箇所 未竣功	一〇八、〇四〇	一箇所 未竣功	三一三、一三七	—
本工事費　閘門	—	—	一 未竣功	三三、八一九	一 未竣功	三三、八一九	—
本工事費　材料運搬	—	二七、七五一	—	六一〇	—	二八、三六一	—
本工事費　導水堤除却	—	五、〇二九	—	—	—	五、〇二九	—
用地費	五、一七〇段	一、〇三九、四八七	一〇六段	二六、九〇五	五、二七六段	一、〇六六、三九二	〇・五八
附帯工事費	竣功 未竣功 九箇所	一七三、六八〇 ○ 一二、一七六 □ 三九、六〇六	竣功 未竣功 一一箇所	二、三二二 ○ 一 □ —	竣功 未竣功 一一〇箇所	一七六、〇〇二 ○ 一二、一七七 □ 三九、六〇六	—
船舶及機械費	—	二、六四六、三八一 ○ 一、〇二六	—	一四八、二七九 ○ —	—	二、七九四、六六〇 ○ 一、〇二六	—
測量費	—	一九、四九三	—	二、六八六	—	二二、一七九	—
営繕費	—	一七九、五四〇	—	四、二三七	—	一八三、七七七	—
雑費	—	八六九、二九七	—	八五、一七六	—	九五四、四七三	—
共済組合給与金	—	二六、五五六	—	五、八〇〇	—	三二、三五六	—
総計	—	七、五七九、三五四 × 三、八六八 □ 三九、六〇六 ◎ 九、〇一七 ○ 四六、四七四	—	七二六、七五五 × — □ — ◎ 一、〇二五 ○ 四四〇	—	八、三〇六、一〇九 × 三、八六八 □ 三九、六〇六 ◎ 一〇、〇四二 ○ 四六、九一四	〇・五五

第六　江合、鳴瀬兩川改修工事

緒言

本川改修ハ大正六年度ヨリ宮城縣ニ於テ起工シタル事業ニシテ大正十年度ニ至リ明治三十年法律第三十七號ニ依リ内務大臣ニ於テ直接施行スル事トナレリ當初豫算總額五百六十九萬二千圓ノ内縣施行額百三十一萬二千圓ヲ控除シタル殘額四百三十八萬圓ヲ以テ大正十五年度ヲ竣功期限トシ爾來繼續實施中ノ處大正十二年度ニ至リ河川法ニ依ル國ノ直轄工事トナリ同時ニ物價騰貴ニ因ル工費不足額ノ内ヘ百萬圓ヲ追加シ事務費ヲ別チ豫算ヲ更正シ工費總額ヲ六百四十七萬四千圓トシ昭和四年度迄ノ繼續事業ト定メタリ超エテ大正十四年度ニ至リ既往ニ於ケル工事施行ノ實績ニ鑑ミ物價騰貴ニ因ル工費不足額三百七十三萬圓ヲ追加シ工費總額ハ一千二十萬四千圓トナリ其竣功年度ハ昭和十年度ト更定セリ前記工費總額ノ内國ノ施行工事費八百八十一萬二千圓、同施行事務費八萬圓、縣ノ施行額百三十一萬二千圓ナリ而シテ改修區域ハ鳴瀬川ニ在テハ宮城縣志田郡高倉村ヨリ河口ニ至ル五十粁六、吉田川ハ黒川郡落合村ヨリ小川落口二子屋ヲ經テ鳴瀬川ニ沿ヒ河口ニ至ル三十一粁四、又江合川ハ江合橋上流栗原郡宮澤村ヨリ下流志田郡荒雄村大字福沼ヨリ新川ヲ開鑿シ鳴瀬川ニ合流セシムル迄ノ七粁九ニシテ延長約九十粁ニ達ス

河狀竝計畫大要

鳴瀬川流域ハ江合川流域ニ連リ其面積八百七十九平方粁ヲ有セリ本川ノ最上流ヲ夕日川ト稱シ源ヲ陸

羽國境宮城縣加美郡小野田村舟ヶ嶽ニ發シ同郡山間一帶ノ溪流ヲ合シテ流下シ保能川、田川、荒川、多田川ノ各支川ヲ容レ志田、遠田兩郡ノ平坦部ヲ貫流シ數多屈曲ノ後桃生郡小野村ヲ經テ同郡野蒜村ニ至リ海ニ注グ幹川ノ流路約九十粁ニ及ブ本川中治水上重要ナル區域ハ加美郡中新田附近ヨリ海口ニ至ル約五十一粁ノ間ニシテ流心概シテ統一シ流勢亦緩和シ志田郡三本木町附近以下河床ニ砂礫ヲ見ルコト稀ナリ中新田以下本川ノ右岸ハ山勢稍逼リ耕地廣カラザルモ左岸ハ末流約八粁ヲ除キ廣大ナル平野ニシテ洪水被害ノ大ナルモ亦此區域ナリトス

吉田川ハ源ヲ黒川郡吉岡町ノ西方北泉岳ニ發シ溪流ヲ集メ流程凡三十一粁ニシテ品井沼ニ入ル流域三百八平方粁落合附近ヨリ下流兩岸ハ概ネ堤防ヲ有シ新舊二個ノ潜穴ヨリ高城川ニ出デ松島灣ニ注グ

江合川ハ北上川ノ一大支川ニシテ宮城縣玉造郡荒雄嶽ニ發源シ鬼首村ヲ過ギ大澤、大谷等ノ支流ヲ加ヘ同郡岩出山町ニ至リ漸ク平地ニ臨ミ鳴瀬川ト相竝ビテ東流シ遠田郡涌谷町ヲ經テ桃生郡前谷地村和淵ニ於テ北上川ニ合ス流路約九十八粁、流域六百三十二平方粁ヲ有ス本川ハ志田郡古川町北方江合橋附近ヨリ上流ハ一般ニ流勢急激ニシテ亂流ノ狀態ヲ呈シ諸所ニ砂礫ノ寄洲アルモ同所ヨリ下流ハ河狀一變シ勾配大ニ緩ミ流心漸ク統一ス

今各川ノ灌漑面積竝ニ水害面積ヲ調査スルニ灌漑面積ハ鳴瀬川一萬二千ヘクタール、支川吉田川ハ七百ヘクタール、江合川ハ七千七百九十ヘクタールニシテ水害區域ハ鳴瀬川ニ於テ一萬四百九十ヘクタール、吉田川ニ於テ一千二百ヘクタール、江合川ニ於テ五千七百ヘクタールヲ算ス

改修計畫ハ鳴瀬、江合兩川筋ノ高水防禦ノ目的ヲ達シ竝ニ江合川ニ於テ江合橋以下約二十七粁ノ兩岸堤防ヲ節約スル目的ヲ以テ荒雄村福沼ヨリ一條ノ新川ヲ開鑿シ以テ江合川洪水全部ヲ導キ之ヲ鳴瀬川ニ

合流セシメ鳴瀬川ハ河幅ヲ擴張整理スルト同時ニ堤防ヲ堅牢ナラシメ河積不足ノ所ハ掘鑿又ハ浚渫ヲ爲シ著シキ屈曲ハ之ヲ直通セシメ以テ江合、鳴瀬兩川洪水ノ全部ヲ快通セシメ傍ラ吉田川ハ之ヲ鳴瀬川ヨリ分流シ河口附近ニ於テ鳴瀬川本流ニ注ガシメ品井沼ノ湛水ニ依ル害ヲ輕減セントシ尙併セテ多田川ノ逆水被害ヲ防グ爲メ現在堤防ノ嵩置ヲ爲スモノナリ

計畫高水流量ハ鳴瀬川毎秒一千五百三十立方米、江合川同一千三十立方米、吉田川同五百六十立方米ナリ

又河幅ハ鳴瀬川百四十五米乃至三百六十四米、新江合川ハ百二十七米、吉田川上流ハ九十一米乃至三百六十四米、下流ハ七十三米乃至八十二米ナリ

築堤ハ其堤頂ヲ計畫高水位以上一米二分トシ馬踏五米五分、兩法二割トシ尙水流激衝ノ局部ニ對シテハ特ニ護岸工事ヲ施シ其他屈曲部ヲ緩和シ用惡水路ノ改築等ヲ圖ルモノナリ

突堤ハ野蒜築港當時築造セシモノヲ利用増築スルモノニシテ東西兩突堤ニ於テ百八十一米ヲ延長ス

施工狀況

本川改修工事ハ大正六年度宮城縣ニ於テ起工シ江合、鳴瀬、吉田ノ三川共上流一部ノ築堤工事(江合川ハ舊川部、鳴瀬川ハ支流多田川落合上流部、吉田川ハ粕川村ヨリ上流部ノ築堤)ヲ大正九年度迄ニ完成シ大正十年度ニ至リテ内務省ノ直轄事業ニ移セリ爾來計畫、調査、機械購入等諸般ノ準備ニ幾多ノ時日ヲ費シ大正十一年十月ニ至リテ漸ク本工事ニ著手ノ運ビトナリ玆ニ鳴瀬川右岸小野村地内ノ山地切取ヲ始トシ漸次其下流又ハ上流ニ及ボシ以テ現今ニ至レリ

直轄工事ノ本年度迄ニ施行セシ區域ハ鳴瀬川ハ下流部ニ於テハ河口ヨリ小野村川下地内丁杭一里十八

丁附近ニ至リ、中流部ニ於テハ舊小川落合附近丁杭二里二十二丁ヨリ上流鹿島臺村舟越、南鄕村和田多沼地内六里一丁ニ至リ、上流部ニ在テハ東北本線鐵道橋附近丁杭六里二十六丁ヨリ志田橋附近九里一丁ニ至ル吉田川ハ下流部ニ於テ野蒜、小野兩村地内丁杭零里五丁、一里十四丁間、中流部ニ於テ松島町及鹿島臺村地先丁杭二里二十四丁ヨリ三里九丁ニ至ル區域ナリトス而シテ施行工事ノ種類ハ堤外地ノ掘鑿竝ニ築堤ヲ主トシ一小部分ノ護岸工事ヲモ施セリ

掘鑿機械トシテスチームショベル二臺、一立方米マリオン三十二番型ドラグライン、エキスカヴエーター二臺、短梯掘鑿機一臺ヲ使用シ二十瓲機關車三臺ヲ之ニ配置シテ土砂ノ運搬ヲ掌ラシム其他人力積込小型機關車運搬又ハ人、馬力トロ運搬、畚擔等ヲ併用シ掘鑿土砂ヲ利用シテ築堤ヲ完成セシムル方針ニテ工事ヲ進行セシム而シテ大正十一年度以來移動土砂ノ累計ハ三百八十七萬四千九百十六立方米ニシテ其内八十八萬八千五百八十二立方米ハ本年度ノ施行ニ係ルモノナリ

護岸工事ハ鳴瀨川左岸小野村濱市地先ニ三百六十九米ノ石張工施行中ナリシガ本年度ニ至リ竣功セリ

附帶工事ハ鳴瀨川筋ニ於テ樋管四箇所ト水路附替五箇所此延長四千六百二十七米ノ工事ヲ竣功シ二箇所ノ樋管ヲ改築中ナリ

土地買收ハ工事施行上急ヲ要スル部分ヨリ調査發表ヲ爲シ本年度迄ニ累計三百四十一丁五段歩ノ買收ヲ終ヘ本年度ニ於テハ八十二町六段歩ノ買收協議ヲ爲セシガ登記手續未濟等ノ爲メ三十八町五段歩ノ買收未濟地ヲ見ルニ至レリ

本年度ノ竣功額ハ總計七十萬五百九十七圓ニシテ本年度迄ノ直轄施行額累計ハ三百四十七萬二千九百六十圓ナリ之ヲ國施行工事費豫算額八百八十一萬二千圓ニ比スレバ三割四分ノ竣功トナル其工事竣功

表ハ左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 掘鑿	立方米 二、九八六、三三四	円 七三一、一八一	立方米 八八八、五八二	円 二六九、八七四	立方米 三、八七四、九一六	円 一、〇〇一、〇五五	割分 〇・四三
本工事費 築堤	一、八四七、一〇九 米	三〇三、九〇八	四九二、〇五七	一八、三二五	二、三三九、一六六	三二二、二三三	〇・三三
本工事費 護岸	—	四、七五三	三六九 米	一、一六五	三六九 米	五、九一八	〇・〇七
用地費	二、六四三 段	七六六、二二九	七七二 段	二二二、八三三	三、四一五 段	九八九、〇六一	〇・四七
附帶工事費	竣功 四箇所 未竣功 三箇所	三四、一六二	竣功 三箇所 未竣功 二箇所	一二、一一九	竣功 七箇所 未竣功 二箇所	四六、二八一	—
船舶及機械費	—	六三七、五一〇	—	一〇八、二七四	—	七四五、七八四	—
測量費	—	七、二一六	—	三二八	—	七、五四四	—
營繕費	—	三四、八八四	—	四、九二〇	—	三九、八〇四	—
雜費	—	二四三、〇二三	—	五九、七五六	—	三〇二、七七九	—
共濟組合給與金	—	九、四九七	—	三、〇〇四	—	一二、五〇一	—
總計	—	二、七七二、三六三	—	七〇〇、五九七	—	三、四七二、九六〇	〇・三四

第七　雄物川改修工事

緒　言

本工事ハ當初大正六年度ヨリ同十五年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費七百二十萬圓ヲ以テ施行スルモノナリシガ大正十二年度ニ至リ物價騰貴ノ爲メ總豫算工費ヲ一千百七十萬圓(內地方負擔金三百四萬七千圓)ニ增額シ年限ヲ昭和六年度ニ延長セリ偶々大正十二年九月一日關東大震災ニ因リテ更ニ五箇年度ヲ延長シ工事年限ヲ昭和十一年度迄繰延ベタリ

其區域ハ幹川ニ在リテハ左岸秋田縣河邊郡豐岩村、右岸同縣同郡川添村以下海ニ至ル間二十一粁及支川岩見川ニ在リテハ左右岸秋田縣河邊郡豐島村以下雄物川合流點ニ至ル間五粁、計二十六粁ノ間ヲ改修セントスルモノナリ

河狀竝計畫大要

雄物川ハ流域面積四千八十平方粁、流路一千二百四十五粁(內幹川百四十九粁)、航路延長三百三十四粁(內幹川百三十七粁)、灌漑面積三萬九百十三ヘクタール(內幹川三千三百三十四ヘクタール)ヲ有シ水害區域二萬二千六百九十ヘクタール(內幹川一萬一千五十八ヘクタール)ナリ而シテ其沿岸ハ幹支川トモ無堤ノ部分多ク偶々一部ニ堤防ヲ見ルモ極メテ不規律ニシテ且河幅一定セズ殊ニ幹川ノ下流部ハ土崎港ニ至ル迄流心不定加之屈曲甚シキヲ以テ洪水ノ際ハ每々其疏通ヲ妨ゲラレ從テ支川岩見、旭ノ如キハ逆流ニ因ル水害著シク明治二十九年ノ汎濫區域一萬七千八百五十ヘクタールニ及ビ其損失價額實ニ一千三百萬圓

ニ達セリ其後明治四十三年ノ被害ノ如キモ亦三百十餘萬圓ニ達シタルノ狀況ナリ

本計畫ハ秋田市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トシ併セテ河口ヲ改善セントスルモノナリ而シテ計畫高水流量ハ幹川河邊郡川添村以下海ニ至ル間毎秒五千五百六十五立方米、支川岩見川ハ豐島村以下幹川合流點ニ至ル間毎秒五百五十六立方米ト定メ之ヲ快疏スルノ河積ヲ有セシムルモノトス而シテ河邊郡新屋町ニ於テハ現水路ヲ全ク締切リ同町西方ノ丘陵ヲ横斷シテ直路日本海ニ注グベキ長サ二千米餘ノ一大新水路ヲ開鑿ス其水面幅ハ高水時ニ於テ約三百六十米トシ上游ニ於ケル流路ニ對シテハ堤防ヲ築キ水積ヲ補ヒ屈曲ヲ矯メ制水ヲ設クル等諸般ノ施設ヲ爲スモノトス又締切堤ノ東方秋田市牛島町ニ閘門ヲ設ケ以テ航行ニ便シ之ヨリ以下舊川ハ幅五十五米乃至九十米ヲ限リ低水時一米五ノ水深ヲ保ツ程度ニ浚渫ヲ加ヘ舟筏ノ航行ノ用ニ供シ併セテ下流幹川惡水排除ノ便ニ備ヘントス

土崎港ハ雄物川ノ土砂河口ニ流下シ來リテ堆積スルヲ以テ船舶ノ出入ヲ妨ゲラレ不良ノ狀態ニ陷ルノ虞アルヲ以テ差當リ現在出入船舶ノ狀況ニ鑑ミ之ニ適應スル事ニ止ムル事トシ突堤ヲ築キ浚渫ヲ爲シ以テ干潮面下四米五ノ水深ヲ保持セシムルモノトス

支川岩見川ハ其合流點附近ノ河狀不自然ナルガ爲メ一朝洪水ニ際シテハ其慘害怖ルベキモノアルヲ以テ現在ノ流末水路ヲ附替ヘ適當ノ築堤ト掘鑿トヲ施シ洪水ノ防禦ニ備フルモノトス

本工事施工部ハ前述ノ如ク多クハ無堤地ニ屬シ河幅一定セザルヲ以テ河狀ニ應ジ築堤ヲ以テ河幅ヲ制限シ左ノ標準ニ依リ之ヲ整正セントス

區間	堤防中心間ノ距離	備考
新川ノ部	三五五米	高水敷幅ヲ示ス

自新川ノ入口 至4/2	六〇〇
自4/2 至椿川	三八〇—六〇〇
支川岩見川	一四五—一八〇

堤防ハ幹支川共馬踏五米五、表法二割トシ天端以下三米五ニ幅九米（支川岩見川ハ三米五）ノ小段ヲ設ケ以下三割法トス裏法ハ上部ヲ二割五分トシ天端以下二米五ニ幅三米五ノ小段ヲ設ケ其レヨリ下部三割トス而シテ法先ノ水中ニ沒スル所ハ相當ノ犬走下埋ヲ施ス天端高ハ幹川ニ於テハ計畫高水位ヨリ一米五トシ支川岩見川ニ於テハ一米乃至一米五トス新川下流突堤ニ接續スル部分ハ馬踏七米表法一割五分ニシテ護岸ヲ施シ裏法ハ二割トス

施工狀況

本改修工事ハ大正六年度ノ創業ニシテ翌大正七年度ニ於テ一部ノ土地買收ヲ行ヒ大正八年度ヨリ河邊郡新屋町地内新川開鑿工事ニ著手シ爾來十箇年度間改修ノ主力ヲ此主要工事ニ傾注シ漸次上流部ノ施工ニモ及ボセリ追次工事用諸機械設備漸ク完備充實ノ域ニ達シタリト雖モ年度割工費ノ減少ニ因リ本年度ニ於テモ前年度同樣十分ナル活動ヲ爲ス能ハザリキ

掘鑿工事ハ新川開鑿工事ニ於テ短梯掘鑿機三臺ヲ操業シ土量五十三萬九千七百二立方米ト外ニ人力掘鑿土量八萬五千二百六十二立方米ヲ施工セリ即チ本年度六十二萬四千九百六十四立方米、起工以來ノ累計八百五十六萬八千八百八十九立方米ニシテ新川開鑿計畫土量ニ對シ六割二分ヲ竣功セリ其他ハ二箇

所トシテ四ツ小屋第二掘鑿一萬九千六百三十二立方米及新屋掘鑿九千八百四立方米ノ掘鑿土運搬ヲ爲シ本年度合計六十五萬四千四百立方米ナリ

築堤工事ハ本年度施行二箇所ニシテ四ツ小屋第二築堤一萬九千四十三立方米、石田坂第一築堤ハ一萬六千七百九十立方米（内九千百二十九立方米ハ附近民有地ヨリ無償採取搬入）、合計三萬五千八百三十三立方米ノ築立ヲ施行セリ

新川開鑿部ニ於ケル法留工ハ本年度芝付面積一千九百八十平方米ニシテ累計六萬六千三百五十二平方米ノ芝張工ヲ施セリ

本川土崎港口ニ於ケル假突堤ハ多期ノ激浪ト春夏ノ出水トニ因リ辨慶枠内ノ捨石散亂セルモノアリシヲ以テ捨石ヲ補充シ其原形維持ニ努メタリ其他右岸假突堤根部附近縣設護岸ノ破損ニ因リ漸次陸地ヲ侵蝕シ假突堤ニモ惡影響ヲ及ボサントスルニ至リタルヲ以テ合掌枠假護岸ヲ施工シ之ヲ防止セリ

工事用石材採取ハ本年度二千百六十五立方米ニシテ所要地ヘノ運搬量七百立方米ナリ運搬諸設備モ完成シ唯其需要ヲ待ツノミナリ

附帶工事トシテハ幹川左岸河邊郡豐岩村石田坂字九十田ニ於ケル石田坂樋門新設及排水路附替工事ヲ施行シタルモノニシテ同部落ノ排水路ハ雄物川改修新堤ニ遮斷セラルルガ故ニ鐵筋混凝土造ノ樋門ヲ新設シ同時ニ別ニ一小排水路ノ附替ヲ爲サントスルモノナリ昭和三年五月十九日著手殆ド竣功セルモ土留石垣及埋戻工ヲ殘シ多期ニ入リ施工シ能ハザルニ至リ年度ヲ越セリ

土地買收ハ工事ノ進捗ニ伴ヒ必要缺クベカラザル程度ニ止メ川敷地トシテ本年度完了セルハ十三町三段其金額四萬九千二百十七圓ナリ

改修工事ノ本年度竣功高三十九萬四千七百四十八圓ニシテ起工以來本年度迄ノ竣功高ハ六百二十五萬四千四百九圓ナリ總工費豫算一千百七十萬圓ニ對シ約五割三分ノ竣功トス其工事竣功表左ノ如シ

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	掘鑿	立方米 八、九五六、六九五	円 二、〇三〇、二八五	立方米 六五四、四〇〇	円 一六二、九六二	立方米 九、六一一、〇九五	円 二、一九三、二四七	割分 〇・六三
	築堤	七六〇、九五九米	五〇、一七一	三五、八三三米	九、三五五	七九六、七九二米	五九、五二六	〇・三九
	護岸水制	九三八箇所	六四、〇一四	—	二、〇三一	九三八箇所	六六、〇四五	—
	突堤	未竣功 一箇所	三四、四六五	未竣功 一箇所	三三九	未竣功 一箇所	三四、八〇四	—
用地費		三、三七九段	四七九、二〇四	一三三段	四九、二一七	三、五一二段	五二八、四二一	〇・七〇
附帶工事費		竣功 二箇所 未竣功 —	六〇、三七七	竣功 — 未竣功 一箇所	七、五七四	竣功 二箇所 未竣功 一	六七、九五一	—
船舶及機械費		—	二、三二一、一四三	—	八九、六〇五	—	二、四一〇、七四八	—
測量費		—	四三、二一三	—	三、〇九一	—	四六、三〇四	—
營繕費		—	一〇二、六九七	—	一、八〇二	—	一〇四、四九九	—
雜費		—	六五六、七一二	—	六四、八六一	—	七二一、五七三	—
共濟組合給與金		—	一七、三八〇	—	三、九一一	—	二一、二九一	—
總計		—	五、八五九、六六一	—	三九四、七四八	—	六、二五四、四〇九	〇・五三

第八　淀川改修增補工事

緒　言

淀川改修工事ハ明治二十九年度ニ起リ同四十四年度ニ於テ工費一千六百萬餘圓ヲ以テ滋賀縣瀨田川以下海ニ至ル高水工事ヲ一旦結了シタルモ大正六年十月計畫高水ニ達スル大出水ニ際シ右岸大冠村地先淀川本堤竝ニ改修區域外ナル支川數箇所ニ破堤ヲ生ズルニ至レリ之レガ爲メ直接損害高六百餘萬圓ニ上リ其他交通衞生ノ障害ニ因ル間接ノ影響ハ實ニ計數ヲ以テ揣リ難キモノアリ政府當局ニ於テモ此慘害ニ鑑ミ尙增補工事ヲ行ヒ安全ヲ計ルノ緊急ナルヲ認メ京都府伏見町以下海ニ至ル五十一粁ノ區間ヲ大正七年度以降同十二年度ニ至ル六箇年度間繼續事業トシテ工費五百七十六萬圓、俸給事務費二十一萬圓、合計五百九十七萬圓ノ豫算ヲ以テ高水工事ヲ施行スルコトトナレリ其後歐洲大戰ノ影響ヲ受ケ物價勞銀暴騰ノ爲メ大正十二年度ニ於テ施行年限ヲ大正十五年度迄三箇年度ヲ延長スルト共ニ工費ヲ一千二百一萬三千五十一圓ニ增額スルコトトナリシガ財政上ノ都合ニ依リ大正十四年度以降年割額ヲ變更シ施行年限ヲ一箇年度延長シ昭和二年度竣功ノ豫定ヲ以テ施行中ノ處尙追加施行ノ必要ヲ生ジ本年度ニ於テ工費增額二百五十五萬七千圓施行年限延長三箇年度即チ總工費一千四百五十七萬五十一圓ニシテ昭和五年度竣功ノコトトナレリ

河狀竝計畫大要

淀川ハ流域八千二十平方粁ニシテ其內五割弱ハ琵琶湖ノ水域二割ハ木津川、一割三分ハ桂川、殘餘ノ二割

弱ハ本流沿岸ノ水域ニ屬ス幹川流路ノ延長ハ湖水流出口、伏見間三十粁、伏見以下海口間四十六粁、合計七十六粁ニシテ其滋賀縣ニ屬スル部ヲ瀨田川、京都府ニ屬スル部ヲ宇治川ト稱ヘ京都、大阪兩府界ナル山崎ニ於テ宇治、木津、桂ノ三川合流シテ淀川本流トナル

流域內耕宅地ノ總面積ハ約十九萬八千ヘクタールトス其內沿岸平坦部ハ琵琶湖沿岸三萬四千七百ヘクタール、山城平地部一萬五千九百ヘクタール、攝河平野三萬四千七百ヘクタール、合計八萬五千三百ヘクタールニシテ本川改修ト密接ノ利害關係ヲ有スルモノナリ

既往調査ノ結果ニ依レバ洪水ノ最大流量ハ宇治川每秒八百三十五立方米、木津川四千六百五十立方米、桂川一千九百五十立方米、三川合流以下淀川本流五千五百六十立方米トス低水流量ハ淀川本流平均低水位ニ於テ每秒百九十五立方米餘ニシテ如何ナル渴水時ト雖モ八十三立方米ヲ下ルコトナシ但シ渴水ノ大部分ハ宇治川ヨリ來ルモノニシテ琵琶湖貯水ノ放流ニ因ルモノナリ

今回ノ改修區域ナル伏見以下幹川ノ水面勾配ハ高水、低水共ニ概ネ三千分ノ一以下ノ緩流ニシテ舟運上最モ利用セラルル區域ナリ增補工事ノ計畫ハ大正六年十月ノ洪水ニ鑑ミ第一伏見觀月橋以下ニ於ケル堤防ノ餘裕ヲ同年ノ洪水位以上一米二乃至一米五ニ增築スルコト第二、伏見町ノ浸水ヲ防止スル爲メ新堤ヲ築造スルコト第三、三川合流附換ヲ爲スコト第四、橋本下流ニアル中洲ヲ除去スルコトヲ主要ナル工事トス尙前改修ニ於テハ包含セザリシ各支川堤防モ幹川洪水ノ及ブ範圍ニ限リ相當補强スルコトトセリ

幹川堤防ハ馬踏幅大體五米五、所定高水位以下零米六及三米三ノ處ニ各幅三米七ノ裏小段ヲ同上三米ノ處ニ幅九米一ノ表小段ヲ設ケ法勾配ハ表小段以上二割、同以下三割、裏上部小段以上二割、同以下二割五分

ヲ標準斷面トシ地形及地質ニ應ジ小段ニ多少ノ變更ヲ爲ス大體ハ外腹付ナルモ地形上之ヲ許サザル區間及屈曲矯正箇所ハ内腹付トス

三川合流以下堤防高ハ所定高水位以上一米五トシ非常特別流量毎秒六千六百八十立方米ヲ疏通シ猶堤防ニ零米九ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ宇治川筋ハ木津川合流點附換ニ依ル水位低下ヲ豫想シ所定高水位以上一米二ニ止ムルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年五月調査測量ヲ開始シ同年末略ボ之ヲ終ヘ同八年二月ヨリ大阪府枚方町ニ事務所ヲ置キ工事ニ著手セリ爾來水防上比較的不安ナル重要區域ニ對シ先ヅ以テ工事ヲ進ムル方針ニテ人員及土工機具ヲ配置シ專ラ築堤、中洲掘鑿及護岸ノ普及ヲ計レリ

本年度迄ノ竣功總高ハ築堤八百五十四萬五千餘立方米工費二百四十五萬八千餘圓、掘鑿及浚渫五百七十萬八千餘立方米工費百七十三萬七千餘圓、護岸水制延長四萬五千餘米工費百六十三萬七千餘圓、閘門洗堰及樋門等ノ特種工事六箇所竣功額五十五萬八千餘圓ニシテ其内本年度竣功高ハ築堤七十六萬四千餘立方米工費十五萬二千餘圓掘鑿及浚渫七十六萬七千餘立方米工費二十三萬五千餘圓、護岸水制延長五千二百餘米工費二十七萬一千餘圓、特種工事二箇所分工費二十萬五千餘圓ナリ

以上本工事ノ竣功總高ハ計畫全量ニ對シ略ボ九割ニ當ル此外用惡水樋門道路橋梁等附帶工事モ大部分竣功又ハ目下施工中ニ屬シ今後著手スベキモノハ左岸枚方以下八樋管其他ニシテ數フルニ過ギズ今之レガ施工ノ概況ヲ上流部ヨリ順次述ブレバ次ノ如シ

伏見横大路向島方面　此方面ノ主ナル工事ハ伏見締切新堤竝ニ之レニ伴ヒ必要ヲ生ジタル派川平戸川締切樋門、三栖閘門及洗堰、高瀨川附換、京都市疏水放水路新設、電車橋二箇所府道橋二箇所ニシテ其他ハ在來築堤ノ嵩置腹付竝ニ伏見及横大路護岸等ナリ以上ノ内本年度ニ於テ其大部ヲ竣功セシメ僅カニ高瀨川築堤及護岸ノ一部ヲ殘スノミトナレリ

築堤ハ凡テ堤外中島機械掘鑿土砂ヲ使用スルモノニシテ本年度迄ノ掘鑿運搬土量ハ七十八萬九千餘立方米此工費二十四萬九千餘圓ニシテ本年度ノ運搬土量ハ十九萬六千餘立方米此掘鑿運搬費ハ五萬二千餘圓ナリ目下引續キ施工中ニシテ土量ハ高瀨川築堤ニ使用ス本川築堤ハ本年度ニテ全部竣功シ右岸土量三十七萬九千餘立方米工費十五萬圓、左岸土量十八萬三千餘立方米工費十一萬二千餘圓ナリ

本川護岸ハ昭和二年度ニ於テ全部竣功シ其主ナルモノハ伏見及横大路護岸延長二千三百餘米工費十一萬九千餘圓ナリ平戸閘門ハ工費五萬七千餘圓ニシテ大正十四年度末竣功シ三栖洗堰ハ所要工費約十萬二千圓ニテ昭和二年度竣功ス三栖閘門ハ工費約三十萬二千圓ヲ以テ本年度末竣功セリ高瀨川附換關係ノ工事ハ築堤其他ノ土運搬約六十八萬立方米餘ノ内約九割ヲ終ヘ目下殘工事ノ進行ニ努メツツアリ新川横斷ノ府道橋二箇所及京阪電車橋ハ竣功シ其他用惡水樋五箇所竣功セリ其他道路及用惡水工事ハ其内二三ノモノヲ除キテハ目下施行中ニ屬ス疏水放水路工事ハ上流分流點ニ於ケル制水門ヲ除キ其他ハ竣功セリ

淀、御牧方面　此方面ハ前回ノ淀川改修ニ依リ附換ヘラレタル新宇治川堤防ノ嵩置腹付ヲ爲スモノニシテ左岸ハ木津川舊落合附近迄、右岸ハ淀大橋迄何レモ昭和元年度ヲ以テ竣功セリ此土量左岸二十八萬二千餘立方米工費十七萬四千餘圓、右岸ハ淀大橋ヨリ下流ノ美豆築堤ハ三川合流工事ノ掘鑿土砂ヲ利用シ

テ本年度竣功セリ之レヲ以テ右岸築堤全部竣功ス其土量三十一萬七千餘立方米工費十萬二千餘圓ヲ要セリ左岸美豆村地先淀大橋下流堤防裏法先惡水路沿ヒ石張延長一千六百九十一米ハ工費一萬三千餘圓ニテ大正十四年度竣功ス

宇治、木津、桂三川合流方面　三川合流附換工事ハ宇治川ニ對スル木津川洪水ノ害ヲ緩和スル目的ニシテ現在ノ宇治、桂隔流堤ノ上半ヲ切リ取リ之レニ宇治川低水路ヲ通ジ殘部下半ヲ現在ノ木津、宇治兩川末端剱先堤防ニ取付クルモノナリ之レニ伴ヒ施行スベキ工事ハ桂川右岸山崎引堤、桂川低水路ノ附換、宇治川新低水路ノ開鑿、宇治桂脊割堤竝ニ用惡水路樋門移轉等ノ工事ニシテ此掘鑿運搬土量約百二十萬立方米、護岸延長約七千米、總工費約百萬圓ナリ此内施行順序上最モ急ヲ要スル山崎引堤ハ用地買收ノ調停漸ク昭和元年度末ニ解決セルヲ以テ前年度ニ於テ極力工事進捗ニ努メ引堤土量ノ八割餘ヲ施行シ本年度ニ於テ其殘部ヲ完了シ全土量四十三萬八千餘立方米ヲ要セリ又之レト關連セル樋門四箇所ノ移轉工事ハ本年度ニ於テ何レモ竣功セリ

大山崎掘鑿(舊堤除却ヲ含ム)ハ大正十四年度ヨリ著手シ本年度ニ至リ竣功ス土量五十三萬三千餘立方米此土砂ハ主ニ大山崎引堤工事ニ使用セリ此掘鑿運搬工費十七萬九千餘圓ナリ桂川低水路附換ハ前年度末ニ於テ舊川締切、新川通水ヲ行ヒ宇治川新低水敷開鑿ハ現在宇治、木津隔流堤末端部以西ノ掘鑿ヲ概略了ヘ尙昭和三年七月ヨリ全新堤水路ノ開鑿ニ著手シ同年十月末ヨリ新低水路ニ當ル現在隔流堤上半約四百米ヲ掘鑿除去シ愈新川ノ開鑿略ボ完成セルヲ以テ昭和四年二月十日始メテ新水路ニ通水ス之レヨリ先キ舊宇治川流末一部ノ締切ニ著手シ新水路ニ通水ト同時ニ之レガ締切ニ主力ヲ注ギ隔流堤裏護岸ヲ兼用シテ沈床工ヲ施行シ二月十九日完全ニ流水ヲ遮斷スルニ至レリ玆ニ於テ現在宇治川ヲ遮斷シテ

長サ約六百米ノ隔流堤築造ニ全力ヲ傾注シ全作業ノ能力ヲ發揮シテ一日ノ築造土量三千立方米以上ニ及ベリ依テ本年度末ニ於ケル築立土量ハ十七萬六千餘立方米ヲ算シ全土工ニ對シ八割ノ功程ヲ見タリ因ニ締切ニ使用セシ土工機械ノ主ナルモノハ二百噸掘々鑿機二臺、二十噸及五噸機關車各二臺及浚渫船三隻ナリ

宇治、桂兩川新低水路間ノ脊割堤土工及護岸ハ前年度ニ引續キ施行シ來リ本年度ニ於テ沈床ヲ竣シ殆ンド竣功セリ此外八幡町地內淀川本流筋左岸築堤護岸及木津川筋兩岸築堤ハ既ニ完了ス此築堤土量二十七萬五千餘立方米工費十三萬六千餘圓、護岸延長一千九百米工費三萬三千餘圓ヲ要セリ

樟葉牧野島本五領方面　此方面ノ工事ハ在來堤防ニ對スル嵩置腹付中島掘鑿及護岸ニシテ起工以來引續キ施工ノ結果略ボ竣功セリ前年度ヨリ引續キ施行中ノ右岸五領村前島築堤ハ本年度竣工セリ殘工事ハ僅ニ府界ニ近キ電車軌道併用堤防四百米ノミナリ掘鑿土量ハ樟葉村六十萬九千餘立方米、牧野村六十三萬餘立方米、島本村十七萬三千餘立方米、五領村三十四萬三千餘立方米、合計百七十五萬五千餘立方米ニ達ス此內機械掘鑿約百萬立方米工費二十二萬八千餘圓ニシテ掘鑿土砂ハ大部分築堤ニ利用セリ護岸ノ主ナルモノハ上牧護岸延長四百五十五米、前島護岸延長一千七百米合計二千百五十五米工費十四萬三千餘圓ヲ要セリ

枚方、大冠、三箇牧方面　此方面ハ水防上重要區域ナルヲ以テ大正八年著工以來極力築堤土工ノ進捗ヲ計リ表小段上九十糎迄ノ腹付ハ既ニ大正十年度迄ニ大體終了シ大正十年九月ノ出水ハ枚方標最高五米四十四糎ヲ示シ同六年ノ大洪水ニ比シ僅ニ十二糎ノ下位ニシテ馬踏以下一米ニ達スル大出水ナリシモ水防上危險ト認ムル事故ヲ見ザリキ之レ殆ド前例ナキ事實ニシテ增補腹付工事進捗ノ效果ト認ムルヲ得

べシ其後機械掘鑿土砂ヲ利用シ計畫馬踏高迄ノ嵩置腹付ヲ施シ昭和元年度迄ニ本支川全部竣功セリ但シ蹉跎村字出口樋門及友呂岐村字木屋樋門箇所ハ枚方以下左岸八樋管合同ノ議目下進行中ノ爲メ擴築未濟ナリ

蹉跎村、友呂岐村、大冠村及三箇牧村地先高水敷又ハ中島ノ掘鑿ハ主トシテ機械ニ依リ大正九年度以降同十四年度迄ニ完了セリ此掘鑿土量百三十六萬四千餘立方米工費三十八萬七千餘圓ナリ掘鑿土砂ハ凡テ下流方面ニ運搬シ左岸庭窪村及守口町右岸大阪市部江口町、大道町、豐里町方面ニ於ケル築堤土砂ノ不足ヲ補ヒタリ之レガ爲メ運搬距離遠キハ十粁ニ及ビ運搬用機關車ハ常時一線ニ二臺ヲ使用セリ大冠掘鑿ハ大正十一年度ニ了ル此土量ハ五十四萬二千餘立方米工費十五萬九千餘圓ニシテ大部ハ大冠築堤、一部ハ三箇牧築堤ニ使用ス大冠築堤土量ハ五十二萬六千餘立方米工費十三萬四千九百餘圓ナリ

護岸ハ凡テ大正十二年度迄ニ竣功シ此總延長七千五百餘米工費二十三萬九千餘圓ナリ此内主ナルモノハ左岸枚方護岸延長一千九百十八米工費五萬一千三百餘圓、右岸三箇牧護岸延長三千四百二十五米工費十四萬九千百餘圓ナリ何レモ幅三米六十糎乃至四米五十糎ノ石張ニシテ根固トシテ杭打又ハ粗朶沈床ヲ施工ス

佐太、鳥飼方面　此方面モ枚方方面ト同樣急速腹付施工ノ必要アルヲ以テ表小段上九十糎高迄ハ大正十一年度迄ニ略全區域ニ亙リ施工ヲ終リ其後上流部洪水敷機械掘鑿土砂ヲ利用シ大正十四年度迄ニ全築堤ヲ完成セリ殘工事ハ左岸二樋管工事ノミニシテ樋管合同ノ議解決ヲ俟ツテ施行ノ豫定ナリ

築堤土量ハ左岸九箇莊村二十二萬餘立方米、庭窪村四十四萬餘立方米、右岸鳥飼村三十五萬二千餘立方米、味生村十萬三千餘立方米、中洲掘鑿ハ九箇莊機械及人力掘鑿土量十六萬六千餘立方米、工費四萬一千七百

餘圓、鳥飼機械及人力掘鑿土量十一萬五千餘立方米工費四萬二千百餘圓ナリ掘鑿土砂ハ何レモ大部分下流部築堤箇所ニ運搬セルモノナリ

護岸ハ何レモ大正十二年度迄ニ竣功シ其總延長九千五百七十米工費三十八萬四千餘圓ヲ要セリ工法ハ上流部ト同樣ノ石張護岸ニシテ之レヲ村別ニ區分スレバ左岸九箇莊村三千三百四十五米工費十萬四千餘圓、庭窪村二千四百四十五米工費十四萬一千餘圓、右岸鳥飼村三千七百八十米工費十三萬九千餘圓ナリ

守口大道豐里方面　此方面ハ上流各樋門ト合同ノ議懸案トナレル左岸二樋門箇所築堤ヲ除ク他ノ工事ハ全部竣功ス築堤ノ土量ハ左岸橋寺、赤川間二十六萬五千餘立方米、右岸大道町六萬七千餘立方米、豐里町二十四萬立方米ニシテ此方面ハ全川中土砂最モ拂底ニシテ何レモ地先中洲採取土砂ノミニテハ不足セシヲ以テ上下流中洲掘鑿土砂ヲ以テ補充セリ

護岸ノ竣功總延長二千六百七十四米工費五萬九千七百餘圓ニシテ凡テ石張護岸トシ大正十四年度迄ニ竣功セリ

毛馬、赤川、柴島方面　此方面ノ築堤ハ大正十三年度ニ著手シ昭和元年度ニ全部完了セリ此總土量左岸毛馬町及赤川町二十二萬八千餘立方米、右岸柴島町十二萬九千餘立方米ニシテ毛馬及赤川ハ地先川中寄洲ヨリ土砂ヲ自辨採取シ柴島ハ地先洪水敷掘鑿土砂ヲ利用セリ柴島築堤ハ交通頻繁ニシテ堤沿ハ人家櫛比シ殊ニ馬踏ヲ府道ニ利用セル箇所ノ嵩置腹付ナルヲ以テ施工上最モ困難セリ前年度ヨリ施行中ノ毛馬町地先高水敷人力掘鑿工事ハ本年度ニ於テ竣功セリ其土量凡六萬六千餘立方米ナリ

柴島護岸ハ昭和三年度ニ完成セリ此延長五百五十四米工費二萬四千餘圓ヲ要セリ

新淀川方面　左岸築堤ハ大正十四年度ニ著手シ下流傳法町ヨリ上流ニ向ツテ工事ヲ進メ本年度竣功セ

リ土量三十六萬一千餘立方米工費十九萬二千餘圓ナリ右岸新淀川右岸第一築堤ハ昭和元年度ノ著手ニシテ下流ニ向ツテ進ミ本年度末迄ニ凡ソ二十三萬八千餘立方米ノ土運搬ヲ終リ右岸全築堤ニ對シ約六割ノ功程ニ達ス

長柄護岸ハ延長九百米内百三十四米ハラルゼン一號型鐵矢板、七十二米ハテルルージユ二號型鐵矢板、六百九十四米ハ鐵筋混凝土矢板護岸トシ深掘ノ箇所ニハ粗朶沈床ヲ施工スルモノトシ昭和二年五月著手以來極力工事ノ進捗ヲ計リ昭和二年度末迄ヨ矢板打ハ略終了シ引續キ沈床及石張ヲ施行シ本年度末竣功セリ工費十一萬六千餘圓ナリ

毛馬閘門及洗堰補修工事ハ昭和三年十一月著工日夜工ヲ急ギ本年度末ニ於テ閘門ハ制水扉室ノ築造及壁體繼足ノ大部ヲ了シ閘扉ノ補修取付ヲ完了セリ洗堰ハ移動締切枠ヲ使用シ堰柱ノ繼足ヲ爲スモノトシ本年度末迄ニ左右橋臺及堰柱四本ノ繼足ヲ略ボ完了セリ本年度ニ於テ長柄地先高水敷掘鑿ヲ了シ茲ニ床固水制ヲ施設スルト共ニ長柄固定堰天端ノ切下ヲ施工セリ長柄起伏堰上下流ノ低水路護岸ハ延長八百四十米ニ亙リ施行中ナリシガ本年度末ニ於テ略ボ竣功セリ

今後起工スベキ工事ハ長柄給水工ニシテ來年度冬期ヲ期シテ施行セントス

附帶工事　附帶工事トシテ施行セル工事ノ起工以來本年度末迄ノ竣功工費百八十一萬七千餘圓(內國庫補助額百八萬一千餘圓)施行場所五十三箇所ニシテ本年度竣功高ハ工費五十五萬五千餘圓(內國庫補助額二十七萬二千餘圓)施行場所十九箇所ナリ

本年度竣功附帶工事ノ主ナルモノハ京阪電車桁上ゲ工事三箇所三十七萬五千餘圓、府道橋細手橋三萬四千餘圓、大池樋門補修工事三萬八千餘圓、大山崎村用惡水工事五萬六千餘圓、八幡樋門補修八千九百餘圓、神

崎川樋門改築工事五萬六千餘圓、其他伏見町用惡水樋管三箇所七千餘圓、下鳥羽及下三栖樋管工事冠用水樋管補修竹田村用惡水工事等ナリ

用地買收　起工以來本年度迄ノ總支出額ハ前年度末ト同ジク百七十五萬一千餘圓ニシテ其內田畑三百三十一町餘價額百三十九萬九千餘圓、宅地工場敷地ハ二町七段餘價額八萬三千五百餘圓、雜種地六十七町六段餘價額十萬六千九百餘圓、地上物件移轉補償等十六萬一千餘圓ニシテ何レモ圓滿ニ各所有者ノ應諾ヲ得タルモノナリ而シテ本年度末ニ於ケル未解決數件中ニハ協議買收ノ見込ナキモノアリ此等ニ對シテハ土地收用法適用ノ手續中ナリ

以上工事ノ狀況ヲ綜合スルニ京都府下ニ於テハ伏見觀月橋以下本川筋兩岸ノ築堤、護岸等ハ大略終了シ三川合流附換關係工事モ進捗シ殆ド其主要部分ノ工事ヲ完成セシメタリ大阪府下ニ於テハ京都府界以下左岸ハ枚方以下八樋管箇所ヲ除キ殆ド竣功シ右岸モ大阪市姫島町ニ至ル間ノ諸工事ヲ完成セシメ全改修工事ニ於ケル主要ナル工事ハ殆ド完了セリ

淀川增補工事ノ本年度竣功額ハ百三十七萬四百九十七圓ニシテ起工以來ノ累計一千三百一萬二千八百二十六圓ナリ之レヲ總工費（事務費ヲ含マズ）豫算一千四百三十五萬七千四百七十七圓ニ比較スルトキハ八割九分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「＊」ハ利用土量「○」ハ無償品評價額「▲」ハ提供品價額及勞力費「×」ハ占用補償「□」ハ管理者負擔額「△」ハ製作品使用價額「◉」ハ千住機械工場委託製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
築堤	立方米 三、六四一、〇〇二 ＊四、一三九、一八一	円 二、三〇五、二四四 ○二七、五七二 ▲二〇、三三六	立方米 二〇〇、〇七一 ＊五六四、七六八	円 一五二、九八二 ▲四、九六六	立方米 三、八四一、〇七三 ＊四、七〇三、九四九	円 二、四五八、二二六 ○二七、五七二 ▲二五、三〇二	割分 〇・九三

本工事費　掘鑿	四、八九三、九八〇	▲○ 一、四九〇、二六一 / 三、九六七 / 八二、六九三	六五五、三〇七	▲○ 一八四、五二四 / 二五五 / 一三、七二一	五、五四九、二八七	▲○ 一、六七四、七八五 / 四、二二二 / 九六、四一四	〇・九四
浚渫	四七、三三一	▲ 一一、一六一 / 九、〇二七	一一二、二五二	▲ 五一、二七七 / 九五六	一五九、五八三	▲ 六二、四三八 / 九、九八三	
護岸水制	三九、八四八米	▲○ 一、三六六、〇一一 / 三一、六四四 / 三〇、九二〇	五、二五一米	▲○ 二七一、二九三 / 一二、六二二 / 二、八〇二	四五、〇九九米	▲○ 一、六三七、三〇四 / 四四、二六六 / 三三、七二二	〇・七六
特種工事	竣功・未竣功 — 四箇所	▲○ 三五三、〇三八 / 七七四 / 五九	竣功・未竣功 三二箇所	▲○ 二〇五、八八三 / 一、三二四 / —	竣功・未竣功 三六箇所	▲○ 五五八、九二一 / 二、〇九八 / 五九	〇・八〇
用地費	× 四、〇一四一段	× 一、七四七、六六五 / 四、一一六	× — 段	× 一九四 / —	× 四、〇一四一段	× 一、七四七、八五九 / 四、一一六	—
附帶工事費	竣功・未竣功 三七四箇所	□○ 八〇八、九六六 / 一五、六五四 / 二七八、一五七	竣功・未竣功 一四五箇所	□○ 二七二、〇四五 / — / 一一〇、一七六	竣功・未竣功 四四九箇所	□○ 一、〇八一、〇一一 / 一五、六五四 / 三八八、三三三	〇・六〇
船舶及機械費	—	◉ 二、二七四、九三七 / 一九、二二四	—	◉ 八三、二七七 / —	—	◉ 二、三五八、二一四 / 一九、二二四	—
測量費	—	△ 四五、五五一 / 三六〇	—	△ 五、七九〇 / 三五	—	△ 五一、三四一 / 三九五	—
營繕費	—	○ 一五九、九二六 / —	—	○ 一〇、〇九四 / 七	—	○ 一七〇、〇二〇 / 七	—
雜費	—	○ 一、〇一七、七一〇 / 七五九	—	○ 一二五、八二七 / 二〇二	—	○ 一、一四三、五三七 / 九六一	—
亡失毀損	—	一、〇〇五	—	—	—	一、〇〇五	—
共濟組合給與金	—	三七、五一三	—	七、三一一	—	四四、八二四	—
總計	—	◉□▲ 一二、六二三、一〇四 / 一四三、〇三五 / 二七八、一五七 / 一九、二二四	—	◉□▲ 一、三七〇、四九七 / 二二、四四五 / 一一〇、一七六 / —	—	◉□▲ 一三、九九三、六〇一 / 一六五、四八〇 / 三八八、三三三 / 一九、二二四	〇・八九

第九　多摩川改修工事

緒言

本工事ハ當初明治三十年法律第三十七號ニ依リ河川改良費トシテ大正七年度ヨリ同十四年度ニ至ル八箇年度繼續事業トシ工費五百六十萬圓、事務費二十八萬圓、合計五百八十八萬圓ヲ以テ左岸東京府北多摩郡砧村、右岸神奈川縣橘樹郡高津村以下海ニ至ル約二十二粁ヲ改修スル計畫ナリシガ歐洲大戰以來勞銀及諸物價ノ昂騰ヲ來セル爲メ當初ノ豫算ニテハ到底遂行シ能ハザルヲ以テ同十二年度ニ至リ總工費ヲ七百七十六萬二千圓ニ增額シ同時ニ改良費ヲ治水費ニ改メ河川法第八條ニ依リ施行スルコトトナリ施行年限ヲ昭和三年度迄延長セシガ其後更ニ二箇年度ヲ延長シ同五年度迄ニ竣功セシムルコトトセリ

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流靑梅ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ更ニ秋、淺ノ二支川ヲ合流シ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ流レ下流東京府荏原郡羽田町ニ至リ海老取八幡等數條ノ澪ヲ分岐シテ東京灣ニ注グ流路延長百二十八粁、流域一千六十四平方粁ニ過ギザルモ其清流ハ東京市ヲ初メ附近一帶ノ飲料水トシテ上水ノ源ヲ爲ス外沿岸ノ灌漑、下流部ノ舟楫等其利便尠シトセズ然レドモ其水路ハ京濱間ヲ貫流スルヲ以テ其利害ハ直接帝都ニ係リ一朝溢水破堤ノ慘ヲ見ンカ其損害實ニ甚シキモノアリ今既往明治四十三年乃至大正八年ニ於ケル水害損失額ヲ算スレバ一箇年平均約五十萬圓ヲ下ラザルノミナラズ交通ノ杜絕、衞生其他ニ因ル損害蓋シ計ルベカラザルモノアルベシ

改修ノ計畫ハ既往ノ洪水量ヲ參酌シテ定メタル毎秒四千百七十立方米ノ水量ヲ快疏スベキ河積ヲ有セシムル爲メ從來ノ無堤、霞堤等廣狹一樣ナラザルモノヲ河狀ニ應ジ上流三百八十米、河口五百四十五米ノ間ニ河幅ヲ整正シ其兩岸ニ天端ヲ計畫高水位上一米五トシ馬踏五米五、兩法各二割川裏ニ一米八下リテ三米ノ小段ヲ附シタル堤防ヲ新設又ハ舊堤ヲ擴築シテ其高水敷ヲ定メ障害物ヲ除却シテ流水ヲ圓滑ナラシメ尙河積不足ノ箇所ハ掘鑿或ハ浚渫シテ之ヲ補フコトトセリ

低水路ハ上流ニ於テハ平均干潮時水深一米五、底幅七十三米トシ漸次擴大シテ河口ニ至リ水深三米六底幅百四十六米ニ達セシメ以下澪筋ニ於テ水深三米六、底幅百十米ヲ保持セシムルコトトス

其他水流急ナル箇所ニハ護岸工事ヲ施行シ又惡水路樋門竝水路附替等ノ附帶工事ヲ施行スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度創業直ニ所要土地ノ買收調査ニ著手シ翌八年四月川崎市小向（元橘樹郡御幸村）ニ土地收用事務所ヲ設置シ同年度內ニ全部ノ查定ヲ了リ同九年五月ヨリ買收ヲ開始シ以來同十三年十一月迄ニ其大部分買收濟トナリシヲ以テ同月限リ事務所ヲ閉鎖シ殘餘ハ改修事務所ニ於テ處理スルコトトシ本年度迄ニ總段別四百二十二町一段九畝十四歩餘（計畫ノ九割九分）ヲ買收シ用地費二百五十萬九千四百三圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ同八年六月改良事務所（同十二年度改修事務所ト改稱）ヲ同所ニ設置セシガ縣道改修其他ノ都合ニ依リ同十四年十二月川崎市久根崎ニ移轉セリ

工事ハ河狀及掘鑿ノ高低、土量ノ多少等ヲ考慮シ同九年十月先ヅ人力掘鑿ヲ開始シ傍ラ機械ノ購入其他

ノ準備ニ努メ同十年十月ヨリ機械掘鑿ヲ、同十三年四月ヨリ鋤簾式及喞筒式浚渫船ヲ使用シ低水路機械浚渫ニ著手シ本年度迄ニ總土量六百七十一萬二千百八十六立方米ヲ擧ゲ計畫ニ對シ約九割七分ヲ竣成セリ築堤ハ全部掘鑿土ヲ利用シ本年度迄ノ功程ハ土量二百四十三萬三千三百九十一立方米ヲ算シ漸次築立及芝付ヲ施工シ計畫ニ對シ是亦約九割二分ヲ竣成シ護岸ハ約八割ヲ竣成セリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ浚渫工事ハ左岸矢口、六郷、羽田、右岸川崎ノ各市町地先ニ於テ機械浚渫ニ依リ四箇所、川崎地先ニ於テ機械掘鑿ニ依リ二箇所及左岸東調布、矢口、六郷、右岸中原、川崎各市町地先ニ於テ人力掘鑿ニ依リ九箇所ヲ施工シ内川崎地先ニ於ケル機械掘鑿一箇所、六郷及中原地先人力掘鑿四箇所ヲ竣功シ土量五十三萬六千百七十八立方米ヲ擧ゲ其他ハ未竣功ニ終レリ

築堤工事ハ羽田地先ニ於テ三箇所、中原、川崎兩地先ニ於テ二箇所ヲ施行セシガ内羽田地先一千六百三十二米間ハ舊堤擴築ニシテ表法肩ニ高水位以上一米ノ鐵筋煉瓦ノ胸壁ヲ施工シ又既成堤塘ニシテ損傷甚シキ坂路ハ鐵筋コンクリートブロックヲ以テ保護工事ヲ施行セリ

附帶工事ハ左岸玉川、東調布、矢口、右岸高津、川崎各地先ニ於テ九箇所ヲ施行シ内東調布地先下沼部、嶺ノ二樋門及高津地先二子樋管ハ竣功シ其他ハ未竣功ニ終レリ

材料採集事業ハ右岸中原地先宮内掘鑿工事ニ於ケル土砂ノ大半ハ所謂玉川砂利ヲ含ミ該砂利ハ品質頗ル良好ニシテ工事材料ニ適スルノミナラズ之ヲ所要地ニ運搬スルモ其費用ハ購入價額ニ比シ低廉ニ當ルヲ以テ採集使用スルコトトシ年度内一萬二千九百立方米ヲ採集セリ

之等工事用機械器具ノ製作及修理ハ同十年四月事務所内ニ工場ヲ設置シ操業シ來リシモ其作業漸次繁激トナリシニ依リ同十四年度ニ於テ事務所移轉ヲ機トシ同一敷地內(川崎市久根崎)ニ獨立工場ヲ設置シ

之ニ當ラシメタリ

本川沿岸ハ概ネ低地ニシテ濕潤荒蕪ノ地散在シテ其發展ヲ阻碍セラルル所尠ナカラザリシガ適々當改修工事施行セラルルヤ其剩餘土ヲ利用シ土地ノ改良ヲ企テ捨土出願スルモノ續出スルニ至レルヲ以テ概ネ希望ヲ容レ捨土運搬ニ要スル材料及勞力其他ヲ提供セシメ同九年度以降實施シ來リ本年度末迄ニ三百七十九萬立方米ヲ捨土シ改良セラレタル土地ハ約四百四十町歩ニ及ベリ之レガ爲メ沿川附近ハ工場或ハ住宅地ト化シ交通機關ノ設備ト相俟ツテ其面目ヲ一新シタル等地方民ノ受益ハ蓋シ尠少ナラザルベシ

本年度竣功高ハ四十八萬五百一圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六百三十六萬五千九百五十三圓トナリ之ヲ總工費豫算七百七十六萬二千圓ヨリ大正十一年度迄ノ事務費十九萬四千八十六圓（十二年度以降事務費ハ治水事業費事務費ニ編入セラル）ヲ控除シタル七百五十六萬七千九百十四圓ニ比較スルトキハ八割二分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ「*」ハ利用土量「×」ハ材料採集費支辨砂利價額「△」ハ船舶及機械製作品價額「ロ」ハ附帶工事管理者負擔額「▲」ハ捨土出願者提供勞力及材料「○」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	*二、四三三、三九一立方米	二一一、六四四円 ▲× 二七、〇〇四	—	三一、六五三円 ▲× 一五、三二九	*二、四三三、三九一立方米	二四三、二九七円 ▲× 四二、三三三	〇・九二割分
本工事費 浚渫	六、一七六、〇〇八	一、一〇八、五四〇 ▲ 二、二四五、四一九	五三六、一七八	一三〇、八八五 ▲ 二五二、〇三九	六、七一二、一八六	一、二三九、四二五 ▲ 二、四九七、四五八	〇・九七
本工事費 護岸水制	五、〇八八米	四七、六一一 ▲ 三、六三四	米 —	六、九九三 ▲ 二、七三〇	五、〇八八米	五四、六〇四 ▲ 六、三六四	〇・八〇
材料採集費	—	—	—	八、一〇五	—	八、一〇五	—
用地費	四、二〇六段	二、五二〇、八一六	一六段	八、五八八	四、二二二段	二、五二九、四〇四	—
附帶工事費 竣功	一箇所	三一、四〇〇 ロ 一五、七〇〇	三箇所	三五、八八三 ロ 一〇、九六二	四箇所	六七、二八三 ロ 二六、六六二	〇・一五
附帶工事費 未竣功	—		六	○ 一、五三〇	六	○ 一、五三〇	

船舶及機械費	—	一、二九四、八一二 △四一、八七二 ▲三〇六、三一六	—	一四二、二二一 △七、二〇四 ▲二二、八三五	—	一、四三七、〇三三 △四九、〇七六 ▲三二九、一五一	—
測量費	—	三五、四六五	—	七、五〇二	—	四二、九六七	—
營繕費	—	六六、四二〇	—	四、九七一	—	七一、三九一	—
雜費	—	五四三、二八五	—	九六、九四三	—	六四〇、二二八	—
共濟組合給與金	—	二五、四五九	—	六、七五七	—	三二、二一六	—
總計	—	五、八八五、四五二 □一五、七〇〇 ▲二、五八二、三七三	—	四八〇、五〇一 □一〇、九六二 ▲二九二、九三三	—	六、三六五、九五三 □二六、六六二 ▲二、八七五、三〇六	〇・八二

第一〇　千曲川改修工事

緒言

本工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算八百五十萬圓(内長野縣負擔額四百二十五萬圓)ヲ以テ起工セシニ時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年度ニ於テ三百三十二萬九千圓(内長野縣負擔額五十二萬一千五百圓)ヲ增額スルト同時ニ施行期限ヲ昭和六年度迄繰延ベタルモ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ更ニ昭和十一年度迄五箇年度ヲ延長シ總工費豫算一千二百十萬四千圓(内事務費二十七萬五千圓)ヲ以テ施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川ニ在リテハ左岸上田市、右岸小縣郡神川村以下下高井郡高丘村大字立ケ花ニ至ル五十七粁竝ニ其下流左岸下水内郡秋津村、右岸下高井郡倭村以下同郡瑞穗村、左岸下水内郡太田村ニ至ル十三粁、支川犀川ニ在リテハ右岸更級郡共和村以下幹川合流點ニ至ル十粁、總延長八十粁ノ間ナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ流路延長一千五百九十一粁(内幹川二百粁)、流域面積七千百十平方粁(内平地面積一千三十三平方粁)ニシテ灌漑面積五萬百七十「ヘクタール」ナリ而シテ改修區域内ニ於ケル水害區域一萬五千百九十三「ヘクタール」水害損失平均年額百十八萬六千七百五十八圓(明治三十九年ヨリ大正九年ニ至ル十五箇年間)ナリトス

本川改修ノ目的ハ主トシテ沿岸地ノ洪水防禦ニ在リテ被害激甚ナル地方ノ無堤部ニ堤防ヲ築造シ有堤

部ニ在リテモ其構造薄弱ナル箇所ハ之レヲ補强シ以テ堤內地ノ安全ヲ計ラントス即チ改修區域內下高井郡高丘村大字立ヶ花以下下水內郡秋津村大字蓮ニ至ル狹搾部ヲ除キ河積足ラザル所ハ之レヲ掘鑿シ常ニ汎濫スル箇所ハ堤防ヲ築キ以テ河狀ヲ整理スルト同時ニ舊堤ハ努メテ之レヲ利用シ洪水ノ疏通及惡水ノ排除ニ遺憾ナキヲ期セリ

高水流量ハ主トシテ明治四十三年及大正三年ニ於ケル高水位ニ據リ調査考究ノ末千曲、犀兩川合流點迄ハ兩川各每秒二千七百八十立方米トシ合流點以下ノ幹川ヲ每秒五千五百七十立方米ト定メタリ而シテ河狀著シク不規則ニシテ且屈曲甚シク霞堤或ハ無堤ノ箇所斷續シ到底河幅ノ整一ヲ期シ難キモ大體左表ノ如ク整理スルモノトス

上田附近	二二〇米	犀川合流點以下	九一〇米
鼠附近	三六五	飯山平	八二〇
稻荷山附近	四二〇	犀川	五四五
稻荷山附近以下犀川合流點迄	四九〇		

掘鑿土量ハ九十五萬九千四百立方米ニシテ悉ク人力掘トシ大部分築堤敷ニ運搬投棄スルモノトス

築堤ハ天端幅七米二、表裏兩法ヲ二割トシ其天端ヲ計畫高水位上一米五トシ成ルベク舊堤ヲ利用シテ嵩置腹付ヲ施シ尙其安全ヲ期センガ爲メ裏法ニ小段ヲ設ク堤高三米六以上四米五未滿ハ小段幅二米七（小段ハ堤頂以下二米七ノ箇所ニ設ク以下同斷）、堤高四米五以上五米五未滿ハ小段幅四米五、堤高五米五以上ハ小段幅七米三トス而シテ築堤ノ總延長ハ百三十九粁其土量五百七十八萬九千九百立方米トス

護岸ハ大體石張工ニシテ堤腹ノ法面直接河水ニ接觸スル所若クハ其侵害ヲ被ムルノ虞アル箇所ニ施行

ス其高サハ大體ニ於テ高水位ニ達セシムルモノトシ又流勢竝ニ河狀ヲ參酌シ木工沈床、金網蛇籠、片枠留等ノ根固工事ヲ施行シ或ハ杭柵、聖牛等ノ水制工事ヲ施行スルモノトス

特種工事ニ在リテハ支川蛭川、赤野田川、百々川、淺川、篠井川、樽川其他小支流ニ水門ヲ設ケ洪水ノ際ニハ門扉ニ依リ逆流ヲ防止スルモノトス

附帶工事ハ用排水樋門、用排水路、道路及橋梁ノ新築或ハ改築ヲ要スルモノアルヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ノ創業ニシテ直ニ施工準備ニ著手シ同八年二月ヨリ土地買收ヲ初メ其進捗ニ從ヒ千曲、犀兩河ノ左右兩岸ニ築堤ヲ主トシ護岸水制竝ニ水門其他ノ諸工事ヲ施行シツツ現今ニ至レリ而シテ本年度ニ於テハ前年度ヨリ引續キ施行ノ工事五十四箇所及新ニ著手セシ横田掘鑿工事外十六箇所、計七十一箇所ヲ實施シ築堤七箇所、水門一箇所、採石其他四箇所、附帶工事暗渠十六箇所、水路附替一箇所、道路附替一箇所、計三十箇所ノ竣功ヲ見タリ又土地買收ハ上流左岸小縣郡川邊村以下更級郡力石村、右岸小縣郡鹽尻村以下埴科郡坂城町ニ至ル延長約二十粁及各所ニ於テ少部分ノ買收未濟ヲ殘シ殆ンド全川ニ亙リ買收ヲ了セリ作業出役者ノ多クハ沿岸住民ニシテ農蠶業ノ餘暇ヲ求メテ出役スルモノナレバ夏季ニ勞力ノ不足ヲ告グルヲ以テ冬季農閑期ニ於テ特ニ進展ヲ圖リ居レリ今本年度施工ノ概要ヲ述ブレバ次ノ如シ

掘鑿工事ハ改修計畫ニ基キ河積ノ狹少ナル部分ヲ平水位迄掘下ゲ流路ノ所要斷面積ヲ得ントスルモノ

ニシテ其一部ハ築堤用土ニ利用シ殘部ノ土砂ハ人力又ハ馬力ニ依リ土運車ヲ使用シ附近廢川敷地又ハ荒廢地ニ運搬捨土スルモノトス而シテ本年度内ニ土量一萬六千七百五十六立方米ヲ掘鑿運搬セリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續施行セル二十五箇所及新ニ著手ノ四箇所、計二十九箇所ノ工事ヲ實施シ内七箇所（工事ノ都合上打切竣功ト爲シタル五箇所ヲ含ム）ヲ竣功セリ而シテ築立ニハ根掘土ヲ利用ノ外舊堤及堤外地ヨリ採土シ運搬ニハ人力又ハ馬力ニ依リ土運車、擔笊等ヲ使用シ土量四十四萬五千百八十五立方米ノ築立ヲ了セリ

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續施行セル四箇所及新ニ著手ノ四箇所、計八箇所ニ於テ實施シ何レモ年度内竣功スルニ至ラズ石張、木工沈床竝ニ捨石工等ヲ施設シ延長九百三十七米ヲ完成セリ

水門工事ハ前年度ヨリ繼續セル篠井川、赤野田川及宮川ノ三箇所ニシテ篠井川及赤野田川水門ニ在リテハ前年度迄ニ其大部分ヲ完成セルヲ以テ本年度ニ於テハ門扉ノ取付ケ其他殘餘ノ諸工事ヲ施シ、宮川水門ニ在リテハ掘鑿、埋戻、基礎混凝土、本體混凝土、擁壁混凝土其他諸工事ヲ交互ニ施行シ其大部分ヲ終了シ赤野田川水門ハ本年度ニ於テ竣功セシメタリ混凝土ハ手煉又ハ混凝土混合機ヲ使用シ又河水ノ滲透、地下水ノ湧出等ノ排水ニハ電動機ニ依リ渦巻喞筒ヲ使用セリ

採石工事ハ前記諸工事ニ使用スル石材ヲ人力ニ依リ採取ノ上使用各地ヘ荷馬車ヲ以テ運搬配給スルモノニシテ前年度ヨリ繼續施行セル採石一箇所、運搬二箇所及新ニ著手セシ採石一箇所ヲ實施シ三千六百三十五立方米ノ石材ヲ斫出シ各使用箇所ヘ四千六百二十立方米ヲ搬出シ採石一箇所、運搬二箇所ヲ竣功セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ改修工事區域内ニ屬スル飯山町外十箇町村内ノ堤敷及堤外地ノ買收竝ニ

地上物件ノ移轉ヲ行ヘリ右ハ何レモ土地收用法ニ依ラズ協議ヲ以テ施行シ其段別七町九段七畝九歩支拂金額三萬八千九百六十九圓ナリ

諸機械ノ修理製作ニシテ規模大ナルモノハ新潟機械工場ニ依囑シ他ハ現場附近ノ民間鐵工場ニ請負ハシメタリ

附帶工事ハ前年度ヨリ繼續セル暗渠工事十五箇所、水路附替一箇所、道路附替二箇所及新ニ著手ノ暗渠五箇所、道路附替二箇所、計二十五箇所ヲ實施シ本年度内ニ於テ暗渠十六箇所、水路附替一箇所、道路附替一箇所、計十八箇所ヲ竣功セシメタリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ四十三萬八千二百四十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計七百二十六萬七千十九圓ナリ之ヲ工事費豫算一千百八十二萬九千圓ニ比スレバ六割ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ「ロ」ハ管理者負擔額「■」ハ地方寄附ニ係ル工費ヲ示ス

費目		本工事費						用地費	附帶工事費
		築堤	掘鑿	水門	護岸水制	採石	材料運搬		
前年度迄竣功額	數量	三、八四七、一二五立方米	—	竣功 五箇所	一七、〇六四米	—	—	二、六九五段	竣功 二八箇所
	金額	■ — 二、二二〇、八六八円	—	二一三、六一七	四一四、一三〇	四三七、八八八	六九、〇三八	一、七八六、五五九	ロ 竣功 一三一、九六三 未竣功 六九、一〇〇
本年度竣功額	數量	四四五、一八五立方米	一六、七五六	竣功 一箇所 未竣功 二箇所	九三七米	—	—	八〇段	竣功 一八箇所 未竣功 七箇所
	金額	■ 四〇六 二一〇、二三六円	七、七九五	二一、一八二	四三、九四一	—	—	三八、九六九	ロ 竣功 二三、三八〇 未竣功 一〇、六八四
合計	數量	四、二九二、三一〇立方米	一六、七五六	竣功 六箇所 未竣功 二箇所	一八、〇〇一米	—	—	二、七七五段	竣功 四六箇所 未竣功 七箇所
	金額	■ 四〇六 二、四三一、一〇四円	七、七九五	二三四、七九九	四五八、〇七一	四三七、八八八	六九、〇三八	一、八二五、五二八	ロ 竣功 一五五、三四三 未竣功 七九、七八四
竣功歩合		〇・六二割分	〇・二三	〇・三二	〇・二五	—	—	〇・八九	—

費目	前年度迄竣功額 數量	前年度迄竣功額 金額	本年度竣功額 數量	本年度竣功額 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
船舶及機械費	—	円 六二八、二七八	—	円 三三、一九八	—	円 六五一、四七六	割分 —
測量費	—	四一、三九三	—	四、三二五	—	四五、七一八	—
營繕費	—	一〇四、七六二	—	四、五七四	—	一〇九、三三六	—
雜費	—	七六六、八七五	—	五八、〇八三	—	八二四、九五八	—
共濟組合給與金	—	一三、三九九	—	二、五六六	—	一五、九六五	—
總計	—	六、八二八、七七〇 六九、一〇〇 —	—	四三八、二四九 一〇、六八四 四〇六	—	七、二六七、〇一九 七九、七八四 四〇六	〇・六〇

第一一　加古川改修工事

緒言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ同十六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算四百八十五萬圓ナリシガ物價騰貴ノ爲メ大正十二年度ニ於テ三百萬圓ヲ增額シ總額七百八十五萬圓ヲ以テ昭和八年度迄延長施行ノ事トナレリ其區域ハ左岸兵庫縣加東郡市場村、右岸同縣同郡來住村以下海ニ至ル間ニシテ左岸ハ十六粁六、右岸ハ十七粁二ナリ

河狀竝計畫大要

加古川ハ流域面積一千八百五十平方粁、流路延長八百四十四粁(內幹川九十二粁)、航路延長九十粁(內幹川七十五粁)、灌漑段別一萬一千九百ヘクタール(內幹川四千六百ヘクタール)ヲ有シ一名印南川又ハ氷河ト稱シ其源ヲ兵庫縣氷上郡神樂村稻土栗鹿山ニ發ス氷上郡內ニ在リテハ神樂川又ハ佐治川ト稱シ丹波播磨ノ國界ニ至リテ篠山川ト合シ初メテ大河ト爲リ南流シテ多可郡ニ入リ幾多ノ河川ヲ合シテ國包ニ至リ加古川ト稱ス其レヨリ山陽線加古川驛ノ西南ニ於テ東西二派ニ岐レ其幹流ハ高砂ト尾上トノ間ニ於テ海ニ入リ其派流ハ高砂ヲ抱圍シテ荒井村ノ西ニ於テ海ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ播州ノ沃野ヲ横斷シテ古來灌漑ノ利ト運輸ノ便トニ據リテ流域內ノ文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ナルノミナラズ比年上流ノ土砂流出シテ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク明治四十年ノ水害ノ如キハ浸水田畑

一萬八千百ヘクタール、損失價額百萬六千百六十六圓ニ上レリト云フ（大正十年ニモ亦百一萬八百二十五圓ノ損害アリ）而シテ是等大洪水ハ凡ソ四年目毎ニ發生シ小水害ニ至リテハ殆ント枚擧ニ遑アラザル狀態ナレバ全川ヲ通ジテ洪水防禦ノ必要ヲ感ズルコト切ナレドモ上流ハ被害區域比較的狹ク損害ノ程度モ亦尠少ナルヲ以テ本計畫ニ於テハ先ヅ下流水害ノ最モ顯著ナル部分約十八粁ノ間ヲ限リ改修工事ヲ施スコトトシ左支美嚢川合流點附近河積ノ充分ナラザル所ハ河幅ヲ擴メ或ハ河底ヲ掘リ下ゲ又同所以下加古川町ニ至ル間ハ在來ノ堤防中利用シ得ベキモノハ努メテ之ヲ利用スル方針ノ下ニ河狀ヲ整理シ以テ必要ナル河積ヲ與ヘ又無堤ノ箇所ニハ新堤ヲ築造シテ高水量四千四百五十立方米ヲ快流セシムルヲ程度トシ尙堤防ハ高水以上堤頂迄ノ餘裕ヲ一米五ト定メタリ

本川ハ加古川町ノ下ニ於テ東西ニ分流スレドモ派川洗川ノ方ハ維持上ノ必要ニ依リ之レヲ締切リテ只平水量ノミヲ通ズルニ止メ幹川ノ方ハ河積充分ナラザルヲ以テ河幅ヲ擴メ尙感潮部ハ河底ヲ浚渫スルコトトス又河口ニ於ケル高砂港ハ從來非常出水ノ場合ニハ必ズ浸水ヲ免カレザリシヲ以テ同町ノ堀川ハ新堤ヲ以テ之レヲ本川ト隔離シ其上端ニハ樋門ヲ設ケ平時ハ通水、通船ノ用ニ供シ洪水ノ際ニハ之ヲ閉鎖シ以テ高砂町ヲシテ全然洪水ノ害ヲ免カレシムルモノトス

河幅ハ在來ノ堤防位置極メテ不整ナレドモ河積不足ノ爲メニ已ムヲ得ザル場合ノ外ハ努メテ之レヲ利用スル方針ノ下ニ法線ヲ定メタルヲ以テ改修計畫ニ於テモ亦河幅ノ廣狹一樣ナラズ即チ改修區域ノ上端（左岸加東郡市場村、右岸同郡來住村間）ニ於テハ三百二十七米ニシテ其レヨリ以下一縮一張シテ左岸加古郡加古川町、右岸印南郡米田村間ニ於テハ四百九米トナリ特ニ加古川町以下ハ從來兩派ニ分流シタル洪水量ヲ一川ニ併合スルコトトナリタルガ爲メ勢ヒ廣大ナル河幅ヲ要スルヲ以テ河口（左岸加古郡尾上

村、右岸同郡高砂町間）ニ於テ六百二十四米ト定メタリ

堤防ハ全川左右岸共馬踏七米二、表法二割、裏法二割五分トシ天端ヲ計畫高水位上一米五タラシム只洗川締切ノ箇所ニ限リ堤裏ニ於テ天端ヨリ一米五ヲ下リテ幅三米六ノ小段ヲ附シ小段以下ノ法ヲ三割ト爲サントス又堤防法先ハ全川ニ互リ張石工ヲ施シ天端ニハ礫ヲ散布シテ路面ヲ形成シ堤腹ニハ適宜張芝若クハ筋芝ヲ施スモノトス左ニ堤防ノ延長及土量等ヲ表示ス

種別	區域	延長	土量	張石	張石平均法高	芝付	地盤上平均高
左岸	海口ヨリ一六・六粁	一六、二三〇米	九二九、八二〇立方米	一二一、一五〇平方米	七・四米	二三九、六六〇平方米	三・六米
右岸	同一四・〇	一四、三九〇	一、一〇一、七三〇	一一〇、二五〇	七・六	二二三、一四〇	四・六
總計		三〇、六二〇	二、〇三一、五五〇	二三一、四〇〇	七・五	四六二、八〇〇	四・四

掘鑿土量ハ左岸百七十三萬三千四百三十立方米、右岸百八十八萬四千九百立方米、合計三百六十一萬八千三百三十立方米ニシテ掘鑿運搬ハ主トシテ人力、牛馬力ニ依ラントス而シテ掘鑿土ノ内二百三萬一千五百五十立方米ハ左右岸ノ築堤ニ充用シ殘餘ハ之レヲ捨土處分ニ委スルモノトス

浚渫ハ主ニ下流部ニ於テ行フコトトセリ蓋シ洪水ノ疏通ヲシテ良好ナラシムルト同時ニ潮汐ノ昇騰ヲシテ容易ナラシメ將來艀船ヲシテ昇潮ノ際ニハ高砂堀川ヲ通過セズシテ高砂鐵橋附近迄遡航スルノ便ヲ得セシメ又退潮ノ際ニハ之ガ流勢ヲ利用シテ些少タリトモ河底維持ノ作用アラシメントスルニ在リ而シテ浚渫ノ深ハ上端ニ於テ平均低水面以下約零米九トシ之ヨリ深ヲ増シ零粁ニ於テ二米二ト爲シ夫レヨリ中等潮位以下二米四ノ水深線ニ達シテ止ム此土量約百三十二萬二千三百立方米ニシテ内十三萬

二千三百立方米ハ人力ニ依リ百十九萬立方米ハ浚渫船ニ依リテ掘上ゲ其土砂ヲ堤内ニ捨土シ或ハ海上ニ投棄スルモノトス

加古川下流ノ舟航ハ高砂港内碇泊船トノ連絡ノ必要上高砂樋門ニ依リ安全トナレル高砂堀川ヲ常航路トスルノ傾向アルヲ以テ昭和二年度其設計ヲ變更シ本川ノ浚渫計畫ヲ打切リ之ニ代フルニ高砂堀川ノ浚渫ヲ爲ス事トナレリ其計畫ハ零粁ヨリ上流一粁二ノ間迄ハ中等潮位以下二米七ニ其レヨリ上流高砂樋門迄ハ中等潮位以下一米五ニ浚渫スルモノニシテ浚渫敷幅ハ下流一粁二ノ區間ハ平均約七十米、其レヨリ上流ハ平均約十八米ニシテ土量十六萬四千立方米ナリ

堤腹ニハ總テ堅固ナル張石ヲ施ス計畫ナレドモ更ニ堤法保護ノ爲メ流心ノ彎曲部堤防ノ低水路ニ接近セル處等水勢ノ激突スル箇所ニハ護岸工ヲ施スモノトス其總延長一萬八千八百三十米ナリ

流末二千百八十米間ヲ浚渫スル結果上流河床ノ低下ヲ來タシ既設工作物ニ影響スル處尠カラザルベキヲ慮リ浚渫區域ノ上端適當ノ位置ニ平水路ヲ横斷シ床固堰堤ヲ設ケテ河床ノ低下ヲ防止セントス

現在ノ左岸堤防ハ海口ニ於テ急ニ喇叭狀ヲ成シ爲メニ退潮ノ流勢ヲ殺ギ土砂ノ沈澱ヲ誘致スル傾向アリ依テ本計畫ニ於テハ左岸堤防ヲ延長シテ右岸ノモノト略ボ同長タラシメ以テ洪水ノ際モ平水ニ於テモ流水ヲシテ成ルベク海中ノ深處ニ射出セシメントス

特種工事トシテ設置スベキ樋門ハ洗川樋門及高砂堀川樋門ノ二ナリ

附帶工事ノ主ナルモノハ播州鐵道株式會社ノ高砂鐵橋及相生、加古川、都染ノ三人道橋延長若クハ架換其他全區域内兩岸ノ用惡水樋門擴築若クハ改築又ハ同水路ノ附換等ナリトス

施工狀況

本川改修工事ハ大正七年度ノ著工ニシテ七、八兩年度ハ主トシテ準備測量九、十兩年度ハ土地收用及工事ノ一部ヲ施行シ以後專ラ工事ヲ施シタリ

本年度施工區域ハ前年度ニ引續キ右岸加古郡高砂町、印南郡米田町、東神吉村、平莊村及上莊村地先、左岸ハ加古郡鳩里村、八幡村、印南郡上莊村地先ニシテ大要左ノ如シ

築堤工事ハ左岸上莊村地先ノ一部、八幡村以下海ニ至ル全部、右岸ハ平莊村地先ノ一部ヲ殘シテ上莊村地先以下海ニ至ル全部ヲ成功セリ

掘鑿工事ハ一時間百二十立方米掘梯形掘鑿機一臺、二十噸機關車一臺、五噸機關車二臺、三立方米積側開土運車百七臺、一立方米積鍋土運車五十臺、零立方米六積箱土運車四百五十臺、及零立方米三積鍋土運車五十臺ヲ使用シ人力及馬力ヲ併用シテ左岸ハ八幡村地先及上莊村地先ノ一部ヲ殘シテ美嚢川合流點以下全部、右岸ハ平莊村地先ノ一部ヲ除キテ上莊村地先以下海ニ至ル全部ヲ成功セリ

浚渫工ハ前年度同樣神戶土木出張所ニ於テ引續キ埋立土砂ヲ要スルヲ以テ同所ニ代行セシム昭和二年設計變更ノ結果ニ因ル高砂堀川浚渫ハ本年度始ニ於テ著工シ兵庫縣ヨリ公借セルポンプ式浚渫船ヲ使用シテ目下尙施工中ナリ

護岸工ハ左岸ハ八幡村及上莊村地先ノ一部ヲ除キテ美嚢川合流點以下全部、右岸ハ上莊村地先以下海ニ至ル迄全部ヲ成功セリ加古川床固工ハ年度末ニ至リテ著工シ低水路部鐵矢板一部ノ打込ト高水敷床固ノ極小部分ニ施セルノミ高砂石堤ハ未ダ著工ノ運ビニ至ラザリキ

斯クノ如クニシテ本年度迄ノ築堤ハ全延長ノ約八割八分、掘鑿ハ全土量ノ約九割二分、浚渫ハ設計變更高砂堀川ノ本年度ニ於ケル浚渫土量ヲ合シテ全土量ノ約四割二分、護岸工ハ施工豫定延長二萬八千五百六

十二米ノ約八割五分ノ成功ヲ見タリ

特種工事トシテ高砂樋門及洗川樋門ハ既ニ竣功シ洗川ハ完全ニ締切ラレタルヲ以テ右岸ノ惡水排除上大ナル利益アリ

附帶工事ハ美嚢川合流點以下ハ既ニ前年度ニ於テ全部竣功シ本年度ニ於テハ上荘橋架換補助額ノ支拂ノミニ止マル

斯クシテ工事ノ進捗ニ伴ヒ加古川沿岸加古、印南兩郡ノ大平野ハ啻ニ洪水ノ憂ヲ全ク除カルルニ至リタルノミナラズ用水上ノ苦患モ亦充分緩和セラルルニ至レルナリ

本年度竣功高ノ主ナルモノヲ揭グレバ築堤十四萬七百七十三立方米工費二萬二千百七十九圓、掘鑿及浚渫三十三萬八千八百二十一立方米工費十萬五十八圓、護岸延長四千二百三十四米工費七萬六千三百九十二圓等ナリ

本改修工事本年度竣功高ハ三十二萬五千九百二十九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ五百萬一千百九十一圓ナリ之レヲ總工費七百八十五萬圓ニ比較スレバ約六割四分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無償品評價額「◎」ハ土木試驗所ヘ流用減額「×」ハ占用補償ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工	築堤	立方米 七七、〇一二 ※二、二七五、六三九	円 一九七、六〇九 ◎ —	立方米 ※一四〇、七七三	円 二二、一七九 ◎二三四	立方米 七七、〇一二 ※二、四一六、四一二	円 二一九、七八九 ◎二三四	割分 〇・七六
	掘鑿	三、〇四三、二六五	一、一五九、七七四 ▲五七、三二〇 ○四〇〇	二七五、二二一	七九、六〇五 ▲— ○—	三、三一八、四八六	一、二三九、三七九 ▲五七、三二〇 ○四〇〇	〇・八三

事業費							
浚渫	四八七、四四九米	九五、二八三	六三、六〇〇米	二〇、四五三	五五一、〇四九米	一一五、七三六	〇・六五
護岸水制	一九、八九三箇所	○ 五一五、六六七 四六	四、二三四箇所	○ 七六、三九二 ―	二四、一二七箇所	○ 五九二、〇五八 四六	〇・六二
特種工事	竣功 三	○ 一一四、四四四 一八	竣功 ―	○ ― ―	竣功 三	○ 一一四、四四四 一八	一・〇〇
用地費	× 一、四七一段 一九	× 一、〇九七、二六九 四、五一三	× 六段 ―	× 二、一二五 ―	× 一、四七七段 一九	× 一、〇九九、三九四 四、五一三	―
附帶工事費	竣功 一三箇所 未竣功 六	□○ 三七五、七〇四 七五二 三四、〇三二	竣功 ―箇所 未竣功 六	□○ 二七、四〇〇 ― ―	竣功 一三箇所 未竣功 六	□○ 四〇三、一〇四 七五二 三四、〇三二	〇・七四
船舶及機械費	―	七六〇、五九九	―	四三、三九二	―	八〇三、九九一	―
測量費	―	一七、九三七	―	三、〇六〇	―	二〇、九九七	―
營繕費	―	三四、六二八	―	九九二	―	三五、六二〇	―
雜費	―	○◎ 二九一、三七九 三、〇〇〇 三七四	―	○◎ 四七、二四三 四、〇〇〇 六一	―	○◎ 三三八、六二二 七、〇〇〇 四三五	―
共濟組合給與金	―	一〇、四五六	―	三、〇八八	―	一三、五四四	―
總計	―	□▲◎ 四、六七五、二六二 三、〇〇〇 五七、三二〇 三四、〇三二	―	□▲◎ 三二五、九二九 四、〇〇〇 ― ―	―	□▲◎ 五、〇〇一、一九一 七、〇〇〇 五七、三二〇 三四、〇三二	〇・六四

第一二　神通川改修工事

緒　言

本工事ハ大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算六百五十萬圓(內富山縣負擔額百七十六萬三千圓)ヲ以テ起工セシガ其後富山縣知事ノ稟申ニ依リ本川河口改修工事ノ一部ヲ變更シ之ト同時ニ東岩瀨港修築工事ヲモ施スベク工費五十八萬圓(全部富山縣負擔)ヲ增額シ又起工以來時局ノ影響ヲ受ケ豫算ニ不足ヲ生ジ大正十二年度ニ於テ二百十三萬二千五百圓(內富山縣負擔額五十三萬四千圓)ヲ增額スルト共ニ施行期限ヲ昭和五年度迄繰延ベシガ更ニ大正十二年九月一日關東大震災突發ノ爲メ止ムナク四箇年度ヲ延長シ昭和九年度ニ竣功セシムル豫定トナリ總工費豫算九百二十一萬二千五百圓ヲ以テ右岸富山縣上新川郡大澤村、左岸婦負郡杉原村以下海ニ至ル約二十二粁ノ間ニ對シ河身ノ改修ヲ施シ洪水ノ被害ヲ除去セムトスルモノナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ飛驒北半ノ一部庄川流域ヲ除ケル一帶ノ諸水ヲ集メテ越中ニ入リ富山平野ヲ北流シテ東岩瀨港ニ至リ海ニ注グ其流域面積二千七百七十六平方粁(內飛驒ニ屬スルモノ二千五平方粁)ニ達スレドモ平地ハ僅ニ百七十平方粁ニ過ギズ流水急ニシテ舟筏ヲ通ゼズ越中ニ屬スルモノハ七百七十一平方粁ニシテ其內平地面積二百六十二平方粁ヲ有シ河口ヨリ上流二十七粁笹津ニ至ル迄舟揖ノ便アリ地勢平坦ニシテ其汎濫面積七千ヘクタールニ達ス水害ノ狀況ハ急流河川ノ特性トシテ大水ノ襲來極メテ迅速且猛烈ニシテ忽チ堤防護岸ヲ破壞シ濁流市街村落ニ奔流シ家屋ヲ流失シ人畜ヲ損傷シ耕地ハ砂礫ノ埋沒スル所

トナリ其害實ニ甚大ナリ即チ大正元年乃至同十年ノ平均損失年額百四十萬三千八百八十六圓ニシテ就中大正三年ノ九百三十一萬八千四百四十四圓ヲ最大トス

本川改修ノ目的ハ洪水防禦ニ在リテ富山市及附近平野ノ水害ヲ除去スルヲ主眼トスルモ一面東岩瀬港ノ改善ヲ圖ラントスルモノニシテ本川ノ計畫洪水量ヲ毎秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ放流セシムルニ足ルノ河積ヲ有セシメ東岩瀬港ニ在テハ本川ヲ附換ヘ全ク港内ヲ分離シ突堤ヲ築キ以テ水深ヲ保チ船舶ノ出入ニ便ナラシメントスルモノナリ

由來本川ハ堤防ノ築設比較的普及スレドモ未ダ統一的施設ニナルモノ無ク多クハ不規則ナル霞堤ヲ爲シ河積概ネ狹小ニシテ堤高亦不足シ屡々破堤汎濫ノ因ヲ爲セリ故ニ全川ヲ通ジテ河幅ヲ擴メ所要ノ掘鑿ヲ行ヒテ專ラ河積ノ増加ヲ圖リ兩岸ニハ堅固ナル堤防護岸ヲ施シ以テ洪水ノ横溢ヲ防ガントス

河道ノ位置ハ比較的良好ナルヲ以テ多クハ現狀ニ準據シ努メテ在來ノ堤防ヲ利用セントス上流起點城生以下成子ニ至ル間流路東西ニ分ルル所モ之ヲ合一セズ現在ノ形狀ニ依リ兩岸ニ築堤シ添島以下熊野川落合ニ至ル亂流部ハ河幅廣濶ナレバ兩岸舊堤ヲ増築スルニ止ム富山市附近ノ新舊兩川ノ內舊川ハ平時全ク通水ヲ見ズ且高水ノ疎通ニ對シ其利用甚ダ乏シキヲ以テ之ヲ締切リ新川即チ馳越川ヲ多少擴大シテ全流量ヲ之ニ依リ疎通セシメ舊川ノ落合ハ之ヲ閉鎖シ其惡水ハ本川ニ沿ヒテ水路ヲ造リ下流ニ導キ以テ富山市ノ逆水ニ因ル水害ヲ輕減スルモノトス又河口ニ近ク土砂堆積スルヲ以テ要所ニ水制工ヲ配置シ河狀ヲ整理シ且二粁以下河道ヲ西ニ移動シ瀬割堤及突堤ヲ設ケ適當ニ河口ヲ掘鑿シ全ク東岩瀬港ト分離セシメ直ニ海ニ通ゼシム而シテ其連絡ハ水門ニ依ルコトトセリ又東岩瀬港ハ港內ヲ低水位以下四米五ノ水深ニ浚渫シ東突堤ヲ水深九米迄延長シ堆砂ノ西遷ヲ防ギ新川ノ右岸突堤ト相俟テ水深ノ

維持ヲ圖リ以テ船舶ノ出入ニ便ナラシメントス
兩岸堤防中心間距離ハ凡ソ左ノ標準ニ據リ施行スルコトトセリ

區間	兩岸堤中心間距離	區間	兩岸堤中心間距離
岩木成子間	三二七米	添島・布瀬間	自四七三 至七二七米
同上派川部	一四五	布瀬・四ッ谷間	自四三六 至五〇九
成子添島間	自三六四 至四〇〇	四ッ谷・河口間	自四七三 至五四五

堤防ハ總テ天端幅七米二、表裏共二割法トシ其高サハ計畫高水位上一米五ノ餘裕ヲ存セシメ必要ナル箇所ニハ小段ヲ設ク其土量二百十六萬立方米、延長四萬四千五十米ニシテ一般ニ掘鑿土ヲ以テ之ニ充當スベキモ其運搬遠距離ニ亙ルカ又ハ特ニ良質ノ土砂ヲ要スル場合ニハ他ニ土採場ヲ求メザルベカラズ其土量約三十萬五百立方米ナリ

掘鑿工事トシテハ流積擴大ノ爲メ河幅ノ整理ヲ行フモ尚掘鑿ニ俟ツベキモノ尠カラズ其土量二百九十八萬七千二百立方米ニシテ築堤用土ニ充用シタル殘餘ハ卑低地ノ埋立等ニ使用シ或ハ民有地ニ投棄シ又河口ニ近キ所ニ在テハ海中ニ放棄ス

浚渫工事ハ二粁以下海ニ至ル間ニシテ其底幅ハ二百五十五米ヨリ三百六十四米ニ達シ其深度ハ上流ニ於テ基線以下二米二ニ始マリ順次四米八ニ遞下ス其土量ハ百二十萬二千百立方米ナリ

護岸工事ハ石張、沈床、沈枠等ヨリ成ル即チ築堤ニハ十二粁附近ヨリ上流ハ表法全部ニ、同下流ハ計畫高水

位以下ニ張石ス又水面以下ノ保護ニ關シテハ富山市ヨリ上流ハ川倉蛇籠、木床、沈枠及混凝土單床等ヲ適宜按配シ下流ハ概シテ柴工沈床ヲ施スモノトス

水制工事ハ主トシテ下流流路ヲ限定スベキ區域ニ配設シ浚渫ト相俟ッテ流心ヲ定メ水深ヲ維持セントス總テ柴工沈床、木工沈床及石張ヲ用ユルモノトス

突堤工事中右岸突堤ハ瀬割堤防ノ末端ニ接續シ其長サ三百十八米ニシテ緩曲線ヲ以テ水深九米ノ箇所ニ達セシメ本川ヲ流下スル土砂ヲ深水ニ導クト同時ニ現在東岩瀬地先突堤ノ延長工事ト共ニ兩々相俟テ港口ノ保護及港内ヘノ土砂侵入ヲ防止セシム又左岸突堤ハ延長百四十五米ニシテ單ニ沿岸漂砂ノ東進ヲ防止スルモノナリ

水門工事ハ富山市ヲ貫流スル舊川ト本川トノ落合ニ設置スベキ設計ヲ變更シ水路ヲ設クルヲ良策ト認メタルニ依リ之ヲ廢止(逆水門ヲ廢シ水路ヲ造リ惡水ヲ下流ニ導キ且之ニ因リテ本川トノ舟運ヲ計リ逆水ノ害ヲ輕減シ舊神通廢川地帶ノ利用ニ便ナラシム)セリ其他右岸一粁附近ニ設置スル一箇所ハ本川ト東岩瀬港トノ聯絡用ニ供スルモノナリ

附帶工事トシテハ用排水樋門、用排水路、道路及橋梁等ノ改築ヲ要スルモノ多キヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

東岩瀬港ハ神通川ノ河口ニ位シ富山市唯一ノ海門ニシテ往時帆船時代ニ在リテハ日本海ノ要港トシテ繁榮ヲ極メタリシガ時勢ノ變遷ハ汽船海運ノ時代トナリ河口ノ狀況ハ其入航ヲ妨ゲ偶々寄港スルモノアルモ河口ヲ隔ル遠キ沖合ニ碇繫シ貨物ノ揚卸ヲ爲サザルベカラズ殊ニ秋冬ノ候ニ際シテハ波浪土砂ヲ歷シテ河口ヲ閉塞シ水深漸ク六十糎ニ過ギザルコトアリ明治四十三年河口右岸ニ突堤ヲ增築シ對岸

草島地内ニ水制工ヲ施シ更ニ左岸ニ突堤ヲ築造スル等河口ノ改良ヲ企圖セリト雖モ規模小ニシテ其效果大ナラズ依然トシテ航路閉塞シ小船ノ出入ニモ不便ヲ來スコト尠カラズ從テ出入貨物ハ益々減退シタリ茲ニ於テカ神通川改修ヲ好機トシ本港ヲ修築シ航路閉塞ノ源ヲ絕チ其利用ノ途ヲ增進シ從來ノ衰運ヲ挽回スル所アラントス是レ本港修築ノ起リタル所以ナリ

曩ニ神通川改修工事ノ計畫ヲ立ツルヤ併テ河口ノ改良ヲ企圖シ東岩瀨港沿岸ニハ特殊ノ護岸工事ヲ施シ其終端ヨリ水深九米ニ至ル迄突堤ヲ築造シ地先水面ヲ浚渫シ河流自然ノ水勢ニ依リ其水深ヲ維持セシメ一千噸內外ノ船舶出入碇繫ニ便セシムルコトトセシモ一般河口ニ見ルガ如ク自然ノ水勢ニ依ル水深ノ維持極メテ困難ニシテ殊ニ本港ノ如キハ日本海ノ漂砂ト神通川ヨリ流下シ來ル土砂トハ港內ニ堆積シ常ニ浚渫ヲ施サザレハ到底所要ノ水深ヲ維持スルコト能ハザルナリ故ニ若シ河口ヲ完全ニ港灣トシテ利用セントセバ神通川ト東岩瀨港トヲ全然分離スルヲ以テ得策ナリトス依テ大正十一年神通川改修計畫中下流ノ一部ヲ變更シ河道ヲ西方ニ移設シ下流現在ノ低水路ノ水面積ヲ本港灣ノ施設ニ供スルコトトシ港口ハ現在ノ東突堤ヲ約四百十米延長增築シテ東岸ヨリスル漂砂ヲ防ギ之ト相對シテ改修工事ニ於テ築造スベキ右岸突堤(延長三百十八米)ニ依リテ西方ヨリノ漂砂ヲ防ギ內部ノ水面約十二萬五千平方米ヲ水深四米五ニ浚渫シテ一千噸級船舶ノ碇繫及貨物ノ揚卸ニ便ナラシメタリ然ルニ低水路ノ水面積ノミヲ以テ港灣施設ニ供セントスルハ將來港域擴張ノ要ヲ生ジタル場合不利ナルヲ以テ寧ロ更ニ河道ヲ西方ニ移シテ舊左岸堤敷ニ新右岸堤ヲ築造シ河敷全部ヲ港域ニ供スルヲ得策ト認メタルヲ以テ此變更ニ要スル土地、材料、勞力等約二十萬圓ヲ地元東岩瀨町ヲシテ提供セシムルコトトシ大正十四年十二月再ビ計畫ヲ變更シタリ

施工狀況

本工事ハ大正七年七月ノ創業ニ係リ先ヅ河口附近水制工事ニ著手シ次デ土地買收ノ調査ヲ開始シ其進捗ニ從ヒ逐年下流ヨリ上流ニ溯リ施工スルモノニシテ左岸ニ於テハ草島、百塚、神明、鵜坂、熊野、宮川ノ六箇村及富山市右岸ニ於テハ東岩瀨町、大廣田、豐田、奧田、堀川、蜷川、新保ノ六箇村及富山市ノ各地先ニ於テ掘鑿、浚渫、築堤、護岸、突堤等ノ諸工事ヲ實施スルニ至リ其區域兩岸各約十八粁ニ達セリ左ニ本年度施工ノ概況ヲ述ベン

掘鑿工事ハ前年度以來繼續ノ七箇所ト新ニ著手セル三箇所、計十箇所ヲ專ラ人力ヲ以テ施行シ土砂ハ零立方米六積及零立方米四積土運車ヲ使用シテ人力又ハ馬力ヲ以テ運搬セリ其功程十三萬九千三百三十六立方米ニシテ內九萬三千百六十一立方米ハ築堤敷ニ投棄シ殘部ハ高水敷ノ低濕ナル箇所海岸及附近民地ニ投棄セリ

浚渫工事ハ前年度ニ引續キ喞筒式浚渫船神通丸（能力一時間六百竝）ヲ用ヒテ其進捗ニ努メ年度內ニ二十三萬二千二十二立方米ノ竣功ヲ見タリ土砂ハ主ニ港外深淵ニ投棄シ僅ニ二萬七千七百立方米ハ冬期荒天ノ候排泥管ヲ使用シテ東岩瀨町側材料置場ノ埋立ニ利用セリ

築堤工事ハ主トシテ掘鑿土ヲ利用シテ築立テ左岸宮川村下流右岸新保村下流延長約三十五粁ノ內ニ於テ九箇所ニ施工シ同一箇所ハ年度內ニ竣功セリ本年度築立總計十二萬三千九百三十四立方米ニシテ內三萬三千九百三十三立方米ハ採取土ナリトス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續ノ十七箇所ト新ニ著手セル八箇所、計二十五箇所ヲ施行シ內十箇所ハ年度內

ニ竣功セリ其功程石張四萬三千二十四平方米、木工沈床三千八百九十八平方米、柴工沈床一萬二十三平方米、鐵線蛇籠百二十二本、川倉二十個ナリトス是等ノ工事ニ使用セル石栗石及砂利等ハ從前ノ如ク主トシテ本川筋ヨリ又石材ノ一部ハ早月川筋ヨリ直營採取セリ

突堤工事ハ前年度ニ引續キ專ラ東突堤ノ竣成ニ努メ東突堤ニ於テハ第一區ニ於テ百十瓩ノ捨石百二十五立方米、三百八十瓩ノ捨石一千六百三十三個、直壁方塊大五十五個、小八十二個、捨方塊小四十四個ヲ、第二區ニ於テ百十瓩ノ捨石三百七立方米、三百八十瓩ノ捨石二千七百二十八個、直壁方塊大二百十二個、小二百十二個、捨方塊大二百七個、小二百九十五個ノ竣功ヲ見一方混凝土方塊ノ製造ヲ續行シ年度內ニ大三百六十七個、小七百七十五個ヲ製作セリ中央突堤ハ前年度ノ著手ニ係リ本年度ニ於テハ主トシテ捨石用石材ノ採取ヲ爲シ他ニ混凝土方塊製作大三十四個、小七十七個ノ竣功ヲ見タルノミ

以上本工事全體ヲ通觀スルニ冬期僅少ナル浪害ヲ蒙リタルノミニテ出水等ノ被害ナク順調ニ工事ノ進捗ヲ計ルヲ得タリ特ニ東岩瀨港ノ浚渫モ計畫ノ大半ヲ施工セルヲ以テ本年度中ノ寄港船舶一千噸級ノモノ十數隻ヲ數フルニ至リ突堤工事ノ進捗ト相俟ッテ漸ク安全ナル碇繫地タラントス

船舶機械修理製作ハ其程度大ナルモノハ新潟機械工場ニ依託シ其他ハ附近鐵工業者ニ請負ハシメタリ

附帶工事ハ逐年其竣功ニ努メツツアリ即チ前年度著手シタル舊井田川排水暗渠新設工事ハ引續キ施工シ昭和三年十一月竣功シ管理者ニ引渡ヲ了セリ又平屋川排水樋管新設工事ハ昭和三年九月起工シ年度內ニ殆ト竣成セルモ竣功スルニ至ラザリキ

尙大正十四年十二月流末法線一部變更ノ認可ヲ得タルモノハ之ニ要スル土地材料勞力等ハ總テ東岩瀨町ニ於テ負擔スルモノニシテ土地買收ハ全部完了シ本年度ニ於テハ前年度ヨリ繼續施行ノ工事中草島

地先築堤工事ハ竣功シ不用突堤取拂工事ハ海中ニ於ケル作業困難ニシテ容易ニ進捗ヲ見ズ未ダ竣功ニ至ラズ

本年度ニ於ケル竣功額ハ五十四萬五千四百七十二圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ五百五十一萬一千九百十二圓ナリ之ヲ總工費九百二十一萬二千五百圓ニ比スレバ六割ノ竣功ナリトス其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ「▲」ハ東岩提町提供土地、材料及勞力「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目		前年度迄竣功額 數量	前年度迄竣功額 金額	本年度竣功額 數量	本年度竣功額 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	掘鑿	立方米 二、一一四、八〇一	円 八三八、一三一	立方米 一三九、〇三七	円 六九、二〇三	立方米 二、二五三、八三八	円 九〇七、三三四	割分 〇・六三
	浚渫	四〇二、九三四	六三、三四八	二三二、〇二二	三三、〇五〇	六三四、九五六	九六、三九八	〇・四六
	築堤	一、五二九、〇六三	▲ 二六三、〇四八 三、一七九	一二三、九三四	▲ 二五、七一三 二、四〇七	一、六五二、九九七	▲ 二八八、七六一 五、五八六	〇・七七
	護岸水制	米 二〇、六三〇	一、〇五二、八三九	米 四、二〇六	一七一、六七二	米 二四、八三六	一、二二四、五一一	〇・四九
	突堤	未竣功 一箇所	三〇六、一三八	未竣功 一箇所	一一七、四二九	未竣功 一箇所	四二三、五六七	〇・四八
	水路	—	九五、二二二	—	—	—	九五、二二二	〇・四三
	雑工事	—	▲ 六、三六七 三〇、二〇一	—	▲ 一、二四九	—	▲ 六、三六七 三一、四五〇	—
	材料運搬	—	六、一八六	—	—	—	六、一八六	—
用地費		▲ 一、七三〇段 二二七	▲ 八三三、一四七 一五六、八四七	一段	▲ 二七九	▲ 一、七三一段 二二七	▲ 八三三、四二六 一五六、八四七	〇・九八
附帯工事費		竣功 一四箇所 未竣功	一〇三、二九七 □ 四〇、二九七	竣功 一箇所 未竣功 一箇所	一〇、五八四 □ 二、五八八	竣功 一五箇所 未竣功 一箇所	一一三、八八一 □ 四二、八八五	—
船舶及機械費		—	九四一、一五五	—	五九、四六七	—	一、〇〇〇、六二二	—
測量費		—	一六、二八〇	—	一、七八一	—	一八、〇六一	—
營繕費		—	五六、二〇〇	—	五、〇〇二	—	六一、二〇二	—
雑費		—	三七五、一九一	—	四八、八八三	—	四二四、〇七四	—

共濟組合給與金	—	九、八八一	—	二、四〇九	—	一二、二九〇	
總計	—	▲□ 四、九六六、四四〇 一九〇、二二七 四〇、二九七	—	▲□ 五四五、四七二 三、六五六 二、五八八	—	▲□ 五、五一一、九一二 一九三、八八三 四二、八八五	〇・六〇

第一三　岩木川改修工事

緒　言

本工事ハ當初大正七年度ヨリ昭和二年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費七百萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシモ諸物價昂騰ノ爲メ既定豫算ノ範圍內ニテハ工事ノ遂行不可能ノ爲メ三百四十萬圓ヲ增額セラレ總工費一千四十萬圓トシ繼續年限モ亦時局ノ影響ヲ被リ昭和十一年度迄繰延ベタリ

施行區域ハ幹川ニ在リテハ左岸中津輕郡新和村大字種市、右岸北津輕郡鶴田村大字大性以下十三湖迄此距離四十四粁九、支川十川ニ在リテハ右岸北津輕郡梅澤村以下新合流點迄六粁八又支川山田川ニ在リテハ車力村地內田光沼下流約十粁ナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ水源ヲ秋田縣界ニ發シ流域面積二千六百六十八平方粁、流路延長八百三十七粁(內幹川九十粁)、航路延長百六粁(內幹川七十一粁)灌漑面積二萬四千ヘクタール、水害區域九千二百ヘクタールヲ有シ靑森縣西津輕郡、中津輕郡、南津輕郡、北津輕郡ノ四郡ニ跨ル大河ニシテ流末十三湖ト稱スル周圍約二十四粁、面積二千ヘクタールノ湖水ヲ通ジテ一小口ヲ以テ日本海ニ注グ岩木川ハ流路甚不規則ニシテ其下流部川幅最モ狹キ故ニ出水每ニ必ラズ破堤或ハ溢水ヲ來シ沿岸耕地ニ汎濫スルヲ以テ本計畫ニ於テハ堤防ノ改築竝ニ河敷ノ掘鑿ヲ爲シ河積ヲ擴張シ以テ洪水量ヲ安全ニ流下セシメ又支川十川ハ流路甚ダ狹ク且迂曲甚シク殆ンド無堤ノ狀態ナルヲ以テ出水每ニ湛水シ殊ニ春季融雪ノ際ノ如キハ沿川一帶ニ湛水數週間

ニ亙ルコトアリ故ニ十川上流部ノ水量ハ新川延長約三粁三ヲ掘鑿シテ現在ノ合流點ヨリ約十六粁上流ニ於テ岩木川ニ合流セシメ十川下流部ニ對シテハ逆水門ヲ設置シテ岩木川ノ逆流ヲ防グモノトス

岩木川海口即チ十三水戸口ハ其閉塞ヲ防ギテ排水ヲ完全ナラシメテ十三湖沿岸湛水ノ害ヲ防ガンガ爲メニ突堤ヲ築設セントス又十三湖ニ直接注入セル山田川沿岸ニ就テハ岩木川擴張ノ結果其破堤及湛水ヨリ來ルベキ水害ハ除去セラレ又十三湖ノ逆水ヨリ生ズル湛水ハ水戸口ノ施工ヲ以テ輕減スル方針ナリシモ尙更ニ調査ノ結果直接相當工事ヲ施シ其完成ヲ期スルノ方針ナリ

計畫高水量ハ幹川上流部毎秒一千三百九十立方米、十川新合流點以下舊合流點間毎秒一千五百九十立方米、其下流毎秒一千六百七十立方米トシ十川ハ上流部毎秒三百三十四立方米、下流部毎秒百七十七立方米トス川幅ハ幹川ノ上流ニ於テ二百十八米トシ漸次擴ゲ下流ニ於テ六百三十六米ト爲シ新十川ハ幅員六十四米ト定メタリ

掘鑿土量ハ七百八十四萬三千七百立方米、浚渫五百二十三萬五千百立方米、總計掘上土量一千三百七萬八千八百立方米ニシテ大部分ハ築堤用土ニ使用ス

築堤ハ大部分新堤築設ニシテ舊堤增築ハ一小部分ニ過ギズ築堤延長幹川約八萬米、支川十川約一萬三千米、合計九萬三千米ニシテ其構造ハ馬踏五米五、外法二割、內法ハ二割及二割五分ノ勾配ト爲シ芝付ヲ施シ必要ノ箇所ニ護岸工ヲ施スモノトス

海口突堤ハ大體ニ於テ捨石竝ニ混凝土塊ヲ用ヒ兩岸ヨリ各三百六十米ヲ築造シ先端ニ於テ二百七十米ノ間隔ヲ保タシムルモノトス

附帶工事ノ主ナルモノハ木橋架換七箇所、用水伏越樋二箇所、水門三箇所其他水路附換等ナリ

施工狀況

本工事ハ大正七年六月ノ創業ニシテ初年度及八年度ニ於テハ測量其他施行準備ニ取掛リ九、十年度ハ一部分ヲ人力ヲ以テ掘鑿シ十一年度以降ニ至リテハ土工用諸機械稍々完備セルヲ以テ人力竝ニ機械ヲ以テ掘鑿セリ掘鑿工事ノ進行ニ伴ヒ其土砂ヲ利用シ築堤工事モ著々進行セシムルコトヲ得タリ

當地方ハ冬季十二月ヨリ翌年三月迄ハ嚴寒降雪多量ニシテ工事施行全然不可能ナリ四、十、十一各月亦天候不良ノ爲メ工事殆ンド中止ノ狀態ニ在リテ五、六、九各月ハ工事ノ進行ヲ計ルニ最モ好時期ナルニモ拘ラズ農繁期ナル爲メ勞力供給ノ點ニ於テ滿足シ得ズ要スルニ一箇年ヲ通ジテ本工事ノ生命トスル處ハ只七、八兩月アルノミナリ

本年度ニ於テ掘鑿工事ハ人力掘鑿ニテハ零立方米四六積土運車ヲ以テ人力運搬、馬匹運搬ヲ爲シ地形ニ依リ畚運搬ヲモ施行セリ

機械掘鑿ニ在リテハ二臺ノ掘鑿機、三臺ノ機關車及約三百臺ノ三立方米積土運車ヲ以テ極力工程ノ進行ニ努メタリ

掘鑿工事施行區域ハ本川筋北津輕郡五所川原町、金木町、中川村、三好村、武田村、西津輕郡柏村、川除村、出精村、稻垣村、車力村ノ各地先ニシテ掘鑿總土量約二十九萬一千二百八十七立方米此工費八萬八千四百八十一圓ニシテ其土砂ハ大部分此區域ニ於ケル築堤工事用ニ供シタリ

浚渫工事ハ岩木川ノ十三湖ニ注グ河口ニ沈積セル土砂ヲ人力ヲ以テ浚渫シ附近ノ水中ニ運搬投棄セリ此土砂量二千六百六十五立方米工費一千二百六圓ナリ

築堤工事ハ既述ノ如ク掘鑿土ヲ利用シ不足ノ土砂ハ附近官有地ヨリ運搬ヲ爲セリ其區域ハ中津輕郡新和村、西津輕郡柏村、稻垣村、車力村、北津輕郡五所川原町、鶴田村、三好村、武田村ノ各地先ニ亙リ施行セリ此竣功數量十六萬八千六百十二立方米工費七萬七千百三十一圓ニシテ竣功延長二千五百二米ナリ

護岸工事ハ北津輕郡鶴田村、五所川原町、中川村、西津輕郡柏村、出精村ノ各地先ニシテ工法ハ箇所ニ依リ小異アルモ主トシテ根固工トシテハ單床又ハ沈床ヲ施シ法留工トシテハ石張、礫詰又ハ柳枝工等ヲ施セリ此竣功延長九百九十八米工費三萬二百六十九圓ナリ

假設工事ハ岩木川河口ノ十三湖ニ注グ箇所ニシテ航路維持上土砂ノ埋積ヲ防グ爲メ延長二百米ニ亙リ杭柵工ヲ施セルモノニシテ工費約九百圓ヲ要セリ

突堤工事ハ西津輕郡十三村地先海口ニ辨慶枠ヲ沈下据付ケ更ニ捨石ヲ爲シタル假突堤ヲ施シ其基部保護ノ爲メ留杭ヲ打チ且石張工ヲ施セリ而シテ本工事ニ必要ナル石材ハ北津輕郡小泊村大字下前海岸附近ノ輕石ヲ船舶ヲ以テ十三湖水戸口附近ヘ運搬セルモノニシテ此石材數量六千四百九十一立方米工費三萬九千九十二圓トス

附帶工事ハ西津輕郡柏村大字桑野木田地內ニ用水樋門鐵筋混凝土造內法高一米八、幅一米六、二連長十六米ノモノヲ一箇所新設シ西津輕郡稻垣村大字繁田地內ニ用水路附替工事延長一千九百五十三米ノモノ一箇所ヲ著工セシモ何レモ未竣功ノ儘次年度ヘ繰越セリ而シテ昨年度ヨリ繰越セル北津輕郡鶴田村大字大巻地內ニ於テ施行中ノ路面工事五千六百二十平方米ニ亙レル砂利敷ハ竣功セリ附帶工費三萬三千五百五十四圓ニシテ內一萬四千九百二十九圓ハ管理者負擔ナリ

土地買收ハ工事ノ都合上必要ニ迫リ已ムヲ得ザル箇所ノミニシテ此土地買上料竝物件移轉料八萬七千

五百九十四圓ナリ

本事業ノ本年度竣功額ハ四十八萬五千九百八十六圓ニシテ起工以來總竣功額五百六十三萬九千八百八十六圓餘ニシテ之レヲ總工費一千四十萬圓ニ比スレバ五割四分ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ「口」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費用		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	掘鑿	立方米 三、〇一四、五四五	円 九九五、六一五	立方米 二九一、二八七	円 八八、四八一	立方米 三、三〇五、八三二	円 一、〇八四、〇九六	割分 〇・四二
	浚渫	八九四	四七四	二、六六五	一、二〇六	三、五五九	一、六八〇	—
	築堤	二、三二九、九二三	二一六、〇〇七	一六八、六一二	七七、一三一	二、四九八、五三五	二九三、一三八	〇・七四
	突堤	一箇所 未竣功	四五、三六二	一箇所 未竣功	三九、〇九二	一箇所 未竣功	八四、四五四	—
	護岸水制	米 三、六二一	一二一、〇〇〇	米 九九八	三〇、二六九	米 四、六一九	一五一、二六九	—
	障害物除却	—	五二、九七二	—	—	—	五二、九七二	—
	假設工	—	三一、四九四	—	九〇〇	—	三二、三九四	—
用地費		段 四、三二二	一、五〇八、一五六	段 一〇八	八七、五九五	段 四、四三〇	一、五九五、七五一	〇・四〇
附帶工事費		八箇所	八〇、二九九 □三、二七七	一箇所	一八、六二五 □一四、九二九	九箇所	九八、九二四 □一八、二〇六	—
船舶及機械費		—	一、四一八、五七七	—	六五、六四七	—	一、四八四、二二四	—
測量費		—	四一、二二七	—	五、五七一	—	四六、七九八	—
營繕費		—	一五七、九六八	—	四、四六四	—	一六二、四三二	—
雜費		—	四七〇、七六九	—	六三、五三二	—	五三四、三〇一	—
共濟組合給與金		—	一三、九八〇	—	三、四七三	—	一七、四五三	—
總計		—	五、一五三、九〇〇 □三、二七七	—	四八五、九八六 □一四、九二九	—	五、六三九、八八六 □一八、二〇六	〇・五四

第一四　太田川改修工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニシテ當初工費三百四十四萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百六十五萬圓(内靜岡縣負擔百八十二萬五千圓)ヲ以テ河川改良工事トシテ大正十四年度ニ至ル七箇年度繼續事業トシテ起工セシガ大正十二年度ニ至リ時局ノ影響ヲ受ケ物價及勞銀ノ騰貴ニ因リ工費百十九萬圓ヲ增額シ又財政上ノ都合ニ依リ施行年限ヲ延長シ昭和四年度ニ至ル十一箇年度繼續事業ト爲シ同時ニ河川法ニ基キ工事ヲ國ニ於テ直轄施行スルコトトナリ地方費負擔額モ大正十二年度以降ノ分ハ同法ニ依ルコトトナレルヲ以テ結局工費四百六十九萬七千五百八十圓、事務費十四萬五千四百二十圓、合計四百八十四萬三千圓(内地方費負擔二百六萬九千圓)ニ變更シタルガ更ニ同年九月一日ノ關東地方大震火災ノ影響ニ依ル一般事業繰延ノ爲メ施行年限ヲ昭和六年度迄ニ延長シタリ其施行區域ハ幹川筋ニ在リテハ靜岡縣周智郡森町以下海ニ至ル約二十二粁、支川敷地川ニ在リテハ同縣磐田郡三川村以下幹川合流點ニ至ル約七粁、支川原野谷川ニ在リテハ同縣小笠郡原谷村以下幹川合流點ニ至ル約十九粁、小支川逆川ニ在リテハ同縣小笠郡西山口村以下原野谷川合流點ニ至ル十粁、小々支川倉眞川ニ在リテハ同縣小笠郡西郷村以下逆川合流點ニ至ル二粁餘、其他是等諸川ニ相關聯セル支川ノ一部ヲ合セ總計約六十粁ナリトス

河狀並計畫大要

本川ハ大井及天龍ノ二大河ノ間ニ介在シ中遠ノ南部ヲ貫流スル一小河ニシテ流域面積五百八平方粁、降

水量饒多ナレドモ急流ニシテ平時水量乏シク殆ント水運ノ便ヲ有セズ幹川流路ハ僅ニ四十四粁ニ過ギズト雖モ分合スル支派川二十有餘アリテ其總延長三百粁ニ達ス從テ灌漑區域比較的多ク九千七百六十ヘクタールニ亙リ其利益大ナルモノアレドモ水害區域モ亦廣ク九千二百ヘクタールヲ算シ小河川ノ割合ニ損失ヲ受クルコト甚大ナリ而シテ其原因ハ主トシテ河狀ノ不良及堤防ノ薄弱ニ歸ス明治四十三年乃至大正八年ノ十箇年間ニ於ケル水害損失價額ノ如キ一箇年平均三十二萬百七十五圓ニ當リ就中明治四十四年ノ水害ハ百二十六萬二千六百七十二圓ノ多額ニ達シタリ而シテ本川ノ水害ハ獨リ田畑ヲ荒廢セシムルノミナラズ第一號國道タル東海道ヲ初メ重要道路ヲ數箇所ニテ横斷スルヲ以テ一朝出水ノ際ハ忽チ交通ヲ杜絶シ從テ鐵道東海道線ノ如キモ不通ノ災厄ニ會フコト稀ナラザルノ狀態ニ在リ

本計畫ハ主トシテ洪水ノ疏通ヲ良好ナラシメ之ヲ防禦スルニ在リ改修ノ方法トシテハ在來ノ不規則ナル堤防ヲ改廢整理シ其薄弱ナルモノハ之ヲ擴築シ必要ノ箇所ニハ新ニ堤防ヲ設ケ河積不足ノ箇所ハ引堤或ハ掘鑿ヲ施シ以テ河狀ヲ矯正シ屈曲ヲ緩和シ或ハ新川ヲ開鑿シテ之ニ換ヘ支川ニシテ逆流ノ虞アルモノ及各用惡水路等ニハ必要ニ應ジ水門等ヲ築設シテ洪水ノ浸入ヲ防ガントス本計畫ニ採用セル最大流量及河幅等ハ次ノ如シ

河川名	流量	河幅	高水位勾配
太田川（原野谷川合流點以下）	毎秒立方米 一、九五〇	四二〇米	一、二〇〇分一
同川上流	自 七〇〇 至 九七五	九〇	自 二四三分一 至 八七〇分一
敷地川	自 二五五 至 三〇〇	自 四〇 至 五五	自 四〇〇分一 至 七三七分一
原野谷川	毎秒立方米 自 三三〇 至 九七五	自 七五米 至 九〇	自 二〇四分一 至 一、二〇〇分一
逆川	自 二五〇 至 五〇〇	自 三六 至 六八	自 五二五分一 至 七五〇分一
倉眞川	一六五	三六	自 六〇〇分一 至 六三〇分一

堤防ノ標準斷面ハ太田川、原野谷川合流點以下河口ニ至ル間ハ天端幅三米五、表法二割、裏法二割五分トシ太田川、原野谷川合流點以上及敷地川、逆川ハ大部分天端幅三米乃至三米五、表裏兩法共ニ二割トシ其他ノ小支川ハ天端幅二米七、兩法二割トシ天端高ハ計畫高水位上零米九乃至一米二トス尙勾配ノ急ナル箇所及水勢ノ激突スル虞アル箇所ニハ相當ノ保護工事ヲ施スモノトス

施工狀況

本工事ハ大正八年度創業以來施行準備ニ著手シ同八年度及九年度ニ於テ實地測量竝ニ土地買收調査ヲ爲シ同十年度ヨリ同十二年度ニ至ル三箇年度間ニ於テ三回ニ亙リ全改修區域ノ殆ンド全部約百五十三町歩ノ土地買收及地上物件ノ移轉ヲ完了シ續テ大正十三年度ニ於テ約一町三段歩ノ局部買收ヲ行ヒ前年度ニ於テハ小々支川倉眞川上流未買收土地約九段歩ノ買收ヲ終リ本年度ニ於テ小支川逆川中流部切擴箇所ニ於ケル約七段歩ノ追加買收ヲ行ヒタリ而シテ本年度支拂ヒタル買收費ハ右土地買收費三千百六十八圓、地上物件移轉料百九十八圓ノ外補償費トシテ五百六十七圓ナリトス

工事ニ在リテハ大正十年度中買收區域ノ一部ヨリ著手シ漸次本支川ノ各所ニ及ボシ大正十二年度ニ至リテ區域殆ンド全川ニ亙リ專ラ築堤掘鑿工事ノ進捗ニ努メ特ニ太田川本川中流部竝ニ支川原野谷川、逆川合流附近ノ開鑿工事ニ全力ヲ注ギシガ昭和元年度ニ至リ右開鑿工事モ全ク完成シ其他ノ箇所ニ於テモ敷地川上流左岸堤ノ工事中ナルヲ除キ幹支川共僅カニ一小部分ヲ除シ略々全部ノ竣成ヲ見ルニ至レリ尙低水路ノ開鑿及切擴箇所ニハ大正十二年度以來必要ニ應ジ各所ニ護岸工事ヲ施行シ以テ水勢ヲ緩和シ堤脚竝ニ沿岸ノ侵蝕崩壞ヲ防止シ又新川開鑿工事ノ竣功ト共ニ高水ノ疏通良好トナリ逐年河床低

下ノ傾向アルヲ以テ既設護岸ノ保持上之ガ防止ノ爲メ昭和四年三月ヨリ太田川中流部及逆川上流部ニ床固工事ヲ施行セリ又附帶工事ニ在テハ本工事ノ施行ニ伴ヒ必要箇所ニ樋管、水路、橋梁等逐次施行シ尚昭和元年度ヨリ逆川支川垂木川改良工事ヲ附帶工事トシテ施行シ本年度末迄ニ新水路開鑿工事ヲ略完成スルニ至レリ

本年度中ニ於テ工事著手セルモノハ護岸十七箇所、附帶工事二箇所ニシテ前年度ヨリ施行ノモノヲ合セ本年度施行中ニ屬スルモノ築堤十八箇所、掘鑿十一箇所、護岸三十四箇所、附帶工事六箇所ニシテ內本年度中竣功セルモノ築堤五箇所、掘鑿七箇所、護岸十三箇所、附帶工事四箇所ナリトス本年度ノ功程ハ掘鑿土砂約九萬七千六百立方米ニシテ內掘鑿費支辨ノモノ三萬九千三百立方米此工費一萬二千九百三十五圓、築堤工事土量約十六萬七千六百立方米內築堤費支辨ノモノ十六萬五千八百立方米ニシテ此工費八萬五百四十三圓ナリトス而シテ工事ハ爾來主トシテ人力ニ依リ又處ニ依リ土運搬ニ牛馬力ヲ以テシタルガ土取箇所ハ凡テ低水路ノ開鑿或ハ切擴ニシテ土質亦概ネ硬粘土若シクハ砂利ナルニ加ヘ土盛箇所狹長ニシテ而モ多クハ中間ニ民有地ヲ存シ掘鑿運搬共ニ困難ヲ感ズル所ニシテ人夫ノ出役者亦從ッテ少ナク人力ノミニテハ充分ノ工程ヲ擧グル事能ハズ工事區域ノ擴大スルニ從ヒ其度ヲ增大スルニ至ルヲ以テ大正十二年度ヨリ更ニ小型ドラグライン掘鑿機竝ニ四噸瓦斯倫機關車各一臺ヲ使用シ專ラ逆川筋新川開鑿箇所ニ利用シ來リシガ本年度ニ於テ右工事ヲ終了スルニ至レリ

本年度太田川改修工事ノ竣功額ハ三十六萬七百十二圓ニシテ創業以來本年度迄ノ竣功額三百五十一萬二千二百二十八圓トナリ總工費豫算四百六十九萬七千五百八十圓ニ對シ七割三分ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ「*」ハ利用土量ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功額 數量	本年度竣功額 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	二、六九〇、六〇五立方米 *一四、九六三	一、〇四六、〇五七円	一六五、八九三立方米 *一、七四〇	八〇、五四三円	二、八五六、四九八立方米 *一六、七〇三	一、一二六、六〇〇円	〇・九〇割分
本工事費 掘鑿	一九〇、九六二 *二、〇一三、六六四	五八、九一三	三九、三六六 *五八、二六八	一二、九三五	二三〇、三二八 *二、〇七一、九三二	七一、八四八	〇・七九
本工事費 護岸水制	一三、三六七米	二一一、五四五	九、〇一九米	一五七、九九三	二二、三八六米	三六九、五三八	〇・七五
本工事費 假設工	—	一一、〇三一	—	—	—	一一、〇三一	—
用地費	一、五四八段	一、〇八一、七七八	七段	三、九三五	一、五五五段	一、〇八五、七一三	—
附帶工事費	六七箇所	一一六、一六一	二五箇所	五八、八二二	九二箇所	一七四、九八三	—
船舶及機械費	—	二七五、六二九	—	八、七一三	—	二八四、三四二	—
測量費	—	一四、八八二	—	九〇五	—	一五、七八七	—
營繕費	—	一二、五三六	—	一、〇四二	—	一三、五七八	—
雜費	—	三一五、一九三	—	三四、二〇九	—	三四九、四〇二	—
共濟組合給與金	—	七、七九一	—	一、六一五	—	九、四〇六	—
總計	—	三、一五一、五一六	—	三六〇、七一二	—	三、五一二、二二八	〇・七三

第一五　阿賀川及阿武隈川改修工事

緒　言

本工事ハ大正八年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トシテ工事費一千三百七十二萬百五十圓(內阿賀川七百三十三萬九百七十七圓、阿武隈川六百三十八萬九千百七十三圓)事務費二十萬七千九百六十圓、合計一千三百九十二萬八千百十圓ヲ以テ施行ノ計畫ナリシガ大正十二年帝都ノ大震災ニ因リ財政上年割額ヲ變更シ昭和十一年度迄三箇年度ノ繰延ヲ爲セリ

阿賀川改修區域ハ幹川北會津郡大戸村大字雨屋以下河沼郡川西村大字長井ニ至ル三十一粁五、支川宮川ハ同縣北會津郡荒井村以下阿賀川合流點ニ至ル二粁八、支川湯川ハ若松市以下阿賀川合流點ニ至ル二粁四、合計三十六粁七ニシテ阿武隈川改修區域ハ幹川安積郡永盛村以下田村郡逢隈村ニ至ル間竝ニ同縣安達郡本宮町附近及福島市ヨリ下流伊達郡五十澤村ニ至ル三十七粁、支川荒川筋ハ同縣信夫郡荒井村地藏原以下合流點ニ至ル十三粁一、合計五十粁一ニ達シ郡山平野、本宮市街地竝ニ信達平野ノ主要部ヲ包含ス即チ兩川ヲ通ジタル改修區域ノ延長ハ八十六粁八ナリトス

河狀竝計畫大要

阿賀川ハ阿賀野川ノ上流福島縣ニ屬スル部分ノ稱呼ニシテ阿賀野川全部ノ流域面積八千九十七平方粁(內福島縣管內六千四百十六平方粁)、流域延長ハ二百二十七粁八分(內福島縣管內百二十三粁六分)ヲ有ス而シテ支川只見川及同川合流點以下ハ概ネ山間部ニ屬シ灌漑ノ利ニ乏シク水害モ亦少シト雖モ只見川合流點ヨリ上流ハ會津平野ヲ貫流シ灌漑ノ利多キニ伴ヒ水害モ亦甚シク明治四十三年ヨリ大正八年ニ至

ル十箇年ノ損害價額平均一箇年八十六萬三千百十六圓ニ達ス加之河道亂レ堤防薄弱若シクハ無堤部ノ所多キニ依リ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明カナリ

本改修計畫ノ主眼ハ洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シ在來堤防薄弱ナルモノハ之ヲ補强シ低キモノハ之ヲ高メ無堤地ニハ堤防ヲ築キ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚渫等必要ノ工事ヲ施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ而シテ洪水位低下ヲ圖リ山間狹窄部ニ於テ三箇所ノ切割ヲ施行ス又支川宮川及湯川ハ各新水路ヲ開鑿シテ幹川ニ合流セシムルモノトス

高水流量ハ幹川ニ於テハ雨屋、蟹川橋間毎秒三千六十立方米、蟹川、宮古橋間三千二百立方米、宮古橋日橋川合流點間三千四百八十立方米、日橋川合流點下流四千二百六十立方米トシ支川湯川ハ百八十立方米、同宮川ハ三百九十立方米ト定メ其河幅ハ幹川雨屋以下山崎渡船場ニ至ル平地部ハ三百六十四米乃至五百四十五米、山崎以下山間部ハ百四十九米、支川湯川ハ七十三米、同宮川ハ九十米トス

阿武隈川ハ、福島、宮城ノ兩縣ニ亙ル流域面積四千九百三十五平方粁(內福島縣管內四千二十五平方流粁)、路延長二百五十九粁(內福島縣管內百九十六粁)ニ及ビ灌漑ノ利ヲ享クルコト多シト雖モ水害ヲ被ルコト亦甚シク殊ニ福島附近信達平野及郡山附近安積平野ニ於テ甚大ナリトス又信達平野左岸ニ存在スル各支川ハ急流ニシテ其水源地ヨリ土砂ノ搬出甚シク從テ亂流ノ狀態ニ陷リ且洪水流量比較的多キヲ以テ一朝洪水ニ際會セシカ其慘狀激甚ヲ極メ以テ本流ノ河狀ヲ害シ之ヲ現狀ニ放置センカ其被害ヲシテ益々甚大ナラシムルヤ明ナリ

本改修計畫ノ主眼ハ所謂洪水防禦ニシテ即チ浸水部ヲ除害シ河道ヲ矯正シテ在來ノ無堤地ニ堤防ヲ築キ其薄弱ナルモノハ之レヲ補强シ低キモノハ之ヲ高メ河積不足ノ箇所ハ掘鑿竝ニ浚渫等必要ノ工事ヲ

施シ以テ洪水量ヲ快通セシムルニ在リ
高水流量ハ永盛村下流毎秒二千三百六十五立方米、大瀧根合流點下流二千七百八十立方米、荒川合流點下流三千九百立方米、松川合流點下流四千百七十立方米、摺上川合流點下流四千七百三十立方米、廣瀬川合流點下流五千二百九十立方米トシ支川荒川ハ須川合流點上流ヲ七百立方米、下流ヲ一千二百五十立方米ト定メ又河幅ハ幹川ニ在リテハ谷田、大瀧根川合流點上流百八十二米乃至二百米、同上下流二百十八米乃至二百三十六米、福島下流三百二十七米乃至四百米トシ支川荒川ハ須川合流點ノ上流ヲ百四十五米、其下流ヲ百八十二米乃至二百十八米トス

施工狀況

阿賀川改修工事ハ大正十年二月ノ創業ニ係リ本年度施行工事ハ前年度同樣廣瀬村青津、慶德村山科間、同大畑、川原子間、同泡ノ巻地內、同土堀地內及川西村大字長井字袋原地內新川開鑿竣ニ堂島村赤星、大澤間左右岸、廣瀬村青木、青津間左岸ノ切擴ゲヲ續行シ更ニ慶德村山崎地內右岸ノ掘鑿ヲ施シ廣瀬村沼越地內ノ岸ニ制水工及土堀地內舊川締切ヲ施シ青津、山科間右岸、赤星、大澤間右岸、濁川右岸ノ築堤ニ著手シ大畑、川原子間、泡ノ巻地內、土堀地內、袋原地內ノ掘鑿竣功部分ニ對シテハ護岸工事ヲ施行セリ
而シテ本年度ノ掘鑿土量ハ四十四萬一千八百六十五立方米ニシテ工費ハ掘鑿、築堤、護岸水制、締切ヲ合セ十五萬四千六百九十七圓ナリ
本改修工費竣功額ハ本年度二十三萬二百七圓當初ヨリノ累計ハ二百四十四萬四千九百六十九圓ニシテ總工費豫算額七百三十三萬九百七十七圓ニ對シ約三割三分ノ竣功ナリ

阿武隈川改修工事ハ大正八年ノ創業ニシテ諸般ノ準備殆ド完了セリト雖モ豫算ノ關係上著シク工事ノ進捗ヲ見ザルハ頗ル遺憾トスル處ナリ其施工區域ハ前年度ト同樣幹川筋福島下流信達平野、本宮市街地、郡山平野及支川荒川筋トシ其工事モ大部分前年度ニ引續キ施工シ本工事トシテハ掘鑿、築堤及護岸工事等ナリ亦附帶工事ノ內前年度ヨリ引續キ工事ハ當所ニ於テ施行中ナリシ郡山市地內惡水樋管新設工事三箇所及本年度新ニ著手セル荒川筋吉井田村地內用惡水樋管新設工事三箇所ハ何レモ本年度三月竣功セリ更ニ本年度著手セル福島下流府縣道桑折、保原線大正橋延長工事ハ工費三萬九千圓ヲ國庫負擔トシ工事ハ管理者ニ於テ施行中ナリシガ昭和四年三月工費三萬七千四百四十二圓ニテ竣功セリ外ニ郡山小野新町線行合橋架換工事ハ工費八千圓國庫負擔トシ管理者ニ於テ施行中ニテ未竣功ナリ

本改修工事竣功額ハ本年度分二十六萬五千五百五圓ニシテ起工以來ノ累計四百四十萬七千八百六十一圓ニシテ總工費六百三十八萬九千百七十三圓ニ對シ六割九分ノ竣功ナリ

以上阿賀川及阿武隈川兩川改修工事本年度竣功額ハ四十九萬五千七百十二圓、累計竣功額六百八十五萬二千八百三十圓ニシテ總工費一千三百七十二萬百五十圓ニ對シ四割九分ノ竣功ナリ其竣功表左ノ如シ

費目		前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功步合
		數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事	浚渫	立方米 八一六、四三九	円 四六一、六七七	立方米 —	円 —	立方米 八一六、四三九	円 四六一、六七七	割分 ○・三四
	掘鑿	三、七九四、二三五	一、一二〇、七九八	八九四、三五九	二四〇、六〇二	四、六八八、五九四	一、三六一、四〇〇	
	築堤	一、五八三、四五三	四三五、三二四	四〇〇、八九三	二〇、六七一	一、九八四、三四六	四五五、九九五	○・三〇
	護岸水制	米 九、〇六五	一四四、四七四	米 三、五三六	五四、七四七	米 一二、六〇一	一九九、二二一	—

堰堤	一箇所	一四三、七一〇	—箇所	—	一箇所	一四三、七一〇	—
樋門	二	四三、五〇三	—	—	二	四三、五〇三	—
用地費	六、二〇八段	一、〇五二、八一二	三四段	六、三七五	六、二四二段	一、〇五九、一八七	〇・八〇
附帶工事費	九箇所	一六、六八〇	六箇所	四二、二五七	一五箇所	五八、九三七	—
船舶及機械費	—	二、二五一、五八六	—	五〇、三四三	—	二、三〇一、九二九	—
測量費	—	七、三四六	—	九六三	—	八、三〇九	—
營繕費	—	八〇、八五〇	—	三、二八六	—	八四、一三六	—
雜費	—	五八四、二二六	—	七三、二七五	—	六五七、五〇一	—
共濟組合給與金	—	一四、一三二	—	三、一九三	—	一七、三二五	—
總計	—	六、三五七、一一八	—	四九五、七一二	—	六、八五二、八三〇	〇・四九

本表ヲ更ニ河川別ニスレバ次ノ如シ

阿賀川改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 浚渫	二二五、八五〇立方米	一〇八、九六七円	—	—円	二二五、八五〇立方米	一〇八、九六七円	〇・二三割分（浚渫・掘鑿）
本工事費 掘鑿	一、四二二、九四五	五五五、一〇三	四四一、八六五	一三三、九三三	一、八六四、八一〇	六八九、〇三六	
本工事費 築堤	—	—	六二、四九一	七、五七三	六二、四九一	七、五七三	〇・〇三
本工事費 護岸水制	—米	一五、一八九	六四五米	一三、一九一	六四五米	二八、三八〇	—
用地費	一、四二七段	二四五、二八六	一二段	一、八七二	一、四三九段	二四七、一五八	〇・三六
附帶工事費	一箇所	一、〇七九	—箇所	—	一箇所	一、〇七九	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
船舶及機械費	—	九七六、一五九円	—	三一、七五八円	—	一、〇〇七、九一七円	—割分
測量費	—	二、七七四	—	三五	—	二、八〇九	—
營繕費	—	二六、〇五三	—	一、三九九	—	二七、四五二	—
雜費	—	二七六、五〇三	—	三八、六七七	—	三一五、一八〇	—
共濟組合給與金	—	七、六四九	—	一、七六九	—	九、四一八	—
總計	—	二、二一四、七六二	—	二三〇、二〇七	—	二、四四四、九六九	〇・三三

阿武隈川改修

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費　浚渫	五九〇、五八九立方米	三五二、七一〇円	—立方米	—円	五九〇、五八九立方米	三五二、七一〇円	〇・四九割分
本工事費　掘鑿	二、三七一、二九〇	五六五、六九五	四五二、四九四	一〇六、六六九	二、八二三、七八四	六七二、三六四	〇・四八
本工事費　築堤	一、五八三、四五三	四三五、三三四	三三八、四〇二	一三、〇九八	一、九二一、八五五	四四八、四三二	〇・四三
本工事費　護岸水制	九、〇六五米	一二九、二八五	二、八九一米	四一五、五八六	一一、九五六米	一七〇、八四一	—
本工事費　堰堤	一箇所	一四三、七一〇	—箇所	—	一箇所	一四三、七一〇	—
本工事費　樋門	二	四三、五〇三	—	—	二	四三、五〇三	—
用地費	四、七八一段	八〇七、五二六	二二段	四、五〇三	四、八〇三段	八一二、〇二九	一・〇〇
附帶工事費	八箇所	一五、六〇一	六箇所	四二、二五七	一四箇所	五七、八五八	—
船舶及機械費	—	一、二七五、四二七	—	一八、五八五	—	一、二九四、〇一二	—
測量費	—	四、五七二	—	九二八	—	五、五〇〇	—

營繕費	—	五四、七九七	—	一、八八七	—	五六、六八四	—
雜費	—	三〇七、七二三	—	三四、五九八	—	三四二、三二一	—
共濟組合給與金	—	六、四八三	—	一、四二四	—	七、九〇七	—
總計	—	四、一四二、三五六	—	二六五、五〇五	—	四、四〇七、八六一	〇・六九

第一六　圓山川改修工事

緒　言

本川ハ第二期川ニ屬シタルモ關係地方ニ於テ急施ヲ請願シ第一期川ニ準ジ大正九年七月ニ於ケル臨時議會ノ協賛ヲ經テ國庫ヨリ工費ノ半額ヲ補助シ且明治三十年法律第三十七號ニ依リ内務大臣ニ於テ事業ヲ直接施行スルコトトナレルモノニシテ當初大正九年度ヨリ同十八年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ總工費豫算五百萬圓(事業費四百六十五萬圓、事務費三十五萬圓)ナリシガ其後歐洲戰亂後ノ物價及勞銀ノ昂騰ニ依リ豫算額ノ約一割八分ヲ增額シテ總工費豫算五百九十一萬一千圓(工事費五百八十萬六千圓、事務費十萬五千圓)トシ施行年度亦延長セラレ昭和九年度ニ至ル十五箇年度ノ繼續事業トナレリ其工事施行區域ハ幹川左岸兵庫縣城崎郡國府村、右岸同郡中筋村以下海ニ至ル二十三粁三、支川出石川左岸同縣出石郡室植村、右岸同郡出石町以下圓山川合流點ニ至ル九粁三、合計三十二粁六ナリ

河狀竝計畫大要

圓山川ハ其源ヲ兵庫縣朝來郡生野町圓山字内尾谷ニ發シ兵庫縣下ニ於テハ加古川ニ次グ大河ニシテ其流域但馬ノ大部分ヲ占メ沿岸ニハ豐岡町ヲ初メトシ城崎、出石、八鹿、和田山ノ諸邑アリ河口ニハ津居山ノ要津ヲ有シ但馬唯一ノ平野ヲ南北ニ貫流シ日本海ニ入ル水運ノ便、灌漑ノ利アルモ比年洪水頻ニ臻リ明治維新後ニ於テハ明治十八年及同二十六年ヲ其最ナルモノトシ近年ニ於テハ明治四十年八月以來大正元年、同七年、同八年、同十年及同十二年九月ノ洪水ノ如キ其被害甚大ニシテ沃野、家屋殆ト水底ニ葬ラレ一

望大湖ノ觀アリ加フルニ其減水遲々トシテ數日ニ亙リ慘狀言語ニ絶ス然レドモ沿岸概ネ低濕且堤防矮小ニシテ中位ノ出水ニ際シテモ其汎濫區域廣ク被害亦大ナリトス

本川全流域面積一千三百二十平方粁餘、幹川流路延長六十七粁餘ニシテ支川ヲ合スレバ六百四十粁ニ達ス其平地面積凡ソ百九十平方粁ニシテ全流域ノ約一割四分强ヲ占ム支川ノ主ナルモノヲ大屋、八木及出石ノ各川トス

本流域ハ降水日數極メテ多ク大正八年以來昭和三年ニ至ル十箇年ノ平均ニ據ルニ豐岡ニ於ケル一箇年ノ降水日數二百二十二日ニ及ビ其平均降水總量二千四十四粍ニシテ流域内ニ於ケル最大降水日量二百五十粍(明治四十年八月西氣城崎)ニ達ス水害ハ殆ト每年之ヲ見ザルハ無ク時ニ一箇年數回ニ及ブ事アリ明治四十年、大正元年、同七年、同八年、同十年及同十二年ハ近來ニ於ケル顯著ナルモノニシテ大正七年ノ洪水ニ於テモ湛水面積四千ヘクタール、浸水家屋三千餘戸ニ及ビ其損失見積價額二百十三萬圓ニ達シ同十年ニハ百十六萬圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ要旨ハ高水防禦ニ在リ從テ高水量ニ對スル相當ノ河積ヲ與ヘ高水時間ノ短縮ヲ圖ランガ爲メ屈曲甚シキ箇所ニハ新川ヲ開鑿匡正シ以テ疏通ヲ速カナラシメ堤防ハ新設又ハ增築シテ汎濫ヲ防ギ各小支川ハ逆水樋門ニ據リ逆水ヲ防禦セントス

計畫高水量ハ出石川合流點以上幹川ニ於テハ每秒二千五百立方米、同下流二千八百立方米、出石川ニ於テハ五百立方米トシ計畫高水位ハ大體ニ於テ大正元年ノ高水位ニ準據シ其勾配一千五十分一ヨリ三千六百分一ノ間ニ變化シ中流部豐岡町附近ノ新川開鑿區域ヲ二千六百分ノ一トス

幹川城崎郡國府村松岡以下同村上佐野左小支川、八代川合流點附近ニ至ル間ハ大體現狀ニ依リ河狀ヲ整

理シ舊堤ノ補强ニ止メ以下豊岡町ニ至ル間ハ河幅ノ擴張ヲ爲スト共ニ同郡中筋村加陽、八條村佐野間及同新田村今森鹽津間竝ニ同新田村立野ニ新川ヲ開鑿シ之ニ依リ高水ヲ快疏セシム豊岡町以北玄武洞ニ至ル間ハ又河積ヲ擴張スルノ要アリ之ヨリ下流ハ所謂山間部ニシテ所々河積狹隘ノ箇所アルモ比較的不急ノ工事ナルヲ以テ其特ニ著シキ障碍トナル箇所ニ除却工事ヲ施シ城崎町ハ一部之ニ築堤包圍ス河幅ハ出石川合流點附近ニテ三百米トシ漸次擴大シテ同郡田鶴野村赤石ニ於テ約三百六十米ニ達セシム

幹川堤防ハ馬踏幅五米五、表法勾配二割ニシテ堤防頂天ヨリ四米下リニ於テ幅五米乃至八米ノ表小段ヲ置ク裏法ハ二割ヲ以テ下リ堤防頂天ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ小段ヲ置キ以下二割五分勾配ヲ以テ下ル計畫堤防ハ計畫高水位ニ對シ一米二ノ餘裕アラシム支川出石川ハ兩岸堤防ノ位置甚不規則ナルモ河幅概シテ廣濶ナルヲ以テ概ネ現狀ニ則ルコトトシ唯其中流部及下流部ニ於テ特ニ狹隘ナル箇所介在セルヲ以テ其最小幅員ヲ百米トシテ擴大ス其堤防ハ馬踏幅五米五、法勾配ハ表裏共二割トシ馬踏高ハ計畫高水位ヨリ零米九乃至一米二ノ餘裕アラシム

堤防總延長四十粁餘ニシテ築堤土量約三百萬立方米、其掘鑿竝ニ浚渫土量三百八十五萬立方米トス

護岸工ハ河道ノ彎曲セル部分又ハ流勢激衝スル部分ニ施工シ現在定著セル河岸ハ成ルベク之ヲ利用セントス

樋門ノ主ナルモノヲ擧グレバ六方川、八代川、奈佐川ノ逆水樋門ニシテ其他城崎町ニ於テハ大溪川吐口ニ、豊岡町ニテハ其北端舊川締切箇所ニ樋門ヲ設置シ逆水ヲ防禦スルト共ニ惡水排除及舟運ヲ司ラシム

附帶工事ハ用惡水路ノ新堤ヲ貫流スル箇所ニ施行スベキ樋門類ヲ初メトシ橋梁、水路等三十箇所ニ及ブ

施工狀況

本改修工事ハ大正九年度ニ著手セリト雖モ同年度ハ測量準備ニ止マリ同十年度及十一年度共ニ實施測量ト共ニ下流ノ幅杭ヲ設置シ大正十二年四月以降幹川町杭一里三十一町ヨリ同三里三町半間ノ掘鑿及築堤ニ著工シ大正十三年度ニ於テハ幹川三里十町ニ及ボセリ内三里三町半以上ハ高水敷ノ整理ト共ニ新低水路ノ機械掘鑿準備ニ供ヘタリ

大正十四年度ニ於テハ前年度ニ引續キ同區域ノ工事ヲ進ムルト共ニ新田村立野區域ニ於テ新川開鑿ニ著手シ一時間百二十五立方米掘掘鑿機及二十噸機關車ノ運轉ヲ開始シ本川吐口即チ城崎郡港村津居山ニ於テハ右岸ニ土砂堆積シ河口ノ疏通ヲ妨グルヲ以テ此浚渫ニ從事シ之ガ爲メ二百噸掘浚渫船竝ニ曳船足羽丸各一隻及四十八立方米積木製土運船二隻、六十立方米積鋼製土運船一隻ニ據リ十四年度及十五年度ニ於テ合計約四萬八千五百立方米ノ土砂ヲ浚渫シ日本海ニ投棄シ凡ソ所期ノ目的ヲ達セルヲ以テ一先ヅ竣功トシ後日ノ變化ヲ調査スルコトトセリ

昭和元年及二年度ハ前年度ニ引續キ著手部分ノ工事進捗ニ努メ豐岡町附近新田村立野新水路掘鑿殆ト竣功シ掘鑿機ハ之ヲ上流同村今森新水路掘鑿ニ使用スル事トシ工事區域ヲ出石川合流點迄延長セリ

本年度施工區域ハ前年度施行區域ノ完成ニ努ムルト共ニ年度ノ後半ニ於テ本川ニ於テハ右岸城崎郡中筋村町杭四里十五町ニ及ビ左岸ニ於テハ城崎郡八條村町杭四里八町半ニ及ボシ支川出石川ニ於テハ右岸中筋村町杭零里八町半迄トス

豐岡町以下田鶴野村區域ニ於ケル築堤、掘鑿其他殆ト完成シ同村右岸部分ハ完全ニ高水ヲ防禦シ左岸區

域亦末端左小支奈佐川吐口ヲ發シ工事殆ト完成セリ

豊岡町附近ニ於テハ新田村立野新低水路掘鑿護岸共ニ竣功シ通水ヲ見其上流部八條村大礒及新田村立野間ニ於ケル廢川締切亦夏期出水前ニ工ヲ了ヘ豊岡町ハ逆水ニ依ル外高水ノ被害ヲ見ザルニ至ル新田村今森ニ於ケル新低水路亦七割ノ竣功ヲ見出石川合流點以下新川ニ依ル水路ノ直流近キニ在リ

出石川合流點以下三江村日撫以上ノ右岸堤防亦大約其盛土ヲ了ヘタリ

城崎郡八條村九日市、佐野及同中筋村ニ於ケル新買收區域ハ冬季雨雪ノ時期トナリ人力掘鑿ノ一部著工ニ止マレリ

斯ノ如クシテ本年度迄ニ築堤ハ全部ノ約三割八分掘鑿及浚渫ハ同ジク五割二分ヲ竣功セリ

昭和三年度ニ於ケル使用土工機械ノ主ナルモノハ一時間百二十立方米掘掘鑿機一臺、二十瓲機關車二臺、五瓲機關車二臺、三瓲瓦斯倫機關車一臺、三立方米側開土運車百臺、零立方米六箱土運車五百五十臺、零立方米三鍋土運車二百七十臺竝ニ零立方米六側開鐵土運車二百臺トス

土地買收ハ第一次ニ於テ城崎郡新田村立野町杭三里九町半以下、第二次同三里九町半以上新田村今森町杭三里二十八町半以下、第三次同町杭三里二十八町半以上出石川合流點以下右岸堤外地全部、第四次同堤内地全部ノ買收手續ヲ採リ本年度ニ於テハ本川右岸中筋村加陽、土淵、中郷國府村上佐野、西芝(四里九町乃至五里零町)左岸八條村、九日市、國府村上佐野中筋村土淵(三里三十町乃至四里十五町)出石川右岸中筋村伏、清冷寺、加陽、小坂、村伊豆(零里零町乃至零里二十九町)左岸中筋村加陽、小坂村福居伊豆、三木、片間(零里十六町乃至零里二、十、九町半)ニ亙ル計畫高水敷低水及ビ堤敷ニ相當セル四十六町歩餘ヲ第五次トシテ買收協議セリ

附帶工事ハ豐岡町外十四箇町村治水事務組合ノ申請ニ係ル城崎郡田鶴野村地内宮嶋樋門一日市吸水管下鶴井惡水路及玄武洞樋門モ亦竣功セリ

左小支奈佐川ハ流域六十一平方粁餘其流路屈曲甚ダシク然モ圓山川合流點附近ニ於ケル平地低濕ニシテ逆水樋門ヲ以テシテハ湛水甚ダシカルベシトシテ兵庫縣ニ於テ其流路ヲ整理シ逆水樋門ヲ廢シ築堤ニ依リ圓山川本流ノ逆水ヲ防禦スル計畫ヲ立テ工費五十八萬六千九百四十圓ヲ以テ奈佐川及大濱川改修工事トシテ昭和三年度ヨリ同六年度ニ亙ル繼續事業トシテ著工スルコトトナリ之ヲ圓山川改修附帶工事トシテ直接施行スル事トナリ十七萬五千圓ヲ補助スル事ニシ本年度ニ於テハ低水路ノ新開鑿及築堤ノ一部ニ著工セリ

本年度ノ竣功高ハ四十三萬六千六百七十九圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ三百四十二萬百四十四圓ナリ之ヲ總工費豫算額五百八十萬六千圓ニ比スレバ約五割八分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「□」ハ管理者負擔額「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無償品評價額「×」ハ直營砺出石材及砂利、砂採取使用價額「◎」ハ保管轉換品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
築堤	四三、六六二 *一、三五八、二三九	八八、八八二 ▲七七 ○二三 ×一、〇八〇 ◎三〇	三、〇三六 *二三四、八三〇	二二、四五〇 ▲— ○— ×三四八 ◎—	四六、六九八 *一、五九三、〇六九	一一一、三三二 ▲七七 ○二三 ×一、四二八 ◎三〇	〇・一七
掘鑿	一、六八七、一四一	五八一、七〇三 ▲五七、四〇三 ○四五六 ×三一二 ◎一七八	三二〇、三四六	一二五、四六四 ▲一、五一一 ○— ×— ◎—	二、〇〇七、四八七	七〇七、一六七 ▲五八、九一四 ○四五六 ×三一二 ◎一七八	〇・五一
浚渫	四八、五二八	二一、九四〇	—	—	四八、五二八	二一、九四〇	〇・一六

費護岸水制	三、六二〇米	×○ 九一、九三三 二五、九六〇	一、一〇七米	×○ 一一、一二〇 八三二 七一七	四、七二七米	×○ 一〇三、〇五三 八三二 二六、六七七	〇・一五
特種工事	—	—	—	—	—	—	—
用地費	一、四八九段	一、五二四、八四六	四六段	一五五、七一七	一、五三五段	一、六八〇、五六三	—
附帶工事費	竣功 三 未竣功 一 箇所	□×○ 三五、七六七 四〇 一、四六〇 二〇、二二八	竣功 二 未竣功 一 箇所	□×○ 三、七九二 五五 — 七、九八六	竣功 五 未竣功 一 箇所	□×○ 三九、五五九 九五 一、四六〇 二八、二一四	〇・一三
船舶及機械費	—	◎○ 三七七、五二八 — 二二〇	—	◎○ 五四、九八一 — 一一	—	◎○ 四三二、五〇九 二二〇 一一	—
測量費	—	二一、三五八	—	四、九一四	—	二六、二七二	—
營繕費	—	○ 二三、五四八 二〇	—	○ 二、六七九 —	—	○ 二六、二二七 二〇	—
雜費	—	◎○▲ 二〇七、六三六 六八 五三七 三一四	—	◎○▲ 五二、六七七 — 九八 一五	—	◎○▲ 二六〇、三一三 六八 六三五 三二九	—
亡失毀損	—	四〇二	—	—	—	四〇二	—
共濟組合給與金	—	七、九二二	—	二、八八五	—	一〇、八〇七	—
總計	—	▲□ 二、九八三、四六五 二〇、二二八 五七、五四八	—	▲□ 四三六、六七九 七、九八六 一、五一一	—	▲□ 三、四二〇、一四四 二八、二一四 五九、〇五九	〇・五八

第一七　富士川改修工事

緒言

本工事ハ大正九年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費九百三十萬圓(上流部七百萬圓、下流部二百三十萬圓)ナリシガ豫算編成當時ニ比シ一般物價及勞銀ノ昂騰甚シク工費ニ不足ヲ告ゲタルヲ以テ大正十二年度以降增額シテ一千二百萬圓(上流部九百萬圓、下流部三百萬圓)ニ改メ施行年限ヲ延長シテ昭和六年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシタルガ財政緊縮ニ依リ更ニ同十一年度迄延長施行スルコトトセリ其區域ハ上流部ニテハ幹川山梨縣中巨摩郡龍王村ヨリ同縣南巨摩郡五開村ニ至ル二十粁、支川笛吹川同縣東八代郡石田町ヨリ同縣西八代郡市川大門町三川合流點ニ至ル十九粁又下流部ニテハ幹川靜岡縣庵原郡富士川町以下海ニ至ル八粁、計四十七粁ナリトス

河狀竝計畫大要

富士川ハ幹川ヲ上流ニ於テ釜無川ト稱シ源ヲ山梨縣ノ西北隅ニ屹立セル駒ケ嶽ノ西麓ニ發シ甲信ノ境ヲ北流スルコト十八粁餘ニシテ南折シ同縣北巨摩郡ニ入リ一大斷層谷ヲ流レ大武川、小武川、鹽川、御勅使川等ノ支川ヲ合シ龍王村ニ至リ始メテ甲府盆地ニ出ヅ甲府盆地ハ太古一大湖水ナリシガ富士川ノ作用ニ因リ陸化シタル所ニシテ地形平夷面積一萬三千ヘクタールニ達シ灌漑ノ便全シト雖モ一朝洪水ニ際會セバ水災最モ慘狀ヲ來ス地方ナリ釜無川之レヨリ盆地ヲ貫キ中巨摩郡忍村ニ至リ笛吹川及蘆川ノ東ヨリ來ルニ會ヒ之ヨリ以下ヲ富士川ト稱シ南巨摩郡鰍澤町地先禹ノ瀨ニ至リテ再ビ山地ニ入リ南流シ

早川、芝川等ノ支川ヲ合シ靜岡縣富士郡岩松村ニ至リ再ビ平原ニ出デ駿河灣ニ注グ此平原モ亦本川砂礫ノ冲積セルモノニシテ其面積五千ヘクタールニ達シ古來水災激甚ノ地ナリトス而シテ水源ヨリ笛吹川合流點迄ノ流程五十八粁、合流點ヨリ河口迄ノ流程七十一粁、合計百二十九粁ナリ又支川笛吹川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ノ北隅甲武信ヶ嶽、國師ヶ嶽及奥千丈嶽ニ發シ山嶽ノ間ヲ西南ニ流レ同郡日部下村ニ於テ甲府盆地ニ出デ重川、日川、金川、荒川等ノ支川ヲ集メ忍村ニ至リ釜無川ニ合流ス其流程五十粁ナリ

本川流域ハ長野、山梨、靜岡ノ三縣ニ跨リ流域面積四千五百三十平方粁ナレドモ其大部ハ山嶽部ニシテ平地ハ六百十平方粁ニ過ギズ支川ヲ合セ流路延長一千七百八十粁、航路延長九十粁、灌漑區域一萬八千二百ヘクタールニ及ビ水害區域一萬三千五百ヘクタールヲ算ス而シテ流域ハ山地其大部分ヲ占ムルヲ以テ夏期颱風ノ候ニ於テハ豪雨頻々トシテ來リ、山林濫伐ノ爲メ水源荒廢セルモノ尠カラズ又花崗岩、閃綠岩等ヨリ成レル山地ノ風化崩壞スルモノ多キヲ以テ出水量多大ナルノミナラズ時トシテハ土砂流ヲ生ジ而モ河床勾配急峻流勢急激ナルガ故ニ堤塘ヲ破壞シ沿川ノ耕地ヲ變ジテ礫川ト化セシメ大慘害ヲ釀セシコト稀ナラズ殊ニ明治四十年ノ大出水ニ際シテハ笛吹川支川重川、日川、金川等ノ水源大崩壞ヲ來シ土砂ヲ以テ甲府平原ノ一半ヲ埋沒スルニ至リ其水害損失價額ハ一千二百萬圓ノ巨額ニ上レリト云フ近時水害減少シタリト雖モ尙大正五年以降同十四年ニ至ル十箇年間ニ於ケル平均一箇年水害損失價額ハ約四十三萬九千圓ニ達ス

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ採用シタル高水流量及河幅ハ左ノ如シ

縣名	河川名	區間	高水流量	河幅
山梨縣	釜無川	龍王村ヨリ笛吹川新合流點ニ至ル區間	毎秒立方米 三、一〇〇	自二七〇 至四五〇米
	笛吹川	石和町ヨリ荒川合流點ニ至ル區間	二、二〇〇	自一八〇 至二九〇
		荒川合流點ヨリ蘆川合流點ニ至ル區間	二、五〇〇	
		蘆川合流點ヨリ富士川合流點ニ至ル區間	二、八〇〇	
靜岡縣	富士川	笛吹川新合流點ヨリ天神瀧ニ至ル區間	五、六〇〇	自三六〇 至七三〇
	富士川	松野村ヨリ海ニ至ル區間	九、八〇〇	自三四〇 至一、四五〇

改修方法トシテハ上流部山梨縣下ニ屬スル區域中釜無川筋龍王村以下花輪村地先淺原橋ニ至ル間ハ兩岸堤防堅固且其位置宜シキヲ以テ在來ノ儘トシ唯兩岸堤脚ヨリ水制ヲ出シ流心ノ堤脚ニ接近スルヲ防ガントス又支川笛吹川ニ於テハ河積不足ナル箇所ハ河幅ヲ擴張シ掘鑿ヲ施シ又一部河床ノ隆起著シキ部分ハ浚渫ヲ行ヒ堤防ノ薄弱ナル箇所ハ嵩置腹付ヲ爲サントス而シテ笛吹、蘆ノ兩川ハ共ニ忍村ニ於テ釜無川ニ合シ而モ釜無川及蘆川ハ急流ニシテ河床高ク笛吹川ハ兩川ノ間ニ介在シ勾配緩ナルガ爲メ其合流口閉塞セラレ洪水ノ排疏頗ル困難ナルヲ以テ笛吹川ハ蘆川ト共ニ新河道ニ依リテ三粁ノ下流ニ導キ西八代郡高田村地内ニ於テ幹川ニ合セシメ笛吹川ノ疏通ヲ助ケントス富士川(釜無笛吹、蘆ノ三川合流點以下ヲ富士川ト稱ス)ハ鰍澤町地先禹ノ瀬ニ於テ狹塞セラレ水面勾配緩トナリ從テ三川合流點以下ノ現川敷ハ計畫流量ヲ排疏スルニ足ラザルヲ以テ前述ノ如ク笛吹川ヲ分流シ河幅ヲ擴張シ堤塘ヲ嵩置ニ加フルニ掘鑿ヲ施シ充分ナル流積ヲ與ヘントス又禹ノ瀬以下ニ在リテハ大柳川殆ンド直角ニ本川ニ流入シシテ其洪水ノ疏通ヲ阻ム虞アルニ依リ床固ヲ築造シテ河床ヲ整正セントス尚蘆川、戸川及小柳川等

ニモ床固ヲ設クルモノトス

下流部靜岡縣下ニ屬スル區域中岩松村以下東海道線鐵道橋以上ハ流勢ノ激衝スル所略一定スルヲ以テ現存工作物ノ機能ヲ增進セシムルニ努メ鐵道橋以下ニ於テハ水勢ノ激衝スル堤脚ニハ水制ヲ出シ左岸下流無堤ノ箇所ニハ新ニ堤塘ヲ設ク尙上下流部改修區域ヲ通ジ堤塘護岸等ハ必要ニ應ジテ擴築或ハ增築ヲ爲スモノトス

山梨縣南巨摩郡五開村ヨリ靜岡縣庵原郡富士川町ニ至ル約五十粁ノ間ハ殆ンド山間部ニシテ平地少ク洪水ニ因ル被害比較的重大ナラザルヲ以テ本改修計畫ニ計上セズ

堤防ハ上流部釜無川及富士川ニテハ馬踏六米兩法二割五分笛吹川ニテハ馬踏六米、兩法二割トシ天端ヲ計畫高水位以上鰍澤町附近ニテ一米八ト爲シ上流ニ至ルニ從ヒ漸次此餘裕ヲ減ジ釜無川筋淺原橋ニテ一米五、笛吹川筋鵜飼橋ニテ一米二タラシム又下流部ニテハ左岸堤ハ馬踏八米ニシテ岩松村地先ニ於ケルモノハ表法三十割、裏法二割、加島村及田子浦村地先ニ於テハ表法二割、裏法六割トシ右岸堤ハ馬踏六米、表法二割、裏法二割五分ヲ標準トシ天端ヲ計畫高水位以上一米八トシ河口ニ至ルニ從ヒ此餘裕ヲ減ジ一米タラシム

河幅ハ上流部釜無川及富士川ニテハ多クハ在來堤ヲ擴築スルニ止マリ釜無川ニテ三百米乃至四百米、富士川ニテ三百六十米乃至五百米ナリ又笛吹川ハ河積不足ノ爲メ引堤セシ部分尠カラズ二百米乃至二百九十米ナリ尙下流部ニ於テハ多クハ在來堤ヲ擴築シ左岸無堤ノ箇所ニ新堤ヲ築設セシ爲メ河幅著シク不同ナリ即チ改修上流端一番出ニテハ三百六十米ナレドモ雁堤附近ニテハ九百米以上ニ增大シ國道橋ニテハ再ビ四百米ニ縮少シ鐵道橋ニテハ五百七十米トナリ以下漸次擴大シ宮下突出部ニテ一千米、堤防

末端ニテ一千七百米ニ達ス

施工狀況

本工事ハ大正九年度ノ創業ニ係リ直ニ上流及下流ニ各土地收用事務所ヲ設置シテ土地買收調査ニ著手シ翌十年度ヨリ買收協議ヲ開始シ事務ノ進捗ニ伴ヒ下流ハ同十年八月、上流ハ同十三年六月各收用事務所ヲ閉鎖シ殘務ハ上流及下流兩改修事務所ニテ處理シ同十四年度迄ニ殆ンド全部ノ土地買收ヲ了レリ其總段別百八十八町三段餘ニシテ用地費九十三萬四百五十五圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ下流部ハ同十年四月靜岡縣富士郡岩松村ニ又上流部ハ翌十一年一月山梨縣西八代郡市川大門町ニ改修事務所ヲ設置シ其下ニ數箇所ノ派出所ヲ設ケ各種工事ヲ施行シ本年度末迄ニ築堤三百五十八萬一千九百三立方米、浚渫二百七十七萬九百二十二立方米、護岸水制延長九千四百四米ヲ竣成セシメ外ニ附帶工事直轄施行五箇所(內未竣功二箇所)ヲ施行シ同管理者施行ニ對シ三萬二千九百七十五圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

今本年度施工ノ概況ヲ述ベンニ上流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ築堤十八箇所、人力掘鑿六箇所、護岸水制九箇所及附帶工事一箇所竝ニ本年度起工ノ築堤七箇所、人力掘鑿二箇所、護岸水制十六箇所及附帶工事三箇所ヲ施工シ內築堤七箇所、人力掘鑿二箇所、護岸水制十七箇所及附帶工事二箇所ヲ竣功セシメタリ

工事施行區域ハ釜無川筋淺原橋附近ヨリ下流鰍澤町地先ニ至ル間及笛吹川筋螢見橋附近ヨリ下流三川落合ニ至ル間ニシテ人力掘鑿工事ハ釜無富士ノ兩川高水敷及寄洲竝ニ笛吹川高水敷及低水路ヲ全部築堤費支辨ニテ掘鑿運搬シ年度內土砂三十二萬一千六百八十立方米ヲ竣成シ築堤工事ハ富士釜無兩川及

笛吹川ノ新堤築設竝ニ舊堤擴築ノ爲メ前記土砂ノ外笛吹川左岸東八代郡右左口村及境川村民地土取場ヨリ九萬八千百七十六立方米(有償)、計四十一萬九千八百五十六立方米ヲ堤敷ニ搬入シ內三十九萬八千六十二立方米ヲ築立テ芝張十二萬五千九百九十二平方米ヲ施工ス此外富笛築堤ノ一部ニ將來ノ釜無、笛吹兩川瀨割堤トシテ延長三百五十米ノ石堤ヲ築設セントシ其根固用コンクリート方格枠一千五百九十二平方米、石積四千九百五十九平方米ヲ施工シ其他、朝井、大塚、南湖及新川右岸築堤ノ法先又ハ法面保護ノ爲メ杭柵及石張ヲ施工セリ

護岸水制ハ釜無川筋藤田村以下ニ於テ混凝土合掌枠十二箇所、杭出殘工事一箇所、混凝土大聖牛二十二、組ヲ施行シ新蘆川筋ニ於テハ蘆川床固、若宮護岸及蘆川導水堤ヲ完成シ右岸ニ河原間護岸ヲ起工シ九割ヲ竣功セシメ又戸川筋ニ於テハ左岸北畑水制ヲ竣功シ其他隨所ニ水制工ノ準備ヲ進メタリ而シテ年度內功程ハ石張八千九百六十平方米、床固九十九米、混凝土合掌枠三百七十四米、混凝土大聖牛百十米、混凝土杭出三十米、根固用混凝土方格枠八十米、鐵筋混凝土柱製作三萬七千三十一本、玉石及割石採集運搬一千五百二十六立方米等ニシテ其竣功延長二千五百五十八米ナリトス

附帶工事ハ增穗樋門ヲ前年度ヨリ引續キ施行竣功セシメ西八代郡大塚村起業ニ係ル大塚用水樋管、上野村ノ上野排水樋門及豐和村ノ下大鳥居排水樋門ノ三箇所ヲ直轄施行シ內大塚樋管ハ竣功シ其他ハ各八割進捗セリ尙管理者施行ノ用排水路附替工事ニ對シ九千八百六十五圓ノ國庫補助ヲ爲セリ

下流部ニテハ前年度ヨリ繼續ノ築堤五箇所、護岸水制七箇所竝ニ本年度起工ノ護岸水制十箇所ヲ施工シ內築堤四箇所、護岸水制七箇所ヲ竣功セシメタリ

護岸水制ハ前年度ヨリ續工セル左岸松岡水制、一ノ堤下水制、中堀水制及田子浦第二護岸ノ四箇所ヲ竣成

セシメ引續キ田子浦第三護岸及宮下水制ノ上流ニ森島護岸ヲ起工シ右岸ハ東海道國道橋ノ上下流ニ岩淵護岸及岩淵第二護岸ヲ起工セシモ何レモ未竣功ニ了レリ而シテ年度内功程ハ混凝土方格枠六千四百四十平方米、混凝土大聖牛二十七組、混凝土合掌枠四十八米、石張六千七百四平方米、石材所出二千二十八立方米、鐵筋混凝土杭製作三萬二千百二十一本ニシテ其竣功延長七百八米ナリトス

本年度竣功高ハ七十七萬五千二百三十八圓ニシテ創業以來ノ累計ハ五百四十九萬五千五百五十九圓トナリ之ヲ總工費豫算一千二百萬圓ニ比較スルトキハ四割六分ノ竣功ニ當レリ工事竣功表左ノ如シ但シ表中「※」ハ利用土量「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額「□」ハ管理者負擔額ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	築堤	※ 三、一三七、六八七立方米 二四、三六○	△ 二、○七○、八九九円 一九	※ 四一九、八五六立方米	△ 三○九、六一三円	※ 三、五五七、五四三立方米 二四、三六○	△ 二、三八○、五一二円 一九	割分 ○・七五
	浚渫	※ 八一、三一五 二、三六七、九二七	五六、七六九	※ 三二一、六八○	—	※ 八一、三一五 二、六八九、六○七	五六、七六九	○・四四
	護岸水制	六、一三八米	△ 七四七、八○二 九二五	三、二六六米	△ 三二○、四一一 一一	九、四○四米	△ 一、○六八、二一三 九三六	○・二五
用地費		二、○九三段	九三○、四五五	—	—	二、○九三段	九三○、四五五	—
附帯工事費	直轄施行	竣功 一 未竣功 一箇所	□ 四二、一三○ 二○、三四九	竣功 二 未竣功 二箇所	□ 二六、五○五 一七、二四二	竣功 三 未竣功 二箇所	□ 六八、六三五 三七、五九一	○・三三
	管理者施行	竣功 一二	二三、一一○	竣功 四	九、八六五	竣功 一六	三二、九七五	
船舶及機械費		—	△ 四二五、二六一 五八九	—	△ 三五、○七四 二三二	—	△ 四六○、三三五 八二一	—
測量費		—	一八、九六五	—	二、二七一	—	二一、二三六	—
營繕費		—	二三、二四八	—	三、五四八	—	二六、七九六	—
雜費		—	三七二、一二○	—	六五、四三三	—	四三七、五五三	—
共濟組合給與金		—	九、五六二	—	二、五一八	—	一二、○八○	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
總計	—	□ 円 四、七二〇、三二一 二〇、三四九	—	□ 円 七七五、二三八 一七、二四二	—	□ 円 五、四九五、五五九 三七、五九一	割分 〇・四六

第一八　木曾川上流改修工事

緒言

本川筋ニ於テ曩ニ洪水ノ害ヲ除キ惡水ノ疏通ヲ圖リ兼テ舟揖ノ便ヲ改良センガ爲メニ國ニ於テ明治二十年度ヨリ木曾、長良、揖斐三川ノ改修工事ヲ施行シ大正元年度竣功ヲ告ゲ豫定ノ效果ヲ擧グルヲ得タリ然ルニ右改修區域ノ上流ニ屬スル部分ハ河幅狹隘、屈曲著シキ箇所アリ且河底ニ土砂埋堆シ堤防亦薄弱ナルノミナラズ無堤ノ箇所スラアリテ洪水ノ脅威ヲ受ケ一朝破堤ノ厄ニ會センカ啻ニ上流廣漠タル平野ヲ水底ニ沒セシムルノミナラズ濁流更ニ下流ヲ襲ヒ既成下流改修ノ效果ヲ空シクスルノ虞アリ上流改修ノ必要アルヲ以テ工費二千萬圓(內愛知縣負擔六十八萬四千圓、岐阜縣負擔四百七十四萬五千圓)ヲ以テ大正十年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ施行シタリ其後大正十一年度ニ至リ二箇年度ヲ延長シ又大正十二年度關東大震災ノ爲メ五箇年度ヲ繰延べ十七箇年度繼續事業トス然ルニ本川改修工事施行上之レニ附帶シテ支派川改修ノ必要ヲ認メ昭和三年五月第五十五議會ニ於テ犀川外二箇川改良工事ニ對シ二百四十一萬四百五十圓(全部國費)ヲ追加シ總工費ヲ二千二百四十一萬四百五十圓トセリ而シテ其改修區域ハ木曾川筋愛知縣丹羽郡犬山町以下既成區域ニ至ル約三十一粁、長良川筋岐阜市以下約二十七粁、揖斐川筋岐阜縣揖斐郡北方村以下約十八粁、藪川筋岐阜縣本巢郡山添村根尾川分派口以下揖斐川合流點ニ至ル約十二粁、牧田川筋流末約四粁竝ニ犀川、三水川、牧田川上流等ノ支派川ナリトス

河狀竝計畫大要

木曾川ハ源ヲ長野縣西筑摩郡木祖村ナル鉢伏山ニ發シ高山峻岳重疊タル木曾溪谷ヲ奔流シ大小數多ノ溪流ヲ併セ藪原、福島、上松等ノ山村ヲ過ギ岐阜縣下ニ入リ丘陵ノ間ヲ迂餘曲折數次八百津町ヲ過ギ大支飛騨川ヲ右方ヨリ合セ太田ニ至リ少許ニシテ尾濃ノ國界ヲ流レ愛知縣丹羽郡犬山町ニ至ル之ヨリ地勢展開シ所謂尾濃勢ノ平野ニ出ヅ以下始メテ堤防ノ設ケアリ犬山町以下少許ニシテ亂流數條ニ岐レ岐阜縣羽島郡川島村ヲ擁シ更ニ西流スルコト約三十一粁、同郡八神村ニ至ル夫レヨリ下流ハ即チ既改修部分ニシテ流下スルコト流三十一粁、三重縣桑名郡伊曾島村木曾岬村ノ間ニ於テ伊勢灣ニ朝ス流路長約二百二十粁ニシテ灌漑面積約二萬四千五百九十ヘクタール、流域面積約五千二百七十五平方粁ニシテ內山地面積四千百十八平方粁、平地面積一千百五十七平方粁ナリ

長良川ハ岐阜縣郡上郡高鷲村奥本谷ニ發源シ南流シテ八幡町、美濃町等ヲ過ギテ吉田、板取、武儀、津保ノ諸川ヲ容レ方向ヲ西ニ轉ジ金華山ノ北麓ヲ經テ岐阜市ニ至リ平地ニ出ヅ次デ右方長良古川ヲ分派シ本流ハ市ノ北境ヲ流レテ本巣郡河渡村一日市場ニ至リ再ビ古川ヲ容レ西南ニ折レ東海道鐵道橋ノ上ニ至リ右支糸貫川ヲ合ス夫レヨリ墨俣町ヲ經テ海津郡吉里村大字成戸ニ達ス之レヨリ以下ハ即チ既改修部分ニシテ南流スルコト約二十四粁三重縣桑名郡伊曾島村地先ニ至リ揖斐川ト合シ伊勢灣ニ注グ下流改修前ニ在リテハ前記成戸ニ於テ木曾川ニ合流セシモ改修ノ結果分流スルニ至リシモノナリ流路長約百四十九粁ニシテ灌漑面積約一萬二千七百三十ヘクタールニ及ビ流域面積約二千三百十三平方粁ニシテ內山地面積一千八百九十七平方粁、平地面積四百十六平方粁ナリ

揖斐川ハ源ヲ岐阜縣揖斐郡德山村ナル奥山ニ發シ始メハ東南ニ流レ後南折シテ同郡北方村ニ至リ平坦部ニ出テ始メテ堤塘ノ設ケアリ夫レヨリ揖斐町ヲ經テ養基村大字脛永ニ至リ右支粕川ヲ容レ更ニ本巣

郡川崎村大字宮田ニ於テ根尾川ノ分派藪川ヲ容ル夫レヨリ南流呂久ヲ過ギ東海道鐵道橋ニ達ス以下ハ既成部分ニシテ養老郡池邊村ニ至リ右支牧田川ヲ合シ今尾ヲ經テ更ニ津屋川ヲ合シ濃勢ノ國界千本松ニ至リ以下長良川ト瀬割堤ヲ距テテ相竝ビ遂ニ同川ト合シ三重縣桑名町ヲ經テ同郡城南村ニ至リ海ニ注グ流路長約九十八粁ニシテ灌漑面積約一萬四千七百二十ヘクタール、流域面積約一千五百十一平方粁ニシテ内山地面積一千二平方粁、平地面積五百九平方粁ナリ

支川根尾川ハ源ヲ岐阜縣本巣郡根尾村ノ山中ニ發シ南流シテ山添村大字山口ニ至リ初メテ平坦部ニ出テ二派ニ岐ル右派ハ藪川ト稱シ西南ニ流ルルコト約十粁本巣郡川崎村ニ於テ揖斐川ニ入ル左派ハ糸貫川ト稱シ東南ニ流ルルコト約十六粁ニシテ同郡生津村ニ至リテ長良川ニ注グ流域面積ハ約四百十六平方粁ニシテ流路長ハ約五十九粁ナリ

木曾川ノ水害ハ古來激甚ニシテ其度數モ亦頻繁ナリ特ニ西濃地方ハ我邦ニ於ケル稀有ノ水害地ニシテ是レ地勢低濕ノ致ス所ナリト雖モ一ハ河川ノ狀況不良ナルニ起因セズンバアラズ而シテ各川有堤部ニシテ一朝破堤センカ水害ヲ被ルベキ虞アル部分ハ岐阜縣管内四萬七千四百三十ヘクタール、愛知縣管内四萬四千七十ヘクタール、三重縣管内四千七百ヘクタール、合計九萬六千二百ヘクタールナリ

上流改修計畫ハ主トシテ下流改修工事既成部分ノ上流ヲ改修セントスルモノニシテ其計畫大要ヲ擧グレバ左ノ如シ

木曾川ハ局部ヲ除キ河狀概シテ良好ニシテ相當ノ河幅ヲ保チ不良ノ屈曲無ク河底甚シク埋堆セルモノ無キヲ以テ大體現狀ニ依リ著シキ變更ヲ加ヘズ唯近年出水ノ趨勢ニ鑑ミ兩岸舊堤ヲ擴築シテ天端幅七米、兩法二割トシ小段ヲ附シ天端ノ高サヲシテ高水位上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス唯川島村地先ニ

於テハ河身數派ニ分レ出水ノ都度其趨勢ヲ異ニシ爲メニ堤防ニ惡影響ヲ及ボシ其危險ヲ惹起スルノ虞アルヲ以テ數多ノ支派流ヲ遮斷シテ河身ヲ一定シ以テ洪水ノ際其快流ヲ圖リ併セテ堤防ニ向ヒ奔流スルノ危險ヲ防止セントス即チ本水路ハ相當ノ河積ヲ保タシムル爲メ多少ノ掘鑿ヲ施シ兩岸ハ前後ノ護岸高ニ準ジ適宜之レヲ施工シ以テ該附近ノ耕地ノ保護タラシメントス

長良川ハ岐阜市附近ニ於テ古川、古々川ノ兩川ヲ分派シ洪水ノ際ハ其幾分ヲ兩派ニ依リテ疏通スルノ現狀ナルモ此ノ如キハ河狀荒廢ノ原因トナリ得策ニ非ザルヲ以テ兩派川ヲ締切リ本流ハ河幅狹隘ノ部分ヲ擴大シ三百米乃至四百米ト爲サントス而シテ現在河幅ノ之レヨリ廣キ部分ハ其儘トシ舊堤ニハ增築ヲ施シ堤防ノ大サハ天端幅七米、兩法二割トシ尙小段ヲ附シ天端ノ高サハ大體ニ於テ高水位上二米五ノ餘裕ヲ保タシメントス而シテ必要ナル河積ヲ與フル爲メ堤防間ニ於テ適當ノ幅ヲ定メ掘鑿ヲ施シ且河渡以下ハ低水敷ヲ規定シ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ニ連絡セシメントス

揖斐川ハ藪川合流點以上ハ局部ヲ除キ現在河幅可ナリ廣キヲ以テ增大スルヲ要セズ大體ニ於テ舊堤ニ擴築ヲ施シ同川合流點以下ハ從來無堤ニシテ洪水ノ際兩岸廣濶ナル區域ニ汎溢スルヲ以テ之レヲ防止スル爲メ適當ノ河幅ヲ定メ兩岸ニ築堤ヲ爲サントス堤防ノ大サハ藪川合流點以上ハ天端幅五米五、兩法二割、同合流點以下ハ天端幅七米、兩法二割トシ高サ大ナル箇所ニハ小段ヲ附シ天端ノ高サハ高水位上二米五トス尙必要ナル河積ヲ與フルガ爲メ相當ノ掘鑿ヲ爲シ又藪川合流點以下ノ低水路ヲ定メ少許ノ浚渫ヲ施シ以テ既成部分ノ低水路ニ接續セシメントス

根尾川ノ一派タル糸貫川ハ其分派口附近ニ於テ締切ヲ施シ尙樋門ヲ設ケ灌漑等ニ必要ナル水量ヲ流下セシム從ツテ根尾川ノ洪水ハ總テ藪川ニ流下セシム

藪川ハ大體ニ於テ現在ノ河幅廣大ナルヲ以テ大體之ヲ擴大セズ舊堤ノ増築ヲ施スニ止ム堤防ノ大サハ天端幅五米五、兩法二割ニシテ成ルベク小段ヲ附シ天端ハ高水位上二米ノ高サヲ保タシメ尚河中ニ於テ必要ナル掘鑿ヲ施スモノトス

牧田川ハ高淵ノ狹窄部以下ニ改修ヲ加フルモノトス尚木曾、長良、揖斐、藪、牧田ノ五河川共必要ナル箇所ニハ相當ノ護岸竝ニ水制ヲ施工シ又締切箇所等ノ必要ナル所ニハ樋門ヲ設ク而シテ既成改修工事ニ屬スル區域ト雖モ近時ノ出水ノ趨勢ニ鑑ミ前回改修ノ際工費等ノ都合ニ依リ充分改良ヲ加フルコト能ハズシテ現時尚堤防薄弱、惡水排除ニ障害アル箇所等ニ對シテハ精査ノ上相當ノ施設ヲ加フルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十年度ノ創業ニシテ用地買收ノ爲メ翌十一年一月土地收用事務所ヲ竹ケ鼻町ニ開設シ其後之ヲ加納町ニ移セルモ大正十三年十一月限リ之ヲ閉鎖シ改修事務所ニ於テ其事務ヲ取扱フコトトシ第一次、第二次、第三次ニ亙リ木曾川筋ハ長岡村神明津地先川島村地先、長良川筋ハ小藪村以北墨俣町間、揖斐川筋ハ下宮村以北粕川口間ノ用地ヲ買收セリ然ルニ本年度藪川筋ノ土地ヲ買收スルニ當リ事務ノ敏速ヲ期スル爲メ再ビ土地收用事務所ヲ本巣郡北方町ニ設置セリ本年度ニ於ケル土地買收竝ニ調査區域ハ長良川筋稻葉郡日置江村地先及藪川筋本巣郡川崎村彈正村地先等ニシテ買收段別一町七段三畝歩ナリ而シテ創業以來本年度迄ノ買收總段別ハ二百六十一町三段五畝餘ニシテ其金額地上物件移轉料及諸補償費ヲ合セ二百八萬七千二百十一圓ナリトス

工事施行ニ關シテハ大正十二年一月岐阜市忠節町ニ木曾川上流改修事務所ヲ設置シ揖斐川、長良川、木曾

川ノ順序ニ工ヲ起シ各川筋ニ各一工場ヲ設ケ其下ニ若干ノ派出所ヲ置キ揖斐川筋ニ在リテハ著手劈頭改修區域ノ下流部タル呂久地先ノ新川附替箇所ヲ完成シ引續キ上流ニ工ヲ及ボシ殆ント其八割ヲ竣成シ高水快流ノ狀顯著ニシテ改修ノ效果ヲ收メ長良川筋ニ在リテハ下流改修ノ際殘サレタル西小藪地先ノ舊川締切工ヲ完成シ進ンデ其上流五粁間ニ工ヲ擴メ尙一面西小藪下流左岸舊堤ノ擴築ヲ爲シ其大部分ヲ完成セルヲ以テ河積ノ擴大ト築堤ノ堅牢トヲ加ヘ此區間ハ全ク洪水ノ脅威ヨリ免レ得ルニ至レリ木曾川筋ニ在リテハ亂流部タル川島村地先ニ於ケル河身整理ニ努力シ其主要部分ヲ竣功シタリ

起工以來本年度迄ノ工程ハ掘鑿土量四百十五萬六千四百四十二立方米、築堤土量五百五十六萬三千五百九十一立方米、護岸延長一萬二千六百三十二米、水制二千百八十四米、附帶工事六箇所、假工事三箇所ニシテ之ニ使用セシ主要機械ハ掘鑿機四臺、二十瓲機關車四臺、五瓲機關車四臺、其他自働杭打機、混凝土混合機等ニシテ之等諸機械ノ修理ハ岐阜機械工場ニ於テ施行セリ

本年度施工區域ハ揖斐川筋自左岸鷺田村 右岸下宮村至左岸揖斐町 右岸養基村間、長良川筋自左岸桑原村 右岸大江村至左岸小熊村 右岸墨俣町間、木曾川筋ハ川島村地先ニシテ本年度ニ於ケル施行工事ハ機械掘鑿四箇所、人力掘鑿一箇所、築堤十二箇所、護岸十七箇所、水制三箇所、假工事一箇所、其他直轄施工ハ附帶工事三箇所、管理者施行ノ附帶工事五箇所ニシテ之等總竣功額ハ六十二萬一千八百二十五圓外ニ土捨出願者提供ノ材料勞力費ハ一萬一千餘圓ナリ今其施工概況ヲ各川別ニ擧グレバ左ノ如シ

揖斐川筋ニ在リテハ呂久右岸築堤ハ平野井川吐口ノ處分未解決ノ爲メ前年度來工事ヲ中止シタレドモ容易ニ解決ノ見込ナキヲ以テ打切竣功トセリ北平野築堤ハ神戸惡水路締切箇所ヲ殘シ九割五分竣功シ鶯築堤ハ一部用地買收未濟ノ地點アリ爲メニ工事ヲ一時中止シ北平野築堤、揖斐第一築堤ハ何レモ竣功

シ養基築堤ハ養基樋門設置箇所ヲ殘シ八割方竣功ヲ見、呂久人力掘鑿ハ昨年度來ヨリ中止セリ之等築堤ノ用土ハ努メテ計畫河身内ヨリ掘鑿シ高水ノ疏通ヲ助長セシムルコトトセリ又兩岸ニ於ケル水流激衝ノ箇所ニハ河岸及堤防ヲ保護スル爲メ護岸ヲ施シ池田護岸、川合第二護岸、同水制、清水護岸及同水制ノ諸工事ヲ竣功セリ

長良川ハ左岸小藪村、八神村、堀津村、右岸海西村方面ニ於ケル築堤及掘鑿ハ前年度迄ニ完成シ其上流ノ大土工タル名森機械掘鑿ハ約七割ヲ竣功シ福壽機械掘鑿モ亦八割二分ノ工程ヲ擧ゲ改修前ニ比シ著シク河積ヲ擴大セリ又名森築堤ハ八割六分、福壽築堤ハ八割二分、大江築堤ハ二割二分ヲ進工シ大藪築堤、小藪築堤竝ニ下流改修區域内ノ舊堤ヲ擴築セル東江築堤等ハ何レモ之ヲ竣功セリ

木曾川筋ニ於テハ川島村附近亂流部ノ計畫河身掘鑿トシテ前年度來施工中ノ松原島第三機械掘鑿ヲ竣功シ引續キ其上流ニ松倉島機械掘鑿ヲ施行セリ護岸トシテハ小網島、松倉島、笠田、第三松原島、第三護岸追加工等ノ各工事ヲ竣功シ河田島護岸、追加工ハ八割八分、松倉島第二護岸ハ九割三分、笠田護岸追加工及笠田第四護岸工ハ約八割五分、前宮護岸工ハ約四分ノ竣功ヲ示セリ斯クノ如ク河岸工ノ進捗ト河身ニ於ケル掘鑿工ノ完成ト相俟ツテ河狀面目一新セントスル狀勢ニ在リ

附帶工事トシテハ前年度來ヨリ繼續施行中ノ逆川樋門、森部輪中樋管及中樋管ノ三工事ヲ直轄施行ノ下ニ竣功シ本年度國庫補助額ハ一萬九千七百四十八圓、管理者負擔一萬四百六十九圓ニシテ外ニ管理者施行ニ係ル桑原輪中排水機新設工及境川放水路附替工ニ對シ十一萬一千四百七十七圓ヲ補助セリ又工作物除却ヲ要スルモノ一件アリ二百五圓ヲ補助シタリ

木曾川上流改修工事本年度ノ竣功額ハ九十六萬五千四百九十四圓ニシテ起工以來ノ累計六百六十六萬

四千五百二十七圓トナリ總工費二千二百四十一萬四百五十圓ニ對シ三割ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ民費支辨「△」ハ岐阜機械工場製作品價額ナリ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 築堤	立方米 ※二、〇七一、〇六四 二、七二八、五〇八	円 七八五、一〇七	立方米 ※五四三、〇九二 二二〇、九二七	円 二〇九、六九一	立方米 ※二、六一四、一五六 二、九四九、四三五	円 九九四、七九八	割分 〇・五八
本工事費 掘鑿	▲三、六三七、八二一 二八〇、九〇七	八一九、四〇七 ▲二四、九七三	▲五一八、六二一 七一、五八二	九五、九六七 ▲一一、〇九〇	▲四、一五六、四四二 三五二、四八九	九一五、三七四 ▲三六、〇六三	〇・二二
本工事費 護岸水制	米 一〇、〇八三	四〇五、七六四	米 四、七三三	一八六、三〇二	米 一四、八一六	五九二、〇六六	〇・三八
本工事費 假設	—	九、〇二四	—	四二二	—	九、四四六	—
用地費	段 二、五九六 箇所 二	一、九六九、九八一	段 一七 箇所 四	一一七、二三一	段 二、六一三 箇所 六	二、〇八七、二一二	〇・三二
附帶工事費	—	一三九、六七一 △九、一九七	—	一二九、四四二 △一、九八八	—	二六九、一一三 △一一、一八五	—
船舶及機械費	—	九六〇、八〇六 △一三九、四三一	—	一〇九、三四五 △二七、三四四	—	一、〇七〇、一五一 △一六六、七七五	—
測量費	—	二八、六四八 △一七一	—	四、一四九 —	—	三二、七九七 △一七一	—
營繕費	—	七四、一八九 △三一〇	—	五、二二一 △一六	—	七九、四一〇 △三二六	—
雜費	—	四八六、二六七 △二八	—	一〇一、七六七 —	—	五八八、〇三四 △二八	—
共濟組合給與金	—	二〇、一六九	—	五、九五七	—	二六、一二六	—
總計	—	五、六九九、〇三三 △一四九、一三七 ▲二四、九七三	—	九六五、四九四 △二九、三四八 ▲一一、〇九〇	—	六、六六四、五二七 △一七八、四八五 ▲三六、〇六三	〇・三〇

第一九　斐伊川改修工事

緒　言

本工事ハ大正十一年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費六百二十萬圓ヲ以テ起工セシガ大正十四年度末ニ至リ施行年限ヲ延長シテ昭和十一年度ニ至ル十五箇年繼續事業ト改メラレ島根縣簸川郡出西村岩樋以下宍道湖(定川吐口)ニ至ル一五粁六及下流大橋川即チ松江市白潟魚町ヨリ中海ニ至ル七粁七ノ改修工事ヲ施行スルモノナリ

河狀竝計畫大要

斐伊川ハ山陰屈指ノ大河ニシテ源ヲ鳥取、島根兩縣界ニ聳ユル船通山ノ鳥上瀧ニ發シ島根縣下ヲ貫流ス上流ヲ横田川ト稱シ西流シテ仁多郡横田村ニ至リ左支下横田川ヲ容レ尙西流シテ同郡三成村ニ於テ左方ニ大馬木川ヲ合セ同郡温泉村ニ至リ左支阿井川ヲ入レ飯石郡田井村ニ於テ左支深野川ヲ納レ方向ヲ變ジ北流シテ大原郡木次町ニ於テ久野川ヲ右方ヨリ入レ三刀屋村ニ至リ更ニ大支三刀屋川ヲ左方ヨリ併セ稍西ニ轉ジ簸川郡出西村ニ至リ左支赤川ヲ入レ西流スルコト約七、八粁急ニ方向ヲ變ジテ北ニ向ヒ初メテ簸川平野ニ出デ直ニ新川ト稱スル派川ヲ右方ニ分派シ同郡伊波野村ヲ經テ東北ニ轉ジ同郡出東村ニ至リ定川ヲ左方ニ派シ東ニ向ヒ更ニ二十間川、北二十間川等ヲ分派シ次デ宍道湖ニ注グ支派川ノ數七十五、流路延長五百七十五粁八ナリ

宍道湖ハ面積八千三百ヘクタールヲ有スル淡水湖ニシテ略長方形ヲ爲シ東西ニ長ク其長約一六粁三、幅

約六粁周圍四十七粁ニシテ湖岸ハ出入極メテ少シ斐伊川ハ其西端ヨリ注ギ其他數多ノ小流ヲ併ス湖脚ハ東端ニ在リテ三川ニ依リ海ニ排疏ス一ハ佐陀川ニシテ濱佐陀ヨリ分派シ宍道山派ノ低部ヲ横斷シ西北ニ流レ惠曇村ニ至リ直ニ日本海ニ注グ流路八粁三往昔人工ヲ加ヘ開鑿セシモノナリト言フ二ハ大橋川ニシテ松江市ヨリ分派シ市中ヲ貫キ東流スルコト七粁七馬潟ニ至リ中海ニ注グ三ハ天神川ニシテ人工河川タリ同ジク松江市ヨリ分レ東流四粁一津田村ニ至リ大橋川ニ合流ス湖ノ東端ニハ松江市アリ其他沿湖ニハ小都邑乏シカラズ又多少ノ田園ヲ存ス

斐伊川ノ流域ハ島根縣下仁多、飯石、大原、簸川ノ四郡ニ跨リ面積一千六十六平方粁ニ達ス域内ハ流末簸川平野ヲ除ケバ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ巒嶽起伏セリ簸川平野ハ其東方ノ宍道湖松江平野竝ニ中海ト共ニ日本海ノ一部タリシニ主トシテ斐伊川ノ流送セシ土砂堆積シテ水面上ニ顯ハレタルモノニシテ面積約一萬五千四百ヘクタール現今ニ於テモ尚增大シツツアリ土地肥沃ニシテ山陰最大ノ農産地タリ

宍道湖及大橋川等ノ流域ハ松江市竝ニ簸川八束兩郡ニ跨リ南ハ斐伊川流域ヲ劃スル山地北ハ宍道山派ニ境シ西ハ簸川平野ニ、東ハ中海ニヨリテ限ラル面積ハ斐伊川流域ヲ除キ約四百平方粁(湖ノ面積ヲ含ム)アリ松江市附近ハ小平野ヲ爲シ土地豐沃産業發達セリ

流域内山地ノ狀況ハ概シテ良好ニシテ山林濫伐ノ爲メ著シク荒廢ニ歸セル處ナキガ如シト雖モ唯至ル所砂鐵ヲ産スルヲ以テ古來山地ヲ崩壞シ其採取ノ事業ヲ經營スルモノ多數ニシテ主トシテ土砂流出ノ原因ヲ爲セリ灌漑面積ハ斐伊川ニ在リテハ八千六百七十三ヘクタール、宍道湖及大橋川等ニテハ二千四百七十八ヘクタール、合計一萬一千百五十一ヘクタールニ達ス

斐伊川ハ古來屢次水害アリ往古流末ハ現今ノ川跡村附近ヨリ西流シテ日本海ニ注ギシガ寛永年間ノ洪

水ニテ東流宍道湖ニ注流スルニ至レリト云フ爾來出水每ニ屢其位置ヲ變ジ或ハ人爲ニ依リ派川ヲ改鑿スル等幾多ノ變遷ヲ經テ以テ現今ノ河道ヲ形成スルニ至レリ即チ右派新川ハ水害ヲ免レンガ爲メニ天保年間ニ於テ新鑿セシモノニ係リ左派定川モ其後更ニ開鑿セシモノニシテ佐陀、天神二川ノ如キモ亦湖ノ水害ヲ輕減センガ爲メ人工ニ依リ開鑿セシモノニ係レリ維新以後ニ至リテハ被害時ニ著大ニシテ人畜ノ溺死、家屋ノ流失破壞、耕地ノ荒廢、生産ノ損耗等擧ゲテ算フベカラズ之レガ復舊ニ要スル經費亦莫大ナリトス明治二十六年ノ洪水ノ如キハ特ニ其最モ甚シキモノナリ今水害ヲ受クベキ區域ヲ擧グレバ斐伊川本川ニ在リテハ其面積一萬一千五百一ヘクタール、宍道湖以下ニ於テ六百四十四ヘクタール、合計一萬二千百四十五ヘクタールニ達ス內出西村以下改修區域ニ屬スルモノハ凡テ一萬二百七十ヘクタールナリ

斐伊川ハ上流ニ於テ多少ノ水害ナキニ非ズト雖モ其被害甚大ナルハ下流地方ナルヲ以テ改修ハ出西村以下即チ簸川平野ニ屬スル部分ニ止メ計畫流量ハ三千六百立方米トシ定川分派口ニ至ルマデハ單ニ舊堤ニ嵩置ヲ施スニ止ム然レドモ兩堤間ノ狀況甚ダ不規則ニシテ且河積不足ナルヲ以テ若干ノ掘鑿ヲ施シ之ヲ整正シ以テ前記ノ流量ヲ安全ニ疏通スルニ足ラシム定川分派口以下ハ本川ヲ捨テ定川ヲ擴築シ必要ナル河積ヲ與フルモノトス

堤防ハ舊堤擴築竝ニ新堤共總テ天端ヲ計畫高水位以上一米五ノ高ニアラシメ馬踏幅七米五、兩法二割ノ勾配ヲ與ヘ總テ芝ヲ附シ必要ナル箇所ニ石張其他護岸ヲ設クルモノトス

新川ヲ締切リ廢川ト爲シ締切點ニハ新ニ樋門ヲ設ケ用水ヲ分派セシム又更ニ宍道湖ニ一時貯溜スル水ヲ迅速ニ排疏セシメンガ爲メ大橋川ヲ擴張シ兼テ舟運ノ便ヲ計ラントス即チ現在河幅ノ狹隘ナル處ハ

之ヲ擴張シテ七十二米トシ其レヨリ廣キ處ハ河中ニ於テ幅七十二米ノ部分ヲ浚渫シ兩法ニハ適當ノ勾配ヲ附シ尙崩壞ノ虞アル箇所ニハ護岸ヲ施スモノトス

施工狀況

本改修工事ハ大正十一年度ノ創業ニシテ同年度及十二年度ハ實施測量ニ著手シ十三年度ハ專ラ計算製圖等ノ整理ヲ爲シタルト共ニ船舶機械ノ整備ヲ爲シ大正十三年十一月ヨリ大橋川筋ノ浚渫ヲ開始シ前年度迄ニ七十八萬一千八百四十二立方米ヲ浚渫シ此工費十二萬九千八百三十七圓(外ニ民費一萬四千六百八十九圓)及掘鑿土量四萬五千八百三十立方米此工費一萬四千九百八十一圓(外ニ民費四千百三十三圓)ヲ要シタリ

本年度施行ノ浚渫工事ハ大橋川筋島根縣八束郡川津、津田、朝酌等ノ各村地先ニシテ掘鑿及護岸工事モ同區域内ナリ此等諸行事施工ニ使用セル器械類ハ十時間一千二百立方米掘鋤鏈式浚渫船二隻、同電動喞筒式浚渫船一隻、曳船三隻、六十立方米積土運船五隻、三十六立方米積土運船五隻、二十毬積工業船十隻、六瓩軌條三千二百米、トロ六十七臺ヲ使用シ本年度中ニ浚渫三十三萬四千五百四十立方米此工費三萬五千二百四圓(外ニ提供民費三萬六十五圓)掘鑿二萬二千六十九立方米此工費四千十一圓(外ニ提供民費四千百三十七圓)ヲ支出セリ

改修事業經過ニ關シテハ大正十三年度ニ事務所建設、同十四年度ニハ事務所構內ニ德島機械工場ノ仕上場、機關場、製鑵場(德島ニテハ鍛冶場ナリシヲ移築後製鑵場ニ變更使用)倉庫四棟ヲ移築シ同十五年度(昭和元年度)ニ機械工場事務室ヲ移築スルト共ニ鍛工場、鑄工場、木工及木型場、守警詰所等ヲ新築シテ十五年四

月一日ヨリ松江機械工場ヲ開設シ斐伊川改修工事及境港修築工事ニ使用スル機械器具ノ製作及修理ヲ爲シ二年度ニハ雜工場及職工浴場ヲ新設セリ

土地收用ニ關シテハ大正十五年六月一日ヨリ松江市新材木町ニ收用事務所ヲ開設シ大橋川筋用地買收調査ニ著手シ八束郡川津、朝酌、津田ノ各村地內十九町歩餘ノ買收ヲ了シ昭和二年一月十日簸川郡平田町ニ移轉シ斐伊川筋ノ調査ヲ開始シ本年度ニ至リ年度內ニ二十九町歩餘ノ買收ヲ了シ十七萬五千七百三十五圓ヲ支拂ヘリ

大橋川浚渫工事ノ土砂ノ處分ハ起工當初專ラ中海水中ニ於テ可成漁業其他ニ支障ナキ箇所ヲ撰ビ投棄シ來リシガ同川沿岸ハ無堤地ニシテ土地低ク潮水ノ害ヲ受クルコト屢アルヲ以テ一般ニ良田ナラズ爲メニ松江市及八束郡津田村ニ於テハ聯合耕地整理組合ヲ組織シ面積四十八ヘクタール餘ノ民有地ニ浚渫土ヲ捨土方出願シ其他個人ニテ出願セル希望者ニ材料及勞力ヲ提供セシメ昭和元年度ヨリ捨土ヲ開始セリ其合計面積ハ五十二ヘクタール餘ニ達シ捨土量ハ前年度迄ニハ三十四萬七千百七十六立方米之レニ對シ提供民費ハ一萬八千八百二十一圓ニシテ本年度ニ於テハ民地捨土二十四萬四千七百九十三立方米提供民費五萬九十七圓ナリトス

本年度竣功高ハ三十一萬五千八百十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百二十三萬四千四百九十一圓ナリ之レヲ總工費豫算六百二十萬圓ニ比スレバ二割ノ竣功トナル其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「○」ハ無償品評價額「▲」ハ提供品價額及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費―掘鑿	立方米 四五、八三〇	▲ 一四、九八四、一三四一円	立方米 二二、〇六九	▲ 四、〇一四、一三七一円	立方米 六七、八九九	▲ 一八、九九八、二七一二円	割分 〇・〇二

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費 浚渫	立方米 七八一、八四二	円 一二九、八三七 ▲一四、六八九	立方米 三三四、五四〇	円 三五、二〇四 ▲三〇、〇六五	立方米 一、一一六、三八二	円 一六五、〇四一 ▲四四、七五四	割分 〇・一八
本工事費 護岸水制	—	— — —	米 二、六八四	八、七六九 ○七、四七九 ▲一五、八九五	米 二、六八四	八、七六九 ○七、四七九 ▲一五、八九五	〇・〇二
用地費	段 一九七	八九、〇一三	段 二九五	一七五、七三五	段 四九二	二六四、七四八	—
船舶及機械費	—	四八七、三九六	—	四六、五九〇	—	五三三、九八六	—
測量費	—	一三、〇二九 ○二一	—	六七七 ○一	—	一三、七〇六 ○二二	—
營繕費	—	一七、二五三	—	七八四	—	一八、〇三七	—
雜費	—	一五九、〇六三 ○一二	—	四〇、七一八 ○四七	—	一九九、七八一 ○五九	—
共濟組合給與金	—	八、一〇七	—	三、三二四	—	一一、四三一	—
總計	—	九一八、六七九 ▲一八八二三	—	三一五、八一二 ▲五〇、〇九七	—	一、二三四、四九一 ▲六八、九二〇	〇・二〇

第二〇　信濃川上流改修工事

緒　言

本川ハ曩ニ航路改善、洪水防禦ノ目的ヲ以テ新潟縣長岡市以下ノ河身ノ改修ヲ實施シ明治三十八年度ニ其工ヲ終了シタルモ尙治水工事ノ必要ヲ認メ同市下流約十六粁ノ地點タル大河津村ヨリ新水路ヲ開鑿シ又上流長野縣下ニ於テハ千曲川及犀川ノ水患ヲ除去スルコトトナレリ即チ前者ハ明治四十年度ニ起工シ後者ハ大正七年度ヨリ著手シタリシニ依リ本改修工事ノ急施ヲ促進シ大正十二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル十箇年度繼續事業トシテ工費豫算額六百六十萬圓(內新潟縣負擔額二百三十四萬九千圓)ヲ以テ起工セシガ大正十二年九月一日關東震災突發ノ爲メ四箇年度ノ繰延トナリ昭和十年度ニ竣功セシムル豫定トナレリ其區域ハ左岸新潟縣三島郡片貝村、右岸古志郡六日市村ヨリ下流南蒲原郡中之島村地內信濃川締切堤防ニ至ル約三十一粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ甲武信ケ嶽ニ發シ流域ハ長野、群馬、新潟ノ三縣五市二十四郡ニ跨リ總面積一萬二千二百六十二平方粁、流路延長三百六十九粁、航路延長六百九十九粁、灌漑面積七萬六千二百二十ヘクタールヲ有シ越後平野ヲ貫流ス其灌漑ノ利大ナリト雖モ水害モ亦劇甚ナリトス

本川ノ洪水ハ春季融雪ト夏秋ノ候颱風ニ伴フ暴雨トニ起因スルモノニシテ上流長野縣下ニ於テ一日ノ降雨量七十粍以上ニ達セバ警戒スベキ洪水ヲ醸生スルコト多シ其水災ノ最モ甚シキ部分ハ山間部ヲ出

デタル古志郡六日市村妙見以下約三十一粁ノ間ニシテ地勢平坦東ハ遠ク下越平野ニ連ル産業ノ發展地タリ然ルニ兩岸ハ構造薄弱ナル堤防ニ抱擁セラルルノミナラズ河狀亦良シカラズ其幅員一定セズ廣キハ一千六百三十米、狹キハ五百五十米ヲ示シ恰モ瓢ノ連結セルガ如ク所々ニ砂礫又ハ芝生ノ寄洲介在シ甚シキニ至リテハ約長二千二百米、幅五百五十米ニ亙ル一大島地ヲ現出シ中ニ數多ノ人家及田畑ヲ有スル等流水ハ常ニ阻害セラレ亂流ス故ニ一旦出水ノ際ハ兩岸ヲ破壞シ中越平野ヲ泥海ト變ジ交通ヲ杜絶シ人畜ヲ害スルコト甚シク其水害區域一萬八千五百ヘクタールニ及ベリ今其水害損失價額ヲ見ルニ明治四十一年ヨリ大正六年ニ至ル十箇年間ノ平均年額ハ四十三萬六千二百六圓ニシテ就中大正三年ノ百五十四萬七千圓ヲ最大トス

本計畫ハ妙見以下大河津締切堤防ニ至ル間ノ水災ヲ絶ツヲ目的トシ最大流量ヲ毎秒五千五百六十五立方米ト定メ之ヲ疏通セシムルニ足ル流積ヲ有セシム而シテ現在ノ河幅ハ前述ノ如ク廣狹不規則亂雜ナルヲ以テ全川ヲ通ジ八百二十米ヲ標準トシ地形ニ應ジ最小六百十八米、最大一千二百十八米ニ整理シ無堤部ニハ堤防ヲ新設シ有堤部ハ成ルベク舊堤ヲ利用シ其構造薄弱ナル箇所ハ增築シ堤內ノ安全ヲ計ルト共ニ流積不足ノ部分ニハ掘鑿浚渫ヲ施シ以テ洪水ノ疏通ヲ圖リ逆流ノ甚シキ支川及排水路ニハ水門ヲ設ケ逆水ヲ防止スル等水害ノ因ヲ一掃セシムルニ在リ

築堤工事ハ全川ニ亙リ天端幅七米二、表裏共二割法トシ其高ハ計畫高水位以上一米五ノ餘裕ヲ與ヘ成ルベク舊堤ヲ利用シ河幅或ハ屈曲ノ關係上舊堤ニ依ルヲ得ザル箇所ハ河狀ニ應ジ適當ノ位置ニ新設ス長岡市附近ニ合流スル太田、澁海兩川ノ落口ハ新堤ヲ瀨割堤ト爲シ新落口ヨリ上流舊落口ニ至ル間各一千九十米ノ舊堤ハ嵩置工事ヲ施行ス築堤ニ要スル總土量ハ三百四十二萬六千立方米ニシテ内八十四萬一

千四百立方米ハ掘鑿土ヲ利用シ其他ハ附近ヨリ採土スルモノトス
掘鑿工事ハ左岸脇川新田ヨリ金ヶ崎間、右岸長呂ヨリ中條間ニ於テ平均低水位上零米九ノ面迄施行ス此外全川ヲ通ジ新堤外部ノ舊堤取拂ヲ爲ス其總土量二百二十二萬三千九百立方米ニ達ス浚渫工事ハ下流大河津分水路ニ接續スル區域ニシテ底幅八十二米乃至百八十二米、深平均低水位下一米八ニ施行ス其土量百四十四萬二千五百立方米ナリ

護岸及水制工事中護岸ハ主トシテ長岡ヨリ上流兩岸堤防及下流沿岸ニシテ流衝ニ面セル箇所竝堤脚ノ平水ニ落ツル部分ニ對シ表法高水面以下ヲ石張トシ低水ニ接セル箇所ハ沈床工ヲ又水制工ニ在リテハ流心ノ匡正ヲ要スル部分ニ石張沈床工ヲ施行スルモノトス

水門工事ハ新川外數箇所ノ排水路ニ設置シ何レモ逆水止門扉トス

附帶工事ハ長生橋、與板橋ノ改築、黒川外二箇川ノ改修、用排水路ノ樋管伏替又ハ水路附替等ニシテ樋管伏替八十五箇所ノ多キニ及ブヲ以テ適宜之ヲ處理スルモノトス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ同年十二月實施測量ニ著手シ翌十三年度之ガ完了ヲ告ゲ同十四年度ニ入リテ用地ノ買收ヲ開始シ土工器械ノ整備ヲ爲スト共ニ附帶工事タル黒川外二箇川改修工事ノ實施測量ヲ了シ同年十一月南蒲原郡中之島村地内ニ掘鑿工事ヲ開始セリ由來此地方夏期ハ恙虫發生、冬期ハ數尺ノ積雪等作業上ノ障碍ヲ爲スコト著シ

本工事中掘鑿工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノ三箇所、新ニ著手ノモノ四箇所、計七箇所ニシテ人力又ハ

機械掘鑿ヲ爲シ前者ハ人力及ガソリン機關車ヲ以テ後者ハ二十瓲機關車ヲ以テ何レモ新堤敷又ハ附近低地ニ運搬投棄セリ而シテ本年度內ニ竣功セルモノ一箇所ナリ

築堤工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノ三箇所、新ニ著手ノモノ一箇所、計四箇所ニシテ其築立土ハ掘鑿土ヲ利用スルモノト採土ヲ要スルモノトノ二種ニシテ土量三萬三百十立方米ヲ採土シ土羽付成工延長一千八百八十九米ナリトス

護岸工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノ一箇所、新ニ著手ノモノ二箇所、計三箇所ニシテ年度內ニ一箇所ヲ竣功シタリ

水制工事ハ護岸工事ノ施行困難ナリシ箇所ニ假水制工一箇所ヲ施セシニ過ギズ

帶工事トシテ目下施行中ノモノハ黒川、道滿川及猿橋川ノ改修ニシテ大正十四年度以降工費百八十附四萬一千圓、內國庫補助五十一萬二千圓、縣費負擔百三十二萬九千圓（內地元負擔三十五萬五千三百五十四圓）ヲ以テ直接施行中ナリ本年度ニ於テ用地買收ノ殆ド全部ヲ終リ工事區域ヲ擴張スルコトヲ得掘鑿、築堤、護岸及樋管等ノ工事ヲ施行シ累年竣功高九十六萬五千十六圓ニシテ豫算ニ比シ五割二分ノ竣功ヲ告ゲタリ

本改修工事本年度ニ於ケル竣功高ハ四十五萬三十三圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百五十六萬一千三百十四圓ナリ之レヲ總工費六百六十萬圓ニ比スレバ二割四分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ

但シ「◎」ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合

本工事費 掘鑿	立方米 五二五、二二六	円 一九五、六二五	立方米 二四〇、二〇六	円 九七、八九〇	立方米 七六五、四三二	円 二九三、五一五	割分 〇・四四
本工事費 築堤	二七八、五五〇	三四、三六一	二三四、七二三	二五、五八一	五一三、二七三	五九、九四二	〇・〇七
本工事費 護岸	米 二五〇	七、〇九〇	米 —	八一、八七九	米 二五〇	八八、九六九	—
用地費	段 九九・一	四八四、三六九	段 七二	九三、〇四〇	段 一、〇六三	五七七、四〇九	〇・四三
附帯工事費	未竣功 三箇所	五、九二六 ◎七〇三、三四七	未竣功 三箇所	五七、七四八 ◎一九七、九九五	未竣功 三箇所	六三、六七四 ◎九〇一、三四二	—
船舶及機械費	—	二一八、九四七	—	三七、五一六	—	二五六、四六三	—
測量費	—	一八、五九一	—	四一八	—	一九、〇〇九	—
營繕費	—	二一、七四四	—	三、三四三	—	二五、〇八七	—
雜費	—	一二〇、六三八	—	五〇、六七〇	—	一七一、三〇八	—
共濟組合給與金	—	三、九九〇	—	一、九四八	—	五、九三八	—
總計	—	一、一一一、二八一 ◎七〇三、三四七	—	四五〇、〇三三 ◎一九七、九九五	—	一、五六一、三一四 ◎九〇一、三四二	〇・二四

第二一　天龍川改修工事

緒言

本川ハ曩ニ主トシテ水害除去ノ目的ヲ以テ政府ニ於テ明治十五年度測量調査ヲ創メ次テ改修ノ計畫ヲ立テ静岡縣磐田郡二俣町以下河幅ヲ整理シテ新堤ヲ築キ舊堤ヲ増築シ其他護岸、水制、床固等ノ施設ヲ爲セリ同十八年度ヨリ地方ト協力シテ工費六十六萬圓ヲ以テ工事ニ著手シ兼テ磐田郡二俣町上流長野縣下伊那郡龍丘村大字時又ニ至ル迄山間狹窄部ニ於ケル危岩暗礁ヲ破碎シテ幾分舟航ニ便シタリシガ明治三十三年度ニ至テ一先ヅ竣功シ河狀ハ匡正セラレ流路稍安定シ地方廳ハ爾來其維持ヲ爲スト共ニ漸次新工事ヲ施シツツ現今ニ至レリ然ルニ東海道鐵道橋下流ハ依然トシテ荒廢憂慮ノ狀態ニ在リ其上流ト雖モ堤防ノ鞏固ヲ誇ルニ足ラズ尚治水ノ要アルヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度迄十箇年度繼續事業トシテ工費六百六十萬圓(內静岡縣負擔額二百二十九萬九千圓)ヲ以テ更ニ改修セントスルモノニシテ關東大震火災ノ影響ニ因リ事業年度ヲ四箇年度即チ昭和十一年度迄繰延ベタリ而シテ上流長野縣管內ニ於テモ相當ノ水害アルヲ以テ早晩改修ノ必要ヲ認ムルモ先ヅ以テ急務トスル下流静岡縣ニ屬スル部分二俣町以下海ニ至ル二十八粁間ヲ施工スルモノトス

河狀竝計畫大要

天龍川ハ源ヲ諏訪湖ニ發シ長野縣ヲ經テ愛知、静岡兩縣界ヲ流レ遂ニ静岡縣ニ入リ遠州灘ニ注グ幹川流路長約二百十六粁ニシテ其流域面積四千八百八十平方粁ナリ灌漑區域ハ全流域ニ在リテハ一萬七千八

百二十ヘクタール、内改修區域ニ屬スルモノ三千二百十六ヘクタールナリ上流部ニ在リテハ沿川ニ廣大ナル平地アレドモ中流ハ全ク山間部ニシテ耕地田園ノ展クルモノナク靜岡縣二俣町ニ至リテ更ニ廣濶ナル平野ハ田園展ケ農桑ノ業盛ナリ加之濱松市ヲ始メ數多ノ都邑アリ東海道鐵道竝ニ國道此附近ヲ通過シ交通ノ便備ハリ商工業亦發達ス

本川ハ古來屢々水害アリ最近ニ於テハ明治四十四年ノ洪水ヲ以テ最モ甚シトス當時河水暴漲シ堤防ノ決壞セルモノ數箇所ニ達シ家屋ノ流失若クハ損壞セルモノ又田園ノ荒廢ニ歸セルモノ多ク浸水區域數千ヘクタールニ及ビタリ而シテ水害ヲ受クベキ區域ハ靜岡縣下ノミニテ總計一萬一千八百ヘクタールニシテ其殆ンド全部ハ改修區域ニ屬ス以テ利害關係區域ノ廣大ナルヲ見ルベキナリ

計畫流量ハ萬延元年以來ノ洪水ト稱セラルル明治四十四年ノモノヲ標準トシ其後流量實測ノ結果ニ依リ雨量等ヲ參酌シテ當時ノ最大流量ヲ推定スルニ毎秒一萬一千百三十立方米ヲ得タリ依テ改修計畫ニ於テハ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ目途トシ計畫高水位モ亦局部ヲ除キテハ大體ニ於テ當時ノ最大高水位ヲ超過セシメザルヲ程度トセリ

東海道鐵道橋ヨリ上流ハ前年改修工事ノ際河幅ヲ整理セルヲ以テ大體ニ於テ相當ノ幅員ヲ有スルガ故ニ河幅ノ擴張ヲ要セズ單ニ多少ノ掘鑿ニ依リ河積ヲ補充シ舊堤ヲ增築スルニ止メ從來ノ霞堤トナレル箇所ハ大體其儘ニ存置ス鐵道橋ヨリ下流ハ現在三派ニ岐レ河狀不整河積亦不足ナルヲ以テ改修ニ當リテハ中流ヲ擴張シテ適當ナル河幅ヲ與ヘ舊堤ノ利用シ得ルモノハ之ヲ增築シ然ラザル箇所ニハ新堤ヲ築設シ又掘鑿竝浚渫ニ依リ洪水疏通ニ必要ナル河積ヲ有セシメ東西ノ兩派ハ之ヲ締切ルモノトス堤防ハ新堤、舊堤擴築共ニ其天端高ヲ計畫高水位上一米八ニ在ラシメ天端幅七米、天端ヨリ一米八下リテ

幅三米六ノ裏小段ヲ附シ法ハ川表二割五分川裏小段以上二割、小段以下二割五分トシ尚必要ナル部分ニハ石張其他ノ適當ナル護岸ヲ施スモノトス又在來ノ水制ハ成ルベク之ヲ利用シ尚必要ナル地點ニハ之ヲ新設セントス

施工狀況

本工事ハ大正十二年創業以來諸般ノ準備ニ從事スルト共ニ同十四年度中實施測量ニ著手シ東海道鐵道橋下流ノ改修法線ヲ決定シ之ガ用地買收ヲ爲スタメ大正十五年二月土地收用事務ヲ開始シタリ而シテ第一次買收區域右岸濱名郡河輪村地內ヲ昭和元年度ニ於テ又第二次買收區域右岸濱名郡芳川村及飯田村ノ一部ナル川中島ノ東南部ヲ昭和二年度及三年度ニ於テ完了セルヲ以テ更ニ第三次トシテ左岸磐田郡掛塚町地內土地約二十町三段歩、家屋百四十一戶、墳墓改葬四箇所其他ニ對シ第一第二次ト同樣ナル方法ニ依リ諸種ノ調査ヲ進メ年度內ニ前記土地買收竝ニ地上物件移轉ノ九割餘ヲ終了セシムルコトヲ得タリ

工事施行ニ關シテハ昭和二年七月改修事務所ヲ開設シ機械材料等ノ準備ヲ爲スト共ニ工事用機械器具等ノ修理製作ヲ直接施行スルタメ附屬機械工場ヲ設置シ昭和三年一月ヨリ第一次買收區域濱名郡河輪村地內ニ於テ河輪機械堀鑿工事ニ著手セリ此附近ハ縣下稀ニ見ル根栄產地ニシテ土質砂交土ナルト近年ノ財界不況ノ影響ニ依リ人夫ノ出役狀態良好ナルトニ依リ順調ニ工程ヲ進ムルコトヲ得タリ次デ昭和四年一月同所河輪築堤工事ニ、同年二月第二次買收區域濱名郡芳川村及飯田村地內ニ於テ芳川堀鑿工事ニ著手シ何レモ目下工事施行中ナリ

本年度内功程ハ堀鑿土量十九萬四千三百二十九立方米、築堤土量十九萬九千六百八十立方米ニシテ工費四萬二千七百八十五圓ヲ要セリ

本年度竣功高ハ四十八萬一千二百六十八圓ニシテ起工以來本年度迄累計竣功高ハ百二十九萬七千七百八十七圓トナリ總工費六百六十萬圓ニ對シ二割竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ但シ「〇」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
本工事費 堀鑿	立方米 一一、四〇〇	円 三、八〇〇	立方米 一九四、三二九	円 四一、九〇八	立方米 二〇五、七二九	円 四五、七〇八	割分 〇・〇二
本工事費 築堤	—	—	一九九、六八〇	八七七	一九九、六八〇	八七七	—
用地費	段 六七八	六四三、五五〇	段 三九九	三六二、七〇九	段 一、〇七七	一、〇〇六、二五九	—
船舶及機械費	—	一一一、三四七 〇七	—	四二、五二五 〇一二	—	一五三、八七二 〇一九	—
測量費	—	一、五八四	—	八一九	—	二、四〇三	—
營繕費	—	八、四五五	—	一、八〇五	—	一〇、二六〇	—
雜費	—	四六、六三四	—	二九、三五九	—	七五、九九三	—
共濟組合給與金	—	一、一四九	—	一、二六六	—	二、四一五	—
總計	—	八一六、五一九	—	四八一、二六八	—	一、二九七、七八七	〇・二〇

第二二　千代川改修工事

緒言

本改修工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算五百六十六萬圓(內鳥取縣負擔百九十三萬一千圓)ヲ以テ施工スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川筋鳥取縣八頭郡河原村以下海ニ至ル約十七粁、支川袋川筋岩美郡宇部野村下流本川合流點ニ至ル約五粁八及野坂川筋約一粁五、砂見川筋零粁九、合計二十五粁二ノ間ニ施行スルモノトス

河狀竝計畫大要

千代川ハ源ヲ鳥取縣八頭郡山郷村大字駒歸宿字沖ノ山ニ發シ大體北流シ左支新見、佐治、曳田、砂見、野坂、湖山ノ六川及右支智頭、八東、袋ノ三川ヲ合シ氣高郡賀露村ニ於テ日本海ニ注グ其流域ハ鳥取、岩見、氣高、八頭ノ一市三郡ニ跨リ集水面積一千百八十平方粁餘、幹川流路延長五十三粁、灌漑面積七千ヘクタール、水害區域八千ヘクタール餘ヲ算シ其沿川ニハ鳥取市ヲ有シ又其河口ニ當レル賀露港ハ漁港トシテ又避難港トシテ將又支川袋川ヲ經テ鳥取市ニ物資ヲ供給スル關門トシテ重要視セラル流域內ニ於ケル都邑ハ古來本川ニ依リ水運ノ便、灌漑ノ利等惠澤ニ浴スルコト尠カラズト雖モ一面比年生ズル洪水ノ慘害ニ苦メラルルコト亦莫大ナリ乏シキ舊記ヲ捜リ僅カニ知リ得タル所ノミヲ以テスルモ天文年間以降約三百八十有餘年間ニ大洪水ト認ムベキモノ實ニ四十六回ヲ數フ就中大正七年九月ノ洪水ノ如キハ沿川ノ平野ハ悉ク水底ニ沒シ鳥取全市ヲ擧ゲテ一米五乃至四米餘ノ冠水數日ニ亙リ一望大海ノ觀ヲ呈シ其汎濫面積

約八千ヘクタールノ多キニ及ベリ

今現況ヲ見ルニ該川堤防ハ薄弱不規則ニシテ河幅廣狹常ナク河積ノ不足ナル部分隨所ニ介在シ一朝洪水ニ際會セバ破堤ノ厄ヲ蒙ルト同時ニ汎濫度ナク田畑ノ荒廢、財物ノ流失、人畜ノ死傷等其慘害目ヲ掩ハシムルモノ多數ナルノミナラズ其支流ナル袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ其河積ハ既往洪水ヲ流下スルニ必要ナル河積ノ半ニモ足ラザル部分多キヲ以テ未ダ大洪水ト稱シ得ザル程度ノ出水ニテモ市内ニ溢流シ産業交通ニ累スルコト鮮少ナリトセズ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメ高水時間ノ短縮ヲ圖リ併セテ沿岸一帶惡水ノ排除ヲ容易ナラシメ尙河口ニ於ケル舟揖ノ便ヲ圖ラントスルモノニシテ本川筋河原村(終點)以下八千代橋ニ至ル間ハ大體現況ニ準據シ在來堤ヲ利用擴築補强シ其甚シク突出シテ河幅狹ク洪水ノ排疏ニ支障アル箇所ハ之ヲ退ケ無堤部ニハ相當河幅ヲ定メ新堤ヲ築造シ河積ノ足ラザルハ掘鑿ニ依リ之ヲ補フモノナリ

八千代橋以下現在河道ハ稍々北東ニ向ヒ濱坂地先ニ於テ更ニ西北ニ大屈折ヲ爲シ且沿岸ニハ秋里、江津ノ二部落アリ現狀ニ依リ改修セントスルトキハ江津ノ部落ヲ移轉セシメザルベカラザルノミナラズ現在袋川合流點ニ於ケル洪水位ハ之ヲ低下セシムルコト能ハズシテ鳥取市ノ排水ニ不利ヲ來スベキヲ以テ八千代橋附近ヨリ北々西ニ向ヒ大體直流スル新川ヲ開鑿シ江津ノ下流ニ於テ現在ノ河道ニ合シ河口ニ至ラシム

支川袋川ハ鳥取市内ヲ貫流シ河積足ラザルノミナラズ曲折甚シク現在ニ依リ改修セントセバ工費巨額ニ上ルベキヲ以テ若櫻街道ノ東方ヨリ新川ヲ開鑿シ千代橋上流ニ於テ千代川本流ニ注ギ現在河道ハ單

ニ袋川ノ平水流路ニ供セラルルコトトナルヲ以テ全ク市内ノ汎濫ヲ防止スルヲ得ベシ

野坂川ハ幹川ト殆ンド直角ニ合流シ爲メニ排水ヲ阻害スルコト甚シキヲ以テ其合流點ヲ八千代橋附近迄引下ゲ水位ノ低下洪水ノ排疏ヲ便ナラシム

砂見川モ亦同一ノ理由ニ依リ其合流點ヲ稍々下流ニ導キ湖山川ニハ幹川合流點ニ樋門ヲ設ケ幹川ノ逆流ヲ防止セントス

本川ノ計畫高水位ハ大體既往ノ最大洪水タル大正元年九月及同七年九月ノ洪水位ニ準據シタルモノニシテ河狀不正ノ爲メ特ニ水位ノ昇騰ヲ來シタルト認メタル區間ニ對シテハ之ヲ整正シ水位ノ低下ヲ計レリ而シテ計畫高水流量ハ大正九年以降普通洪水ニ對スル實測ヲ重ネ之ニ依リテ得タル結果ト流域内ノ降雨量及附近類似河川ノ高水流量ヲ資料トシテ既往ノ最高水位ニ對スル高水流量ヲ推算スルニ袋川合流點以上ニ於テ毎秒三千立方米其以下ニ於ケルモノ毎秒三千三百立方米ト定メ此流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ期セリ、支川袋川ノ流量ハ毎秒五百五十立方米ト定ムルノ妥當ナルヲ認メタリ

河幅ハ幹川筋上流河原村附近ニ於テ約二百十米トシ以下順次擴大シ大正村附近ニ於テハ三百米、新袋川合流點以下八千代橋附近迄三百四十六米、千代川新開鑿部分ハ三百十八米、賀露村附近ニ於テ約三百七十米ヲ保タシム袋川筋ニ在リテハ上流ハ大體現狀ノ儘トシ其新川ニ屬スル部分ハ上流部六十四米、下流部若櫻街道附近以下ハ八十五米トス

堤防ハ幹川筋ヲ馬踏下流部七米五、上流部六米、法ハ表裏共二割五分トシ堤高ノ大ナル箇所ニハ小段ヲ設ケ其天端ハ計畫高水位以上一米二ヲ保タシム之ニ要スル土砂ハ直接掘鑿セルモノヲ利用セントス法ハ土羽付ヲ爲シ必要ニ應ジ石張ヲ施工シ其他適當ニ護岸ヲ設クルモノナリ支川袋川ノ堤防ハ馬踏五米五、

法ハ表裏共二割トシ天端ハ計畫高水位以上零米九トス又之ニ要スル土砂及土羽付ハ前同斷トス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度創業以來專ラ實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ測量トシテハ幹川及支川袋川筋ノ法線杭又ハ敷幅杭ノ變更竝ニ縱横斷及平面測量ノ一部ヲ施行セリ

築堤工事ハ千代川下流新開鑿部兩岸堤ナル秋里及江津築堤安長及晩稲築堤ノ二工ヲ起シ全部掘鑿土ヲ利用シ築立土砂五十七萬三千百十一立方米工費六千七百七圓ヲ要セリ

機械掘鑿工事ハ前年度ニ引續キ鳥取縣氣高郡千代水村地內ニ於テ千代水第一及第二機械掘鑿工事ヲ續行セシガ千代水第二機械掘鑿工事ノ竣功ヲ俟チ更ニ千代水第三機械掘鑿工事ヲ起工セリ何レモ二十噸機關車及一千二百立方米掘掘鑿機各一臺宛ヲ使用シ三立方米積土運車竝ニ米國製三立方米八積ダンプカーヲ併用シ鋭意工事ノ進捗ヲ圖レリ本年度內ノ工程ハ掘鑿運搬土量三十八萬三千九百六十五立方米工費九萬二千百六十三圓ヲ要セリ

人力掘鑿工事ハ本年度ニ入リ新野坂川及新袋川筋開鑿ノ爲野坂川第一、第二人力掘鑿工事及古市人力掘鑿工事ヲ開始シ零立方米三積鐵製土運車及零立方米六積木製土運車ヲ使用シ人力及馬力ヲ併用セシガ年度末ニ至リ更ニ六噸四ディーセル機關車一臺ノ運轉ヲ始メ一立方米積鐵製土運車ヲ使用セリ

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ千代川筋右岸古市新道附近ノ買收ヲ完了シ袋川新開鑿區域ノ買收ヲ續行尚殘部ノ調査ニ從事セリ而シテ本年度買收段別三十九町一段歩用地費三十三萬三千三百二圓ヲ要セシガ工事ノ進捗上豫算ノ都合ニ依リ鳥取市ニ於テ右金額ノ內二十一萬九千四百九十八圓ノ立替支拂ヲ爲

サシメタリ

本年度竣功高三十六萬七千九百九十九圓ニシテ起工以來ノ累計百六十一萬二千二百九十九圓ナリ之レヲ總工費豫算五百六十六萬圓ニ比スレバ約二割九分ノ竣功トナル其竣工表ハ左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ提供品價額及勞力費「○」ハ無償品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本事工費 築堤	* |	|	* 五七三、一一一	六、七〇八	* 五七三、一一一	六、七〇八	〇・〇二
本事工費 掘鑿	六三四、七九七	▲ 一二六、三八六 七六	五〇二、九一六	▲ 一二五、六五三 |	一、一三七、七一三	▲ 二五二、〇三九 七六	〇・二二
用地費	一、〇六六 段	七四六、六九二	八五 段	一一三、四五〇	一、一五一 段	八六〇、一四二	|
船舶及機械費	|	二一二、二六二	|	六九、七三六	|	二八一、九九八	|
測量費	|	一二、一九五	|	六四七	|	一二、八四二	|
營繕費	|	一四、九四五	|	一、四七一	|	一六、四一六	|
雜費	|	○ 一二七、二六九 |	|	○ 四七、四五三 三六	|	○ 一七四、七二二 三六	|
共濟組合給與金	|	四、五五一	|	二、八八一	|	七、四三二	|
總計	|	▲ 一、二四四、三〇〇 七六	|	▲ 三六七、九九九 |	|	▲ 一、六一二、二九九 七六	〇・二九

第二三　蘆田川改修工事

緒　　言

本工事ハ工費五百六十萬圓(内廣島縣負擔百九十八萬九千圓)ヲ以テ大正十二年度ヨリ昭和七年度ニ至ル十箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十一年度迄延長施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川筋廣島縣蘆品郡府中町以下海ニ至ル二十七粁五、左支高屋川筋深安郡湯田村以下幹川合流口ニ至ル六粁五及右支瀨戶川筋ノ幹線合流口附近ナリトス

河狀竝計畫大要

蘆田川ハ廣島、岡山ノ兩縣下一市八郡ニ亙リ(主トシテ廣島縣)源ヲ廣島縣世羅郡神田村甲山ニ發シ漸次溪流ヲ收メ蘆品郡川邊村ニ至リ右支御調川ノ合流スルヤ流量頓ニ倍加ス流路ハ之レヨリ漸ク峽谷ヲ脫シ府中町ヲ過グルヤ地勢全ク展開シテ廣濶ナル備後平野ニ出デ神谷川、有地川、其他ノ小支流ヲ合セ東流シテ深安郡中津原村ニ至リ急ニ百三十餘度回轉シテ西南ニ方向ヲ轉ジ左支高屋川ヲ合セ福山市ノ西ヲ繞リテ更ニ右小支瀨戶川ヲ入レ沼隈郡水呑村竹ノ端ニ至リテ燧灘ニ注グ而シテ府中町ヨリ上流ハ山間ノ急流ニシテ奔湍岩ヲ衝キテ流レ府中町ヨリ蘆品郡新市町落合ニ至ル間モ亦急勾配ニシテ河底ハ礫又ハ小砂利ノミナレドモ神谷川合流點以下ハ河狀一變シテ細砂緩勾配トナリ高屋川合流點以下ニ至レバ所所ニ寄洲ヲ生ジ河口ニ至リテハ殆ンド河底ヲ游塞セルノ觀アリ

本川ハ流域面積八百七十平方粁、流路延長七百三十四粁(幹川七十八粁)、灌漑面積七千百七ヘクタールヲ有

スル中國有數ノ河川ニシテ沿川都邑ノ受クル產業上ノ利益頗ル大ナルモノアリ然レドモ比年洪水汎濫シテ慘害ヲ逞ウシ彼ノ大正八年七月及九月兩度ノ出水ノ如キハ上流府中町ヨリ下流川口村ニ亙ル五千八百六十三ヘクタールノ沃野ヲ變ジテ一大沼湖ト化シ福山市ヲ初メ沿川ノ都邑浸水ヲ見ザルナク人畜ノ死傷、家屋ノ倒壞、堤防及道路橋梁ノ破壞流失等直接ノ損害額實ニ四百三十餘萬圓ノ多キニ上レリ若シ夫レ之ニ加フルニ產業交通衞生等諸方面ニ亙ル被害ヲモ具ニ考量スル時ハ其慘害ノ巨大ナルヲ知ルベク明治四十三年以降十箇年間ノ平均水害損失額實ニ四十七萬八千餘圓ヲ算セリ

本改修計畫ノ主眼トスルトコロハ洪水量排疏ニ充分ナル河積ヲ與ヘテ汎濫ヲ防止シ併セテ高水時間ノ短縮ヲ圖リ支川ニ對シテハ逆水ノ被害ヲ輕減シ以テ沿川一帶ノ平野ノ水害ヲ除却シ且惡水ノ排除ヲ容易ナラシメントスルモノナリ

高水流量ハ上流府中町附近ニ於テハ每秒一千百立方米トシ以下順次增加シ高屋川合流點以下一千九百五十立方米、瀨戶川合流點以下二千百立方米トシ支川高屋川ハ上流川北村附近ニ於テ二百立方米、千田村字橫尾以下四百二十立方米ト定ム

河幅ハ府中町附近ニ於テ百二十米ニ始マリ最下流部ニ於テ四百米トシ高屋川ニ在リテハ上流ニ於テ四十七米、本川合流口附近ニ於テ九十米ヲ保タシム

堤防ハ幹川筋ニ在リテハ馬踏五米五乃至九米兩法二割乃至二割五分トシ高サノ高キモノニ在リテハ小段ヲ設ケ天端ハ計畫高水位以上一米五乃至二米ノ餘裕ヲ存セシム支川高屋川ハ馬踏幅四米、兩法二割、天端ハ高水位以上一米ヲ保タシム支川高屋川及瀨戶川ノ下流部ハ幹川ノ汎濫ヲ被リ湛水時間長期ニ亙ル低濕地ナルヲ以テ背割堤ヲ築キテ合流點ヲ引下ゲ惡水ノ排除ト逆水ノ低下ヲ圖ルコトトセリ

計畫高水勾配ハ府中町附近ニ於テ三百二十分ノ一、最下流部ニ於テ二千四百分ノ一トス

施工狀況

本工事ハ大正十二年度ノ創業ニシテ爾來實施測量其他諸種ノ調査ニ從事シ同十五年(昭和元年)九月一日ヲ以テ沼隈郡草戶村地內ノ掘鑿、築堤工事ニ著手セリ其後工事ノ進展ニ伴ヒ昭和三年一月一日本川斷面九粁ヲ境界トシ其下流部ニ草戶工場、其上流部ニ鄕分工場ノ二工場ヲ設ケ夫々管轄區域內ノ掘鑿、築堤、護岸工事ヲ行フコトトセリ

掘鑿ハ總テ人力ニ依リ運搬ハ馬力ヲ主トシ之レニ人力ヲ適宜併用セリ昭和三年二月六噸重油機關車二臺ヲ購入セシモ本年度內ニ於テハ未ダ運轉ノ運ビニ至ラズ

土地買收ニ關シテハ大正十四年九月收用事務開始以來昭和二年度迄ニ於テ第五次ニ亙リ沼隈郡草戶村、水香村、神島村、山手村、鄕分村及深安郡本庄村地內ニ於テ百十一町五段步餘ノ買收ヲ了ヘ本年度ニ於テ僅カニ十一段步餘ヲ買收シ尙鄕分村ヲ主トシテ約三十八町步ノ未承諾者アリテ全部結了ニ至ラザルハ洵ニ遺憾トスル處ナルガ右ハ今遽カニ其局面ノ進展ヲ見ル能ハザレドモ時機ノ推移ヲ俟ッテ之レガ協調ニ努メントス

本年度竣功高ハ二十四萬七千七十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百二十九萬六千二百七十一圓ナリ之レヲ工費總豫算五百六十六萬圓ニ比較シ二割三分ノ竣功トナル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「*」印ハ利用土量「▲」印ハ提供品價額及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本工事費 築堤	*二〇三、七〇二	五、九五一	*一六四、八七一	九、七七八	*三六八、五七三	一五、七二九	〇・〇五
本工事費 掘鑿	二三三、一五六	五五、二九四 ▲五、八七七	一七八、三九四	五一、一一六 ▲一、六七七	四一一、五五〇	一〇六、四一〇 ▲七、五五四	〇・一二
本工事費 護岸	—	—	三、八四三米	五一、三〇四	三、八四三米	五一、三〇四	〇・〇九
用地費	一、一一六段	七七七、八二一	一二段	五、九五一	一、一二八段	七八三、七七二	—
附帶工事費	未竣功 一箇所	三九、七〇五	未竣功 一箇所	四九、一五一	未竣功 一箇所	八八、八五六	〇・一三
船舶及機械費	—	七〇、七七七	—	四七、七九四	—	一一八、五七一	—
測量費	—	一五、五一八	—	一、〇六七	—	一六、五八五	—
營繕費	—	八、〇二〇	—	三二六	—	八、三四六	—
雜費	—	七四、七三七	—	二九、五五六	—	一〇四、二九三	—
共濟組合給與金	—	一、三七二	—	一、〇三三	—	二、四〇五	—
總計	—	一、〇四九、一九五 ▲五、八七七	—	二四七、〇七六 ▲一、六七七	—	一、二九六、二七一 ▲七、五五四	〇・二三

第一四　紀ノ川改修工事

緒　言

本工事ハ大正十二年度ヨリ昭和十一年度ニ至ル十四箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費豫算四百七十二萬圓(內和歌山縣負擔百六十二萬五千圓)ヲ以テ施行スルモノトシ其區域ハ左岸和歌山縣那賀郡小倉村、右岸同縣同郡岩出町即チ貴志川合流點以下海ニ至ル幹川筋約二十粁ノ間ナリ

河狀竝計畫大要

本川ハ源ヲ大和、伊勢ノ國境ナル大臺原山附近ニ發シ西北流シテ山間ヲ迂餘曲折スルコト數回奈良縣吉野郡國樔村ニ至リテ高見山ヨリ發スル右支小川ヲ納レ同郡上市町ニ至リテ方向ヲ西微南ニ轉ジ吉野山ノ北麓ヲ流レテ吉野川ト稱シ五條町ニ於テ左支黑龍川ヲ併セテ和歌山縣下ニ入リ茲ニ始メテ紀ノ川ト稱セラルル夫ヨリ橋本町ヲ過ギ九度山町ニ至リテ左支丹生川ヲ容レ倘モ同方向ニ流レ、妙寺名手、粉河等ノ小都邑ヲ經其間左右ヨリ數多ノ小支ヲ併セ更ニ岩出町ノ東端ニ至リテ最大支貴志川ヲ左方ヨリ納レ同町ノ狹搾部ヲ經テ初メテ和歌山平野ニ出デ更ニ流ルル事約十八粁和歌山市ノ北端ヲ擁流シ左方ニ和歌川、水軒川ヲ分流シ右方ヨリ土入川ヲ入レ倘二三ノ中洲ヲ擁シ數派ニ離合シ末端ハ一川トナリテ海ニ注グ

幹川流路ノ延長約百三十粁ノ內奈良縣下ヲ流ルルコト約七十五粁、和歌山縣下ヲ流ルルコト五十五粁ナリ叉水面勾配ハ高水時岩出町ニ於テ凡ソ四百分ノ一最下流部ニ於テ凡ソ一千五百分ノ一トス

流域面積ハ奈良縣下ニ屬スルモノ約九百五十六平方粁、和歌山縣下ニ屬スモノ九百六十平方粁、合計一千九百十六平方粁此内八割二分ハ山地ニシテ平地ハ僅カニ一割八分ニ過ギズ而カモ該平地中ノ約八割ハ和歌山縣ニ屬ス

斯ノ如ク全流域ノ約八割ハ山地ニ屬シ而カモ水源地方ハ主トシテ古生層ヨリ成レル峯巒重疊セルヲ以テ水清ク豐ニシテ平時舟揖、灌漑上ノ利益相當ニ大ナルモノアリト雖モ一朝非常洪水ノ場合ニハ和歌山市街ノ一部ヲ始メ沿岸ノ低地部ニ汎濫シテ耕地ノ荒廢、家屋ノ倒破、堤塘橋梁等ノ損壞甚シク之レニ加フルニ一般産業交通衞生上等ノ諸方面ニ被ムレル損害ヲ具ニ計上スル時ハ其額尠カラズ就中近年ニ在リテハ明治三十二年及大正六年ノ洪水ヲ其最タルモノトス

本改修計畫ハ洪水防禦ヲ主眼トシ其流量竝ニ水位ハ從來ノ最大洪水タル大正六年十月ノモノヲ基準トス即チ同年ノ最高水位ヲ超過セザル水位ヲ以テ最大洪水量毎秒五千六百立方米ヲ安全ニ疏通セシメ得ベキ工事ヲ施設スルニ在リ然ルニ紀ノ川ハ現在河幅ハ概シテ廣濶ニシテ岩出狹搾部ノ百七十米ヲ除ケバ他ハ三百二十七米乃至七百六十三米ヲ有スルニ依リ岩出狹搾部ヲ二百七十二米ニ切リ擴ゲ其他二三ノ狹隘ナル箇所ハ四百三十米乃至四百九十米ニ擴張ス然レドモ河中ハ現在ノ儘ニテハ河積不充分ナルヲ以テ必要ノ掘鑿及浚渫ヲ行ヒテ前記ノ計畫流量ヲ快疏スルニ充分ナラシメ上流ノ洪水位ヲ低下シテ冠水ノ區域ト時間トヲ縮小セントス

堤防ハ舊堤擴築部竝ニ新堤共凡テ其天端ヲ計畫高水位以上一米五トシ其標準斷面ハ天端幅七米、表法ハ二割トシ倘高サノ大ナル堤防ニ在リテハ天端以下四米ヲ下リテ十割法、幅五米ノ表小段ヲ附シ小段以下ハ三割法トシ必要ナル箇所ニハ石張其他適當ナル施設ヲ爲スモノトス次ニ裏法ハ通ジテ二割トシ天端

ヨリ二米ヲ下リテ幅三米ノ裏小段ヲ附ス其他必要ニ應ジテ支派川入口ニ樋門ヲ設置シ尚河口ニハ突堤ヲ設ケントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十二年度ノ著手ニシテ以來實施測量及諸般ノ調査ヲ爲シ十五年八月第一回土地買收ヲ發表シ十二月初メテ右岸海草郡楠見村地先ニ工ヲ起シ昭和二年七月左岸同郡四箇鄉村地先ノ掘鑿ヲ開始シ昭和三年十二月右岸同郡紀伊村地先ノ掘鑿ニ著手シ共ニ掘鑿土ヲ以テ其地先ノ築堤土盛ヲ爲シ以テ今日ニ至レリ

本年度掘鑿ニ於テハ昨年度ヨリ繼續セル右岸海草郡楠見村地先福島人力掘鑿、楠見機關車運搬人力掘鑿、左岸同郡中ノ島村地先中ノ島人力掘鑿及同郡四箇鄉村地先有本機械掘鑿ヲ進捗セシメタル外右岸同郡紀伊村地先小豆島機關車運搬、人力掘鑿ヲ十二月ニ左岸和歌山市地先和歌山人力掘鑿ヲ九月ニ開始シ掘鑿土ハ一部民地ヘ捨土スルノ外右岸ニ於テハ海草郡紀伊村下流同郡野崎村ニ至ル左岸同郡西和佐村下流和歌山市ニ至ル間ノ築堤ニ土盛セリ

尚機械掘鑿トシテハ初メテノ試ミトシテ零立方米七五ディーゼル、ショベル及ビセミディーゼル鋤簾式掘鑿機ヲ使用セシガ成績頗ル良好ニテショベルハ昭和三年四月試運轉ヲ爲シ一箇年度掘鑿土量八萬五千立方米ニシテ掘鑿百立方米當五圓九十五錢、運搬其他合セタルモノニテ二十圓四十五錢ナリ而シテ最近一箇月平均ニ依レバ掘鑿土量一萬一千立方米、掘鑿百立方米當四圓四十四錢、運搬其他ヲ合セタルモノニテ十四圓三十四錢ナリ

セミディーゼル掘鑿機ハ昭和三年十月試運轉ヲ爲シ六箇月間ニ於ケル掘鑿土量三萬八千二百立方米、掘鑿百立方米當五圓十七錢、運搬其他ヲ加ヘタルモノニテ十八圓八十六錢ナリ而シテ最近一箇月平均ニ依レバ掘鑿土量八千三百立方米ニシテ掘鑿百立方米當四圓十七錢、運搬其他ヲ加ヘタルモノニテ十三圓五十七錢ナリ

兩機共機關車ハ六米噸瓦斯倫機關車ニシテ土運車ハショベルハ一立方米一積ダンプカーヲ、セミディーゼル掘鑿機ハ一立方米積鍋トロヲ使用セリ

斯ノ如ク機械掘鑿ニ於テ案外好成績ナリシ爲メ本年度ニ於テ掘鑿ハ著々進捗シ掘鑿總土量六十四萬七千六百三十五立方米ニシテ此工費八萬三千四十一圓外七萬一千二百圓ノ提供勞力及ビ材料ノ評價ヲ以テ竣功セリ

築堤ハ前年度ニ引キ續キ掘鑿土ヲ利用シ右岸ニ於テハ海草郡紀伊村下流野崎村ニ至ル八千三百四十八米ヲ著工シ内鳴瀧川兩岸及楠見村地内ヲ竣功セリ

左岸ニ於テハ同郡西和佐村下流和歌山市ニ至ル六千六百六十八米ヲ著工シ内和歌山市地先約一千百米ヲ竣功シ他ハ工事中ニ屬ス

土地買收ハ大正十五年度ニ於テ右岸右支千手川合流點下流海草郡野崎村大字北島北島橋ニ至ル間及左岸同郡四箇鄉村大字松島ヨリ和歌山市宇治北島橋ニ至ル間ヲ買收シ昭和二年度ニ於テ上流右岸直川村紀伊村、川永村地先ヲ買收セリ而シテ本年度ニ於テハ左岸海草郡湊村及那賀郡小倉村ノ一部ヲ殘シ昨年度ニ於ケル左岸買收殘部ノ全部ヲ買收セリ

本年度買收段別ハ十四町六段餘此金額十一萬八千六百七十五圓ニシテ今日迄ノ買收及補償累計段別ハ

六十九町五畝十六歩餘此金額五十五萬四千七百七十二圓ナリ

附帶工事ハ本年度初メテ紀ノ川左岸和歌山市宇治ニ四箇用水尻惡水排除ノ爲メ樋門新設ニ著手シ倘工事中ニ屬ス本年度支出ノ工費ハ國庫補助額七千二百二十二圓外ニ提供材料評價七十一圓、管理者支辨一萬八千六百六十八圓ニシテ全工事ノ約零割四分ニ相當セリ

而シテ本年度本工事竣功ノ主ナルモノハ築堤三十萬七千九十立方米工費六千二百六十八圓提供價額七千五十四圓、掘鑿六十四萬七千六百三十五立方米工費八萬三千四十一圓提供價額七萬一千百九十九圓、護岸長二百八十三米工費二千二百六十八圓等ナリトス而シテ本年度竣功總高ハ三十三萬二千六百七十三圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ百十九萬八千五百八十一圓ナリ之レヲ總工費豫算四百七十二萬圓ニ比スレバ約二割五分ノ竣功トナル其竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ利用土量「▲」ハ提供品價額及勞力費「□」ハ管理者負擔額「○」ハ無償品評價額「×」ハ占用補償ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
本工事費 築堤	※一四〇、六二六立方米	九、三八〇円 ▲—	※三〇七、〇九〇立方米	六、二六八円 ▲七、〇五五	※四四七、七一六立方米	一五、六四八円 ▲七、〇五五	〇・一三割分
本工事費 突堤	—	四、七九八	—	—	—	四、七九八	—
本工事費 掘鑿	三〇二、九二四	八五、四一〇 ▲五、九八〇	六四七、六三五	八三、〇四一 ▲七一、二〇〇	九五〇、五五九	一六八、四五一 ▲七七、一八〇	〇・二〇
本工事費 護岸水制	四二〇米	九、七七九 ▲九	二八三米	二、二六八 ▲—	七〇三米	一二、〇四七 ▲九	〇・〇二
用地費	×二九〇段 二一九箇所	二八三、八二六 ×一三五、三二四	×一一二段 三三	一〇〇、一八〇 ×一八、四九五	×四〇二段 二五二	三八四、〇〇六 ×一五三、八一九	—
附帶工事費	未竣功 —	六三 ▲— □— ○—	未竣功 一箇所	六、八八六 ▲七二 □一八、六六九 ○三三六	—	六、九四九 ▲七二 □一八、六六九 ○三三六	〇・〇二
船舶及機械費	—	二〇七、三五二 ▲—	—	六七、四八一 ▲一八八	—	二七四、八三三 ▲一八八	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
		円		円	立方米	円	割分
測量費	—	一八、九三五	—	三、七八三	—	二二、七一八	—
營繕費	—	一四、六一八	—	二、〇二一	—	一六、六三九	—
雜費	—	九三、〇二二	—	四〇、五七七	—	一三三、五九九	—
共濟組合給與金	—	三、四〇一	—	一、六七三	—	五、〇七四	—
總計	—	八六五、九〇八 ▲五、九八九 □—	—	三三二、六七三 ▲七八、五一五 □一八、六六九	—	一、一九八、五八一 ▲八四、五〇四 □一八、六六九	〇・二五

第二五　筑後川改修工事

緒　言

本工事ハ工費一千百三十二萬圓(內福岡縣及佐賀縣負擔三百九十六萬七千圓)ヲ以テ當初大正十二年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行ノ豫定ナリシモ其後事業繰延ノ爲メ竣功期ヲ昭和十二年度迄延長施行スルコトトナレリ其區域ハ幹川福岡縣浮羽郡千年村以下河口ニ至ル六十二粁、其他支川小石原川、佐田川、派川早津江川、諸富川等ヲ加ヘ合計七十六粁トス

河狀竝計畫大要

筑後川ハ九州第一ノ大河ニシテ源ヲ熊本縣ノ東北部ニ發シ大分、福岡、佐賀ノ三縣內ヲ貫流シ有明海ニ注グ流路延長百三十八粁其流域ハ前記四縣ニ跨リ全面積二千八百六十平方粁ヲ有ス本川下流福岡縣及佐賀縣ニ屬スル部分ハ沿岸肥沃ナル田園相連リ所謂筑紫平野ノ米產地ニシテ其灌漑ハ一ニ本川ニ依リ總面積實ニ四萬五千ヘクタールト稱スルト加フルニ舟揖ノ便亦宜シク古來其惠澤ニ浴スルコト多大ナルモノアルモ一方ニ於テ洪水ノ害ヲ被ルコトモ甚シク全流域ノ水害面積ハ三萬二千ヘクタール餘ニシテ年々出水每ニ受クル損害莫大ナルモノアリ本川ハ曩ニ明治十六年度政府ニ於テ河口ヨリ大分縣隈町ニ至ル間ノ改修工事ヲ企圖シ工費約百二十萬圓ヲ投ジ同三十一年度竣功セリ然レドモ該工事ノ目的ハ主トシテ低水路改良ニ在リテ高水防禦工事ノ如キハ全然地方ノ經濟ニ委シ其負擔ニ耐フル範圍內ニテ施行セルニ過ギザルヲ以テ金島、小森野、天建寺、坂口ノ四放水路開鑿セラレタリト雖モ未ダ充分ナル效果ヲ擧グ

ルニ足ラズ而モ工事中途ニシテ明治二十二年ノ大洪水ニ際會シ激甚ノ損害ヲ蒙ルニ及ビ第一次高水工事ノ機運ヲ齎ラシ遂ニ明治二十九年之ヲ起工シ八年ノ歳月ト百四十餘萬圓ノ財ヲ費シ三十六年其工成ルニ及ンデ稍々被害ノ程度ヲ輕減スルヲ得タリ然ルニ本工事モ財政上其他ノ理由ニ依リ局部的ノ工事ニ止マリシヲ以テ再ビ大正十年ノ非常洪水ヲ來シ其慘害ノ程度ハ明治二十二年ニ讓ラズ茲ニ第二次改修トシテ本工事ノ計畫ヲ見ルニ至レルモノナリ

本計畫ハ主トシテ高水防禦ヲ目的トスルモノニシテ第一次改修ヲ補足シ全川ヲ通ジ一貫シタル工事ヲ爲スニ在リ改修ノ方法トシテハ河狀ヲ正シ或ハ掘鑿ヲ施シ現在ノ不規則ナル堤防ヲ改築若クハ増築シ必要ノ箇所ニハ新ニ之ヲ設ケ汎濫ヲ防ギ河積ヲ擴張シテ洪水ノ疏通ヲ計リ支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ水門ヲ設ケテ其浸入ヲ防止ス又金島以下四放水路ハ之ヲ本流ニ開鑿シ洪水ノ疏通ヲ圖リ下流感潮區域ニシテ出水ノ影響少キ部分ニ於テモ必要ニ應ジ堤防ヲ一層强固ニシ其安全ヲ期シ兼テ高潮ノ脅威ニ備ヘシム尚諸富及若津港ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ適宜之ヲ浚渫シ河積ノ増大竝ニ航路ノ改良ニ資セントス

計畫高水量ハ幹川筋毎秒五千立方米トシ派川早津江川ハ其内一千七百立方米、諸富川ハ同二千五百立方米ヲ分流スルモノトス又計畫河幅ハ幹川筋二百五十米乃至九百五十米、早津江川二百米乃至七百五十米、諸富川二百米乃至二百三十米トス堤防ノ標準斷面ハ天端幅七米、兩法二割、高ハ計畫高水位上一米五トシ支派川等ハ之ニ準ジ尚實地ノ狀況ニ應ジ其斷面ヲ定ム

施工狀況

本工事ハ大正十二年度創業ト共ニ直チニ準備及測量ヲ施行シ翌年度ヨリ工事ニ著手シ又土地買收ヲモ始メ以後漸次區域ヲ擴張シ工事ノ進捗ヲ計レリ本年度施行區域ハ前年度ニ引續キ久留米市小森野放水路以下、下流大中島ニ至ル延長二十粁餘ノ間ニシテ改修區域ノ中央以下ニ當リ又總テ感潮區ニ屬セリ前年度ヨリ繼續セル工事十五箇所ト本年度新ニ著手セシモノ七箇所、計二十二箇所ノ兩岸高水敷並ニ低水敷掘鑿及築堤工事ヲ施行シ內築堤一箇所、人力掘鑿三箇所、機械掘鑿一箇所ヲ竣功セリ又水門、樋管、陸閘等六箇所ノ附帶工事ヲ施行シ內二箇所ヲ除キ四箇所ハ年度內ニ竣功セリ

掘鑿ハ武島及天建寺ニ於テ二百瓩掘梯形掘鑿機ト二十瓩機關車ヲ用ヒ土運車ハ從來ノ三立方米積ノモノ及三立方米入積ダンプカーヲ使用セリ其他人力掘鑿運搬ニハ馬力ヲ主トシ長距離運搬ニハ四臺ノ瓦斯倫機關車ヲ以テセリ本年度施行セル坂口放水路以下、下流沿岸ノ掘鑿ハ潮汐ノ干滿甚シキ箇所ナルヲ以テ豫メ潮止堤ヲ築造スルノ要アリ又土質軟弱ナルヲ以テ多クハ人力ニ依リシガ施行著シク困難ヲ感ゼリ本年度ハ尚坂口及天建寺放水路ノ掘鑿ニ主力ヲ致シ相當ノ成績ヲ擧グルヲ得タリ同所ハ洪水時全部流水ニ洗ハルルヲ以テ出水每ニ工事箇所ヲ荒サレ之ガ復舊ニ時日ト費用ヲ要スルコト大ナリ本年度ニ於テ小森野、天建寺兩放水路間ノ高水敷掘鑿ハ大部分竣功シ又下流大中島ハ掘鑿築堤共ニ完成シテ河幅增大シ其他各所高水敷ノ掘鑿ノ進行ニ伴ヒ洪水ノ疏通上大ニ安全ノ度ヲ加ヘタルモノト認ム昭和三年六月下旬ノ出水ハ上流金島放水路附近ハ大正十年ノ水位ニ匹敵シ近年稀ナル災害ヲ見シニ拘ラズ下流ハ水位比較的低ク大ナル被害ナキヲ得タリ掘鑿土砂ハ本年度モ一部分ヲ築堤土ニ充用シ大部分ヲ附近民地等ニ捨土シ土量九十八萬六千百三十九立方米ヲ竣功セリ又築堤ハ總テ掘鑿土ヲ利用シ土量四十八萬五千六十四立方米ノ築立及ビ七千九十平方米ノ石張及石積ヲ施行セリ

附帶工事ニ在リテハ佐賀縣佐賀郡東川副村大中島ニ於ケル小樋管二箇所福岡縣三潴郡安武村武島ニ於ケル用水樋管及久留米市瀬下渡陸閘ハ本年度中著工竣功シ外ニ古賀坂逆水門及大汲場陸閘各一箇所ハ大部分竣功セリ

土地買收ニ在リテハ久留米市小森野町ニ於テ新川ニ要スル土地面積約二十町歩ニ對スル協議ヲ開始シ年度内全部ノ承諾ヲ得タリ

本工事本年度竣功高ハ六十一萬六千六百七十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百五十八萬七千三百五十八圓ヲ算シ工費總豫算一千百三十二萬圓ニ對シ二割三分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ

但シ表中「▲」ハ提供材料勞力及評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 掘鑿	立方米 二、五五三、一一六	円 四四一、六八〇 ▲一九二、七四五	立方米 九八六、一三九	円 一九一、四三三 ▲七一、八七四	立方米 三、五三九、二五五	円 六三三、一一三 ▲二六四、六一九	割分 〇・三〇
本工事費 築堤	六八一、七七四	五五、二四八 ▲四、六九九	四八五、〇六四	七〇、九三一 ▲一、九五七	一、一六六、八三八	一二六、一七九 ▲六、六五六	〇・一四
本工事費 水門	箇所 一	四四、六二六 ▲一、一四一	—	— ▲—	箇所 一	四四、六二六 ▲一、一四一	—
用地費	段 七九四	六五八、八二六	段 二〇五	二〇一、八三一	段 九九九	八六〇、六五七	
附帶工事費	竣功 二箇所 未竣功 一	四、四八九 ▲二、二四七	竣功 四箇所 未竣功 二	二四、二二四 ▲一二、三八一	竣功 六箇所 未竣功 二	二八、七一三 ▲一四、六二八	〇・二四
船舶及機械費	—	五九一、六〇四 ▲二一三	—	七九、八二七 ▲—	—	六七一、四三一 ▲二一三	—
測量費	—	二三、一七五	—	三、〇七一	—	二六、二四六	—
營繕費	—	二七、七五八 ▲七	—	三、二七二 ▲—	—	三一、〇三〇 ▲七	—
雜費	—	一一九、一一四 ▲二四	—	四〇、一二一 ▲二一	—	一五九、二三五 ▲四五	—
共濟組合給與金	—	四、一六二	—	一、九六六	—	六、一二八	—

總計	—	▲ 一、九七〇、六八二 二〇一、〇七六	—	▲ 六一六、六七六 八六、二三三	—	▲ 二、五八七、三五八 二八七、三〇九	〇・二三

第二六　綠川改修工事

緒　言

本工事ハ工費四百萬圓(内熊本縣負擔百十七萬四千圓)ヲ以テ大正十四年度以降十二箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋熊本縣下益城郡杉上村以下河口ニ至ル約十六粁、支川加勢川筋飽託郡日吉村以下幹川合流口ニ至ル約四粁及派川嘉永新川ナリトス

河狀竝計畫大要

綠川ハ源ヲ熊本縣阿蘇郡小峯村三方嶽ニ發シ西北ニ向ヒ深山幽谷ノ間ヲ奔流シテ上益城郡白糸村ニ至リ高サ十五丈ノ瀑布トナリ同郡宮内村上揚ニ達シ初メテ平地ヲ見更ニ甲佐町ニ下レバ鵜瀬堰アリテ同川ヲ横斷ス之レヨリ流路北折シ乙女村ヨリ再ビ西北流シ上島村ニ於テ支川御舟川ヲ合シ水勢漸ク大トナリ勾配稍々緩トナル尙下リテ下益城郡杉合村釋迦堂ニ至リ加勢川ノ合流スルヤ河幅却テ狹小トナリ流路亦迂回曲折スル爲メニ洪水疏通ノ障碍ヲ爲スコト甚シク上流ニ多大ノ損害ヲ來スヲ以テ既往ニ於テ別ニ堀川放水路ヲ設ケ杉合村小岩瀬ニテ本川ニ合セシメタルニ依リ今日ニテハ平水ハ主トシテ放水路ヲ流下シ本流ハ加勢川ノ流路タルノ狀態ヲ爲セリ其レヨリ更ニ西流スルコト須臾ニシテ流路急ニ南折シ大彎曲シテ走潟村ヲ抱擁ス因テ此處ニ嘉永新川ヲ設ケ川口村方丈ニテ本川ニ落合ハシメ洪水時ノ放水路ト爲ス同所ヨリ下流ハ河幅頓ニ增大シ西流シテ筑紫海ニ注ギ其流路延長約九十八粁ニ達ス本川ハ流域面積一千八十平方粁ニシテ大河ナリト謂フベカラザルモ沿岸一帶ノ耕地低濕ニシテ一朝非

常洪水ニ會セバ殆ント平地部全區域ニ汎濫シ其災害甚大ナルモノアリ由來本川ノ水害ハ比較的勾配急ナル幹川上流ヨリ急奔シ來リタル洪水忽チ杉合村地內ノ狹窄部ニ扼セラレテ漸次水位ヲ昇騰シ其極終ニ堤防ノ決潰等ヲ誘致シ又支川ニ逆流スルニ因リテ生スルモノニシテ非常洪水ナラザルモ湛水數日ニ亙ルコト多ク年々ノ損害少カラズ之ヲ以テ古來本川ノ治水ニ關シ或ハ各所ニ放水路ヲ開鑿シ或ハ堅固ナル堤防ヲ築設スル等高水防禦ニ苦心ヲ拂ヒタル跡歴然タルモノアリト雖モ之レ等ノ多クハ局部ノ施設ニ止マリ未ダ根本的ニ被害ヲ一掃スルニ至ラズ大正元年ノ大洪水ノ如キハ其損害額實ニ百五十萬圓ノ多キニ達シタリト謂フ本川ノ夙ニ第一期河川トシテ改修ノ必要ヲ認メタル亦宜ナリト謂フベシ

本川ノ水害ハ前記ノ如ク杉合村附近ニ於ケル河積不足ノ爲メニ洪水ヲ疏通シ能ハザルニ主因スルヲ以テ本改修ニ於テハ堀川ヲ擴幅開鑿シテ本流ト爲スト同時ニ同所以下ノ本流亦河幅ヲ增大シ河狀ヲ矯正シ又走瀉村附近現在ノ迂回水路ハ甚シク洪水ノ疏通ヲ阻碍スルヲ以テ嘉永新川ヲ擴張シテ之ヲ本流ト爲シ其他河口ヨリ上流御舟川合流口附近ニ至ル區間ニ於テ數箇所河幅ヲ擴大スル外多クハ舊堤ノ增築ニ止メントス

支川加勢川ノ水害ハ主トシテ幹川ヨリノ逆水ニ起因スルヲ以テ釋迦堂ニ於テ本支川ヲ絕緣シ野田地先以下舊水路ヲ適宜改修シ中緣村中無田地先ヨリ幹川右岸堤防ノ內側ニ沿ヒ新川ヲ開鑿シテ同村道古閑地先ニ於テ合流セシメントス

計畫高水量ハ幹川筋每秒三千三百四十立方米、支川加勢川同四百二十立方米ト定ム又計畫河幅ハ幹川筋杉合村鐵道橋附近ノ二百二十米ヲ最小トシ二百六十米乃至三百五十米トシ又加勢川ニ對スルモノハ八十五米ト爲セリ

堤防ハ天端幅五米五、兩法二割、天端高計畫高水位以上一米乃至一米五トス

施工狀況

本工事ハ大正十四年度ノ創業ニシテ先ヅ施工準備トシテ同年十月實施測量ニ著手シ引續キ諸般ノ準備竝ニ調査ヲ進メシガ昭和三年十二月漸ク飽託郡川口村地先ノ人力掘鑿工事ニ著手スルニ至リ土砂六萬三千三百七十九立方米ヲ掘鑿シ內五萬八千九百六十九立方米ハ築堤敷ヘ殘余ハ附近民地ヘ捨土セリ其施行ニ當リガソリン機關車二臺及一立方米積土運車ニ依ル機械運搬ト人力及馬力運搬ヲ併施セリ

土地買收ニ關シテハ昭和二年度ニ左岸飽託郡走潟村及右岸飽託郡中緑村、川口村、海路口村ニ亙リ總計三十七町四段四畝歩ノ第一次買收ヲ了シ昭和三年十一月右岸中緑村地內二十二町六段歩ノ第二次買收協議ヲ開始セルニ年度內ニ殆ント其全部ノ承諾ヲ得タリ

本年度竣功高ハ二十萬八千八百十一圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ六十萬八千七百八十七圓ヲ算シ工費四百萬圓ニ對シ約一割五分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ表中「▲」ハ提供勞力費ナリトス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
本工事費―掘鑿費	―	▲ ―	六三、三七九	▲一七、四一〇 九七〇	六三、三七九	▲一七、四一〇 九七〇	〇・〇二
用地費	三七四段	二七六、六三九	二三九段	一五五、九二七	六一三段	四三二、五六六	〇・二六
船舶及機械費	―	九五、〇〇九	―	一六、四四七	―	一一一、四五六	―
測量費	―	七、七〇八	―	二、三二二	―	一〇、〇三〇	―
營繕費	―	一、六〇二	―	一、四八七	―	三、〇八九	―

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
雜費	—	一八、五五一円	—	一四、八〇六円	—	三三、三五七円	—割分
共濟組合給與金	—	四六七	—	四一二	—	八七九	—
總計	—	三九九、九七六 ▲—	—	二〇八、八一一 ▲九七〇	—	六〇八、七八七 ▲九七〇	〇・一五

第二七　北川改修工事

緒　言

本工事ハ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年繼續事業トシテ總工費二百三十六萬圓(內地方負擔八十三萬一千圓)ヲ以テ改修セントスルモノニシテ其區域ハ幹川北川ニテハ福井縣遠敷郡三宅村以下海ニ至ル約十四粁、支川南川ニテハ同縣同郡口名田村以下海ニ至ル約六粁又支川遠敷川約二粁、合計二十二粁ナリ

河狀竝計畫大要

北川ハ源ヲ滋賀縣高島郡三谷村ノ山地ニ發シ溪谷ヲ流レ二、三ノ細流ヲ併セ南流シタル後方向ヲ轉ジ北西ニ向ヒ福井縣ニ入ル遠敷郡熊川村ヲ經テ西岸漸ク開ケ三宅村以下兩岸堤塘ノ設ケアリ川ハ一路直流數個ノ小支ヲ容レ遠敷村ニ至リ左支遠敷川ヲ併セ雲濱村ニ至リ多田川ヲ呑ミ次デ南川ト合シ海ニ注グ流路延長約三十五粁トス河口ハ左岸ニ突堤ノ設ケアリテ小濱港ヲ成ス又河口近ク右方ニ江湖川アリ其北川ニ接近セル處北川右岸堤上ニ古來三箇所ノ溢流堰ヲ設ケ以テ洪水ノ際其一部ヲ江湖川ニ放流スルノ用ニ充ツ

南川ハ源ヲ遠敷郡奥名田村ヨリ發シ溪間ヲ略東流シ細流ヲ集メ知三村ニ至リ方向ヲ轉ジテ東北ニ向ヒ口名田村ニ至リ兩岸漸ク開ケ今富村ニ至リテ始メテ堤塘ノ設ケアリ次デ大灣ヲ畫キ小濱町ヲ經テ北川ニ合ス流路延長約四十粁ナリトス

本流域ハ滋賀縣高島郡及福井縣遠敷郡ニ跨リ全面積四百四十二平方粁ニシテ一般ニ山岳ニ富メリト雖モ著シキ峻峯ナシ山地ハ殆ンド古生層ニ屬スル粘板岩、硅岩等ヨリ成リ平地ハ第四紀新層ニ屬スル冲積地ナリ山地ノ森林狀態ハ必シモ良好ナルニアラズト雖モ又甚シキ荒廢ノ跡ナシ

沿岸ノ平地ハ總テ北川本支流ヨリ灌漑ノ惠ヲ受ケルモノニシテ其面積二千四百十ヘクタールニシテ殆ンド其全部ハ福井縣下ニ屬シ而カモ改修區域內ニ在リ船運ハ著シキモノナク唯河口附近ニ於テ小船ノ通ズルヲ見ルノミ河口ハ即チ小濱港ニシテ風光明媚ナル小濱灣ノ奥底ニ横リ古來著名ナル港津ナリト雖モ惜ラクハ水深小ニシテ大船巨舶ヲ容ルル能ハズ

北川ハ從來河幅狹隘堤防薄弱ナルヲ以テ出水ニ會セバ堤防決潰シテ浸水ノ害ヲ被リ甚ダシキハ毎年數回ニ及ブコトアリ特ニ流末地方ニ在リテハ南北兩川ノ洪水相會シ而モ河口狹隘ナルヲ以テ疏通充分ナラズ爲メニ小濱町ノ一部及雲濱村ノ如キハ濁水人家ヲ沒シ慘害ヲ逞フス舊藩時代ニ於テ北川堤防ニ溢流部ヲ設ケ洪水ノ一部ヲ江湖川ニ放流スルノ施設ヲ爲シタルモ尙不充分タルヲ免レズシテ災害ヲ被ルコト頻繁タリ明治二十九、三十二、四十、大正六、十年ノ洪水ノ如キハ其被害特ニ著シキモノアリ今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域內ニテハ一千五百十九ヘクタールニシテ內一千四百四十ヘクタールハ改修ニ依リテ被害ヲ免ルル區域ニ在リ大正四年依リ同十三年ニ至ル十箇年間ニ於ケル水害損失平均年額ハ十五萬四千八百八十圓ニシテ內十四萬七千圓ハ改修ニ依リ全ク之ヲ免ルルヲ得ルナリ

計畫流量ハ從來ノ最高洪水ヲ基準トシ今回調查ニ當リ實測セシ結果竝ニ當時觀測セル水位等ヨリ推定シテ計畫流量ヲ次ノ如ク決定セリ

北川	上流改修起點ヨリ鳥羽川合流點ニ至ル	毎秒立方米 三〇〇

鳥羽川合流點ヨリ杉山川合流點ニ至ル	四六〇
杉山川合流點ヨリ日笠川合流點ニ至ル	五〇〇
日笠川合流點ヨリ宮川合流點ニ至ル	六〇〇
宮川合流點ヨリ遠敷川合流點ニ至ル	七〇〇
遠敷川合流點ヨリ海ニ至ル	九五〇
南川	一、〇〇〇
遠敷川	三〇〇

計畫高水位モ亦從來ノ最高洪水位ヲ基準トシテ之ヲ定メ前記流量ヲ安全ニ疏通セシムルヲ以テ改修計畫ノ主眼トセリ

幹川北川筋ニ在リテハ上流改修起點ヨリ宮川合流點ニ至ル迄ハ河幅大體充分ナルヲ以テ單ニ舊堤ヲ擴築スルニ止ム同點以下ハ河幅概シテ不足ナルヲ以テ多少之ヲ擴張シ或ハ新堤ヲ設ケ或ハ舊堤ノ利用スベキハ之ヲ擴築ス又國富村大字丸山以下ハ現川ヲ右方ニ導キ現在ノ江湖川ヲ擴張シテ之ニ充ツルモノトシ江湖川ハ之ニ竝行ニ新水路ヲ設ケ西津村ニ至リ新北川ニ合流セシメントス

支川南川ハ上流改修起點ヨリ今富村大字湯岡ニ至ル間ハ在來ノ堤防ヲ擴築スルニ止メ同所以下ハ多少河幅ヲ擴張シ尚現在ノ水路ハ著シク迂回セルヲ以テ雲濱村地内ニ一條ノ直路ヲ開鑿シ同村大字竹原ニ至リ北川ノ現水路ニ合セシメ以下ハ北川ノ現水路ヲ以テ南川ノ新水路ニ充ツ斯クシテ南北兩川ハ全ク分流セシメントス

支川遠敷川ハ小支松永川合流點以下本川トノ合流點ニ至ル間河幅ハ充分ナリト雖モ堤防薄弱ナルヲ以

テ之ヲ擴築スルモノトス
堤防ハ天端幅四米五、兩法二割乃至三割トシ天端ハ計畫高水位以上一米五トシ尚直高ノ大ナル堤防ニハ小段ヲ附ス堤防及河岸ノ必要ナル箇所ニハ適當ナル護岸工ヲ施シ河敷内ニ在リテハ河積ノ不足ナル部分ハ掘鑿若クハ浚渫ヲ行ヒテ之ヲ補足シ下流ニ於テハ兼テ船運ニ便ナラシメントス

施工狀況

本改修工事ハ大正十五年度ノ創業ニシテ引續キ實施測量竝ニ諸般ノ調査ヲ行ヒ昭和二年四月福井縣遠敷郡雲濱村ニ土地收用事務所竝ニ改修事務所ヲ併置シ翌三年四月土地收用事務所ヲ廢止シ土地收用事務ハ改修事務所ニ於テ處理スルコトトセリ而シテ前年度北川筋ニ於テハ右岸福井縣遠敷郡西津村ヨリ同郡國富村ニ至ル間左岸同郡雲濱村ヨリ同郡今富村ニ至ル間南川筋ニ於テハ左右岸共同郡雲濱村ヨリ同郡今富村ニ至ル間ノ幅抗設置測量ヲ完了セル區域ノ用地面積二十一町歩餘ノ買收調査ヲ遂ゲ昭和二年十二月協議ヲ開始シタル第一次土地買收ハ約四割ノ未承諾者ヲ殘シ年度ヲ終リシモ本年度早々全部ノ應諾ヲ見タリ引續キ本年度ニ於テハ昨年度幅抗設置測量ヲ完了セル區域ヨリ下流河口ニ至ル間即チ北川筋ニ於テハ右岸福井縣遠敷郡西津村ヨリ雲濱村ニ至ル間左岸同郡雲濱村南川筋ニ於テハ左右岸共同郡雲濱村地内ニ於ケル幅杭設置測量ヲ施行シ此區間ノ用地面積一町五段歩餘ノ買收調査ヲ爲シ昭和四年三月一日第二次土地買收ノ協議ヲ開始シタルモ年度内ニハ僅ニ三割ノ承諾ヲ得タルノミナリキ是ヨリ先キ軌條其他土工器械ノ購入等準備ヲ爲シ昭和三年十月買收濟區域ノ工事ヲ施行スルコトトシ北川筋及南川筋ニ各一箇所宛見張小屋ヲ設置シ人力掘鑿工事ニ著手セシモ年度内ハ施工準備及天候不良

ノ爲メ功程進捗セズ掘鑿土量ハ一萬八千八百九立方米其工費六千七百六十一圓ニ過ギザリキ

本年度ニ於ケル竣功額ハ八萬九千九百四十圓ニシテ創業以來本年度迄ノ竣功額二十二萬二千四百八十五圓トナリ總工費二百三十六萬圓ニ對シ零割九分ナリ其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費─掘鑿	─	円 ─	立方米 一八、八〇九	円 六、七六一	立方米 一八、八〇九	円 六、七六一	割分 〇・一七
用地費	段 一二五	七六、六八三	段 九〇	六四、四七九	段 二一五	一四一、一六二	〇・三三
船舶及機械費	─	四〇、二〇二	─	三、八三三	─	四四、〇三五	─
測量費	─	一、二二一	─	三八四	─	一、六〇五	─
營繕費	─	二、六九三	─	一、二一四	─	三、九〇七	─
雜費	─	一一、五五三	─	一二、九七一	─	二四、五二四	─
共濟組合給與金	─	一九三	─	二九八	─	四九一	─
總計	─	一三二、五四五	─	八九、九四〇	─	二二二、四八五	〇・〇九

第二八　旭川改修工事

緒　言

本工事ハ工費八百萬圓(内岡山縣負擔二百七十五萬九千圓)ヲ以テ昭和元年度ヨリ昭和十三年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ岡山縣御津郡牧石村以下海ニ至ル約十七粁ノ間ナリ

河狀竝計畫大要

旭川ハ流域面積一千七百二十三平方粁ニシテ内山地面積一千四百八平方粁、平地面積三百十五平方粁、流路延長約五十粁ナリ灌漑段別一萬九百ヘクタールヲ有スル河川ニシテ其大部分ハ岡山市附近ノ平野ニ屬セルナリ而シテ本川ハ其源ヲ岡山縣眞庭郡ノ北境ナル鷲ケ峰ヨリ發シ始ハ略東流シテ同郡茅部ヲ過ギ方向ヲ南ニ轉ジ山間ノ諸溪流ヲ併セ勝山町ニ至リ右支新庄川ヲ納レ東南ニ轉向シ久世町ヲ過ギ左支目木川ヲ併セ落合町ニ至リ更ニ右支備中川ヲ收メ山間ヲ迂餘曲折シテ久米郡福渡町ニ至リ左支誕生川ヲ合セ更ニ下リテ御津郡金川町ヲ經テ右支宇甘川ヲ容レ次デ方向ヲ略南ニ變ジ同郡牧石村ニ至リ山間ヲ離レテ平野ニ出ヅ次ニ左方ニ百間川ヲ分派シ岡山市内ヲ貫流シテ再ビ方向ヲ稍東南ニ轉ジ上道郡三蟠村ニ至リ兒嶋灣ニ注グ由來本川ハ大河ト云フニアラザルモ下流部ハ岡山ノ沃野ヲ横斷シ古來灌漑ノ利ト運輸ノ便トニ因リテ流域内文化ノ開發ニ貢獻スル處多ク實ニ中國重要河川ノ一ナリ

然レドモ本川ハ地勢上勾配急峻ニシテ流域ハ一般ニ山岳ニ富ミ幾多ノ丘巒群起セリ而シテ此等山嶽ハ

主トシテ古生層ニ屬スル粘板岩及凝灰岩若クハ花崗岩ヨリ成ル後者ハ其性質上風化甚シキヲ以テ是レヨリ構成セラルル山岳ニハ禿裸ノ地多ク土砂流出ノ因ヲ爲シ漸次河床ヲ高メ一朝洪水ニ際會セバ河水忽チ漲溢シ沿岸ノ被害甚シク古來屢々水害ニ惱マサレタリ舊藩時代ニ入ルニ及ビ洪水ノ被害ヲ受クル事頻繁タリシヲ以テ貞享三年(二百四十年前光政時代)遂ニ百間川ナル放水路ヲ開鑿スルニ至レリ然レドモ爾來尚洪水ノ害ヲ絶タズシテ屢々市街ノ浸水、堤防ノ決潰、橋梁及家屋ノ流亡、田畑ノ荒廢、人畜ノ死傷等慘害ヲ被ムルノ事實ハ記錄ニヨリ之ヲ窺フニ足ルモノアリ近年幸ニシテ大洪水ニ遭遇セザルモ彼ノ明治二十六年ノ水害ノ如キハ浸水田畑一萬一千百ヘクタールニシテ損失價額四百九十七萬餘圓ニ上レリト云フ

今水害ヲ受クベキ面積ヲ掲グレバ全流域内ニテハ約一萬一千五百ヘクタールニシテ特ニ岡山市ノ發達ニ伴ヒ市街ニ浸水スルガ如キハ戰慄ニ堪ヘザルモノナルガ改修ニ依リ是レヲ除キ且水害ヲ免レシムル面積ハ約九千百ヘクタールナリ

而シテ計畫流量ハ既往ニ於ケル最高水位ヲ基準トシ毎秒五千立方米トシ尚高水位ハ既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル樣之ヲ定メタリ

上流改修起點ヨリ岡山市上流ニ至ル約七粁間ハ大體現在河幅廣濶ナルヲ以テ局部ヲ除ク外ハ現在堤防ヲ補強スルニ止ム以下岡山城ト後樂園トノ間ニ横ハル部分ハ河幅狹隘河積又不充分ニシテ之ヲ擴張スル必要アルモ其餘地ナキヲ以テ新ニ後樂園ノ上流ヨリ其後方ヲ經過スル新川ヲ開鑿シ岡山市内相生橋附近ニテ現河川ニ合セシメ以下河口ニ至ル迄ハ現在河幅概シテ狹小ナルヲ以テ多少之ヲ擴張ス而シテ河口ヨリ上流岡山市内京橋ニ至ル約八粁間ハ低水路ヲ規正シ之ニ浚渫ヲ施シ舟運ノ便ヲ計リ尚堤外地

ニハ掘鑿ヲ行ヒ以テ所要ノ河積ヲ與フルモノトス

又必要ナル箇所ニハ護岸若クハ水制ヲ施シ流路ノ擾亂ヲ防キ河岸ノ崩壞ヲ止メ又ハ堤防ノ安全ヲ計ラントス

堤防ハ馬踏七米五、兩法二割乃至三割、天端高ハ計畫高水位上一米五トシ尚適當ナル小段ヲ前後ニ附スルモノトス

施工狀況

本年度ニ於テモ工事ニ關シテ施設セルモノナシ

調査作業ニ於テハ原案ニ對スル比較案タル上流山間部ノ調査測量及改修區域内一部ノ實施横斷測量ヲ施行ス

本年度ニ於テ竣功セシ工費ハ七萬三千九百十五圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計十萬五千八十六圓ナリ之ヲ總工費豫算八百萬圓ニ比スレバ約一分ノ竣功トナル其竣功表左ノ如シ但シ表中「○」ハ無償品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
		円		円		円	割分
船舶及機械費	—	一〇、〇〇四	—	五〇、四三一	—	六〇、四三五	—
測量費	—	九、五九五	—	八、三〇二	—	一七、八九七	—
營繕費	—	一、〇九四	—	一三四	—	一、二二八	—
雜費	—	一〇、〇八五 ○ —	—	一四、五二〇 ○ 八	—	二四、六〇五 ○ 八	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本半度竣功高 數量	本半度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
		円		円		円	割分
共濟組合給與金	—	三九三	—	五二八	—	九二一	—
總計	—	三一、一七一	—	七三、九一五	—	一〇五、〇八六	〇・〇一

第二九　鬼怒川改修工事

緒言

本工事ハ大正十五(昭和元年)年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル十四箇年度繼續事業トシテ總工費豫算一千四百五十萬圓ヲ以テ栃木縣鹽谷郡三依、栗山、藤原ノ三箇村及同縣同郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル延長約百十粁及同郡取手町竝ニ千葉縣東葛飾郡田中村地先約十粁ノ改修工事ヲ施行スルモノトス

河狀竝計畫大要

鬼怒川ハ其源ヲ栃木縣鹽谷郡ノ西邊鬼怒沼ニ發シ日光山塊ノ北麓ヲ繞リテ一路東流シ同郡藤原村ニ至リテ左ニ大支男鹿川ノ南下スルヲ併セ之ヨリ山谷ノ間ヲ東南ニ奔リテ漸ク平原ニ出デ右ニ大支大谷川ノ東流スルニ會シ河內、鹽谷、兩郡ノ界ヲ流レ羽黒村地內ニ於テ西鬼怒川ヲ分派シ阿久津村ニ至リテ再ヒ之ヲ併合ス之ヨリ南流スルコト四十二粁ニシテ水戸線鐵道橋ノ上流ニ於テ茨城縣管內ニ入リ幾クモナクシテ右ニ大支田川ヲ容レ田圃臺地ノ間ヲ迂餘曲折シテ南流スルコト四十五粁餘北相馬郡大野村地先ニ於テ利根川ニ注グ其幹川延長百七十粁(內栃木縣管內百二十粁、茨城縣管內五十粁)ニシテ平地部ニ於ケル流路ハ兩縣ヲ通ジテ百二十粁ニ達ス

大谷川合流點以上ハ河路概ネ狹谷ヲ成シ堤防護岸等稀ニシテ其下流水戸線鐵道橋ニ至ル延長七十粁ノ間ハ水勢急ニシテ川敷廣ク河水礫洲ノ間ヲ亂流シ兩岸ノ低坦地ハ概ネ堤防ヲ以テ保護セラル派川西鬼

怒川ハ往時一用水路タリシガ明和年間ニ於ケル大洪水ノ際河水溢流シテ一大河道ヲ成スニ至リシモノナリ同鐵道橋以下即チ茨城縣管內ニ屬スル部分ハ河狀一變シ緩流トナリ兩岸ハ大體堤防ヲ以テ保護セラルルモ河幅過狹ニシテ所々ニ急曲アリ爲メニ洪水ノ疏通ヲ阻ミ水位ノ嵩上甚シ水海道町以下ニ於テハ往時東流シテ小貝川ニ合シタリシモ德川時代ニ於テ洪水排疏ヲ速カナラシメンガ爲メ丘陵ノ谷間ヲ開鑿シテ新タニ河道ヲ通ジ直ニ利根川ニ注ガシメタルモノニシテ內守谷村大字大木迄ハ河道特ニ狹隘ナリ而シテ流末大木以下延長二粁餘ノ部分ハ利根川ト同時ニ國ニ於テ既ニ改修ヲ施行シタルモノナリ

本川ノ流域ハ栃木縣宇都宮、鹽谷、河內、上都賀、下都賀、芳賀、茨城縣眞壁、結城、猿島、北相馬ノ一市九郡ニ亙リ總面積一千八百八十平方粁ニシテ其內譯栃木縣（山地一千百六十平方粁、平地五百平方粁）茨城縣平地二百二十平方粁ナリトス

流域ハ大體南北ニ長ク東西ニ狹クシテ水源山地ハ栃木縣ノ西北部ヲ占メ北ハ帝釋山脈ヲ以テ福島縣阿賀川流域ト隣シ東ハ那須火山系ヲ介シテ那珂川流域ニ接シ西及南ハ足尾山系ヲ以テ片品、渡良瀨兩川（共ニ利根川ノ大支ナリ）ト流域ヲ分ツ日光火山塊ハ其南部ニ盤踞シテ支川大谷川ノ水源ヲ成シ湯湖西湖、中禪寺湖等其間ニ橫タハル水源ノ地質ハ大體東北部ハ花崗岩層ノ堅岩ニシテ南部ハ安山岩、凝灰岩等ノ大山岩ヨリ成ル支川男鹿川ハ約二百六十平方粁ノ流域ヲ有シ岩代國境ヨリ發スル五十里、湯西ノ二小支ノ合シタルモノニシテ其合流點附近ハ川道廣濶ナル湖盆狀ヲ形成シ二百年以前ニ於テ數十年間一大湖ヲ成セルモノニシテ今尙海跡ノ名アリ幹川ノ最上流部及男鹿川流域ハ針濶混生ノ樹木多ク山相一般ニ良好ナルモ幹川ノ南大谷川ノ北部ヲ占ムル日光山塊ノ兩斜面ハ其岩質ノ關係ヨリ荒廢甚シク崩潰度ナキ狀態ニシテ大谷川ニ合スル諸溪流ハ現ニ國及縣ニ於テ砂防工事ヲ實施シツツアリ

大谷川合流點以下水戸線鐵道橋ニ至ル間ハ河道概ネ河水ノ流送堆積セル砂礫層上ニ横タハルモ東岸ニ於テ所々第三紀ノ臺地アリ河水ノ衝突ニ因リテ缺潰甚シク吉壁數粁ニ連ナルモノ尠カラズ同鐵道橋以下ハ大體豐饒ナル冲積壤埴土ナルモ所々第三紀ノ丘陵臺地ヲ見ル流末利根川トノ間ニ介在スル菅生低濕地ハ富饒ナル腐埴土ヨリ成リ現在ハ利根川洪水ノ游水地タリ

本川改修區域ハ水害最モ甚シキ栃木縣鹽谷郡大宮村以下茨城縣北相馬郡大野村地先利根川合流點ニ至ル部分ニシテ其延長百十粁、內栃木縣管內六十粁、茨城縣管內五十粁ナリ

本川改修區域ニ於ケル洪水ノ狀況ヲ見ルニ水源山地ヨリ改修上流端ニ流下シ來ル洪水ハ其流量大ニ其勢極メテ激烈ナルモ栃木縣下延長六十粁ノ間ハ河幅廣大ニシテ所々無堤地アリ加フルニ大洪水ノ際ハ所々破堤溢流等ヲ生ジ游水面積極メテ大ナルヲ以テ洪水ハ其流量ニ於テモ亦流勢ニ於テモ大ニ緩和サレタル後ニ茨城縣ニ入ルノ狀況ナリ然リト雖モ水戸線鐵道橋以下ニ於テハ河道狹小ニシテ堤防亦矮少薄弱ナルヲ以テ破堤溢流等尙頻繁ナルモノアリ而シテ流末既改修部ニ在リテハ每秒二千五百立方米ノ高水流量ヲ安全ニ疏通シ得ルモ合流點以下ニ在リテハ兩川最大流量ノ遲速ヲ考慮シ利根川ノ河積ハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水量ヲ每秒約一千立方米ト見積リテ決定セルモノナリ

鬼怒川ノ現狀竝ニ利根川トノ關係上記ノ如クナルヲ以テ本川ノ水害ヲ救ハンガ爲メ單ニ無堤地ノ汎濫堤防ノ缺潰溢流等ヲ防止シ他ニ何等ノ方法ヲ講ゼザルニ於テハ必然游水面積ヲ縮少シ洪水ノ流量ヲ增加シ其流下ヲ速カナラシムル結果ヲ招致シ茨城縣管內ニ於テハ河幅ノ大擴張ヲ要シ惹テハ利根川ニ流出スル高水流量ヲ愈々大ナラシメ合流點以下ノ河道ニ對シ少ナカラザル脅威ヲ及ボス事トナルヲ以テ本川ノ改修ニ當リテハ下流ニ排疏スル高水流量ヲ現狀以上絕對ニ增大セシメザルヲ以テ根本方針ト爲

サザルベカラズ依テ先ヅ改修區域ノ河道外汎濫地ニ代テ洪水ノ調節ヲ爲シ其流量ヲ低減センガ爲メ男鹿川海跡ノ河袋ニ一大調節池（容量約五千五百萬立方米）ヲ設ケ大雨ノ際水源ヨリ流下シ來ル洪水ヲ池中ニ停滯セシメ排水門ヲ設ケテ徐々ニ之ヲ排疏シ依テ以テ改修上流端ニ於ケル最大流量毎秒五千立方米ヲ四千立方米ニ低減シ之レヨリ以下ハ現在ノ河道ノ調節作用ニ依リ高水流量ヲ次第ニ低減セシメ流末既改修部ニ亙リテ毎秒二千五百立方米ニ止ムルノ方法ヲ採用セリ即チ本川ノ計畫高水流量ハ改修區域上流端ニ於テ毎秒四千立方米ト定メ之ヨリ次第ニ減ジテ水戸線鐵道橋ニ於テ毎秒三千立方米、改修末端ニ於テ毎秒二千五百立方米ト定メタリ

而シテ改修工事ハ大體現在ノ河幅ヲ保持シ其過狹ナル部分ヲ擴張シ栃木縣管内ニ於テ四百五十米乃至一千米、茨城縣管內ニ於テ百七十米乃至五百米ノ河幅ヲ有セシメ堤防ノ薄弱ナル部分ハ之ヲ增築シ無堤地ニシテ汎濫ノ害著シキモノハ新タニ堤防ヲ繞ラシ以テ沿川ノ水害ヲ根絶セントス改修堤防ハ大體馬踏三米五乃至七米兩法二割乃至三割ト爲シ天端ハ計畫高水位以上一米二ノ高サヲ有セシムルモ現在河幅廣大ナル部分ハ之ヲ一米ニ止メタリ而シテ水流ノ衝ニ當ル河岸ニ對シテハ護岸水制等ノ補修又ハ新設ヲ行ヒ以テ岸地ノ缺潰ヲ防ギ堤防ノ安固ヲ圖ラントス

水源ニ於ケル洪水調節ノ結果西鬼怒分派點ニ於ケル計畫流量ハ毎秒四千立方米ニ低下スルヲ以テ現在ノ幹川タル東鬼怒ニ於テ多少ノ堤防增築ヲ行ヘバ一川ノ河幅ニ依リ能ク全流量ヲ疏通シ得ベキヲ以テ西鬼怒川ヲ其分派口ニ於テ締切リ其川敷及游水地約百五十ヘクタールノ開墾ヲ可能ナラシム水戸線鐵道橋附近ハ河幅過狹ニシテ高水ノ疏通堤防護岸ノ維持共ニ困難ナルノミナラズ屢々鐵道ヲ不通ナラシムルヲ以テ橋長ヲ增大シ河積ノ擴張ヲ行ヒ茨城縣管內宗道村附近ハ河道ノ屈曲特ニ甚シク水位ノ嵩上

工作物ノ被害共ニ著シキモノアルヲ以テ新タニ直路ヲ開鑿シテ高水ノ疏通ヲ助ケントス前述ノ如ク利根川改修ニ於テハ其最高水位時ニ於テ鬼怒川ヨリ流下スル高水流量ヲ毎秒一千立方米ト見積リタレドモ近年ノ洪水狀況ヲ調査スルニ一千四百立方米以上ニ達スル場合アルヲ以テ鬼怒川改修後ニ於ケル該流量ヲ一千六百立方米ト定メ利根河積ニ對シテ過大ナル部分每秒六百立方米ハ合流點附近ニ於テ一時滯溜セシムルノ策ヲ採レリ即チ茨城縣北相馬郡菅生沼沿岸及千葉縣東葛飾郡田中村ヨリ我孫子ニ亙ル利根川游水地ニ新堤ヲ繞ラシテ二大調節池ヲ設ケ數箇所ニ溢流部ヲ置キ下流端ニ排水門ヲ設ケ以テ水位過嵩ノ際河水ヲ流入滯溜セシメ河道ノ減水ヲ待テ池內ノ滯水ヲ排出セシメントス而シテ此等調節池地域ノ荒蕪地ハ從來堤外游水地ニシテ出水每ニ水底ニ沒スルノ狀態ナリシガ改修後ニ於テハ大洪水ノ場合ニ於テノミ溢流ノ爲メニ冠水スル事トナリ從テ約一千二百ヘクタールノ低坦地ハ大ニ其利用率ヲ高ムルニ至ルベシ

施工狀況

本工事ハ便宜上下流ニ分チ下流部ヨリ述ベンニ先ヅ施行準備トシテ大正十五年十二月茨城縣結城郡宗道村及栃木縣河內郡本鄉村ニ測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ニ著手シ翌昭和二年一月宗道村ニ土地收用事務所ヲ設ケ結城郡大形村新河道開鑿用地ノ買收調査ヲ開始シ次デ河內郡上三川町及芳賀郡中村、同長沼村ノ三ケ町村內ニ於ケル堤塘用地ノ買收協議ヲ開始シ本年度迄ニ總段別五十三町六段四畝八步餘ヲ買收シ用地費二十四萬二千八百五圓ヲ支出セリ

工事施行ニ關シテハ昭和二年二月茨城縣眞壁郡伊讃村字伊佐山ニ鬼怒川下流改修事務所ヲ置キ左岸栃

木縣鹽谷郡大宮村、右岸同縣河内郡篠井村以下利根川合流點ニ至ル間ヲ事業區域ト定メ各種測量調査及機械器具ノ整備、電話架設等種々施工準備ニ努メ斯クテ本川中彎曲最モ甚ダシキ大形村字鎌庭地先ノ新河道開鑿工事ヲ同三年二月ヨリ著手シ得ルニ至リ前年度内土量一萬九千百十四立方米ヲ掘鑿運搬セリ

上流部ニ於テハ準備トシテ大正十五年九月鹽谷郡藤原村ニ測量員詰所ヲ置キ實地測量調査ヲ行ヒ昭和二年五月鹽谷郡三依村大字五十里字關門ニ鬼怒川上流改修事務所ヲ置キ同郡三依、栗山、藤原ノ三村ヲ事業區域ト定メ大支男鹿川（湯西川ヲ含ム）筋ニ一大調節池ヲ設クル爲メ前記關門地先ニ於ケル堰堤築設箇所ノ地層試鑽其他事業遂行ニ必要ナル調査ヲ進メツツアリ今本年度施工ノ概況ヲ左ニ述ベン

下流部ニ於テハ前年度ニ引續キ土地買收協議ヲ進メ工事ハ鎌庭地先新河道開鑿工事ヲ續行シ土量六萬八千八十九立方米ヲ擧ゲ其他施工準備トシテ幅杭建設、各種調査測量竝ニ倉庫建設等ヲ爲シ尚大形村鎌庭地先ニ修理工場ヲ設置シ事業用諸機械類ノ修理製作ニ當ラシムル爲メ昭和三年七月ヨリ家屋ノ建設其他諸機械ノ据付等ヲ爲セシモ未竣功ニ終レリ

上流部ニ於テハ引續キ調節池堰堤築設箇所ノ地層試鑽ヲ施行シ殆ント完成セシメ且之ニ關聯セル調査モ大ニ進捗セシヲ以テ次年度ニハ用地ノ買收、運搬軌道ノ敷設其他ニ著手シ得ルノ域ニ達セリ

本年度竣功高ハ上下流ヲ通ジ二十八萬一千八百五十一圓ニシテ創業以來ノ累計ハ七十八萬九千二百九圓トナリ之レヲ總工費豫算千四百五十萬圓ニ比較スルトキハ五分强ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ船舶及機械費支辨製作品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費―浚渫費	立方米 一九、一一四	円 四、一一三	立方米 六八、〇八九	円 二六、八〇七	立方米 八七、二〇三	円 三〇、九二〇	割分 —
用地費	段 五二一	二三七、五八二	段 一五	五、二二三	段 五三六	二四二、八〇五	—
船舶及機械費	—	一四三、三五〇	—	八六、六二八	—	二二九、九七八	—
測量費	—	二五、二八八	—	二七、六六一	—	五二、九四九	—
營繕費	—	三三、三一一 △—	—	四四、八七七 △二、九三五	—	七八、一八八 △二、九三五	—
雜費	—	六一、六二六	—	八七、三九七	—	一四九、〇二三	—
共濟組合給與金	—	二、〇八八	—	三、二五八	—	五、三四六	—
總計	—	五〇七、三五八	—	二八一、八五一	—	七八九、二〇九	〇・〇五

本表竣功高ヲ更ニ上流ト下流トニ區別スレバ左ノ如シ

鬼怒川上流

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
船舶及機械費	立方米 —	円 四一、四五三	立方米 —	円 九、二二三	立方米 —	円 五〇、六七六	割分 —
測量費	—	一六、二五五	—	一六、六〇〇	—	三二、八五五	—
營繕費	—	七、八〇六 △—	—	四、七〇一 △六〇七	—	一二、五〇七 △六〇七	—
雜費	—	二〇、四五四	—	二四、六七三	—	四五、一二七	—
共濟組合給與金	—	四七五	—	六〇五	—	一、〇八〇	—
總計	—	八六、四四三	—	五五、八〇二	—	一四二、二四五	〇・〇五

鬼怒川下流

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費─浚渫	立方米 一九、一一四	円 四、一一三	立方米 六八、〇八九	円 二六、八〇七	立方米 八七、二〇三	円 三〇、九二〇	割分 〇・〇一
用地費	段 五二一	二三七、五八二	段 一五	五、二二三	段 五三六	二四二、八〇五	―
船舶及機械費	―	一〇一、八九七	―	七七、四〇五	―	一七九、三〇二	―
測量費	―	九、〇三三	―	一一、〇六一	―	二〇、〇九四	―
營繕費	―	二五、五〇五 △	―	四〇、一七六 △二、三二八	―	六五、六八一 △二、三二八	―
雜費	―	四一、一七二	―	六二、七二四	―	一〇三、八九六	―
共濟組合給與金	―	一、六一三	―	二、六五三	―	四、二六六	―
總計	―	四二〇、九一五	―	二二六、〇四九	―	六四六、九六四	〇・〇五

第三〇　大淀川改修工事

緒　　言

本工事ハ工費六百五十萬圓(內宮崎縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度ノ繼續事業トシテ施行スルモノニシテ其區域ハ幹川筋宮崎縣東諸縣郡倉岡村以下海ニ至ル約十四粁、支川本庄川筋同郡本庄町以下幹川合流點ニ至ル約十二粁及小支川深年川筋同郡本庄町以下本庄川合流點迄約二粁、合計二十八粁餘トス

河狀並計畫大要

大淀川ハ九州屈指ノ大河ニシテ幹川ハ其源ヲ鹿兒島縣囎唹郡末吉村金御嶽ニ發シ山麓ヲ南東ヨリ北西ニ向ッテ迂回シ宮崎縣北諸縣郡都城盆地ニ出デ都城市ノ西端ヲ北流シ萩原川、沖水川、横市川、安永川、東嶽川、高崎川ノ諸水ヲ容レ盆地ノ北隅ニ於テ轟ノ峽谷ニ入リ岩瀬川ヲ加ヘテ著シク流量ヲ增大シ東轉シテ鰐塚山脈北部ノ峽谷ヲ作リ迂餘屈折シテ東諸縣郡高岡町ニ至リ浦之名川ヲ容レ次第ニ山ヲ離レ東諸縣郡倉岡村ニ於テ本庄川ノ來リ注グニ會ヒ川ハ愈々大トナリ宮崎平野ヲ南東ニ流レ宮崎市ヲ貫キ宮崎郡赤江町ニ於テ日向灘ニ朝ス其流路約百二十六粁、大小支川七十八箇川ヲ合セテ約八百六十粁ヲ算ス

支川本庄川ハ其源ヲ熊本縣球磨郡黑原山ニ發シ山谿ヲ東南ニ流レテ宮崎縣東諸縣郡綾村ニ至リ綾南川ト合シ水量倍加シテ同郡本庄町地內ノ水田ノ間ヲ亂流シツツ同郡木脇村ニ於テ北ヨリ來レル東諸縣郡掃部嶽ヲ水源トセル深年川ヲ容レテ大淀川ニ注グ其流路約八十一粁ナリ

抑モ本流域ハ宮崎縣ノ南部ニ位シ西諸縣、東諸縣、宮崎、北諸縣ノ四郡、宮崎、都城ノ二市及鹿兒島縣贈於郡、宮崎縣兒湯郡、熊本縣球磨郡、鹿兒島縣始良郡ニ跨リ其面積二千百二十四平方粁（内山地一千二百十六平方粁、平地九百八平方粁）灌漑面積一萬七千ヘクタールニシテ上ハ都城市ヲ中心トセル肥沃ナル都城平野ヲ涵養シ下ハ宮崎市ヲ中心トシテ豐穰ナル宮崎平野ヲ灌漑スルノミナラズ此流域内ハ本邦有數ノ森林地帶ニシテ日向杉、日向樫ヲ始メ數多ノ良材ハ皆此大淀川ヲ利用シテ搬出セラレ宮崎市及河口赤江ハ其集散地ノ中心ナリ然ルニ本川流域タルヤ本邦ニ於ケル著名ナル多量降雨地ノ一ニ數ヘラレ宮崎市ノ平均年降水量ハ約二千六百粍、山嶽地方三千粍ヲ示シ而カモ八、九月ノ候ニ於テハ強烈ナル颱風屢々通過シテ之ニ伴フ豪雨著シク宮崎市ニ於テハ明治十九年九月二十四日ノ如キ降雨量四百九十粍ニ達シ大正五年九月二十二日ハ實ニ四時間ニテ二百七十七粍ヲ示セリ從ッテ出水量モ亦多大ニシテ一箇年内數度ノ洪水ヲ被ムルヲ常トス

然ルニ此地方ハ土地廣ク人煙亦稀薄ナリシニ依リ敢テ治水ノ業ニ從フモノナク從ッテ未ダ何等堤塘護岸ノ設ケナク全ク洪水ノ汎濫横溢ニ委スルノミナルヲ以テ一朝出水センカ宮崎、都城ノ兩市ヲ始メ沿川都邑ハ濁流ニ沒シ其汎濫面積五千三百五十ヘクタールニシテ其都度耕宅地ノ荒廢、道路橋梁ノ破壞流失等甚シク之レニ加フルニ一般産業交通衛生上等ノ損害ヲ計上スル時ハ其額尠カラザルモノアリキ殊ニ近年日豐鐵道ノ全通ヲ始メ本流域内外ニ於ケル諸種ノ交通機關ノ著シキ發達ハ、此地方ノ人口ト産業ニ異常ナル膨脹ト增進トヲ促シ從ッテ洪水ヨリ被ムル損害モ亦累年增加スルノ狀況トナレリ是レ本改修ノ計畫ヲ見ルニ至リシ所以ナリトス

本改修計畫ノ要旨ハ主トシテ洪水ノ汎濫ヲ防止シ其疏通ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ幹川ニ於

テハ大體倉岡村以下海ニ至ル間兩岸ニ新ニ堤塘ヲ築キ左支本庄川ハ河身不整ニシテ亂流甚シキガ故ニ著シク彎曲セル部分ハ河身ヲ改メ流身ヲ匡正シ堤塘ヲ設ケ又小支深年川ハ本庄川トノ合流點ノ位置不適當ニシテ其逆流甚シキヲ以テ本庄川河身ヲ附替ヘ合流點ヲ引下ゲ之レガ緩和ヲ計ルト共ニ築堤ヲ爲シ以テ洪水ノ汎濫ヲ防ギ其他全川ニ亙リ河積狹少ナル箇所ハ掘鑿ヲ施シテ洪水ノ快疏ヲ計リ必要ナル箇所ニハ護岸又ハ水制ヲ施行ス又支流ニシテ逆流ノ害アルモノハ樋門ヲ設ケテ其浸入ヲ遮斷シ且宮崎市ヨリ下流河底ニ沈積セル土砂ハ之ヲ浚渫シテ河積ノ增大ヲ計リ尙漂砂ニ依ル河口ノ變動ヲ輕減センガ爲メ突堤ヲ設クルモノトス

計畫高水量ハ幹川筋ニ於テハ本庄川合流點以上ヲ毎秒三千六百立方米、以下ヲ毎秒五千五百立方米トシ支川本庄川ハ小支深年川合流點以上ヲ毎秒二千立方米、以下毎秒二千二百立方米トシ深年川ハ毎秒四百立方米トス而シテ計畫洪水位ハ大體既往洪水ニ於ケル最高水位ヲ超過セシメザル樣之レヲ定ム

計畫河幅ハ幹川筋三百四十米乃至八百八十米、本庄川筋二百十米乃至二百七十六米、深年川筋九十五米乃至百三十米トス而シテ堤防標準斷面ハ天端幅下流七米、上流六米、表法二割、裏法二割五分トシ計畫高水位以下五十糎ノ處ニ幅三米五ノ小段ヲ設ク堤高ハ計畫高水位上一米五ヲ保タシムルモノトス

施工狀況

本工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ昨年度ニ著手セシ測量ハ本年度ニ於テモ引續キ施行シ年度末迄ニ改修區域全般ニ亙リ縱横斷測量ヲ一先ヅ完了シ尙一部分土地買收幅杭ヲ設置セリ別ニ本年度ヨリ新タニ河口附近ノ深淺、漂砂、潮流竝ニ下流部地質調査等ヲモ併セ行ヘリ其他從來設置セシ量水標ハ累年ノ洪水

ニ依リ殆ンド流失シ居リシヲ以テ川筋要所ニ新タニ量水標ヲ設置シ一方土工機械ノ購入等諸般ノ準備ヲ著々進行セシメタリ

土地買收ニ關シテハ昭和三年六月一日土地收用事務所ヲ開設シ直チニ諸般ノ調査ニ著手シ同年十二月第一次買收トシテ左岸宮崎市下水流町ヨリ同市下北方町戸林ニ至ル地先總段別三十町十一歩又昭和四年三月第二次買收トシテ左岸宮崎郡瓜生野村、東諸縣郡倉岡村ノ一部及右岸宮崎郡生目村ニ亙リ總段別七十六町一段九畝十八歩、合計百六町一段九畝二十九歩ノ買收協議ヲ開始シ年度内ニ第一次買收ニ於テ八割四分、第二次買收ニ於テモ八割四分ノ承諾ヲ得タリ

本年度竣功高ハ二十四萬二千二百二十一圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二十五萬五千八百六十一圓ヲ算シ六百五十萬圓ニ對シ四分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ評價品價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	段	円	段	円	段	円	割分
用地費	—	—	三〇四	一〇〇、八〇九	三〇四	一〇〇、八〇九	〇・〇八
船舶及機械費	—	三、六九四	—	一一四、二八五	—	一一七、九七九	—
測量費	—	四、五二一 ○—	—	八、七八六 ○五	—	一三、三〇七 ○五	—
營繕費	—	一、三四一	—	三三三	—	一、六七四	—
雜費	—	四、〇〇三 ○—	—	一七、五七四 ○四	—	二一、五七七 ○四	—
共濟組合給與金	—	八一	—	四三四	—	五一五	—
總計	—	一三、六四〇	—	二四二、二二一	—	二五五、八六一	〇・〇四

第三一　狩野川改修工事

緒　言

本工事ハ昭和二年度ヨリ同十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ總工費豫算六百三十五萬圓(内静岡縣負擔二百十九萬九千圓)ヲ以テ施行スルモノナリ而シテ其區域ハ幹川静岡縣田方郡修善寺町ヨリ海ニ至ル約二十六粁、支川黄瀬川筋駿東郡大岡村ヨリ合流點ニ至ル約一粁、合計二十七粁ノ間ナリトス

河狀竝計畫大要

狩野川ハ上流ヲ湯ケ島川ト云ヒ源ヲ天城、猫越兩火山ノ裾合谷ナル静岡縣田方郡上狩野村湯ケ島ニ發シ下田街道ニ沿フテ北ニ奔流スルコト二十二粁其間猫越川、船原川、修善寺川及大見川ヲ容レ同郡田中村ニ至リテ北方ニ開展セル一大平原ニ出ヅ之レヨリ更ニ北ニ向ツテ蛇行スルコト約十粁、同郡函南村ニ至リテ西北ニ流路ヲ轉ジ箱根山腹ヲ流下スル來光川、大場川、境川ノ諸支川ヲ併セ水量漸ク增加シ駿東郡清水村德倉ニ於テ高臺ノ間ニ入リテ西ニ向ヒ同村字長澤ニ至リテ右支黄瀬川ヲ合シ水量益々增大シ沼津市ニ至ルヤ南ニ急轉シ我入道ニ於テ駿河灣ノ東北隅ニ注グ其流路五十餘粁ナリ

支川黄瀬川ハ源ヲ富士山麓ナル同縣駿東郡玉穂村字中畑ニ發シ富士、愛鷹ノ兩火山ト箱根、大山トノ間ヲ南流シ大澤川ト蘆ノ湖ヨリ發スル深良川ヲ入レテ水量ヲ加ヘ清水村ニ於テ東海道ヲ横斷シ幹川狩野川ニ注グ其流路約三十二粁ナリ

本川ノ流域ハ静岡縣沼津市、駿東、田方ノ一市二郡ニ跨リ總面積八百五十三平方粁(内山地六百六十二平方

粁、平地百九十一平方粁）又支川黄瀬川ノ流域ハ駿東一郡ニシテ總面積二百八十一平方粁（内山地二百二十四平方粁、平地五十七平方粁）ヲ算ス而シテ之レガ流路ハ大小支川三十有七ヲ合シ四百十六粁、灌漑區域ハ三千四百九十ヘクタール、水害區域ハ三千七百九十ヘクタールナリ

本川ハ元ヨリ大河川ニアラズト雖モ沿川修善寺町以下耕地廣濶農桑牧畜ノ業夙ニ開ケ其流末ニハ沼津市ヲ擁シ河口ハ沼津港ニシテ伊豆沿岸交通ノ關門タリ加フルニ兩岸一帶ノ地風光明媚到ル所史料遺蹟ニ富ミ又諸所ニ温泉地帶ヲ控ヘ所謂東海ノ勝區ニ屬シ交通發達殷賑ヲ極ム然ルニ本川ノ水源地天城連山ハ本邦多雨ノ地域ニシテ上流湯ヶ島ニテ年雨量四千粍内外ニ及ビ夏秋ノ颱風ハ概ネ此附近ヲ通過スルヲ以テ暴風雨屢々起リ嘗テ上狩野ニ於テ日雨量二百八十粍ニ達シタルコトアリ而カモ一般ノ地質火成岩ナルヲ以テ豪雨到レバ忽チ洪水起リ修善寺、沼津間ノ沃野ハ濁流滿溢シテ慘狀ヲ極ム就中大正九年ノ大出水ノ如キハ損害二百四十萬餘圓ニ達シ死傷者モ亦尠カラザリキ

本川改修計畫ノ要旨ハ洪水ニ因ル各種ノ損害ヲ防止シ併セテ沿岸耕地ノ排水ヲ良好ナラシメントスルモノニシテ本計畫ニ於テハ高水流量ハ幹川狩野川改修起點ニ於テ每秒一千七百立方米、以下漸次增大シ黄瀬川合流點上流ニ於テ二千七百立方米、黄瀬川合流點以下ニ於テ三千五百立方米トシ又支川黄瀬川ニテハ八百四十立方米トセリ

河幅ハ狩野川ニテ百四十米乃至二百三十五米、黄瀬川ニテハ百米乃至百二十米トス、而シテ右岸ハ大體川ニ沿ヒ新ニ堤防ヲ設ケ左岸ハ所々斷續シテ築堤ヲ施シ大平村地內舊堤ノ一部ヲ補強利用スルノ外悉ク新堤ナリ尙同村地先河身ノ大屈曲部ハ捷路ヲ開鑿シテ直通セシメ又墹ノ上及德倉ノ狹隘部ハ掘鑿ヲ施シテ河積ヲ增大シ以テ洪水ヲ快通セシムルト同時ニ高水位ノ低下ヲ圖レリ而シテ下流沼津市內ノ地域

ハ概シテ河幅過小ナルニ依リ之レヲ擴張シテ新ニ堤防ヲ築キ堤外地ノ掘鑿ト低水路ノ浚渫トニ依リ適當ナル流積ヲ與フルト共ニ併セテ舟運ノ利便ヲ圖ルモノナリ尚支川黃瀬川ハ其流末右岸ニ堤防ヲ設ケテ耕地ヘノ汎濫ヲ防ギ又各小支川及惡水路ニ對シテハ地勢ニ應ジテ或ハ卷込堤ヲ築キ或ハ樋門ヲ設ケ其他沿川必要ナル箇所ニハ夫々護岸若クハ水制工ヲ配置シテ亂流及河岸ノ崩壞ヲ防ギ河口ニハ突堤ヲ施設シテ河口ノ變動ヲ防グモノトス

堤防ハ天端幅六米、表法二割、裏法二割五分、天端高ヲ計畫高水位以上一米五十糎トシ裏法ニハ天端ヨリ二米ヲ下リ幅三米ノ小段ヲ設クルヲ標準トス

施工狀況

本改修工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ諸般ノ調査及實施測量ヲ爲シ狩野川筋左岸ニ於テ沼津市、清水村、大平村、江間村、川西村地内ノ各一部、右岸ニ於テ大岡村、清水村、中郷村、函南村、韮山村ノ各一部ニ法線ヲ設定セリ而シテ昭和三年四月一日狩野川改修事務所内ニ土地收用事務所ヲ設ケ爾來調査進捗シ第一次買收トシテ沼津市上香貫地内左岸ノ土地六町二段歩餘ニ對スル買收協議ヲ開始シ既ニ年度内ニ於テ一部ノ承諾ヲ得タリ其他土工器械ノ購入倉庫ノ建設等諸種ノ準備ヲ爲シタリト雖モ用地ノ關係上未ダ工事著手ニ至ラザリキ

本年度ニ於ケル竣功額ハ六萬八百十一圓ニシテ前年度ト合シ七萬四千四萬三十一圓トナル之レヲ總工費六百三十五萬圓ニ比スレバ約一分ナリ其竣功表左ノ如シ

費目	前前年迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	—段	—円	一〇段	二八、七三〇円	一〇段	二八、七三〇円	—割分
船舶及機械費	—	六、一九二	—	一三、五二六	—	一九、七一八	—
測量費	—	三、一二九	—	五、〇七三	—	八、二〇二	—
營繕費	—	一、一一七	—	二、二二三	—	三、三四〇	—
雜費	—	三、一〇一	—	一〇、九四三	—	一四、〇四四	—
共濟組合給與金	—	八一	—	三一六	—	三九七	—
總計	—	一三、六二〇	—	六〇、八一一	—	七四、四三一	〇・〇一

第二章　河川附屬物及水路維持工事

第一　木曾川附屬物及水路維持工事

緒言

木曾川附屬物及水路維持工事ハ明治三十五年度ヨリ毎年工費三萬圓ヲ以テ維持修繕ヲ爲スコトトシ明治四十年度ヨリ大正十八年度ニ至ル二十三箇年度繼續事業トシテ年々工費三萬圓總工費六十九萬圓ヲ以テ更ニ維持ヲ爲スコトトナリシガ爾後諸物價暴騰ノ爲メ當初豫算ニテハ維持困難トナリシヲ以テ大正九年度以降毎年度五萬四千圓、總工費九十三萬圓トナリ更ニ大正十一年度ハ九萬六千圓、總工費九十七萬二千圓ニ増額シ大正十二年度以降ハ毎年度九萬六千圓、總工費百七十四萬六千圓トナリ大正十三年度以降年度割額更正ノ爲メ四萬八千圓減額トナリ毎年度八萬四千圓、總工費百六十九萬八千圓トナリ繼續年度ヲ昭和十年度迄延長シタルヲ更ニ年度割額更正ノ爲メ十四年度ヨリ毎年度八萬圓總工費百六十九萬八千圓トナリ昭和十一年度迄延長シタリ而シテ維持ノ目的物ハ左ノ如シ

一成戸、船頭平間木曾川長良川兩川瀬割堤

一油島締切堤防ヨリ桑名町地先長良、揖斐兩川瀬割堤

一以上瀬割堤防ニ直接關聯セル護岸及水制

一船頭平閘門及前後附屬物

一木曾川河口導水土堤及石堤

一　揖斐川河口導水土堤及石堤

一　揖斐川流末低水敷

施工状況

本年度施行ノ工事ハ前年度ヨリ繰越シタル日原地先堤防補修工事、上立田及立田間水制修繕工事、上立田地先護岸水制新設工事下立田地先水制修繕工事ノ四箇所ハ之ヲ竣功セシメ本年度新ニ著手シタル閘門長良川水路浚渫工事、下立田地先水制修繕工事、下立田地先水制増補工事、日原地先新設護岸工事、閘門修繕工事ノ五箇所ハ竣功セシメ前年度ヨリ繰越シタル第二楠村堤防補修工事及本年度新タニ著手シタル立田地先新設護岸工事ノ二箇所ハ未竣功ノ儘次年度ニ繰越セリ

船頭平閘門ノ状況ハ本年度ニ於ケル通航數ヲ示セバ大船（六十石積以上）四千四百六十二隻、中船（六十石積未滿）一千五百三十六隻、小船（二十石積未滿）四千六百三十六隻、合計一萬六百三十四隻外ニ木竹筏（一組長九米乃至十三米、幅約一米八乃至四米二）二千四百四十六組通過セリ而シテ閘門扉塗替ノ爲メ昭和三年十一月二十一日ヨリ同年十二月二十日迄三十日間舟筏ノ通航ヲ停止シタリ

本年度維持工事竣功額ハ七萬七千七百六十一圓ニシテ起工以來ノ累計百八萬三千四十四圓トナリ總工費百六十九萬八千圓ニ比スレバ六割四分ノ竣功トナル其工事竣功表左表ノ如シ但シ表中「*」ハ保管換品價額ナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	

本工事費　水制	—	二六三、六五九円	—	三一、四八〇円	—	二九五、一三九円	— 割分
本工事費　護岸	—	六五、三三九	—	五、五三五	—	七〇、八七四	—
本工事費　堤防	—	二二一、七六九	—	二一、七八六	—	二四三、五五五	—
本工事費　導水堤	—	六五、五〇〇	—	—	—	六五、五〇〇	—
本工事費　浚渫	—	五五、八四九	—	四〇九	—	五六、二五八	—
本工事費　閘門	—	四九、五六二	—	一、九四七	—	五一、五〇九	—
本工事費　假設工	—	六、一〇六	—	—	—	六、一〇六	—
船舶及機械費	—	六六、七七二	—	二、四二三	—	六九、一九五	—
測量費	—	※二四、二六六 一八	—	※—六〇八	—	※二四、八七四 一八	—
營繕費	—	一九、三二八	—	七〇六	—	二〇、〇三四	—
雜費	—	一六五、〇五一	—	一二、三六〇	—	一七七、四一一	—
共濟組合給與金	—	二、〇八二	—	五〇七	—	二、五八九	—
總計	—	※一、〇〇五、二八三 一八	—	※—七七、七六一	—	※一、〇八三、〇四四 一八	〇・六四

第二　淀川附屬物及水路維持工事

緒言

淀川改良工事ハ明治四十三年度ニ於テ竣功ヲ告ゲ堤防其他ノ工事ハ夫々所屬府縣ニ引繼ヲ了セルモ同川筋一部ノ築造物即チ瀬田川洗堰、毛馬洗堰、毛馬第一閘門、六軒屋閘門、傳法閘門、西島閘門、正蓮寺川締切堰堤ニ對シテハ本省ニ於テ直接管理ノ任ニ當リ明治四十四年度以降大正十七年度ニ至ル十八箇年度ニ亙リ每年度一萬一千圓總豫算十九萬八千圓ヲ以テ之レガ維持修繕ヲ行フコトトナリシガ大正五年四月工費一萬一千圓ノ增額ト共ニ年限一箇年度ヲ延長セラレ尚大正七年度ニ至リ淀川下流改修工事ニテ竣功シタル毛馬第二閘門、長柄起伏堰ト毛馬第一、第二兩閘門前後ノ水路維持ヲモ行フコトトナリタルニ依リ每年度二萬五千圓ニ改定シ豫算總額ヲ三十七萬七千圓トシ翌八年度ニ於テ長柄運河頭部開閉扉ノ維持ヲ加ヘラレ又大正十年度ニ於テ物價騰貴ノ爲メ每年度四萬圓ニ改メ豫算總額五十一萬二千圓ヲ以テ維持ヲ行フコトトナリシガ大正十一年度ヨリハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル傳法第二閘門及六軒屋洗堰竝ニ「サイホン」ヲ更ニ管理セラルル事トナリタルト堰桁ノ取替、其他ノ修繕ト毛馬閘門前後航路ノ浚渫ヲ爲ス爲メ二萬圓ヲ要スルト大正九年度ニ高梁川ヨリ流用セシ一萬三千五百圓ヲ返還スル爲メ大正十一年度ニ三萬三千五百圓ヲ增額セラレタリ又大正十二年度ハ淀川下流改修工事ニテ竣功セル六軒屋第二閘門ヲ追加セラレタルト閘門及洗堰ノ大修理ヲ要スル爲メ年度割額四萬圓ノ外四萬二千六百圓ヲ增額セラレ尚十三年度ハ六萬圓、十四年度以降昭和十年度迄ハ各七萬六千圓宛ニ最終年度昭和十一年度ハ

四萬四千圓ニ改メ豫算總額百二十八萬八千百圓(昭和元年度以降七十二萬八千圓)トナリ年限モ亦昭和十一年度迄延長セラレタリ而シテ本費ハ元全部國費ヲ以テ支辨シ來リシガ大正十二年度以降ハ關係地方ニ其費用ヲ負擔セシメラルル事トナリ國費六十二萬二千二百圓、地方費六十六萬五千九百圓ノ割合トナレリ

是レ等附屬物維持ノ目的ヲ達スル爲メ滋賀縣栗太郡下田上村大字黒津ニ瀨田川看守場、大阪市東淀川區北長柄濱通ニ淀川看守場ヲ設置シ各擔當技術者ヲ配置シ專用電話ヲ備ヘテ通信ヲ敏活ナラシメ又各所ニ量水標ヲ設ケテ水位ノ觀測ヲ行ヒ尙降雨ノ際ニハ水源地方ニ於ケル雨量觀測所及森林測候所ヨリ電報ヲ以テ雨量ノ報告ヲ受ケ洪水ニ際シテ起ルベキ水位ヲ豫知シ以テ被害ノ輕減ニ努メ又渇水時ニ際シテモ常ニ灌漑ト航運トニ支障ナキ流量ヲ持續スル樣調節ヲ行ヒツツアリ

正蓮寺川堰堤ハ大阪府ニテ施行セシ中津川改修ノ結果大正十二年九月公用ヲ廢止シタリ

施工狀況

施工ノ主ナルモノハ前述ノ如ク閘門及洗堰、起伏堰其他ノ開閉修繕及航路維持ノ爲メ浚渫ヲ行ヒ本年度ニ在リテハ長柄床固水制工、長柄起伏堰水叩、下流第三床固工、瀨田川洗堰々桁及鐵筋混凝土堰板ノ修繕ヲ行ヘリ

本年度竣功額ハ八萬九百五十九圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計ハ七十萬一千六百九十圓ナリ之レヲ既定豫算百二十八萬八千百圓ニ比較スルトキハ約五割四分ノ竣功トナル而シテ其工事竣功高ハ左ノ如シ但シ表中「〇」ハ無償品評價額ヲ示ス

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	閘門及洗堰開閉	—	円 二三五、一四二	—	円 二一、三七五	—	円 二五六、五一七	割分 —
	同修繕	—	○ 一七五、三一〇 一、七九三	—	○ 三三、三〇二 三	—	○ 二〇八、六一二 一、七九六	—
	浚渫	—	一五、七四六	—	—	—	一五、七四六	—
	亡失毀損	—	—	—	四七八	—	四七八	—
船舶及機械費		—	一七、〇四三	—	二、三一〇	—	一九、三五三	—
測量費		—	七三、五二四	—	四、四五三	—	七七、九七七	—
營繕費		—	○ 二四、八〇三 二八	—	○ 二、三六〇 —	—	○ 二七、一六三 二八	—
雜費		—	七二、九〇〇	—	一五、三六五	—	八八、二六五	—
共濟組合給與金		—	六、二六三	—	一、三一六	—	七、五七九	—
總計		—	六二〇、七三一	—	八〇、九五九	—	七〇一、六九〇	〇・五四

第三 利根、渡良瀨兩川維持工事

緒言

本工事ハ當初大正十二年度ヨリ昭和九年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシ工費四百一萬四百圓ヲ以テ利根川幹川筋並渡良瀨川下流部ニ於ケル維持修補ヲ施行ノ豫定ナリシガ大正十三年度ニ至リ工費二萬三千圓ヲ增額シ施行年限ヲ昭和十一年度迄延長シ更ニ昭和元年度ヨリ利根川ノ派川江戸川並ニ渡良瀨川上流部ヲ併セ施行スルコトトシ工費百八十四萬一千四百圓ヲ增額シ總工費ヲ五百八十七萬四千八百圓ニ改メ施行スルコトトセリ

其區域ハ利根幹川筋群馬縣佐波郡芝根村以下左岸茨城縣鹿島郡矢田部村右岸千葉縣海上郡椎柴村ニ至ル約百八十一粁及派川江戸川流頭以下千葉縣行德町地先海ニ至ル五十九粁並支川渡良瀨川筋栃木縣足利郡毛野村以下茨城縣猿島郡新鄕村大字中田地先利根川合流點ニ至ル三十五粁、計二百七十五粁ノ間ナリトス

兩川改修工事ハ大正十一年度迄ニ八、九歩通リ竣成(渡良瀨川ハ同十五年度竣功)シ水路ノ矯正、堤塘ノ連續等相俟テ河狀整齊シ復タ往年ノ慘害ヲ見ザルニ至レリト雖モ既成部ニ於ケル工作物ハ其竣功古ク堤塘ノ沈下、護岸及水制ノ破損等相當多ク是等ハ年ト共ニ加ハリ其儘放置スルトキハ遂ニハ昔日ノ險惡ナル狀態ニ戻リ所謂九仭ノ功ヲ一簣ニ缺クノ虞ナシトセズ且其利害ノ及ブトコロ數府縣ニ跨リ重大ナル關係アルヲ以テ之レガ維持上常時修補ノ緊切ナルヲ認メ第四十七議會ノ協贊ヲ經テ前記ノ如ク施行スルコトトナレリ

施工狀況

工事施行ニ關シテハ當初利根川第二期、同第三期竝渡良瀨川各改修事務所ニ於テ分擔施行スルコトトシ派出所及所要器具機械ハ各改修用ノ一部ヲ其儘使用シ得ルノ便宜ヲ有シタルヲ以テ大正十二年八月ヨリ工事ヲ施行シ來リシガ昭和元年末ヨリ江戸川改修事務所ニ於テ其部內ヲ施行スルコトトナリ同年度末渡良瀨川改修工事ノ竣功ニ伴ヒ埼玉縣栗橋町ニ利根渡良瀨兩川維持事務所ヲ設置シ利根川第三期部內及渡良瀨川ノ維持工事ヲ統轄施行スルコトトセリ今各工區別ニ本年度施工ノ狀況ヲ述ベン

利根川第二期部內ニ於テハ左岸布川、金江津、佐原、右岸湖北、布鎌、神崎、東大戸、佐原、津宮各町村地先十五箇所ニ於テ堤防ノ破缺、沈下或ハ崩壞等ノ修補ヲ施行シ護岸ハ左岸十余島、右岸安食ノ兩町村地先ニ於テ石張二百五十一平方米及床均五十平方米ヲ施行シ延長百四十五米ヲ竣成セシメ水制ハ左岸小文間、右岸布佐、安食、神崎、東大戸ノ各町村地先ニ於テ下埋二百立方米、取除床均二千六百六十七平方米、沈床二千二百六十平方米、蛇籠上置（幹部）百四十六米、詰石上置（頭部）三百十八米、根固石張八十八平方米ヲ施行シ延長八百二十八米ヲ竣成セシメタリ

特種工事タル横利根閘門ハ大正十年三月竣功シ其後相當年月ヲ經過セルヲ以テ大小門扉八組ノ金具取替及同ペンキ塗替ノ必要ヲ認メ前年度起工シ小門扉一組ヲ取替ヘ本年度續工シテ殘七組ノ取替ヲ完成シ塗替ハ之ヲ翌年度ニ繰越シタリ尚同閘門管理費本年度支拂高（雜費支出）ハ五千二百一圓トナレリ

利根川第三期部內沼ノ上、赤岩間ニ於テハ名和、仁手、藤田、永樂、大川ノ各村地先堤防小修補延長二千五百八十米ヲ施行セリ此區間ハ利根川ノ急流部ナルヲ以テ護岸水制ノ破損多ク內旭村山王堂地先舊水制頭部

ノ破損箇所ハ鐵筋材方格枠ヲ以テ修補シ世良田、島兩村入會地ノ既設床固水制ハ河床ノ低下ニ伴ヒ大破セルヲ以テ鐵筋材合掌枠ニテ修補シ且頭部トシテ沈枠ヲ附シ永樂村大字舞木地先ハ堤外地ノ崩壞ヲ防グ爲メ法面ヲ石張トシ床固ニ鐵筋材合掌枠ヲ設置スルコトトシ前者ハ六歩通リ、後者ハ全部竣功シ又島村及尾島町地先ニハ柳籠ヲ施工セリ

其他芝根、名和、仁手、豐受、剛志、旭、島、尾島、澤野、大川、妻沼ノ各町村地先ノ既設護岸ハ何レモ水衝リ强ク且施工後既ニ十年ヲ經根固及床固破損セルヲ以テ夫々修補セリ

赤岩、境間ニ於テハ右岸大越、左岸新郷ノ兩村地先堤防嵩置工事ヲ前年度ニ續工竣功セシメ富永、村君、利島ノ各村地先ニ於テハ馬踏ノ沈下ヲ修補シ大箇野村地先ハ川裏堤脚ニ力杭ヲ打チテ漏水ヲ防止セリ又中田及川妻地先掘鑿跡ハ前權現堂川ガ分派セシ關係上土砂ノ堆積著シク流水疏通ヲ妨グルコト大ナルヲ以テ掘鑿ヲ施工シ低水法線内ニ突出セル箇所ハ之ヲ除却シ前者ハ六歩通リ、後者ハ全部竣功セリ

護岸ハ佐貫、須賀、川俣、大箇野、川邊ノ各村地先新舊石張ヲ修補シタル外村君、千江田ノ兩村地先ニ於テ柳枝工ヲ施行シ水制ハ前年度起工ニ係ル江口、梅原、大越ノ各地先ヲ竣成セシメ佐貫、利島、新郷ノ各地先ハ堤脚及護岸脚部ヲ防禦工事ヲ施行シ大箇野、原道、五霞ノ各村地先ハ水路矯正ノ爲メ鐵筋材合掌枠、同杭打上置等ノ新水制ヲ目論見外ニ利島及川邊兩地先既設水制ヲ修補セシガ原道地先ノ外全部未竣功ニ終レリ低水路維持ニ關シテハ原道、五霞及香取各地先ノ既設水制九箇所ヲ杭打上置、上層及沈床ニテ修補シ舊逆川口附近ハ江戸川流頭工事ニ依リ河狀一變シタルヲ以テ鐵筋材杭打、上置及上層ニテ水制修補四箇所ヲ施行セリ境、取手間ニ於テハ關宿町及中川七郷兩村地先堤防滲透湧水セルヲ以テ川裏小段ヲ擴築シ又ハ腹付ヲ爲シ高野村羽中及關宿町地先ノ各堤防ハ馬踏ノ嵩置ヲ施工セリ

此區間ニ於テハ努メテ低水路ノ維持矯正ヲ計リ上流關宿、二川、猿島ノ各町村地先ニ於テハ水制幹部ヲ鐵筋材杭打上置又ハ杭打上置ニテ九箇所ヲ施工シ川間村地先ハ杭打上置、七鄕村地先ハ合掌枠ヲ施工シ川岸ノ崩壞ト深掘トニ備ヘ下流田中、富勢、高野、稻戶井ノ各地先ハ航路ノ改善ヲ主トシ水制頭部ヲ幹部ト竝ビ施工シ鐵筋材杭打上置、枠打上置及合掌枠ニテ十一箇所ヲ修補セリ

江戶川部內ニ於テハ關宿水堰一部ノ修補ヲ施工シタルニ止マリ其他ハ材料購入及關宿閘門ノ管理ヲ施行セシニ過ギズ

渡良瀬川上流部ニ於テハ流水ノ疏通ヲ良好ナラシメンガ爲メ植野村船津川及界村高山地先ニ於テ低水路ノ一部附替ヲ施行シ前者ハ竣功シ、後者ハ、約三步通リヲ竣成セリ

築堤ハ毛野村地先ニ於テ馬踏ノ沈下ヲ補足シ尙同村及久野、植野、西谷田各村地先ニ於ケル前小段ヲ增築シ三鴨村鳥谷崎地先ノ修補ヲ施行セリ

護岸ハ久野村川耕地、大島村、西谷田村西岡及除川各地先ニ於ケル石張及鐵筋材合掌枠、同中聖牛ヲ前年度ニ續工竣功セシメ梁田、高山兩地先ニ於テハ堤外地ノ崩壞ヲ防止スル爲メ柳籠護岸竝ニ根固及床固ヲ併セ施工シ前者ハ全部、後者ハ六步通リヲ竣功セシメ梁田村福富及西谷田村西岡新田ノ兩地先ハ低水路屈曲シ水衝强キヲ以テ合掌枠又ハ中聖牛ヲ設置シ前者ハ之ヲ竣成セシメタリ其他福富、奧戶、下羽田、鶴ノ木、上野田及早川田、船津川、西岡新田ノ各地先八箇所ニ於テ法石張、沈床、床固等ノ小修補ヲ施工セリ

下流部ニ於テハ部屋、古河、新鄕ノ各町村地先堤防ノ沈下箇所ニ嵩置ヲ施工シ尙古河町地先堤防ノ川裏堤脚ニ枠柵ヲ施工セリ藤岡新川低水路敷ハ年々低下シ既設床止流失セシヲ以テ包柴工ヲ沈設シ尙兩岸石張根固ノ捨石ヲ補充セシガ新川高水敷モ亦洪水每ニ洗掘セラルルヲ以テ其甚ダシキ部分ハ埋土及石張

ヲ施工シ新川落口ノ防護工ハ前年度ニ續行シ年度内新堀吐口ノ石張護岸ヲ竣功セシメ游水地沿岸ハ渡良瀨、思合流點ニ延長百八十米ノ枠柵工ヲ新設シ其他柳枝工ノ大栽植及既設杭柵工、柳工竝ニ柳栽植ノ手入ヲ爲セリ

石材斫出及砂利採集兩事業ハ當初利根川改修工事ニ使用スル石材及砂利ヲ供給スル目的ヲ以テ國ノ直營トシ前者ハ大正五年度栃木縣下都賀郡小野寺村ニ岩舟工場ヲ設ケ其裏山ヨリ斫出ヲ、後者ハ同九年度ヨリ同縣同郡穗積村地先思川筋砂利洲ヨリ採集ヲ開始セシガ同改修工事モ略完成ニ近ヅキタル結果是等材料ノ需要漸ク減少セルト他方維持工事ニ要スルモノ增加セル關係上前年度ヨリ本工費ヲ以テ之ヲ繼承操業シ年度内石材八千百六十七立方米ヲ斫出シ砂利五千百九十立方米ヲ採集セリ

本維持工事本年度ノ竣功高ハ四十六萬六千六百九十九圓ニシテ創業以來ノ累計ハ二百二十三萬三千百二十一圓トナリ之ヲ總工費豫算五百八十七萬四千八百圓ニ比較スルトキハ約三割八分ノ竣功ナリトス

其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「△」ハ船舶及機械費製作品價額「×」ハ材料採集費支辨石材及砂利價額「▲」ハ提供材料及勞力費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
本工事費 築堤	立方米 六五四、六四三	円 二九四、〇八五 ▲二三、七三〇	立方米 一一四、二〇〇	円 四五、五二一 ▲八、九四〇	立方米 七六八、八四三	円 三三九、六〇六 ▲三二、六七〇	割分 —
浚渫	一二四、三八六	三〇、六六一 ▲一、六九一	一二九、二一八	二〇、三四九 ▲四、三七一	二五三、六〇四	五一、〇一〇 ▲六、〇六二	—
護岸水制	米 五二、二五七	九六七、八五一 ▲×二五、二八五	米 一〇、九七九	一八一、七五八 ▲×二七、五八〇 一、〇五三	米 六三、二三六	一、一四九、六〇九 ▲×五二、八六五 一、〇五三	—
特種工事	箇所 一	二八三	箇所 二	二、〇二八	箇所 三	二、三一一	—
材料採集費	—	五五、一三四	—	七六、八〇九	—	一三一、九四三	—

費目	前年度迄竣功高 金額	前年度迄竣功高 數量	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
船舶及機械費	—	△ 五六、四一一円 二四七	—	△ 一七、一七五円 一四	—	△ 七三、五八六円 二六一	— 割分
測量費	—	一六、七四四	—	六、三六六	—	二三、一一〇	—
營繕費	—	二七、九四四	—	一五、八二八	—	四三、七七二	—
雜費	—	三〇三、八四二	—	九六、二三三	—	四〇〇、〇七五	—
共濟組合給與金	—	一三、四六七	—	四、六三二	—	一八、〇九九	—
總計	—	▲ 一、七六六、四二二 二五、四二一	—	▲ 四六六、六九九 一四、三六四	—	▲ 二、二三三、一二一 三九、七八五	〇・三八

本表ノ本工事費竣功高ヲ細別スレバ左表ノ如シ

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
二期部内	築堤	五七、九九九立方米	三八、八三三円	一二、〇二九立方米	九、五五七円	七〇、〇二八立方米	四八、三九〇円	— 割分
	浚渫	七、二三〇	四、八一六	—	—	七、二三〇	四、八一六	—
	護岸水制	五、九九一米	一六八、二二四	九七三米	一二、一七七	六、九六四米	一八〇、四〇一	—
	特種工事	一箇所 未竣功	二八三	一箇所 未竣功	一、八二八	一箇所 未竣功	二、一一一	—
	計	—	二一二、一五六	—	二三、五六二	—	二三五、七一八	—
三期部内	築堤	五一四、二八二立方米	▲ 二二一、五九五 一六、九三二	四二、七一一立方米	▲ 一八、〇三四 二、七四〇	五五六、九九三立方米	▲ 二三九、六二九 一九、六七二	—
	浚渫	八五、六五六	▲ 一七、九八五 —	八五、一〇六	▲ 一二、九二〇 二、三二四	一七〇、七六二	▲ 三〇、九〇五 二、三二四	—
	護岸水制	四〇、七二九米	▲× 六九一、六八八 一〇、四九五 —	七、五二二米	▲× 一二三、六一〇 二〇、七〇五 五五三	九八、二五一米	▲× 八一五、二九八 三一、二〇〇 五五三	—
	計	—	▲ 九三一、二六八 一六、九三二	—	▲ 一五四、五六四 五、六一七	—	▲ 一、〇八五、八三二 二二、五四九	—

	江戸川部内 特種工事	渡良瀬部内 築堤	渡良瀬部内 浚渫	渡良瀬部内 護岸水制	計
	未竣功				
箇所 / 立方米 / 米	箇所 一	立方米 八二、三六二	三一、五〇〇	米 五、五三七	一
		▲	▲	▲×	▲
	一	三三、六五六 六、七九八	七、八六一 一、六九一	一〇七、九三九 一四、七九〇	一四九、四五六 八、四八九
	未竣功				
箇所 / 立方米 / 米	箇所 一	立方米 五九、四六〇	四四、一一二	米 二、四八四	一
		▲	▲	▲×	▲
	二〇〇	一七、九三〇 六、二〇〇	七、四二九 二、〇四七	四五、九七一 六、八七五 五〇〇	七一、三三〇 八、七四七
	未竣功				
箇所 / 立方米 / 米	箇所 一	立方米 一四一、八二三	七五、六一二	米 八、〇二一	一
		▲	▲	▲×	▲
	二〇〇	一五一、五八六 一二、九九八	一五、二九〇 三、七三八	一五三、九一〇 二一、六六五 五〇〇	二二〇、七八六 一七、二三六
	一	一	一	一	一

第四　信濃川維持工事

緒　言

本工事ハ昭和二年度ヨリ昭和六年度ニ至ル五箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費八十七萬六千四百圓(一箇年度十七萬五千二百八十圓)ヲ以テ新潟縣三島郡大河津地內ニ於ケル信濃川附屬物即チ自在堰、固定堰、洗堰及閘門ノ維持竝ニ新潟市內通船川合流點以下海ニ至ル水路ノ維持ヲ爲スモノトス

施工狀況

大河津分水附屬物維持

固定堰修理工事　本工事ハ前年度ヨリ繼續施行ノモノニシテ年度內ニ粗朶沈床六百七十平方米、鐵線籠二百六十三本、杭打一千八百三十一本、捨石三千三百六十九立方米ヲ竣功セリ

採石工事　前記工事ニ使用スル割石ヲ寺泊町大字野積海岸ニ於テ採取シ二十噸機關車ヲ以テ運搬配給シタルモノニシテ年度內ニ一千二百六十二立方米ヲ採取シタリ

自在堰、洗堰及閘門運轉　本年度ニ於テハ閘門ハ之ヲ開放シテ船舶ノ自由航行ヲ許シ自在堰亦殆ンド運轉セズ僅カニ洗堰ノ一部ヲ開閉セルニ過ギズ

河口維持

浚渫工事　本工事ニハ吸揚浚渫船大阪丸、浦賀丸ノ二隻竝ニバケツト式浚渫船榛名號一隻ヲ使用セリ大阪丸及浦賀丸ハ主トシテ所々ニ點在セル淺瀨ヲ浚渫シ榛名號ハ西突堤燈臺沖ヨリ上流ニ向ケ航路幅員八十米、水深七米五ヲ標準トシテ浚渫シ昭和三年十二月末迄ニ延長約一千六百米ヲ浚渫シ續テ繫船浮標

ヨリ北埠頭ニ向ケ航路ノ浚渫ヲ爲シ本年度内ニ於テ合計四十六萬五百六立方米ヲ浚渫セリ

然ルニ冬期間ニ於テ屢々襲來セル激浪殊ニ昭和三年一月一日ヨリ同三日ニ亙ル稀有ノ大暴風ハ其最大風速實ニ三十一米ニ達シ之レニ伴フ激浪ハ恰モ海嘯ノ如クニシテ東突堤沖合ニ堆積セル土砂ヲ攪亂シ侵入セシムルト共ニ河口内ノ淺瀬ヲモ攪亂シ更ニ東突堤ノ一部ヲ破壞シ以テ隣接海岸延長約九百米、幅約百米間ニ於ケル土砂ヲ浸蝕攪亂シ河口内ニ流入セシメタルヲ以テ下流部航路ハ其水深竝ニ幅員ヲ著シク減ジタリ之レガ復舊ニ浦賀丸ヲ以テ極力浚渫セシメタルモ遂ニ年度末ニ於テ東突堤頭部前後約百二十米間ハ其水深五米二ニ低下スルニ至レリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ十七萬三百九十七圓ニシテ累計四十一萬五千九百五圓トナレリ之レヲ總工費八十七萬六千四百圓ニ比スレバ四割七分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目		前年度迄竣功高 數量（立方米）	前年度迄竣功高 金額（円）	本年度竣功高 數量（立方米）	本年度竣功高 金額（円）	合計 數量（立方米）	合計 金額（円）	竣功歩合（割分）
本工事費	浚渫	三四〇、一〇一	五六、七九三	四六〇、五〇六	六六、七四四	八〇〇、六〇七	一二三、五三七	〇・二七
	堰堤捨石	一、七六六	五九、八九九	—	—	一、七六六	五九、八九九	—
	固定堰修理	—	—	—	二三、八四二	—	二三、八四二	—
	自在堰、洗堰及閘門運轉	—	五八四	—	三八〇	—	九六四	—
	採石	二〇、九〇五	二七、八二四	一、二六二	二、六二五	二二、一六七	三〇、四四九	—
	材料運搬	—	七、八三〇	—	—	—	七、八三〇	—
船舶及機械費		—	三九、二九七	—	四二、六九二	—	八一、九八九	—
測量費		—	一、二〇二	—	一、二八五	—	二、四八七	—
營繕費		—	一、五八二	—	一、三七八	—	二、九六〇	—

雜費	—	四八、五二三	—	二九、〇一三	—	七七、五三六	—
共濟組合給與金	—	一、九七四	—	二、四三八	—	四、四一二	—
總計	—	二四五、五〇八	—	一七〇、三九七	—	四一五、九〇五	〇・四七

第三章　砂防工事

第一　淀川流域砂防工事

緒言

本工事ハ淀川流域全體ニ亙リ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年度ヨリ十箇年度繼續事業トシテ毎年工費三萬圓ヲ以テ主トシテ淀川流域中木津、瀬田ノ兩支川流域ニ於テ施行スルコトトナリ其後兩度ニ之レヲ追加延長シテ昭和四年度ニ至ル二十三箇年度ノ繼續事業トシ總工費豫算六十九萬圓ヲ以テ施行中ナリシガ昭和二年度ヨリ木津川流域分ハ別途豫算ヲ以テ施行スルコトトナリシヲ以テ本工事ハ從來ノ通リ年額三萬圓ヲ以テ施行ス

施工狀況

本年度工費ハ既定年額三萬圓ヲ以テ本川流域内下田上、雲井(滋賀縣内)ノ二工場ニテ施行シ其竣功セル兀崩面積ハ新設一六ヘクタール五五ニシテ之レニ對スル本工事費二萬三千二百二十六圓(一アール平均十四圓三錢)修繕工事費百九十二圓、合計二萬三千四百十九圓ナリ

今明治四十年度以降ノ工事竣功額ヲ掲グレバ五十六萬四千三百六圓ニシテ之レヲ關係府縣ニ區別スレバ左表ノ如シ

種別	滋賀	三重	京都	奈良	合計
新設工事	二二七、二七六円	八三、四五九円	六九、五四五円	四三、〇六一円	五二三、三四五円
修繕工事	三七、五〇二	二、〇五九	九五三	四四七	四〇、九六一
總計	三六四、七七八	八五、五一八	七〇、五〇二	四三、五〇八	五六四、三〇六

尙同四十年度ヨリ本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ六十六萬六千九百八十二圓ニシテ總工費六十九萬圓ニ比シ九割七分ニ當ル其竣功表左ノ如シ但シ筋工藁工ニハ手入費ヲ含ミ又苗木植付ニハ補植費ヲ含ム

表中「■」印ハ寄付物件評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工 積苗	二、〇七六、六七六米	二八三、九八四円	二四、八一二米	一一、五一八円	二、一〇一、四八八米	二九五、五〇二円	割分 —
石積	一六六、四六二立方米	三三、二五一	五、四五〇立方米	四、一二四	一七一、九一二立方米	三七、三七五	—
崖法切	二七一、六五一	三〇、二八〇	一、四七六	三三一	二七三、一二七	三〇、六一一	—
堰堤	一五、〇三七米	一三、九一五	三一一米	七一〇	一五、三四八米	一四、六二五	—
護岸	二、四四二平方米	五、〇三〇	—平方米	—	二、四四二平方米	五、〇三〇	—
床固	二、二七七米	八、二五四	—米	—	二、二七七米	八、二五四	—
石垣	九、六二五	八、八四六	—	—	九、六二五	八、八四六	—
筋工	九五、八九〇	一二、六七三	一九、〇〇九	三、七六六	一一四、八九九	一六、四三九	—
藁工	二六〇、〇二一	七、〇〇六	—	—	二六〇、〇二一	七、〇〇六	—
苗木植付	一五、二七〇、一四九本 ■一二八、七七五	一二二、一五九 ■一四六	一八〇、五〇〇本 ■—	二、九七〇 ■—	一五、四五〇、六四九本 ■一二八、七七五	一二五、一二九 ■一四六	—

事費 葉伏工	平方米 九、〇五六	一、一四八	—	—	平方米 九、〇五六	一、一四八	—
柴石水叩	六九	六五	—	—	六九	六五	—
堰堤修繕	立方米 一、三一七	二、五七八	—	—	立方米 一、三一七	二、五七八	—
積苗修繕	米 六二、三七二	九、〇一三	—	—	米 六二、三七二	九、〇一三	—
石積修繕	立方米 二、八一七	一、二五二	—	—	立方米 二、八一七	一、二五二	—
崖法切修繕	米 二四、九五五	九〇六	—	—	米 二四、九五五	九〇六	—
護岸修繕	一、九九九	五三	—	—	一、九九九	五三	—
床固修繕	平方米 一、〇六一	四七四	—	—	平方米 一、〇六一	四七四	—
船舶及機械費	—	四、八一八	—	五一一	—	五、三二九	—
測量費	—	一、八五三	—	一五五	—	二、〇〇八	—
營繕費	—	三、〇七四	—	—	—	三、〇七四	—
雜費	—	八五、〇七二	—	五、八八三	—	九〇、九五五	—
共濟組合給與金	—	一、一一二	—	一九八	—	一、三一〇	—
總計	—	■ 六三六、八一六 一四六	—	■ 三〇、一六六	—	■ 六六六、九八二 一四六	〇・九七

第二　富士川流域砂防工事

緒　　言

本工事ハ明治四十四年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十九箇年度繼續事業トシテ毎年度工費七萬五千圓、總工費百四十二萬五千圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後既定工費ヲ百四十萬一千圓ニ改メ同時ニ年割額ヲ變更シ且施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ施行スル事トナレリ其區域ハ富士川支川、笛吹川、小支日川筋及上流釜無川支川御勅使川筋ナリトス

河狀竝計畫大要

日川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡ト北都留郡トノ境界ナル大菩薩嶺(標高二千五十九米)ニ發シ流域面積百八平方粁、流路延長二十八粁ニシテ山梨郡勝沼町ノ下流四粁ノ箇所ニテ笛吹川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ勝沼町地先祝橋迄二十一粁ノ間ハ山間部ニ屬シ兩岸概ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリ祝橋以下笛吹川合流點ニ至ル六粁ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅廣ク水面勾配四十分ノ一以下ナルヲ以テ上流ヨリ流下セル土砂石礫ハ此部内ニ堆積シ水流ハ亂レテ輕鬆ナル兩岸ヲ衝キ漸次河幅ヲ擴大セントスル傾向アリ明治四十年八月ニ於ケル大水害ノ際ハ本川流域山地ニ數百箇所ノ崩潰ヲ生ジ多量ノ土砂ヲ流下シ强烈ナル土石流ヲ起シ勝沼町地先平地部ニ於テモ尙重量十數噸ノ大轉石移動シ亂流ハ兩岸ノ高地ヲ崩潰シ沿川各地ニ甚大ナル損害ヲ與ヘタリ依テ先ヅ祝橋上

流一粁一、下流一粁九、計三粁間ノ兩岸ニ多數ノ水制ヲ施設スル外法線内ノ浚渫ヲ行ヒ水路ヲ一定シテ河岸ノ崩潰ヲ防止シ尙上流十數箇所ニ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止セントス

御勅使川ハ駒ヶ嶽ヨリ南ニ連亙スル山派中辻山（標高二千五百八十五米）大崖頭山等ノ連峰ヲ分水界トシトノコヤ峠附近ヨリ其主流ヲ發シ流域面積八十五平方粁、流路延長十九粁ニシテ釜無川ニ合流スル急勾配ノ河川ナリ水源ヨリ中巨摩郡源村大字駒場地先迄約十二粁間ハ山間部ニ屬シ兩岸槪ネ岩盤ヲ露出シ河幅狹ク水面勾配急ニシテ下流ニ於テモ尙約三十分ノ一ナリ之ヨリ以下釜無川合流點ニ至ル七粁ノ間ハ平地部ニ屬シ河幅急ニ擴ガリ甚ダシキハ七百米ニ及ビ上流部ヨリ流下セル多量ノ土石ハ此區域ニ堆積シ河床ハ沿岸ノ田畑ニ比シ遙ニ高ク亂流ハ屢々堤防ヲ破壞シ沿岸各地ニ多大ノ損害ヲ與ヘ縣下ニ於ケル荒廢河川ノ最タルモノナリ

河狀如斯ナルヲ以テ山間部幹支川ノ適當ナル位置ニ數箇所ノ堰堤ヲ築造シ土石ノ流下ヲ扞止シ併セテ河床ノ低下、岩腹ノ決壞ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ明治四十四年ヨリ著手シ大正五年度迄ハ主トシテ日川筋勝沼町以下ニ施行シ此期間ニ水制七十四箇所、護岸一箇所、堰堤一箇所及低水路浚渫約二十四萬立方米ヲ完成セリ之レガ爲メ水流ハ一定ノ法線内ニ集リ河床ハ漸次低下シ約三十二ヘクタールノ石河原ハ豐饒ナル田畑ト化シ極メテ良好ナル結果ヲ得タリ依テ同川ノ工事ハ一時修補ニ止メシガ同九年度以降曩ニ施工セル區域ノ上流山間部ニ鶴瀨、駒飼、長垣、橫吹、矢方平、水野田、丸林各堰堤ノ本堰堤ヲ完成セリ

御勅使川筋ニ於テハ大正五年度ヨリ中巨摩郡蘆安村及源村地内ニ於テ蘆安、源、御庵澤、桃木、桃木上流、藤尾、沓澤、沓澤上流ノ八堰堤ヲ施工シ何レモ前年度迄ニ竣功セリ今本年度ニ於ケル施工ノ概況ヲ左ニ述ベン

日川筋ニ於テハ前年度ヨリ繼續施工ノ一ノ畑、山口、初鹿野ノ三堰堤竝ニ休工中ノ横吹、長垣ノ兩副堰堤及鶴瀬堰堤水叩保護工事ヲ施行セシ外新ニ棚小屋澤堰堤ヲ起工シ内一ノ畑、山口ノ二堰堤及鶴瀬堰堤水叩保護工事ハ之ヲ竣成セシメタリ

上記棚小屋澤堰堤ハ支流棚小屋澤合流點ヨリ上流二百三米ノ位置ヲ選定シ本副兩堰堤ヨリ成リ本堰堤ハ高十米、長三十四米築立々積一千四百三十立方米、副堰堤ハ高三米、長十八米、築立々積百四十九立方米ニシテ前者ハ大部分ヲ施工セシモ未竣功ニ終レリ

御勅使川筋ニ於テハ前年度ヨリ引續キ源堰堤下流ニ床固捨石工二箇所ヲ施行シタルヲ以テ茲ニ本流域ニ於ケル豫定ノ工事ハ全部終了セリ

本年度竣功高ハ五萬二千四百三十三圓ニシテ起工以來ノ累計百二十一萬四千九十六圓トナリ之ヲ總工費豫算百四十萬一千圓ニ比較スレバ約八割七分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	浚渫	二六五、〇四七立方米	六七、二五八円	—	—	二六五、〇四七立方米	六七、二五八円	—割分
	護岸水制	竣功 七八箇所	二四三、七一九	—	—	竣功 七八箇所	二四三、七一九	—
	堰堤	竣功 一二 未竣功 八	六六〇、一八〇	竣功 二 未竣功 七箇所	四一、九三九	竣功 一四 未竣功 七	七〇二、一一九	—
	床固	竣功 — 未竣功 二	三、〇七八	竣功 未竣功 —	一、八五九	竣功 未竣功 —	四、九三七	—
用地費		六七段	二、一八三	—	—	六七段	二、一八三	—

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
船舶及機械費	—	三八、一九六円	—	九〇一円	—	三九、〇九七円	—割分
測量費	—	八、一七八	—	五六	—	八、二三四	—
營繕費	—	一二、二八八	—	三〇六	—	一二、五九四	—
雜費	—	一二四、九四九	—	七、〇四七	—	一三一、九九六	—
共濟組合給與金	—	一、六三四	—	三二五	—	一、九五九	—
總計	—	一、一六一、六六三	—	五二、四三三	—	一、二一四、〇九六	〇・八七

第三　桂川流域砂防工事

緒言

本流域内京都府南桑田郡ハ明治十一年度ヨリ同船井郡ハ明治十二年度ヨリ明治二十六年度迄國費ヲ以テ砂防工事ヲ施行シ來リシガ事業上都合ニ依リ一時中止シ其後京都府ハ國庫ノ補助ヲ得テ南桑田郡ニ屬スル區域ノ繼續施行ヲ開始シ今尙施工中ニシテ船井郡ニ屬スル工事ハ本省ニ於テ大正五年度ヨリ直轄施行スルコトヽナリ總工費六萬圓(國庫四萬圓、京都府負擔二萬圓)年割額六千圓ヲ以テ十箇年度繼續事業トシテ施行シ來リ大正十四年度ヲ以テ施行年限終了セシモ尙繼續施行ノ必要ヲ認メ豫算三萬六千圓ヲ增額シ(每年度六千圓)總額九萬六千圓トシ年限ヲ昭和六年度迄六箇年度ヲ延長シタリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ桂川小支鮎谷川及千谷川水源船井郡世木村大字天若ニシテ年度內竣功セル兀崩面積ハ四(ヘクタール)六七ニシテ之レニ對スル本工事費ハ三千百十九圓(一アール平均六圓六十八錢)ナリ大正五年起工以來本工事ノ竣功金額ヲ揭グレバ四萬七千二百四十七圓ヒシテ內新設工事四萬六千四百五十二圓、修繕工事七百九十五圓ナリ

尙大正五年度以來本年度迄ニ竣功シタル總金額ハ七萬六千八百一圓ニシテ總工費豫算九萬六千圓ニ比シ八割ノ竣功トナル其內譯ヲ示セバ左表ノ如シ但シ苗木植付ニハ補植費ヲ含ム

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	積苗	八六、一五一米	二三、六四六円	五、三一七米	一、七一四円	九一、四六八米	二五、三六〇円	｜割分
	山腹石積	一五六	八〇	三二五	一二二	四八一	二〇二	｜
	崖法切	二六、〇〇一立方米	二、六二五	｜立方米	｜	二六、〇〇一立方米	二、六二五	｜
	谷止石積	四〇五平方米	一、〇七一	｜平方米	｜	四〇五平方米	一、〇七一	｜
	筋工	一七、〇七一米	二、四五一	二、六七八米	三八一	一九、七四九米	二、八三二	｜
	根固	五二平方米	七四	｜平方米	｜	五二平方米	七四	｜
	粗朶伏工	八二三	一三八	｜	｜	八二三	一三八	｜
	苗木植付	八三三、三九二本	一三、九四一	四九、三〇〇本	九〇二	八八二、六九二本	一四、八四三	｜
	積苗修繕	四三四米	一〇二	｜米	｜	四三四米	一〇二	｜
船舶及機械費		｜	一、三六七	｜	九五	｜	一、四六二	｜
測量費		｜	一四六	｜	一八	｜	一六四	｜
營繕費		｜	二二二	｜	｜	｜	二二二	｜
雜費		｜	二五、二三六	｜	一、九六七	｜	二七、二〇三	｜
共濟組合給與金		｜	四二九	｜	七四	｜	五〇三	｜
總計		｜	七一、五二八	｜	五、二七三	｜	七六、八〇一	〇・八〇

第四　千曲川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正七年度ノ創業ニ係リ五箇年度繼續事業トシテ工費豫算三十一萬四千百圓ヲ以テ長野縣下千曲川及左支犀川兩流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施スモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タリシニ因リ追加工事ヲ企テ工費三萬四千五百圓ヲ増額シ工費豫算三十四萬八千六百圓（内長野縣負擔額十一萬六千二百圓）ヲ以テ同十一年度ニ結了セシモ尚引續キ砂防施行ヲ要スル箇所多キヲ認メ工費四十萬八千圓ヲ以テ同十二年度ヨリ昭和六年度迄九箇年度繼續事業トシテ續行スルコトトナレリ因ニ創業以來ノ豫算總額ハ七十五萬六千六百圓（内長野縣負擔額二十五萬二千二百圓）ナリ

施工狀況

千曲川右支横湯川筋ニ於テハ前年度ヨリ引續キ山腹石積工復築工、積苗工ノ二工事ト新タニ著手ノ石堰堤追加、積苗工、筋工等ヲ實施シ年度內ニ積苗工其他五箇所ヲ竣功セリ

犀川筋ニ在リテハ木澤ニ於テ前年度ヨリ續工セル堰堤復築工事ト新タニ著手ノ苗木植栽工ヲ實施シ年度內ニ材料採取工事ヲ殘シ全部竣功シ八代澤ニハ新タニ著手ノ堰堤復築床固工事、堰堤補修工事等ヲ實施シ是亦年度內ニ竣功セリ

岡田川、女鳥羽川及薄川ハ專ラ山地ノ動靜ヲ監視スルニ止メ工事ヲ施セルモノナク本年度全流域ニ於ケ

ル竣功額ハ三萬三千九百七圓ニシテ創業以來ノ累計ハ六十一萬三千百二十三圓ナリ之ヲ總工費豫算七十五萬六千六百圓ニ比スレバ八割一分ノ竣功ニシテ其工事竣功表ヲ示セバ左ノ如シ但シ表中「■」ハ寄附ニ係ル工費ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 横湯川	—	一九四、五二六円 ■ —	—	九、六一九円 ■ 二、二四三	—	二〇四、一四五円 ■ 二、二四三	〇・七〇割分
本工事費 本木澤	—	六七、三〇一	—	二、五一二	—	六九、八一三	〇・九〇
本工事費 八代澤	—	二七、四九五	—	一〇、三六七	—	三七、八六二	〇・九〇
本工事費 岡田川	—	九、〇一八	—	—	—	九、〇一八	〇・九五
本工事費 女鳥羽川	—	九〇、三九八	—	—	—	九〇、三九八	〇・九〇
本工事費 薄川	—	八九、七三八	—	—	—	八九、七三八	一・〇〇
本工事費 材料運搬	—	七、八六三	—	八五五	—	八、七一八	—
用地費	—	九二	—	二四	—	一一六	—
船舶及機械費	—	一一、五四五	—	一、二〇九	—	一二、七五四	—
測量費	—	三八八	—	—	—	三八八	—
營繕費	—	四、一二五	—	三七	—	四、一六二	—
雜費	—	七五、三五九	—	八、九六二	—	八四、三二一	—
共濟組合給與金	—	一、三六八	—	三二二	—	一、六九〇	—
總計	—	五七九、二一六 ■ —	—	三三、九〇七 ■ 二、二四三	—	六一三、一二三 ■ 二、二四三	〇・八一

第五　鬼怒川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正七年度ヨリ昭和四年度ニ至ル十二箇年度繼續事業トシテ總工費三十九萬圓ヲ以テ施行ノ豫定ナリシガ其後諸物價騰貴ノ爲メ同八年度以降三回ニ亙リ二十七萬四千五百圓ヲ增額シ總工費ヲ六十六萬四千五百圓ニ改メ施行年限ヲ二箇年度延長シ昭和六年度迄ニ竣功セシムルコトトナレリ其區域ハ栃木縣上都賀郡日光町鬼怒川支川大谷川流域ニシテ起工以來其支川稻荷川筋ニ施工シ來リシガ同元年度ヨリ新ニ支川荒澤筋ニ又本年度ヨリ支川鳴澤筋ニ施工ヲ開始セリ

河狀並計畫大要

稻荷川ハ利根川支川鬼怒川ノ支川タル大谷川ノ支流ニシテ源ヲ日光町ノ北部女峰山(標高二千四百六十三米)及赤薙山ニ發シ幾多ノ溪流ヲ合セ神橋ノ下流約三百米ノ箇所ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長八粁五、流域面積九平方粁アリ平均河床勾配十分ノ一ニシテ大谷川合流點附近ニ於テモ尙十三分ノ一ノ急勾配ヲ示セリ

流域山地ハ地質極メテ軟弱ナルト地勢急峻ニシテ林相粗ナルニ加ヘ屢々豪雨アルヲ以テ山地ハ歲ト共ニ崩壞ノ度ヲ增シ出水ノ際ハ多量ノ土石ヲ流下シ時ニ土石流ヲ起シテ一箇ノ大サ數十立方米ノ大轉石ヲ押流ス事アリ是等ハ下流川幅廣キ箇所ニ堆積スルヲ以テ河床ニハ轉石累々横リ流身變動シテ亂流ハ兩岸ヲ侵蝕崩壞シ治水上多大ノ障害ヲ來タシ本邦稀ニ見ル荒廢河川ナリ依テ中流部ニ十數箇所ノ堰堤

ヲ築設シ流下土石ヲ扞止スルト共ニ河床ノ低下ヲ防止シ尙合流點附近ニ數箇所ノ床固付水制ヲ設ケ流身ノ矯正ヲ計ラントス

荒澤ハ源ヲ小眞名子山（標高二千二米）ニ發シ女峰山、男體山等ヨリ發スル數多ノ溪流ヲ合セ大谷川ニ合流ス流路延長十一粁、流域面積二十四平方粁アリ河床勾配ハ合流點附近ニ於テ二十五分ノ一ヲ示セリ本流域地質ハ稻荷川ノ如ク不良ナラズ裏見瀧（合流點ヨリ二千七百米）以上ニハ瀑布多ク河床ハ殆ント岩盤ヲ露出シ浸蝕作用大ナラズト雖モ男體山ヨリ發スル溪流ハ其厚キ火山灰層ノ山腹ヲ浸蝕スルコト甚ダシキヲ以テ適當ノ地點ニ數箇所ノ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

鳴澤ハ源ヲ赤薙山（標高二千百米）ニ發シ南々東ニ流レ省線日光驛ノ對岸ニ於テ大谷川ニ合流ス流路延長十二粁、流域面積六平方粁四アリ河床勾配ハ合流點附近ニ於テ十五分ノ一ヲ示セリ本流域ヲ構成セル基岩ハ安山岩及集塊質泥流ヲ主トシ上流ハ河床一體ニ安山岩盤ヲ露出スル所多ク合流點ヨリ五千五百米以上ニハ高五米內外ノ小瀑布數箇所アリ河狀概ネ良好ナレドモ下流部ハ大部分集塊質泥流ヨリ成リ河狀不良ナリ而シテ流域內崩壞ノ大ナルモノハ水源附近ニ在リ且本川ハ兩岸到ル處崩壞シ砂礫ノ流出著シキヲ以テ下流部適當ノ地點ニ堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

施工狀況

本工事ハ大正七年度ニ於テ支川稻荷川筋ニ施工ヲ開始シ前年度迄ニ堰堤十四箇所（內未竣功一箇所）、床固四箇所（內未竣功一箇所）ヲ施工シ本年度ニ於テハ日向堰堤竝ニ第四床固ヲ前年度ヨリ繼續施工シ之ヲ竣功セシメ更ニ高十五米長二十二米築立々積二千七十八立方米ノ釜ツ澤下流堰堤ヲ起工セシモ僅ニ六分

通リヲ施工セシニ過ギズ

荒澤筋ニ於テハ元年度起工セル大久保堰堤及前年度起工ニ係ル丹勢山堰堤ヲ繼續施工シ前者ハ九割ノ功程ヲ見、後者ハ竣功セリ鳴澤筋ニ於テハ高十二米、長四十六米、築立々積一千五百十九立方米ノ小倉山堰堤ヲ起工セシモ僅ニ一割ヲ竣功セリ

本年度ノ竣功高ハ四萬六千二十圓ニシテ起工以來ノ累計五十二萬八百一圓トナリ之ヲ總工費豫算六十六萬四千五百圓ニ比スレバ七割八分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 堰堤	竣功 一四箇所 未竣功 三	円 三三二、一六七	竣功 二箇所 未竣功 三	円 三一、五〇八	竣功 一六箇所 未竣功 三	円 三六三、六七五	割分 —
本工事費 床固	竣功 三 未竣功 一	四九、九一五	竣功 一	八、〇七六	竣功 四	五七、九九一	—
船舶及機械費	—	二五、一八一	—	六二〇	—	二五、八〇一	—
測量費	—	二、九七六	—	二二一	—	三、一九七	—
營繕費	—	九、一七八	—	四五	—	九、二二三	—
雜費	—	五四、〇九七	—	五、三二二	—	五九、四一九	—
共濟組合給與金	—	一、二六七	—	二二八	—	一、四九五	—
總計	—	四七四、七八一	—	四六、〇二〇	—	五二〇、八〇一	〇・七八

第六　神通川流域砂防工事

緒言

本工事ハ大正八年度ノ創業ニ係リ九箇年度繼續事業工費二十萬九千三十八圓ヲ以テ神通川上流岐阜縣下宮川及高原川流域ニ於テ急施ヲ要スル溪流ニ砂防工ヲ施行スルモノニシテ著手以來工事ノ進捗ニ努メ大正九、十兩年度ノ如キハ豫期以上ノ功程ヲ擧ゲ得タリシニ依リ追加工事ヲ企テ工費一萬八千九百圓ノ增額ヲ爲シ總工費豫算二十二萬七千九百三十八圓(內岐阜、富山兩縣負擔額七萬五千九百八十圓)ヲ以テ昭和二年度迄ニ竣功セシムル豫定ナリシモ尙追加工事ヲ要スルモノアルヲ以テ工費六萬圓ヲ增額シテ二十八萬七千九百三十八圓ト爲シ又工期ヲ三年度延長シテ昭和五年度竣功ノコトト爲セリ

施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ上流山腹ノ整理ニ努メタリ卽チ山腹石積工、芝萱筋植工、積芝工等ヲ施シテ傾斜面ヲ整ヘ且苗木植付ヲ爲シ草木ノ生育ヲ期セリ

本年度ハ天候概ネ順調ナリシヲ以テ功程モ進ミ右岸山腹ノ整理ハ終リ左岸上流一部ニ施工スルヲ得タリ

本年度內ノ施行工事ハ山腹石積工九百六十三平方米、積芝工一千米、芝萱筋植工四萬五千六百六十七米、苗木植付工四萬七千米ニシテ本年度ノ竣功高一萬九千二百九十三圓ニシテ創業以來ノ累計二十三萬六千五十七圓ナリ之レヲ總工費二十八萬七千九百三十八圓ニ比スルトキハ八割二分ノ竣功ナリ其工事竣功

表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
本工事費	—	円 一八〇、四九二	—	円 一五、二〇二	—	円 一九五、六九四	割分 —
船舶及機械費	—	四、四三三	—	五二	—	四、四八五	—
測量費	—	一一	—	三一二	—	三二三	—
營繕費	—	二〇	—	—	—	二〇	—
雜費	—	三一、三四三	—	三、六一四	—	三四、九五七	—
共濟組合給與金	—	四六五	—	一一三	—	五七八	—
總計	—	二一六、七六四	—	一九、二九三	—	二三六、〇五七	〇・八二

第七　常願寺川流域砂防工事

緒言

常願寺川ハ富山縣屈指ノ大河ニシテ水利ノ恩惠ヲ受クルコト甚大ナリ然ルニ安政五年二月二十六日越前、越中兩國ノ大地震ニ依リ本川水源地上新川郡立山温泉附近ナル大鳶山、小鳶山崩裂シテ常願寺川上流ノ湯川、眞川ノ溪流ヲ壅ギシガ三月十日ニ至リ決潰シ家屋百二十餘軒流失ス震後二箇月ヲ經テ四月二十六日再ビ泥川ノ決潰アリ百三十五箇村ヲ通ジテ溺死者百四十人、流失浸泥家屋一千四百五十八軒ニ及ベリ爾來河狀一變シ逐年砂礫ノ流出夥シク河流沿岸ノ被害亦甚シキニ依リ同縣ニテハ國庫ノ補助ヲ仰ギ工費百十三萬一千餘圓ヲ投ジ明治三十九年度ヨリ大正十一年度迄繼續事業トシテ鋭意砂防工事ニ努メ殆ンド完成ノ域ニ達セシニ偶々大正十一年七月ノ豪雨ニ際會スルヤ十七箇年度間ニ施行セシ前記工事ハ根底ヨリ破壞セラレ益々工事ノ至難トナリシニ依リ大正十五年度ヨリ昭和九年度ニ至ル九箇年度繼續事業トシテ總工費二百七十三萬六千圓(內富山縣負擔金九十一萬二千圓)ヲ以テ直接施行スルコトトナレリ

河狀並計畫大要

常願寺川ハ源ヲ富山縣藥師ヶ嶽(標高二千九百二十六米)及立山(標高二千九百九十二米)ニ發シ上瀧町附近ニ至リ平野ニ出デ上新川、中新川ノ兩郡界ヲ貫流シテ日本海ニ注グ其流路延長五十六粁餘平坦部ヲ流ルルコト十九粁餘ニ過ギザルモ此間灌漑ノ利潤夥シク灌田面積一萬二千四百ヘクタールニ及ブ而シテ本

川ノ平坦部ハ往古河幅漸ク二百米内外ニシテ堤防ハ僅カニ點在スルニ止マリ流身深ク自然ノ護岸ニ依リテ容易ニ沿岸ヲ保護シ得タリ然ルニ安政年間ニ於ケル大地震ニ因リ河狀著シク變化シ逐年砂礫ヲ押流シ下流川幅廣キ箇所ニ堆積シテ流身ノ變動ヲ招キ亂流ハ沿岸ヲ缺損シ治水上種々ノ障害ヲ惹起シツツアリ故ニ本川ニ對シ徹底的ニ工事ヲ施行センニハ極メテ多額ノ工費ヲ要スルヲ以テ差當リ本川上流部ニ於テ堰堤ヲ設ケ河床ノ低下ヲ防グト同時ニ流下土石ヲ扞止スルモノトス

而シテ其計畫ハ湯川本流中唯一ノ岩盤露出セル箇所ニ一大堰堤ヲ築設シ以テ兩岸山腹ノ崩壞ヲ防止スルト共ニ多量ノ土石ヲ堆積セシメ河床ノ一定勾配形成ヲ待チ其上流ニ順次數多ノ堰堤ヲ設置シ白岩ヨリ立山溫泉下流部ニ至ル湯川本流筋ノ崩壞ヲ治メ又最モ荒廢セル出シ原ニ對シテハ同溪流ト湯川本流ノ合流點ニ設クル堰堤ヲ基礎トシテ是亦數箇所ノ堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施行狀況

本工事ハ大正十五年度創業ニシテ直ニ工事材料運搬ニ供スル爲メ富山縣中新川郡立山村藤橋ヨリ同村水谷平ニ至ル區間ノ道路工事ニ著手シ尙本年度ニ於テモ專ラ準備工事ニシテ更ニ水谷平ヨリ白岩堰堤築設箇所ニ至ル運搬道路工事、瓦斯倫機關車運搬用軌道敷設工事、インクライン架設準備工事、索道架設準備工事等ヲ施行セリ

本年度ニ於テモ漸ク昭和三年五月上旬ニ至リ工事ニ著手シ夏季頻々タル降雨出水ノ被害ハ例年ノ如クニシテ工事ノ進捗ヲ著シク阻害セラレシモ立山村藤橋ヨリ水谷平ニ至ル道路約十一粁、蛇行線約四粁ノ路線ハ略竣功シ水谷平ヨリ白岩堰堤築設箇所ニ至ル約八百米ノ道路ハ斷崖絕壁ノ難所ニ屬シ工事至ツ

テ困難ヲ極メタルモ隧道三箇所三百九十三米中二箇所百二十米ヲ貫通セシメ道路約三百九十二米ヲ築設スルニ至レリ尙藤橋水谷平間ニ於ケル約十五粁ノ軌道敷設工事モ十三粁五ノ敷設ヲ了シ其他インクライン架設準備工事竝索道架設準備工事ニ著手セシモ後者ハ竣功シ前者ハ工事施行中昭和三年十一月ニ至リ施工箇所ハ降雪ノ爲メ施行不可能トナリ遂ニ工事休止ノ止ムナキニ至レリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ十六萬八千五百七十二圓ニシテ創業以來ノ累計金四十九萬五千六百七十六圓ナリ之ヲ總工費二百七十三萬六千圓ニ比スレバ一割八分ノ竣功トナレリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
用地費	―	円 一八	―	円 一〇	―	円 二八	割分 ―
船舶及機械費	―	七〇、四〇一	―	三三、六二七	―	一〇四、〇二八	―
測量費	―	三、六二〇	―	二一七	―	三、八三七	―
營繕費	―	一七、七八三	―	一一、九五九	―	二九、七四二	―
雜費	―	二三四、六八二	―	一二二、三二七	―	三五七、〇〇九	―
共濟組合給與金	―	六〇〇	―	四三二	―	一、〇三二	―
總計	―	三二七、一〇四	―	一六八、五七二	―	四九五、六七六	〇・一八

第八　手取川流域砂防工事

緒　言

本工事ハ昭和二年度ヨリ十三箇年度繼續事業トシ總工費百九十一萬一千圓(内石川縣負擔六十三萬七千圓)ヲ以テ石川縣能美郡白峰村字柳谷、甚之助谷及龍ヶ馬場溪ニ施行スルモノナリ而シテ本工事ニ就テハ既ニ明治四十四年度石川縣ニ於テ其調査ヲ爲シ砂防工事施行ノ必要ヲ認メ大正元年度ヨリ大崩壞地域タル柳谷上流及甚之助谷ニ於テ練積堰堤、山腹工事等ヲ施行シ昭和元年度ニ及ビタルモノニシテ其工費七十萬六千餘圓ナリ

河狀並計畫大要

白山ハ加賀、飛彈ノ兩國ニ跨リ頂上ハ御前、劒、大汝ノ三峰ニ岐ル就中御前岳ハ最高峰ニシテ國幣中社白山比咩神社奥宮ヲ祀ル標高二千七百二米、地質ハ侏羅層中ノ中世紀層ヲ主トス所謂手取層ト稱スルモノニシテ半鹹半淡水中ニ沈成シ礫岩、粘盤岩、頁岩等ノ累層ヨリ成レリ而シテ上記三峰ハ即チ外輪山ニシテ環狀ヲ爲シテ相連リ内側ニ向ツテ急傾斜ヲ爲シ中ニ盃狀ヲ爲セル噴火口ノ跡アリ御前岳ト大汝トノ間ニハ小噴火口又ハ硫氣洞ノ跡ト認メラルルモノ尠カラズ有史以來白山噴火屢々ニシテ就中延應元年、天文廿三年ニ起リシモノ等ハ尤モ著名ナリ

御前岳ノ裳ニ展開セル彌陀ケ原ハ高山植物ノ繁生ヲ以テ名アリ而シテ此高原ノ東側ニ發スル溪流ハ萬歳谷ト稱シ不動瀧ノ水源ヲ爲ス甚之助谷ハ其南側ニ發シ左支龍ヶ馬場溪ヲ合シ大崩壞地域ヲ通過シテ

不動瀧ノ水ト合ス此合流點以下ヲ柳谷ト稱ス崩壞地域ハ甚之助谷、龍ヶ馬場溪及柳谷ニ亙リ延長約四粁、崩壞面積約六十六萬平方米餘(標高一千三百米乃至二千米)ノ間ニ位置ス地勢極メテ嶮峻ニシテ其溪流勾配ハ龍ヶ馬場溪及甚之助谷ハ共ニ約二分ノ一、柳谷ハ約五分ノ一トス而シテ是等諸溪ノ大崩壞ノ素因ハ主トシテ白山噴火ノ餘響ニ依リ硫氣作用ヲ感受シタルモノニシテ其作用ハ深ク內部ニ及ビ以テ風化水蝕ヲ容易タラシムルモノナリ林相ハ概シテ良好ニシテ柳谷、別當谷合流點附近(標高一千三百米)ハぶな樹ノ密林ニシテ白樺ヲ交ヘ甚之助谷及龍ヶ馬場溪方面(同一千六百米乃至二千米)ニ至リテハ白樺、みやまはんノ木ニとど松ヲ交ヘ熊笹密生ス

斯ル狀態ナルヲ以テ昭和二年度ヨリ直轄施工スル所トナリシガ之ガ計畫ヲ樹ツルニ當リテハ先ヅ白山砂防工事將來ノ大計ヲ策セザルベカラズ即チ白山砂防地崩壞ノ激甚ナルト溪流勾配ノ急ナルトハ前述ノ如ク到底姑息ノ工法ニ依ル能ハザルハ瞭ニシテ專ラ練積堰堤工事ニ依リ溪流勾配ノ緩和ヲ圖リ以テ山脚ノ侵蝕崩壞ヲ防止スルノ外途ナク石川縣ニ於テ施設セル柳谷、甚之助谷ノ各堰堤上流部ニ是等現存堰堤ヲ基礎トシタル階段堰堤ヲ設置セントスルモノナリ

施工狀況

本工事ハ昭和二年度ノ創業ニシテ直チニ施行準備ニ著手シ同年八月ヨリ起工セリ

本年度ニ於テモ掛員詰所及人夫收容小屋、倉庫等ノ建設修繕ヲ爲スト共ニ前年度ニ引續キ運搬道路ノ修繕ヲ施行シ是等ノ設備ヲ進ムルト共ニ昭和三年六月七日先ヅ前年度ヨリ繼續ノ柳谷第七號堰堤工事ニ著手シ次デ同甚之助谷第七號堰堤工事及甚之助谷上第七號堰堤工事竝ニ新タニ柳谷第八號堰堤堤工事

ニ著手シ夫々工事ノ進捗ヲ圖リ本年度内ニ甚之助谷上第七號、柳谷第七號、甚之助谷第七號堰堤工事ノ三箇所ヲ竣功シタルモ昭和三年十一月ニ至リ施工箇所ハ降雪ノ爲メ施行不可能トナリ十一月九日本年度ノ工事ヲ打切リテ下山シ金澤市内ノ假事務所ニ於テ執務スルコトトセリ而シテ本年度竣功高ハ十萬四千六圓ニシテ前年度ヨリノ累計十三萬九千四百六十二圓ナリ之レヲ總工費百九十一萬一千圓ニ比スレバ七分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
		円		円		円	割分
本工事費	—	一九、六七一	—	七一、一九〇	—	九〇、八六一	—
船舶及機械費	—	二、五二二	—	二、九一八	—	五、四四〇	—
測量費	—	一、二六五	—	三五八	—	一、六二三	—
營繕費	—	一、七六七	—	九、三四一	—	一一、一〇八	—
雜費	—	一〇、〇七三	—	一九、八九四	—	二九、九六七	—
共濟組合給與金	—	一五八	—	三〇五	—	四六三	—
總計	—	三五、四五六	—	一〇四、〇〇六	—	一三九、四六二	〇・〇七

第九　揖斐川流域砂防工事

緒言

本工事ハ昭和二年度ヨリ昭和十四年度ニ至ル十三箇年度繼續事業トシテ工事費百二十五萬圓ヲ以テ揖斐川支川根尾川ニ施行スルモノトス

河狀竝計畫大要

根尾川ハ源ヲ岐阜、福井兩縣ノ境温見峠ニ發シ山間溪谷ヲ縱流シ能郷、河内東等ノ溪流ヲ集メ流ルル事約四十六粁ニシテ山間部ヲ放レ藪川トナリ揖斐川ニ注グ勾配甚ダ急ニシテ河床概ネ崩壞セル土石ノ沈澱セルモノヨリ成リ河幅狹キ箇所ハ兩岸岩磐ヲ露出シ深谷ヲ爲ス所尠カラズ其流域面積約三百八十方粁ナリトス

根尾川流域ハ明治二十四年濃尾大地震ノ震源地ニシテ既ニ三十餘年ヲ經過スト雖モ震災ニ起因スル禿崩未ダ其儘ニ放棄セラレ其範圍亦甚ダ廣シ從ツテ土砂ノ流出極メテ多ク下流藪川ノ河床ヲ高メ堤防ニ危害ヲ及ボスノミナラズ河床隆起ノ爲メ滲透水夥シク沿岸耕地ヲシテ徒ラニ水濕過度ノ惡田ト化セシメ延テハ其害ヲ揖斐川ニモ及ボシ木曾川上下流改修工事ノ効果ヲ空フスルノ虞アルヲ以テ充分ナル砂防工事ノ施行ハ一日モ忽ニスベカラザルモ其工費巨額ニシテ國費多端ノ折柄全部ノ施行ハ到底望ムベカラザルヲ以テ先ヅ砂害最モ大ナル能郷谷、宮井谷、初鹿谷ノ三箇所ニ施工スル事トス該三溪流ハ何レモ河床概ネ崩壞セル土石ヨリ成リ兩岸岩磐露出シ堰堤築設ニ好適ナル場所ヲ有スルヲ以テ適當ナル所ニ

堰堤數十箇所ヲ築設シ土石ノ流下ヲ阻止シ岸腹ノ崩壞ヲ防ギ又延長二千米餘ノ護岸工事及數十ヘクタールノ山腹工事ヲ施シ以テ土石ノ崩落河岸ノ侵蝕ヲ防禦セントス

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ工事ハ前年度ヨリ繼續ノ火洞堰堤工、西ケ谷石堰堤工、高畑山腹工及本年度起工セル能鄉谷ニ於ケル能鄉堰堤工、初鹿谷ニ於ケル蛇洞堰堤工、宮井谷ニ於ケル西ケ谷山腹工ノ六工事ナリ今其概要ヲ述ブレバ左ノ如シ

前年度起工ニ係ル火洞堰堤工ハ七割三分、西ケ谷石堰堤工ハ八割八分、高畑山腹工ハ九割九分竣功シタリ又前年度一時工事ヲ中止シタル禮野堰堤工ハ本年度モ休工シテ前記各工事ト共ニ未竣功ノ儘次年度ヘ繰越セリ本年度起工セル能鄉堰堤工ハ能鄉谷川口ヨリ六百三十八米ノ個所ニ築設スルモノニシテ高九米、長六十六米、築立々積二千五百九十立方米ニシテ昭和三年四月一日着手シ五割九分ヲ竣功シ、蛇洞堰堤工ハ火洞堰堤工ノ上流二百五十米ノ箇所ニ築設スルモノニシテ高十二米、長五十六米、築立々積二千七百立方米ニシテ昭和三年五月十九日着手シ二割七分竣功シタリ又西ケ谷山腹工ハ西ケ谷石堰堤上流右岸ニ施工スルモノニシテ此面積七千八百平方米ナリ昭和三年八月十日工ヲ起シ四割四分ヲ竣成シ何レモ次年度ヘ繰越セリ

本年度揖斐川流域砂防工事竣功高ハ七萬六千五百九十七圓ニシテ起工以來ノ累計十三萬八千八百九十二圓ニシテ總工事費百二十五萬圓ニ對シテ一割一分ノ竣功ニ當ル其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	

	箇所	円	未竣功 箇所	円	竣功 箇所	円	割分
本工事費 堰堤	一	三六、一五七	五	五二、七三一	一	八八、八八八	〇・一一
本工事費 山腹	アール 四八	三、九五七	アール 九	三、六二四	アール 五七	七、五八一	〇・〇九
船舶及機械費	—	七、四五五	—	一、六八〇	—	九、一三五	—
測量費	—	二六七	—	八四一	—	一、一〇八	—
營繕費	—	六、三八一	—	一、五二五	—	七、九〇六	—
雜費	—	七、八四七	—	一五、八六三	—	二三、七一〇	—
共濟組合給與金	—	二三二	—	三三三	—	五六五	—
總計	—	六二、二九六	—	七六、五九七	—	一三八、八九三	〇・一一

第一〇 木津川流域砂防工事

緒言

本流域內ノ砂防工事ハ淀川流域全體ノ砂防工事トシテ明治十一年度ヨリ引續キ施行シ來リシガ同四十年度ヨリハ以降二十三箇年度ノ繼續事業ト改マリ毎年度三萬圓、總工費六十九萬圓ノ內ヲ以テ瀨田川流域ト合同施行ナリシガ更ニ昭和二年度ヨリ本流域ニ對シ增額ノコトトナリ同年以降十三箇年度ノ繼續トナシ總工費四十四萬七千三百圓ヲ以テ本川單獨ニ施行ノコトトナレリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ箇所ハ前年來ヨリ引續キ施行セル箇所ニシテ木津川上流小支河合川水源三重縣阿山郡玉瀧村(伊賀砂防工場)及木津川小支名張川水源山地奈良縣山邊郡豐原村(豐原砂防工場)ノ二工場ニテ施行シ其竣功セル兀崩面積ハ新設一七ヘクタールニシテ之レニ對スル本工事費二萬二千三百圓(一アール平均十二圓七十九錢)修繕工事百七十九圓、合計二萬二千百八十二圓ナリ

今其竣功累計ヲ掲グレバ四萬四千六百七十圓ニシテ之レヲ關係縣ニ區別スレバ左表ノ如シ

種別	三重	奈良	合計
新設工事	二三、三三〇円	二一、一六一円	四四、四九一円
修繕工事	一七九	—	一七九
總計	二三、五〇九	二一、一六一	四四、六七〇

尚本年度迄ノ竣功總金額ハ五萬四千八百二十八圓ニシテ之レヲ總工費豫算四十四萬七千三百圓ニ比スレバ一割二分ノ竣功ニ當ル其内譯左表ノ如シ但シ苗木植付ニハ補植費ヲ含ム

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費	積苗	五五、九四四米	一二、五〇一円	七三、〇九〇米	一六、六三一円	一二九、〇三四米	二九、一三二円	—割分
	山腹石積	九四	六一	二〇〇	一一七	二九四	一七八	—
	苗木植付	二三八、八〇〇本	二、九五六	二四二、三〇〇本	二、五五四	四八一、一〇〇本	五、五一〇	—
	筋工	一九、九〇〇米	三、五二八	六、九〇〇米	一、一六二	二六、八〇〇米	四、六九〇	—
	崖切法	五、七一六立方米	一、〇〇六	一〇、四八五立方米	一、七一八	一六、二〇一立方米	二、七二四	—
	粗朶伏工	一二、〇〇〇平方米	二、四三六	—平方米	—	一二、〇〇九平方米	二、四三六	—
船舶及機械費		—	五二二	—	五一三	—	一、〇三五	—
測量費		—	八二	—	七九	—	一六一	—
營繕費		—	九七	—	二三〇	—	三二七	—
雜費		—	三、六〇三	—	四、七二八	—	八、三三一	—
共濟組合給與金		—	一五〇	—	一五四	—	三〇四	—
總計		—	二六、九四二	—	二七、八八六	—	五四、八二八	〇・一二

第四章　港灣改良工事

第一　關門海峽改良工事

緒言

本工事ハ關門海峽整理ノ第一期工事トシテ當初一千二百萬圓ノ工費ヲ以テ明治四十三年度ニ起工シ十箇年度間ニ竣功セシムル豫定ナリシモ財政ノ都合ニ依リ繼續費トセズ同年度以降大正四年度ニ至ル迄ハ年々所要豫算額ヲ要求シテ工事ヲ施行シ來リ其額合計三百七十四萬圓ニ達セシガ大正五年度ニ至リ四百三十六萬圓ノ豫算ヲ以テ同年度以降十二年度ニ至ル八箇年度ノ繼續事業ト定メ次デ大正八年度ニ於テ海底電線移設費及同年度以降十一年度迄ニ於テ物價騰貴ニ依ル不足額ヲ追加シ合計一千三十六萬圓ト爲シ大正十二年度ニ至リ更ニ豫算總額ヲ一千三百七十六萬圓ニ增加シ工期ヲ大正十五年度迄延長シ超エテ大正十四年度ニ至リ事業繰延ノ爲メ更ニ工期二箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和三年度トシ昭和二年度ニ於テ水深維持ノ爲メ工費二十八萬六千圓ヲ追加シ豫算總額一千四百四萬六千圓トナレリ

港狀竝計畫大要

關門海峽ハ本邦ニ於テ最モ須要ナル航路ノ一ナレドモ幅員狹隘不規則ニシテ且潮流强ク而モ岩礁諸所ニ散在スルヲ以テ航海者ノ常ニ最モ困難ヲ感ズル所ナリ加之輓近通航船舶ノ增加及船型ノ增大ハ益々其困難ノ度ヲ高メ且一面關門兩港ニ於ケル泊地モ亦狹隘ヲ感ズルコト切ナルノミナラズ尙内外貿易ノ

發展ニ伴ヒ益々之ガ改良ノ急ヲ促スニ至レリ本海峽ハ將來ヲ慮リ充分ナル計畫ヲ樹テ之ガ改善ヲ圖ラムニハ海峽內ノ航路ヲ水深十一米以上ニ浚渫シ其幅員ヲ少クトモ三鏈乃至五鏈トシ關門兩港內モ夫々九米及十一米ノ水深ヲ保タシメ又岸壁其他港灣トシテノ設備ヲ完フスル要アルベキモ其工費ハ頗ル多額ニ達スベク且一擧是等ノ工事ヲ遂行スルノ必要ナカルベキニ依リ先ヅ以テ第一期工事トシテ本工事ヲ起シ他ハ漸ヲ追テ施行スルコトトセリ

本工事ハ周防灘ヨリ六連島ニ通ズル航路ノ改良及海峽內泊地ノ擴張ヲ施行セントスルモノニシテ航路ノ改良ニ在リテハ海峽東口部埼沖ヨリ西口塵寄洲ニ至ル十一浬間ヲ幅員二鏈半乃至五鏈半平均四鏈ニ規定シ水深十米ヲ保タシムル爲メ浚渫及除礁工事ヲ施行シ又周防灘ヨリ部埼沖ニ至ル通路約二浬間ハ幅員三鏈、水深九米ニ浚渫セントス又泊地ニ關シテハ門司前面ニ於テ水深十米以上ノ水面積百三十二萬平方米ヲ又下關側ニ在リテハ停車場前面ニ於テ若干ノ浚渫ヲ施シ三十三萬平方米ノ水面ヲ得ンガ爲メ浚渫工事ヲ施行スルモノトス

施工狀況

本工事ハ起工以來十九箇年度ノ星霜ヲ經テ工事ノ大體ハ既ニ竣功シ前年度末ニ於テハ處々ニ一小部分宛ノ未竣功區域ヲ殘スノミナリシガ本年度ノ事業ハ左表ノ如シ

種別	數量	施行箇所
土砂浚渫	立方米 二二三、三九九	滿珠沖、小橫瀨、金伏洲

碎岩	五三、九一七	金伏群礁、小横瀬、與次兵衛瀬、高瀬、俎瀬
碎岩浚渫	一九〇、〇二五	金伏群礁、小横瀬、與次兵衛瀬、大里沿岸、高瀬、俎瀬
水深維持	一八一、三九七	門司港、彦島沿岸

今各箇所別ニ工事ノ概況ヲ摘記スレバ左ノ如シ

一、彦島沿岸　彦島町田之首附近ノ法線ニ沿ヒ東方山底ノ鼻沖ヨリ西方大山ノ鼻沖ニ亙ル區域ニシテ東ニ鳴瀬、西ニ俎瀬ト稱スル岩盤及硬土盤ヨリ成ル部分アリ是等ノ部分ニハ碎岩船ヲ使用シテ岩盤ハ之ヲ破碎シ硬土盤ハ其緊縮ヲ緩メタル後浚渫ヲ行ヒ其他ノ部分ハ概ネ小石混貝殼又ハ軟粘土ヨリ成ルヲ以テ豫メ碎岩船ヲ使用スルコトナク直接浚渫ヲ施行シ斯クテ前年度迄ニ全區域殆ント竣功シ纔ニ俎瀬ノ一小部分ヲ殘スノミトナレリ仍テ本年度ニ於テハ專ラ其殘礁俎瀬ノ除却ニ努メ其全部ヲ計畫深度ニ浚了セリ

一、高瀬　本瀬ハ前年度迄ニ大部分ヲ除去シ居タリシヲ以テ本年度ハ容易ニ未竣功區域全部ヲ計畫深度ニ浚了スルコトヲ得タリ然レドモ此外ニ本瀬ノ離礁トモ稱スベキ金弦岬沖航路ノ中心部ニ近キ位置ニ點在スル淺瀬アリ其除却ハ前年度初メテ著手セシトコロニシテ大體本年度中ニ竣功セシメ得ル見込ナリシモ愈々作業ヲ開始スルヤ豫期以上ノ種々ナル危險竝ニ困難ニ遭遇セシ爲メ遂ニ目的ヲ達スルニ至ラズ一部未竣功ノ儘越年セリ但シ此部分ハ豫算ノ繰越ニ依リテ次年度七、八月頃迄ニハ竣功セシメ得ル見込ナリ

一、小横瀬　長府町前田沖ニ於テ法線ニ沿ヒ帶狀ヲ爲シ長ク東西ニ連レル區域ナリ土質ハ大部分硬粘土ニシテ一部岩盤ヨリ成ルヲ以テ多クハ碎岩船ヲ作業セシメタル後浚渫ヲ行ヒ前年度迄ニ全區域ノ六割

餘ヲ竣功セシメシガ本年度ニ於テハ之ニ引續キ殘部ノ完成ニ努メ其結果茲ニ計畫區域ノ全部ヲ竣功セシムルコトヲ得タリ

金伏群礁　長府町前田沖ノ航路中心線ニ接近シテ孤立點在スルハゲノ瀨、スキアガリ瀨、野山瀨、細瀨、高芋瀨、金伏瀨等ノ總稱ナリ何レモ硬質ノ岩礁ニシテ作業甚ダ困難ナリシガ鋭意進工ノ結果前年度漸ク竣功ヲ見ルニ至リシヲ以テ直チニ除却跡ノ精査ヲ行ヘルニ野山瀨及細瀨跡ニ計畫深度ニ達セザル部分アルヲ發見セリ依テ本年度ニ於テハ之ガ除去ニ全力ヲ傾注シ以テ多年ノ難作業ヲ茲ニ完全ニ竣功セシムルヲ得タリ

一、金伏洲　本洲ハ金伏群礁ノ東方ニ在リテ南側法線ニ近ク位シ砂洲及粘土層ヨリ成ルヲ以テ土質ノ點ノミヨリ言ヘバ作業ハ決シテ困難ナリト稱スベカラザルモ工事施行區域及其附近ニハ數條ノ海底電線敷設シアリテ作業ヲ進メ得ザル部分アリ大正十三年細心ノ注意ヲ拂ヒ先ヅ以テ電線ニ故障ヲ及ボサヾル區域ニ於テ一部ノ浚渫ヲ施行シ其他ノ部分ニ對シテハ遞信省ニ一時的電線ノ移動方ヲ交渉シ本年度盛夏ノ候同省ニ依囑シテ之ヲ行ヒ工事ヲ施行セリ然レドモ移動電線ハ工事上止ムヲ得ザルモノノミニ止メシ關係上浚渫船ノ繋留投錨ニ際シ多大ノ困難ヲ嘗メ辛フジテ電線ニ何等ノ損傷ヲ與フルコトナク全區域ヲ計畫深度ニ浚了スルコトヲ得タリ

一、滿珠沖其他　滿珠沖、大里沿岸、與次兵衞瀨等ニ點々未竣功區域ノ殘存スルモノアリシガ是等ハ何レモ本年度ニ於テ悉ク竣功セシメタリ

一、水深維持　關門海峽改良工事ニテ既定計畫深ニ浚渫濟區域中門司港、彥島沿岸其他ニ於テハ潮流ノ關係上年々尠カラザル漂砂堆積シ漸次水深ノ減退ヲ來タシ從ッテ船舶ノ航行碇泊ニ支障ヲ及ボシ改良工

事ノ效果ヲ低減セシムル虞アルニ依リ是等ノ堆積土砂ヲ除去シ所定ノ水深ヲ維持スルコトトナリ昨年度ニ於テ初メテ門司港及彦島沿岸ノ浚渫ヲ行ヒ本年度モ之ニ引續キ右兩箇所ノ浚渫ヲ施行シ門司港ニ於テ九萬六千七百九立方米、彦島沿岸ニ於テハ八萬四千六百八十八立方米、合計十八萬一千三百九十七立方米ヲ浚渫シ昨年度分ヲ合シテ四十四萬七千二百十三立方米ノ土砂ヲ除去セリ

本年度ノ竣功高ハ五十五萬二千百六十六圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ一千三百十二萬二千七百七十四圓トナリ既定工事費豫算高一千三百三十八萬八千十一圓ニ對シ九割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ評價品見積價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
浚渫費	立方米 一二、八八〇、四九三	円 四、八〇七、八二八 ○三一〇、七三六	立方米 五九四、八一九	円 二八五、六三五 ○五、〇八二	立方米 一三、四七五、三一二	円 五、〇九三、四六三 ○三一五、八一八	割分 〇・九九
埋立及護岸費	—	四一七、九五三 ○四一、七一七	—	四三八	—	四一八、三九一 ○四一、七一七	—
船舶及機械費	—	六、八六六、〇七一 ○一三七、一七八	—	二三二、三三三 ○二、〇〇一	—	七、〇九八、四〇四 ○一三九、一七九	—
測量及檢潮費	—	一九〇、七一八 ○一〇、〇二七	—	一六、一二九 ○二〇〇	—	二〇六、八四七 ○一〇、二二七	—
雜費	—	一四、九〇八	—	—	—	一四、九〇八	—
營繕費	—	四七、七〇三 ○七、九〇六	—	三五四	—	四八、〇五七 ○七、九〇六	—
共濟組合給與金	—	四八、九九〇	—	八、六六八	—	五七、六五八	—
海底電線移設費	—	一二六、五一〇 ○二八、六二五	—	八、六〇九	—	一三五、一一九 ○二八、六二五	—
臨時手當	—	四九、九二七	—	—	—	四九、九二七	—
總計	—	一二、五七〇、六〇八	—	五五二、一六六	—	一三、一二二、七七四	〇・九八

第一一　鹽釜港修築工事

緒　言

本工事ハ大正元年十一月宮城縣ニ於テ修築工事施行ノ認可ヲ得テ起業シタルモノニシテ總工費三百四十五萬圓ヲ以テ大正三年度ヨリ工事實施中ナリシガ同六年度ヨリ內務大臣ニ於テ直接施行スル事トナリ卽チ同年度ヨリ豫算額二百九十三萬三千圓ヲ以テ大正六年度ヨリ同十一年度迄ノ六箇年度繼續事業トシテ施行中ナリシガ同十一年度ニ道路費ノ內ヘ三萬圓(全部宮城縣負擔)增額シ又歐洲大戰亂以來物價騰貴ノ影響ヲ受ケ工費ニ不足ヲ來セルニ依リ同十二年度ニ二百五十萬圓ノ增額ヲ行ヒテ總工費ヲ五百四十六萬三千圓(內宮城縣負擔二百七十八萬八千圓)ト爲シ竣功年度ヲ昭和四年度迄延長セシガ同十二年九月帝都未曾有ノ大震災ニ因リ國庫財政ノ都合上更ニ一箇年度ヲ繰延ベ竣功期限ヲ昭和五年度トセリ

港狀竝計畫大要

本港ハ仙臺市ノ東方約十六粁松島灣ノ西南隅ニ位シ西北南ノ三面ハ殆ド丘陵ヲ以テ圍繞セラレ僅カニ東方松島灣ニ面ス港內水面狹ク市街地小ナリト雖モ本港ハ古來水陸交通ノ衝ニ當リ鐵道運河ノ便ヲ有シ水陸ノ聯絡稍良好ナリトス港內四時平穩ナルモ水深頗ル淺ク又松島灣ハ背後ニ山脈ヲ負ヒ島嶼前面ニ連リ常ニ風波ノ虞ナキモ灣內淺クシテ大船ヲ入ルルニ至ラズ灣ト外海トヲ聯絡スル水道四アリ其主要ナルモノヲ代ケ崎水道トス其東北約二粁ニ石濱錨地アリ水深大ニシテ巨船ノ碇泊ニ適ス

修築工事ノ大要ヲ記述スレバ石濱錨地ノ入口ヲ港口ト爲シ其左右ニ南北防波堤ヲ築キ以テ大洋ヨリ來

ル風浪ニ對シ代ケ崎以東ノ外港水面ヲ掩護シ同錨地ノ碇泊及航行ヲ安全ナラシムルニアリシガ外洋ニ於ケル防波堤ノ築造ハ施行容易ナラザルト築港ノ將來トニ鑑ミ寧ロ內港ノ充實ヲ圖ルノ利ナルヲ認メ大正十三年度ニ於テ既定計畫ノ變更ヲ行ヒ實施ト同時ニ之ガ築造ヲ中止セリ航路ハ港口ヨリ殆ド一直線ニ代ケ崎ニ至リ少シク折レテ內港泊地ニ達セシム其延長五千米ニシテ幅員（底幅）九十一米、水深最低干潮面以下六米七トス

內港泊地ハ埋立地ニ面シテ水面積約三十三萬一千平方米ヲ有シ之ヲ最低干潮面以下七米六及四米六ノ水深ニ浚渫ス

埋立地ハ現在鐵道用地ノ東方ニ面積五十二萬九千六百平方米ヲ築造スルモノニシテ其高ハ朔望平均滿潮面上一米七（最低干潮面上三米七）トス其東方ニ濕渠及貯木場ヲ設ク

埋立地ノ沿岸西方ハ魚類處理場、上屋倉庫敷地ニ充テ其東方ニハ薪炭木材等ノ荷揚場ヲ設ケ鐵道トノ聯絡ヲ期スルト共ニ埋立地內ニハ一條ノ水路ヲ導キ各工場敷地ヘ水運ノ便ヲ圖ルモノトス其幅十八米乃至五十五米トス而シテ埋立地ノ道路ハ幅九米乃至二十二米トシ縱橫ニ築設シ以テ交通ノ便ヲ圖ル要スルニ本計畫ハ新ニ五十二萬九千六百平方米ノ市街地及倉庫敷地ヲ埋築シ延長約二千米ノ荷揚場ヲ建設シテ一箇年約八十餘萬噸ノ貨物ヲ處理シ得ベカラシメ而シテ內港ニ出入シ得ル船舶ハ三千噸級迄ニ止メ石濱錨地ハ三千噸級以上ノ碇繋場トシテ使用セントスルニ在リ

施工狀況

本工事ハ大正六年度內務省所管ニ移リシ以來既ニ十二箇年度ヲ經過シ向二箇年度ヲ以テ竣功セントス

ル今日ニ於テハ工事ノ進捗セルハ勿論埋立地ノ利用面積九萬四千五百平方米ニシテ魚市場、鐵道側線ノ延長竝ニ荷揚場等モ一部完備シ航路ノ浚渫モ大部分竣功セルヲ以テ巨船モ時々内港ニ入リ荷役ヲ爲スコトモアリ港勢ハ頓ニ上リ日ニ月ニ繁榮ニ向ヘリ今工事ノ概況ヲ述ブレバ左記ノ如シ

一、浚渫工事　本年度ハ主トシテ代ケ崎以東ノ外港航路ヲ全長ニ亙リ計畫中ノ内一部ヲ干潮面以下水深六米七ニ仕上グル目論見ヲ以テ施行セルモ此箇所ニハ點々岩磐アリ前年度ヨリ碎岩船ヲ用ヒ碎岩ニ從事セルモ岩質ニヨリテハカッターニヨリ適當ニ破壞ヲ爲セシニ結果良好ノモノト然ラザルモノトアリ甚シキハ突數二十回以上ニ及ブモノ相當アリ作業モ非常ニ困難ヲ極メ且浚渫船ノ操縱ニ付テモ何分場所ガ外海ニ面セルヲ以テ風浪高ク時々避難スルノ止ムヲ得ザル場合モアリ爲メニ豫定ノ通リ進捗ヲ見ザリシモ大體ニ於テ大船ノ入港ニハ支障ナキ程度ニナレリ

一、埋立工事　本年度ニ於テハ計畫埋立面積ノ内未完成部分ニシテ比較的急ヲ要スル港橋以西ノ部分ヲ主トシテ工事ヲ進メ傍ラ岸壁工事ノ裏込箇所ノ埋立ヲ爲セリ港橋以西ノ箇所ハ地盤軟弱ニシテ時々地盤ノ沒落ヲ見ル關係上沿岸地帶ハ爆破ニ依リ山崩シニ依リ生ジタル碎岩ヲ以テ圍堤ヲ築キ内部ニ機械浚渫ニ依ル土砂ノ排砂ヲ爲シ施工セルモ未ダ竣功スルニ至ラズ

一、岸壁及護岸工事　本年度ニ於テハ一千噸級岸壁(水深四米六)及三千噸級岸壁(水深七米六)ノ二種竝ニ物揚場ノ護岸工事ヲ施行セルモノニシテ四米六岸壁ハ延長二百八十三米ノ内基礎地盤軟弱ナル箇所ニハラルゼン式鐵矢板ヲ用ヒ岩盤ノ箇所ニハ鐵筋混凝土岸壁ヲ築造スルモノニシテ前年度ニ於テ土工其他ノ準備ヲ爲セルヲ以テ本年ハ本體ニ著手シ鐵筋混凝土岸壁延長九十一米ヲ竣功セリ鐵矢板ハ前年度ニ於テ延長百三十米ニ亙リ長十二米ノモノノ打込ヲ終リタルモ地盤軟弱ナルヲ以テ基礎ヲ鞏固ナラシム

ル爲メ土質ノ改良ヲ行ヒ一部錨定鉧ノ取付ヲ爲セリ七米六岸壁ハ延長百米ノ内鐵筋混凝土岸壁本體四十米ヲ竣功セリ

次ニ護岸工事トシテハ水深一米二ノ物揚場全延長八百五十五米ノ内前年度迄著手セル起點ヲ去ル五百十五米迄ノ箇所ヲ本年度ニ於テハ略竣功セシメ更ニ其以東延長二百七十一米ノ護岸工事ニ著手シ方塊製造ヲ終リ床掘其他材料運搬等ノ準備ヲ爲セリ

一、道路及水路工事　道路ハ埋立地内港橋以西ノ最モ緊急ヲ要スル箇所ハ前年度ニ於テ殆ド竣功ヲ告ゲ以東岸壁ニ通ズル道路ハ岸壁工事ノ進捗ニ伴ヒ施工スル見込ナリ又水路モ前年度迄ニ大部分竣功シタルモ本年度ニ於テハ只一部岩盤ノ箇所ニ水中爆破ヲ用ヒテ掘鑿ヲ爲セルノミトス

一、防砂堤ハ潮流ニ依リ漂砂ノ浸入ヲ防グ爲メ設置スルモノニシテ計畫總延長一千十八米ノ内昭和元年度迄ニ四百二十七米ヲ竣功シ更ニ二百米ヲ延長セントシテ前年度ヨリ引續キ施工セルモノニシテ本年度ニ於テハ略竣功ヲ見タリ代ケ崎水道入口ニ於ケル亂流モ防砂堤ノ延長ニ從ヒ漸次矯正サレ來リタルモ本年度延長二百米ヲ略完成セルヲ以テ益々功ヲ奏スルニ至レリ

一、航路標識トシテハ從來地藏島ニ燈臺一箇所及鹽釜町山手ニ一本ト北濱ニ一本ノ竿燈ヲ設置セルノミニテ外港ノ目標トシテハ未ダ其運ビニ至ラザリシヲ以テ船舶ノ入港ニ不便ヲ感ジツツアリシモ本年度ニ於テハ航路浚渫工事ノ進捗ニ伴ヒ中型白色毎三秒時一閃光ノ桂燈浮標ヲ港口ニ而シテ小型明暗綠光毎三秒時一閃光ノ浮標ヲ水島附近外港航路ノ南側ニ夫々設置ヲ終ヘタリ

一、防波堤ハ大正十三年度ニ於テ計畫ノ變更ヲ行ヒ打切竣功トシテ築造ヲ中止セリ

本年度鹽釜港修築費ノ竣功總額ハ三十一萬八千百五十三圓ニシテ起工以來ノ累計四百二十三萬四千二

百八十六圓ナリ之ヲ事業費總額五百十五萬二千八百十四圓ニ比スレバ八割二分ノ竣功ナリ其竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
浚渫費	立方米 三、六六六、三三五	円 六八四、〇〇七	立方米 四一一、五三七	円 一五二、四〇八	立方米 四、〇七七、八七二	円 八三六、四一五	割分 〇・七三
埋立費	二、二七一、四三六	八四五、〇二三	三三、一〇〇	一四、〇九二	二、三〇三、五三六	八五九、一一五	一・〇〇
防波堤費	五四、一七三	二一、〇九〇	—	—	五四、一七三	二一、〇九〇	一・〇〇
航路標識費	箇所 三	八、二一四	箇所 二	八、五三九	箇所 五	一六、七五三	—
道路費	米 一、七五五	八五、四三〇	—	—	米 一、七五五	八五、四三〇	〇・三五
岸壁及護岸費	三〇一	一〇五、九〇七	一三一	五一、八八一	四三二	一五七、七八九	—
防砂堤費	四二七	三四、六七一	一五〇	二、六二七	五七七	三七、二九八	—
水路費	一、七〇一	一九一、三一三	二四〇	七、四五九	一、九四一	一九八、七七二	—
雜工事費	—	九二、四九〇	—	一、〇四〇	—	九三、五三〇	—
材料製造及採取費	—	二七五、四〇七	—	—	—	二七五、四〇七	—
用地費	—	五一、五〇一	—	—	—	五一、五〇一	—
船舶及機械費	—	九七八、一八九	—	四二、四九二	—	一、〇二〇、六八一	—
營繕費	—	四七、三一一	—	四四八	—	四七、七五九	—
雜費	—	四七四、二五九	—	三三、〇六二	—	五〇七、三二〇	—
共濟組合給與金	—	二一、三二一	—	四、一〇五	—	二五、四二六	—
總計	—	三、九一六、一三三	—	三一八、一五三	—	四、二三四、二八六	〇・八二

第三　神戸港修築工事

緒　言

曩ニ政府ハ本港修築計畫ヲ定メ對外貿易ノ一部ハ明治三十九年度以來神戸稅關海陸聯絡設備トシテ大藏省ニ於テ起工シ翌四十年度之ヲ擴張シテ小野濱前面ニ繫船突堤四條ヲ築設シ上屋其他ノ陸上設備ヲ施シ爾來年ヲ經テ竣功部分ハ大正二年以來稅關ニ於テ其利用ヲ開始シ舊來ノ面目一新シタリト雖モ歐洲大戰ニ於テ本港ノ對外貿易ノ發展ハ更ニ計畫ノ擴張ヲ促シ且港內ノ靜穩ヲ期スベキ防波堤ノ築造及對內貿易設備等ニ至リテハ一日モ忽緒ニ付スベカラザルモノアリ茲ニ於テ神戸市ハ之ガ急施ヲ要望シ政府ニ向ツテ經費ノ一部ヲ負擔セラレンコトヲ稟請スルニ至レリ卽チ政府ハ之ヲ採納シ總工費當初二千七百十萬圓ノ豫算ヲ以テ大正八年度工事ニ著手シタリシガ大正十三年度ニ於テ既定計畫ニ更改增補ヲ加ヘテ工費五百七十七萬八千二百八十二圓ヲ追加シタリ而シテ其工期ハ元十箇年度ナリシガ第一次繰延二箇年度、第二次繰延三箇年度前後五箇年度ヲ延長シ十五箇年度ノ繼續事業トナレリ斯クシテ小野濱及海岸通地先ニ於ケル外國貿易設備ヲ初メトシ兵庫地先及國產波止場附近ニ於ケル內國貿易設備竝沖合防波堤ノ築造等將來本港ノ發展ニ資スベキ施設ノ完備ヲ期セントス其工費豫算左ノ如ク國庫負擔二千四百三十二萬四千三百十二圓、神戸市負擔一千三百二十二萬三千九百七十圓ナリ

費目	大藏省施行竝同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘要
外國貿易設備費	—円	一一,〇〇〇,〇〇〇円	一,一六三,三〇三円	一二,一六三,三〇三円	負擔步合（國庫 二分ノ一 神戸市 二分ノ一）

費目	大藏省施行竝同省ヨリ引繼豫算	當初豫算	追加豫算	現豫算	摘要
內國貿易設備費	一円	九、三〇〇、〇〇〇円	一、四一三、四七八円	一〇、七一三、四七八円	負擔步合〔國庫　三分ノ一〔神戸市　三分ノ二
防波堤築造費	×一、九二〇、〇〇〇 △二、七五〇、〇〇〇	六、八〇〇、〇〇〇	三、二〇一、五〇一	一四、六七一、五〇一	全部國庫「×」ハ大藏省施行「△」ハ引繼額
總計	四、六七〇、〇〇〇	二七、一〇〇、〇〇〇	五、七七八、二八二	三七、五四八、二八二	事業費　三五、一六八、六〇一圓 俸給及事務費　二、三七九、六八一圓

港狀竝計畫大要

神戸港ハ兵庫、神戸ノ兩灣ヲ以テ形成セラレ其經界ハ從來ノ北東脇ノ濱海岸ニ建設シタル立標ト南西和田岬ニ建設シタル立標トヲ以テ表示シ港內ノ面積九百九十萬平方米ナリシガ大正十三年三月一日勅令第四十七號ヲ以テ北東新在家町ノ南角ヨリ南十五度西ニ引キタル一線ト南西和田岬ヨリ北八十四度三十四分東ニ引キタル他ノ一線トノ二線ヲ經界ト爲シタル區域內ニ擴張セラレタルヲ以テ此水面積一千九百八十萬平方米ヲ算シ海岸線ノ延長八千六百九十米ナリトス而シテ港內ヲ二區ニ分チ第一區ハ舊港川尻南端ニ建設シタル頭部三角形二基ノ紅色塗立標ヲ見透シタル一直線ノ北方一圓トシ第二區ハ前記ノ南方一圓トス其第一區ト第二區ノ極南部トヲ軍艦ノ碇泊所ニ其他ヲ商船ノ碇繫場ニ充ツ又雜船及小型船等ハ第一區及第二區ノ沿岸一帶ニ繫留セシム

本工事ノ計畫中外國貿易設備ニ對シテハ濱邊通地先ニ於テ面積二十六萬三千百四十平方米、海岸通地先ニ於テ面積四萬六千八十平方米ヲ干潮面上三米三ニ埋立テ濱邊通地先ニハ十米乃至十二米一ノ繫船岸壁延長二千六百一米ヲ築造シテ二萬噸級以下ノ汽船繫留ニ適セシメ又濱邊通及海岸通ニ於テハ水深二

米七乃至三米六ノ物揚場延長二千七百十四米ヲ築造スルモノトス

内國貿易設備ニ對シテハ海岸通地先ニ於テハ面積六萬三百四十平方米、兵庫地先ニ於テ面積二十六萬九千七百五十平方米ヲ干潮面上三米三ニ埋立テ之ニ水深五米四乃至九米ノ繋船岸壁延長三千百六十八米ヲ築造シ以テ八千噸級以下ノ汽船繋留ノ便ニ供スル外水深二米七乃至三米六ノ物揚場延長二千四百五十六米ヲ築造シ尚現在ノ鐵道棧橋ヲ改築スルモノトス

上記計畫中改良ヲ施シタルモノハ濱邊通ニ於ケル第五突堤ノ幅員ヲ百四十五米ニ擴大シ南側上屋ノ中間ニ幅員三十六米四ノ倉庫敷地ヲ設ケ貨物荷捌上倉庫ト上屋トノ聯絡ヲ近接迅速ナラシメ常時上屋内ノ貨物掃盡ニ利便ヲ考慮シタルト第六突堤ノ幅員ヲ百六十三米六トシ其中央ニ幅員五十四米五、長サ四百九米ノ水路ヲ設ケ其南岸ヲ物揚場ニ充テ一面本船荷役ノ傍ラ上屋ノ背後ニ艀船荷役ヲ併行シ得ベキ嶄新ナル設備ヲ施シ以テ水路運送貨物荷捌上多大ナル便ヲ企圖セリ

沖合ニ於ケル防波堤ハ南及東ノ二堤ヨリ成リ之ニ假防波堤ヲ加ヘ總延長六千六百四十九米ニ達ス而シテ南堤ハ半島堤ヲ合シテ延長一千五百六十四米、東堤ハ其一、其二及既成堤一千百四十九米(大藏省施行)ヲ合シ延長三千九百九十三米ニシテ假防波堤ハ延長一千九十一米ナリ今其法線ヲ記セバ大要次ノ如シ

南堤ハ港界ヲ表示スル和田岬立標ヨリ東微北ニ走ル一線上ニ於テ陸岸ヨリ二百七十四米ヲ隔テタル位置ヲ以テ起點トシ東西ニ延長一千二百十九米ヲ築造シ其終端ニ於テ東堤ノ頭部トノ間ニ二百七十四米ノ港門ヲ設置ス又陸地ト起點トノ間ニ副門ヲ存シ尚西方ノ半島堤ヲ合シ延長三百四十五米ノ堤ヲ築キ以テ陸岸ニ達セシム

東堤ハ一直線ニ北微西ニ延長一千五百十三米ヲ走リ既成防波堤トノ間ニ幅員九十一米ノ東副門ヲ存置

ス之ヲ東堤ノ二トス而シテ東堤ノ一ハ既成防波堤ノ東端ヨリ東方ニ曲線ヲ描キテ走ルコト約五百二十六米之レヨリ一直線ヲ以テ磁針方位南八十度東ニ約八百四米ヲ延長シ尙其終端ヨリ北四十七度東ノ方向ニ於テ二百七十四米ノ第二ノ港門ヲ設ケ夫レヨリ北ニ向ツテ一千九十一米ノ假防波堤ヲ築造スル計畫ナルヲ以テ此堤ニテ抱擁スル水面積ハ約九百九十萬平方米ヲ算ス就中艀舶及小蒸汽船ノ碇繫場ニ適スル船溜水面積ハ濱邊通約四萬七千三百七十平方米、米利堅波止場附近約十九萬三千七百二十平方米、國產波止場附近約五萬一千五百七十平方米、兵庫新川沖約十八萬九千七百五十平方米ナルヲ以テ合計四十八萬二千六百五十平方米ニ達ス

施工狀況

本年度ノ施工狀況ヲ便宜大別シテ外國貿易設備、內國貿易設備、防波堤築造及材料採取竝材料製造ノ各項ニ分類シ以下順次其概要ヲ記述セントス

（イ）外國貿易設備

一、岸壁工事

濱邊通ニ於ケル岸壁基礎掘鑿ハ前年度迄ニ大部分完成シ本年度ハ其殘部ニ對シ吸揚式浚渫船敏馬號ヲ運用シテ第五突堤水深十米及同十二米ノ部竝第六突堤水深十米ニ於ケル軟泥ヲ排除シタリ

岸壁上部工事　本工ハ岸壁ニ於ケル鐵筋混凝土凾据付後上部ニ胸壁ヲ築造スルモノニシテ前年度ヨリ第一突堤ニ著手シ本年度之ヲ續工シテ水深十米部上部基礎七米五、混凝土工九十六米、繫船設備百十四米、同水深十一米部ニ於テ上部基礎七米、混凝土工三十八米、繫船設備二米、同水深十二米一ニ於テ上部基礎四

十一米、混凝土工二百十七米及繋船設備九十四米ヲ施行ス

岩壁函据付工事　前年度ニ繼續シテ濱邊通第五突堤水深十米ニ於テブリストマン式浚渫船第二、第三ノ二隻ヲ運用シテ床搾七十七米ヲ施行シタル後函二個ヲ沈置ス此延長七十四米ニ及ブ同時ニ函內及函間ノ塡充延長九十四米ヲ施工シタル外裏込延長三十四米ヲ施工ス同突堤水深十二米一ニ於テハブリストマン式浚渫船第三號ヲ運用シテ床搾延長十一米、函一個二分ヲ沈置シテ函內及函間ノ塡充延長十四米七ヲ施工シタル外裏詰十四米ヲ施工ス

同第六突堤水深十米ニ於テハブリストマン式浚渫船第二、第三ノ二隻ヲ運用シテ床搾延長二百六十三米ヲ施工シタル後函七個延長二百五十四米ヲ据付ケ此函內及函間ノ塡充延長二百二十七米ヲ施工シタル外裏詰二十三米ヲ施工セリ

二、物揚場築造工事

本年度ハ特記スベキ工事ナシ

三、埋立工事

濱邊通下埋ニハ浚渫船茅渟丸ヲ運用シテ專ラ港內ヲ浚渫シテ土量二十二萬八千六百七十八立方米ヲ埋立テタル外下埋兼土留用トシテ直營採取ニ係ル砂礫五千七百二十一立方米ヲ投下ス

濱邊通ノ上埋ニハ主部ニ於テ土量四萬七百六十四立方米、第一突堤上埋ニ於テ土量一萬三十八立方米、第五突堤上埋ニ於テ十一萬五千三百七十四立方米、合計十六萬六千百七十六立方米ヲ埋立ツ而シテ主部ニ於テハ喞筒式浚渫船專ラ其運用ヲ司リ第一突堤上埋土砂ハ喞筒式浚渫船洞海丸竝ニ同和泉丸ノ兩船ヲ其運用ニ充テ又第五突堤所要土砂ノ採取ニハ上記兩浚渫船ヲ運用シタリ

埋立地ノ地均ハ濱邊通ニ於テハ二千八百平方米、同第一突堤ニ於テ五千百二十八平方米ヲ施工ス

以上外國貿易設備ニ屬スル本年度迄ノ功程ハ約四割ナリ

（ロ）　內國貿易設備

一、岸壁工事

基礎掘鑿　兵庫突堤ニ於テ前年度來施行シタル掘鑿部ニ於ケル水深九米部及同七米二部ニ對シ吸揚式浚渫船敏馬號ヲ運用シテ軟泥ヲ排除ス

海岸通ノ突堤基礎掘鑿ニハ「プリストマン」式浚渫船大輪田丸及第二、第三浚渫船ヲ運用シテ延長三百三米ヲ施行シ土量二萬六百二十二立方米ヲ得之ヲ兵庫地先ノ下埋ニ利用ス

函据付　本年度兵庫第一突堤ニ於テハ水深七米二部ノ床捨延長百八十一米施工ニ對シ直營採取砂礫三萬一千五百六十五立方米ヲ使用ス又函五個ヲ沈置シタル延長百八十六米ニシテ之ニ對スル函間及函內塡充及荷重延長二百七十米ヲ施工シタル外裏詰延長二百七十八米ヲ完成セシム

同水深九米部ニ於ケル床捨ニ於テハ直營採取砂礫三萬八千六百四立方米ヲ投入シテ延長百六十米ヲ完成シ函五個ヲ沈置シタル延長百七十米ニシテ此間ニ於ケル函間及函內塡充ヲ施工シタル外荷重据置百二十米ト裏詰延長九十米ヲ施行シ直營採取砂礫七千四百十九立方米ヲ使用ス

海岸通水深九米部ニ於ケル床捨ニテハ直營採取砂礫一千四百九十七立方米ヲ投入シテ延長八十米ヲ施工シ之ニ對シ函二個延長七十二米ヲ沈置シ函間及函內塡充四十七米ヲ施工シタル外裏詰十八米完成ニ對シ直營採取砂礫九百三立方米ヲ使用ス

兵庫地先ニ於ケル第一突堤及第二突堤ニ於ケル函据付後ノ狀態ニ鑑ミ移動ヲ防止シ將來ノ堅實安全ヲ

期スル目的ヲ以テ補强工事ヲ計畫ス其要領左記ノ如シ

本工ハ沈井工及連絡工ニ類別ス而シテ沈井工ニハ水深七米二ノ區間延長二百米ニ對シテハ鐵筋混凝土製外徑三米六、內徑三米ノ井筒ヲ五箇所ニ定置シ又水深八米四ノ區間百二十米ニ對シテハ同型ノ井筒ヲ三箇所ニ定置ス右ハ各函ノ接續部ノ背後約二十四米ノ地點ト定メ其沈井ヲ水面下約十五米入トシ頂上ハ干潮面ニ止ム而シテ空洞ニハ一、二、五配合ノ混凝土ヲ塡充ス

連結工ハ函及沈井ヲ連結スルモノニシテ鑄鐵製鎮碇甲乙二種、軟鋼製繫材甲乙二種及軌條等ヲ使用シ沈井ト其前方ニ相對スル函ノ兩端ヲ長約二十四米ノ繫材ヲ函及沈井內混凝土中ニ碇置セル鎮碇ニ取付ケ以テ兩者ヲ連結ス

前記計畫ニ對シ本年度ハ水深七米二ニ對スル沈井工二箇所二分、連結工二分及水深八米四部ニ於テハ沈井工二分ノ一箇所ヲ施工ス

二、物揚場築造

兵庫地先水深二米七物揚場ニ於テハ第三號ブリストマン式浚渫船ヲ運用シ基礎床堀延長二十米ヲ施工シ之ヨリ土砂六十八立方米ヲ得之ヲ兵庫地先ノ下埋ニ利用ス基礎捨石延長十米、荷重五十米、方塊沈積五十四米及石垣延長五十米ノ完成ヲ告ゲ水深三米六物揚場ニ於テハ石垣延長二十一米ヲ施工セリ

三、埋立工事

兵庫主部下埋ニハ物揚場ノ基礎掘鑿ヨリ生ジタル土砂六十三立方米ヲ利用シ第一突堤下埋ニハ海岸通突堤基礎掘鑿ヨリ生ジタル土砂二萬六百二十二立方米ヲ利用シタル外ブリストマン式浚渫船大輪田丸及同第二、第三號浚渫船ヲ運用シテ主トシテ港內ヲ浚渫シ土量二十一萬九千七十八立方米ヲ得之ヲ兵庫

第一突堤ノ下埋ニ利用シ尙同所下埋及土留用トシテ直營採取砂礫三千八百二十五立方米ヲ投入ス又同地先ニ於ケル埋立地表ノ地均二千二百八十七平方米ヲ施工セリ同所ノ上埋ニハ浚渫船和泉丸及洞海丸ヲ運用シテ土量一萬七千二百六十二立方米ヲ使用ス

以上內國貿易設備ニ屬スル本年度マデノ功程ハ約四割七分ナリ

（ハ）防波堤築造

本年度ハ東防波堤ノ二基礎工事ニ於テ捨石延長十一米、荷重延長百五十四米、上部床均延長四百十三米、函三十個ヲ沈置シテ延長四百二十米ニ及ビタル區間ニ對シ函內塡充ト根固方塊トヲ施工シタリ

東防波堤ノ二北頭部基礎工事ニ於テハ基礎捨石延長二十六米及此區間ノ荷重据置ヲ施工ス

東防波堤ノ一ハ昭和三年五月ノ起工ニシテ年度內基礎捨石延長三百九米及荷重据置延長二百十八米ヲ施工ス

以上防波堤築造工事ノ本年度マデノ功程ハ約六割餘ナリ

（ニ）材料採取

直營採取ニ係ル材料ハ割石、砂礫、砂利、礫及砂ノ五種ニシテ割石及砂礫ハ兵庫縣岩屋町字鵜崎海岸ニ於テ人力及爆藥ヲ使用シテ斫出シ一定ノ陸路ヲ輕運車ニテ積出シ運搬船ニ積込ミ曳船ヲ介シテ神戸港內所定ノ場所マデ海路片道約十二浬ノ間ヲ輸送ス本年度ノ採取量ハ割石六萬四千八百四十立方米及砂礫二十九萬一千五百七立方米ニシテ最近砂礫ノ需要頓ニ增加ヲ來セリ

砂利及礫ハ兵庫縣加古川筋ヨリ採取ス從來ハ專ラ人力採取ヲ主トシタリシガ漸次河狀ハ機械採取ニ依ラザルベカラザル狀況トナリタルヲ以テ砂利採取船ヲ運用スルコトトス而シテ機械船ニテ採取シタル

砂利及礫ハ小舟ニテ受ケ之ヲ高砂港迄曳航シ更ニ運搬船ニ積換ヘ曳船ヲ介シテ神戸港内所定ノ場所マデ海路片道約二十八浬ノ間ヲ輸送ス本年度ノ採取量ハ砂利三萬七千百二十二立方米及礫一千五百七十八立方米ナリ

砂ハ混凝土用ニ適スル清砂ヲ要スルヲ以テ特ニ兵庫縣武庫川尻ヲ選ミ喞筒式浚渫船和泉丸ヲ運用シテ採砂ノ上自航神戸港内所定ノ場所マデ輸送ノ上陸上ニ藏置ス本年度ノ採取量ハ一萬九千四百四十立方米ナリ

(ホ) 材料製造

材料製造ハ岸壁及防波堤用鐵筋混凝土函ヲ主トシ各種方塊及函内塡充用混凝土ノ三種ニ分タル其施工概要左ノ如シ

一、鐵筋混凝土函製造

本年度函製造作業ハ岸壁用函ニ於テ製造高二十二個引卸二十二個此混凝土容積十二萬七百六立方米、防波堤用函ニ於テ製造高三十二個、引卸三十五個此混凝土容積四萬三千八百四十八立方米ニシテ配合ハ一、二、五ノ割合ナリ但シ引卸個數ハ所要箇所ニ据付ヲ完了シタルモノトス

二、方塊製造

本年度ハ防波堤大方塊五百五十三個ノ製造ト同數ノ送出トヲ施行ス此混凝土容積ハ四萬一千百二十五立方米ニシテ配合ハ一、二、五ノ割合ナリ

三、混凝土製造

主トシテ鐵筋混凝土函内及函間塡充用其他用混凝土ヲ製造シタルモノニシテ本年度ハ塡充用十五萬六

百六十五立方米、岸壁上部用一萬五百六十四立方米、井筒製造用三千三百九十四立方米、水中用四千七十六立方米ヲ製造ス

以上本年度施行ニ係ル本港修築工事ノ竣功高ハ百八十五萬三千四百七十二圓ニシテ竣功累計高ハ二千四百五十七萬二千二百二十七圓ニ達ス之ヲ總工費三千五百十六萬八千六百一圓ニ比スルトキハ約七割餘ノ竣功ナリトス其竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取及製造費ノ項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料代ヲ又「△」ハ同項ニ掲ゲタル金額中ヨリ各工事ニ使用シタル製品ノ代金ヲ轉記シタルモノナリ

費目		前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
外國貿易設備費	岸壁	—	三八五、九九三円 ×五三、三二七 △九八九、一〇九	—	八二、八八六円 ×一九、四八一 △一八七、九〇七	—	四六八、八七九円 ×七二、八〇八 △一、一七七、〇一六	割分 〇・三六
	物揚場	—	三四三、一六五 ×二二、八三二 △一三二、九二九	—	九〇 ×— △—	—	三四三、二五五 ×二二、八三二 △一三二、九二九	
	米利堅波止場	三四六米	一一四、一九八 ×一一、七六九 △三〇、六〇二	—	— ×— △—	三四六米	一一四、一九八 ×一一、七六九 △三〇、六〇二	一・〇〇
	船溜防波堤	一六四	一三〇、七七一 ×七、六九六 △四七、二四五	—	一六四 ×— △—	一六四	一三〇、九三五 ×七、六九六 △四七、二四五	〇・九〇
	埋立	二、〇三五、二二一立方米	七三七、三四四 ×二、九八六	四〇〇、五七五立方米	一七七、一〇二 ×二、六九二	二、四三五、七九六立方米	九一四、四四六 ×五、六七八	〇・三七
	締切堤	二九八米	八三、七二七 ×九、四七〇	— 米	— ×—	二九八米	八三、七二七 ×九、四七〇	
	假護岸	二五二	六一、四七八 ×六、四五六	三三	五、〇八四 ×—	二八五	六六、五六二 ×六、四五六	〇・九〇
	小計	—	一、八五六、六七六 ×一一四、五三六 △一、一九九、八八五	—	二六五、三二六 ×二三、一七三 △一八七、九〇七	—	二、一二二、〇〇二 ×一三七、七〇九 △一、三八七、七九二	〇・四〇
岸壁		—	三〇二、九六三 ×二三二、二四三 △九二八、三九五	—	六〇、四九一 ×五六、一七七 △一八〇、八七七	—	三六三、四五四 ×二八八、四二〇 △一、一〇九、二七二	〇・五二

內國貿易設備費　物揚場	—	△× 五二四、三五六 / 六八、六八六 / 一二九、〇二三	—	△× 一四、五四九 / 五、九一八 / 一、八八九	—	△× 五三八、九〇五 / 七四、六〇四 / 一三〇、九一二	
內國貿易設備費　埋立	二、一六五、二五〇立方米	× 七〇九、〇〇六 / 一五、五六一	二六〇、八五〇立方米	× 五五、八二二 / 一、八〇〇	二、四二六、一〇〇立方米	× 七六四、八二八 / 一七、三六一	〇・三七
內國貿易設備費　締切堤	五五三米	× 八一、四二三 / 一五、八八三	—	—	五五三米	× 八一、四二三 / 一五、八八三	
內國貿易設備費　假護岸	二五四	× 六三、三九三 / 二三、七〇二	—	—	二五四	× 六三、三九三 / 二三、七〇二	一・〇〇
內國貿易設備費　小計	—	△× 一、六八一、一四一 / 三五六、〇七五 / 一、〇五七、四一八	—	△× 一三〇、八六二 / 六三、八九五 / 一八二、七六六	—	△× 一、八一二、〇〇三 / 四一九、九七〇 / 一、二四〇、一八四	〇・四七
防波堤費　南防波堤	一、二一九米	△× 一、九七六、三一四 / 二七五、八六〇 / 一、二三七、六六八	—	—	一、二一九米	△× 一、九七六、三一四 / 二七五、八六〇 / 一、二三七、六六八	〇・八〇
防波堤費　東堤ノ一	—	× —	—	× 一〇六、六五九 / 一三八、三四三	—	× 一〇六、六五九 / 一三八、三四三	〇・〇九
防波堤費　東堤ノ二	—	△× 一、〇六八、二五四 / 三六八、七八三 / 三五三、二一一	—	△× 九二、四五四 / 一二、一二〇 / 二〇五、一三三	—	△× 一、一六〇、七〇八 / 三八〇、九〇三 / 五五八、三四四	〇・六二
防波堤費　既設東堤	一、一四九米	一、四八三、三八九	—	—	一、一四九米	一、四八三、三八九	一・〇〇
防波堤費　小計	—	△× 四、五二七、九五七 / 六四四、六四三 / 一、五九〇、八七九	—	△× 一九九、一一三 / 一五〇、四六三 / 二〇五、一三三	—	△× 四、七二七、〇七〇 / 七九五、一〇六 / 一、七九六、〇一二	〇・六〇
材料採取及製造費	—	× 五、四五八、一九〇 / 五七三、二七六	—	× 七六三、六四五 / 八二、八〇三	—	× 六、二二一、八三五 / 六五六、〇七九	—
船舶及機械費	—	× 六、七二〇、二七九 / 四四九	—	× 三一九、九八五	—	× 七、〇四〇、二六四 / 四四九	—
用地費	—	二四、五三四	—	—	—	二四、五三四	—
營繕費	—	△× 一、〇二六、三三六 / 二六、八七一 / 一四六	—	△× 八、〇九七	—	△× 一、〇三四、四三三 / 二六、八七一 / 一四六	—
雜費	—	× 一、三五六、〇七四 / 六、六〇七	—	× 一五五、〇九七	—	× 一、五一一、一七一 / 六、六〇七	—
共濟組合給與金	—	四二、〇四〇	—	一一、三四七	—	五三、三八七	—
臨時手當	—	二五、五二八	—	—	—	二五、五二八	—
總計	—	二二、七一八、七五五	—	一、八五三、四七二	—	二四、五七二、二二七	〇・七〇

第四　門司港修築工事

緒　言

本工事ハ總豫算五百二十五萬圓(內門司市負擔八十七萬五千圓)ヲ以テ大正八年度以降八箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ豫算ノ關係上大正十二年度ニ於テ工期二箇年度、同十四年度ニ於テ同一箇年度ヲ延長シ竣功期ヲ昭和四年度トシ更ニ昭和三年度ニ於テ工費不足額三十四萬圓ヲ追加シ豫算總額五百五十九萬圓トナレリ

港狀竝計畫大要

門司港ハ夙ニ世界交通ノ要衝ニ當リ船舶出入ノ頻繁ナル實ニ本邦諸港ノ首位ヲ占ム之ヲ以テ同港貿易ハ年々堅實ニ發達シ加フルニ關門海峽整理工事ノ進捗ト北九州工業ノ勃興トハ益々本港ノ眞價ヲ發揮セシムルニ至リタリト雖モ繫船及荷役ノ設備ニ至リテハ何等見ルベキモノナク貨物ノ殆ンド全部ハ沖荷役ニ依リ處分セラルルノ狀況ナルヲ以テ海陸聯絡ノ設備ヲ完成スルハ焦眉ノ急ニ屬ス今計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

白木崎ヨリ北東ニ向ヒ幅平均九十一米、延長一千三百二十七米ヲ干潮面以上四米一ニ埋立テ其前面ニハ水深十米ノ繫船壁ヲ築造シ以テ外國貿易ニ充ツルモノトス

現在第一船溜ノ陸舌ヲ撤去シ之ニ代フルニ沖合九十一米ノ所ニ岸壁兼用ノ防波堤ヲ築キ其外側ニ水深七米二ノ岸壁ヲ設ケ中國通定期船二隻若クハ三千噸級船一隻ノ繫留ニ便シ內側ハ水深三米六ト爲シ大

型艀船ノ使用ニ供シ船溜内ハ其一部ヲ埋立テ物揚場トシ既成稅關埋立地ト共ニ鐵道ノ聯絡ヲ圖ラントス其他護岸ノ水深ハ二米四トス

前記防波堤ト外國貿易用埋立地トノ間ニ介在スル延長三百十八米ヲ以テ鐵道省關門聯絡船及公私汽艇用ノ繫留棧橋設置箇所ニ充テ尙其沿岸幅十八米ヲ埋立テ之ヲ道路敷ニ充ツ而シテ護岸ハ總テ水深二米四ヲ保タシム

白木崎以南外國貿易用埋立地ニ接シテ現在海岸ニ竝行シ沖合幅平均九十一米、長八百三十六米ヲ埋立テ在來ノ貯炭場ヲ此處ニ移シ其前面ニ水深三米六ノ岸壁ヲ築キ石炭ノ荷役ニ供スルモノトス前記新貯炭場西南端鐵道省埋立地ノ前面ニ當リ三米六岸壁見透シ線內ニ長六百七十三米ノ防波堤ヲ築造シ以テ艀船ノ碇泊ニ便ナラシメントス

埋立面積外國貿易部十二萬七千六百平方米、內國貿易部三萬三千六十平方米、石炭取扱所七萬八千六百八十平方米、合計二十三萬九千三百四十平方米ナリトス

施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ主トシテ外國貿易部十米岸壁ノ殘部及防波堤工事ヲ施行セリ其概況左ノ如シ

岸壁用鐵筋混凝土凾ノ製作工事ハ大正十三年度末迄ニ三米六岸壁凾八十六個ヲ製作進水シ十米岸壁凾ハ前年度迄ニ計畫數全部ヲ完成セリ本年度ハ專ラ防波堤用凾ヲ製作シ三十個ヲ進水据付ケ尙ホ二個ヲ九步通リ竣成ノ儘次年度ニ入レリ

塊製作工事ハ前年度迄ニ二米四岸壁用L型塊百六十箇竝ニ方塊二百個ヲ製作シ本年度ニ於テハ前者二十箇竝ニ後者六十一箇及函內塡充用塊二百四箇ヲ製作セリ

岸壁工事ノ狀況左ノ如シ

(イ)石炭取扱所三米六岸壁ハ大正八年度ニ著手シ同十三年度迄ニ工事用假船入場出入口約三十六米ヲ除キ他ハ殆ンド竣功シ本年度ニ於テハ繫船柱三十八箇所ヲ施工セシノミナリ

(ロ)外國貿易部十米岸壁ハ大正十年度ニ著手シ前年度迄ニ岸壁ノ主體タル混凝土函六十九個一千三百二十一米ヲ据付ケ函內部塡充混凝土一千二百五十七米頂部混凝土一千二百五米其他ヲ竣功シ本年度ニ於テハ函据付ケ不能ノ間隙五米ニ方塊六十一個ヲ据付ケ以テ本岸壁主體ヲ完成シ而シテ函內部塡充混凝土頂部諸工事モ殆ド完成シ只笠石防舷材繫船柱ノ僅少ヲ後年度ニ殘スノミトナレリ

(ハ)外國貿易部東側面小蒸汽船繫留場二米四岸壁ハ延長百九米ヲ大正十、十一兩年度ニ完成セシメ前年度ニ於テ鐵道關門連絡船棧橋以西約百八十米ヲ完成セリ本年度ハ該棧橋以東七十米餘ニ亙リテ基礎床堀ヲ施行セルノミニテ其他ノ工事ヲ施スニ至ラズ

防波堤工事ハ大正九年度ニ一部ノ捨石ヲ施シ爾來休工中ナリシガ前年度末再ビ捨石ニ著手シ約十六米(累計百十五米)ヲ施行セリ本年度ニ入リテ本堤ノ功程大ニ進捗シ捨石五百米(累計六百十六米)混凝土函据付三十個延長五百七十三米函內部塡充混凝土百六十四米頂部混凝土五十一米其他ヲ竣功セリ

埋立工事ハ大正八年石炭取扱所西端ヨリ著手シ次デ外國貿易部ニ及ボセリ前者ハ大正十三年度迄ニ本工事用假船溜場ニ供セル部分ヲ除ク外全部ヲ竣成シ後者ハ前年度迄ニ東部ヨリ約六百二十米、西端ヨリ約三百六十米ヲ完成シ本年度ニ於テハ其中央部約二百五十米及內國貿易部二米四岸壁裏約百七十米ヲ

竣成セシメタリ其竣功土量ハ二十二萬二千六十立方米ニシテ起工以來ノ累計ハ百六十三萬九千二百六十立方米ヲ算シ此外民間等ヨリ投棄シタルモノ累計約八萬四千九百立方米ヲ合セバ其竣功歩合ハ七割八分ニ達ス

而シテ竣功箇所ノ内石炭取扱所東部長五百七十三米幅七十三米ヲ門司市ニ對シ利用ヲ承認シ又外國貿易部東部埋立地延長六百三十六米ノ區域ハ道路敷ヲ除キ之ヲ大藏省ヘ假引繼シ尙同西部埋立地ノ一部ハ一時石炭置場ニ供用シ一部ハ淺野セメント工場ニ於ケル假荷役設備施行ノ爲メ一時其使用ヲ許可セリ

其他工事用諸機械ノ運轉、雜石、砂利、砂等ノ直營採取ヲ施行セリ

本年度ノ竣功高ハ三十六萬二千三百九十八圓、起工以來本年度迄ノ累計ハ四百四十六萬六千五百七圓ヲ算シ工費總豫算五百二十八萬百四十七圓ニ對シ八割五分ノ竣功ニシテ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ民間等ヨリ直接埋立地内ニ投棄シタル土量「○」ハ評價物品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備、型枠費及雜石、砂利及砂等採取費竝ニ工事用諸機械運轉費等ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	—	二、七四二、四〇六円 ○八、七八九	—	二七五、五〇六円 ○七三四	—	三、〇一七、九一二円 ○九、五二三	〇・八四割分
埋立費	一、四一七、二〇〇立方米 *七九、二九九	一三一、九二九 ○一〇、一二〇	二二二、〇六〇立方米 *五、六〇〇	一六、〇四四 ○四、一九九	一、六三九、二六〇立方米 *八四、八九九	一四七、九七三 ○一四、三一九	〇・七八
浚渫費	四、三五七	二、一三四	—	—	四、三五七	二、一三四	〇・〇五
船舶及機械費	—	八七二、五四七 ○一六、一九九	—	五〇、六一三 ○二、四六四	—	九二三、一六〇 ○一八、六六三	—
營繕費	—	一一六、九〇七 ○五〇三	—	四五八 ○—	—	一一七、三六五 ○五〇三	—

雜費	—	○ 二一五、七〇三 六、一一〇	—	○ 一七、五九五 一二	—	○ 三三三、二九八 六、一二三	—
共濟組合給與金	—	一〇、二九〇	—	二、一八二	—	一三、四七二	—
臨時手當	—	一二、一九三	—	—	—	一二、一九三	—
總計	—	四、一〇四、一〇九	—	三六二、三九八	—	四、四六六、五〇七	〇・八五

第五　横濱港修築工事

緒言

本工事ハ當初工費一千三百四十五萬圓ヲ以テ大正十年度以降十箇年度繼續事業トシテ施行中大正十二年九月一日ノ關東大震災ノ爲メ從來ノ港內諸設備ヲ全部破壞セラレタルヲ以テ之ガ復舊ニ一年有半ヲ要シ其間殆ンド施行中止ノ狀態ニ在リシガ其完成直後同十四年度ヨリ再ビ本修築工事ニ著手セリ次ニ昭和二年度ニ外防波堤築造費八百三十二萬圓ヲ追加シテ二千百七十七萬圓(內事務費百二十九萬五千圓)トシ事業年度ヲ延長シ十七箇年度繼續事業トシ竣功期間ヲ昭和十二年度トセリ而シテ前記工費ノ內一千六百五十四萬七千圓ハ國庫負擔、五百二十二萬三千圓ハ横濱市負擔ナリ

港狀竝計畫大要

横濱港ハ元横濱村ト稱スル一漁村ニ過ギザリシモ安政六年六月開港以來其內外貿易ハ累年增進長足ノ進步ヲ爲シ神戶港ト相對峙シテ帝國ノ二大門戶タリ依テ政府ハ本港發展ノ趨勢ニ順應シテ明治二十二年度以降漸次防波堤、馴導堤及鐵棧橋ノ築造、港內ノ浚渫、海面ノ埋立、岸壁物揚場ノ築造、上屋、倉庫、鐵道、道路、橋梁、起重機其他ノ陸上設備竝防波堤ノ修繕、棧橋ノ改築等ヲ施行シ大正九年度迄ニ工費總計大約一千八百萬圓(內横濱市負擔額二百七十萬圓)ヲ支出シテ大ニ本港貿易ノ增進ニ資スル所アリ港灣トシテノ設備稍々見ルベキモノアリト雖モ駸々トシテ止マザル本港ノ發展ハ早クモ是レガ不備狹隘ヲ告グルニ至リタルヲ以テ政府ハ本港修築ノ必要ヲ認メ大正十年度以降十箇年度繼續事業トシテ其豫算ヲ第四十四回

帝國議會ニ提出シ工費一千三百四十五萬圓ノ協贊ヲ得テ横濱港第三期擴張工事ノ實現ヲ見ルニ至レリ然ルニ最近鶴見、生麥方面ニ於ケル工業ノ發展著シク出入船舶益々多キヲ加フルト共ニ堤外繋泊船ノ増加ヲ來タシ海運不況ノ當時ニ於テスラ入港船舶ノ一割一分ハ堤外繋泊ノ已ムナキ狀況ニ在リ港勢斯ノ如キヲ以テ入港船舶ノ堤外ニ於ケル繋泊竝荷役ノ安全ヲ期スル爲メ更ニ安全ナル外防波堤ヲ施設スルノ要アルモ經費ノ關係上之レガ一部ノ築造ヲ追加シ其豫算ヲ第五十二回帝國議會ニ提出シ前述ノ如ク工費八百三十二萬圓ノ追加協贊ヲ得タリ

左ニ計畫ノ大要ニ就キ述ベシ

（一）外國貿易設備

一、埋立　北防波堤内外ニ亙リ面積三十三萬四千五百三十平方米ヲ朔望平均干潮面上三米八ニ埋立ツルモノニシテ延長約一千五百二十米其幅員三百十二米、二百五十一米及百五十米ノ三段ヨリ成ル又神奈川寄海岸ニ平行シテ港内側ニ小突堤ヲ築設ス

一、岸壁、物揚場及護岸　前記埋立地ノ港内ニ面スル部分ニハ總テ外航船舶ヲ繋留シ得ベキ延長一千四百九米ノ岸壁ヲ築造シ五萬噸級汽船一隻、三萬噸級一隻、二萬噸級三隻、一萬噸級二隻ノ接岸荷役ニ供シ又船溜ニ面スル部分ハ延長一千八百三十二米ノ岸壁及斜面物揚場トシ其他ノ沿岸ハ之レヲ護岸トス

而シテ荷役能力ハ繋船岸ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシ七十七萬五千噸、物揚場ニ於テハ同四百四十噸トシテ八十萬六千噸、合計一箇年百五十八萬一千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

一、艀船溜及艀船水路　小突堤ノ内側ト千若町及橋本町沿岸トヲ以テ包圍スル海面竝ニ橋本町ノ一部ヲ水深三米ニ浚渫シ艀船溜トス其面積ハ航路ヲ除キ約八萬平方米ナリトス又埋立地背面ト在來防波堤ト

ノ間ニハ平均幅員約七十米長約八百二十米ノ水面ヲ存置シテ水深三米ノ艀溜及水路ト爲シ其兩端ニハ在來防波堤ノ一部ヲ除却シテ出入口ヲ設ケ尙新ニ延長百八十米及二百米ノ防波堤二條ヲ增築シ以テ艀船ノ出入ニ便ス又大岡川口ニ延長二百米ノ波除堤ヲ築造シ水面積七萬八千百平方米ヲ抱擁シテ艀船溜場ニ充テ現在艀船ノ混雜ヲ緩和セントス

一、聯絡橋梁　埋立地ト千若町トノ間ニハ徑間三十六米一連、二十米二連、幅員二十四米ノ人道橋及幅員八米ノ鐵道橋ヲ架設ス而シテ其有効高ヲ朔望平均滿潮面上五米トス

（二）　內國貿易設備

一、埋立　表高島町地先ニ於テ面積六萬二千二百四十平方米、山內町地先ニ於テ同四萬九千九百十平方米、合計面積十一萬二千百五十平方米ヲ朔望平均干潮面上三米五ニ埋立ツ

一、岸壁、物揚場及棧橋　前記埋立地前面ノ內山內町地先ニハ延長四百二十三米ノ岸壁（横棧橋）ヲ築造シ三千噸級汽船三隻ニ供シ及表高島町地先ニハ昭和三年五月從來ノ岸壁ヲ棧橋二基ニ計畫ヲ變更シ以テ同地先ノ地盤軟弱ニ耐ユル施工ヲ爲シ三千五百噸級二隻、五千五百噸級二隻ノ接岸荷役ニ供シ其他ノ沿岸ハ物揚場及護岸トシ之ガ延長一千三百四十七米ヲ築設セントス

而シテ荷役能力ハ繫船岸及棧橋ニ於テハ一箇年一米當リ五百五十噸トシテ五十三萬五千噸物揚場ニ於テハ四百四十噸トシテ四十二萬六千噸、合計一箇年九十六萬千噸ヲ取扱フコトヲ得ベシ

一、艀船溜　表高島町地先埋立地ノ背面ト在來海岸トノ間ハ其沿岸ヲ艀船ノ荷役ニ供スルト共ニ艀船ノ船溜ニ充テ山內町地先埋立地ト淺野造船所埋立地トノ間ハ幅員七十八米ノ水面ヲ存置シ以テ埋立地艀船荷役ノ便ヲ計ラントス但シ該水面タルヤ地盤ノ關係上潛函製造工場用地トシテ他ニ求ムルヲ得ザル

好適ノ箇所ナルヲ以テ本修築工事施行中ハ假ニ其一部ヲ埋立テ存置水面ノ幅員ヲ三十五米ニ止メントス

（三）　浚　渫

岸壁ノ水ノ水深其他各設備ト相俟テ港內ヲ數區ニ分割シ其水深ヲ七米三乃至十一米トシ且ツ港外ニ於テ幅員二百二十米、長九百米ノ航路ヲ水深十一米ニ浚渫ス其他艀船溜等ノ浚渫ハ外國貿易設備地附近ノ部分ヲ水深三米トス而シテ大正十年度以降同十二年八月末日迄ニ於テ面積二百三萬三千三百平方米此浚渫土量九十三萬五千九百三十立方米ノ成功ヲ見タリシガ同年十二月港內實測ノ結果既成部分ニ變更ヲ來シ面積百萬二千八百平方米此土量六十五萬九千二百立方米トナル即チ十三年度以降浚渫スベキ面積三百二十萬二百平方米ニシテ之ガ浚渫土量四百九十一萬八百立方米トス

（四）　繫船浮標

近時大型船舶ノ出入激增シ大型汽船繫留用ノ浮標增設ノ必要ヲ痛切ニ感ズルヲ以テ當初設計ノ設置數量ヲ變更シテ一萬噸級七個及三千噸級十個ヲ設置スル豫定ナリ

（五）　外防波堤

本牧十二天ヨリ鶴見川尻ニ向ヒ起點ヨリ一千九十一米ノ間隔ヲ置キ延長一千米ノ防波堤一基ト其レヨリ二百七十三米ノ間隔ヲ置キ延長一千二百七十三米ノ防波堤一基トヲ築造シ以テ現在防波堤外繫留船舶ニ最モ危險ナル東風及東南風ヲ防止セントス

施工狀況

本工事ハ前年度ニ引續キ施行ス其概要左ノ如シ

一、岸壁及護岸工事

（イ）三米岸壁及物揚場工事　施工延長一千百十一米ニシテ大正十四年十二月工事ニ著手シ前年度迄ニ兩者ヲ合シ延長四百九十一米、本年度ハ同五百二十米竣功セリ

（ロ）十米岸壁工事　延長五百二十八米ニシテ大正十五年六月其西北端ヨリ工事ニ著手シ前年度迄ニ延長百八十八米、本年度ハ同二百四十五米竣功セリ

（ハ）九米岸壁工事　延長三百二十七米ニシテ昭和二年三月工事ニ著手シ前年度迄ニ延長百十三米、本年度ハ同二百十四米竣功セリ

（ニ）橋詰護岸工事　橋梁ノ兩側ニ護岸ヲ築造スルモノニシテ前年度ニ引續キ施行シ本年度ニ於テ延長百五十五米ノ全部ヲ竣功セリ

（ホ）二米七物揚場工事　山内町地先埋立ノ西側ニ延長百五米ヲ施工スルモノニシテ昭和二年十一月工事ニ著手シ前年度ニ於テハ全長ニ亙ル基礎工、扶壁體工ヲ施工シ、本年度ハ延長六十五米ヲ竣功セリ

（ヘ）護岸及二米岸壁工事　表高島町地先ノ埋立地周圍ニ護岸延長五百五十九米、物揚場延長六百八十米、計一千二百三十九米ヲ築設スルモノニシテ昭和三年六月二十六日鐵道省物揚場寄ヨリ工事ニ著手本年度内ニ於テ延長三十米ヲ竣功シ四百五米ハ目下工事中ニ屬ス

（ト）八米岸壁（山内横棧橋）工事　山内町地先埋立前面ニ延長四百一米ノ横棧橋ヲ築設スルモノニシテ昭和三年五月二十三日其西端ヨリ工事ニ著手シ本年度ハ基礎工ノ一部ヲ施行セリ

（チ）第一號棧橋工事　表高島町埋立南東側ニ長百三十五米、幅二十五米ノ棧橋ヲ築造スルモノニシテ昭和

三年八月十三日工事ニ著手本年度ハ基礎工及脚柱工ノ六割餘ヲ竣功ス

（リ）第二號棧橋工事　第一號棧橋北東側ニ之レト竝行シテ長百五十米幅三十九米ノ第一號棧橋ト同式ノ工事ヲ施行スルモノニシテ昭和三年十月二十四日工事ニ著手シ本年度ハ少部分ノ基礎工浚渫ヲ爲セリ

（ヌ）潜函及扶壁體製作工事　本年度ニ於テ潜函ハ十米岸壁用七個又扶壁體ハ三米岸壁及物揚場用二十五個橋詰護岸用十五個、二米七岸壁物揚場用二個、山内横棧橋及高島一號棧橋用十一個、計五十三個ノ製作ヲ爲セリ

（ル）鐵筋混凝土圓筒構及床版製作工事　山内横棧橋及高島棧橋ニ使用スルモノニシテ昭和三年七月工事ニ著手シ本年度ハ圓筒構二十六個、床版二十個ノ製作ヲ爲セリ

（ヲ）土丹採集工事　昭和三年五月起工シ市内長住町横濱船渠株式會社地先海底ノ土丹四萬七千六百八十六立方米ヲ採集セリ

二、浚渫工事

浮島丸（鋤鏈式）龍神（掻揚式）及二號、五號、六號（ブリストマン式）五隻ノ浚渫船ヲ使用シ水深十一米、十米、九米、七米三、三米及二米七區域ヲ浚渫セリ此土量六十三萬四千八百三十八立方米ナリ而シテ此浚渫土砂ハ底開土運船、側開土運船及甲板張土運船ニ搭載シ既定埋立區域内及港外沖合竝ニ喞筒船ノ吸込箇所ニ投棄シ或ハ民間ニ讓渡シ其他ハ當港諸工事ニ利用セリ

三、埋立工事

（一）　外國貿易設備地

總面積二十四萬四千八百平方米ヲ前年度ニ引續キ施行セルモノニシテ本年度ニ於テハ面積七萬八千五

百九十八平方米、土量二十二萬三百九立方米ノ埋立ヲ施行セリ而シテ北東ハ外部護岸北西ハ三米岸壁及物揚場南西ハ九米及十米岸壁ニ依リ其他ハ浚渫土丹ヲ利用シテ土留堤ヲ築造セリ

（二）內國貿易設備地

（イ）山內町地先横棧橋裏側面積一萬九千二百平方米及往年ノ震災ニ依リ西南端土留堤ノ一部決潰シタル爲メ墜落セル部分ヲ追加施工スルモノニシテ昭和三年四月工事ニ著手シ本年度ハ土量一萬六千五十三立方米ノ埋立ヲ爲セリ

（ロ）表高島地先埋立地ノ一部面積三萬二百平方米ヲ干潮面上三米五ノ高サニ施工セントスルモノニシテ昭和四年二月一日工事ニ著手シ本年度ハ土量四千百七十立方米ノ埋立ヲ爲セリ

四、防波堤工事

（イ）舊防波堤取除工事　北水堤ノ不用部分四百八十九米ヲ除却スルモノニシテ大正十四年十二月工事ニ著手シ前年度迄ニ於テ延長四百三十三米本年度ハ殘餘五十六米ノ取除キヲ爲シ昭和三年十二月十五日全部ノ竣功ヲ告ゲタリ

（ロ）防波堤築設工事　外國貿易設備地ノ東北部ニ延長二百米ノ防波堤ヲ築造スルモノニシテ前年度ニ於テ中央部百米ヲ完成シ昭和三年五月二十日ヲ以テ兩端部百米ヲ竣功セリ

（ハ）外防波堤築設工事　延長二千二百七十三米ノ防波堤ヲ築造スルモノニシテ昭和三年七月十六日工事ニ著手シ鶴見側寄北端ヨリ延長四百五十米ノ間ニ基礎捨土丹ヲ施行セリ

五、橋梁工事

本橋梁ヲ瑞穗橋ト命名ス昭和二年一月起工爾來引續キ工事中ニシテ本年度末ニ於テ下構工事ノ全部ヲ

竣功シ上構工事モ亦殆ンド完成ノ域ニ達セリ只神奈川千若町側ノ取付道路工事ヲ殘スノミナリ

六、船舶及機械修理製作

本年度ニ於ケル船舶及機械ノ修理製作トシテハ當港修築所要諸機械ノ製作竝浚渫船十隻、碎岩船一隻、起重機船五隻、汽船九隻、自動艇竝發動機船十三隻、雜船七十七隻及其他諸機械ノ修理ヲ爲セリ而シテ船舶及機械ノ修理製作ハ主トシテ直營ヲ以テ施行シタルモ工事ノ都合上其一部ヲ請負ニ附シタリ

七、營繕工事

本年度ハ工場設備建物移轉竝諸種ノ修繕ニ一千九百八十圓ヲ要セシノミナリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ竣功額百四十三萬二千七百四十圓、創業以來本年度迄ノ竣功額八百五十萬三千三百七十四圓ニシテ工事費二千四百四十七萬五千圓ニ對シ約三割九分ノ竣功ヲ見タリ其工事竣功表左ノ如シ但シ雜費中ニハ營繕工事費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
岸壁及護岸費	一、四四〇米	一、三一七、三五三円	一、二二九米	五六六、六四〇円	二、六六九米	一、八八三、九九三円	〇・三四割分
浚渫費	二、五三〇、九五九立方米	八四九、四九五	六三四、八三八立方米	八五、二四三	三、一六五、七九七立方米	九三四、七三八	〇・八二
埋立費	一、四一三、四四一	一八八、三〇一	二四〇、五三二	三四、九六四	一、六五三、九七三	二二三、二六五	〇・三六
防波堤費	三〇〇米	八六、六七九	一〇〇米	二一、一八一	四〇〇米	一〇七、八六〇	〇・〇一
橋梁費	未竣功 一箇所	二五二、六〇四	未竣功 一箇所	二二四、三四七	未竣功 一箇所	四七六、九五一	〇・七一
繫船浮標費	七個	一八三、六二八	—	—	七個	一八三、六二八	〇・四五
船舶及機械費	—	二、五五〇、一〇四	—	三一〇、四〇八	—	二、八六〇、五一二	—
雜費	—	一、一五五、九〇〇	—	一七四、八三四	—	一、三三〇、七三四	—

共濟組合給與金	—	三六、五七〇	—	一五、一二三	—	五一、六九三	—
總計	—	六、六二〇、六三四	—	一、四三二、七四〇	—	八、〇五三、三七四	〇・二九

第六　清水港修築工事

緒言

本港ハ近時港勢ノ發展顯著ナルニモ拘ラス其設備頗ル不完全ニシテ貨物取扱上不便尠カラズ之レガ修築ハ急務ニ屬スルヲ以テ靜岡縣ハ本港修築ノ計畫ヲ樹テ大正十年度ヨリ同十五年度ニ至ル六箇年度繼續事業トシテ總工費五百五十萬圓ヲ計上シ其二分ノ一ヲ國庫補助トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ依ル國ニ於テ事業直接施行ノ件ヲ申請シ來リタルヲ以テ之レガ豫算ヲ第四十四帝國議會ニ提出シ其協賛ヲ得タリ

次デ大正十一年度ニ於テ靜岡縣ハ追加工事トシテ清水港内三保村地先ノ海面五十一萬一千七十平方米ノ埋立費六十七萬七千圓ヲ縣費支辨施行ノ義ヲ申請シ來リシガ是亦第四十五議會ノ協賛ヲ得テ施行スルコトトシ總工費六百十七萬七千圓(内事務費四十七萬四千九百圓)トナレリ

尙同十三年度ニ鐵道省ハ省用炭陸揚設備ノ不備ナルヲ以テ縣ト協議ノ上巴川河口以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ヲ讓リ受ケ其前面ニ繫船岸ヲ築造シ且其前面六萬六千百十平方米ヲ浚渫スルノ計畫ヲ樹テ之レガ施行方ヲ内務省ニ委託セリ此工費四十八萬二千二百圓ナリ

前記清水港修築工事ハ大正十五年度ヲ以テ竣功ノ豫定ナリシガ偶々政府ノ財政緊縮ニ依リ昭和四年度迄即チ三箇年度ノ延期トナリタリ

港狀竝計畫大要

本港ハ本邦東海岸駿河灣內ニ在リテ太平洋航路ノ樞要地ニ方リ横濱、神戸兩港ノ間ニ介在シ東海道鐵道ニ沿ヒ能ク海陸ノ連絡ヲ保ツコトヲ得ベク其地形トシテハ三保半島ニ圍繞セラレ港內廣濶波浪常ニ平穩ニシテ水深ク海底ノ地質ハ泥砂ニシテ船舶ノ錨定極メテ安全ナル天然ノ良港ナリ

元和元年徳川家康豐臣氏ト兵ヲ交ユルニ及ビ艦船ヲ本港ヨリ大阪ニ廻航シ兵器食糧ヲ送レリ當時町民最モ輸送ニ勗メ其功績ニ依リ徳川氏保護政策ノ恩惠ヲ享ケ夙ニ海運ノ隆盛ヲ來シ爾來沿岸貿易港トシテハ有數ノ港灣ナリシガ明治二十九年ニ至リ開港外國貿易港ニ關スル規定發布セラルルヤ港ノ有志者此機失フベカラズト爲シ蹶起相協力シテ縣會ト共ニ政府ニ建議スル所アリ遂ニ其望ヲ達シ明治三十年六月開港外國貿易港ニ指定セラルルニ至リ同三十二年八月更ニ開港場ニ指定セラレタリ

既往ニ於ケル本港修築工事ヲ視ルニ本港ニ於ケル從來ノ設備トシテハ觀ルベキモノ無シト雖モ明治十一年度ノ築造ニ係ル清水波止場アリ舊問屋即チ當時回漕業者ノ發意ニ基キ完成セルモノナリ

其後明治四十三年度ヨリ大正二年度ニ至ル四箇年度間ニ亙リ工費總額三十萬七千八百六十二圓ヲ以テ縣ニ於テ修築工事ヲ實施セリ

其大要ヲ擧グレバ清水波止場ノ正北ニ當リ海岸ニ沿ヒ水面積約六萬一千百五十平方米ノ船入場ヲ設ケ水深干潮面下三米六ニ浚渫シ延長六百三十三米ノ物揚場ヲ築造シ又從來ノ江尻船入場ニモ延長二百三十六米ノ物揚場ヲ増設シ水深二米一トシ清水船入場ヨリ江尻船入場ニ至ル海岸ニ沿ヒ總面積十六萬八千八百平方米ノ埋立ヲ施工セリ

本港輸出入貨物ハ年ヲ逐テ増加シ昭和二年ニハ百十一萬二千噸ニ達シタリ又縣下ノ産業狀況ヲ觀ルニ富士、駿東地方ノ製紙、紡績、靜岡市ノ製茶、濱松市ノ木綿織物ヲ主トシ縣下各地方ノ工業製産額大正十一年

ニハ一億八千四百萬圓ニ達シ尚漁港トシテ本邦屈指ト稱セラル且近時豊富ナル縣下發電力ノ計畫ハ五十餘萬馬力ニ達シ本港附近各種工業ノ勃興ヲ促スノ傾向ヲ有シ加フルニ富士、身延ノ中央線連絡ハ昭和三年四月ヲ以テ全ク完成シ甲、信二州トノ經濟關係更ニ密接ノ度ヲ加ヘ本港ノ將來益々發展スルノ機運ヲ示シ來レリ顧ツテ本港ニ於ケル設備ヲ視ルニ清水船渠及舊船渠ノ物揚場延長八百九十六米ニ達スト雖モ其設備不完全ニシテ充分ノ利用ヲ爲スコト能ハズ而シテ本港ニ入港スル外國汽船ハ主ニ米國航路ノ大型船ニシテ滯船期間ノ短縮ハ切實ニ其必要ヲ感ズルニモ拘ラス常ニ遠キ沖合ニ碇泊シ到底荷役ノ敏活ヲ期スル能ハズ貨物取扱上不利不便ナルコト甚大ナリト云フベシ其他ノ入港船舶ニ於テモ同樣ノ狀態ニアルヲ以テ今日ノ儘ニテハ近時內外貿易發展ノ趨勢ニ順應スル能ハズ玆ニ本修築ノ成立ヲ見ルニ至レルナリ左ニ計畫ノ大要ニ就キ述ベン

清水波止場ト巴川トノ間其延長六百十八米ノ沿岸ヲ幅百九米ニ埋立テ港灣設備地ニ供ス其前面ニハ岸壁朔望平均干潮面下水深十米六ノモノ二百米、同八米五ノモノ百八十二米、同七米三ノモノ二百三十六米ヲ築造シ其前面ヲ水深九米一、八米五、七米三ニ浚渫シ二萬噸級ノ汽船一隻、八千噸級ノ汽船一隻及三千噸級ノ汽船二隻ヲ同時ニ接岸荷役ニ便セントス巴川以南ノ沿岸延長一千三十六米、幅平均二百五十五米ヲ埋立テ港灣設備地及工業用地ニ供シ三保村地先ノ海面五十一萬一千七十平方米ヲ埋立テ商工業用地トシテ港灣ノ利用發展ニ資セントス

浚渫ノ箇所及水深ハ十米六岸壁前面及航路幅三百二十七米乃至四百五十五米ヲ差當リ水深九米一ニ、八米五岸壁前面幅三百二十七米ヲ八米五ニ、七米三岸壁前面幅三百二十七米ヲ水深七米三ニ渫浚ス而シテ漁船ノ船溜ニ便センガ爲メ巴川下流湊橋以下河口ニ至ル延長九百九米ヲ幅三十六米、水深一米八ニ浚渫

ス

以上ハ原計畫ノ大要ナルモ大正十四年十二月及昭和二年十月其計畫ノ一部ヲ左ノ如ク變更セリ

一、原設計ニ於ケル巴川以南ノ物揚場延長三百六十四米ノ内鐵道省委託ニ依ル岸壁工事ヲ施行ノ爲メ此延長二百六十八米ヲ減ズ

一、原設計ニ於ケル護岸ハ將來ノ利用ヲ考慮シ大部分ヲ水深二米七ノ物揚場ニ變更ス

一、原設計ニ於ケル浚渫區域ノ內巴川前面ノ幅員二百三十六米ハ將來航行船舶ノ安全ヲ期スル爲メ幅員三百二十七米ニ變更ス而シテ渫浚幅員變更ノ結果三保辨天地先ノ土地約五千八百二十五平方米ヲ買收スルモノトス

一、甲物揚場延長ノ內南端ヨリ二十二米ト其內側不二見埋立地ノ內面積六千三百五十平方米トヲ減ジ以テ小舟溜ニ充當セントス

一、貝島埋立地ノ南側ハ將來造船所用地ニ利用センガ爲メ其幅員西側ニ於テ十八米ヲ延長シ埋立面積六千百二十平方米ヲ增加ス而シテ南側ニハ木柵護岸工事ヲ施行セントス

鐵道省委託工事ハ巴川以南ノ埋立地三萬五千六百七十平方米ノ前面ニ水深七米三ノ繫船岸ヲ築造シ其前面約六萬六千平方米ヲ同水深ニ浚渫スルモノトス

施工狀況

岸壁工事ハ本年度ニ於テ大函三個ヲ製作進水シ內一函ハ甲岸壁、二函ハ鐵道省岸壁ヘ夫々沈設ス而シテ上部工事ハ甲岸壁七函分、乙岸壁八函分ヲ施行シ鐵道省岸壁ハ前年度ノ殘工事全部ヲ完成ス又護岸工事

ハ甲物揚場工事七函分、貝島北側護岸三十一函分ノ夫々上部工事ヲ完成ス其他不二見地先埋立地南側護岸工事ハ一部分ヲ殘シテ殆ト完成セリ此工費十五萬五千百八十三圓ナリ(内八萬一千七百二十圓ハ鐵道省負擔額)

埋立工事ハ三保地先三十四萬四百九十六立方米、清開地先二萬一千四百一立方米ノ埋立ヲ爲セリ又上均工事ハ不二見地先四千百十二平方米、三保地先三萬七千六百五十二平方米、清開地先四百二十平方米、合計四萬二千百八十四平方米ヲ施工ス此工費九萬二千七百六十三圓ナリ其他浚渫工事ニ依リ受新田地先二萬七千九百九十一立方米、清開地先二萬五千六百二十三立方米ノ埋立ヲ爲セリ

浚渫工事ハ椿號、菖蒲號、富士號(以上バケット式)草薙(喞筒式)第三號及第四號プリストマン式浚渫船、合計六隻ヲ使用シ航路及巴川河口附近ノ浚渫ヲ行フ土砂運搬ハ曳船小蒸汽船三隻、石油發動機船二隻及土運船百二十立方米積七隻、六十立方米積一隻、四十二立方米積二隻、二十四立方米積七隻ヲ使用ス此浚渫土量三十五萬四百八十一立方米ニシテ工費九萬二千三百五圓ヲ要セリ

浚渫土砂ハ既定埋立區域内投棄竝ニ當港ノ諸工事ニ利用シ又ハ民間ニ讓渡シ其他ハ港界外沖合ニ投棄セリ

營繕工事ハ主ニ諸修繕ヲ成シタルモノニシテ四百三十七圓ヲ要セリ

船舶機械修理製作トシテ事務所及機械工場所要諸機械ノ製作及浚渫船六隻、起重機船一隻、小蒸汽船四隻、自働艇及發動機船六隻、土運船十五隻、雜船三十九隻及其他諸器械ノ修理ヲ爲セリ此工費十三萬六千四百五十二圓ナリ(内鐵道省負擔額一萬三千三圓)

而シテ大正十三年十二月著工セル鐵道省委託ノ清水港内江尻石炭揚場工事ハ昭和四年三月三十一日ヲ

以テ竣功ス此工費總額四十八萬二千百二十圓ヲ要セリ

前述ノ如ク本年度ノ諸工事ハ概ネ所期ノ如ク進捗シ鐵道省委託工事費ヲ合セ工費五十四萬五千八百二十五圓ヲ要セリ

本年度ニ於ケル本修築工事竣功額ハ四十四萬四千九百八圓ニシテ累計五百五十四萬四千八十八圓ニ達セリ而シテ總工事費五百七十萬二千百圓ニ比スレバ九割七分ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ雜費中ニ土地收用ニ係ル金額三十七萬三千八百六十三圓ヲ含ミ又「●」ハ鐵道省委託工事ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功步合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及護岸費	七七八米 ● —	七八六、一四二円 ● 一六〇、一三七	—米 ● 二八二	七三、四六三円 ● 八一、七二〇	七七八米 ● 二八二	八五九、六〇五円 ● 二四一、八五七	〇・七一割分
浚渫費	三、五一三、四三三立方米 ● 四五八、五〇三	七六四、四七〇 ● 七五、五四一	三五〇、四八一立方米 ● —	九二、三〇五 ● —	三、八六三、九一四立方米 ● 四五八、五〇三	八五六、七七五 ● 七五、五四一	〇・九九
埋立費	一、二〇八、五八〇	二五三、五六六	三六一、八九七	九二、七六三	一、五七〇、四七七	三四六、三二九	〇・六八
營繕費	—	一四二、〇六一	—	四三七	—	一四二、四九八	—
船舶及機械費	—	二、四六七、一〇九 ● 一〇八、九三六	—	一二三、四四九 ● 一三、〇〇三	—	二、五九〇、五五八 ● 一二一、九三九	—
雜費	—	六五四、九二四 ● 三六、五八九	—	五四、八九〇 ● 六、一九四	—	七〇九、八一四 ● 四二、七八三	—
共濟組合給與金	—	三〇、九〇八	—	七、六〇一	—	三八、五〇九	—
總計	—	五、〇九九、一八〇 ● 三八一、二〇三	—	四四四、九〇八 ● 一〇〇、九一七	—	五、五四四、〇八八 ● 四八二、一二〇	〇・九七 ● 一・〇〇

第七　下關港修築工事

緒言

本工事ハ總豫算三百六十一萬圓(内下關市負擔百八十萬五千圓)ヲ以テ大正十年度以降七箇年度ノ繼續事業トシテ施行中ナリシガ豫算ノ關係上大正十二年度及同十四年度ニ於テ工期各一箇年度ヲ延長シ竣功期限ヲ昭和四年度トシ更ニ昭和三年度ニ於テ工費十五萬七千圓ヲ減額シ豫算總額三百四十五萬三千圓トナレリ

港狀竝計畫大要

下關港ハ本邦西部ノ要港ニシテ古來殷盛ヲ極ムト雖モ水深淺ク泊地狹隘ニシテ大船巨舶ヲ容ルルニ足ラズ殊ニ水陸聯絡設備ニ至リテハ一部鐵道構內沿岸ヲ除キ殆ント之ヲ缺キ輓近內外貿易ノ急激ナル發達ニ伴フ出入船舶ノ增加ト船型ノ增大ハ最早天然ノ形勝ノミニ依ルヲ容サザルニ至レリ然レドモ時運ノ趨勢ト財政ノ狀態ハ未ダ遽ニ大計畫ノ施設ヲ容ルル能ハザルベキヲ以テ暫ク之ヲ他日ニ讓リ先ヅ以テ焦眉ノ急ニ應ズル程度ニ於テ修築工事ヲ施サントス其計畫ノ大要左ノ如シ

停車場以東ニ屬スル部分ハ內外貿易用ニ充ツルモノニシテ其東端ハ內務省埋立地ニ接續シ現在海岸ニ沿ヒ幅五十四米內外ヲ干潮面以上三米八ニ埋立テ其前面ニハ東端ヨリ干潮面以下二米七岸壁延長二百六十七米、五米四岸壁延長二百二十七米、七米二岸壁延長五百九十六米ヲ築造シ七米二岸壁ノ西端延長線ニ沿ヒ延長百十八米ノ防波堤ヲ設ケ其內部ヲ船溜ニ充テ現在海岸ニ沿ヒ三米六岸壁延長百九十六米、一

米八岸壁延長四百九米ヲ築設シ尚二米七岸壁前面ニハ公共棧橋二箇所ヲ設置スルモノトス
停車場以西ニ屬スル部分ハ漁港ニ充ツルモノニシテ下關驛西端貨車航送船發著場ノ北方護岸ニ接續シ中間ニ於テ幅百九米内外ヲ干潮面以上三米八ニ埋立テ其前面ニ五米四岸壁延長三百四十三米、東側ニ護岸延長百七十七米、西側ニ二米七岸壁延長百三十八米及護岸延長三十米ヲ築造スルモノトス
埋立面積總計十三萬七千五百二十平方米ニシテ内東部八萬二千九百七十五平方米、西部五萬四千五百四十五平方米ナリ而シテ埋立地上ニ施設スベキ倉庫、上屋、鐵道、道路其他ノ諸設備ハ總テ後日ノ經營ニ待ツモノトス
岸壁ノ前面ハ總テ岸壁深ト同深ニ浚渫シ尚西部埋立地前面ニ横ハレル淺洲ヲ干潮面以下三米ニ同所ト停車場トノ間ニ介在スル淺瀨ヲ同五米四ニ浚渫スルモノトス

施工狀況

本年度ハ前年度ニ引續キ岸壁、防波堤、埋立及浚渫工事ヲ施行シ本年度ヨリ新ニ棧橋工事ヲ起セリ其概況左ノ如シ
岸壁用鐵筋混凝土函製作ハ五米四岸壁函全部(二十九個)ヲ大正十四年度末迄ニ七米二岸壁函全部(三十二個)ヲ前年度迄ニ完了セリ防波堤函ハ前年度中ニ四個ヲ製作進水シ尚ホ二個ヲ約九割迄完了シ本年度ニ入リ殘部ヲ完成セリ
岸壁及護岸用L型塊及方塊製作ハ西部埋立地ノモノハ大正十三年度迄ニ全部(方塊二百二十四個L型塊八十個)東部埋立地ノモノハ前年度迄ニ方塊六十一個L型塊二百七十二個ヲ製作シ本年度ニ於テハ方塊

四十個L型塊百六十五個及防波堤函内塡充用塊七十個ヲ製作セリ起工以來ノ累計ハ方塊三百九十五個L型塊五百十七個ニ達ス

岸壁及護岸築造工事ハ當初西部五米四岸壁ニ着手シ漸次東部ニ及ボシタリ西部工區ハ大略昭和元年度末迄ニ竣功シ本年度ニ入リテ竹崎護岸補修二米七岸壁繋船柱竝ニ二米七及五米四岸壁ノ防舷材修理ヲ完成シ茲ニ當區域ノ竣功ヲ見タリ

東部工區ハ大正十三年度ニ五米四及七米二岸壁ノ築造ニ著手シ前年度迄ニ上記兩者ノ大部分ヲ完成シ尙防波堤竝ニ三米六、一米八及二米七ノ各岸壁ヲ著手施工シ本年度ニ及ブ其狀況左ノ如シ

（イ）西部五米四及二米七岸壁　本年度ニ於テハ五米四岸壁防舷材三十七組ヲ修理シ二米七岸壁ハ防舷材修理二組、繋船柱九箇所ヲ完成セリ

（ロ）竹崎及今浦護岸　本年度ニ於テハ竹崎護岸ノ全長百七十七米ノ補修ヲ施行セリ

（ハ）東部五米四岸壁　前年度迄ニ於テ大略竣功シ只僅ニ二米七岸壁トノ接續部分ノ上部工事ヲ未竣功ニテ殘スノミナリシガ本年度ニ入リテ二米七岸壁ヲ施行スルニ伴ヒ本岸壁モ前記未竣功部ヲ完成ス之レヲ以テ本岸壁ハ防舷材修理ヲ除キテ他ハ全部完成セリ

（ニ）七米二岸壁　前年度迄ニ混凝土函及方塊ノ据付函内部塡充混凝土頂部混凝土ヲ殆ド完成セルヲ以テ本年度ハ未竣功ノ笠石、防舷材ヲ完成セリ本岸壁モ本年度ヲ以テ殆ント全部完成セリ

（ホ）東部二米七岸壁　大正十三年度ニ基礎床掘三十六米ヲ施行シ其後前年度ニ至リ殘部ノ床掘ヲ完成シ五米四岸壁ノ接續部ヨリ捨石ニ著手シ捨石九十八米餘、地形均約六十米ヲ完成セリ

本年度ニ於テハ捨石以下各工事全部殆ト完成シ僅ニ繋船柱及棧橋設置箇所ノ頂部混凝土工事ヲ殘スノ

ミトナレリ

（ヘ）東部三米六岸壁　前年度ニ防波堤トノ接續部ヨリ著工シ地形均六十四米L型塊三十八箇及方塊十箇ノ据付ヲ了セリ

本年度ニ於テハ前年度ニ引續キ捨石地形均塊据付ヲ施行シ是等諸工事ノ九割以上ヲ完成シ尙斜路石張五十三米、笠石五十四米及繫船柱五箇ヲ施行セリ

（ト）東部一米八岸壁　前年度ニ於テ細江船溜ニ面スル地域八十四米餘ノ基礎床掘ヲ施工シ本年度ニ於テハ同床掘二百十四米及岬之町地先捨石約九十一米、地形均七十六米餘ヲ施行セルモ塊据付其他ノ工事ニハ著手スルニ至ラズ

防波堤工事ハ前年度ニ捨石百四米餘、地形均百二米、函据付四個ヲ施行シ本年度ニ入リテ殘部ノ捨石、函据付以下上部諸工事モ大ニ進捗シ未完成部ハ上部混凝土防舷材及繫船柱ノ僅少ヲ殘スノミトナレリ

棧橋工事ハ關門連絡渡船其他港內交通汽艇ヲ發著セシムル鐵筋混凝土浮函二基及渡橋其他ヲ唐戶地先二米七岸壁前面ニ二箇所設置スルモノニシテ本年度ハ浮函二個ノ製作ニ著手シ約九割ヲ竣功セシメ其他渡橋懸柱約四割ヲ竣功セシメタリ

埋立工事ハ當初西部工區ノ埋立ニ著手シ次デ東部工區ニ施工シタルガ昭和元年度ニ前者ハ完成シ後者ハ前年度迄ニ五米四岸壁裏二百十四米、七米二岸壁裏四百八十五米ヲ竣功シ本年度ニ於テハ七米二及五米四岸壁裏ノ未竣功區域全部唐戶地先二米七岸壁裏全部及岬之町地先三米六岸壁裏ヲ屈折點ヨリ西方約四十五米ニ亙リテ施工シ之ヲ完成セリ而シテ竣功箇所ノ內東部工區ハ竣功ニ伴ヒ逐次下關市ニ對シ一時其利用ヲ承認シ又西部工區ハ全部完成セシニ依リ道路敷其他國有トシテ存置スルモノヲ除キ之ヲ

下關市ニ下付スルコトトナリ昭和三年十月三十一日實地引渡ヲ了セリ

浚渫工事ハ前年度迄ニ西部工區ニ於テハ彥島埋立地前面淺洲中西北部ノ一小區域ヲ除ク全區域ヲ東部ニ於テハ細江船溜內ノ一部分竝ニ五米四及七米三ノ兩岸壁前面ヲ岸壁ニ沿ヒ幅約五十四米ト岬之町沖東南部面積約一萬八千百八十平方米及唐戸町地先二米七岸壁前面全部ヲ夫々浚了セシガ本年度ニ於テハ細江船溜內東北隅面積約三千三百餘平方米及東部區域ニテ五米四岸壁前面ノ東北部面積約九千九百二十平方米竝ニ岬之町面積三萬三千六十平方米ヲ浚了セリ

其他下水工事竝ニ諸機械運轉雜石、砂利、砂等ノ直營採取工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ三十一萬四千二十圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百五十四萬三千四十三圓ヲ算シ工費總豫算三百二十萬六千百圓ニ對シ七割八分ノ竣功ナリ其工事竣功表左ノ如シ但シ表中「*」ハ下關市及民間ヨリ埋立地內ニ搬入投棄セル土量「○」ハ評價品見積價額ニシテ岸壁及防波堤竣功金額中ニハ函工場設備費、型枠費及雜石、砂利、砂等ノ採取費竝ニ工事用諸機械運轉費ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
岸壁及防波堤費	—	一、一五六、八二八円 ○ 七、二〇六	—	一二九、四〇四円 ○ 一、二七二	—	一、二八六、二三二円 ○ 八、四七八	割分 ○・九二
棧橋費	—	— ○ —	—	二七、一一九 ○ 六三	—	二七、一一九 ○ 六三	○・五四
埋立費	* 八二三、二二九立方米 五五、〇七六	一三〇、二七四 ○ 五、六四一	* 二〇二、〇〇〇立方米 八、一三〇	三四、三八六 ○ 一、八二二	* 一、〇二五、二二九立方米 六三、二〇六	一六四、六六〇 ○ 七、四六三	○・七三
浚渫費	四一六、四三六	一四八、九八五 ○ 一、五五二	一三三、四六七	三二、七七二 ○ —	五四九、九〇三	一八一、七五七 ○ 一、五五二	○・九〇
船舶及機械費	—	六二六、一三六 ○ 四、四七八	—	五九、八六一 ○ 一、四九一	—	六八五、九九七 ○ 五、九六九	—
營繕費	—	一一、八二三 ○ 一四	—	六四三 ○ —	—	一二、四六六 ○ 一四	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
雜費	—	○ 一四二、八七三.五〇円	—	○ 二六、一八〇.四〇円	—	○ 一六九、〇五三.九〇円	割分 —
共濟組合給與金	—	一二、一〇七	—	三、六五五	—	一五、七六二	—
總計	—	二、二二九、〇二三	—	三一四、〇二〇	—	二、五四三、〇四三	〇・七八

第八　高松港修築工事

緒言

本工事ハ香川縣ノ起業ニ係ル大正十一年度ヨリ同十五年度ニ至ル五箇年度ノ繼續事業ニシテ總工費二百二十萬圓（內事務費十三萬三千九百二十五圓）ノ半額ヲ國庫ヨリ補助シ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行シタリシガ國庫財政ノ都合ニ依リ工期ヲ一箇年度繰延ベ竣功期ヲ昭和二年度トセシモ同年度ニ工事竣功ニ至ラザリシ爲メ更ニ一箇年度ヲ延長シ本年度ニ於テ其竣功ヲ告ゲタリ

港狀並計畫大要

本港ハ南ニ肥沃ナル讃岐平野ヲ控ヘ屋島山海中ニ突出シ西方ニ王越半島ヲ望ミ前面ハ女木、男木ノ兩島相連リテ港北ヲ扼ス而シテ北東及北西ハ海路ノ深度大船巨舶ノ航行ニ適シ岡山縣宇野港ヲ距ルコト僅ニ十一浬ニ過ギズ四國四縣中最モ景勝ニ富ム內海ノ要港タリ高松市ハ今ヲ距ル三百年前即チ寛永年間ヨリ松平氏カ居城ト爲シタル地ニシテ當時之ヲ玉藻城ト稱シ附近一帶ノ海岸ヲ玉藻浦ト呼ベリ船舶ノ出入ニハ地勢上自ラ東濱、堀川及西濱ノ三港ニ分タレ東濱港ハ商船ノ出入ニ又西濱港ハ漁業者ノ專用ニ供セラレ堀川港ハ藩船ノ繫留場タリシガ維新後是等ヲ高松港ト稱スルニ至レリ

明治三十四年七月縣費ノ補助ヲ得高松市ニ於テ修築工事ヲ起シ工費二萬八千餘圓ヲ投ジテ西部堀川港ニ於テ水面積二十萬四千平方米ヲ抱擁スル東西二條ノ防波堤ヲ築造シ兼テ港內主要部ノ浚渫、堀川港及沿岸ノ埋立、棧橋ノ築設等ヲ企テ同三十七年九月之ヲ完成シ以テ現在ノ本港ヲ形成スルニ至レリ

爾來時勢ノ推移ニ伴ヒ年ト共ニ貨客船舶ノ出入著シク増加シ殊ニ宇野港トノ間ニ船車聯絡ノ設備成リ貨車航送ノ實施セラレシ以來本港ノ利用上ニ一新紀元ヲ劃シ更ニ擴張ノ必要生ジタルガ故ニ大正八年香川縣ニ於テハ港灣調査會ヲ設置シ之レガ調査ヲ進メ越ヘテ同十年六月ニハ内務省ニ於テ本港ヲ第二種港灣ニ編入シタリ

現今ニ於ケル高松港ノ狀態ハ東西兩防波堤ヲ以テ限ラレタル區域内ナリト雖モ從來ノ所謂高松港ナルモノハ前述ノ如ク東濱港及西濱港其他ヲ包含スルモノニシテ其東端ニ位スル杣場川ハ水深極メテ淺ク大潮干潮ニ於テハ全部川底ヲ露出シ一部ハ貯木場ニ充ツルモ一般船舶ノ出入多カラズ東濱港ハ帆船ノ出入頻繁ニシテ主トシテ農產物及肥料類ノ集散ニ利用セラレ中川港ハ水面積狹ク小船ノ修理及繋留場ニ充ツルニ過ギズ此東西兩防波堤ヲ以テ圍マレタル現在高松港ノ東半部ハ水深淺キ爲メ荷役ノ設備ヲ缺キ剩ヘ陸上ハ舊城趾ニ遮ラレテ運輸交通上ノ不便尠カラズ西半部ハ縣營棧橋竝ニ鐵道棧橋、貨車航送設備、共同荷役場、坂出地方專賣局高松出張所等アリ港内ハ大小船舶常ニ輻輳ヲ極ムルニ反シ西濱港ハ單ニ漁船溜ニ過ギザルナリ

本港々外東西ノ二方ハ所謂遠淺ニシテ港口ヨリ沖合ハ急ニ水深ヲ加フ海底ハ概シテ僅少ノ粘土ヲ含ム細砂ニシテ岩盤ナキガ故ニ錨碇、浚渫或ハ構造物ノ基礎トシテハ强チ憂フベキ土質ニアラザルノミナラズ土砂ノ移動モ亦大ナラズ波浪平靜ニシテ潮流速度ハ毎時二浬ヲ超ヘズ大潮平均干滿ノ差二米四ニシテ四季降雨少ク氣候温暖ニシテ暴風ノ襲來スルコトアリト雖モ永年ノ記錄ニ徵スルニ北々東風三十五米ハ其最大風速ニシテ冬季ニ在リテハ西南西ノ强風多シトス而シテ本港ノ計畫大要左ノ如シ

北防波堤ハ延長八百米ニシテ舊東防波堤頭部ヲ起點トシ東濱地先計畫埋立地前面ニ竝行シテ築造シ又

新設東防波堤ハ延長七百九米ニシテ柚場川口右岸ヨリ北方ニ向ツテ築造シ前者ノ東端トノ間ニ幅員三十六米ノ副港口ヲ存置シ現在ノ東防波堤ハ全部之ヲ撤去シ又中川港ノ港口北東隅ヨリ突出スル突堤ハ其先端ヨリ十八米ヲ除却シ尚東濱港内ノ突堤二箇所ハ之ヲ除却スルモノトス

埋立ハ玉藻町地先ニ於テ幅員十八米面積一萬五千五百二十平方米ヲ干潮位上三米ニ埋立テ(棧橋附近ハ適當ノ幅員ニ埋立ツ)又下横町地先ニ於テ面積一萬六千五百平方米、八重垣新地々先ニ於テ面積約二萬六千四百平方米ノ埋立ヲ以テ荷揚場倉庫、道路及鐵道敷地ニ供シ埋立ノ前面ハ水深二米七ノ物揚場護岸トシ其他ハ一米八ノ護岸トス

浚渫ハ港内ノ主要部分水面積十三萬二千平方米ヲ最干潮位以下六米四ニ浚渫シ一千五百噸級汽船ノ碇繫場ニ供シ尚港内ヲ適當ノ水深ニ浚渫ス此浚渫總面積四十六萬二千平方米、土量約百三十八萬立方米ナリ

新設棧橋ハ其根元ヲ現在棧橋ノ位置ヨリ東方百九米ノ地點ニ定メ港口ノ中心ニ向ツテ築設シ其兩側ヲ利用スルコトヲ得セシメ而シテ現在ノ棧橋ハ新設棧橋ノ位置ヨリ更ニ百十八米東方ニ移設スルモノトス

當初計畫前記ノ如クナリシガ大正十五年八月及昭和二年八月其一部ヲ左記ノ如ク變更ス

一、東濱港口ニ於ケル小突堤部ニ接續スル地域約五千九百四十平方米(内民有ニシテ買收スベキモノ約三千九百六十平方米ヲ算ス)ヲ干潮位下二米四ニ掘鑿浚渫シテ之ヲ擴張シ其沿岸竝ニ之ヲ接續スル北方ヲ水深一米八ノ荷揚場護岸ヲ築造シ尚其一部ノ埋立ヲ行フ

二、既定計畫ニ基ク中川港ノ浚渫ヲ廢シ此面積約一萬一千五百五十平方米ヲ干潮位上三米ニ埋立テ其南

西隅ニハ土留護岸ヲ築造シ北方前面ハ水深二米七ノ荷揚場護岸ヲ築造ス

三、既定計畫ニ屬スル水深六米四部ノ東方ニ接續スル水深三米六浚渫部分ノ内面積約二萬三千百平方米、浚渫區域外約八千九百十平方米、合計三萬二千十平方米ヲ六米四ニ浚渫シ既定計畫ト共ニ水深六米四ノ泊地面積ヲ合計十六萬五千平方米ニ達セシメントス

四、高松港東濱町地先（東濱港内東側）在來護岸ノ前面ニ平均約十八米ヲ隔テ水深一米八護岸延長百九十五米ヲ築造シ内部ヲ埋立テ之ヲ荷揚場ニ供シ新設護岸ヨリ約九米ヲ隔テタル前面ヲ浚渫ス

施工狀況

本年度ニ於テハ前年度ヨリ繰越シタル殘工事整理トシテ浚渫、埋立、護岸工事等ノ小部分ヲ完成シテ全ク竣功ヲ告ゲタリ左ニ其施工概要ヲ記述セントス

護岸工事ニ於テハ東濱港一米八護岸西側二百五米、階段三米六、東側ニ屬スル荷重三十米九、方塊沈積百二十米、物揚場二百十二米七、階段三米六ヲ施工シタル外矢板四十三本ノ製造ヲ完成シテ全部計畫通竣功シタリ

防波堤築造工事ハ東防波堤ニ於テ石垣未竣功部二十米ニ對シ既設浮函製造設備ヲ香川縣ヘ移付スル關係上施工ノ必要ナキニ至リ其儘ニテ竣功シタリ

浚渫工事ニ於テハプリストマン式浚渫船及鋤鏈式浚渫船ヲ運轉シテ土量六萬八、百十立方米ヲ得而シテ浚渫土量ノ内東濱港埋立用二千八百八十立方米、混凝土用三百立方米ヲ利用シテ殘餘五萬七千六百三十立方米ヲ港外ニ投棄セリ

埋立工事ニ於テハ東濱港埋立用土砂ヲ一旦港内適當ノ箇所ニ假置ヲ爲シ後ポンプ船ニテ吸揚排砂シタルモノニシテ此土量三千百八十立方米ナリ

燈臺ハ前年度ニ於テ北防波堤西端及西防波堤東端ニ燈體各一基ヲ建設シタルモ北防波堤燈臺ニ在リテハ本年度ニ於テ殘部ヲ完成シ昭和四年三月一日香川縣ヘ移付シタリ

本年度ノ工事竣功高ハ六萬三十三圓ニシテ竣功累計ハ二百六萬七千五十八圓ニ達シ總工事費二百六萬七千五百七十五圓(流用額ノ關係上一千五百圓ヲ增加ス)ニ比シ五百十七圓ヲ不用額トシテ全ク竣功セリ其竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ直營採取材料代「■」ハ寄附材料代ナリ尚之ニ事務費ヲ加算スル時ハ總竣功高二百十九萬八千八百八十四圓ナリトス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
護岸費	五、四五四米	二六七、八五〇円 ×九、五七一 ■—	一九〇米	二五、三九四円 ×— ■六二	五、六四四米	二九三、二四四円 ×九、五七一 ■六二	一・〇〇割分
埋立費	二四九、六七八立方米	四〇、〇五九 ■一、三〇六	三、一八〇立方米	二、八九四 ■二三一	二五二、八五八立方米	四二、九五三 ■一、五三七	一・〇〇
防波堤費	一、八〇八米	一六八、四一五 ×八、五九九	—	— ×—	一、八〇八米	一六八、四一五 ×八、五九九	一・〇〇
浚渫費	一、五一三、七五八立方米	三一七、二五六 ■三、七〇八	六〇、八一〇立方米	一七、五六八 ■七九二	一、五七四、五六八立方米	三三四、八二四 ■四、五〇〇	一・〇〇
棧橋費	一、七四五平方米	一一〇、一八二 ×一、八三六 ■八、八七〇	—平方米	— ×— ■—	一、七四五平方米	一一〇、一八二 ×一、八三六 ■八、八七〇	一・〇〇
防波堤取除費	六〇七米	二五、五九六	—米	—	六〇七米	二五、五九六	一・〇〇
材料採取費	—	二〇、二三九	—	—	—	二〇、二三九	—
船舶及機械費	—	七四七、五四九	—	三、五八六	—	七五一、一三五	—
雜工事費	—	三七、九九三 ×一六	—	一、一七〇 ×—	—	三九、一六三 ×一六	—
營繕費	—	二五、八一七 ×二一七	—	一 ×—	—	二五、八一八 ×二一七	—

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
雜費	—	円 八八、〇四二	—	円 八、九一二	—	円 九六、九五四	割分 —
共濟組合給與金	—	六、二二六	—	五〇八	—	六、七三四	—
用地費	—	一五一、八〇一	—	—	—	一五一、八〇一	—
總計	—	■ 二、〇〇七、〇二五 一三、八八四	—	■ 六〇、〇三三 一、〇八五	—	■ 二、〇六七、〇五八 一四、九六九	一・〇〇

第九　敦賀港修築工事

緒　言

本工事ハ事業費三百十九萬圓、事務費二十一萬圓、合計三百四十萬圓（内福井縣負擔五十萬圓）ヲ以テ大正十一年度ヨリ昭和四年度ニ至ル八箇年度繼續事業ナリシモ同十二年度ニ至リ關東大震火災ノ影響ニ因リ竣功期ヲ昭和五年度迄繰延ベ施行スルコトトナレリ次デ昭和二年二月既定計畫ノ一部ヲ變更スルト共ニ既設棧橋西方岸壁ヲ鐵道省委託工事トシテ工費四十萬圓ヲ以テ施行スルコトトナリタリ

港狀竝計畫大要

本港ハ古來北海ノ要衝ニ當リ其地勢東南西ノ三方ハ連山ニテ圍繞セラレ獨リ北方ノ一面ノミ廣ク日本海ニ通ジ港內廣潤ニシテ水深ク大船巨舶ノ碇繫ニ便ナルモ尙此地方ニ多キ偏北風ニ對シ安全ナル能ハザルヲ以テ曩ニ明治四十二年度ヨリ大正二年度迄ニ工費七十三萬圓餘ヲ以テ金ケ崎突堤ヲ延長シ灣內ノ浚渫、埋立、棧橋等當面ノ急ニ應ズル施設ヲ爲セシモ其後軍事上及經濟上愈々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リタルノミナラズ貨客ノ激增ニ依リ到底從來ノ設備ヲ以テ甘ンズベカラザルヲ以テ本計畫ヲ樹ツルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ左ノ如シ

一、防波堤　既設防波堤ヲ同一方向ニ三百九十一米延長シ北風ニ對シ笙ノ川見透線以東ノ水面ヲ掩護セントス

一、岸壁及埋立　既設棧橋西方ニ之レニ接續シテ幅平均五十五米、長百六十四米ヲ埋立テ其前面ニ水深八

米五岸壁ヲ築造シ六千噸級汽船一隻ノ接岸荷役ニ供シ笙ノ川右岸ヨリ長三百四十五米、幅九十一米ノ繋船埠頭ヲ築造シ其内側ニ八米五岸壁百六十四米竝ニ七米三岸壁五十四米ヲ築キ六千噸級汽船一隻又ハ三千噸級汽船二隻ノ接岸荷役ニ供シ又該埠頭ト兒屋ノ川川口トノ間ニ長四百九十米、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ七米三岸壁三百九米、五米五岸壁二百米ヲ築造シ三千噸級汽船二隻及二千噸級汽船其他小型船ノ接岸荷役ニ供セントス

一、浚渫　岸壁ノ築造ニ伴ヒ港内ノ水深モ之レニ相應セシムル樣浚渫ヲ施シ以テ水深七米三以上ノ水面三十三萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立總土量六十萬立方米其面積約七萬五千平方米ナリ

上述ノ計畫ニ基キ著々工事ノ進捗ヲ圖リ居リシモ昭和二年二月其計畫ノ一部ヲ左ノ如ク變更シタリ

一、防波堤及防砂堤　既定計畫防波堤ヲ更ニ百二十米延長シ又笙ノ川左岸ニ長三百八十米ノ防砂堤ヲ新設シ以テ笙ノ川ヲ港内ニ抱擁シテ港内ノ水面積ヲ擴大シ船舶碇繋ノ便ヲ圖ラントス

一、岸壁及護岸　既定計畫ノ繋船埠頭ハ之ヲ廢シ兒屋ノ川左岸ヨリ笙ノ川右岸迄長約五百八十六米五、幅約七十三米ヲ埋立テ其前面ニ兒屋ノ川左岸ヨリ二百米ニ五米五岸壁、其西端ヨリ長約二百二十三米ニ七米三岸壁ヲ築カントス又七米三岸壁ノ西端ヨリ笙ノ川ニ達スル百六十三米ニ物揚場護岸ヲ設ケ艀船或ハ小型船ノ接岸荷役ノ用ニ充テ將來必要ニ應ジ岸壁ニ變更可能ノモノトス

既設棧橋西方埋立及岸壁工事ハ既定計畫ニ基キ其儘鐵道省委託工事トシテ施行ス

一、浚渫　繋船埠頭廢止ノ結果水深八米五ノ浚渫ヲ廢シ約八萬平方米ノ水面ヲ七米三ニ浚渫シ以テ水深七米三以上ノ水面四十萬平方米ヲ得ントス是等浚渫土砂ハ全部埋立ニ利用スル見込ニテ埋立總土量二

十一萬立方米ニシテ埋立面積内務省工事約四萬四千平方米、鐵道省工事約八千平方米ナリ

施工狀況

本年度ニ於テ施行セシ工事ノ概要ヲ述ブレバ左ノ如シ

函製造工事ハ岸壁、防波堤及防砂堤用函ヲ製造スルモノニシテ前年度ヨリ引續キ施行シ本年度内ニ防波堤用九米五函六個、防砂堤用三米函十個、七米三岸壁用八米函五個ヲ製作進水セリ此工費防波堤用函製造工事四萬九千七百七十六圓、防砂堤用函製造工事七千二百九十四圓、七米三岸壁用函製造工事三萬五千九百七十六圓ナリ

埋立工事本年度ノ工程ハ内務省工事二萬五千六十三立方米、鐵道省委託工事八萬六千二十八立方米、其工費前者九千九百三十七圓、後者三萬五百五十三圓ニシテ埋立土砂ハ主トシテ浚渫船ニ據リ豫定區域内ヲ浚渫セルモノニシテ一部沓採石場不用土砂ヲ利用セリ

採石工事中割石ハ敦賀港ヨリ海上四粁ヲ距ツル沓及五粁ノ箇所ニアル鷲崎ヨリ斫出シ之ヲ運搬船ニ受ケ曳船ニテ當港ニ曳船シ所要工事ニ配付スルモノニシテ本年度工程ハ内務省工事用トシテ四萬八百五十九立方米此工費十萬九千百八十一圓、鐵道省工事用四千八百四十五立方米此工費二萬四千七百一圓ナリ

野面石ハ敦賀灣内ニテ直營採取スルモノニシテ本年度ニ於テ六千五百六十立方米ヲ採取セリ此工費一萬六千四百三十一圓ナリ

砂及砂利ハ敦賀港内及三方郡南西郷村松原、同郡耳村和田地先沿岸ヨリ直營採取セルモノニシテ本年度

內務省工事用トシテ砂六千八百六十三立方米及砂利一萬七百三十三立方米ヲ採取シ工費二萬九千六百二十三圓ヲ要シ又鐵道省委託工事用トシテ砂一千百三十三立方米及砂利五百七十七立方米ヲ工費二千四二百十九圓ヲ以テ採取シタリ

鐵道省委託工事ノ八米五岸壁ハ前年度ヨリ引續キ之レヲ施工シ本年度ニ於テ函据付一個、中埋混凝土二個及上部壁體混凝土延長九十六米餘ヲ施シ工費二萬五百三十圓ヲ支出セリ

防波堤工事ハ前年度ヨリ引續キ基礎捨石ヲ施スト共ニ保護方塊三百五十四個ノ製作ヲ爲シ進ンデ函八個ノ据付、中埋竝ニ繼手混凝土及內外側保護方塊ノ据付ヲ完了シ此工費十萬九千八十八圓ナリ

防砂堤工事ハ昭和三年六月一日著手以來捨石堤部及直立堤部ノ基礎捨石ヲ施シ函七個ノ据付、五個ノ中埋砂及混凝土竝ニ陸岸取付部方塊捨石堤部ト直立堤部トノ繼手箇所ノ方塊据付ヲモ完了シ工費三千六百六十一圓ヲ要セリ

五米五岸壁工事ハ本年度函据付一個、中埋混凝土一個ヲ了シ工費四百十二圓ヲ支出セリ

七米三岸壁工事ハ五米五岸壁ニ接續シテ西方ニ延長スルモノニシテ昭和三年六月六日起工シ本年度內ニ函据付三個、中埋混凝土二個ヲ爲セリ此工費五千七百二十八圓ナリ

鐵道省委託工事ノ第一回大函設備修繕工ハ前年度ニ於テ固定臺ノ一部取替及滑臺一臺「ドックショアー」ノ製作ヲ爲セシヲ以テ本年度ニテ固定臺ノ殘部取替等ヲ爲セリ此工費五千七百十八圓ナリ

鷲崎石材積出埠頭第二回新設工事ハ昭和四年三月十六日著手シ工費三百三十六圓ヲ要セリ此外石材積出埠頭擴張工及補修工、鷲崎石材積出埠頭新設工、防砂堤用函製作臺工ハ全部本年度內ニ竣功シタリ

船舶機械ノ修理製作ハ主トシテ附屬機械工場ニ於テ直營施行セルモ一部止ムヲ得ザルモノニ限リ請負

ニ附セリ其主ナルモノハ浚渫船、起重機船、汽艇混和船、土運船等ナリ

本年度敦賀港修築工事竣功額ハ四十九萬九千九百七十二圓ニシテ起工以來本年度迄ノ累計ハ二百二萬七千四百八十四圓トナリ總工事費三百十九萬圓ニ比スレバ約六割四分ノ竣功トナル又鐵道省委託工事本年度竣功額ハ十一萬五千百五十七圓、起工以來累計三十六萬四百二十一圓トナリ總工費四十萬圓ニ比スレバ九割ニ當ル其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「○」ハ製作品、無償品、直營所出石材及採取砂、砂利價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
內務省工事							
岸壁及護岸費	—	一六二、二七一円 ○三七、二六八	—	四八、二三三円 ○九、三五四	—	二一〇、五〇四円 ○四六、六三二	〇・三六割分
防波堤費	—	四四五、〇二〇 ○二二五、六〇四	—	三二三、三一五 ○一四四、二五八	—	七六八、三三五 ○三六九、八六二	〇・五二
埋立費	一〇三、八九四立方米	四八、八〇七	二五、〇六三立方米	九、九三七	一二八、九五七立方米	五八、七四四	〇・五六
雜工事費	—	六、四七二 ○二、七四七	—	○ —	—	六、四七二 ○二、七四七	—
船舶及機械費	—	六〇八、二五四 ○四、八九七	—	六三、〇三〇 ○二、三一四	—	六七一、二八四 ○七、二一一	—
測量及檢潮費	—	四、〇四五 ○三	—	一、三六一 ○—	—	五、四〇六 ○三	—
營繕費	—	四三、七四〇 ○四四二	—	七六〇 ○一一	—	四四、五〇〇 ○四五三	—
雜費	—	一九九、四〇四 ○一、五二六	—	五〇、〇七七 ○一三	—	二四九、四八一 ○一、五三九	—
共濟組合給與金	—	九、四九九	—	三、二五九	—	一二、七五八	—
亡失毀損費	—	○ —	—	○二六五	—	○二六五	—
總計	—	一、五二七、五一二	—	四九九、九七二	—	二、〇二七、四八四	〇・六四

鐵道省委託工事

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
岸壁及護岸費	—	一九四、六七〇円 ○四八、五八八	—	五三、三七八円 ○二八、六四三	—	二四八、〇四八円 ○七七、二三一	〇・八七割分
埋立費	三八、三九八立方米	二五、八四四	八六、〇二八立方米	三〇、五五三	一二四、四二六立方米	五六、三九七	〇・五九
船舶及機械費	—	一四、一四三	—	一九、九八九 ○一	—	三四、一三二 ○一	—
測量費	—	六一	—	一三四	—	一九五	—
營繕費	—	一、六七七	—	〇	—	一、六七七	—
雜費	—	二、六〇二 ○二四〇	—	四、二二六 ○	—	六、八二八 ○二四〇	—
事務費	—	六、二六七	—	六、八七七	—	一三、一四四	—
總計	—	二四五、二六四	—	一一五、一五七	—	三六〇、四二一	〇・九〇

第一〇　境港修築工事

緒　言

本工事ハ總豫算百八十萬圓(内工費百六十九萬百圓、事務費十萬九千九百圓)ニシテ其半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十一年度ヨリ昭和二年度ニ至ル六箇年度ノ繼續事業ナリシガ大正十二年九月關東大震火災ノ影響ヲ受ケ工期二箇年度ヲ延長シ昭和四年度ニ竣功セシムルコトトナレリ工事ハ鳥取縣ノ企業ニ係ルモノナルガ明治三十年法律第三十七號ニ依リ國ニ於テ直接施行スルモノトス

港狀並計畫大要

境港ハ日本海ニ於ケル樞要港灣ニシテ山陰唯一ノ天然良港タリ殊ニ朝鮮及西比利亞方面トノ通商貿易上至便ノ位置ニ在リト雖モ港口常ニ砂洲ノ爲メ閉塞セラレ水陸聯絡亦不完全ナルヲ以テ從來之レガ利用ヲ完フスル事能ハズ先キニ明治三十七年物揚場トシテ市街沿岸一千四百十八米ニ平均幅三米六ヲ埋築セシモ唯小船舶ノ繫留ニ適スルニ過ギズ爾後明治四十一年航路維持ノ爲メ長一千四百五十五米ノ捨石堤ヲ施シ同時ニ航路ヲ浚渫セシモ其效果完カラズ然ルニ輓近出入船舶ノ增加ト船形ノ增大ハ最早現狀ニ委スルヲ許サザルニ至レリ殊ニ近來山陰線全通ノ爲メ本港ハ益々重要ノ地位ヲ占ムルニ至リ之レガ修築ハ一日モ緩フスベカラザルニ至レリ今其計畫ノ大要ヲ記セバ次ノ如シ

一、埋立　停車場地先ニ於テ長四百十八米、幅三十六米内外ノ水面ヲ干潮面上一米五ニ埋立ツルモノトス

一、岸壁　埋立地ノ前面ニ干潮面以下六米四岸壁二百七十三米、同五米五岸壁九十一米ヲ設ケ一千噸級乃

至二千噸級ノ船舶四隻ヲシテ同時ニ繫留ノ用ニ供シ其他ノ沿岸五十四米ニハ物揚場及護岸ヲ設ク

一、防波堤　御台場鼻ヨリ南方二百十八米ノ海岸ニ起リ東方ニ向ヒ延長八百三十六米ニ至リ直角ニ北折シテ延長三百八十二米ニシテ舊捨石堤ニ連續セシメ且該堤ヲ利用增築シ更ニ其尖端ヲ延長シテ一千七百米ニ至リ七米三ノ水深ニ達セシム其延長二千九百十八米ナリトス

一、浚渫　埋立地前面ノ水面約十九萬八千三百五十平方米ヲ浚渫シ船舶繫留ノ用ニ供シ之レニ通ズル航路トシテ延長四千三百六十四米ノ間幅九十二米乃至百八十二米ヲ干潮面下六米四乃至七米三ニ浚渫スルモノトス此浚渫總面積約三十八萬三千四百七十平方米、土量百十萬二千百立方米ナリ

施工狀況

本年度施行工事ハ前年度ニ引續キ防波堤ノ基礎捨石竝ニ上面混凝土方塊ノ疊積及浚渫岸壁ノ各工事ト昭和三年十一月ヨリ施行セシ埋立工事等ヲ主ナルモノトス其他採石工事方塊及L形塊製造防舷材繫船柱工事、護岸工事等モ施行セリ又曳船汽艇ハ前年度同樣壽丸外三隻ニシテ監督竝ニ雜用ニハ發動機船電車丸ヲ使用セリ各工事施行ノ狀況等左ノ如シ

一、防波堤工事　前年度ニ引續キBC幹部接續部分竝ニC幹部百七十一米ノ部分ニ捨石ヲ施行シ上部ニ混凝土方塊ノ疊積ヲ了セシニ依リABC幹部ノ內C幹部二十三米ヲ餘ス外全部竣功ヲ告グルニ至レリ尙C幹部接續尖端部四十米ノ部分ニモ捨石ヲ施行シ內二十米ハ方塊ノ疊積ヲ爲セリ本年度ニ於ケル捨石數量ハ二千九百五十六立方米ニシテ混凝土方塊ノ使用數量ハ五百十六個ナリ

一、浚渫工事　前年度ニ引續キ喞筒式浚渫船櫻島丸及バケツト式浚渫船ノ二隻竝ニ本年度ヨリ喞筒式浚

浚渫船中海ヲモ使用運轉シ主トシテ境町地先ヨリ森山村大字福浦字玉井地先ニ渉ル航路ノ浚渫ヲ爲シ字玉井地先ノ一少部分ヲ殘スノ外本區域ハ竣成ヲ告グルニ至レリ倘森山村大字森山字小中村地先ヲモ浚渫ニ著手シ一小部分ヲ竣成セシメタリ而シテ是等本年度内ノ浚渫土量ハ二十七萬四千百六十六立方米ナリ

一、岸壁工事　前年度ニ引續キ五米五岸壁及六米四岸壁ノ基礎捨石ヲ爲シ二十噸吊起重機船ヲ使用シL形塊及方塊ノ据付ケヲ行ヒ次デ裏込ノ雜石捨込ヲ施シタリ其結果本年度ニ於テ五米五岸壁ニ在リテハ長八十米ハ全部竣工シ六米四岸壁ニ在リテハL形塊長百七十二米方塊長百八米ノ据付ヲ爲セリ而シテ是等築造ノ爲メ使用シタル數量ハ基礎捨石一千二十九立方米、L形塊百七十四個、方塊三十九個、裏込捨石六千六百六十六立方米ナリ

一、埋立工事　本工事ハ境町停車場構内前面ノ海岸ト岸壁間トノ海面約一萬二千六百平方米ヲ干潮面上一米五ノ高サニ埋立ツルモノニシテ岸壁工事ノ進捗ニ伴ヒ昭和三年十一月ヨリ著手シ先ヅ埋立區域内水深部分ハ土運船ニ據リ浚渫土砂ノ直接捨込ミヲ行ヒ一方喞筒式浚渫船中海ヲ使用シ吸揚埋立ヲ爲セリ年度内ノ埋立土量ハ二萬九千二十四立方米ニシテ其結果約二千百平方米ノ部分ハ竣成ヲ見ルニ至レリ

一、護岸工事　本工事ハ岸壁ノ東西兩端ヨリ在來ノ海岸ニ接續シ護岸ヲ築造スルモノニシテ年度末三月ニ於テ著工セリ從テ年度内ニ於テハ基礎捨石ノ一部分ヲ施行セシニ過ギズ

一、防舷材及繋船柱工事　岸壁全長ニ渉リ防舷材ヲ設ケ繋船柱ハ五米五岸壁ニ二箇所、六米四岸壁ニ七箇所ヲ設置スルモノニシテ昭和三年五月工事ニ著手シ年度内ニ防舷材長百七十七米ヲ設置セリ

一、採石工事　前年度同樣島根縣八束郡森山村大字福浦字玉井地内ニ於テ直營ニテ雜石ヲ採取スルモノニシテ採取石材ハ防波堤基礎捨石及岸壁ノ基礎捨石竝ニ裏込石ニ主トシテ使用セリ年度内採石數量ハ八千百三十立方米ナリ

一、方塊製造工事　本工事ハ防波堤、岸壁、護岸用ノ方塊ヲ製造スルモノニシテ工事ノ進捗ニ伴ヒ方塊ノ送出及積込ヲモ施行セリ年度内ニ於ル製造數量ハ防波堤用百八十三個、岸壁用九十四個、護岸用十三個ナリ

一、L形塊製造工事　前年度ニ引續キ岸壁用鐵筋混凝土L形塊ヲ製造スルモノニシテ之レガ移動送出ヲモ行ヒ本年度ニ於テ製造ヲ完了セリ年度内製造數量ハ甲塊三十三個、乙塊百二十七箇ナリ

一、前記以外ニ於テ方塊及L形塊製造ノ爲メ直營ニテ採砂ヲ施行セリ

本年度ノ竣功高ハ二十六萬七千四百四十三圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百四十五萬二千六百七十一圓ナリ總豫算額(事務費ヲ除ク)百六十九萬百圓ノ約八割六分ニシテ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「×」ハ直營斫出石材及砂利、砂、採取使用價額「△」ハ製作品使用價額「○」ハ無償品評價額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
岸壁及防波堤費	—	○四九三、四五〇 △一五二、八七〇 ×一二二、〇四五 二七	—	○一二三、八九八 △二四、三二九 ×七一、四八九 一	—	○六一七、三四八 △一七七、一九九 ×一九三、五三四 二八	〇・八三
浚渫費	六〇九、七二五	一四〇、六〇七	二七四、一六六	六三、八〇〇	八八三、八九一	二〇四、四〇七	〇・七六
埋立費	—	—	二九、〇二四	二、五〇三	二九、〇二四	二、五〇三	〇・一五
船舶及機械費	—	三四五、六三七	—	三五、二四一	—	三八〇、八七八	—
測量費	—	一、八一〇	—	三〇三	—	二、一一三	—
營繕費	—	二四、九二二	—	二八〇	—	二五、二〇二	—

雑費	—	〇 一七〇、三七七 一	—	〇 三七、五四〇 一	—	〇 二〇七、九一七 二	—
共済組合給与金	—	八、八二五	—	三、四七八	—	一二、三〇三	—
總計	—	一、一八五、六二八	—	二六七、〇四三	—	一、四五二、六七一	〇・八六

第一一　小松島港修築工事

緒　言

本港ハ明治四十四年度ヨリ徳島縣ニ於テ港灣修築ニ關スル調査ヲ開始シ大正二年度ニ至リテ工費十四萬四千六百餘圓ヲ投ジ四箇年度ニ亙ル工期ヲ以テ內港部ノ整理修築ヲ遂行シ次デ同六年度ヨリ同十年度ニ亙リテ更ニ工費十九萬九千四百餘圓ヲ以テ港口ヲ扼スル南北兩突堤ヲ增築シタル外海底ノ浚渫ヲ施シタル結果現ニ一千噸級汽船ノ出入ヲ容易ナラシメタリト雖モ最近本港發展ノ趨勢ハ進ンデ現設備ノ擴張ヲ促スヤ急ナルモノアリ茲ニ於テ徳島縣ハ本港將來ノ發展ニ資スベキ新計畫ヲ樹テ更ニ總工費三百四十四萬九千五百圓（當初豫算三百二十萬二千圓ナリシガ大正十五年四月大字小松島及中田地先海面ノ埋立費トシテ二十四萬七千五百圓追加）ヲ豫算シ其半額ハ國庫ヨリ補助（但シ追加豫算ニハ國庫補助ナシ）ヲ得同十二年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度ノ縣營繼續事業（當初大正十二年度ヨリ同十九年度マデノ八箇年度ノ工期ナリシガ財政ノ都合上二箇年度延長）トシ同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀竝計畫大要

本港ハ四國ノ東部ニ位シ阪神兩港トノ聯絡ヲ初メ夙ニ本邦沿岸各地トノ交通開ケ四國東海岸唯一ノ重要港灣ナリ而シテ本港ノ外港部タルヤ小松島灣ハ北東ニ向ツテ展開シ北西東山岬ト東方和田鼻トハ相對峙シテ港口ヲ扼シ其幅員約二千七百米ヲ有ス港內水深クシテ大船巨舶ノ出入碇泊ニ適シ天然ノ良港

ヲ成スト雖モ其内港部ハ僅ニ神代瀨川河口ヲ利用スルニ過ギザルヲ以テ深度不充分ニシテ海陸ノ聯絡設備整ハズ小型船舶ニシテ仍ホ且出入自由ナラザルノ憾ミアリ然レドモ商工業ノ著シキ發展ハ船舶及貨客ノ增加ヲ來シ現在ノ内港設備ニテハ既ニ狹隘ヲ告ゲ到底時代ノ趨勢ニ順應スル能ハズ加フルニ近キ將來阿土鐵道完成ノ曉ハ愈々本港ハ四國ノ東門ヲ司リ本州トノ聯絡ハ益々重要ナル地位ヲ占ムルニ至ルベキヲ以テ之ガ修築擴張ハ本港ノ最モ急務トスルトコロナリ其計畫ノ大要左ノ如シ

防波堤ハ現在港外北突出部ヨリ北防波堤長九十一米ヲ又東防波堤長五百八十米ヲ築造シ港門幅員二百七十三米ヲ保タシム此港門ハ將來必要アルトキハ之ヲ百八十二米ニ短縮シ北防波堤ヲ更ニ九十一米延長スルモノトス而シテ此兩防波堤ニ依リ抱擁セラルル水面積ハ約八十七萬六千六百平方米ナリ

岸壁ハ現在繫船岸ノ北側ナル池沼及耕地ヲ浚渫シテ凹字形ノ船溜ヲ設ケ其周圍ニ岸壁ヲ築造ス船溜ハ東部入口ニ於テ幅員百二十七米、西部ニ於テ九十一米トシ岸壁ハ入口ニ近キ北側百二十七米、南側百二十九米ハ干潮面下六米四ニ其奥北側十一米、南側九十二米ハ五米五ニ築造シ其兩側ニ二千五百噸級汽船一隻、一千五百噸級汽船二隻ヲ繫留シ得ベカラシメ尙凹字形ノ前面南方ノ岸壁ハ帆船又ハ小型汽船繫留ノ便ニ供スル爲メ水深三米ニ築造ス

浚渫及掘鑿ハ港内約三十九萬六千七百平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ又現在港内南隅ノ田面約一萬四千九百平方米ヲ水深干潮面下二米五ニ掘鑿シ漁船ノ繫留場ニ充ツ

埋立ハ岸壁ノ左右耕地ヲ埋立テ工場敷地トシテ工事完成後ハ鐵道敷地、上屋及倉庫等ノ敷地ニ充ツルモノトス

以上當初計畫ノ外追加若クハ計畫ヲ變更シタルモノ左ノ如シ

一、大正十五年四月同港内大字小松島中田地先ノ海面六萬九千五百平方米ノ埋立追加工事トシテ工費二十四萬七千五百圓ヲ計上シタリ

二、昭和二年十一月前記埋立計畫ヲ縮小シタル一面元根井地先ニ於テ面積約二萬五十平方米ノ埋立ヲ爲スト共ニ更ニ横須地先ニ於テ面積四萬六千百七十平方米ノ埋立ヲ爲シ其周圍ニ護岸又ハ物揚場ヲ築造シ以テ港灣陸上設備用地ニ供ス

當初計畫ニ屬スル漁船溜ノ位置ヲ横須地先埋立地ノ前面ニ變更シタル結果其東角ヨリ延長百六十米ノ防波堤ヲ突出セシメ之ニ接續シテ築造スル物揚場ノ内延長百六十米ヲ漁船用ニ充テ且在來ノ南突堤ヲ其先端ヨリ新埋立地ノ取付マデ除却スルモノトス

三、昭和三年二月小松島字港口ニ於ケル當初計畫ノ三米岸壁中其屈曲部ヨリ南西ニ亙ル延長百九米ヲ廢シ代フルニ其北部岸壁二百三十一米ヲ一直線ニ南方へ九十九米延長シテ此總延長ヲ三百三十米トシ其終端ト在來護岸ノ先端トヲ接續セシムル爲メ延長二十米ノ護岸ヲ築造シテ此内部ニ於ケル面積一千六百平方米ヲ干潮面上三米ニ埋立ツルモノトス

施工狀況

本年度施行工事ノ概況左ノ如シ

一、防波堤　東防波堤ニ於テハ基礎捨石延長百米、荷重据置延長百三十四米ヲ施工シタル外所要大方塊二百十三個其他方塊百五十七個ヲ製造ス

南防波堤ハ本年度ノ著手ニ屬シ床掘延長九十米、基礎捨石延長六十四米、荷重据置延長百四十米ヲ施工シ

タル外所要方塊三十三個ヲ製造ス

二、岸壁　本工事ハ前年度ヨリ繼續シ本年度ニ於テハ床掘延長百三十米、基礎捨石延長百九十一米及荷重据置延長百八十六米ヲ施工シタル外所要方塊百二十七個ヲ製造ス但シ本工床掘ニハプリストマン式浚渫船ヲ運用シテ土量三千二百五十立方米ヲ得之ヲ横須地先ノ下埋ニ利用セリ

三、物揚場　横須地先ニ於ケル水深二米物揚場ハ前年度ヨリ著手シ本年度ニ於テハ床掘延長六十七米、基礎捨石延長百九十八米、方塊沈積百五十三米ヲ施行セル外所要方塊二百五十三個ヲ製造ス但シ本工中床掘ニハプリストマン式浚渫船ヲ運用シテ土量九百七十二立方米ヲ得之レヲ横須地先ノ下埋ニ利用セリ

四、護岸　港口護岸ハ本年度ノ著工ニシテ床掘延長十五米、基礎捨石延長十五米、方塊沈積延長十五米、上部工二十米及所要方塊十四個ヲ製造シテ本工ヲ完成ス但シ床掘ニハプリストマン式浚渫船ヲ運用シテ土量二百三十五立方米ヲ得之レヲ横須地先ノ下埋ニ利用セリ

横須地先ノ護岸ハ本年度末ノ著工ニシテ基礎捨石延長十四米ヲ施行シテ殘餘ハ翌年度ヘ繰越シタリ

五、浚渫　プリストマン式浚渫船ヲ運用シテ北突堤除却ニ於テ砂礫三千六百八十四立方米、南突堤ニ於テ同三百三十三立方米ヲ除却ス港口地先ハ水深三米ニ浚渫スル爲メ前年度來ヨリ引續キ施工ス專ラ「プリストマン」式浚渫船ヲ運用シテ土量三萬一千八百九十六立方米ヲ得内二萬一千五百七十二立方米ハ横須地先ノ下埋ニ利用シタル外殘土量ハ天氣其他潮流ノ關係上港外ニ投棄ス

本港凹字形船溜計畫位置ニ相當スル現在ノ地表ハ海面ヨリ低キ耕地ナリシヲ以テ他日此箇所ヲ浚渫スルニ先チ周圍ニ勾配ヲ附スル必要上其前提トシテ一定ノ區域ニ對シ人力浚渫ヲ施行ス其土量二千二百七十五立方米ニシテ之レヲ排水路沿岸ノ埋立ニ利用セリ

六、埋立　本年度ハ橫須地先ノ下埋ニ於テ土量二萬七千四百九十四立方米及小松島地内ノ埋立ニ於テ土量五千四百七十七立方米ヲ埋立ツ而シテ土砂ハ總テ港内ノ浚渫及構造物ノ基礎床掘ヨリ生ジタルモノヲ利用セリ

七、排水工事　從來綱淵樋門ニ放水シ以テ該區域ニ於ケル耕地(買收)ノ排水設備タル在來ノ排水路ハ本港埋立ノ爲メ閉塞シ一朝降雨增水シタル場合縣道ヲ挾ム隣接耕地一帶ハ忽チ汎濫ヲ免レザルヲ以テ此惡水ヲ排除シ一面潮害ヲ防止スル目的ヲ以テ本港埋立地北端ニ沿ヒ埋立地面端ヨリ海ニ達スル間延長約五百米、幅員約七米ノ水路一條ヲ築造スルモノトス

本工ハ昭和三年八月ノ著手ニシテ年度内土量四千三百六十二立方米ヲ人力ニテ掘鑿シ内一千三百五十五立方米ヲ橫須地先ノ下埋ニ三千七立方米ヲ小松島地先ノ埋立ニ利用ス

南側護岸ハ直營採取ニ係ル割石ヲ使用シテ兩側合計一千七百七十平方米ヲ施行シタル外上部工及暗渠基礎工事ヲモ進メ所要下水管ノ製造ハ準備中ナリ

八、材料採取　割石斫出ノ目的ヲ以テ前年度來ヨリ石材採取事業ヲ繼續ス本年度ハ二萬三千四百六十二立方米ノ採取ト運搬トヲ遂ゲ漸次良好ナル成績ヲ擧グルニ至レリ之レガ使用箇所ハ防波堤築造ヲ主トシ其他各種構造物ノ基礎捨石ニ充當セリ

九、用地買收　本港ノ用地買收區域ヲ便宜之ヲ二分シテ實施セリ而シテ第一區ニ屬スル東部ハ前年度迄ニ悉ク圓滿ナル解決ヲ告ゲタルヲ以テ引續キ第二區ニ相當スル西部地域ニ對シ昭和三年六月二十八日協議ヲ開始セシガ同年八月二十日殆ド全部ノ解決ヲ見ルニ至レリ而シテ本年度ノ買收ハ耕地三町三段餘、宅地四百三十七坪及建物二棟ナリ

本年度ノ竣功高ハ二十九萬四千百四十九圓ニシテ竣功累計ハ九十二萬六千五十四圓ニ達ス之ヲ總工費三百二十四萬六千圓ニ比スルトキハ約二割九分ノ竣功ナリトス其竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取費ノ金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料代ヲ轉記シタルモノナリ

費目	前年度迄竣功高		本年度竣功高		合計		竣功歩合
	數量	金額	數量	金額	數量	金額	
防波堤費	米 二七八	円 × 四一、六五五 / 五一、三三三	米 九四	円 × 五三、六六八 / 三二、二八二	米 三七二	円 × 九五、三二三 / 七三、六一五	割分 〇・一五
岸壁費	八九	× 三、四七六 / 三、一二五	九四	× 一九、八六三 / 六、六一三	一八三	× 二三、三三九 / 九、七三八	〇・〇五
物揚場費	五〇	× 一、八五一 / 二、〇四八	一〇七	× 一八、四八六 / 四、一六四	一五七	× 二〇、三三七 / 六、二一二	〇・二八
護岸費	—	× — / —	二一	× 一、三九五 / 三三一	二一	× 一、三九五 / 三三一	〇・〇二
浚渫費	立方米 二二五、八六四	八三、七七〇	立方米 三八、一八八	一六、二七九	立方米 二六四、〇五二	一〇〇、〇四九	〇・二四
埋立費	二五、四一一	一三、四一一	三二、九七二	六七三	五八、三八三	一四、〇八四	〇・〇八
材料採取費	—	五六、九三一	—	三八、一五二	—	九五、〇八三	—
用地費	—	一七五、二九四	—	六一、六八七	—	二三六、九八一	一・〇〇
船舶及機械費	—	一八七、四五五	—	五三、二五四	—	二四〇、七〇九	—
測量及檢潮費	—	四、二八一	—	三八七	—	四、六六八	—
營繕費	—	八、六三五	—	—	—	八、六三五	—
雜費	—	× 五二、四三八 / —	—	× 二九、四四七 / 四、六九八	—	× 八一、八八五 / 四、六九八	—
共濟組合給與金	—	二、七〇八	—	八五八	—	三、五六六	—
總計	—	六三一、九〇五	—	二九四、一四九	—	九二六、〇五四	〇・二九

第一二　今治港修築工事

緒　言

本工事ハ元今治町ノ企業ニ係リ大正三年度ニ其起原ヲ發シ爾來幾多ノ曲折ヲ經テ同九年二月今治町ニ於テ隣鄕日吉村ヲ併合シ市制施行地ニ指定セラレタルトキ本事業ヲ今治市ノ經營ニ移サル當時其工期ヲ同九年度ヨリ同十二年度ニ至ル四箇年度ノ繼續事業トシテ工費八十一萬圓ヲ計上シ港內ノ浚渫及埋立ヲ主トシ兼テ棧橋及防波堤ヲ築造スル計畫ナリシガ今治市ニ於テハ該計畫中最モ速成ヲ要スル防波堤ノ築造ヲ起工シ(本堤ハ全部今治市ニ於テ施行濟)著々工事ヲ進メタリ然ルニ本港ニ於ケル最近發展ノ趨勢ハ計畫ノ擴張ヲ促スト共ニ一部計畫ノ變更ヲ要スルモノアリタルヲ以テ之ヲ更正追補シテ更ニ工期ヲ同十二年度以降二十一年度(當初計畫ハ大正十二年度ヨリ同十九年度マデ八箇年度ナリシガ財政ノ都合上同二十一年度マデ二箇年度延長)ニ至ル十箇年度ノ工期ナリシガ大正十五年九月用地費繰上ゲノ必要ヨリ年度割ノ變更トナリタル結果竣功期ヲ昭和六年度ニ改メラレタルヲ以テ九箇年度ノ今治市營繼續事業トシテ工費三百萬圓(內俸給及事務費十八萬三千圓ヲ含ム)ニ改訂シ其半額ハ國庫ヨリ補助ヲ得且同時ニ明治三十年法律第三十七號ニ基キ內務大臣ニ於テ直接本事業ヲ施行スルニ至レリ

港狀竝計畫大要

今治港ハ伊豫國ノ北海岸ニ瀕シ高繩半島ノ東南ニ方リテ自然ノ灣形ヲ成シ前面ニハ來島海峽ヲ擁シテ瀨戶內海ノ咽喉ヲ扼ス其位置恰カモ阪神、關門ノ中間ニ在ルヲ以テ古來ヨリ東西航路ノ要衝ヲ占ム東ハ

燧洋ニ直面シテ遥カニ四坂島ヲ望ミ北ハ大島及三大島等點綴シ南ハ總社川ヲ境トシテ立花村ニ接ス而シテ港界ハ天保山ノ突堤基點ヲ中心トシテ一浬ノ半徑ヲ有スル圓圏ヲ以テ劃シ此面積約三百三十一萬平方米（防波堤內約二十一萬四千八百平方米）ヲ算ス氣候温和ニシテ常ニ波浪少ナク港內ノ水深ハ概ネ最大干潮面下約十二米トス此附近ハ干滿潮位ノ差瀬戸內海中最モ著シキ地方ニシテ最高最低潮位ノ差四米一、大潮平均潮位ノ差三米四、小潮平均潮位ノ差一米四ナリ尙沿岸ハ比較的急勾配ナルヲ以テ水深裕ニシテ時々潮流ノ急ナルモノアリト雖モ大船巨舶ノ碇繫難カラズ尙其風位ニ關シテハ西風、西北風及南北風ニ對シテハ些ノ影響ナシト雖モ一潮東風ノ襲來スルニ於テハ港內忽チ激浪奔騰シテ船舶ノ出入、碇繫共ニ危險ナリ然レドモ最近東防波堤ノ完成ニ依リ港內ハ著シク靜穩ニ歸シ此杞憂ヲ一掃スルコトヲ得ルニ至レリ

交通ハ本港ヨリ僅カニ二時間餘ニシテ中國尾ノ道港ニ達スルコトヲ得ルヲ以テ船舶ノ出入、貨客ノ集散比較的繁ク殊ニ伊豫線開通ノ今日ニ於テハ四國西南部及南九州ノ旅客ハ今治、尾ノ道ヲ經テ山陽線ニ聯絡スベク然ルトキハ彼ノ高松、宇野線ニ依ルニ比シ阪神地方ニ到達スル時間ヲ節スルコト必然ナルベシ而シテ本港ハ大正十一年二月開港場トナリ次デ第二種港灣ニ指定セラレタルヲ以テ見ルモ港灣設備ノ必要ナルヲ知ルニ足ルベシ

本工事ハ今治市ニ於テ大正九年度ヨリ同十二年度ニ至ル繼續事業トシテ棧橋、防波堤ノ築造及浚渫、埋立等ノ工事施行中ナリシガ該計畫ヲ左記ノ如ク變更及擴張スルモノトス

船入場ハ天保山ニ於ケル防波堤根元ヨリ南東ニ向ツテ百八十一米八之レヨリ略南西ニ向ツテ一線ヲ劃シ尙之ニ連續シテ內港ノ周圍ニ物揚場又ハ護岸ヲ築キ住吉町附近ヲ掘鑿シテ在來ノ內港入口幅員九十

米ハ之レヲ百四十五米四ニ取擴メ一面中洲ヲ掘鑿除却ノ上現在ノ船溜幅四十五米四ヲ平均八十三米六トシ内港水面積現在約一萬六千五百三十平方米ヲ五萬五千二百平方米ニ擴張シテ干潮面下二米七ノ水深ヲ保タシメ以テ帆船及小蒸汽船ノ繋留荷役ノ用ニ供ス

浚渫工事ハ元今治地先前面ニ於テ防波堤トノ間ニ介在セル港内水面積十二萬三千二百平方米ノ内水深大ナル沖合部三萬三千平方米ヲ干潮面下六米四ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ出入ニ便ナラシメ尙殘餘ノ水面ハ同五米四以上ニ其他ハ同一米五ニ浚渫シ更ニ内港部ハ同二米七ニ浚渫又ハ掘鑿スルモノニシテ此總土量八十五萬五千五百立方米トス但シ陸地ニシテ掘鑿海面トナル部分ノ面積ハ二萬八千七百六十平方米ナリ

埋立ハ港内ノ浚渫若ハ掘鑿ヨリ生ズル土砂一部ヲ以テ大字藏敷地先東側沿岸ニ面積七萬五千四百七十平方米ノ埋立ヲ爲シ以テ倉庫、上屋及臨港鐵道ノ敷地ニ充テ又元今治地先ニハ海岸ニ平行シテ護岸ヲ築造シ其内法ノ面積一萬八千七百十平方米ヲ埋立テ更ニ内港部ニ於テ大手通恵比須町及新町地先ニ面積一萬三千三百二十平方米ヲ埋立ツルモノトス此總土量ハ三十九萬立方米ナリ

岸壁、物揚場及護岸トシテハ天保山地先ニ三千噸級汽船一隻、一千噸級汽船二隻ヲ同時ニ繋留シ得ベキ長サ二百二十七米、水深干潮面下六米六及五米四ノ岸壁ヲ築造シ内港周圍ニ水深二米七ノ斜面物揚場延長一千米ヲ設ケ又元今治地先海岸ニ延長六百米、藏敷埋立地先海岸ニ延長九百米竝ニ内港ノ一部ニ亙リ總延長二千七百二十七米ノ護岸工事ヲ施スモノトス

浮棧橋ハ元今治地先ニ縱型棧橋ヲ三箇所ニ配置シ其長サ各七十二米、幅各九米(但シ浮函長五十四米、幅九米此面積四百九十六平方米)トシ之ヲ約七十二米ヲ隔テ櫛形ニ平行突出セシメ小型汽船及一千噸級船舶

ノ碇繋荷役竝ニ旅客乘降ニ供スルモノトス

前記既定計畫ニ對シ大正十五年九月左記ノ如ク其一部ヲ變更ス

新町地先突出部（沖洲）ニ於ケル中央地帶約四千九百六十平方米ヲ買收シ道路及倉庫等ノ敷地ニ供ス

內港惠比須町及大手通地先ニ於ケル荷揚場及護岸ヲ原計畫ヨリ前進セシメ重松堀西部護岸ハ其對岸ト約二十二米二ノ間隔ヲ保タシム

天保山ニ於ケル荷揚場ヲ既定計畫ノ荷揚場及岸壁法線ノ交點ヨリ其ノ南方惡水路吐口附近ニ向ツテ原計畫線ヨリ前進セシム

施工狀況

本港本年度ノ工事施行狀況ヲ記述スレバ左記ノ如シ

一、浚渫　本年度浚渫區域ハ內港ニ屬シ計畫上二米七ノ水深ヲ要スル處ニシテ元住宅地タリシ住吉町船頭町及中洲地帶ノ陸地ヲ買收シ之ヲ掘鑿若ハ浚渫スルモノニシテ用地買收ハ所期ノ如ク進捗シタルヲ以テ一擧ニ浚渫工事ヲ進メ以テ內港沿岸ニ屬スル構造物ノ築造ニ適進スベキ時期ナルガ故ニ本年度ハ全能力ヲ此處ニ傾注シタル觀ヲ呈セリ即チ鋤鏈式浚渫船香西丸、喞筒式浚渫船香東丸及「プリストマン」式浚渫船二隻ヲ運用シテ鋭意之レガ進捗ヲ期ス年度內浚渫土量二十四萬二千五百八十六立方米ニシテ內六萬一千九百八十六立方米ヲ藏敷地先ノ埋立ニ、一千九百八十九立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ、一萬五千五百十九立方米ハ內港沿岸ノ盛土工事ニ利用シタル外一萬二千百八十立方米ハ沿岸荷揚場背後ニ四萬三千八百三十立方米ハ內港沿岸有津屋川終端ニ、十萬七千八百十二立方米ハ天候其他潮流等ノ關係上港外

ヘ投棄ス

二、埋立　浚渫土砂及構造物基礎掘鑿ヨリ生ジタル土砂ヲ利用シテ元今治地先ニ於テ土量四千百十立方米ヲ又同ジク藏敷地先ニ於テ六萬六千七百八十立方米ヲ埋立テタル外同地先ニ於ケル埋立地表ノ地均面積二萬六千五百九十八平方米ヲ施行ス

三、浮棧橋　本港所要浮棧橋ノ内第一、第二ノ二基ハ前年度迄ニ完成シ大ニ其ノ利用ヲ發揮ス

上記第一第二縦棧橋ノ浮函ハ鋼製ナリシガ第三縦棧橋ノ浮函ハ之ヲ混凝土製ニ變更シ高松港修築工事ニ使用シタル製造設備ヲ利用シテ浮函二個ヲ製造シ進水及廻航ヲ完了シタル外所要方塊十六個ヲ製造ス

四、岸壁　本工ハ天保山ニ於ケル荷揚場ニ接續シテ水深一米五延長九十米及水深六米三、延長百二十七米築造ノ計畫ナルガ本年度ハ前者ノ床掘ニ著手シ「ブリストマン」式浚渫船ヲ運用シテ延長九米ヲ施行シ土量一萬一千九百八十九立方米ヲ得内五千百十三立方米ハ内港沿岸ノ盛土工事二百二十立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ利用シタル外六千七百五十六立方米ハ天候其他ノ關係上沖合ニ投棄セリ

五、護岸　元今治地先ノ水深一米五、護岸ニ於テハ上部壁體延長五十五米、同階段上部延長百十米、同水深二米七護岸ノ上部壁體延長五米四ヲ施工ス

藏敷地先ノ護岸ニ於テハ「ブリストマン」式浚渫航ヲ運用シテ床掘延長三百十一米ヲ施行シテ土量三萬二百七十立方米ヲ得内四千百八十五立方米ハ同地先埋立ニ、九百五十四立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ、二千六百四十立方米ハ內港沿岸盛土ニ利用シタル外二萬二千四百八十五立方米ハ沖合ニ投棄ス尚基礎工事ニ於テハ延長二百九十四米上部工ニ於テ延長三百三十六米ヲ施工ス

又大手町地先水深二米七護岸ニ於テハ計畫延長二十七米ニ對シ昭和三年十二月著手シテ年度内ニ完成スルニ至レリ

六、荷揚場　内港沿岸ニ於ケル天保山竝住吉町一帶ノ計畫線ニ沿ヒ延長三百六十八米ニ對シ水深二米七ノ荷揚場ヲ築造スルモノニシテ前年度ニ引續キ「プリストマン」式浚渫船ヲ運用シテ床掘延長三百六十八米ヲ施行シテ土量二萬六千三百七十三立方米ヲ得内五千七十九立方米ハ内港沿岸ノ盛土工事ニ、七百五十立方米ハ元今治地先ノ埋立ニ、六百十二立方米ハ藏敷地先ノ埋立ニ利用シタル外二萬一千百三十二立方米ハ天候其他ノ關係上沖合ニ投棄ス。

而シテ基礎工事ニ於テハ延長三百六十二米、方塊沈積延長三百四十五米、上部工ニ於テ延長二百米ヲ施行シタル外所要方塊七百六十八個ヲ製造セリ

七、雜工事　大手通地先ニ於ケル橋梁築造工事ハ前年度ニ繼續シテ橋脚及基礎工事ヲ完成セシメ桁工及橋床ノ大部分モ完成ニ近ヅケリ

内港沿岸ニ於ケル盛土工事ハ浚渫土砂及構造物ノ床掘等ヨリ生ジタル土砂ヲ利用シテ三萬百九十立方米ヲ施行シ又中ノ川橋梁工事ニ於テハ其橋臺ニ屬スル基礎及上部壁體延長十八米ヲ完成セシメタル外中ノ川床固堤築造工事ニ於テ基礎及方塊沈積各延長六米ヲ施工シタル外所要方塊十二個ヲ製造セリ

八、用地買收　用地買收ハ前年度中殆ンド終了シタリシガ二、三ノ不應諾者ノ爲メ交渉停頓シ遂ニ愛媛縣收用審査會ノ裁決ヲ申請スル等主トシテ殘務整理ノ程度ニ止マル本件特ニ好成績ヲ告ゲタルハ用地費ヲ繰上ゲラレタル爲メ一擧ニ決行スルコトヲ得タル效果ト謂フベシ

九、材料採取　事業ノ進展ト平行シテ割石ノ所要量漸次增加ヲ來シ本年度ハ特ニ重量大ナルモノヲ要シ

タリ即チ一個重量五十六瓩内外ノモノ三萬三千七立方米、同五百六十瓩内外ノモノ四千二百十五立方米ノ採取竝運搬ヲ了シ本港修築工事上多大ナル利便ヲ得タリ

砂利ハ前年度ニ引續キ總社川筋ヨリ人力採取一旦堤防上ニ小運搬ノ上更ニ牛馬車若クハ手車ニテ藏敷地内ノ貯藏所ニ運搬ス此量七千四百二十三立方米ニ及ブ砂ハ港内ヨリ「プリストマン」式浚渫船ヲ運用シテ所要ニ應ジテ臨機採取ス此量三千三百六十九立方米ナリ

又粘土ハ護岸上部工ニ於テ雨水、海水等ノ浸透ヲ防止スル必要上數年前ヨリ附近波止濱港内ヨリ採取運搬ス此量九百立方米ニ及ビタリ

以上諸工事ヲ施行シタル本年度ノ竣功高ハ三十八萬一千六百十二圓ニシテ竣功累計ハ百八十二萬四千四百五十六圓ニ達スルヲ以テ之ヲ總工費二百八十一萬七千圓ニ比スルトキハ約六割五分ノ竣功ニシテ其竣功表左ノ如シ但シ表中「×」ハ材料採取金額中ヨリ各工事ニ使用シタル直營採取材料ノ使用金額ヲ轉記シタルモノナリ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
浚渫費	五九八、七二二	一四七、三〇八	二四二、五六八	四五、七二五	八四一、二九〇	一九三、〇三三	〇、七一
埋立費	一九一、三五八	一六、八九五	四七、一七五	一六、八一九	二三八、五三三	三三、七一四	〇・四六
浮棧橋費	―	一七二、〇二七 ×九、一三〇	―	三三、七四一 ×一〇三	―	二〇五、七六八 ×九、二三三	〇、九二
荷揚場費	―	一七、一四七 ×六、一二三	―	四九、一九五 ×二〇、九〇〇	―	六六、三四二 ×二七、〇二三	〇・二九
岸壁及護岸費	―	一一一、四二三 ×六七、二四四	―	四五、四三三 ×四一、〇三六	―	一五六、八五六 ×一〇八、二八〇	〇・四八
材料採取費	―	八五、七三〇	―	六三、七七二	―	一四九、五〇二	―

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
用地費	—	円 七二一、七一六	—	円 二一、七一五	—	円 七四三、四三一	割分 〇・八四
船舶及機械費	—	七二、七四七	—	四九、二二七	—	一二一、九七四	—
營繕費	—	×一四、七八二 二六二	—	×五、七九〇 —	—	×二〇、五七二 二六二	—
雜工事費	—	×三、七一三 二、八一〇	—	×一八、三一二 一、三三八	—	×二二、〇二五 四、〇四八	—
雜費	—	七六、二〇〇	—	三〇、三六三	—	一〇六、五六三	—
共濟組合給與金	—	三、一五六	—	一、五二〇	—	四、六七六	—
總計	—	一、四四二、八四四	—	三八一、六一二	—	一、八二四、四五六	〇・六五

第一三　鹿兒島港修築工事

緒　言

本工事ハ鹿兒島縣ノ事業ヲ內務大臣ニ於テ直接施行スルモノニシテ總工費三百萬圓內半額ハ國庫ノ補助ニ屬シ大正十二年度ヨリ昭和四年度ニ至ル七箇年度ノ繼續事業トシテ施行スベキ計畫ナリシモ大正十四年度ニ於テ事業繰延ノ爲メ竣功期限ヲ昭和七年度迄延長スル事トナレリ

港狀竝計畫大要

本港ハ九州南部ノ重要港灣ニシテ其背面地域ニ鹿兒島、宮崎ノ二縣ヲ控ヘ沖繩、大島其他南海諸島ニ至ル唯一ノ港灣ナリ本港ハ舊藩政時代ヨリ夙ニ港灣ヲ修築シ三五郎波止、新波止、一丁臺場等防波堤ヲ築設シテ北東及南東ノ激浪ヲ防ギ船舶ノ碇繫ヲ安全ナラシメシモ爾來歲月ノ經過ニ從ヒ港內漸ク埋沒シ船舶ノ出入ニ困難ヲ感ズルニ至リタルヲ以テ明治三十三年度ヨリ同三十八年度ニ亙リ縣費八十五萬圓ヲ投ジ港內ノ浚渫ヲ行ヒ船舶ノ碇繫、貨物ノ集散ニ多大ノ便益ヲ與ヘ稍々其面目ヲ新ニセリト雖モ輓近內外通商貿易ノ發達ハ出入船舶ノ增加ト船型ノ增大ヲ來シ殊ニ沖繩、大島諸島ノ開發ト本港背面地域ノ交通機關ノ發達トハ本港將來ノ貿易額ヲ著シク增加セシムベキヲ以テ現在ノ港狀ニテハ到底其使命ヲ全フスル事能ハズ是レ即チ本計畫ノ起リシ所以ニシテ當初ノ計畫ハ工費三百萬圓ヲ以テ港內ヲ浚渫、埋築シ水深七米ニ岸壁三百八十二米ヲ築設シ專ラ荷役施設ヲ改善シ以テ本港貿易ノ發展ニ適應セシメントスルニ在リシモ最近ニ至リ出入船舶ノ增加船型ノ增大著シク前述ノ計畫ニテハ港區ノ狹小ヲ感ズルニ至リシヲ以テ大正十五年六月計畫ヲ變更シ先ヅ以テ南北防波堤ヲ築設シ辨天臺場及洲崎町埋立地ノ一部

ヲ掘鑿シテ港内水面積ノ擴張ヲ計リ以テ大型汽船ノ碇繋ニ便セシメ岸壁埋立等ノ荷役施設ノ改善ハ地方財政ノ回復ヲ待チ工費ノ增額ヲ行ヒ之レガ完成ヲ期スルコトトセリ今修築計畫ノ大要ヲ列記セバ左ノ如シ

防波堤　北防波堤長二百六十米ヲ一丁臺場先端ヨリ南東ニ又南防波堤長百十米ヲ洲崎埋立地ヨリ北東ニ向ケ築設シ港口百米ヲ隔テテ兩防波堤ヲ相對セシメ以テ波浪ヲ防ギ併セテ甲突川口漂砂ノ侵入ニ備フルモノトス北港口ハ其幅員廣キニ過ギ北東ノ激浪ニ際シ往々港内船舶及護岸ニ損害ヲ與フルヲ以テ新波止ヲ北ニ三十米延長シ幅員ヲ七十米ニ縮小スルモノトス

掘鑿及浚渫　港内中央部ニ介在スル辨天臺場、同渡道及屋久島岸岐ヲ除却シ洲崎埋立地ノ北半部ヲ掘鑿シ以テ港内水面積ヲ約二十九萬平方米ニ擴張シ生産町ヨリ潮見町ニ至ル海面約九萬平方米ヲ干潮面以下七米五ニ浚渫シ三千噸級汽船ノ碇泊ニ便セシメ其南部約三萬平方米ヲ干潮面以下三米ニ浚渫シ發動汽船及帆船ノ碇繋所トス

棧橋　生産町一號棧橋ヲ築町ニ移轉シ固定棧橋及浮函一個ヲ增設シ三千噸級汽船ヲ繋留セシメ又築町棧橋ヲ生産町ニ渡道二號棧橋ヲ住吉町ニ移轉シ夫々一千噸級汽船及灣内交通汽船ノ繋留ニ便セシム

施工狀況

本年度ニ於テ施行セル主ナル工事ハ浚渫工事、防波堤工事、函工場設備工事、函製作工事、方塊製作工事ニシテ其施行狀況左ノ如シ

函工場設備工事ハ前年度ニ於テ略完成セシモ地盛其他ニ於テ未竣功ノ所アリシヲ以テ施行ヲ續行シ昭

和三年七月ニ至リテ全ク其工事ヲ了ヘタリ

防波堤用鐵筋混凝土函ノ製作工事ハ函工場及製作用諸機械ノ設備全ク整ヒシヲ以テ工事頗ル順調ニ進捗シ本年度內ニ北防波堤用函十八個ノ製作ヲ了シ起工以來ノ累計個數二十二個ニシテ計畫個數ニ對シ九割八分ノ竣功ヲ示セリ

防波堤用各種方塊製作工事ハ前年度ニ引續キ北防波堤壁體用及同根固用並ニ南防波堤壁體用ノ方塊ヲ製作シ本年度ノ竣功個數四百二十六個ニシテ起工以來ノ累計四百五十四個ヲ算シ此竣功步合七割七分ニ達セリ

防波堤工事ハ前年度ニ引續キ北防波堤各部ノ工事ヲ進メ基礎捨石ニ於テハ前年度同樣辨天臺場掘鑿工事ヨリ生ズル雜石及櫻島熔岩ヲ利用シ本年度內ニ延長約百五十三米ノ捨込ヲ了セリ其竣功高累計二百三十九米ニシテ工程頗ル進捗シタリ次ニ地形均ハ本年度內ニ百八米ノ施行ヲ終リ竣功高累計百七十四米ヲ示シ函ノ据付十三個、其內十一個ノ塡充ヲ了シ此竣功高累計ハ据付十五個、塡充十三個トナレリ此他本年度ニ於テ新タニ新舊防波堤接續部ノ方塊据付函頂部ニ於ケル場所詰混凝土ノ一部及捨方塊ノ施行ヲ開始シ方塊据付四十七個、頂部混凝土六十九米、捨方塊五十個ヲ竣成セシメタリ本年度末ニ於ケル北防波堤全工程ニ對スル竣功步合ハ六割八分トナレリ

掘鑿及浚渫工事ハ前年度ニ引續キ掻揚式浚渫船錦江號ヲ使用シ波浪ニ對スル港內保安及港內利用ノ狀況ヲ考慮シ辨天臺場及同渡道ノ掘鑿、潮見町、榮町地先及港務所前面ノ浚渫等逐次作業場所ヲ變更施工セリ右工事ノ進行ニ伴ヒ棧橋假移轉ノ必要ヲ生ジ昭和三年七月下旬第二及第三棧橋ヲ辨天臺場渡道掘鑿跡ニ假移轉セシメ更ニ昭和四年二月下旬第一棧橋ヲ第三內棧跡ニ假移轉セシメタルガ港內狹隘ナル爲

メ危險多ク作業頗ル困難ヲ極メシト雖モ工事ハ順調ニ進工シ本年内ニ掘鑿八萬三百餘立方米、浚渫七萬八千九百餘立方米、計十五萬九千餘立方米ノ土砂ヲ除却セリ本年度末ニ於ケル累計竣功土量ハ四十一萬九千餘立方米ヲ算シ計畫總土量ニ對シ五割二分ノ竣功ニ達セリ其他運河浚渫工事竝ニ雜石採取工事、砂採取工事、小蒸汽船繋留壁工事等ノ雜工事ヲ施行セリ

本年度竣功高ハ三十一萬六千四百三十四圓ニシテ起工以來ノ累計ハ百一萬四千二百六十七圓ヲ算シ工費總豫算二百八十萬五千六百圓ニ對シ三割六分ノ竣功ナリ其工事竣功表ハ左ノ如シ但シ表中「△」ハ評價品見積價額ニシテ防波堤及護岸費竣功金額中ニハ函工場設備費雜石及砂ノ採取費、小蒸汽船繋留壁費竝ニ工事用諸機械運轉費等ヲ含ム

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
防波堤及護岸費	—	五五、四六六円 △ —	—	一六五、一五九円 △六九	—	二二〇、六二五円 △六九	〇・三六割分
浚渫費	二五九、八九八立方米	六九、四五六 △ —	一五九、三〇〇立方米	四八、二六四 △八	四一九、一九八立方米	一一七、七二〇 △八	〇・五二
船舶及機械費	—	四八九、九六四 △三、六五一	—	六四、七三五 △六八九	—	五五四、六九九 △四、三四〇	—
家屋移轉費	—	八、八三五	—	—	—	八、八三五	—
營繕費	—	二六、九〇九 △ —	—	一、五五九 △一〇	—	二八、四六八 △一〇	—
雜費	—	四四、九九八 △四	—	三四、七六〇 △三七	—	七九、七五八 △四一	—
共濟組合給與金	—	二、二〇五	—	一、九五七	—	四、一六二	—
總計	—	六九七、八三三	—	三一六、四三四	—	一、〇一四、二六七	〇・三六

第一四　伏木港修築工事

緒　言

本工事ハ富山縣ノ起業ニ係リ總工費五百萬圓(内事務費三十三萬一千圓)ヲ以テ大正十三年度ヨリ昭和十年度ニ至ル十二箇年度ニ施行スルモノニシテ國庫ヨリ其半額ヲ補助シ明治三十年法律第三十七條ニ依リ國ニ於テ直接施行ス

港狀竝計畫大要

本港ハ富山灣ノ中樞ヲ占メ小矢部川ノ水運ヲ利用シ舊庄川ノ河口ニ發展セル港市ニシテ海岸ヨリ三百五十米ヲ隔テテ水深六米、夫ヨリ海底緩ニシテ約一千八百米ヲ離レ水深十五米乃至十八米、新湊方面ハ三百五十米ノ沖ニテ二十一米乃至四十五米ノ水深ヲ保ツ又庄川河口約二千三百米ノ所ハ俗稱藍甕ト稱シ水深三百米以上ニ達スル深所ヲ有ス小矢部川ハ源ヲ加賀國境大門山ノ東麓ニ發シ北流シテ東西兩礪波郡ノ平野ヲ貫流シ幾多ノ細流支川ヲ合セ本港ニ注グ其水量豐富且緩流ナルヲ以テ舟揖ノ便良シク本川左右沿岸庄川以西、高岡以北ノ貨物ヲ蒐集スル自然ノ良港ヲ爲スヲ以テ寛文年間幕府ハ内國ニ十三港ヲ指定セル時本港モ其一ニ列セラル其レヨリ後天保、弘化年間ニ佐渡ニ次デ大阪ト共ニ開港シ益々港灣ノ眞價ヲ認メラレタリ明治八年三菱會社ノ汽船入港ヲ始メトシ逐年發展ヲ促シ東京、大阪、下關、北海道ノ各港、沿海洲、薩哈嗹、朝鮮等ト通航シ船舶ノ出入頻繁トナリシモ本港ハ庄川ノ河口ニ位シ年々同川ヨリ流出スル土砂ノ爲メ河口埋塞セラレ僅ニ百噸内外ノ船舶ヲ繫グノミナリキ然ルニ同三十三年度庄川改修工

事ヲ施行スルニ方リ本港ノ修築ヲ爲シ庄川ト小矢部川トヲ分離シ土砂ノ流入ヲ防ギ港口ニ防波堤ヲ、內港ニ岸壁ヲ築造シ水深維持上浚渫ヲ施ス等港灣ノ設備ニ意ヲ注ゲリ又富山縣ハ横棧橋、上屋ヲ施設シ軌條ノ敷設ヲ爲シ中越線ト聯絡ヲ保チ荷役ニ便ナラシメ本港面目ノ一新ニ努力セシヲ以テ船舶及貨物ノ出入激增シ大正元年度ニ二十六萬五千噸ニ過ギザリシガ爾來逐年多キヲ加ヘ大正十年度ニハ七十萬噸ニ及ビ其增加率ハ每年一割餘ニ相當セリ而シテ今後如何ナル率ヲ以テ增加スベキカハ素ヨリ推定スルコト頗ル困難ナリト雖モ本計畫ニ於テハ飛越鐵道ノ完成縣內諸工業ノ發達及新潟、敦賀二港ニ於ケル擴張工事竣功後本港ガ受クベキ影響等ヲ考察シ增加率ヲ八分ニ算定セリ即チ大正十年度ニ於ケル輸出入貨物合計七十萬噸ヲ標準トシテ今後八分ノ增加ヲ示スモノトセバ昭和六年度ニハ百五十一萬餘噸ニ達スベキヲ以テ本計畫ニ於テハ百五十萬噸ヲ基礎トシ之レニ應ズル設備ヲ爲スモノニシテ伏木河口ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋間ヲ內港區域トシ水深ノ增加ヲ圖リ船舶繫留區域ヲ擴大シ繫船岸延長增加ノ目的ヲ以テ船渠ノ新設、棧橋及繫船壁ノ增築ヲ爲シ接岸荷役能率ノ增進ヲ圖ラントス其計畫大要左ノ如シ

一、防波堤ノ擴築　左岸ニ於ケル現在ノ防波堤ヲ三十六米延長シ其根元三十六米ヲ改築ス而シテ右岸防波堤ハ之ヲ九十一米擴築シ左岸防波堤トノ間ニ港口幅員百五十米ヲ存セシメ以テ港口ニ生ズル土砂ノ堆積ヲ防ギ且右岸新湊海岸ヨリ移動シ來ル土砂ノ侵入ヲ防止スルモノトス

一、横棧橋ノ增設　左岸伏木港地先防波堤根元附近ヨリ現在横棧橋ニ至ル間ニ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米、同七米八ノ横棧橋長百九米及右岸新湊町地先渡船場上流ニ於テハ水深八米五ノ横棧橋長百四十五米ヲ新設シ其後方ニハ上屋倉庫ノ建設軌條ノ敷設及道路築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノ

トス

一、船渠ノ新設　右岸新湊町六渡寺地内縣有貯木場ヲ利用シ入口ニ於テ幅員百九米、後方ニ於テ幅員九十一米、奥行二百十八米ノ船渠ヲ新設シ其兩岸ニ水深七米、延長各二百十八米ノ繋船壁ヲ築増シ接岸船ノ便ニ供シ其奥ニハ延長百三十六米ノ物揚場ヲ築設シテ艀船荷役ニ供ヘ且繋船壁及物揚場ノ後方ニハ上屋倉庫ノ建設、軌條ノ敷設及道路ノ築造等ニ必要ナル地積ヲ存セシムルモノトス尚以上ノ外伏木橋上流右岸舊庄川落口附近ヨリ國有鐵道中越線小矢部川鐵橋ニ至ル間ニ於テ各入口幅百九米、奥行二百五十四米及三百二十七米竝ニ入口幅百二十七米、奥行二百十八米ノ三船渠ヲ新設シ左岸鐵道橋下流ニ於テモ入口幅九十米、奥行百九米ノ船渠ヲ新設スルモノトス而シテ此等船渠ハ總テ假工事ヲ爲スニ止メ專ラ木材置場ニ供シ將來港ノ發展ニ伴ヒ其周圍ヲ繋船壁ニ改造スルモノトス

一、浚渫　港口ヨリ上流約六百三十六米迄ヲ水深八米五ニ其レヨリ上流九十一米ヲ七米九ニ、其上流二百七十三米ヲ七米三ニ、新湊町地内新設船渠ヲ七米三ニ浚渫シ伏木港上流ニ新設ノ四船渠ハ之ヲ水深零米九ニ浚渫スルモノトス

一、埋立　新湊町六渡寺地先右岸防波堤ヨリ庄川左岸ニ至ル間約三萬六千三百平方米ヲ浚渫ニ因リ生ジタル土砂ヲ利用シ埋立ツルモノトス

施工狀況

本年度施工セルモノハ防波堤工事浚渫工事及雜工事ニシテ其概要左ノ如シ

一、防波堤工事　小矢部川河口導水堤ヲ九十一米延長スル右岸防波堤工事ハ昭和三年八月九日ヨリ著手

シ舊堤頭部ヨリ四十九米間ニ於テ柴工沈床一千十平方米ヲ沈下セル外混凝土用材料トシテ庄川筋ヨリ川舟ヲ以テ砂利二千六百四十立方米及砂二十二立方米ヲ採取運搬シ又新湊町六渡寺海岸ヨリ土運車ヲ使用シ砂七百二十六立方米ヲ採取セリ

一、浚渫工事　本工事ハ大正十三年度本修築工事起工以來施行シ來レルモ平水時ハ勿論融雪期及夏期出水時ニ於ケル流下土砂尠カラザルガ故ニ何等水深ノ增加ヲ見ルコトナク單ニ其維持ニ止マレル狀態ナリシヲ以テ工費ノ點ヨリ考慮シ前年度以降一時本工事ニ力ヲ注ガズシテ兩三年後浚渫能力ヲ增加シ一氣ニ施行シテ水深ヲ增加スルヲ得策ト認メ差當リノ水深維持ニ對シテハ富山縣ヲシテ施行セシムルコトシ本年度ニ於テ縣ハ四萬六千七百六十九圓ヲ支出シ土量十九萬三千立方米ヲ浚渫セリ本工事ニ於テハ喞筒式浚渫船阿賀丸及バケツト式第五號浚渫船ヲ使用シ主トシテ新湊町地內新設船渠ヲ浚渫セル外之レガ準備工事トシテ鐵製土運車ヲ用ヒテ低水面以上ヲ掘鑿シ舊貯木池埋立箇所ニ捨土セリ浚渫土量十二萬四千三百四十七立方米ニシテ工費二萬八千八百二十九圓ヲ支出セリ

一、雜工事　本年度施行セルモノハ新湊町地內舊貯木場竝ニ水路護岸石積除却工事及伏木町地內港灣用地地均工事ノ二ナリトス共ニ前年度ヨリ繰越シタルモノニシテ前者ハ五百二十平方米ヲ除却シテ昭和三年竣功シ又後者ハ土運車ヲ用ヒ六百三十平方米ヲ均シテ同年十一月竣功セリ是等ニ要シタル雜工事費合計八百九十二圓ナリトス

土地買收ハ前年度ヨリ引續キ新湊町地內ニ於テ土地二萬一千七十平方米餘ノ買收竝ニ地上物件ノ移轉ヲ實施シ計三十七萬二千百十六圓ヲ支出セリ而シテ本年度ニ於ケル竣功額ハ四十九萬八千三百七十八圓ニシテ創業以來本年度迄ノ累計百五十二萬四百三十六圓ナリ之レヲ總工費四百六十六萬九千圓ニ比

スレバ三割三分ノ竣功ニシテ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
浚渫費	立方米 四一八、四七六	円 五四、五三五	立方米 一二四、三四七	円 二八、八二九	立方米 五四二、八二三	円 八三、三六四	割分 〇・一五
防波堤費	—	—	—	一〇、二九三	—	一〇、二九三	—
雜工事費	—	五、七七二	—	八九二	—	六、六六四	—
用地費	坪 七、五六五	七七七、七〇〇	坪 六、三八五	三七二、一一六	坪 一三、九五〇	一、一四九、八一六	—
船舶及機械費	—	九三、九五〇	—	四六、八〇〇	—	一四〇、七五〇	—
測量費	—	四、四一四	—	一、四四四	—	五、八五八	—
營繕費	—	三、一四一	—	七、〇三一	—	一〇、一七二	—
雜費	—	七八、七九二	—	二九、二三二	—	一〇八、〇二四	—
共濟組合給與金	—	三、七五四	—	一、七四一	—	五、四九五	—
總計	—	一、〇二二、〇五八	—	四九八、三七八	—	一、五二〇、四三六	〇・三三

第五章　復舊工事及補修工事

第一　相模川外四箇川流域震災復舊砂防工事

緒　言

本工事ハ大正十三年度ヨリ昭和八年度ニ至ル十箇年度繼續事業ニシテ總工費四百九十八萬六千八百七十一圓(事務費四十三萬六千八百七十一圓ヲ含ム)ヲ以テ大正十二年大震災ニ因ル山地荒廢復舊ノ爲メ相模川、酒匂川、早川、花水川及多摩川流域ニ施行スルモノトス而シテ本工費ハ震災府縣ニ於テ其負擔ニ耐ヘザルヲ以テ全部國庫支辨トス

河狀竝計畫大要

相模川流域

相模川ハ源ヲ富士東麓山中湖ニ發シ山梨、神奈川ノ兩縣ヲ經テ相模灣ニ注グ流路延長四百六十粁、流域面積一千六百二十二平方粁ニシテ上流部ヲ桂川ト稱シ下流部ヲ馬入川ト稱ス其工事施行區域ハ支川道志川、中津川、桂川及笹子川トス

道志川ハ源ヲ甲斐山伏峠ニ發シ道志、丹澤兩山塊ノ溪間ヲ北東ニ貫流シ山梨、神奈川ノ縣界ニ於テ丹澤山塊ノ盟主蛭ヶ嶽(標高一千六百七十三米)ヨリ發スル支流神ノ川ヲ合セ以下蛇行シテ津久井郡三澤村地先ニ至リ相模川ニ合流ス流路延長四十三粁流域面積百四十四平方粁アリ流域內山地ハ御坂層及石英閃綠

岩ヨリ成リ地勢急峻ニシテ林相良好ナラズ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ右岸ナル丹澤山塊ニ於テ甚シク殊ニ神ノ川流域山地ノ如キハ其面積ノ約三割崩壞セリ

本川ハ横濱市水道水源地ニシテ同市ニ對シ極メテ密接ナル關係ヲ有ス然ルニ震災以來河水溷濁甚シク之レガ沈澄ニ同市ハ多大ノ經費ヲ投ジツツアリ其復舊ハ一日モ猶豫スベキニ非ラザルナリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費八十萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所支流神ノ川ニ四箇所、室久保澤ニ二箇所、西ノ澤、井口澤、横山澤、此間澤、大群澤、椿澤及三ケ瀬澤ニ各一箇所、計十八箇所ノ堰堤並ニ三ケ瀬澤ニ二箇所ノ床固ヲ設置スルコトトセリ

中津川ハ源ヲ丹澤山、塔ケ嶽、大山等ニ發シ流路延長十五粁、宮ケ瀬村落合ニ於テ支流早戸川ト合ス合流以奥ノ流域面積五十三平方粁アリ流域內山地ハ從來森林密茂シ殆ンド崩壞ナク河水常ニ清澄ニシテ各所ニ深淵ヲ形成シツツアリシガ一朝大震災ニ會スルヤ全山到ル所大崩壞ヲ生ジ土石及倒木ハ河流ヲ堰キ宮ケ瀬村附近ニ於テハ一時間以上流水ヲ見ザリシト謂ヘリ而シテ大正十二年九月十五日ノ出水ハ再ビ多量ノ土石及流木ヲ下流ニ押送シ或ハ家屋ヲ流シ田畑ヲ埋メ河床ノ增嵩ハ下流ニ於テ二米、中流ニ於テ五米ニ達セリ支流早戸川ハ源ヲ蛭ケ嶽、丹澤山等ニ發シ流路延長十二粁、流域面積三十七平方粁アリ流域山地ノ大部分ハ鳥屋村々有林ニ屬シ官行造林ニ據リ年々杉及扁柏ヲ植栽シツツアリシガ大震災ニ因リ被害最モ甚シク三平方粁六ノ村有林中約一平方粁五ハ崩壞ニ歸セリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十萬圓ヲ以テ本流(早戸川合流點ノ上流)ニ七箇所、早戸川ニ八箇所、計十五箇所ノ堰堤ヲ築設スルコトトシ早戸川ニ於テハ川口ヨリ上流二粁六ノ地點ヨリ其上流七粁ノ區間ニ六箇所ヲ尙支流宮ケ瀬金澤及水澤ニ各一箇所ヲ築設スルコトトセリ

桂川流域中崩壞最モ甚シキハ其支流鹿留川及小佐野川トス鹿留川ハ源ヲ道志山塊皆形山ニ發シ流路延長十一粁東桂村落合ニ於テ桂川ニ注グ急流河川ニシテ流域面積三十八平方粁アリ地質ハ支流倉見澤以奥石英閃緑岩、下流ハ凝灰岩トス大震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ激甚ニシテ九月十五日ノ出水ニ際シテハ從來十米ニ過ギザリシ川幅ハ一躍百米乃至五百米ニ擴大シ土石及倒木ノ流出甚シク大野ヨリ門原ニ至ル約二粁ノ區間ハ土石流ノ爲メ沿川ノ耕地殆ンド荒廢ニ歸シ家屋ノ流失亦不尠之レガ爲メ流身一定セズ爾來耕地ヲ脅シツツアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費二十二萬圓ヲ以テ鹿留川大野部落ノ上流ニ四箇所、其支流倉見澤ニ一箇所、計五箇所及小佐野川ニ一箇所ノ堰堤ヲ築設シ以テ土石ノ流出ヲ防止セントス

笹子川ハ源ヲ笹子峠ニ發シ東南流レ追分ニ至リ狩谷澤ヲ合セテ東流シ笹子、初狩、廣里ノ諸村ヲ經大月ノ西部ニ於テ桂川ニ合流ス流路延長十五粁、流域面積九十四平方粁アリ震災ニ因ル崩壞ハ右岸ニ多ク就中右支柳澤、辰巳澤及庭洞澤ヨリ押出セル土石ハ九月十五日ノ出水ニ際シ中央線ノ鐵道ヲ埋メ汽車ノ不通二日間ニ及ベリ

本川砂防計畫ハ本工事費五萬圓ヲ以テ辰巳澤及庭洞澤ニ各四箇所、計八箇所ノ小堰堤ヲ築設シ流下土石ヲ扞止セントス

酒匂川流域

酒匂川ハ源ヲ丹澤山塊及富士山ニ發シ上流部ニ於テ河内川及鮎澤川ノ二大支流ニ分岐ス工事ヲ施行セントスル區域ハ河内川及鮎澤川支流野澤川流域トス

河内川ハ源ヲ中部及西部丹澤山塊ニ發シ上流ニ於テ玄倉川、中川、世附川ノ三川ニ分岐ス流域面積百七十

二平方粁アリ流域山地ハ御坂層及石英閃緑岩ヨリ成リ之ヲ覆フニ火山灰ヲ以テス玄倉川ハ源ヲ蛭ヶ嶽、丹澤山、塔ヶ嶽等ニ發シ流路延長十七粁、流域面積四十六平方粁アリ中川ト共ニ河内川ニ合流ス河床勾配ハ合流口附近ニ於テ約五十分ノ一トス中川ハ源ヲ大群山、加入道其他ニ發シ流路延長十三粁ニシテ河内川ニ合流ス流域面積四十二平方粁アリ世附川ハ源ヲ西丹澤山塊ニ發シ流路延長十四粁ニシテ河内川ニ合流ス流域面積六十七平方粁アリ震災ニ因ル河内川流域山地ノ崩壞ハ極メテ甚シク震災地方第一位ニアリ就中玄倉川水源地ノ如キハ全山殆ンド崩壞シ盡シ慘澹タル光景ヲ呈セリ加之震災直後九月十五日ノ出水ニハ多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪トナリテ流下シ各地ニ甚大ナル損害ヲ被ラシメタリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費七十三萬圓ヲ以テ本流ニ一箇所支流玄倉川ニ三箇所、中川ニ四箇所、世附川ニ七箇所ノ堰堤ヲ適當ノ地點ニ築設シ河床ノ浸蝕ヲ防止スルト共ニ流下土石ヲ扞止セントス然レドモ以上ノ工事ハ此大面積ノ流域及崩壞ニ對スル施設トシテハ餘リニ小規模ニ失シ其目的ヲ達スルコト困難ナルニ依リ竣功後ハ更ニ數倍ノ追加工事ヲ必要トスルモノナリ

野澤川ハ源ヲ湯船山（標高一千四十二米）山伏山其他ニ發シ流路延長七粁、小山町ニ於テ鮎澤川ニ合流スル小河川ニシテ流域面積十四平方粁アリ流域内山地ハ御坂層ヨリ成リ其上層ハ厚ク火山灰ヲ以テ被覆セラル震災ニ依ル崩壞ハ相當激甚ナリシモ地勢竝ニ河床勾配緩ナルガ爲メ其被害ハ河内川流域ニ比シ遙ニ輕シ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費十二萬圓ヲ以テ本流及支流湯船澤、小野畑澤竝ニ栩澤ニ計七箇所ノ堰堤ヲ築設セントス蓋シ本川ノ荒廢ハ之ニ依リ大體防止セラルベシ

早川流域

早川ハ源ヲ箱根火山ノ火口原湖タル蘆ノ湖ニ發シ仙石原ヲ灌漑シ銚子ノ口ニテ一瀉絶壁ヲ下リ宮城火口原ニ入リ底倉ニテ蛇骨川ヲ合セ東部外輪山タル明星、淺間ノ兩山間ヲ過ギ湯本ニ於テ須雲川火口瀬ト合シ小田原町ノ南方ニテ相模灣ニ注グ急流河川ナリ流域面積百六平方粁ヲ有シ流域内最高地點ハ中央火口丘神山ノ絶頂標高一千四百三十八米トス而シテ蘆ノ湖ヨリ海ニ至ル流路延長二十四粁、河床勾配ハ平均三十三分ノ一トス流域山地ヲ構成スル基岩ハ安山岩ニシテ外見上熔岩ト集塊岩トアリ地質極メテ脆弱ニシテ容易ニ風化侵蝕ノ作用ヲ受ク地勢ハ一般ニ急峻ニシテ林相ハ粗ニ未立木地多シ震災前流域山地ハ崩壞少ク土石ノ流出亦多カラザリシガ震災ニ因リ傾斜急ナル山腹ハ到ル處大崩壞ヲ爲シ山容ヲ一變セシメタリ就中須雲川右岸ノ崩壞ハ最モ甚シク丹澤山塊ノ大崩壞ニ比スベキモノアリ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費六十五萬圓ヲ以テ本流ニ五箇所、支流常盤澤ニ三箇所、須雲川及大澤ニ各二箇所、蛇骨川ニ一箇所、計十三箇所ノ堰堤ヲ築造シ多量ノ流下土石ヲ扞止スルノ外河床ヲ高メテ兩岸崩壞ノ增大ヲ防ギ以テ山腹工事ヲ容易ナラシメ且國道ノ安全ヲ期セントス

堰堤中大平臺上流堰堤ハ五河川流域中最大且最高ノモノニシテ高三十米、長四十二米、築立々積一萬立方米、工費二十四萬圓ヲ要シ貯砂量六十萬立方米ニ達シ出山堰堤(高二十米、長五十米、築立々積五千五百立方米)及觀音坂堰堤(須雲川高十米、長五十一米、築立々積二千百三十五立方米)ト相俟テ早川治水ノ死命ヲ制ス計畫遂行ノ曉ニ於テハ河狀大ニ改マリ塔ノ澤以下ノ沿川ハ甚シキ水害ナカルベク同時ニ上流ニ於テハ水流緩トナリ浸蝕作用歇ミ復タ昔日ノ狂暴ヲ見ザルニ至ルベシ然リト雖モ工事ノ完全ヲ期セント欲セバ本流ニ對シ追加工事ヲ施行スルハ勿論各支流ニ對シテモ尙多數ノ堰堤ヲ築設セザルベカラズ

花水川流域

花水川ハ源ヲ東部及中部丹澤山塊ニ發シ其上流部ニ於テ玉川、鈴川、金目川、葛葉川及水無川ノ五箇川ニ分岐シ下流ニ至リ諸川合流シテ花水川トナリ大磯町ニ於テ相模灣ニ注グ流域面積二百二十平方粁アリ玉川ハ源ヲ大山ニ發シ東流ス流域山地ハ地勢急峻ナルヲ以テ震災ニ因リ山腹ニハ無數ノ崩壞ヲ生ジ震災直後ノ豪雨ニ際シテハ土石流ヲ形成シ下流部落ニ甚大ナル損害ヲ與ヘ尙今後危險ノ狀態ニアル家屋十數戶アリ鈴川ハ源ヲ大山（標高一千二百四十六米）ニ發シ南東流ス傾斜急ナル水源山地ハ震災ニ因リ大面積ノ崩壞ヲ生ジ九月十五日ノ暴風雨ニハ多量ノ崩落土石及倒木ハ山津浪トナリテ大山町ヲ襲ヒ其大半ヲ倒潰セリ爾來一年町民ハ復舊ニ努力シツツアリシガ同十三年九月暴風雨襲來シ山腹ハ益々崩壞ヲ增大シ又々多量ノ土石ヲ流下シテ前年ノ慘禍ヲ繰返スニ至レリ金目川ハ源ヲ大山ノ支峰タル春嶽ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニハ土石流蓑毛彎曲部ノ堤防ヲ決潰シテ部落ニ浸入シ多大ノ損害ヲ與ヘタリ葛葉川ハ源ヲ三ノ塔山（標高一千二百六米）ニ發シ南流ス震災直後ノ出水ニ因リ土石流ハ入角彎曲部ヲ突破シテ耕地ヲ冒シ廣大ナル耕地ヲ不毛ニ歸セシメ人家ヲ流シ人畜ヲ死傷セシメタリ然ルニ同十三年九月ノ豪雨ハ又々多量ノ土石ヲ流下シ其被害ハ前年ニ倍シ且益々增大セントスル狀態ニ在リ水無川ハ源ヲ塔ケ嶽（標高一千百十米）ニ發シ南流後南東流シ秦野町ノ南部ヲ過グ花水川ノ最大支流ニシテ字大倉ニテ山間部ヲ離ルルヤ河水ハ廣大ナル河原地ニ滲透シ其委ヲ失ヒ荒廢最モ甚シ然リト雖モ沿川低地ニ人家ナキヲ以テ大被害無カリシハ幸ナリキ花水川ノ水源山地ハ地震ノ方向ニ直角ナリシト其地勢急峻ナルトニ因リ震災ニ際シテハ大崩壞ヲ生ジ崩落土石及倒木ハ豪雨ニ會シ一時ニ溪谷ヲ下リシガ上流部ハ河積極メテ狹隘ナリシヲ以テ之ヲ流過スルヲ得ズ遂ニ沿川ノ地ヲ其狂暴ノ手ニ委スルニ至リシナリ事態如斯ナルヲ以テ直ニ本川ニ大堰堤ヲ築設シ土石ノ流下ヲ扞止セザルベカラズ依テ本工事費二十八萬圓

ヲ以テ玉川、金目川及水無川ニ各二箇所、葛葉川ニ一箇所、鈴川ニ十箇所、計十七箇所ノ堰堤ヲ築設シ其目的ヲ達セントスルモ右ノ程度ニテハ其效果充分ナラズ更ニ増補工事ヲ施行スルノ要アリトス

多摩川流域

多摩川ハ源ヲ山梨縣東山梨郡神金村笠取山東谷ニ發シ小菅、日原ノ溪流ヲ合セ東流青梅町ニ至リ右折シテ東南ニ向ヒ拜島村ニテ秋川、日野町ニテ淺川ノ二大支流ヲ合セ東京、神奈川ノ兩府縣界ヲ成シテ東京灣ニ注グ砂防工事ヲ施行セントスル流域ハ全部秩父古生層ニ屬シ地勢急峻ナレドモ土地豐饒ニシテ森林ノ生長良好ナリ而シテ本川ハ東京市水道水源地ナルヲ以テ同市ハ水源涵養ノ目的ニテ山林ヲ買收シ又ハ借入レ其經營ニ努力スレドモ大消費地タル同市ニ遠カラザル關係上他ノ森林ハ濫伐セラレ山地ハ極度ニ荒廢シ甚ダ寒心スベキ狀況ヲ呈スルニ至レリ依テ東京府ニ於テハ同七年度以來本川流域ノ砂防工事ニ著手シ同十二年度迄繼續施行セリ震災ニ因ル山地ノ崩壞ハ他ノ四箇川流域ニ比シ遙ニ輕キモ山地到ル處ニ龜裂ヲ生ジ將來益々崩壞面積ヲ增大スルノ虞アリ殊ニ東京市上水道ニ對シ重大ナル關係アルヲ以テ其砂防ハ一日モ忽諸ニ附シ難シ

本川砂防計畫ノ大要ハ本工事費五十五萬圓ヲ以テ青梅町以奥多摩川本流々域四百五十七平方粁、五日市以奥秋川流域百四十一平方粁及八王子以奥淺川流域百三平方粁、合計七百一平方粁ノ流域內河川適當ノ箇所ニ五十六箇所ノ堰堤ヲ築設シ川床ノ浸蝕ヲ防グト共ニ土石ノ流下ヲ扞止シ尙崩壞ノ增大ヲ防止シ且ツ將來行ハルベキ山腹工事ノ基礎タラシメントス

施工狀況

本工事ハ大正十三年度ノ創業ニ係リ同年度ニ於テハ道志川、桂川(以上相模川流域)河內川(酒匂川流域)早川、

花水川及多摩川ニ各工場ヲ置キ工事ハ其流域内最モ急ヲ要スル箇所ヨリ著手シ翌十四年度以降更ニ中津川、笹子川（以上相模川流域）鮎澤川（酒匂川流域）小菅川、秋川（以上多摩川流域）等ニ各工場ヲ置キ只管工事ノ進捗ニ努メ川床ノ浸蝕ヲ防グト共ニ崩壞土石ノ流下ヲ扞止シ以テ大ニ水流ノ緩和ヲ計レリ斯クテ前年度迄ニ堰堤五十箇所ヲ竣功セシメ本年度ニ於テハ前年度ヨリ續工セル堰堤二十七箇所、床固二箇所ノ外新タニ堰堤十七箇所及床固四箇所ヲ起工シ内堰堤十八箇所、床固二箇所ヲ竣功セシメタリ而シテ起工以來ノ竣功數ヲ各河川別ニ區別スレバ相模川流域堰堤十七箇所、床固一箇所、酒匂川流域堰堤六箇所、早川流域同六箇所、花水川流域同十一箇所、多摩川流域同二十八箇所及床固一箇所ナリトス而シテ本年度施工ノ堰堤及床固設計並ニ竣功等各河川別明細表左ノ如シ

幹川	支川	小支川	小々支川	名稱	設計高 高	設計高 長	設計高 立積	設計高 工費	前年度迄竣功高 立積	前年度迄竣功高 工費	本年度竣功高 立積	本年度竣功高 工費	合計 立積	合計 工費	竣功歩合
					米	米	立方米	円	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
	中津川	早戸川		クグリノフチ堰堤	一二	二一	一、八五五	五三、八〇〇	一、七〇五	四三、五一七	—	三、五九六	一、七〇五	四七、一一三	〇・八八
				瀬戸堰堤	一〇	一八	七七四	一八、六〇〇	三四五	一一、四一四	六九	一、一三五	四一四	一二、五四九	〇・六七
				杉平堰堤	一六	二六	一、五四八	三五、六〇〇	—	—	五七八	一五、二五一	五七八	一五、二五一	〇・四三
			水澤	水澤堰堤	一〇	三三	九四五	二一、〇〇〇	—	—	八一八	一五、〇三七	八一八	一五、〇三七	〇・七二
	道志川	神ノ川		小瀬戸堰堤	一五	二九	二、〇七七	四六、五〇〇	二、〇二六	四五、九三〇	—	—	二、〇二六	四五、九三〇	〇・九九
				大瀬戸堰堤	一六	三七	二、六八一	六五、六〇〇	二、七六七	六三、四五三	—	一、一八九	二、七六七	六四、六四二	〇・九九
				社宮司堰堤	八五	三五	一、九二七	四六、〇〇〇	八一〇	二〇、〇一四	七八六	一五、〇〇四	一、五九六	三五、〇一八	〇・七六
				小瀬戸堰堤床固	—	—	八三三	二〇、〇〇〇	—	—	—	三二二	—	三二二	〇・〇二
				大瀬戸堰堤床固	—	—	一、一二二	三二、〇〇〇	—	—	七三	一三、一五六	七三	一三、一五六	〇・四一
				社宮司堰堤床固	—	—	六一一	一六、〇〇〇	—	—	三九五	七、九一七	三九五	七、九一七	〇・四九

相模川		井口澤		井口澤堰堤	一五	四六	二、四五九	五六、〇〇〇	二、〇四二	三六、五四三	六六四	一〇、九二二	二、七〇六	四七、四六五	一・〇〇
		西澤		西澤堰堤	八	一九	三七八	八、五〇〇	—	—	三九〇	七、八〇六	三九〇	七、八〇六	一・〇〇
				長野堰堤	一〇	四七	一、七二三	三九、〇〇〇	—	—	—	二、五一四	—	二、五一四	〇・〇六
	桂川	鹿留川		雁渡堰堤	八六	四五	一、三二八	二六、〇〇〇	一、二三五	二〇、八五九	—	一〇	一、二三五	二〇、八六九	一・〇〇
				水棚堰堤	一二	四六	一、七七三	三五、八〇〇	一六一	七、三二〇	一、六四五	二四、二五九	一、八〇六	三一、五七九	一・〇〇
				倉見澤堰堤	八	五五	一、四四三	三〇、〇〇〇	—	—	七八	三、一六八	七八	三、一六八	〇・一一
		辰見澤		高畑堰堤	六	二六	三六一	七、七〇〇	三二一	五、七五一	一六	二七〇	三三七	六、〇二一	一・〇〇
				東澤堰堤	六	一九	一四五	三、九〇〇	—	五一三	一七三	三、三七八	一七三	三、八九一	一・〇〇
				昇出堰堤	五	二二	二一〇	五、〇〇〇	一七三	三、二五九	四六	一、〇三四	二一九	四、二九三	一・〇〇
	笹子川	庭洞澤		庭洞澤堰堤	自第一至第四		一五一	三、九〇〇	一二七	二、七六五	四四	八八〇	一七一	三、六四五	一・〇〇
	小計				—	—	二四、三四四	五七〇、九〇〇	一一、七一二	二六一、三三八	五、七七五	一二六、八四八	一七、四八七	三八八、一八七	〇・六八
酒匂川	河内川	玄倉川		立間堰堤	一三	五一	二、七八八	六八、二〇〇	二、三七四	五九、九一二	—	四、六一五	二、三七四	六四、五二七	〇・九七
				立間堰堤第二副堰堤	四	二一	二三五	一〇、〇〇〇	二二〇	八、六五六	—	—	二二〇	八、六五六	〇・八七
				小畑堰堤	一二	三七	三、一九八	七一、〇〇〇	二、二四二	四〇、二四三	六一二	一二、二二六	二、八五四	五二、四六九	〇・七四
				立間床固	—	—	二、八二八	六六、〇〇〇	—	—	七四六	一六、九七九	七四六	一六、九七九	〇・二六
			小菅澤	向澤堰堤	八	四四	二、一六〇	四八、六〇〇	一、九一四	三六、一八二	三七五	六、八三七	二、二八九	四三、〇一九	一・〇〇
			小川	小川堰堤	一三	三三	一、四六三	二八、〇〇〇	四三九	一一、三八四	七五七	九、九四三	一、一九六	二一、三二七	〇・七六
		世附川	大又澤	笹小屋堰堤	一三	二九	一、〇六九	二四、四〇〇	—	—	三四四	九、五〇三	三四四	九、五〇三	〇・三九
	鮎澤川	野澤川	湯船澤	湯船澤堰堤	八	四三	一、〇〇五	二三、〇〇〇	七三三	一三、七九六	六六一	九、〇四七	一、三九四	二二、八四三	一・〇〇
				湯船澤上流堰堤	六	二五	八八三	一七、二〇〇	—	—	四二七	六、五一四	四二七	六、五一四	〇・三八
	小計				—	—	一五、六二九	三五六、四〇〇	七、九二二	一七〇、一七三	三、九二二	七五、六六四	一一、八四四	二四五、八三七	〇・六九
早川	早川			大平臺上流堰堤	三〇	四二	一〇、三六一	二四〇、〇〇〇	三、〇四八	四六、八三二	二、〇五七	二八、四五九	五、一〇五	七五、二九一	〇・三一

幹川	支川	小支川	小々支川	名稱	設計高 高	設計高 長	設計高 立積	設計高 工費	前年度迄竣功高 立積	前年度迄竣功高 工費	本年度竣功高 立積	本年度竣功高 工費	合計 立積	合計 工費	竣功歩合
					米	米	立方米	円	立方米	円	立方米	円	立方米	円	割分
早川				出山堰堤	二〇	五二	五、七九一	一二〇、〇〇〇	五、八四九	九〇、六三四	二八八	一〇、四七四	六、一三七	一〇一、一〇八	〇・八四
早川				出山堰堤第二副堰堤	四	一九	二二四	七、七〇〇	—	—	二一六	七、六七九	二一六	七、六七九	一・〇〇
早川	須雲川			観音坂堰堤	一〇	五一	二、一三五	四六、五〇〇	一、一九四	二〇、八三五	—	—	一、一九四	二〇、八三五	〇・四五
早川	須雲川	猿澤		花ノ木堰堤	一五	四六	三、七一七	七七、〇〇〇	三、一八八	五八、七三六	二一六	一〇、一〇五	三、四〇四	六八、八四一	一・〇〇
				小計	—	—	三三、三三八	四九一、二〇〇	一三、二七九	二二七、〇三七	二、七七七	五六、七一七	一六、〇五六	二八三、七五四	〇・五六
花水川	鈴川			八段堰堤	一〇	三七	一、〇二四	二四、〇〇〇	七〇二	一四、二八五	一七一	二、五九六	八七三	一六、八八一	一・〇〇
花水川	鈴川			袋町堰堤	七	二四	四二一	一〇、一二八	—	—	三六七	七、三〇二	三六七	七、三〇二	一・〇〇
花水川	鈴川			袋町上流堰堤	三	三〇	二一五	五、五〇〇	—	—	—	三七二	—	三七二	〇・〇七
花水川	金目川			中尾堰堤	一三	三〇	九五五	一九、〇〇〇	四二〇	七、五五二	四三七	七、三五七	八五七	一四、九〇九	一・〇〇
花水川	葛葉川	瀧野澤		瀧ノ澤堰堤	一二	二九	九〇八	一八、〇〇〇	—	—	八九〇	一四、六五六	八九〇	一四、六五六	一・〇〇
				小計	—	—	三、五三三	七六、六二八	一、一二二	二一、八三七	一、八六五	三二、二八三	二、九八七	五四、一二〇	〇・七一
多摩川	入川澤			後山堰堤	九	二六四	七一〇	一四、二〇〇	五八一	一一、三二八	—	四一五	五八一	一一、七四四	一・〇〇
多摩川	舟川澤			舟川澤床固	二	十三本 總延長一七八・五米	三五四	八、六〇〇	二七五	五、九八二	八四	一、七〇五	三五九	七、六八七	一・〇〇
多摩川	海澤			海澤堰堤	六	二七	三九九	八、五〇〇	—	—	二三八	四、七〇二	二三八	四、七〇二	〇・五五
多摩川	秋川	盆堀澤		盆堀堰堤	八	三五	七〇四	一三、〇〇〇	二〇三	四、三六四	四五〇	八、六三三	六五三	一二、九九七	一・〇〇
多摩川	秋川	南秋川		大平堰堤	六	二六	三七〇	一〇、五〇〇	—	—	一四八	五、六四三	一四八	五、六四三	〇・五四
多摩川	秋川	南秋川		中ノ平堰堤	七	二七	四三七	九、七〇〇	—	—	一六四	五、九六二	一六四	五、九六二	〇・六一
多摩川	秋川	北秋川		笹久保堰堤	九	二三・四	五五六	一二、一〇〇	—	—	—	一、八二七	—	一、八二七	〇・一五
多摩川	秋川	北秋川		平山堰堤	一〇	二六	八六四	二一、七〇〇	五六一	一二、二一一	一六九	五、〇一七	七三〇	一七、二二八	〇・七九

小菅川 小玉川 栃平堰堤	一二	二四	九六〇	二二、五〇〇	—	—	二八二	八、九二六	二八二	八、九二六	〇・四〇
向澤 風穴堰堤	八	三七	七九六	一九、〇〇〇	—	—	四三九	一〇、七七六	四三九	一〇、七七六	〇・五七
奈良倉堰堤	八	三四	六九三	一六、六〇〇	六五八	一三、四二四	四八	二、二〇一	七〇六	一五、六二五	一・〇七
小計	—	—	六、八四三	一五六、四〇〇	二、二七七	四七、三〇九	二、〇二二	五五、八〇八	四、三〇〇	一〇三、一一六	〇・六六
總計	—	—	七、二五七	一、六五一、五二八	三六、三一三	七一七、六九四	一六、三六一	三四七、三三〇	五二、六七四	一、〇六五、〇一四	〇・六四

本年度竣功高ハ四十五萬一千六百十六圓ニシテ創業以來ノ累計ハ二百二萬九千七百二十七圓トナリ之ヲ總事業費豫算四百五十五萬圓ニ比較スル時ハ四割五分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功步合
本工事費（堰堤）	竣功五〇、未竣功二七（箇所）	円 一、二六五、二三九	竣功一八、未竣功二六（箇所）	円 三二三、三四〇	竣功六八、未竣功二六（箇所）	円 一、五八八、五七九	割分 —
本工事費（床固）	竣功 —、未竣功 二	八、七四七	竣功 二、未竣功 四	二三、九八一	竣功 二、未竣功 四	三二、七二八	—
測量費	—	一二、〇五八	—	二、六三二	—	一四、六九〇	—
船舶及機械費	—	四八、〇九四	—	一一、四九二	—	五九、五八六	—
營繕費	—	二一、六六二	—	三、五九四	—	二五、二五六	—
雜費	—	二一五、四七〇	—	七九、四七七	—	二九四、九四七	—
亡失毀損	—	—	—	四、七四九	—	四、七四九	—
共濟組合給與金	—	六、八四一	—	二、三五一	—	九、一九二	—
總計	—	一、五七八、一一一	—	四五一、六一六	—	二、〇二九、七二七	〇・四五

第二　信濃川補修工事

緒言

信濃川改修工事ハ明治四十年度ヨリ昭和二年度ニ至ル二十一箇年度繼續事業トシテ工費豫算二千三百五十四萬一千九百五圓(內新潟縣負擔額六百十二萬九千圓)ヲ以テ左岸新潟縣三島郡與板町、右岸同縣南蒲原郡中之島村以下三島郡寺泊町海岸ニ至ル延長約十粁ノ分水路ノ開鑿竝ニ新潟市信濃川河口ノ改良工事ヲ施行シ洪水ノ汎濫及河口ノ埋塞ヲ防止スルコトヲ目的トシ此內分水路ノ開鑿工事ハ大正十年度ニ於テ略其功ヲ竣リ大正十一年八月本川左岸ノ舊堤ヲ爆破シテ新水路ニ通水シ爾來能ク分水工事所期ノ目的ヲ完ウスルコトヲ得タリシガ昭和二年六月突如トシテ分水路起點三島郡大河津村地先ニ設置セラレタル自在堰ノ陷沒ヲ起シ全ク水位調節ノ機能ヲ失ヒ本川全水量ハ分水路ニ放流セラレテ一時大河津下流ノ本川及ビ派川中之口川沿岸ノ灌漑ト航運トニ障害ヲ及ボスニ至レリ時恰モ農家ノ灌漑時期ニ際會シ洗堰下流ノ通水ハ焦眉ノ急ヲ訴ヘタルガ故ニ工費豫算八十七萬四百十一圓(外ニ事務費七千二百二十五圓)ヲ支出シテ應急工事ヲ施行シ辛ウジテ本流ノ通水ヲ計リタリ

本補修工事ハ破壞セル自在堰ニ聯關セル築造物ノ復舊及補修ヲ主トシ之ニ附隨シテ必要ナル諸工事ヲ施行スルモノニシテ昭和二年度工事費豫算八十八萬二千圓(外ニ事務費七千二百圓)ヲ以テ工事ニ著手シタリシガ更ニ昭和三年度以降同五年度ニ至ル三箇年度繼續事業トシテ工事費三百五十七萬八千圓(外ニ事務費二十六萬一千圓)ヲ追加シ總工費豫算四百四十六萬圓(外ニ事務費二十六萬八千二百圓及附帶工事費管理者負擔額五十萬二千圓)ヲ以テ施行スルコトトセリ

河狀並計畫大要

新堰堤可動堰ハ舊自在堰上流百米ノ位置ニ築造シ堰長百八十米之レヲ十個ノ水路ニ分チ各水路ニハストーニー式鋼扉ヲ備ヘ洪水時ニハ之ヲ捲揚ゲ固定堰上ノ溢流ト相俟テ毎秒五千五百七十立方米ノ計畫洪水量ヲ分水路ニ放流スルニ支障ナカラシム構造ハ鐵骨又ハ鐵筋混凝土造トシ基礎ノ四周ハ鋼矢板ヲ以テ締切リ水ノ滲透ト土砂ノ移動トヲ防止ス

可動堰上下流ニ於ケル洗掘ヲ防止センガタメニハ之ニ夫々堅牢ナル床固及水叩工事ヲ施シ右岸堤保護ノ爲メニハ堰堤右岸橋臺ヲ堤脚ヨリ突出セシムルコト九米トス

固定堰ハ現堰ヲ補强改造シ其右端ト新可動堰左端トヲ直角ニ連絡シテ鋼矢板ヲ二重ニ打込ミタル圍堰式隔壁ヲ造ル固定堰下流ハ緩勾配ヲ以テ低水路ニ傾斜スル導水路ヲ設ケ之レニ床留工ヲ施ス當初ノ計畫ヲ改メ下流水叩ヲ延長シテ堰堤斷面ヲ約二倍三分ニ增大シ其末端ニハ鋼矢板ヲ打込ミ以テ堰堤ノ安定ヲ維持セントス蓋シ下流洪水敷洗掘ノ結果當初計畫ヲ以テシテハ固定堰ノ安全ヲ保證シ難キヲ認メタルニ因ル

分水路ハ通水以來河床ノ洗掘甚シク且自在堰陷沒ノ結果ハ四箇月餘ノ久シキニ亙リテ激流ノ洗フ處トナリ河床ハ異狀ナル洗掘作用ヲ蒙リ之レヲ自然ニ放任スルコトヲ許サズ依テ分水路ヲ維持シ以テ新堰堤ヲ保護センガ爲メニ床固工ヲ施ス第一床固ハ舊自在堰基礎ヲ補强改造シテ新堰堤ニ對スル副堰堤ノ作用ヲ爲サシメ第二床固ハ分水路終端西蒲原郡國上村大字渡部地先ニ混凝土拱式堰堤ヲ作リ河底ノ岩盤ヲ保護スルト共ニ其上流ノ水蝕ヲ防止ス是等二箇所ノ床固ノ中間ニハ更ニ適宜ノ位置ニ構造簡易ナ

ル床留工事ヲ施スモノトス

洗堰下流ノ幹川筋ハ累年河床上昇シテ通水量ヲ減小シ灌漑ト航行トニ困難ヲ感ジタリシガ自在堰陷沒ノ結果流勢分水路ニ集中シ爲ニ前記本川筋ハ土砂ノ沈澱頓ニ增加シ通水杜絶スルニ至リシヲ以テ蒲原平野約二萬六千ヘクタールノ灌漑ト航運トヲ保障センガ爲メ洗堰ヨリ中ノ口川分派口ニ至ル延長八粁ノ區間ノ附帶低水工事ヲ施行ス即チ低水幅ヲ八十米乃至百米ト定メテ水路ヲ浚渫シ兩岸ニハ水刎兼用ノ護岸ヲ設ケ水流誘導ノ爲メニハ導流堤ヲ作リ流水ノ自然作用ニ依テ水路ヲ維持セントス外ニ附帶用水樋管補足工事一箇所アリ

施工狀況

本工事ハ昭和二年十二月九日ノ創業ニシテ同年度內ハ殆ンド準備作業ニ忙殺セラレ且北越特有ノ風雪ハ操業ヲ困難ナラシメ運輸機關ノ杜絶ハ材料配給ニ支障ヲ及ボシ著シク功程ノ進捗ヲ阻害シタリ本年度ニ入リテ各種ノ準備略整ヒ施工漸クニシテ其緒ニ就クコトヲ得タリト雖モ早春ヨリ初夏ニ亙ル長期ノ融雪出水夏期及秋期ニ於ケル洪水竝ニ冬期ニ於ケル風雪ハ工事施行ヲ遲延セシムルコト尠カラズ且不完全ナル舊自在堰ヲ以テ水位調節ヲ計ル傍ラ補修工事ヲ進ムルノ困難ト苦痛トハ言語ニ絶スルモノアリ加フルニ昭和三年九月十五日舊自在堰右岸堰臺ニ接スル上下流石張護岸突如トシテ陷沒シ濁流右岸堤ヲ決潰セントスルニ逢ヒ徹宵之レガ防禦工事ニ努メ漸クニシテ災危ヲ未然ニ防止スルコトヲ得タリシガ殘存自在堰基礎ノ危險ナル一日モ之ニ信賴スルコト能ハザルヲ認メタルガ故ニ急遽自在堰應急補强工事ヲ起シ補修工事期間中ノ出水ニ備フル爲メニ曩ニ自在堰應急工事ニ於テ鋼矢板ヲ以テ締切リ

タル第五號乃至第八號徑間(左岸寄四徑間)上流ヲ角落式假堰ニ改造スルコトトシタリシガ是等ノ情勢ハ彌ガ上ニモ本補修工事ノ進捗ニ障害ヲ與フルコト著シク未ダ完全ニ下流沿川地方治水及利水上ノ不安ヲ除去スルノ域ニ達セザルヲ遺憾トス本年度施工概要次ノ如シ

堰堤工事

可動堰工ハ本年度ノ起工ニシテ先ヅプリストマン式浚渫船二隻ヲ以テ基礎掘鑿ニ從ヒ年度内三萬六千四百九十五立方米ヲ掘鑿シタリシガ水中作業ナルヲ以テ出水毎ニ沈澱土砂ヲ以テ掘鑿箇所ヲ埋沒セラレ年度内既ニ設計土量二萬四千九百立方米ヲ超過スルコト約一萬一千六百立方米ニ達シ而モ猶ホ際涯ヲ知ラザル狀態ナルニ鑑ミ可動堰上流床固上流部ニ低水路ヲ横斷シテ延長約百二十米ノ假防砂堤ヲ設ケ以テ可動堰右半部ヲ掩護スルト共ニ左半部ハ流水ノ流勢ヲ利用シテ沈澱土砂ヲ洗掘セシムルコトトシタリ基礎締切鋼矢板ハ上流部長十二米ラルセン式、下流部長十一米テルル、ルージユ式、計延長約三百五十九米ノ打込ヲ竣リ本年度末期ニ於テ橋脚下基礎杭長十三米ノ松丸太ノ打込ニ著手スルコトヲ得タリ斯ノ如キ長大ナル鋼矢板及松丸太ヲ砂層ヲ貫キテ打込ムコトノ成否ハ本工事設計當初ニ於ケル一大疑問ナリシガ强力ナルスティム、ハンマーヲ備フル杭打船二隻ヲ使用シテ之ガ打込ニ成功シタルヲ欣幸トス

可動堰上流床固工ハ同ジク本年度ノ起工ニシテ年度内一萬三千二百六十八立方米ノ土砂ヲ掘鑿シタル上此部分ニ粗朶沈床一千九百平方米ヲ施工シテ設計數量ノ約五割ヲ竣功スルコトヲ得タリシガ殘餘ノ部分ハ施工ヲ一時打切リ可動堰基礎工ノ進捗スルニ伴ヒテ之レガ施工ヲ再開繼續セントス沈床上ニ置キテ之ガ異動流失ヲ防止ス可キ重量一噸ノ混凝土方塊ハ總數二千六百二十五個ノ内年度内一千四百六十個ヲ製作シタレドモ未ダ据置ノ運ビニ至ラズ

可動堰下流水叩工ハ前年度二千七百九十一立方米、本年度三千九百十二立方米、合計六千七百三立方米ノ土砂ヲ浚渫シタリシガ粘土褥工事ハ前年度ヲ以テ之レヲ打切リテ粗朶沈床ノ沈設ニ從事シ年度内三千三百五十平方米、累計七千三百平方米ノ沈設ヲ竣リ此上ニ置クベキ重量一瓲混凝土方塊六千四百二十個ハ次年度以降之レガ製作ニ從フ豫定ナリ水叩混凝土下流端ナル長六米ランサム式鋼矢板ハ延長百九十九米ノ内年度内百八十五米ノ打込ヲ竣功シタリ

固定堰補強工モ亦本年度ノ起工ニシテ水叩修理工ニ於テハ堰體下流端ニ長五米ランサム式鋼矢板延長約五百三十米ノ打込ヲ竣功シテ堰體ノ崩壞ヲ防止シ其下流ニ於ケル捨石ハ四千三百五十九立方米ヲ補足シ水叩補足工ニ於テハ一千三百四十五立方米ノ捨石ヲ行フト共ニ其下流端ニ於ケル長十米テルルージユ式鋼矢板ハ延長五百一米ノ内年度内三百三十米ノ打込ヲ竣功シタリ

床固工事

第一床固工ハ前年度ヨリノ繼續施工ニシテ第五號乃至第八號ピーヤ鋼扉及鐵塔ノ類ハ全部之ヲ爆破除却シ上、下流水叩ハ年度内蛇籠五百八十九本(累計一千三百五十七本)捨石二千五百六十七立方米(累計八千百十九立方米)混凝土一千八百五十六立方米(累計二千十七立方米)ヲ施工シ累計六千二百五十八平方米ノ全面積ニ亙リテ完全ニ之ヲ補強シ自在堰應急工事施行ノ上流鋼矢板締切ハ前述自在堰應急補強工角落假堰ノ竣功スルヲ俟ッテ其假堰敷以上ヲ切斷除却シタリ

水叩下流ノ深掘部ヲ埋立ツルヲ以テ目的トスル石堤工ハ年度内粗朶沈床二千十四平方米(累計三千二百四十四平方米)、木工沈床二千七百七十二平方米(累計三千百五十三平方米)、捨石一萬五千四百八十五立方米(累計一萬九千五百四十九立方米)ヲ施行シ木工沈床ノ移動ヲ防グガ爲メニハ古錨鎖ヲ以テ之ヲ鎭碇シ水

叩トノ接續部ニハ混凝土五百三十立方米ヲ施工シテ流水ノ激衝ヲ緩和シタリ

五千石床留工ハ前年度ニ於テ其大部分ヲ竣功シタリシガ本年度ハ蛇籠百六十三本、捨石二千三百四十四立方米、杭打五百二十三本ヲ施工シテ全ク其工ヲ竣リ上流部ニ於ケル河床ヲ完全ニ安定セシムルコトヲ得タリ

石港床留工ハ渡部橋下流舊信濃川改修工事施行ノ床留工ヲ修理スルモノニシテ本年度ニ於テ起工シ年度內木工沈床一千七百九十五平方米、捨石六千三百四十七立方米ヲ施行シテ之レガ竣功ヲ見タリ本床留工竣功ノ結果其上流部ノ平水時水面勾配ハ四千分ノ一以下トナリ流水ニ依ル洗掘作用ヲ防止シ得ルニ至レリ

第二床固工ハ分水路末端ノ岩盤ヲ保護スル目的ノ爲メニ國上村字渡部地先ニ施工ス本年度ノ起工ニシテ先ヅ右岸假締切工事ニ著手シ河底ノ岩盤ヲ切均シタル上ニ木製締切枠延長百五十一米ヲ据付ケタリシガ昭和四年三月二十五日以降融雪出水ニ逢ヒ工事中止ノ儘年度ヲ越スノ已ムナキニ至レリ

採石工事

割石ハ前年度ニ引續キテ野積海岸ニ於テ之ヲ採取スル外本年度ヨリ新タニ彌彥山腹ニ石切場ヲ開設シテ割石ノ採取ヲ開始シ架空索道ヲ用ヒテ野積海岸迄搬出シ更ニ二十噸機關車ヲ以テ各工事場ニ運搬スルコトトシタリ土丹岩ハ同ジク渡部地先ニ於テ採取シ玉石及砂利ハ長岡市附近及其上流ニ於テ之ヲ採取スルコト前年度ニ同ジ年度內採取量割石六萬四千八百五十四立方米、土丹岩七千二百六十五立方米、玉石三千三十立方米、砂利五千二百十九立方米ナリ

運搬工事

本工事ハ二十瓲機關車及四瓲五ガソリン機關車ヲ用ヒテ購入ニ係ル鋼矢板、粗朶、木材、セメント等ヲ地藏堂驛ヨリ專用線路ニ據リテ大河津工事場ニ運搬シ又ハ洗堰下流物揚場ニ陸揚シタル玉石ヲ大河津工事場ニ運搬シタルモノトス

附帶工事

洗堰下流舊新濃川筋中之口川分派口ニ至ル延長八粁ノ附帶低水工事ハ本年度ニ於テ工程著シキ進捗ヲ示シ上流部約四粁ノ區間ノ航路ヲ略改善スルコトヲ得タリシガ年度內施工ニ係ルモノハ熊ノ森、笈ヶ島横田ノ三機械浚渫工、中之島、熊ノ森、笈ヶ島、小池ノ四護岸工、熊ノ森、中之島ノ二水制工、之ニ導流堤工及割石採取工竝ニ玉石採取工ヲ加ヘタル十二工事ニシテ內前年度ヨリノ繼續施工ニ係ル熊ノ森機械浚渫工、中之島護岸工、導流堤工及本年度起工ニ係ル笈ヶ島護岸工ハ年度內ニ之レガ竣功ヲ見タリ

機械浚渫ハ前年度ニ引續キ電動喞筒船一隻、バケツト船二隻ヲ使用スル外本年度ニ於テ新タニ一千八百立方米掘電動喞筒船浦濱號ヲ使用シ年度內計土量二十五萬二千八百九十二立方米ヲ處理シタリ

護岸工ハ水路ヲ整理シテ亂流ヲ防グガ爲メニ計畫低水路ヲ挾ンデ其兩岸ニ施行スルモノニシテ適宜ニ粗朶沈床、鐵線猪ノ子、柳蛇籠、包柴工等ヲ用ヒ年度內粗朶沈床六千七百八十二平方米、鐵線猪ノ子一千九百四十四組、柳蛇籠三千五十米ヲ施行シタリ

水制工ハ上記護岸工ノ間ヨリスル逸水ヲ阻止シテ土砂ノ沈澱ヲ助成スル目的ノ爲メニ護岸工ニ直交シテ其背面ニ施行シ或ハ低水法線區域外ノ舊水路ニ施行ス工法ハ粗朶沈床、鐵線猪ノ子、包柴工、杭柵等ヲ用ヒ年度內粗朶沈床二千三百四平方米、鐵線猪ノ子百八十六組其他ヲ施行シタリ

附帶工事用割石ハ野積海岸、同玉石ハ長岡市上流ニ於テ採取スルモノニシテ年度內採取量割石九百四立

方米、玉石八千六百八十立方米トス

雜工事

大河津村地先洗堰下流信濃川左岸ニ河岸揚材料置場ヲ作ルガ爲メノ假物揚場工及可動堰築造箇所附近分水路右岸沿堤地ノ一部ヲ收用シテ之レヲ材料置場ニ充ツルガ爲メノ材料置場埋立工ハ前年度ヨリノ繼續施工ニシテ年度内ニ之レガ竣功ヲ見タリシガ前述昭和三年九月十五日ノ事變ニ鑑ミテ直チニ起工シタル自在堰應急補强工ニ於テハ年度内右岸堰脚上下流ニ於ケル堤防根固工事ノ一部ヲ竣功シテ下流堤脚部ニハ鋼矢板ヲ打込ミ石張護岸ヲ復舊シテ此部分ヨリスル漏水ノ絶滅ヲ期スルト共ニ舊自在堰左半部ニ築造スル角落式假堰十六連ハ橋脚及橋臺混凝土ノ大部分ヲ施工シ頂部僅カニ三十五糎ノ施工ヲ剩スノミニシテ昭和四年三月二十五日以降融雪出水ニ會シ此狀態ヲ以テ年度ヲ越スノ已ムナキニ至リシト雖モ同年六月ノ減水期ヲ俟ッテ施工ヲ繼續シ夏期ノ出水ニ對シ水量調節ニ遺憾ナカラシムルノ豫定ナリ

本年度ニ於ケル竣功額ハ百二十四萬六千百十五圓ニシテ起工以來本年迄ノ累計百六十四萬二千六百八十三圓ナリ之レヲ總工費四百四十六萬圓ニ比スレバ三割七分ノ竣功ナリトス其工事竣功表左ノ如シ但シ「ロ」ハ新潟縣負擔額ヲ示ス

費目	前年度迄竣功高 數量	前年度迄竣功高 金額	本年度竣功高 數量	本年度竣功高 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本堰堤工	—	二八、四五一円	—	三六六、一五四円	—	三九四、六〇五円	〇・一六割分
床固工	—	六八、一四四	—	一四四、五八七	—	二一二、七三一	〇・二七

事 採石	立方米 二三、三三六	四四、〇七八	立方米 八三、三七四	一六八、二八三	立方米 一〇六、七一〇	二一二、三六一	—
費 材料運搬	—	二、八一八	—	一九、五四一	—	二二、三五九	—
附帯工事費	—	一三、八一二 □一五、九四一	—	一九三、三六七 □一六六、四八五	—	二〇六、一七九 □一八二、四二六	—
用地費	—	九三九	—	二、二〇六	—	三、一四五	—
船舶及機械費	—	一五〇、七七七	—	一七七、八八一	—	三二八、六五八	—
測量費	—	二、〇二〇	—	四、七三一	—	六、七五一	—
營繕費	—	四一、〇六二	—	三一、五二二	—	七二、五八四	—
雜費	—	四二、七三四	—	一三三、五二八	—	一七六、二六二	—
共濟組合給與金	—	一、七三三	—	五、三一五	—	七、〇四八	—
總計	—	三九六、五六八 □一五、九四一	—	一、二四六、一一五 □一六六、四八五	—	一、六四三、六八三 □一八二、四二六	〇・三七

第三　利根、渡良瀬兩川維持工水害復舊工事

緒言

本工事ハ昭和三年八月初旬ニ於ケル稀有ノ出水ニ因ル利根川幹川、派川江戸川及支川渡良瀬川筋ノ被害ヲ復舊スル工事ニシテ昭和三、四兩年度繼續事業トシ工費豫算三十萬五百圓ヲ以テ施行スルモノトス

今回ノ出水ハ昭和三年七月下旬小笠原島及八丈島間ニ起レル七百三十一粍ノ低氣壓ニ其端ヲ發シ同低氣壓ハ同月二十八日八丈島附近ヲ低迷シ二十九日ヨリ密雲次第ニ增加スルト共ニ北東ノ强風加ハリ翌三十日午後ヨリ暴風雨ヲ齎ラシ次デ三十一日豪雨襲來セル爲メ各河川ハ一時ニ增水セリ而モ颱風ハ北海道ノ東海岸ニ在リシ高氣壓ノ爲メニ停滯シ八月一日ニ至ルモ降雨連續シ遂ニ一大洪水ヲ起スニ至リ渡良瀬川ハ古河ニテ五米八二ヲ示シ利根川幹川ハ栗橋以下ニ於テ計畫高水位ニ垂ントシ大正十四年八月ノ洪水ニ匹敵スルニ至リ下流取手地先ハ八月二日午後五時八米七三、安食町地先ハ同日正午六米一九ヲ示シ最大高水流量ハ川俣ニ於テ毎秒四千四百六十立方米、栗橋ニ於テ四千二百十立方米ニ達シ濁流ハ滔々トシテ堤外ニ漲リ矢ノ如キ水流ハ兩岸ニ激衝シ之レガ爲メ護岸ノ破損崩壞、水制ノ沈下流失等頻出シ其危險言フベカラズ加フルニ十月下旬再ビ之ニ比スベキ出水アリシ爲メ一層其被害ヲ擴大セリ

之レヲ各川別ニ擧グレバ利根川第二期部内ハ小文間村以下金江津村間ニ於テ護岸二箇所延長二百七十米、水制三箇所延長七百五十米、第三期部內ハ上流芝根村以下大野村ニ至ル十三箇村ニ於テ護岸十箇所延長三千百二十米、水制十一箇所延長一千九百米、派川江戸川ハ五霞村以下下流市川町間ニ於テ護岸四箇所延長八百六十米、水制四箇所延長九百十六米ニ達シ渡良瀬川ハ上流梁田村以下西谷田村間ニ於テ護岸五

箇所延長七百四十米ニ及ベリ

是等被害箇所ハ直ニ復舊セザレバ惹テ堤防ノ崩壞ヲ招キ其慘害ノ程度揣リ知ルベカラザルヲ以テ本年度ヨリ施行スルコトトナレリ

施工狀況

本工事ハ極メテ急施ヲ要スルヲ以テ何レモ速成ヲ圖リ利根川第二期部內ニテハ安食町及金江津村兩地先護岸ノ內破損最モ甚ダシキ箇所ヨリ著手シ石張一千八十平方米、沈床四百五十平方粁ヲ施行シ延長百三十五米ヲ竣成セシメ水制ハ小文間、長竿及金江津各村地先ニ於テ下埋八千三百三十立方米、取除床均二千九百五十平方米、沈床二千百九十六平方米、蛇籠上置（幹部）九十五米、詰石上置（頭部）二百七十四米ヲ施行シ延長三百六十六米ヲ竣成セリ

第三期部內ニ於テハ護岸ハ世良田、妻沼、川俣、利島、二川ノ各町村地先ニ於テ舊石張及沈床等大破セルモノ五箇所延長一千八百二十四米ヲ復舊シ內世良田及妻沼兩地先ハ急流部ナルヲ以テ護岸脚部ヲ安全ニ保持セシムル爲メ根固ノ外床固ヲ併用スルコトトシ數箇所ニ鐵筋材合掌枠ヲ設置シ水制ハ東、香取、五霞、田中ノ各村地先ニ於テ施工セシガ何レモ迅速ヲ要スルト共ニ他方耐久力等ニ鑑ミ舊水制ノ上層又ハ上置ニ換フルニ枠打上置又ハ鐵筋材枠打上置、同合掌枠ヲ以テシ延長一千百九十米ヲ竣功セシメタリ

派川江戸川ハ五霞及八木郷、新川ノ各村地先ニ於テ石張及沈床等ノ破損セルモノ延長五百米ヲ復舊シ水制ハ五霞村山王及下流市川町兩地先ニ於テ延長六百九十六米ヲ竣成セシメタリ

支川渡良瀬川ニ於テハ上流久野及吾妻、西谷田ノ各村地先ニ於テ舊石張及沈床等ノ復舊ニ著手シ內久野

村地先ハ沈床ヲ設置セズ鐵筋材合掌枠ヲ以テ床固ト爲シ吾妻村地先ハ法面ヲ柳籠トシ床固ニ合掌枠ヲ置キ延長六百四十五米ヲ竣成セリ

本年度總竣功額ハ十六萬一千八百五十六圓ニシテ之レヲ總工費豫算三十萬五百圓ニ比較スルトキハ五割四分ノ竣功ニ當レリ其工事竣功表左ノ如シ

費目	利根川第二期部内 數量	利根川第二期部内 金額	利根、渡良瀬兩川維持部内 數量	利根、渡良瀬兩川維持部内 金額	江戸川部内 數量	江戸川部内 金額	合計 數量	合計 金額	竣功歩合
本工事費 護岸復舊	米 一三五	円 五、九〇〇	米 二、四六九	円 五七、九七八	米 五〇〇	円 二〇、一九八	米 三、一〇四	円 八四、〇七六	割分 —
本工事費 水制復舊	三六六	一七、二五〇	一、一九〇	一九、六六一	六九六	二六、九六二	二、二五二	六三、八七三	—
維持費	—	一、五〇三	—	六、八七七	—	四、八一四	—	一三、一九四	—
共濟組合給與金	—	八四	—	三八三	—	二四六	—	七一三	—
總計	—	二四、七三七	—	八四、八九九	—	五二、二二〇	—	一六一、八五六	〇・五四

昭和三年度直轄工事年報（終）

昭和五年二月十四日印刷
昭和五年二月十六日發行

内務省土木局

印刷者 東京市京橋區北槇町九番地 西脇嘉市

印刷所 東京市京橋區北槇町九番地 一成社
（電話京橋(56)八一三番）